

文学部 比較文化学科 (2022年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	1
		1年			
	教育原理 EDU110M 見玉 弥生	1学期	1	2	2
		1年			
	教育心理学 PSY120M 山下 智也	2学期	1	2	3
		1年			
	教育社会学 EDU223M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	4
		2年			
	教育課程論 EDU260M 見玉 弥生	2学期	2	2	5
		2年			
	道徳教育指導論 EDU264M 船原 将太	2学期	2	2	6
		2年			
	特別活動・キャリア教育論 EDU265M 楠 凡之	2学期	2	2	7
		2年			
	教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法 EDU160M 下地 貴樹	2学期	1	2	8
		1年			
教育とICT活用 EDU161C 浅羽 修丈	2学期	1	2	9	
	教職1年				
生徒指導論 EDU262M 楠 凡之	2学期	2	2	10	
	2年				
教育相談 EDU261M 山下 智也	1学期	2	2	11	
	2年				
教育実習1 EDU380C 休講	2学期	3	2		
	3年				
教育実習2 EDU480C 休講	1学期	4	2		
	4年				
教育実習3 EDU481C 休講	1学期	4	2		
	4年				
教職実践演習(中・高) EDU490C 休講	2学期	4	2		
	4年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■必修科目	特別支援教育論	1学期	2	2	12
	EDU263M 楠 凡之	2年			
■選択科目	発達心理学	1学期	2	2	13
	PSY220M 税田 慶昭	2年			
	障害児の心理と指導	2学期	2	2	
	PSY221M 休講	2年			
人権教育論	1学期	2	2	14	
EDU222M 河嶋 静代	2年				
■教科及び教科の指導法に関する科目	英語科教育法I	1学期	2	2	
	EDU250C 休講	2年			
	英語科教育法I	1学期	2	2	15
	EDU250C 森 千鶴	2年			
	英語科教育法II	2学期	2	2	
	EDU251C 休講	2年			
	英語科教育法II	2学期	2	2	16
	EDU251C 森 千鶴	2年			
	英語科教育法III	1学期	3	2	17
	EDU252C 雪丸 尚美	3年			
	英語科教育法IV	2学期	3	2	18
	EDU253C 雪丸 尚美	3年			
	国語科教育法I	1学期	2	2	19
	EDU230C 坂東 智子	2年			
国語科教育法II	2学期	2	2	20	
EDU231C 坂東 智子	2年				
国語科教育法III	1学期	3	2	21	
EDU232C 坂東 智子	3年				
国語科教育法IV	2学期	3	2	22	
EDU233C 坂東 智子	3年				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	日本史	1学期	1	2	23
	加藤 絢子	1年			

文学部 比較文化学科 (2022年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■教職関連科目	東洋史 植松 慎悟	2学期	1	2	24
		1年			
	西洋史 疇谷 憲洋	1学期	1	2	25
		1年			
	人文地理学 美谷 薫	2学期	1	2	26
		1年			
	土地地理学 野井 英明	1学期	1	2	27
		1年			
	地誌学 美谷 薫	2学期	1	2	28
		1年			
	日本国憲法 棟形 康平	2学期	1	2	29
		1年			
	教育とコンピューター 浅羽 修丈	1学期	2	2	30
		教職2年			
■地域科目	地域特講A (現代社会と新聞ジャーナリズム) SPL101F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	地域特講B (Innovation and Regional Development) SPL201F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	都市と地域 RDE002F 奥山 恭英	2学期	1	2	31
		1年			
	地域の社会と経済 ECN170F 李 錦東	1学期	1	2	32
		1年			
	地域の文化と歴史 HIS170F 南 博	1学期	1	2	33
		1年			
	地域の達人 CAR212F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	地域のにぎわいづくり RDE270F 南 博	2学期	1	2	34
		1年			
地域と国際 RDE003F 吉村 英俊	1学期	1	2	35	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■地域科目	地域防災への招待 SSS001F 加藤 尊秋 他	1学期	1	2	36
		1年			
	地域防災への招待 SSS001F 未定	1学期	1	2	37
		1年			
	北九州市の都市政策 PLC270F 内田 晃	1学期	2	2	38
		2年			
	まなびと企業研究I CAR270F 小林 敏樹	2学期	2	2	39
		2年			
	まなびと企業研究II CAR370F 見館 好隆	1学期	3	2	40
		3年			
■環境科目	環境特講A (SDGsの可能性) SPL102F 日高 京子 他	2学期	1	2	41
		1年			
	環境特講B (現代社会とエシカル消費) SPL202F 大平 剛	1学期	1	2	42
		1年			
	環境都市としての北九州 ENV001F 日高 京子 他	2学期	1	2	43
		1年			
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	44
		1年			
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	1学期	1	2	45
		1年			
	環境問題概論 ENV100F 廣川 祐司	2学期	1	2	46
		1年			
	未来を創る環境技術 ENV003F 上江洲 一也 他	1学期	1	2	47
		1年			
動物のみかた ZOL001F 到津の森公園、文学部 竹川大介	2学期	1	2	48	
	1年				
自然学のまなごし ENV002F 竹川 大介 他	1学期	1	2	49	
	1年				
生命科学入門 BIO200F 日高 京子	2学期	1	2	50	
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■環境科目	環境ESD入門	2学期	1	2	51
	ENV102F 石川 敬之	1年			
■世界(地球)科目	世界(地球)特講A(テロリズム論)	1学期	1	2	52
	SPL103F 戸蒔 仁司	1年			
	世界(地球)特講B(ジェンダー平等(SDG5)の課題解決)	集中	1	2	53
	SPL203F 齊藤 園子 他	1年			
	韓国の社会と文化	2学期	1	2	54
	ARE010F 金 慶湖	1年			
	国際学入門	2学期	1	2	55
	IRL110F 伊野 憲治	1年			
	安全保障論	2学期	1	2	56
	PLS111F 戸蒔 仁司	1年			
	現代の国際情勢	1学期	1	2	57
	IRL003F 篠崎 香織 他	1年			
国際社会と日本	2学期	1	2	58	
IRL004F 中野 博文 他	1年				
グローバル化する経済	1学期	1	2	59	
ECN001F 魏 芳 他	1年				
近代史入門	2学期	1	2	60	
PLS110F 藤田 俊	1年				
Japanese Culture and Society	2学期	2	2	61	
ARE221F ロジャー・ウィリアムソン	2年				
English Speaking Cultures and Societies	2学期	2	2	62	
ARE231F ローズマリー・リーダー	2年				
現代社会と文化	1学期	2	2	63	
ANT210F 神原 ゆうこ	2年				
可能性としての歴史	1学期	2	2	64	
HIS200F 藤田 俊	2年				
■知の技法科目	アカデミック・スキルズI	1学期	1	2	65
	GES101F 團迫 雅彦	比1-A			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 漆原 朗子	1学期	1	2	66
		比1 - イ			
	アカデミック・スキルズI GES101F 浅羽 修丈	1学期	1	2	67
		比1 - ウ			
	アカデミック・スキルズI GES101F 高木 駿	1学期	1	2	68
		比1 - 工			
	アカデミック・スキルズI GES101F 中尾 泰士	2学期	1	2	69
		1学期未修得者再履			
	アカデミック・スキルズII (思考と推論) GES102F 浅羽 修丈	2学期	1	2	70
		1年			
	アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) GES102F 神原 ゆうこ	2学期	1	2	71
		1年			
	アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) GES102F 中尾 泰士	2学期	1	2	72
		1年			
	アカデミック・スキルズII (安全保障を哲学する) GES102F 休講	2学期	1	2	
		1年			
	アカデミック・スキルズII (論理的思考、批判的思考、対 GES102F 高木 駿	2学期	1	2	73
		1年			
	アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) GES102F 永末 康介	2学期	1	2	74
		1年			
アカデミック・スキルズII (歴史から考える) GES102F 藤田 俊	2学期	1	2	75	
	1年				
知の技法特講A SPL104F 休講	1学期	1	2		
	1年				
知の技法特講B SPL204F 休講	2学期	1	2		
	1年				
情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	76	
	1年				
法への誘い LAW001F 中村 英樹 他	2学期	1	2	77	
	1年				

文学部 比較文化学科 (2022年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の技法科目	コンピューターリテラシー INF101F 古川 洋章	2学期	1	1	78
		1年			
	データ分析 INF201F 浅羽 修丈	2学期	2	2	79
		2年			
	データ分析 INF201F 佐藤 貴之	2学期	2	2	80
		2年			
データ分析 INF201F 池之上 正人	1学期	2	2	81	
	2年				
データサイエンス入門 INF102F 池之上 正人 他	2学期	1	2	82	
	1年				
■知の創造科目	知の創造特講A SPL105F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	知の創造特講B (戦後の日本経済) SPL205F 土井 徹平	2学期	1	2	83
		1年			
	社会学的思考 SOC002F 稲月 正	1学期	1	2	84
		1年			
	ことばの科学 LIN110F 漆原 朗子	2学期	1	2	85
		1年			
	現代人のこころ PSY003F 税田 慶昭 他	1学期	1	2	86
		1年			
	企業と社会 BUS001F 山下 剛	1学期	1	2	87
		1年			
	民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	2学期	1	2	88
	1年				
民主主義とは何か PLS002F 中井 遼	1学期	1	2	89	
	1年				
社会哲学入門 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	90	
	1年				
文化を読む LIT001F 河内 重雄 他	1学期	1	2	91	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■知の創造科目	芸術と人間 PHR006F 真武 真喜子	2学期	1	2	92
		1年			
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	93
		1年			
	情報表現 INF230F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	94
		1年			
倫理思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	95	
	1年				
言語・認知・コミュニケーション LIN210F 漆原 朗子 他	2学期	2	2	96	
	2年				
戦争論 PLS210F 戸蒔 仁司	2学期	2	2	97	
	2年				
■共生と協働科目	共生と協働特講A SPL106F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	異文化理解の基礎 神原 ゆうこ	2学期	1	2	98
		1年			
	人権論 SOC004F 柳井 美枝	1学期	1	2	99
		1年			
	ジェンダー論 GEN001F 高木 駿	1学期	1	2	100
		1年			
	サービスラーニング入門I CAR110F 石川 敬之	1学期	1	2	101
		1年			
	サービスラーニング入門II CAR180F 石川 敬之	2学期	1	2	102
		1年			
	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	103
	1年				
地域福祉論 SOW011F 坂本 毅啓	2学期	1	2	104	
	1年				
障がい学 SOW001F 伊野 憲治	1学期	1	2	105	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■共生と協働科目	共生社会論 SOW200F 伊野 憲治	2学期	2	2	106
	2年				
	基盤演習I (防衛セミナー) GES201F 戸蒔 仁司	1学期	2	2	107
	2年				
	基盤演習I (発達障がいセミナー) GES201F 伊野 憲治	1学期	2	2	108
	2年				
	基盤演習I GES201F 石川 敬之	1学期	2	2	109
	2年				
	基盤演習II GES202F 高木 駿	2学期	2	2	110
	2年				
	基盤演習II GES202F 石川 敬之	2学期	2	2	111
	2年				
基盤力応用 (日本近代史演習) GES301F 藤田 俊	2学期	3	2	112	
3年					
基盤力応用 GES301F 神原 ゆうこ	2学期	3	2		
3年					
■ライフ・デザイン科目	ライフ・デザイン特講A SPL107F 休講	1学期	1	2	
	1年				
	ライフ・デザイン特講B (海外学習プログラム) SPL207F 友松 史子 他	集中	1	2	113
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 眞鍋 和博	1学期	1	2	114
	1年				
	キャリア・デザイン CAR100F 石川 敬之	1学期	1	2	115
	1年				
キャリア・デザイン CAR100F 見館 好隆	1学期	1	2	116	
1年					
メンタル・ヘルス PSY001F 寺田 千栄子	1学期	1	2	117	
1年					
自己管理論 HSS003F 日高 京子 他	1学期	1	2	118	
1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	フィジカル・ヘルス HSS001F 高西 敏正	1学期	1	2	119
	1年				
	フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	1学期	1	2	120
	1年				
	フィジカル・ヘルス HSS001F 豊田 直樹	1学期	1	2	121
	1年				
	フィジカル・ヘルス HSS001F 山本 浩二	2学期	1	2	122
	1年				
	フィジカル・ヘルス HSS001F 高西 敏正	2学期	1	2	123
	1年				
	フィジカル・ヘルス HSS001F 柴原 健太郎	2学期	1	2	124
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (バドミントン) HSS081F 山本 浩二	1学期	1	1	125
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (外種目) HSS081F 徳永 政夫	1学期	1	1	126
	1年				
	フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) HSS081F 倉崎 信子	1学期	1	1	127
	1年				
フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) HSS081F 小幡 博基	1学期	1	1	128	
1年					
フィジカル・エクササイズI (バレーボール) HSS081F 八板 昭仁	1学期	1	1	129	
1年					
フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) HSS082F 八板 昭仁	2学期	1	1	130	
1年					
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 徳永 政夫	2学期	1	1	131	
1年					
フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	132	
1年					
フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボ HSS082F 小幡 博基	2学期	1	1	133	
1年					

文学部 比較文化学科 (2022年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■ライフ・デザイン科目	フィジカル・エクササイズII (外種目) HSS082F 梨羽 茂	2学期	1	1	134
		1年			
	フィジカル・エクササイズII (バドミントン) HSS082F 豊田 直樹	2学期	1	1	135
		1年			
	世界での学び方 CAR001F 友松 史子 他	1学期	1	2	136
		1年			
世界での学び方 CAR001F 友松 史子 他	2学期	1	2	137	
	1年				
プロフェッショナルの仕事 CAR210F 見館 好隆	1学期	2	2	138	
	2年				
企業・団体の課題解決 CAR211F 見館 好隆	2学期	2	2	139	
	2年				
■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English I (比人 1 - A) ENG101F 船方 浩子	1学期	1	1	140
		比人 1 - A			
	Communicative English I (比人 1 - B) ENG101F 林 裕二	1学期	1	1	141
		比人 1 - B			
	Communicative English I (比人 1 - C) ENG101F 杉山 智子	1学期	1	1	142
		比人 1 - C			
	Communicative English I (比人 1 - D) ENG101F 伊藤 晃	1学期	1	1	143
		比人 1 - D			
	Communicative English I (比人 1 - E) ENG101F 永末 康介	1学期	1	1	144
		比人 1 - E			
Communicative English I (比人 1 - F) ENG101F 團迫 雅彦	1学期	1	1	145	
	比人 1 - F				
Communicative English I (比人 1 - G) ENG101F 木梨 安子	1学期	1	1	146	
	比人 1 - G				
Communicative English II (比人 1 - A) ENG111F 伊藤 晃	2学期	1	1	147	
	比人 1 - A				
Communicative English II (比人 1 - B) ENG111F 杉山 智子	2学期	1	1	148	
	比人 1 - B				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English II (比人 1-C) ENG111F 安丸 雅子	2学期	1	1	149
		比人 1 - C			
	Communicative English II (比人 1-D) ENG111F 團迫 雅彦	2学期	1	1	150
		比人 1 - D			
	Communicative English II (比人 1-E) ENG111F 相原 信彦	2学期	1	1	151
		比人 1 - E			
	Communicative English II (比人 1-F) ENG111F 木梨 安子	2学期	1	1	152
		比人 1 - F			
	Communicative English II (比人 1-G) ENG111F 永末 康介	2学期	1	1	153
		比人 1 - G			
	Communicative English III (比人 1-E) ENG102F ダンカン・ウォトリイ	1学期	1	1	154
		比人 1 - E			
	Communicative English III (比人 1-F) ENG102F ダニー・ミン	1学期	1	1	155
		比人 1 - F			
	Communicative English III (比人 1-G) ENG102F ロバート・マーフィ	1学期	1	1	156
		比人 1 - G			
	Communicative English III (比人 1-A) ENG102F ダニー・ミン	1学期	1	1	157
		比人 1 - A			
Communicative English III (比人 1-B) ENG102F クリステイン・マイスター	1学期	1	1	158	
	比人 1 - B				
Communicative English III (比人 1-C) ENG102F ケネス・ギブソン	1学期	1	1	159	
	比人 1 - C				
Communicative English III (比人 1-D) ENG102F ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	1	160	
	比人 1 - D				
Communicative English IV (比人 1-E) ENG112F ダニー・ミン	2学期	1	1	161	
	比人 1 - E				
Communicative English IV (比人 1-F) ENG112F ロバート・マーフィ	2学期	1	1	162	
	比人 1 - F				
Communicative English IV (比人 1-G) ENG112F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	163	
	比人 1 - G				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English IV (比人 1-A) ENG112F ロバート・マーフィ	2学期	1	1	164
		比人 1 - A			
	Communicative English IV (比人 1-B) ENG112F ケネス・ギブソン	2学期	1	1	165
		比人 1 - B			
	Communicative English IV (比人 1-C) ENG112F クリステイン・マイスター	2学期	1	1	166
		比人 1 - C			
	Communicative English IV (比人 1-D) ENG112F ダンカン・ウォトリイ	2学期	1	1	167
		比人 1 - D			
	Communicative English V (比人 2 C-A) ENG201F 杉山 智子	1学期	2	1	168
		比人 2 C - A			
	Communicative English V (比人 2 C-B) ENG201F 伊藤 晃	1学期	2	1	169
		比人 2 C - B			
	Communicative English V (比人 2 C-C) ENG201F 十時 康	1学期	2	1	170
		比人 2 C - C			
	Communicative English V (比人 2 C-D) ENG201F 安丸 雅子	1学期	2	1	171
		比人 2 C - D			
	Communicative English VI (比人 2 C-A) ENG211F 伊藤 晃	2学期	2	1	172
		比人 2 C - A			
	Communicative English VI (比人 2 C-B) ENG211F 杉山 智子	2学期	2	1	173
		比人 2 C - B			
Communicative English VI (比人 2 C-C) ENG211F 安丸 雅子	2学期	2	1	174	
	比人 2 C - C				
Communicative English VI (比人 2 C-D) ENG211F 十時 康	2学期	2	1	175	
	比人 2 C - D				
Communicative English VII (比人 2 C-C) ENG202F デビット・ニール・マクレラン	1学期	2	1	176	
	比人 2 C - C				
Communicative English VII (比人 2 C-D) ENG202F ケネス・ギブソン	1学期	2	1	177	
	比人 2 C - D				
Communicative English VII (比人 2 C-A) ENG202F マーニー・セイディ	1学期	2	1	178	
	比人 2 C - A				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第一外国語	Communicative English VII (比人 2 C-B) ENG202F ケネス・ギブソン	1学期	2	1	179
		比人 2 C - B			
	Communicative English VIII (比人 2 C-C) ENG212F 大塚 由美子	2学期	2	1	180
		比人 2 C - C			
	Communicative English VIII (比人 2 C-D) ENG212F 安丸 雅子	2学期	2	1	181
		比人 2 C - D			
	Communicative English VIII (比人 2 C-A) ENG212F 大塚 由美子	2学期	2	1	182
		比人 2 C - A			
	Communicative English VIII (比人 2 C-B) ENG212F 船方 浩子	2学期	2	1	183
		比人 2 C - B			
	Intermediate English I (比人 2 I-A) ENG301F 船方 浩子	1学期	2	2	184
		比人 2 I - A			
	Intermediate English I (比人 2 I-B) ENG301F 安丸 雅子	1学期	2	2	185
		比人 2 I - B			
	Intermediate English I (比人 2 I-C) ENG301F 大塚 由美子	1学期	2	2	186
		比人 2 I - C			
	Intermediate English II (比人 2 I-A) ENG311F デビット・ニール・マクレラン	2学期	2	2	187
		比人 2 I - A			
	Intermediate English II (比人 2 I-B) ENG311F クリステイン・マイスター	2学期	2	2	188
		比人 2 I - B			
Intermediate English II (比人 2 I-C) ENG311F ケネス・ギブソン	2学期	2	2	189	
	比人 2 I - C				
Higher English I (2 H-B) ENG302F 未定	1学期	2	2	190	
	中国済営比人律政 2年				
Higher English I (2 H-A) ENG302F ダンカン・ウォトリイ	1学期	2	2	191	
	中国済営比人律政				
Higher English II (2 H-B) ENG312F 未定	2学期	2	2	192	
	中国済営比人律政 2年				
Higher English II (2 H-A) ENG312F ダニー・ミン	2学期	2	2	193	
	中国済営比人律政				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	中国語I		1学期	1	1	194
	CHN101F	板谷 秀子	比1年(学籍番号 偶数)			
	中国語I		1学期	1	1	195
	CHN101F	小椋 吾郎	比1年(学籍番号 奇数)			
	中国語II		2学期	1	1	196
	CHN111F	板谷 秀子	比1年(学籍番号 偶数)			
	中国語II		2学期	1	1	197
	CHN111F	小椋 吾郎	比1年(学籍番号 奇数)			
	中国語III		1学期	1	1	198
	CHN102F	陳 青鳳	比1年(学籍番号 偶数)			
	中国語III		1学期	1	1	199
	CHN102F	崔 学森	比1年(学籍番号 奇数)			
	中国語IV		2学期	1	1	200
	CHN112F	陳 青鳳	比1年(学籍番号 偶数)			
	中国語IV		2学期	1	1	201
	CHN112F	崔 学森	比1年(学籍番号 奇数)			
	中国語V		1学期	2	1	202
	CHN201F	小椋 吾郎	比2年			
	中国語VI		2学期	2	1	203
	CHN211F	小椋 吾郎	比2年			
中国語VII		1学期	2	1	204	
CHN202F	艾文婷	比2年				
中国語VIII		2学期	2	1	205	
CHN212F	艾文婷	比2年				
上級中国語I		1学期	3	1	206	
CHN301F	唐 雋	英国済営比人3年				
上級中国語II		2学期	3	1	207	
CHN311F	唐 雋	英国済営比人3年				
朝鮮語I(1 - a)		1学期	1	1	208	
KRN101F	吳 香善	英中比人1年				

科目区分	科目名	担当者	学期	履修年次	単位	索引
			クラス			
	備考					
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語I (1 - b)		1学期	1	1	209
	KRN101F	金 元正	英中比人 1年			
	朝鮮語I (1 - c)		1学期	1	1	210
	KRN101F	安 滯珠	英中比人 1年			
	朝鮮語I (1 - d)		1学期	1	1	211
	KRN101F	金 京姫	英中比人 1年			
	朝鮮語II (1 - a)		2学期	1	1	212
	KRN111F	奈良 美香	英中比人 1年			
	朝鮮語II (1 - b)		2学期	1	1	213
	KRN111F	金 慶湖	英中比人 1年			
	朝鮮語II (1 - c)		2学期	1	1	214
	KRN111F	安 滯珠	英中比人 1年			
	朝鮮語II (1 - d)		2学期	1	1	215
	KRN111F	金 京姫	英中比人 1年			
	朝鮮語III (1 - a)		1学期	1	1	216
	KRN102F	金 惠媛	英中比人 1年			
	朝鮮語III (1 - b)		1学期	1	1	217
	KRN102F	呉 珠熙	英中比人 1年			
	朝鮮語III (1 - c)		1学期	1	1	218
	KRN102F	安 滯珠	英中比人 1年			
朝鮮語III (1 - d)		1学期	1	1	219	
KRN102F	金 光子	英中比人 1年				
朝鮮語IV (1 - a)		2学期	1	1	220	
KRN112F	金 惠媛	英中比人 1年				
朝鮮語IV (1 - b)		2学期	1	1	221	
KRN112F	呉 珠熙	英中比人 1年				
朝鮮語IV (1 - c)		2学期	1	1	222	
KRN112F	安 滯珠	英中比人 1年				
朝鮮語IV (1 - d)		2学期	1	1	223	
KRN112F	金 光子	英中比人 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	朝鮮語V KRN201F 安 滌珠	1学期	2	1	224
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VI KRN211F 安 滌珠	2学期	2	1	225
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VII KRN202F 金 惠媛	1学期	2	1	226
		済営比人律政群 2年			
	朝鮮語VIII KRN212F 金 惠媛	2学期	2	1	227
		済営比人律政群 2年			
	上級朝鮮語I KRN301F 安 滌珠	1学期	3	1	228
		英中国済営比人 3年			
	上級朝鮮語II KRN311F 安 滌珠	2学期	3	1	229
		英中国済営比人 3年			
	ドイツ語I GRM101F 山下 哲雄	1学期	1	1	230
		比 1年			
	ドイツ語II GRM111F 山下 哲雄	2学期	1	1	231
		比 1年			
	ドイツ語III GRM102F 梶原 将志	1学期	1	1	232
		比 1年			
	ドイツ語IV GRM112F 梶原 将志	2学期	1	1	233
		比 1年			
ドイツ語V GRM201F 山下 哲雄	1学期	2	1	234	
	英中国済営比人律政 2年				
ドイツ語VI GRM211F 山下 哲雄	2学期	2	1	235	
	英中国済営比人律政 2年				
ドイツ語VII GRM202F 山下 哲雄	1学期	2	1	236	
	英中国済営比人律政 2年				
ドイツ語VIII GRM212F 山下 哲雄	2学期	2	1	237	
	英中国済営比人律政 2年				
フランス語I FRN101F 中山 俊	1学期	1	1	238	
	比 1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■外国語教育科目 ■第二外国語	フランス語II FRN111F 中山 俊	2学期	1	1	239
		比1年			
	フランス語III FRN102F コモン ティエリ	1学期	1	1	240
		比1年			
	フランス語IV FRN112F コモン ティエリ	2学期	1	1	241
		比1年			
	フランス語V FRN201F 小野 菜都美	1学期	2	1	242
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語VI FRN211F 小野 菜都美	2学期	2	1	243
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語VII FRN202F 小野 菜都美	1学期	2	1	244
		英中国済営比人律政2年			
	フランス語VIII FRN212F 小野 菜都美	2学期	2	1	245
		英中国済営比人律政2年			
	スペイン語I SPN101F 富田 広樹	1学期	1	1	246
		比1年			
	スペイン語II SPN111F 富田 広樹	2学期	1	1	247
		比1年			
	スペイン語III SPN102F ミヨコ・フジヨシ	1学期	1	1	248
		比1年			
スペイン語IV SPN112F ミヨコ・フジヨシ	2学期	1	1	249	
	比1年				
スペイン語V SPN201F 青木 文夫	1学期	2	1	250	
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語VI SPN211F 青木 文夫	2学期	2	1	251	
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語VII SPN202F 辻 博子	1学期	2	1	252	
	英中国済営比人律政2年				
スペイン語VIII SPN212F 辻 博子	2学期	2	1	253	
	英中国済営比人律政2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■基盤教育科目 ■留学生特別科目	日本語I JSL101F 清水 順子	1学期	1	1	254
	留学生 1年				
	日本語II JSL102F 金 元正	1学期	1	1	255
	留学生 1年				
	日本語III JSL103F 小林 浩明	1学期	1	1	256
	留学生 1年				
	日本語IV JSL111F 清水 順子	2学期	1	1	257
	留学生 1年				
	日本語V JSL112F 則松 智子	2学期	1	1	258
	留学生 1年				
	日本語VI JSL113F 小林 浩明	2学期	1	1	259
	留学生 1年				
	日本語VII JSL104F 則松 智子	1学期	2	1	260
	留学生 2年				
	日本語VIII JSL114F 清水 順子	2学期	2	1	261
	留学生 2年				
日本事情 (人文) A JPS101F 清水 順子	1学期	1	2	262	
留学生 1年					
日本事情 (人文) B JPS102F 則松 智子	2学期	1	2	263	
留学生 1年					
日本事情 (社会) A JPS103F 則松 智子	1学期	1	2	264	
留学生 1年					
日本事情 (社会) B JPS104F 清藤 隆春 他	2学期	1	2	265	
留学生 1年					
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文 1 アンデリュー・ジッツマン	1学期	1	1	266
	留学生 1年				
	英会話・英作文 1 アンデリュー・ジッツマン	1学期	1	1	267
留学生 1年					
英会話・英作文 1 アルバート・オスカー・モウ	1学期	1	1	268	
留学生 1年					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文 1 ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	1	269
	英会話・英作文 1 ポール・ガラフ・スティール	1学期	1	1	270
	英会話・英作文 1 アンデリュー・ジッツマン	1学期	1	1	271
	英会話・英作文 1 ホセ・クルーズ	1学期	1	1	272
	英会話・英作文 1 ホセ・クルーズ	1学期	1	1	273
	英会話・英作文 2 アンデリュー・ジッツマン	2学期	1	1	274
	英会話・英作文 2 アンデリュー・ジッツマン	2学期	1	1	275
	英会話・英作文 2 アルバート・オスカー・モウ	2学期	1	1	276
	英会話・英作文 2 ポール・ガラフ・スティール	2学期	1	1	277
	英会話・英作文 2 ポール・ガラフ・スティール	2学期	1	1	278
	英会話・英作文 2 アンデリュー・ジッツマン	2学期	1	1	279
	英会話・英作文 2 ホセ・クルーズ	2学期	1	1	280
	英会話・英作文 2 ホセ・クルーズ	2学期	1	1	281
	英会話・英作文 3 ドロークス ダニエル	1学期	2	1	282
	英会話・英作文 3 クリストファー・オサリバン	1学期	2	1	283

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文 3 ポール・ ガラフ・ スティール	1学期	2	1	284
	英会話・英作文 3 クリストファー・ オサリバン	1学期	2	1	285
	英会話・英作文 3 クリストファー・ オサリバン	1学期	2	1	286
	英会話・英作文 3 マーニー・ セイティ	1学期	2	1	287
	英会話・英作文 4 ドロークス ダニエル	2学期	2	1	288
	英会話・英作文 4 クリストファー・ オサリバン	2学期	2	1	289
	英会話・英作文 4 ポール・ ガラフ・ スティール	2学期	2	1	290
	英会話・英作文 4 クリストファー・ オサリバン	2学期	2	1	291
	英会話・英作文 4 クリストファー・ オサリバン	2学期	2	1	292
	英会話・英作文 4 マーニー・ セイティ	2学期	2	1	293
	英会話・英作文 5 ドロークス ダニエル	1学期	2	1	294
	英会話・英作文 5 クリストファー・ オサリバン	1学期	2	1	295
	英会話・英作文 6 ドロークス ダニエル	2学期	2	1	296
	英会話・英作文 6 クリストファー・ オサリバン	2学期	2	1	297
	英会話・英作文 7 マーニー・ セイティ	1学期	3	1	298

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	英会話・英作文7 ポール・ガラフ・スティール	1学期	3	1	299
	英会話・英作文7 クリストファー・オサリバン	1学期	3	1	300
	英会話・英作文8 マーニー・セイディ	2学期	3	1	301
	英会話・英作文8 ポール・ガラフ・スティール	2学期	3	1	302
	英会話・英作文8 クリストファー・オサリバン	2学期	3	1	303
	英会話・英作文9 ドロークス ダニエル	1学期	4	1	304
	英会話・英作文10 ドロークス ダニエル	2学期	4	1	305
	英米文化講読II 新村 昭雄	2学期	1	2	306
	英米文化講読II 吉津 京平	1学期	1	2	307
	日本文化文献講読A 生住 昌大	1学期	1	2	308
	日本文化文献講読B 堀尾 香代子	2学期	2	2	309
	英米文化講読I 吉津 京平	2学期	1	2	310
	英米文化講読I 今川 京子	2学期	1	2	311
	日本文化英文講読 吉津 京平	1学期	1	2	312
	日本文化英文講読 濱 奈々恵	2学期	1	2	313

文学部 比較文化学科 (2022年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■英会話英作文・文化講読科目	日本文化文献講読C 佐藤 真人	1学期	2	2	314
	ヨーロッパ文化講読II 中山 俊	1学期	3	2	315
	ヨーロッパ文化講読I 梶原 将志	2学期	3	2	316
	ヨーロッパ文化講読III 富田 広樹	1学期	3	2	317
	ヨーロッパ文化講読III 富田 広樹	1学期	3	2	318
	演習 A - 1 梶原 将志	1学期	3	2	319
■演習・卒論科目	演習 A - 1 五月女 晴恵	1学期	3	2	320
	演習 A - 1 濱 奈々恵	1学期	3	2	321
	演習 A - 1 休講	1学期	3	2	
	演習 A - 1 真鍋 昌賢	1学期	3	2	322
	演習 A - 1 渡瀬 淳子	1学期	3	2	323
	演習 A - 1 河内 重雄	1学期	3	2	324
	演習 A - 1 休講	1学期	3	2	
	演習 A - 1 堀尾 香代子	1学期	3	2	325
	演習 A - 1 小林 浩明	1学期	3	2	326

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 A - 1	1学期	3	2	
	休講				
	演習 A - 1	1学期	3	2	327
	前田 譲治				
	演習 A - 1	1学期	3	2	328
	高山 智樹				
	演習 A - 1	1学期	3	2	329
	中山 俊				
	演習 A - 1	1学期	3	2	330
	寺田 由美				
	演習 A - 1	1学期	3	2	331
	富田 広樹				
	演習 A - 1	1学期	3	2	332
	山口 裕子				
	演習 A - 1	1学期	3	2	333
	生住 昌大				
	演習 A - 1	1学期	3	2	334
	門田 彩				
	演習 A - 2	2学期	3	2	335
	梶原 将志				
演習 A - 2	2学期	3	2	336	
五月女 晴恵					
演習 A - 2	2学期	3	2	337	
濱 奈々恵					
演習 A - 2	2学期	3	2		
休講					
演習 A - 2	2学期	3	2	338	
真鍋 昌賢					
演習 A - 2	2学期	3	2	339	
渡瀬 淳子					

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 A - 2 河内 重雄	2学期	3	2	340
	演習 A - 2 休講	2学期	3	2	
	演習 A - 2 堀尾 香代子	2学期	3	2	341
	演習 A - 2 小林 浩明	2学期	3	2	342
	演習 A - 2 休講	2学期	3	2	
	演習 A - 2 前田 譲治	2学期	3	2	343
	演習 A - 2 高山 智樹	2学期	3	2	344
	演習 A - 2 中山 俊	2学期	3	2	345
	演習 A - 2 寺田 由美	2学期	3	2	346
	演習 A - 2 富田 広樹	2学期	3	2	347
	演習 A - 2 山口 裕子	2学期	3	2	348
	演習 A - 2 生住 昌大	2学期	3	2	349
	演習 A - 2 門田 彩	2学期	3	2	350
	演習 B - 1 梶原 将志	1学期	4	2	351
	演習 B - 1 高山 智樹	1学期	4	2	352

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習 B - 1	1学期	4	2	353
	五月女 晴恵				
	演習 B - 1	1学期	4	2	354
	八百 啓介				
	演習 B - 1	1学期	4	2	355
	佐藤 真人				
	演習 B - 1	1学期	4	2	356
	真鍋 昌賢				
	演習 B - 1	1学期	4	2	357
	渡瀬 淳子				
	演習 B - 1	1学期	4	2	358
	生住 昌大				
	演習 B - 1	1学期	4	2	359
	堀尾 香代子				
	演習 B - 1	1学期	4	2	360
	小林 浩明				
演習 B - 1	1学期	4	2		
休講					
演習 B - 1	1学期	4	2	361	
前田 譲治					
演習 B - 1	1学期	4	2	362	
中山 俊					
演習 B - 1	1学期	4	2	363	
寺田 由美					
演習 B - 1	1学期	4	2	364	
富田 広樹					
演習 B - 1	1学期	4	2	365	
河内 重雄					
演習 B - 1	1学期	4	2	366	
鄧 紅					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B-1 山口 裕子	1学期	4	2	367
	演習B-1 門田 彩	1学期	4	2	368
	演習B-2 梶原 将志	2学期	4	2	369
	演習B-2 高山 智樹	2学期	4	2	370
	演習B-2 五月女 晴恵	2学期	4	2	371
	演習B-2 八百 啓介	2学期	4	2	372
	演習B-2 佐藤 真人	2学期	4	2	373
	演習B-2 真鍋 昌賢	2学期	4	2	374
	演習B-2 渡瀬 淳子	2学期	4	2	375
	演習B-2 生住 昌大	2学期	4	2	376
	演習B-2 堀尾 香代子	2学期	4	2	377
	演習B-2 小林 浩明	2学期	4	2	378
	演習B-2 休講	2学期	4	2	
	演習B-2 前田 讓治	2学期	4	2	379
	演習B-2 中山 俊	2学期	4	2	380

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■演習・卒論科目	演習B-2 寺田 由美	2学期	4	2	381
	演習B-2 富田 広樹	2学期	4	2	382
	演習B-2 河内 重雄	2学期	4	2	383
	演習B-2 鄧 紅	2学期	4	2	384
	演習B-2 山口 裕子	2学期	4	2	385
	演習B-2 門田 彩	2学期	4	2	386
■入門科目	比較文化入門1 五月女 晴恵	1学期	1	2	387
	比較文化入門2 前田 譲治	2学期	1	2	388
■比較文化科目 ■文化資源領域科目	日本文化資源論 河内 重雄 他	2学期	1	2	389
	メディア文化概論 真鍋 昌賢	2学期	1	2	390
	近現代美術 真武 真喜子	1学期	2	2	391
	日本の宗教文化 佐藤 真人	1学期	2	2	392
	日本の近代思想 クラマー スペン	2学期	2	2	393
	日本の生活文化 八百 啓介	2学期	2	2	394
	日本文学史(古典) 渡瀬 淳子	1学期	2	2	395

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■比較文化科目 ■文化資源領域科目	日本文学史 (近現代) 河内 重雄	2学期	2	2	396
	日本語学概論I 堀尾 香代子	1学期	1	2	397
	日本語学概論II 堀尾 香代子	2学期	1	2	398
	日本の古典文学 渡瀬 淳子	1学期	2	2	399
	日本の近代文学 生住 昌大	1学期	2	2	400
	日本の現代文学 河内 重雄	1学期	2	2	401
	日本美術史入門 五月女 晴恵	1学期	2	2	402
	日本の宗教美術 五月女 晴恵	2学期	2	2	403
	日本の大衆文化 真鍋 昌賢	2学期	2	2	404
	日本文学概論 渡瀬 淳子 他	2学期	1	2	405
	現代日本語学 岡田 美穂	1学期	2	2	406
	日本語表現法 岡田 美穂	1学期	2	2	407
	日本語音声学 矢野 準	2学期	2	2	408
	漢文学 植崎 洋一郎	1学期	2	2	409
	英米文化論II ARE321M アーノルド・ウェイン	2学期	3	2	410
	3年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■比較文化科目 ■文化資源領域科目	英米文学概論II 前田 譲治	2学期	1	2	411
	英米の現代文学II 江頭 理江	2学期	2	2	412
	英米の近代文学II 江頭 理江	1学期	2	2	413
	英米の大衆文化II 前田 譲治	2学期	2	2	414
	英米文化論III 寺田 由美 他	1学期	2	2	415
	英米文化論I ARE231M 木原 謙一	1学期	2	2	416
	ヨーロッパ文化資源論I 梶原 将志	1学期	2	2	417
	英米文学概論I 濱 奈々恵	1学期	1	2	418
	英米の現代文学I 濱 奈々恵	2学期	2	2	419
	英米の近代文学I 今川 京子	2学期	2	2	420
	英米の大衆文化I 高山 智樹	2学期	2	2	421
	ヨーロッパ文化資源論II 中山 俊	1学期	2	2	422
	西洋美術史 門田 彩	1学期	2	2	423
	ヨーロッパ文化資源論III 富田 広樹	2学期	2	2	424
	ヨーロッパ文化資源論III 富田 広樹	2学期	2	2	425

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■比較文化科目 ■文化資源領域科目	アジア文化資源論	1学期	2	2	426
	山口 裕子				
	書道	1学期 (ペア)	2	2	427
	大森 アユミ				
	博物館概論	1学期	1	2	428
	門田 彩				
	博物館経営論	2学期	2	2	429
	永尾 正剛				
	博物館情報・メディア論	1学期	2	2	430
	那須 孝幸				
	博物館展示論	2学期	2	2	431
	門田 彩				
博物館資料保存論	2学期	2	2	432	
佐藤 浩司					
博物館教育論	1学期	2	2	433	
岩本 史緒					
博物館資料論	2学期	2	2	434	
門田 彩					
地域文化資源演習	2学期	2	2	435	
富田 広樹 他					
Film and Society	2学期	3	2	436	
MCC352M アーノルド・ウェイン	3年				
Theatre and Performance Studies	1学期	3	2	437	
MCC351M アダム・ヘイルズ	3年				
■文化共生領域科目	欧米文化概論	2学期	1	2	438
	高山 智樹 他				
	比較文学概論	1学期	1	2	439
濱 奈々恵					
文化交流史	2学期	1	2	440	
八百 啓介					

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		担当者			
	備考			クラス	
■専門教育科目 ■比較文化科目 ■文化共生領域科目	文化共生概論	2学期	1	2	441
	高山 智樹 他				
	人類学概論	2学期	1	2	442
	ANT101M 竹川 大介	1年			
	比較宗教・思想I	1学期	2	2	443
	新村 昭雄				
	比較歴史・文化	2学期	2	2	444
	寺田 由美				
	日米文化比較	2学期	2	2	445
	川上 耕平				
	日英文化比較	1学期	2	2	446
	高山 智樹				
	日仏文化比較	2学期	2	2	447
	中山 俊				
	アジア文化共生論	1学期	2	2	448
鄧 紅					
比較宗教・思想II	2学期	2	2	449	
ARE310M 鄧 紅	2年				
比較東洋美術	2学期	2	2	450	
五月女 晴恵					
比較映像・文化	1学期	2	2	451	
前田 譲治					
比較表象文化	1学期	2	2	452	
真鍋 昌賢					
比較日本文学 (近現代)	2学期	2	2	453	
生住 昌大					
比較日本文学 (古典)	2学期	2	2	454	
渡瀬 淳子					
比較広域文学	2学期	2	2	455	
梶原 将志					

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■専門教育科目 ■比較文化科目 ■文化共生領域科目	比較ジェンダー論 カ武 由美	2学期	2	2	456
	比較社会意識 SOC200M 入江 恵子	2学期	2	2	457
	比較社会文化 SOC201M 阪井 俊文	1学期	2	2	458
	メディアと社会 SOC204M 濱野 健	1学期	2	2	459
	観光社会学 SOC205M 濱野 健	2学期	2	2	460
	フィールドワーク基礎論 ANT100M 井上 大輔	1学期	1	2	461
	人間性の進化 ANT201M チョウ ビンビン	2学期	2	2	462
	アジアの中の日本文化 山口 裕子	2学期	2	2	463
	日本の歴史と社会 八百 啓介	1学期	2	2	464
	英米の社会と文化II 前田 譲治	1学期	2	2	465
	英語学概論 LIN101M ジェニファー・ラーソンホール	2学期	2	2	466
	英語史 LIN335M ホロウェイ グレゴリー キース	2学期	3	2	467
	英文法I LIN231M 廣田 恵美	1学期	2	2	468
	英文法II LIN232M 廣田 恵美	2学期	2	2	469
	英語音声学 LIN211M ジェニファー・ラーソンホール	1学期	2	2	470

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■専門教育科目 ■比較文化科目 ■文化共生領域科目	英米の社会と文化I 高山 智樹	1学期	2	2	471
	英米文化史II 寺田 由美	1学期	2	2	472
	英米文化史I ARE130M 久木 尚志	1学期	2	2	473
	2年				
	環大西洋の社会史 寺田 由美	2学期	2	2	474
	ヨーロッパ文化共生論 富田 広樹	1学期	2	2	475
	ヨーロッパ文化共生論 富田 広樹	1学期	2	2	476
	社会言語学 LIN212M 平野 圭子	2学期	2	2	477
	2年				
	アジアの社会と文化 鄧 紅	1学期	2	2	478
	アジアの歴史と社会 山口 裕子	2学期	2	2	479
	第二言語習得論 小林 浩明	2学期	2	2	480
	異文化間教育 小林 浩明	1学期	2	2	481
	生涯学習学 EDU220M 休講	1学期	2	2	482
	2年				
	Cross-cultural Fieldwork MCC314M ロジャー・ウィリアムソン	1学期	3	2	482
3年					
Gender and Japanese Popular Culture MCC342M フィオナ・クリーサー	2学期	3	2	483	
3年					
大地と森の環境概論 ENV100M 岩松 文代 他	1学期	2	2	484	
2年					

文学部 比較文化学科 (2022年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■専門教育科目 ■比較文化科目 ■文化共生領域科目	人と竹の文化学	2学期	2	2	485
	ENV250M 岩松 文代	2年			

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■必修科目	教職論 EDU111M 楠 凡之	1学期	1	2	486
		1年			
	教育原理 EDU110M 見玉 弥生	1学期	1	2	487
		1年			
	教育心理学 PSY120M 山下 智也	2学期	1	2	488
		1年			
	教育社会学 EDU223M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	489
		2年			
	教育課程論 EDU260M 見玉 弥生	2学期	2	2	490
		2年			
	道徳教育指導論 EDU264M 船原 将太	2学期	2	2	491
		2年			
	特別活動・キャリア教育論 EDU265M 楠 凡之	2学期	2	2	492
		2年			
	教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法 EDU160M 下地 貴樹	2学期	1	2	493
		1年			
	生徒指導論 EDU262M 楠 凡之	2学期	2	2	494
		2年			
	教育相談 EDU261M 山下 智也	1学期	2	2	495
		2年			
教育実習 1 EDU380C 見玉 弥生 他	2学期	3	2	496	
	3年				
教育実習 2 EDU480C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	497	
	4年				
教育実習 3 EDU481C 恒吉 紀寿 他	1学期	4	2	498	
	4年				
教職実践演習 (中・高) EDU490C 楠 凡之 他	2学期	4	2	499	
	4年				
特別支援教育論 EDU263M 楠 凡之	1学期	2	2	500	
	2年				

文学部 比較文化学科 (2022年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■教育の基礎的理解に関する科目等 ■選択科目	発達心理学 PSY220M 税田 慶昭	1学期	2	2	501
	2年				
	障害児の心理と指導 PSY221M 税田 慶昭	2学期	2	2	502
2年					
	人権教育論 EDU222M 休講	1学期	2	2	
	2年				
■教科及び教科の指導法に関する科目	英語科教育法I EDU250C 森 千鶴	1学期	2	2	503
	2年				
	英語科教育法II EDU251C 森 千鶴	2学期	2	2	504
	2年				
	英語科教育法III EDU252C 休講	1学期	3	2	
	3年				
	英語科教育法IV EDU253C 休講	2学期	3	2	
	3年				
	国語科教育法I EDU230C 休講	1学期	2	2	
	2年				
	国語科教育法II EDU231C 休講	2学期	2	2	
	2年				
国語科教育法III EDU232C 休講	1学期	3	2		
3年					
国語科教育法IV EDU233C 休講	2学期	3	2		
3年					
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■環境科目	自然史へのいざない BIO001F 日高 京子 他	2学期	1	2	505
	1年				
	生命と環境 BIO100F 日高 京子 他	1学期	1	2	506
1年					
	生命科学入門 BIO200F 日高 京子	2学期	1	2	507
	1年				
■世界(地球)科目	安全保障論 PLS111F 戸蒔 仁司	2学期	1	2	508
	1年				

文学部 比較文化学科 (2022年度入学生)

<夜>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■基盤教育科目 ■教養教育科目 ■世界(地球)科目	国際社会と日本 IRL004F 中野 博文 他	2学期	1	2	509
		1年			
	グローバル化する経済 ECN001F 魏 芳 他	1学期	1	2	510
		1年			
■知の技法科目	アカデミック・スキルズI GES101F 廣渡 栄寿	2学期	1	2	511
		1学期未修得者再履			
	情報社会への招待 INF100F 中尾 泰士	2学期	1	2	512
		1年			
■知の創造科目	現代人のこころ PSY003F 福田 恭介	1学期	1	2	513
		1年			
	企業と社会 BUS001F 休講	1学期	1	2	
		1年			
	社会哲学入門 PHR110F 高木 駿	1学期	1	2	514
		1年			
	文化を読む LIT001F 河内 重雄 他	1学期	1	2	515
		1年			
	現代正義論 PHR003F 重松 博之	2学期	1	2	516
		1年			
	倫理思想史 PHR005F 高木 駿	2学期	1	2	517
		1年			
	戦争論 PLS210F 戸蔭 仁司	2学期	2	2	518
		2年			
■共生と協働科目	市民活動論 RDE001F 西田 心平	2学期	1	2	519
		1年			
	地域福祉論 SOW011F 坂本 毅啓	2学期	1	2	520
		1年			
■ライフ・デザイン科目	メンタル・ヘルス PSY001F 中島 俊介	2学期	1	2	521
		1年			
■専門教育科目 ■比較文化科目 ■文化共生領域科目	生涯学習学 EDU220M 恒吉 紀寿	1学期	2	2	522
		2年			

教職論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。

本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探求する。

また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類-1 に該当する科目である。

到達目標 教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる資質 その1 共感的理解と対話力
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その2 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その3 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その4 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 50点、レポート試験50点
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提にして進めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【昼】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

到達目標

教育に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 2回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 3回 発達課題と教育支援：思春期・青年期
- 4回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 5回 教育思想②：日本の教育思想
- 6回 教育史①：西洋の教育史
- 7回 教育史②：日本の教育史
- 8回 学ぶ意欲と教育指導
- 9回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 10回 学校の制度：学校体系
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小課題等) 40%

最終課題(試験) 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題(試験)受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題(試験)を受験しなかった場合は原則評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

教育原理 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育心理学【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子ども理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

<到達目標>

【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜レジユメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけについて学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】学習における原因帰属理論について学ぶ。また、原因帰属と動機づけの関連性についても学ぶ。
- 第6回：【学習⑤】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第7回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第8回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第9回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第10回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第11回：【教授法①】発見学習や有意義受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第12回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第13回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第14回：【応用②】知能の定義や考え方の変遷について学ぶ。また、教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。
- 第15回：【応用④】教育心理学的観点から、子ども理解を深めるとともに、特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援についても学ぶ。
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・40%
最終試験・・・60%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）
（6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育社会学【昼】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校教育をめぐる教育について、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐる社会変化についても理解を深めていきます。
日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。
国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。
学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

教育に関する社会学的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐる近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐる近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐる社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%
6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

教育課程論 【昼】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

到達目標

教育課程に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 教育課程の基本原則 (1) カリキュラムとは
- 第 2回 教育課程の基本原則 (2) カリキュラムの類型
- 第 3回 教育課程の変遷と学習指導要領
- 第 4回 学力と教育課程 (1) 教育課程設計の前提となる「力」
- 第 5回 学力と教育課程 (2) 学習状況調査の影響
- 第 6回 諸外国の教育課程
- 第 7回 教育課程の編成 (1) 教科教育
- 第 8回 教育課程の編成 (2) 教科外教育
- 第 9回 学習環境のデザイン
- 第10回 教育課程の評価
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 カリキュラム・マネジメントと学校改善
- 第13回 今日の課題と教育課程 (1) 異文化理解
- 第14回 今日の課題と教育課程 (2) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小課題等) 40%

最終課題 (試験) 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題 (試験) 受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題 (試験) を受験しなかった場合は原則評価不能 (-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【昼】

担当者名 /Instructor 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、それをもとに、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。そのために講義の前半では、私たちが日ごろ行っている些細な「正しさについての判断」を検討し、この判断の妥当性が形成される歴史的過程を追っていくこととなる。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する著名な教材の分析を行うとともに、実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成などを行っていく。このことより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかるものとする。

本科目の到達目標は、道徳教育指導に必要な基本的な知見を身につけているものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。各回、必要な資料を配布し、これをもとに講義を実施する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に、適宜提示するものとする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：社会における「正しさの基準」について
- 第3回：道徳教育の変遷①ー戦前
- 第4回：道徳教育の変遷②ー戦後
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題①(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題②(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④(グループ討論)
- 第11回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：指導案作成
- 第15回：道徳教育の今日的な意義について

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案：50%
コメントシート：20%
小テスト：30%
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動・キャリア教育論【昼】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位 / 2学期 /Semester
授業形態 /Class Format 講義 / 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の概要

本講義の主な内容は以下のとおりである。

1. 文科省の中学校及び高等学校の学習指導要領・特別活動の目標と内容について
2. 学級活動や学校行事、生徒会活動を通じた「人間関係形成」「社会参加」「自己実現」の課題と方法
3. 特別活動の取り組みを進めていくための教職員の共同や家庭・地域との連携の課題と方法
4. 学校における進路指導、キャリア教育の位置づけと学校教育全体を通じたキャリア教育の課題
5. 職場体験学習などの体験活動を通じたキャリア教育の意義と進め方
6. キャリアカウンセリングの基本的な課題と方法について

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 文科省の学習指導要領「特別活動」の課題と方法についての基本的な知識を修得している。

教科書 /Textbooks

文科省 中学校学習指導要領解説「特別活動編」 東山書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き

○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店

○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 1回 特別活動の目標と内容
- 2回 教育課程の中での特別活動の位置づけと各教科との関連
- 3回 学級活動の目標と内容
- 4回 学級活動の実際 その1 中学校の取り組み
- 5回 学級活動の実際 その2 高等学校の取り組み
- 6回 学級活動における対立解決プログラムの取り組み
- 7回 学校行事の目標と内容
- 8回 学校行事の実際
- 9回 生徒会活動の目標と内容
- 10回 生徒会活動の実際
- 11回 キャリア教育の課題について
- 12回 今日の若者の就労問題とキャリア教育の課題
- 13回 北九州キャリア教育研究会 夢授業の取り組み(講師 北九州キャリア教育研究会 木原大助さん)
- 14回 キャリアカウンセリングの課題と方法(ポートフォリオの活用を含む)
- 15回 中学校におけるキャリア教育の取り組み

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30点

キャリア教育に関する学習指導案 15点、対立の調停のシナリオ 15点

期末試験 40点

本授業は原則としてすべての授業回に出席して、課題を提出してもらうことが原則です。

出席について、3分の2以上の出席が最終レポート試験受験資格とします。))

(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では多くのグループワークと意見発表の機会を設け、教師としての実践的な指導力の育成を目指します。
大変かと思いますが、よろしくお願いします。

特別活動・キャリア教育論【昼】

履修上の注意 /Remarks

遅刻に対しては厳しく対応するので、十分に注意すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の目標、学級活動、生徒会活動、学校行事、キャリア教育

教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法【昼】

教育の基礎的理解に関する科目等
必修科目

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）といった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。また学校ごとに特色ある「総合的な学習の時間」について、その内容の取り扱いや目標のあり方を理解し、各教科との関連を踏まえて捉えるようにする。

そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

到達目標

【知識】 これからの子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基本的知識を身につけている

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 改訂版 (2019 有斐閣アルマ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)
高等学校学習指導要領 (平成30年告示 文部科学省)
他にも授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：西洋における教育思想と教育方法の歴史
 - 第3回：日本における教育改革と教育方法の歴史
 - 第4回：現代教育方法学の論点と課題
 - 第5回：子どもは何を学ぶのか・学習とは何か
 - 第6回：「学力」について考える・学力とは何か
 - 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
 - 第8回：教育の道具・素材・環境を考える
 - 第9回：何をどう評価するのか・評価と評定・基準と規準
 - 第10回：教科外活動を構想する
 - 第11回：授業研究・授業をいかに捉えるか
 - 第12回：総合的な学習の意義と課題
 - 第13回：総合的な学習の指導計画と取り扱い
 - 第14回：教師の専門性・専門職性
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 30％
発表・レジュメ作成・・・ 20％
最終試験・課題レポート・・・ 50％
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義の3分の2以上の出席が試験受験の前提となる。
欠席の際は、連絡を入れるようにしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

総合的な学習の時間は、各学校や地域ごとに特色ある活動を行っています。どのような実態があるかを考えるためには、他者との交流や対話的な学びが不可欠です。

能動的・積極的な姿勢を身に着けていきましょう。

キーワード /Keywords

教育とICT活用 【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 教職 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
												○

授業の概要 /Course Description

近年のICT（情報通信技術）の急速な発展に伴い、教育現場にもICTが導入されるようになってきた。このことは、教育や学習、校務といった教育現場の活動において、いかに効果的・効率的にICTを活用できるかといった教員の能力が求められるようになってきたことを意味している。また、高度情報社会を生きていくためには、情報活用能力が重要となってくる。児童生徒のこの能力を育成するための指導能力も教員には求められることになる。

そこで、本授業では、授業や校務におけるICT活用法やその効果について学ぶことを目的とする。また、情報活用能力の構成要素やその指導法について学ぶことを目的とする。具体的には、以下の知識・スキルの習得を目指す。

- ・ 「教育の情報化」の重要性について説明することができる。
- ・ ICTを活用した学習指導法を提案し、その効果について説明することができる。
- ・ ICTを活用した校務を提案し、その効果について説明することができる。
- ・ 情報活用能力の育成法を提案し、その効果について説明することができる。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

稲垣忠, 佐藤和紀, 他「ICT活用の理論と実践: DX時代の教師をめざして」, 北大路書房, 2021年, 2,200円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回: 教育とICT活用【GIGAスクール構想】
- 第2回: 教育の情報化の重要性と課題
- 第3回: 指導方法の累計とICT活用の特性・強み
- 第4回: 一斉学習におけるICT活用, SAMRモデル
- 第5回: 課題演習(1)【一斉学習でのICT活用の提案】
- 第6回: 個別学習におけるICT活用
- 第7回: 課題演習(2)【個別学習でのICT活用の提案】
- 第8回: 協働学習におけるICT活用
- 第9回: 課題演習(3)【協働学習でのICT活用の提案】
- 第10回: 情報活用能力の育成と課題
- 第11回: 課題演習(4)【情報活用能力育成の提案】
- 第12回: ICTを活用した教育・学習評価と改善
- 第13回: ICT支援員の役割
- 第14回: 特別支援教育におけるICT活用
- 第15回: 校務の情報化, まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

教育の情報化に関するレポート・・・20%, 課題演習・・・60%, 積極的な授業への取り組み・・・20%
課題およびレポートの提出回数が全体の3分の2未満の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、担当教員の指示や授業内容・計画に従って必要な授業の準備を行うこと。
事後学習として、学んだことを振り返って、授業内容をノートとしてまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や内容を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。その場合は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回の授業で課題や質疑応答等を繰り返しながら授業を展開していく。そのため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

教育の情報化, 教科指導におけるICT活用, 情報活用能力, 校務の情報化, ICT支援員

生徒指導論【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の概要

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害、セクシュアルマイノリティ等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 生徒理解と生徒指導に対する基本的な知識を修得している。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」
楠凡之 「虐待・いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト

参考書・参考資料等

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 1回 生徒指導の意義と目的 - 子どもたちの自己存在感を育むために
- 2回 生徒指導における個別指導と集団指導、積極的生徒指導と生活指導
- 3回 教育相談と生徒指導、不登校問題と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その1 - 教科教育と生徒指導
- 5回 教育課程と生徒指導 その2 - 総合的な学習の時間、道徳教育と生徒指導
- 6回 教育課程と生徒指導 その3 - 学級づくりを通じた生徒指導
- 7回 生徒指導に関する法制度等(第7章他)
- 8回 生徒指導における規範意識の醸成をめぐる諸問題(ゼロトレランスの問題も含めて)
- 9回 生徒指導における体罰問題を考える - 家父長制的学校観を乗り越えるために
- 10回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と性教育の課題
- 11回 性被害児童・生徒に対する理解と支援
- 12回 生徒指導における関係諸機関の連携
- 13回 青少年の自殺予防の取り組み
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 学校での支援
- 15回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 関係諸機関との連携

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40点、課題レポート20点、期末レポート40点
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」のテキストはしっかり読み込んで内容を修得しておくこと。

生徒指導論【昼】

履修上の注意 /Remarks

全学の教職課程履修学生の必修科目ではありますが、人間関係学科の学生で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの仕事に関心がある学生にも対応した内容になっているので、積極的に履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活指導、生徒指導の3機能、積極的生徒指導と消極的生徒指導、児童虐待問題

教育相談【昼】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。

また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

<到達目標>

【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート 40%
最終試験 60%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)
(6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

教育相談【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

特別支援教育論 【昼】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業での概要は以下の通りである。
 ①特別な支援を必要とする子どもの障害特性や心身の発達を理解するとともに、特別な支援を必要とする子どもの教育課程と支援方法について、その背後にあるインクルーシブ教育の理念も踏まえて検討する。
 ②貧困や虐待的な養育環境に置かれている子どもや外国にルーツを持つ子ども、セクシュアルマイノリティの子どもなど、多様な「特別なニーズ」を持つ子どもの抱える問題への理解と支援の課題を考察する。
 ③ 学校での福祉教育や職場体験などで求められる社会福祉施設入所者に対する理解と援助の在り方について、とりわけ認知症の高齢者の問題やその支援の課題について学習する。

到達目標 特別なニーズを持つ子ども、特別支援教育に関する基礎的な知見を修得している。

教科書 /Textbooks

楠 凡之 2012 「自閉症スペクトラム障害の子どもへの援助と学級づくり」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文科省特別支援学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

1. オリエンテーション + 昨年度のテキスト感想レポートの紹介
2. 特別支援教育の教育制度と教育課程
3. 発達障害・軽度知的障害の子どもに対する理解と援助
4. 自閉スペクトラム症の当事者研究
5. 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その1 日本語学習支援の取り組み
6. 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その2 学力問題とアイデンティティ問題に視点をあてて
7. セクシュアルマイノリティの子ども・青年の抱える生きづらさについて
8. 性の多様性が尊重される学級づくりの課題
9. 肢体不自由・重度心身障害児・者についての理解と支援 (外部講師)
10. 知的障害の特別支援学校での教育実践と支援の留意点(外部講師)
11. 学校における福祉教育の課題 - 高齢者・認知症の問題に視点をあてて(外部講師)
12. 被虐待児に対する理解と指導 - 不安定な愛着の問題に視点をあてて
13. インクルーシブ教育と集団づくり その1 小学校
14. インクルーシブ教育と集団づくり その2 中学校
15. インクルーシブ教育と集団づくり その3 高等学校
全体のまとめ

注 この中の第9回目から第11回目までの授業は「介護等体験事前指導」の授業を兼ねます。
 なお、この4回の事前指導とは別に「介護等体験事前説明会」を7月の中旬に実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート20点(+ボーナス点)、平常点40点(+ボーナス点)、期末レポート 40点
 (6回以上欠席した場合や期末レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストは早めに読んでレポートにまとめて提出すること。
 介護等体験に行く学生は、9回目から11回目の内容を介護等体験ノートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

特別支援教育論は2019年度入学の学生から、教職課程の学生の必修科目になっています。
 ただし、9回目から11回目の授業については、2018年度以前入学生の「介護等体験事前指導」との合同の授業となる点、ご了解いただきたい。

特別支援教育論 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は全学の教職課程の学生の必修授業であると同時に、人間関係学科の専門教育科目、地域創生学群のスクールソーシャルワーカー課程の専門科目を兼ねています。
そのような多様な興味・関心や背景を持つ学生同士の中での学び合いを期待しています。

キーワード /Keywords

特別支援教育、特別なニーズ、自閉スペクトラム症、セクシュアルマイノリティ、外国にルーツを持つ子ども

発達心理学 【昼】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2750

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%

6回以上欠席した場合やレポート課題(2回)を提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人権教育論【昼】

担当者名 /Instructor 河嶋 静代 / カワシマシズヨ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 2単位 / 1学期 /Semester
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

受講生が自らの人権感覚を養い、人権の主体として、人権を守り行動することを通じて、一人ひとりの尊厳と多様性が認められる差別のない社会づくりを目指す。自己や他人の人権を尊重する児童・生徒を育成するための人権教育実践ができるよう、指導方法について学ぶ。「到達目標」は豊かな知識を得ることである。

①文部科学省の「人権教育の指導方法の在り方」を指針として、学校における人権教育の指導方法について学ぶ。②普遍的な人権課題や、「体罰」「いじめ」など、教室の中の人権課題や個別の人権課題について学ぶ。

教科書 /Textbooks

特になし、資料を配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『わたしたちの人権と責任』福岡県人権啓発情報センター
人権教育教材集『新版いのち』北九州市教育委員会
『人権教育ハンドブック』北九州市教育委員会
『教職員のためのLGBT(Q)支援ハンドブック』北九州市教育委員会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 なぜ、教師にとって人権教育は必要か - 人権とは何か、命の尊重、個性の尊重 【世界人権宣言】
- 2回 学校や社会で何が起きているか - 体罰、いじめ、児童虐待、SNS・インターネットによる人権侵害
- 3回 学校における人権教育の目的と方法 - 文部科学省の「人権教育の指導法の在り方」
- 4回 人権教育の枠組み - 教科を通じた人権教育、学級運営、生徒指導、(実践例など)
- 5回 部落差別と人権 【部落差別解消推進法】
- 6回 子どもの人権 【子どもの権利条約】【児童虐待防止法】
- 7回 障がい児・者の人権 【障害者権利条約】【障害者差別解消法】【障害者虐待防止法】
- 8回 「性の多様性」と人権 【SOGI】【性自認】【性的指向】
- 9回 外国人の人権 【ヘイトスピーチ解消法】
- 10回 男性と女性の人権 【デートDV】【セクシュアル・ハラスメント】【ストーカー規制法】
- 11回 性と人権 「性的いじめ」「子どもの性被害と性加害」
- 12回 ホームレスの人々の人権 【ホームレス自立支援法】【社会的排除・社会的包摂】
- 13回 高齢者の人権 【高齢者虐待防止法】
- 14回 コロナ禍中での人権 「エッセンシャルワーカー」「トリアージ」
- 15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。
課題、テストなど総合的に評価する。評価の割合は「テスト」(70%)、課題(20%)、授業への参加度(10%)
遠隔授業に変更になった場合は評価の方法や割合が変わる(テストから課題に)可能性もあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Teamsでの授業の場合は、moodleに示された資料、特にワークシート等は印刷しておいてください。

オンデマンドの授業では、事後学習として課題提出があります。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

新型コロナウイルス感染拡大の状況によって、対面ではなく、オンデマンド、Teamsなど授業形態が変わります。Moodleでお知らせします。

キーワード /Keywords

人権教育、子どもの人権 人権課題

英語科教育法I【昼】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

〈概要〉

この授業は中学校・高等学校の英語科教員になるための基礎的な知識と技能を身につける。特に、中学校の英語教育に中心をおき、学習指導案の書き方および基本的な指導技術を学ぶ。

< 授業の到達目標 >

- ・ 英語科教育実践の目標、学力、内容、評価に関する基本的な知識を有している。
- ・ 新学習指導要領の特徴や課題を理解している。
- ・ 英語科教育実践の諸問題とその解決の課題についての意見を述べるができる。
- ・ 英語科教育実践の諸問題を意欲的に考察し、改善を図ろうとする態度を養う。

教科書 /Textbooks

『中等英語教育』 深澤清治 編著 協同出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 英語教育の目的
3. 英語の指導法(1) コミュニカティブ・アプローチ以前
4. 英語の指導法(2) コミュニカティブ・アプローチとその後
5. より良い指導のために(1) 音声指導
6. より良い指導のために(2) コミュニケーションにつながる文法指導の基本
7. より良い指導のために(3) コミュニケーションにつながる文法指導(コミュニケーション活動)
8. 評価の方法と学習指導案の書き方
9. 学習指導案の書き方(1)
10. 学習指導案の書き方(2)
 11. 模擬授業の準備
 12. 模擬授業(中学校1年生)
 13. 模擬授業(中学校2年生)
 14. 模擬授業(中学校3年生)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、提出物20%、模擬授業20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定ページを読んでくる。

事後学習 課題に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語科教育法I【昼】

キーワード /Keywords

英語科教育法Ⅱ【昼】

担当者名 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

〈概要〉

この授業は中学校・高等学校の英語教員になるための、基礎的な知識と技能を身につけることを目的とする。特に高等学校の英語教育を中心に、学習指導案の書き方と基礎的な指導技術を学ぶ。

< 授業の到達目標 >

- ・ 英語科教育実践の目標、学力、内容、評価に関する基本的な知識を踏まえて、授業を行う際に留意すべき事柄に関する知識を有している。
- ・ 英語科教育実践の諸問題とその解決の課題について、多角的な観点から意見を述べることができる。
- ・ 学習材を基に学習指導案を作成し、意欲的に授業を設計することができる。
- ・ 第二言語習得理論とその活用について理解し、授業指に生かすことができる。

教科書 /Textbooks

『中等英語教育』 深澤清治 編著 協同出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II 開隆堂 2012年、630円

NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社

南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社、2007年、765円

Onstage English Course I・II 池田書店

EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂

田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・II 東京書籍、2012年、630円

山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂 2012年 570円

Minton, T.D. ほか著 Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 2012年 570円 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II" 開隆堂

田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 2013年、650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II 啓林館 2013年、650円

Voyager English Course NEW EDITION I・II 第一学習社

市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN 2012年、630円 ENGLISH COURSE I・II" 文英堂

Genius English Course Revised I・II 大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II 三省堂 2012年、630円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および評価について
2. 第二言語習得と英語教育
3. 4技能統合の理念とタスクの意義 (PCPPモデル)
4. リーディングの理論と実践
5. ライティングの理論と実践
6. 4技能統合の実践方法
7. 「英語コミュニケーションI,II」指導案の考え方
8. 「英語コミュニケーションI,II」指導案の書き方
9. 「英語コミュニケーションI,II」指導案の書き方
10. モデル授業準備
11. モデル授業準備
12. モデル授業(1)
13. モデル授業(2)
14. モデル授業(3)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験60%、提出物20%、模擬授業20% 「

英語科教育法II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定箇所を読んでくる。
事後学習 学習課題に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法Ⅲ【昼】

担当者名 雪丸 尚美 / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、中学校・高等学校の英語科教員を志望する学生を対象として、実践的な英語授業力の養成に重点を置く。具体的には、それぞれが実際に教壇に立って授業を行うことができるように、(1) 英語教育の施策に関する知識の習得、(2) 各言語技能の指導技術やICT教材の使用を含む教室運営の基礎知識、(3) 今日の英語教育に対する問題意識の育成を目指す。また、実際に模擬授業(中学校)を行い相互に評価・批判しあうことで、授業実践の力をつけさせる。模擬授業は一人1~2回を予定しているが、他の受講生の発表も真摯に聞き、自らの英語授業力を向上させようという態度が必要である。

なお、森千鶴先生担当の「英語科教育法I」(1学期)は主に2年生を対象としており、授業内容が異なる。そのため、3年生以上は原則として「英語科教育法Ⅲ」を受講することを強く勧める。

また、「Second Language Acquisition」(1学期)や「Language Teaching」(2学期)では、言語習得や教授法、ワークシートや定期テストの作成に関する内容を扱う。これらの内容は英語教育に携わるうえで必須の知識となるため、それらの科目も併せて受講することを推奨する。(他学科生の聴講も歓迎)

< 授業の到達目標 >

- ・ 小中高の英語科における様々な指導法、教材分析法、今日の課題について理解するとともに、授業実践にかかわる諸能力を習得する。
- ・ 小中高の英語科における様々な指導法、教科の背景となる学問領域と関係付けた教材分析法、授業を設計する際の留意点等について説明することができる。
- ・ 開発した学習材を基に学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。
- ・ 様々な視点から英語科教育について考察を加えることができ、グループ活動、自由討議等に参加することができる。

◎この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

- (1) 『Here We Go! ENGLISH COURSE 1』(中学検定教科書)(光村図書)328円 ※大学の近隣書店で購入
- (2) 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語編』(文部科学省HPよりダウンロード)
- (3) 『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』(酒井英樹・廣森友人・吉田達弘編著,2018年)(大修館)2640円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『英語教育』(大修館、月刊雑誌)

その他の文献は授業で紹介する。また、各出版社の検定教科書は教職資料室(本館12階)で閲覧することができる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や人数に応じて内容を調整する。

1. オリエンテーション
2. 日本における英語教育政策、英語教育の目的、英語教育課程
3. 多様な学習者・学びのユニバーサルデザイン
4. 言語習得と教授法、デジタル教科書や電子黒板を活用した指導
5. 中学校の英語科教育および小学校の外国語活動
6. 中学学習指導要領の解説及び指導案作成法(略案・細案の書き方)
7. 模擬授業(中学校、導入の実践 Unit1, 3, 5)
8. 模擬授業(中学校、会話文指導の実践①教科書Unit1,2,3)
9. 模擬授業(中学校、会話文指導の実践②教科書Unit4, 5, 6)
10. 模擬授業(中学校、リーディング指導の実践①教科書Unit1,2,3)
11. 模擬授業(中学校、リーディング指導の実践②教科書Unit4, 5, 6)
12. 模擬授業(中学校、文法指導の実践①教科書Unit1, 2, 3)
13. 模擬授業(中学校、文法指導の実践②教科書Unit4, 5, 6)
14. 模擬授業(中学校、タスク指導の実践)
15. まとめ(英語科教員としての責任と課題、質疑応答)

英語科教育法III 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 授業参加の積極性15%
- (2) 予習・復習課題の提出 (Moodle) 10%
- (3) 指導案作成 20%
- (2) 模擬授業 25%
- (3) 模擬授業の振り返り報告書 (Moodle) 10%
- (4) 学び報告書 (Moodle) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前学習> 該当する教科書の部分を読んでおく。模擬授業担当者は指導案の添削を受け、模擬授業の準備をする。
 <事後学習> 授業内容の復習を行う。また、模擬授業担当者は、授業の様子を録画した映像を視聴し「振り返り報告書」をMoodleで提出する。
 模擬授業を担当していない者は、模擬授業で気づいた点や学んだ点を「学び報告書」にまとめ、Moodleで提出する。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 教員免許状を取得し、将来教職に就くことを強く希望する学生を対象とする。やむを得ない場合を除き、無断欠席は履修放棄とみなす。また、4回以上欠席した者は、成績評価の対象外とする。
- (2) 模擬授業を行う際は、服装や振る舞いまで教育実習と同じ想定で行う（発表者はスーツ着用）。
- (3) 模擬授業のスケジュール等、詳細については初回授業で説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 検定教科書は生協で購入することができないため、大学近隣の書店で購入する。購入方法については、初回授業で説明する。
- 留学等の理由で所属学部開講の「英語科教育法III」が履修できない場合には、授業担当者（雪丸）にメールをください。

キーワード /Keywords

英語科教育法Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 3年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 講義・演習
 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義は、中学校・高等学校の英語科教員を志望する学生を対象として、実践的な英語授業力の養成に重点を置く。具体的には、それぞれが実際に教壇に立って授業を行うことができるように、(1) 英語教育の施策に関する知識の習得、(2) 各言語技能の指導技術やICT活用を含む授業運営の基礎知識、(3) 今日の英語教育に対する問題意識の育成を目指す。また、実際に模擬授業(高等学校英語)を行い相互に評価・批判しあうことで、授業実践の力をつけさせる。一人につき最低1回の模擬授業を課す。他の受講生の発表も真摯に聞き、自らの英語授業力を向上させようという態度が必要である。

なお、森千鶴先生担当の「英語科教育法Ⅱ」(2学期)は2年生を対象としており、授業内容が異なる。そのため、3年生以上は原則として「英語科教育法Ⅳ」を受講することを強く勧める。

また、「Second Language Acquisition」(1学期)や「Language Teaching」(2学期)では、言語習得や教授法、教材やテストの作成に関する内容を扱う。これらの内容は英語教育に携わるうえで必須の知識となるため、それらの科目も併せて受講することを推奨する。(他学科生の聴講も歓迎)

< 授業の到達目標 >

- ・ 小中高の英語科の教科目標、様々な指導法、授業を設計する際の留意点等について説明することができる。
- ・ 小中高の英語科の学習材を多角的に検討し、指導すべき内容についての的確に意見を述べることができる。
- ・ 自ら問題意識を持って自主的に英語科の授業を設計し、実践することができる。
- ・ 開発した学習材を基に学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。
- ・ 様々な視点から英語科教育について考察を加えることができ、グループ活動、自由討議等に参加することができる。

◎この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「Ⅱ類 - 3」に分類される。

教科書 /Textbooks

- (1) 『令和4年度版 CROWN English Communication I』(高校検定教科書)(三省堂) ※購入方法は初回授業で説明する
- (2) 『高等学校学習指導要領解説(外国語編・英語編)』(文部科学省HPよりダウンロード)
- (3) 『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』(大修館)2600円 ※1学期に購入した場合は不要

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『英語教育』(大修館、月刊雑誌)

その他の文献は授業で紹介する。また、各出版社の検定教科書は教職資料室(本館12階)で閲覧することができる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下のとおりであるが、履修者の理解や人数に応じて内容を調整する。

1. オリエンテーション
2. 英語教育におけるユニバーサルデザイン、ICTの活用
3. 測定と診断
4. 高等学校学習指導要領の解説及び指導案作成法(細案の書き方)
5. 模擬授業(高校、導入指導の実践① Lesson 1,2)
6. 模擬授業(高校、導入指導の実践② Lesson 3,4)
7. 模擬授業(高校、導入指導の実践③ Lesson 5,6)
8. 模擬授業(高校、リーディング指導の実践①教科書 Lesson 1,2)
9. 模擬授業(高校、リーディング指導の実践②教科書 Lesson 3,4)
10. 模擬授業(高校、リーディング指導の実践③教科書 Lesson 5,6)
11. 模擬授業(高校、文法指導の実践②教科書 Lesson 1,2)
12. 模擬授業(高校、文法指導の実践②教科書 Lesson 3,4)
13. 模擬授業(高校、文法指導の実践②教科書 Lesson 5,6)
14. 模擬授業(高校、タスク指導の実践)
15. まとめ(英語科教員としての成長、質疑応答)

英語科教育法Ⅳ【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (1) 授業参加の積極性15%
- (2) 予習・復習課題の提出 (Moodle) 10%
- (3) 指導案作成 20%
- (2) 模擬授業 25%
- (3) 模擬授業の振り返り報告書 (Moodle) 10%
- (4) 学び報告書 (Moodle) 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<事前学習> 該当する教科書の部分を読んでおく。模擬授業の担当者は指導案の添削を受け、模擬授業の準備をする。
 <事後学習> 模擬授業の担当者は、授業の様子を録画した動画を視聴し「振り返り報告書」を作成し、Moodleで提出する。模擬授業を担当していない者は、模擬授業で気づいた点や学んだ点を「学び報告書」にまとめ、Moodleで提出する。

履修上の注意 /Remarks

- (1) 教員免許状を取得し、将来教職に就くことを強く希望する学生を対象とする。やむを得ない場合を除き、無断欠席は履修放棄とみなす。4回以上欠席した者は、成績評価の対象外とする。
- (2) 模擬授業を行う際は、服装や振る舞いまで教育実習と同じ想定で行う (発表者はスーツ着用) 。
- (3) 模擬授業等の詳細については、初回授業で説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 検定教科書は生協で購入することができないため、初回授業で購入方法を案内する。
- 留学等の理由で所属学部開講の「英語科教育法Ⅳ」を受講できない場合は、授業担当者 (雪丸) にメールをください。

キーワード /Keywords

国語科教育法I【昼】

担当者名 /Instructor 坂東 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義・演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

【授業の概要】

国語科教育実践の基盤である、目標、学力、内容、評価、授業を行う際に留意すべき事柄について史的展開を含めて理解した後、新学習指導要領の特徴と課題を捉え、現在の国語科教育実践の諸問題の改善について検討していく。また、受講生の能動的学習を促すため、グループ活動、自習討議、まとめと発表に重点を置く。

【授業の到達目標及びテーマ】

- ・ 国語科教育実践の基盤である、目標、学力、内容、評価、授業を行う際に留意すべき事柄について、史的な展開を含めて理解し説明することができる。
- ・ 新学習指導要領の特徴や課題を理解しあらましを説明することができる。
- ・ 国語科教育実践の諸問題を多角的に捉え、問題の改善に向けて主体的に考察して意見を述べるができる。
- ・ 国語科教育実践の諸問題について様々な視点から意欲的に考察し、改善を図ろうとする態度を養う。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

『新たな時代の学びを創る中学校・高等学校国語科教育研究』 全国大学国語教育学会編 (東洋館出版社 2019)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』 文部科学省 (東洋館出版 2018)

『高等学校学習指導要領』(平成30年告示)解説 国語編』 文部科学省 (東洋館出版 2019)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 : オリエンテーション(授業方法・内容の紹介)
- 第2回 : 国語科教育の教科目標
- 第3回 : 国語科教育の制度(学習指導要領と教科書)
- 第4回 : 国語科の授業について(発問・指示・板書・ワークシートなど)
- 第5回 : 国語科教育における評価
- 第6回 : 国語科の内容1 - 「話すこと・聞くこと」-
- 第7回 : 国語科の内容2 - 「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」-
- 第8回 : 国語科の内容3 - 「読むこと」-
- 第9回 : 単元的展開の実践例1-大村はまの実践から-
- 第10回 : 単元的展開の実践例2-1980年代以降の実践から-
- 第11回 : 「書くこと」の実践(校内スケッチを書く)
- 第12回 : 「読むこと」の実践(グループで校内スケッチを読み合いアドバイスをする)
- 第13回 : 「話す」「聞く」「話し合う」の実践(情報機器を活用した文集の編集)
- 第14回 : スクリーンに投影して文集の表紙・編集案の発表を行う
- 第15回 : まとめ

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 定期試験(期末試験) 50%
- ・ 授業内レポート、授業外レポート 20%
- ・ 授業態度・授業への参加度 10%
- ・ 受講者の発表、授業内での制作作品 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 指定されたテキストの範囲を読んでおくこと。
- ・ 次回までの課題を授業中に指示するので、準備すること。
- ・ 授業の理解に有益な文献を適宜紹介するので読んでおくこと。

国語科教育法I【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業までにテキストを読んでおくこと。
- ・ 授業のあとにポイントをまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国語科授業実践の基礎知識を身に付け、国語科の授業づくりについて楽しく学んでいきましょう。

キーワード /Keywords

国語科教育 国語科の授業づくり

国語科教育法II 【昼】

担当者名 坂東 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

国語科の領域「読むこと」、[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] の指導の歴史的展開と様々な指導法、今日的課題について理解した後、教科の背景となる学問領域と関連付けた教材分析の方法、授業設計の方法、学習指導案の作成方法を身につける。具体的には、グループに分かれ、代表的な教科書教材を対象として、教材分析を行い、授業実施計画を作成して発表し検討することで、国語科教師としての実践的基礎力を身につける。

< 授業の到達目標 >

- ・ 「読むこと」 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] の指導における歴史的展開と様々な指導法、教材分析法、今日的課題について理解するとともに、授業実践にかかわる諸能力を習得する。
- ・ 「読むこと」 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] の目標、様々な指導法、教科の背景となる学問領域と関連付けた教材分析法、授業を構想する際の留意点等について説明することができる。
- ・ 「読むこと」 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] の学習材を多角的に検討し指導すべき内容についての確に意見を述べるができる。
- ・ 意欲的に「読むこと」 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] の授業を設計することができる。
- ・ 開発した学習材を基に学習指導案を作成して検討をすることを通して、意欲的に授業を設計することができる。
- ・ 様々な視点から国語科教育について考察を加えることができ、グループ活動、自由討議等に参加することができる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

『新たな時代の学びを創る中学校・高等学校国語科教育研究』 全国大学国語教育学会編 (東洋館出版社 2019)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』 文部科学省 (東洋館出版 2018)
- 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編』 文部科学省 (東洋館出版 2019)
- 『教育科学国語教育』 (明治図書 月刊誌 2018~2020)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション(授業方法・内容の紹介)
- 第2回：「読むこと」の指導について1 (歴史的展開と今日的課題)
- 第3回：「読むこと」の指導について2 (授業実践例、様々な指導法)
- 第4回：「読むこと」の指導について3 (指導に当たっての留意点)
- 第5回：「読むこと」の指導について4 (学習指導案の作成)
- 第6回：「読むこと」の指導について5 (学習指導案の検討)
- 第7回：教材分析の方法(文学的文章) (発表資料作成の仕方の説明、グループ、担当決め)
- 第8回：情報機器を活用した文学的文章教材の教材分析と授業案の発表1 (小学校)
- 第9回：情報機器を活用した文学的文章教材の教材分析と授業案の発表2 (中学校)
- 第10回：情報機器を活用した文学的文章教材の教材分析と授業案の発表3 (高等学校)
- 第11回：教材分析の方法(説明的文章) (発表資料作成の仕方の説明、グループ、担当決め)
- 第12回：情報機器を活用した説明的文章教材の教材分析と授業案の発表1 (小学校)
- 第13回：情報機器を活用した説明的文章教材の教材分析と授業案の発表2 (中学校)
- 第14回：情報機器を活用した説明的文章教材の教材分析と授業案の発表3 (高等学校)
- 第15回：まとめ

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 定期試験(期末試験) 50%
- ・ 授業内レポート、授業外レポート 20%
- ・ 授業態度・授業への参加度 10%
- ・ 受講者の発表、授業内での制作作品 20%

国語科教育法II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 指定されたテキストの範囲を読んでおくこと。
- ・ 次回までの課題を授業中に指示するので、準備すること。
- ・ 教育実習や採用試験に関する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業までにテキストを読んでおくこと。
- ・ 授業のあとポイントをまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教材分析の方法を身に付け、学習指導案を作成することを通して、国語科の授業実践力をつけていきましょう。

キーワード /Keywords

国語科教育の理論と実践、教材分析、授業作り

国語科教育法III 【昼】

担当者名 坂東 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

国語科の領域「読むこと」、[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] の指導の歴史的展開と様々な指導法、今日的課題について理解した後、教科の背景となる学問領域と関係付けた教材分析の方法、授業設計の方法、学習指導案の作成方法を身につける。具体的には、グループに分かれ、代表的な教科書教材を対象として、教材分析を行い、授業実施計画を発表し、模擬授業を行うことで、国語科教師としての実践的基礎力を身につける。

< 授業の到達目標 >

- ・ 「読むこと」 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] の指導における歴史的展開と様々な指導法、教材分析法、今日的課題について理解するとともに、授業実践にかかわる諸能力を習得する。
- ・ 「読むこと」 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] の目標、様々な指導法、教科の背景となる学問領域と関係付けた教材分析法、授業を設計する際の留意点等について説明することができる。
- ・ 「読むこと」 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] の学習材を多角的に検討し指導すべき内容についての的確に意見を述べるができる。
- ・ 意欲的に「読むこと」 [伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] の授業を設計することができる。
- ・ 開発した学習材を基に学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。
- ・ 様々な視点から国語科教育について考察を加えることができ、グループ活動、自由討議等に参加することができる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

『新たな時代の学びを創る中学校・高等学校国語科教育研究』 全国大学国語教育学会編 (東洋館出版社 2019)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』 文部科学省 (東洋館出版 2018)
- 『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編』 文部科学省 (東洋館出版 2019)
- 『教育科学国語教育』 (明治図書 月刊誌 2018~2020)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 第1回：オリエンテーション(授業方法・内容の紹介)
- 第2回：「読むこと」の指導について1(評価)
- 第3回：「読むこと」の指導について2(模擬授業をするに当たっての留意点)
- 第4回：情報機器を活用した文学的文章教材の教材分析と授業案の発表1(中学校)
- 第5回：情報機器を活用した文学的文章教材の教材分析と授業案の発表2(高等学校)
- 第6回：情報機器を活用した説明的文章教材の教材分析と授業案の発表1(中学校)
- 第7回：情報機器を活用した説明的文章教材の教材分析と授業案の発表2(高等学校)
- 第8回：情報機器を活用した伝統的な言語文化の教材分析と授業案の発表1(中学校)
- 第9回：情報機器を活用した伝統的な言語文化の教材分析と授業案の発表2(高等学校)
- 第10回：模擬授業とその後の検討1(文学的文章)
- 第11回：模擬授業とその後の検討2(説明的文章)
- 第12回：模擬授業とその後の検討3(伝統的な言語文化)
- 第13回：授業研究法について
- 第14回：国語科教育の今日的課題(メディア・リテラシー等)
- 第15回：まとめ

定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 定期試験(期末試験) 50%
- ・ 授業内レポート、授業外レポート 20%
- ・ 授業態度・授業への参加度 10%
- ・ 受講者の発表、授業内での制作作品 20%

国語科教育法Ⅲ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 指定されたテキストの範囲を読んでおくこと。
- ・ 次回までの課題を授業中に指示するので、準備すること。
- ・ 教育実習や採用試験に関する情報収集を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業までにテキストを読んでおくこと。
- ・ 授業のあとポイントをまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教材分析の方法を身に付け、学習指導案を作成、模擬授業を行うことを通して、国語科の授業実践力をつけていきましょう。

キーワード /Keywords

国語科教育の理論と実践、教材分析、授業作り、模擬授業

国語科教育法Ⅳ【昼】

担当者名 坂東 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

< 授業の概要 >

小中高の国語科において、年間を見通した指導と評価を計画立案し実際に授業を行うための知識と技能を身につける。具体的には、グループに分かれ、自ら問題意識を持って自主的に国語科の授業を構想し、模擬授業を行った後、検討会を行うことで、国語科教師としての実践的基礎力を身につける。

< 授業の到達目標 >

- ・小中高の国語科の教科目標、様々な指導法、授業を設計する際の留意点等について説明することができる。
- ・小中高の国語科の学習材を多角的に検討し、指導すべき内容についての的確に意見を述べることができる。
- ・自ら問題意識を持って自主的に国語科の授業を設計し、実践することができる。
- ・開発した学習材を基に学習指導案を作成し、留意点に注意しながら模擬授業に臨むことができる。
- ・様々な視点から国語科教育について考察を加えることができ、グループ活動、自由討議等に参加することができる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

『新たな時代の学びを創る中学校・高等学校国語科教育研究』 全国大学国語教育学会編 (東洋館出版社 2019)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編』 文部科学省 (東洋館出版 2018)
『高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 国語編』 文部科学省 (東洋館出版 2019)
『教育科学国語教育』 (明治図書 月刊誌 2018~2020)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 第1回：オリエンテーション(授業方法・内容の紹介)
第2回：指導と評価の一体化(国語科における評価の歴史的展開と今日的課題)
第3回：主体的な学習を成立させるために(指導上の留意点)
第4回：「話すこと・聞くこと」の授業(実践例の検討)
第5回：「書くこと」の授業(実践例の検討)
第6回：「読むこと」の授業1(文学的文章)(実践例の検討)
第7回：「読むこと」の授業2(説明的文章)(実践例の検討)
第8回：伝統的な言語文化の授業(実践例の検討)
第9回：「話すこと・聞くこと」の模擬授業とその後の検討(情報機器の活用を含む)
第10回：「書くこと」の模擬授業とその後の検討(情報機器の活用を含む)
第11回：「読むこと」の模擬授業とその後の検討1(文学的文章)(情報機器の活用を含む)
第12回：「読むこと」の模擬授業とその後の検討2(説明的文章)(情報機器の活用を含む)
第13回：「伝統的な言語文化」の模擬授業とその後の検討(情報機器の活用を含む)
第14回：これからの国語科教育における課題と展望(情報機器の活用を含む)
第15回：まとめ
定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・定期試験(期末試験) 50%
- ・授業内レポート、授業外レポート 20%
- ・授業態度・授業への参加度 10%
- ・受講者の発表、授業内での制作作品 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・指定されたテキストの範囲を読んでおくこと。
- ・次回までの課題を授業中に指示するので、準備すること。
- ・教育実習や採用試験に関する情報収集を行うこと。

国語科教育法Ⅳ【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業までにテキストを読んでおくこと。
- ・ 授業のあとポイントをまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教材分析の方法を身に付け、学習指導案を作成、模擬授業を行うことを通して、国語科の授業実践力をつけていきましょう。

キーワード /Keywords

国語科教育の理論と実践、教材分析、授業作り、模擬授業

日本史【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 絢子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

【授業内容】 一口に「日本史」といっても、時代によってその国家形態・領土・領民は異なる。本授業では日本の国家形成過程と、その統治下でどのような人たちが日本の歴史に関わってきたのかについて、構造的かつ空間的に学ぶ。

【到達目標】 歴史学の手法や、日本史研究の重要なトピックを学び、歴史学的視点から日本史をとらえ、教えることができる能力を身に付けることを目標とする。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回の授業でレジュメ・資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：「日本史」とは：歴史学の手法と、隣接学問分野から
- 第2回：稲作文化の伝来と小国家の分立
- 第3回：ヤマト王権による統合
- 第4回：中央集権化と日本の律令制
- 第5回：武家政権と朝廷の併存
- 第6回：中世における多元的支配
- 第7回：「天下統一」から幕藩体制へ：身分・宗教・対外意識
- 第8回：開国と国境画定
- 第9回：明治立憲体制
- 第10回：本国と植民地の関係
- 第11回：敗戦と占領
- 第12回：日本国憲法の制定
- 第13回：境界地域：沖縄と北海道
- 第14回：移動する人々：出稼ぎ・移民・引揚げ・旧植民地出身者
- 第15回：「日本」の歴史を学ぶ意味

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の課題 (30%) と期末試験 (70%) によって評価する。
6回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布する資料や、紹介する参考書などを事前・事後学習として読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東洋史【昼】

担当者名 /Instructor 植松 慎悟 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近くて遠い国、中国。わが国の歴史とも密接な関係をもつ中国は、国際的な影響力も大きく、この中国について学ぶことは非常に重要であろう。しかしながら、中国について学ぶとき、多くの現代日本人に欠けている視点が歴史的な考察・分析といえる。

本講義では、「最初の中華帝国」秦王朝、「最長の中華帝国」漢王朝の歴史を主な内容として扱う。とくに、各時代に活躍した改革者を講義の中軸に据え、その人物像や時代背景、改革の内容・結果・影響などを中心に論じる。本講義は、専門的な基礎知識を習得したうえで、東洋史に対する理解・関心を深めることを目標としたものである。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。資料が必要な場合は、プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義のガイダンス
 - 2回 古代の中国と日本 -日中交流史-
 - 3回 秦(1) -戦国時代から中国統一へ-
 - 4回 秦(2) -始皇帝の統一政策-
 - 5回 前漢前期(1) -項羽と劉邦-
 - 6回 前漢前期(2) -高祖と冒頓単于-
 - 7回 前漢前期(3) -呂后-
 - 8回 前漢中期(1) -武帝-
 - 9回 前漢中期(2) -昭帝-
 - 10回 前漢中期(3) -宣帝-
 - 11回 前漢後期(1) -元帝-
 - 12回 前漢後期(2) -成帝-
 - 13回 前漢後期(3) -哀帝-
 - 14回 新の王莽 -王莽は「篡奪者」か-
 - 15回 まとめ
- 期末試験(場合によってはレポートなどの課題提出に変更する)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%

*なお、欠席・遅刻・私語など授業態度については、成績評価の際に適宜考慮する。

定期試験を受験しなかった場合、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本講義では、前回までの内容をふまえ、講義を進めていく。毎回、授業の板書やプリントを見直し、しっかりと復習すること。理解が不十分な部分は、初回で紹介した推薦図書などで確認をとっておくこと。(60分)

予習については、東洋史を含めて書籍・報道などで幅広く知識や教養を身に付けること。特に、大学生として恥ずかしくない読書量を確保すること。(60分)

履修上の注意 /Remarks

本講義は、板書を中心に進めるので、集中して受講すること。初回に講義のガイダンスを行うので、出席すること。

講義の進行具合によって授業計画を変更する場合があります、その際は授業中に指示する。

また、講師および他の学生が円滑な授業を進めるうえで、これを阻害する一切の行為を禁止する。違反した学生に対しては厳正に対処する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義のテーマは、中国史を中心とした東洋史の概説です。なじみのない学生には少々難易度の高い授業になりますので、高校レベルの世界史を独自に学習しておくこと、理解が深まるでしょう。

キーワード /Keywords

中国 歴史 政治 社会 文化 皇帝支配

西洋史【昼】

担当者名 /Instructor 曠谷 憲洋 / Norihiro Kurotani / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地球規模で進行する「世界の一体化」。地中海や大西洋、インド洋、東・南シナ海といった海域世界の発展と相互の接続を見ることによって、ヨーロッパとアフリカ・「新世界」・アジアの出遭いの諸相と諸文明の交流・衝突、そして近代世界の形成を理解します。

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】内はキーワード)
- 1回 「13世紀世界システム」とヨーロッパ 【バックス・モンゴリカ】
 - 2回 ヨーロッパ進出以前のアジア海域世界 【港市国家】
 - 3回 イベリア諸国の形成 【レコンキスタ】
 - 4回 「中世の危機」とポルトガルの海外進出【エンリケ航海王子】
 - 5回 新世界到達と「世界分割」【トルデシリャス条約】
 - 6回 ポルトガル海洋帝国の形成① 【香辛料】
 - 7回 ポルトガル海洋帝国の形成② 【点と線の支配】
 - 8回 スペインによる植民地帝国の形成① 【ポトシ】
 - 9回 スペインによる植民地帝国の形成② 【モナルキア・イスパニカ】
 - 10回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編①【東インド会社】
 - 11回 「17世紀の危機」と国際秩序の再編②【砂糖革命】
 - 12回 環大西洋世界の展開① 【第二次英仏百年戦争】
 - 13回 環大西洋世界の展開② 【環大西洋革命】
 - 14回 ヨーロッパ勢力とアジアの海 【近代世界システム】
 - 15回 まとめ 【「コロンブスの交換」】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義内に課す小レポート(5回)・・・25%、期末試験・・・75%
(小レポートの提出が一度もない場合、期末試験を受けることが出来ません)
試験を受けなかった場合には、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

既習の歴史に関する知識を再確認しておいてください(とくに世界史)。
毎回講義プリントを配布し、それに基づいて講義します。講義後も配布プリントとノートを見直し、整理・復習を心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

特にありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校時代に世界史が苦手だった方、大歓迎です。

キーワード /Keywords

13世紀世界システム、中世の危機、「海洋帝国」、植民地化、環大西洋世界

人文地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 美谷 薫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

人文地理学は、地表上のさまざまな人文・社会現象を、特に地域的差異という視点から明らかにしようとする学問分野です。そのような定義からすると、研究の対象が極めて広範なものに及ぶことから、科学というよりは「ものの見方」に近いものであるとも言えるかもしれません。本講義では、人文地理学の諸分野における基礎概念や研究事例を取り上げ、地域を見る「ツール」としての「地理学的なものの見方や考え方」を習得することを目的とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。
上野和彦・椿真智子・中村康子編 2015. 『地理学基礎シリーズ 1 地理学概論 [第2版]』朝倉書店。
○浮田典良編 2003. 『最新地理学用語辞典改訂版』原書房。
○中村和郎・手塚 章・石井英也 1991. 『地理学講座 4 地域と景観』古今書院。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：人文地理学の体系と歴史
- 第2回 人文地理学の基礎概念(1)：地域①(地域概念, 等質地域と機能地域)
- 第3回 人文地理学の基礎概念(2)：景観
- 第4回 人文地理学の基礎概念(3)：地域②(地域構造, 認知地域)
- 第5回 人文地理学の基礎概念(4)：環境
- 第6回 人文地理学の基礎概念(5)：分布と伝播
- 第7回 人間と社会の地理学(1)：人口
- 第8回 人間と社会の地理学(2)：村落
- 第9回 人間と社会の地理学(3)：都市①(都市概念, 都市化, 都市システム)
- 第10回 人間と社会の地理学(4)：都市②(都市空間構造, 都市変化)
- 第11回 産業と経済の地理学(1)：農業
- 第12回 産業と経済の地理学(2)：工業
- 第13回 産業と経済の地理学(3)：商業
- 第14回 産業と経済の地理学(4)：流通
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に実施する作業課題：40点, 学期中に実施する作業レポート：20点, 期末レポート：40点の合計100点満点で評価します。6回以上欠席した場合は, 評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習が中心ですが, 授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は, 次回授業までに各自で作業を行ってもらうことがあります。

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行いますので, 出席に際しては, 色鉛筆(12色程度), 定規, 電卓(スマートフォンのアプリで構いません)を用意してください。履修条件はありませんが, 全体として作業量の多い講義ですので, その点はあらかじめご承知おきください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の「地理学」の内容を紹介する際に, よく「高等学校までの地理とは違う」というようなことが言われます。その中身については, 講義中に説明をしますが, 高等学校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。

キーワード /Keywords

土地地理学 【昼】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は、地球表面で起こる自然・人文の様々な現象を「地域的観点」から究明する科学です。そのため、地理学を学習・研究するためには、位置を知るための地図が必須で、地図は「地理学の言語」と言われるほど重要です。この科目では、地図を通じて基礎的な地理学的知見を深めることを目的とします。あわせて、地図や空中写真を利用して地表の環境を読み取る実習を行い、地理学の基礎的研究手法を学びます。

この授業の学位授与方針に基づく主な到達目標は以下の通りです。
人間と自然の関係性を地理学を通して理解する。
地理学的な考察をもとに、直面する課題を発見し解決策を考えることができる。
課題を自ら発見でき、解決のための地理学的手法の学びを継続することができる。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本博文監修「古地図から読み解く城下町の不思議と謎」実業之日本社, 2017年, 1650円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地理学では何を学ぶか
- 2回 地図の役割と地図の能力 【地理的情報を整理する働き】
- 3回 地図の歴史 【文字を持たない未開の民族も地図は持っていた】
- 4回 地図にはどのような種類があるか 【地図には様々な種類がある】
- 5回 地図は、どのように作られるか 【地図投影・図法と図式】
- 6回 地図記号と景観1 【地図記号が示す景観】
- 7回 地図記号と景観2 【地図を読む楽しみ】
- 8回 山の地形を地形図から描く1 (講義・実習) 【行ったことのない山の形を地図から描くことができる】
- 9回 山の地形を地形図から描く2 (実習)
- 10回 地図を利用して地表を計測する 【山の堆積を地図から測定できる】
- 11回 地形図を利用して景観を読みとる1(実習) 【海岸砂丘の環境と土地利用。自然景観を読む】
- 12回 地形図を利用して景観を読みとる2(実習) 【中世の集落の立地。歴史景観を読む】
- 13回 リモートセンシングと空中写真の利用 【直接行けない場所の状態を知る】
- 14回 空中写真を利用して高さを測定する(講義・実習)
- 15回 衛星データを利用して地表の環境を調べる

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...30% 試験...70%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、授業内容に関連する新聞記事やインターネット情報を読む、関連するテレビ番組を見るなどするとより理解が深まります。授業後には、ノートを整理し、配付された資料等をよく読んで理解したうえで、それらを将来的に使えるようファイルボックスなどに整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地誌学 【昼】

担当者名 美谷 薫 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

地理学は大きく系統地理学と地誌学（地域地理学）の2分野に分けられることが多いですが、系統地理学（自然地理学や人文地理学）がさまざまな事象の地域的差異とその要因を探求するものであるのに対して、地誌学は、それらの知識を活用しながら、地域ごとの特性を明らかにしようとする学問分野です。

本講義では、身近な地域の事例としての北九州市や福岡県、また、より広域の地域としての九州・沖縄地方、日本の諸地域を取り上げながら、地域の特徴を明らかにするための地誌学的な手法を習得することを目標とします。

教科書 /Textbooks

特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。

菊池俊夫編 2011. 『世界地誌シリーズ1 日本』朝倉書店.

矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢編 2020. 『地理学基礎シリーズ3 地誌学概論 [第2版]』朝倉書店.

山本正三・谷内 達・菅野峰明・田林 明・奥野隆史編 2006. 『日本総論II(人文・社会編)』, 朝倉書店.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN(1): 地域の見方・考え方
- 第2回 インTRODクシヨN(2): 北九州市を説明する
- 第3回 身近な地域の見方(1): 北九州市と福岡県の自然環境
- 第4回 身近な地域の見方(2): 北九州市と福岡県の歴史・文化環境
- 第5回 身近な地域の見方(3): 北九州市と福岡県の社会・経済環境
- 第6回 広域スケールの地誌(1): 九州・沖縄地方①
- 第7回 広域スケールの地誌(2): 九州・沖縄地方②
- 第8回 広域スケールの地誌(3): 中国・四国地方①
- 第9回 広域スケールの地誌(4): 中国・四国地方②
- 第10回 日本の諸地域(1): 近畿地方
- 第11回 日本の諸地域(2): 中部地方
- 第12回 日本の諸地域(3): 関東地方
- 第13回 日本の諸地域(4): 東北地方
- 第14回 日本の諸地域(5): 北海道地方
- 第15回 授業のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中に実施する作業課題: 40点, 学期中に実施する作業レポート: 20点, 期末レポート: 40点の合計100点満点で評価します。
6回以上欠席した場合は, 評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習が中心ですが, 授業時間内に作業課題が終わらなかった場合は, 次回授業までに各自で作業を行ってもらうことがあります。

履修上の注意 /Remarks

各回の講義で簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を行いますので, 出席に際しては, 色鉛筆(12色程度), 定規, 電卓(スマートフォンのアプリで構いません)を用意してください。履修条件はありませんが, 全体として作業量の多い講義ですので, その点はあらかじめご承知おきください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「人文地理学」と同様の内容ですが, 大学の「地理学」の内容を紹介する際に, よく「高等学校までの地理とは違う」というようなことが言われます。その中身については, 講義中に説明をしますが, 高等学校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。

キーワード /Keywords

日本国憲法 【昼】

担当者名 棟形 康平 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本国憲法の基本的な考え方について概説する。
講義では、現実の政治や社会の諸問題にも触れつつ、日本国憲法が保障する人権の内容や統治機構の仕組みが理解できるように努める。

教科書 /Textbooks

斎藤一久・堀口悟郎 編『図録 日本国憲法〔第2版〕』（弘文堂、2021年）2,530円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 内山奈月・南野森『憲法主義』（PHP研究所、2014年）
- 芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）
- 安西文雄ほか『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 憲法とは何か・立憲主義
- 第3回 違憲審査制
- 第4回 国民主権・民主主義
- 第5回 人権総論
- 第6回 幸福追求権
- 第7回 法の下での平等
- 第8回 思想良心の自由・信教の自由
- 第9回 表現の自由
- 第10回 経済的自由
- 第11回 国会
- 第12回 内閣
- 第13回 裁判所
- 第14回 憲法改正
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（100%）
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書・参考書等の該当箇所を読み、予習・復習をする。
また、講義内容についてのノートを作成するなどして復習を行う。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

立憲主義、基本的人権、統治機構、国民主権、民主主義
SDG 5. ジェンダー平等、SDG 16. 平和と公正

教育とコンピューター 【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 教職 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

文部科学省は「GIGAスクール構想」を掲げ、全児童・生徒一人一台の学習用コンピューター、全学校での高速・大容量・機密性の高いネットワークの実現を目指している。学校におけるICT環境が整備される中、教師は、情報教育・教科指導における情報通信技術の活用・校務の情報化を3本柱とする「教育の情報化」に適応した能力が求められる。

本授業では、「教育の情報化」に適応するための基礎的スキルの習得を目指す。具体的には、以下の基礎的スキルを習得することが目標である。

- ・ 「教育の情報化」の重要性について説明することができる。
- ・ 文書作成ソフトを用いて、教材や書類を作成することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、教材作成や校務処理を行うことができる。
- ・ プレゼンテーションソフトを用いて、教材を作成することができる。

教科書 /Textbooks

『情報リテラシー Windows10 /Office2019対応』, FOM出版, 2,000円 (税抜)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：教育の情報化とは何か【オリエンテーション】
- 2回目：教育の情報化の重要性と課題
- 3回目：文書作成レッスン(1)【レポートの作成】【図や表の挿入】
- 4回目：文書作成レッスン(2)【表現力アップ】【長文レポートの編集】
- 5回目：文書作成演習
- 6回目：表計算レッスン(1)【データの入力】【表の作成】
- 7回目：表計算レッスン(2)【表の編集】【表の印刷】【グラフ作成】
- 8回目：表計算レッスン(3)【データベースの操作】【複数シートの操作】
- 9回目：表計算レッスン(4)【高度な関数】
- 10回目：表計算レッスン(5)【条件付き書式設定】【高度なグラフ作成】【ピボットテーブル】
- 11回目：表計算演習
- 12回目：プレゼンテーションレッスン(1)【プレゼンテーションの作成】【オブジェクトの挿入】【構成の変更】
- 13回目：プレゼンテーションレッスン(2)【動きの設定】【印刷】【別アプリのデータの利用】【スライド共通のデザイン設定】
- 14回目：プレゼンテーション演習
- 15回目：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

教育の情報化に関するレポート・・・10%, 文書作成演習・・・20%, 表計算演習・・・50%,
 プレゼンテーション演習・・・20%
 課題およびレポートの提出回数が全体の3分の2未満の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書の内容をよく読み、事前に練習をしておくこと。
 事後学習として、パソコン自習室や自宅のパソコンなどを用いて、授業で習った内容に沿って操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

コンピューターの基本的な操作(タイピングやマウス操作など)が円滑にできるようになっておくことと受講しやすい。「コンピューターリテラシー」を受講しておくこと、受講しやすい。
 この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、初回の授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実際にコンピューターを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に操作練習を行う姿勢が大切である。予習と復習を欠かさず行って欲しい。また、授業の進度や情報システムの状況によっては、「授業計画・内容」を変更することがある。その際には、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

教育の情報化, 文書作成ソフト, 表計算ソフト, プレゼンテーションソフト

都市と地域【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE002F	◎		○		○
科目名	都市と地域				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本や海外における都市や地域についての紹介や、それらを考察するための概念や枠組み、現状での課題や将来の展望などについて議論する。より幅広く俯瞰的な視点を持つことにより都市や地域を様々な形でまた複眼的に捉え、そこから社会に対する新しい視点が生まれることを促す。

都市と地域という概念の多様さを学びながら実際の事例を通して都市・地域の形状、規模、その成り立ちを考察する。また、その延長として都市・地域間の係わりを社会、経済、交通などの側面から分析する枠組みや手法を紹介する。

「都市と地域」の最終的な目的としては、都市と地域の概念の理解と個々人での定義の形成、それらを基にした柔軟な着想を習得することにある。

【到達目標】

「知識」都市と地域の概念を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 「思考・判断・表現力」都市と地域の概念を用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力身につけている。
 「自立的行動」都市と地域に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目はオンラインにて遠隔開講（オンデマンド方式）される予定である。Office365のStreamによる講義配信とMoodleによる課題実施が行われる。このため各自がこれらへの十分なアクセスを準備ないし確保する必要がある。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 共通 : クラス紹介および注意事項
- 2回 地域 1 : 地域概念：『地域』とは何か？
- 3回 地域 2 : 地域学と地域科学
- 4回 地域 3 : 地域開発とは
- 5回 地域 4 : 地域間という視点
- 6回 地域 5 : 地域を分析する
- 7回 地域 6 : 地域事例（LQによる分析）
- 8回 地域 7 : 地域最終クイズ
- 9回 都市 1 : 都市はなぜ存在するか？
- 10回 都市 2 : 都市の理論
- 11回 都市 3 : 都市の構造
- 12回 都市 4 : 都市の変遷・動態
- 13回 都市 5 : 都市を分析する
- 14回 都市 6 : 都市事例
- 15回 都市 7 : 都市最終クイズ

成績評価の方法 /Assessment Method

各週の課題（合計）... 40% 最終クイズ（2回合計）... 60%

地域最終クイズまたは都市最終クイズのいずれか一つでも回答の提出がない場合は最終成績が評価不能（-）となる。

都市と地域【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から「都市」や「地域」という言葉がどのように使われているかを注意深く観察・考察して授業に臨むこと。新聞やTVニュース、もしくはインターネットニュースサイトなどで使われている「都市」や「地域」という言葉の意味を吟味することを心がける。授業で紹介した様々な「都市」や「地域」の概念を授業後に自らの考えと照らし合わせて考察し、身近な事例に当てはめて次回の授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

本授業は毎週行われ講義形式で行われます。授業に毎回出席すること、予習・復習等の準備を行うこと、授業内討論への活発な参加を行うことなどに付け加え、毎週の(Moodleによる)課題への回答、および2回の最終クイズへの回答が必須。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

不正行為が発覚した場合は、当該項目だけでなくすべての点数(授業貢献を含む)が0点になる。

キーワード /Keywords

地域科学、地域学、都市構造、都市政策
SDGs 11. まちづくり

地域の社会と経済【昼】

担当者名 李 錦東 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN170F	◎		○		○
科目名	地域の社会と経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、北九州地域の社会的・経済的特性について様々な観点から学び、理解を深めることを通じて、地域の課題を発見し、何をすべきか、自ら考えることを目指しています。

本授業では、各トピックに関して現場での経験や造詣が深い方々をゲストとしてお招きし、皆さんの出身地が北九州であってもその他の地域であっても、学生生活を過ごす北九州地域への理解を深め、また、皆さんのキャリア形成等にとってもためになるお話を聞きます。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域の社会と経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の社会と経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域の社会と経済に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

■要注意！

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※講義の内容及び順番は、ゲストスピーカーの都合などにより変更しますので、あらかじめご理解ください。

第1回：イントロダクション

第2回：北九州の産業と40年周期説

第3回：統計からみる北九州の産業

第4回：地域の企業①【地元企業関係者等による説明】

第5回：地域の企業②【地元企業関係者等による説明】

第6回：地域の企業③【地元企業関係者等による説明】

第7回：地域の企業④【地元企業関係者等による説明】

第8回：地域の企業⑤【地元企業関係者等による説明】

第9回：地域の起業環境【NPO等の専門家による説明】

第10回：地域のコミュニティ【NPO等の専門家による説明】

第11回：地域の取り組み【市役所など行政関係者による説明】

第12回：地域の環境ビジネス【関連活動をしている関係者による説明】

第13回：地域社会を新しく考えるための思考【NPO等の専門家による説明】

第14回：北九州市の人口と未来

第15回：まとめ一住みたいまち 北九州 -

※地域の企業とは今後日程などの調整が必要です。ご参考までに、2021年度にご登壇していただいた企業(の方)は、次の通りです。①プレミアホテル門司港総支配人、②極東ファティ㈱代表取締役社長、③ヤフージャパン株式会社 エリアリーダー、④クラウン製パン株式会社総務部、⑤株式会社井筒屋、⑥シャボン玉石けん株式会社社長、などです。

地域の社会と経済【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

各回ごとのショートレポート(14回):100%

※ ショートレポートのが、授業や講演内容を反映していない・質問などの趣旨とは異なる・内容がチンプンカンプンでよくわからない(理解不能、未提出含む)などと評価された回数が、5回以上だと評価不能になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

北九州地域の社会や経済に関する情報は常にアップデートされ、メディアでも多く扱われています。

平素より地域の現状と変化などについてアンテナを張って、本授業の事前・事後に情報収集に努めましょう。

活字新聞、TV、インターネット等も有効に利用してください。

また、授業中に興味を持った事項については、皆さんのキャリア形成や知見を広めるなどのために、各自調べて理解を深めていきましょう。

履修上の注意 /Remarks

※※ 授業計画及び内容は、ゲストスピーカーの都合等により、トピックの順番・内容を変更しますので、予めご了承ください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんの大学時代の4年間を過ごす「北九州」ですが、本科目『(北九州)地域の社会と経済』を受講することで、北九州に対する理解はもちろん、北九州地域への関心や愛着、愛郷心をもてるようになります。また、皆さんの学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識や知恵、刺激などを得ることができるでしょう。ゲストスピーカーは、地域や産業の第一線で活躍活躍している方が多く、彼らの話を聞くことで、皆さんが地域の現状と課題とビジョンを理解し、地域に密着した人材として、地域での活躍ができる切っ掛けやステップを見つけることにつながります。私は、皆さんが大学を卒業した後、4年間過ごしたまちについて、愛着をもって語れる人になってほしいと思っています。

キーワード /Keywords

シビックプライド、地域愛着、グローカル化、地域活性化
SDGs8・働きがい・経済成長、SDGs11・まちづくり

地域の文化と歴史【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 講義
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS170F	◎		○		○
科目名	地域の文化と歴史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

受講者が学生時代を過ごす北九州・下関地域のあゆみ、及びその過程で生まれた地域における様々な文化に関して基本的な事項を学ぶ。そのことを通じ、自らが関わる地域への関心・愛着を深めるとともに、地域の特長や課題を分析・考察する基礎的な力を得ることを目指す。

授業においては、各トピックに関する北九州・下関地域の第一人者である専門実務家をゲストとしてお招きする回を中心とする。北九州・下関地域出身者のみならず、その他の地域の出身者にとっても、今後の学生生活や就職、社会活動の充実につながる学びを得ることができる内容で構成する。

なお、2022年度において本講義は遠隔（オンデマンド）授業での開講を予定している。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

（到達目標）

【知識】北九州・下関地域の文化と歴史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域の文化と歴史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域の文化と歴史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回： ガイダンス、本授業で対象とする「地域」とは
- 第 2 回： 《歴史》現在の地域
- 第 3 回： 《歴史》古代の地域
- 第 4 回： 《歴史》中世・近世の地域
- 第 5 回： 《歴史》幕末期の地域
- 第 6 回： 《歴史》明治以降の日本の近代化と地域
- 第 7 回： 《歴史》昭和期以降の地域
- 第 8 回： 《文化》北九州市の文化芸術政策の概要
- 第 9 回： 《文化》文芸活動等による地域への政策効果
- 第 10 回： 《文化》地域の漫画文化、ポップカルチャー
- 第 11 回： 《文化》地域の美術、現代アート（北九州市立美術館のコレクション）
- 第 12 回： 《文化》地域の映画文化
- 第 13 回： 《文化》地域の文化財
- 第 14 回： 《文化》地域の文学
- 第 15 回： 《文化》地域の芸術、音楽、演劇

※この授業における「地域」とは、基本的に「北九州・下関地域」を指す。

※ゲスト（各分野の専門実務家）の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

※参考： 2021年度のゲストの所属組織例（2022年度も概ね同様の予定だが、変更となる可能性がある）（順不同）

《北九州市立いのちのたび博物館、北九州市立美術館、北九州市漫画ミュージアム、北九州フィルム・コミッション、北九州芸術劇場、北九州市立文学館、北九州市文化企画課、下関市立歴史博物館、下関市教育委員会文化財保護課 など》

地域の文化と歴史【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（各回で課す課題への取り組み状況）： 100%

※課題はMoodleで提出することを基本とする。

※正当な理由なく8回以上課題を提出しない場合は、評価不能（-）とする。なお、これはあくまで「評価不能」とする基準であり、7回以下の課題不提出でも単位を取得できない場合はある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。

事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さんが学生時代を過ごす北九州・下関地域の文化や歴史を学ぶことで、皆さんのこれからの学習やキャリア形成、また教養を深める活動にとってプラスとなる知識を得ることができ、さらに、地域に対する関心が増して有意義な学生生活を送ることにつながる授業にしたい。

北九州市・下関市の博物館等の学芸員や文化行政担当者等が、オムニバス形式で各専門分野に関する北九州・下関地域の文化や歴史について解説し、地域への関心や愛着の醸成を図る。

キーワード /Keywords

北九州・下関地域（関門地域）、歴史、文化、文学、芸術

SDGs 4.質の高い教育を、SDGs 11.まちづくり、SDGs 16.平和と公正

実務経験のある教員による授業

地域のにぎわいづくり【昼】

担当者名 /Instructor 南 博 / MINAMI Hiroshi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE270F	◎		○		○
科目名	地域のにぎわいづくり				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

観光やイベントの振興等を通じ北九州・下関地域をにぎわい溢れる地域とするために必要な視点や方策について学ぶ。学生の主体的な学びを重視し、地域のにぎわいづくりに向けた現状と課題を理解し、自らの考えをまとめ、考察すること等を通じ、地域への理解を深め、にぎわいづくりに関する視野を広げることを目指す。

2022年度においては、行政および地域の各種団体等の協力のもと、主にスポーツ・文化芸術関連のイベントや取り組み、観光振興等に着目し、にぎわいづくりの実務に関わっておられるゲストの講話等を通じて、にぎわいづくりの意義や課題、今後求められる視点などについて学んでいく。

(実施方法について)

2022年度において本講義はメディア授業(遠隔授業)での開講を予定している。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

全15回の授業のうち、2ないし3回はリアルタイムのライブ方式(同時双方向型)での実施を予定し、残りの回はオンデマンド方式での実施を予定している。なお、ライブ方式の回においては、リアルタイムでの参加が難しい受講者向けに、授業を収録した動画をオンデマンド方式で配信し課題に取り組むことを可能とする。詳細については第1回授業で説明する。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりの可能性や意義を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域におけるにぎわいづくりについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域のにぎわいづくりに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

地域のにぎわいづくり 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 ガイダンス
- 第 2回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性① 【総論】
- 第 3回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性② 【事例研究】
 ※第3回はライブ方式(同時双方向型)を予定
- 第 4回 《スポーツ》スポーツとにぎわいづくりの関係性③ 【スタジアム・アリーナ整備】
- 第 5回 《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり① 【地域社会活性化】
- 第 6回 《スポーツ》プロスポーツとにぎわいづくり② 【地域経済活性化】
- 第 7回 《スポーツ》国際スポーツ大会の開催効果
- 第 8回 《文化芸術》文化芸術とにぎわいづくりの関係性
 ※第8回はライブ方式(同時双方向型)を予定
- 第 9回 《文化芸術》文化財を活かしたにぎわいづくり
- 第10回 《文化芸術》MICEによるにぎわいづくり
- 第11回 《観光等》観光振興によるにぎわいづくり
- 第12回 《観光等》港湾をいかしたにぎわいづくり
- 第13回 《観光等》商業振興によるにぎわいづくり
- 第14回 《観光等》食を活かしたにぎわいづくり
- 第15回 企業の視点からみたにぎわいづくり

※ゲスト(にぎわいづくりの実務家)の御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。
 ※ライブ方式(同時双方向型)の回を上記よりも1回増やして計3回とする可能性がある。第1回授業で説明する。なお、ライブ方式の回においては、リアルタイムでの参加が難しい受講者向けに、授業を収録した動画をオンデマンド方式で配信し課題に取り組むことを可能とする。

※参考：2021年度のゲストの所属組織の例(2022年度においては一部変更を行う)
 《北九州市役所(観光課、クルーズ・交流課、東アジア文化都市推進室、世界体操・新体操選手権推進室)、下関市教育委員会、特定非営利活動法人門司赤煉瓦倶楽部、株式会社ギラヴァンツ北九州、福岡北九州フェニックス株式会社、毎日新聞》

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(各回で課す課題への取り組み状況)：100%
 ※課題はMoodleで提出することを基本とする。

※正当な理由なく8回以上課題を提出しない場合は、評価不能(-)とする。なお、これはあくまで「評価不能」とする基準であり、7回以下の課題不提出でも単位を取得できない場合はある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回授業のテーマに関し、各自、事前に自分自身が知りたい内容を考えて授業に臨むこと。
 事後：各回で課す提出課題に取り組むこと。併せて、授業中に興味を持った事項について、各回授業後に各自が文献やインターネット情報等を用いて自主的に調べること。

履修上の注意 /Remarks

授業計画については、ゲストの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州を中心とする地域のにぎわいづくりに関し現実に即した視点や取り組み事例等を学ぶことで、学生の皆さんのこれからの多様な学習やキャリア形成にとってプラスとなる知識を得ることが出来る授業をめざす。

民間シンクタンクでまちづくりのコンサルタント実務経験のある教員が、地域活性化の視点からにぎわいづくりの重要性について論じるとともに、北九州市役所や企業・地域団体等でのにぎわいづくり関連事業に取り組んでおられる実務家をゲストとしてお招きし、学生の地域への関心の醸成や理解の深化等を図る。

キーワード /Keywords

観光、イベント、MICE、集客、スポーツをいかしたまちづくり

SDGs 11.まちづくり、SDGs 12.作る・使う責任

実務経験のある教員による授業

地域と国際【昼】

担当者名 /Instructor 吉村 英俊 / YOSHIMURA, Hidetoshi / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE003F	◎		○		○
科目名	地域と国際				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

企業は、人口の減少や市場の成熟により国内市場の成長が期待できない中、新たな市場を求めて海外展開を進めています。また労働力人口が減少し、さらに高齢者が増加する中、外国人労働者の受入れを余儀なくされています。さらに外国人観光客も、コロナで途絶えたものの、今後増加するものと思われます。

こういった状況にあつて、北九州地域の企業や公的機関（市役所など）が、国際化に向けて、どのような取り組みを行っているのか。

本講義では原則毎回、企業や公的機関で海外事業に携わっている担当者に、国際化の実状についてお話ししていただきます。

なお本講義は遠隔（オンデマンド）で行われます。学生は自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】国際化の実情と地域の取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】国際化の実情と地域の取り組みの諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】国際化の実情と地域の取り組みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

原則毎回、講義で使用します資料を、事前にMoodleにアップロードします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 公的機関の国際化の現状（例、北九州市の国際交流・多文化共生）
 - 第3回 公的機関の国際化の現状（例、北九州市の国際環境保全）
 - 第4回 公的機関の国際化の現状（例、北九州市の水ビジネス）
 - 第5回 公的機関の国際化の現状（例、国の国際貢献活動）
 - 第6回 公的機関の国際化の現状（例、国の企業の海外展開支援）
 - 第7回 企業の海外事業の現状（例、製造業）
 - 第8回 企業の海外事業の現状（例、サービス業）
 - 第9回 企業の海外事業の現状（例、金融業）
 - 第10回 企業の海外事業の現状（例、建設業）
 - 第11回 本学における取組み事例①（例、カンボジア：人材育成）
 - 第12回 本学における取組み事例②（例、ベトナム：中小企業振興）
 - 第13回 国際化が進展する中で、いかに生きるか①
 - 第14回 国際化が進展する中で、いかに生きるか②
 - 第15回 まとめ
- ※講師（ゲストスピーカー）の都合により、授業の内容や順番に変更があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

原則、毎回レポートを課します：100%
（期末テストは行いません）
（レポートの提出回数が、3回以下の場合は、評価不能（-）とします）

地域と国際【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞や雑誌、インターネットなどを通じて、国際情勢にかかわる情報の収集に努めて下さい。
北九州地域の企業や公的機関の国際化の実状を理解し説明ができるようにして下さい。さらにこれらの実状に対して、自身の考えを述べる
ことができるようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

授業をつうじて、学生生活の過ごし方や、将来のあるべき姿・生き方を考えて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

海外にかかわっている企業や公的機関の方が、独自の取組み内容を”熱く”語ります。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 加藤 尊秋 / Takaaki KATO / 環境生命工学科 (19~), 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~)
 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室, 城戸 将江 / Masae KIDO / 建築デザイン学科 (19~)
 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SSS001F	◎		○		○

科目名	地域防災への招待	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	----------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。
 地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。
 ささまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標
 地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
 地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目は、教室とメディア授業の組み合わせで行います。
 北方、ないし、ひびきのの教室で対面授業を行い、これをTeamsで同時配信します。また、録画をMoodleに掲載します。学生は、教室、Teamsによるライブ配信、録画のいずれかで授業に参加してください。
 また、参加が必須となる北九州市防災公開講座（対面形式の予定）が授業に組み込まれています。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版
 金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう
 片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 北九州市防災公開講座への参加（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加：20%

レポートおよび小テスト（計6～10回）：80%

成績評価の対象としない場合（北方キャンパス所属者のみ）：レポートないし小テストを6回以上未提出・欠席の場合 ※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

5月の土曜日1回（午後2コマ）について、北九州市が市内の会場で行う防災講座を組み込む。

このため、受講人数制限がある。

防災講座の会場（小倉駅周辺を予定）への往復の交通費や昼食代は、学生の負担となる。

講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業

SDGsに関連するゴール（3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策）

地域防災への招待【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SSS001F	◎		○		○
科目名	地域防災への招待				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、防災の基礎知識及び自治体の防災体制・対策等を学ぶことを通じ、学生自身の防災リテラシーと地域での活動能力を向上させることを目的とする。

地震や風水害などの代表的な災害のメカニズム、自然災害に対する北九州市の防災体制・対策について、本学および北九州市役所を中心とする専門家が全15回にわたって講義し、防災の基礎、自治体の防災、市民・地域主体の防災の3つの知識を身につける。北方・ひびきのの学生同士、また、学生と講師が協力しながら地域防災のあり方を考える。

さまざまな分野を担当する北九州市役所の職員が講師として参画するため、防災を軸としつつ地方自治体の業務の実際を幅広く知るためにも役立つ。

到達目標

地域防災を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

地域防災の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

地域防災に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本科目は、教室とメディア授業の組み合わせで行います。

北方、ないし、ひびきのの教室で対面授業を行い、これをTeamsで同時配信します。また、録画をMoodleに掲載します。学生は、教室、Teamsによるライブ配信、録画のいずれかで授業に参加してください。

また、参加が必須となる北九州市防災公開講座（対面形式の予定）が授業に組み込まれています。

教科書 /Textbooks

なし、授業で必要に応じて資料を配付

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

京都大学防災研究所編(2011)：自然災害と防災の事典、丸善出版

金吉晴(2006)：心的トラウマの理解とケア、第2版、じほう

片田敏孝(2012)：人が死なない防災、集英社新書

地域防災への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス：災害についての考え方（北九大：加藤）
- 2 組織連携のための課題と訓練（北九大：加藤）
- 3 気象と地震（北九州市危機管理室）
- 4 防災と河川：降雨を安全に流すために（北九州市建設局）
- 5 大災害と消防：最前線で戦う消防をとりまく環境と現状（北九州市消防局）
- 6 学校における防災教育：災害時に主体的に行動する力を育む取組み（北九州市教育委員会）
- 7 災害時のこころのケア（北九州市保健福祉局）
- 8 都市防災：建物の耐震性とは何か（北九大：城戸）
- 9 ジェンダーと防災：地域での実践（北九大：二宮）
- 10 産官学連携による消防技術の革新（北九大：上江洲）
- 11 大学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：村江）
- 12 北九州市の防災体制と減災への取組み（北九州市危機管理室）
- 13 学生にもできる防災・災害ボランティア活動（北九大：担当教員一同）
- 14-15 北九州市防災公開講座への参加（外部講師）

北九大講師の回は、オンライン（オンデマンド）講義を予定（教室は使わない）

市派遣講師の回は、北方・ひびきの各キャンパスの教室での実施を予定（来学不能な学生にはTeamsでライブ配信）

14-15回は、北九州市主催の大学生向け防災講座の一環として、通常の講義とは別に、土曜日にオンラインライブ配信を予定（5月中を予定）

成績評価の方法 /Assessment Method

活発な授業参加：20%

レポートおよび小テスト（計6～10回）：80%

成績評価の対象としない場合（北方キャンパス所属者のみ）：レポートないし小テストを6回以上未提出・欠席の場合 ※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に関連する社会的・技術的事項について予習をしておくこと。授業の後は、学んだ内容の活かし方について考察を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

5月の土曜日1回（午後2コマ）について、北九州市が市内の会場で行う防災講座を組み込む。

このため、受講人数制限がある。

防災講座の会場（小倉駅周辺を予定）への往復の交通費や昼食代は、学生の負担となる。

講義時に復習や次回の講義に向けた予習として読むべき資料を提示するので、各自学習を行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は、授業終了後も地域防災について各自が取り組めることを続けて欲しい。そのための学習や活動の機会を北九州市役所と連携して継続的に提供する。

キーワード /Keywords

地域防災、危機管理、大学生の役割、実務経験のある教員による授業

SDGsに関連するゴール（3.健康と福祉を、5.ジェンダー平等、6.水とトイレを、13.気候変動対策）

北九州市の都市政策【昼】

担当者名 /Instructor 内田 晃 / AKIRA UCHIDA / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLC270F	◎		○		○
科目名	北九州市の都市政策		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

北九州市の都市政策について、都市づくり、港湾、産業、保健福祉、環境など分野ごとの政策、及び個別プロジェクトに至るまで包括的に学ぶことで、地域への愛着を深めるとともに、地域の課題を考察するきっかけをつかむことを目指す。

本授業においては、各テーマに関して精通している北九州市役所の担当者等をゲストスピーカーとしてお招きし、北九州市出身者のみならず、市外出身者の双方にとって学びとなるお話をさせていただく。

※2022年度はすべてメディア授業（オンデマンド方式）で実施します。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

- 【知識】北九州市の都市政策全般を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】北九州市の都市政策の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】都市政策に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、文献や資料を紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス / 北九州市の都市政策の歴史【五市合併、ルネッサンス構想、「元気発進！北九州」プラン】
- 第2回 北九州市の都市計画【都市計画マスタープラン、立地適正化計画】
- 第3回 北九州市の都市交通政策【環境首都総合交通戦略、モビリティマネジメント】
- 第4回 北九州市の空き家対策、空き家活用【空き家、住宅セーフティネット】
- 第5回 公共施設マネジメント【公共施設管理、公共施設集約化】
- 第6回 市民に親しまれる道づくり【バリアフリー、国家戦略特区を活用した賑わいづくり】
- 第7回 北九州市の港湾政策【響灘コンテナターミナル、北九州空港、インバウンド】
- 第8回 北九州市のコミュニティ施策【まちづくり協議会、自治会、市民センター】
- 第9回 門司区のまちづくり【区政、門司港レトロ、観光】
- 第10回 地元就職【就職支援、UIターン】
- 第11回 公害克服と環境協力・環境学習【公害克服、環境国際協力、環境ビジネス、ESD、環境首都検定】
- 第12回 環境保全の幅広い取組み【公害防止法令、環境監視、PCB処理、リスクマネジメント、生物多様性】
- 第13回 ごみの適正処理と資源循環【ごみ分別と有料化、資源循環、北九州エコタウン事業、環境未来助成】
- 第14回 地球温暖化と環境エネルギー対策【地球環境問題、京都議定書、再生可能エネルギー】
- 第15回 まとめ / 期末レポートの説明

※ゲストスピーカーは主に行政施策を担当している北九州市役所の担当部局職員の方を想定しています。なお、ゲストスピーカーの御都合等により、テーマや順番が変更となる可能性があります。

北九州市の都市政策 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% 毎回の授業レポート・・・30% 期末レポート・・・50%

- ・ 欠席（毎回レポートの不提出を欠席とみなします）が5回以上の場合は、評価不能（-）とします。
- ・ 期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の資料を事前にMoodleにUPするので予習をすること。（必要な学習時間の目安は60分）
授業内容の復習を行うこと。（必要な学習時間の目安は60分）

講義で習得する都市政策に関する知見や情報は、皆さんが普段から居住、通学している市街地に常に存在しています。普段から都市政策やまちづくりの事を意識しながら、まちを観察してみてください。講義中に興味を持った事は、事後に各自調べて理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

毎回授業に出席することが大前提です。出席せずにレポートだけ提出しても評価できません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市のこれまでの都市づくり、これからの都市づくりを理解する上で、大変参考となる話を聞くことができます。本講義を受けることで、北九州市への愛着が増し、将来的に北九州市に定住する意向を強めてくれることを期待します。

北九州市の都市政策に従事する市職員が、各担当の施策について解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

まなびと企業研究I【昼】

担当者名 /Instructor 小林 敏樹 / Toshiki Kobayashi / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR270F	◎		○		○
科目名	まなびと企業研究 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

北九州・下関地域の企業、団体について現状、課題、展望を認識し、考察することで理解を深めることがねらいです。特に本講義では、地域づくり、まちづくり、都市づくり、地域貢献といった分野についての事業や取り組みに焦点を当てます。本講義で取り上げる業界、分野の視点としては、「経済・産業」、「福祉」、「交通」、「都市計画」、「地域経済」、「まちづくり」、「文化・芸術」、「金融」などを取り上げます。身近な地域企業や地域人材について学ぶことを通じ、働くことの価値、キャリア、幅広い視点から社会動向や自らの将来のビジョンを考える契機になることを期待します。なお、この科目は「主に北九州市や下関市の企業団体を視野に入れた就職活動のプランニング」を目的とした「まなびと企業研究II」（3年次）の準備講座としての役割も果たしています。

(到達目標)

【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・北九州市立大学地域戦略研究所・キャリアセンター(2019)「学生による学生のための北九州・下関地域 業界MAP」
<https://manabitopia.jp/pdf/businessmap.pdf> から入手可
- 大室悦賀(2016)「サステイナブル・カンパニー入門: ビジネスと社会的課題をつなぐ企業・地域」学芸出版社
- 饗庭伸ほか(2016)「まちづくりの仕事ガイドブック: まちの未来をつくる63の働き方」学芸出版社
- 日本都市計画学会関西支部(2011)「いま、都市をつくる仕事: 未来を拓くもうひとつの関わり方」学芸出版社
- 山崎亮(2015)「ふるさとを元気にする仕事」筑摩書房
- 山崎亮ほか(2014)「ハードワーク! グッドライフ! 新しい働き方に挑戦するための6つの対話」学芸出版社
- ・北九州・下関まなびとぴあホームページ (<https://manabitopia.jp/>)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2～15回 企業・団体等によるプレゼンテーション、質疑、議論(グループワーク)、レポート記述
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 各回の講義で出題されるレポート(全14回)・・・90%
- 質疑応答、議論・・・10%
- レポートを7回以上提出しない場合は、評価不能(-)とします。

まなびと企業研究I【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の講義前に、その企業、団体についてホームページ等で調べ、全体像を把握しておく。
毎回の講義後に、その企業、団体についてさらに調べてみる。また、関連する企業や団体についても調べてみる。さらに、講義内で知った取り組み、事業内容を各自が担当してさらに展開すると想定した場合、こういった展開の可能性、方向性があるか検討してみる。

履修上の注意 /Remarks

講義時の途中入室、途中退室は原則禁止とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一般的な企業説明会ではなかなか聞くことができない、業界や企業、団体の地域創生、地域（社会）貢献、まちづくりなどについての事業や取り組みについて重点的に学ぶことができる貴重な機会です。

キーワード /Keywords

企業研究、就職、まちづくり、都市づくり、地域創生、地方創生、地域貢献、社会貢献、CSR、SDGs、地域づくり、地域活性化、関門地域、地域志向

SDGs : Goal11(住み続けられるまちづくりを)

まなびと企業研究II【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 3年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義・演習
クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR370F	◎		○		○
科目名	まなびと企業研究II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

<目的> 北九州市や下関市および周辺の企業団体を題材にしながら、代表的なキャリアに関する理論やモデルを学び、大学時代の活動を、今後の就職活動を具体的にプランすることが目的です。

2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。みんなと一緒に合同企業説明会に行き進路を選ぶ時代は終わり、自分で進路を見出し、手繰り寄せる時代にすでに変わりました。

そして新型コロナウイルスの流行により、時代の変化は加速しました。コロナ禍における企業倒産は、資金繰り対策や持続化給付金、雇用調整助成金、特別定額給付金などの緊急政策によって抑制できたものの、対人接触業務が前提である「コロナ対人4業種」（宿泊業、飲食サービス業、生活関連サービス業、娯楽業）においては、コロナ感染拡大時に採られた「接触7～8割削減」政策は「対人3割経済」となり、売上現状は止まらず、債務が膨大しています。なお「コロナ対人4業種」は地産地消型なので、地域内の他業種への影響も大きく、地域内の小売り・卸売りに携わる中小企業への影響も否定できません。その突破口となるのが、感染拡大予防に加え国民の福祉を向上させ、かつ新たな機会を生み出す「攻めと守りを両立」させた、暮らしや社会のデジタル化（DX）です。DXによって適切な情報提供・支援提供により安心して便利に暮らせる生活を維持（守り）しながら、同時にDXによってピンチをチャンスと捉え新しいビジネスを創造（攻め）することが、ニューノーマル時代のビジネスの基本路線と言えるでしょう。同時に企業団体は、DXを提案できる力はもちろん、人間にしかできない質の高いコミュニケーションスキルや、答えのない課題に果敢に挑戦するマインド、そしてAIには思いつかない創造性を持つ大学生が求められ、逆にDXを提案する力を持たず、低いコミュニケーション能力や指示されたことしかできない低いマインド、本やネットに載っていることを真似ることしかできない大学生は、社会のどこからも求められないでしょう。

では今、何をすべきでしょうか。それは、本学が持つ北九州や下関地域の企業団体のネットワークを活用しつつ、様々な企業団体について可能な限りアクセスし、自らのキャリアの方向性を明確に掴むことです。本授業では、履修者一人一人のキャリア支援のために作られました。様々なキャリア形成の理論を用いて「自分を知る」、そして本学のネットワークを駆使して「相手（企業団体）を知る」、さらに夏のインターンシップなどに向けてどうすればいいのかが「キャリアプランを創る」ことを目標とします。

<進め方> 形式は問題基盤型学習（Problem-based-Learning）です。
【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。
【最終課題】北九州市や下関市などの企業団体の一つを選び、取材し、取材したからこそ理解したことを、最終授業でプレゼンします。

<目標> 自分を知る（自己分析）、相手を知る（企業団体研究）、就職活動のプランを創る。
（到達目標）【知識】北九州・下関地域における企業の動向を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。【思考・判断・表現力】北九州・下関地域における企業の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。【自立的行動力】地域企業に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。資料を随時配布します。

まなびと企業研究II【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 課題を解く時の参考にしてください。
- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- キャロルS.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- 松尾睦『「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- J.D.克蘭ボルツ・A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスクヴァー・トウエンティワン
- 大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
- 安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- 宇田川元一『他者と働く 「わかりあえなさ」から始める組織論』NewsPicksパブリッシング
- 見館好隆『「いっしょに働きたくなる人」の育て方-マクドナルド、スターバックス、コールドストーンの人材研究』プレジデント社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス
- 2回 振り返りの仕方
- 3回 マインドセット
- 4回 計画された偶発性
- 5回 企業団体研究事例①DX
- 6回 インターンシップ対策(経験学習)
- 7回 グリット(やり抜く力)
- 8回 企業団体研究事例②グリット
- 9回 問いを立てる力
- 10回 デザイン思考
- 11回 企業団体研究事例③VUCA
- 12回 GD対策(アイデアの作り方)
- 13回 自己分析(アイデンティティ資本)
- 14回 面接対策(インプロビゼーション)
- 15回 最終プレゼンテーション(企業団体研究成果発表会)

成績評価の方法 /Assessment Method

通常授業のプレゼンテーション...39%
最終プレゼンテーション...28%
振り返りレポート...28%
最終レポート...5%
なお、採点対象のプレゼンを行わなかった場合や、レポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【通常授業】あらかじめ課題を提示しますので、課題から学びと、その学びを就職活動にどう活かすかについて発表してください。
【最終課題】フィールドワーク先のアポイントメントを取り、取材し、グループメンバーとの議論を重ねて、発表の準備をしてください。なお、アポイントメントについては教員がフォローアップしますので、安心してください。

履修上の注意 /Remarks

3年生の場合は、就職活動のブラッシュアップとお考え下さい。4年生の場合は、就職活動中であればそのまま活用できる内容です。すでに内定をお持ちの場合は、残る大学時代をどう過ごすかについて考える機会にしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、就職活動や進学など将来のキャリアについての悩みを払拭し、見通しを立て、自信をもって就職活動などに挑めるように支援します。奮ってご参加ください。また、結果的に北九州市や下関市以外の企業を志望しても問題ありません。

※人事経験を持ち、北九州市や下関市および近郊の企業団体に人脈を持つ教員が、それらの企業団体への訪問を軸とした問題基盤型学習をコーディネート

キーワード /Keywords

キャリア、成長、アイデンティティ、キャリア発達、キャリア形成、キャリアデザイン、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、問題基盤型学習、経験学習
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

環境特講A (SDGsの可能性) 【昼】

担当者名 /Instructor
 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター, 藤田 俊 / 基盤教育センター
 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
 廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター, 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター
 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター, 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター
 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター, 中岡 深雪 / Miyuki NAKAOKA / 基盤教育センターひびきの分室
 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」	
SPL102F	◎		○		○	
科目名	環境特講A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			

授業の概要 /Course Description

SDGs (Sustainable Development Goals) は「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包括性のある社会の実現のため、2015年の国連サミットで採択された、2030年までの17の国際目標 (ゴール) である。北九州市はSDGsに関して先進都市であり、本学においてもSDGs推進に積極的に取り組んでいる。SDGsの背景には環境のみならず、社会や経済などの複雑で幅広い分野が含まれるが、そのための基礎となる「教養」を身につけることは、SDGsを先頭に立って実践していくために欠くことのできない第一歩となるだろう。本講義は多彩な専門分野を持つ基盤教育センター教員によるオムニバス講義であり、さまざまな学問分野のそれぞれの扉でもある。本講義をきっかけに、SDGsに向けて、多角的な視点を養い、諸問題に向き合う力を身につけることを目的とする。

到達目標：

- 【知識】 設定されたテーマを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔 (オンデマンド) 授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で (または大学のPC自習室にイヤホンを持参して) 授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。各回で資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

担当者が必要に応じ紹介する。

環境特講A (SDGsの可能性) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

SDGs基礎

1. ガイダンス・SDGsと大学(中尾)【環境】【社会】【経済】
2. SDGsへの取り組み(真鍋)【人材育成】【教育】【企業経営】
3. 北九州の歴史とSDGs(藤田)【軍都】【鉄鋼】
4. SDGsの考え方(永末)【観点】【視点】

SDGsゴール別

5. SDG1: 貧困をなくそう(稲月)【社会的孤立】【伴走型支援】【生活構造】
6. SDG3: すべての人に健康と福祉を(日高)【感染症】【医薬品】【健康寿命】
7. SDG4: 質の高い教育をみんなに(浅羽・廣渡)【教育の情報化】
8. SDG5: ジェンダー平等を実現しよう(高木)【ジェンダー】【LGBT】【セックス】
9. SDG8: 働きがいも経済成長も(中岡)【ワークライフバランス】【非正規雇用】
10. SDG10: 人や国の不平等をなくそう(神原)【経済格差】【人権】【人身取引】
11. SDG13: 気候変動に具体的な対策を(村江)【災害】【防災】
12. SDG14: 海の豊かさをまもろう(廣川)【漁業権】【コモンス】【地域資源】
13. SDG16: 平和と公正をすべての人に(戸蔭)【平和の概念】
14. SDG17: パートナリシップで目標を達成しよう(伊野)【障がい】【共生】

まとめ

15. まとめ(日高)

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
- ・ 積極的な授業への取り組み(感想・ディスカッション等) 20%
- ・ まとめレポート 10%

上記の提出が全くない場合は、評価不能(一)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 各回の授業ごとの【 】内のキーワードを元に、適宜情報収集を行うこと
- 授業後はミニレポート・確認テストにより、授業内容の復習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG1, SDG3, SDG4, SDG5, SDG8, SDG10, SDG13, SDG14, SDG16, SDG17

環境特講B (現代社会とエシカル消費) 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL202F	◎		○		○
科目名	環境特講B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むことによって、人、モノ、カネ、情報の流れが加速化し、感覚的に私たちは地球を小さく感じるようになった。また、相互依存が深化したことで、今や遠い土地の出来事を他人事として済ますことはできなくなっている。私たちの豊かな暮らしは誰かの犠牲の上に成り立っているのではないか、そのような不正義は許されるのかという意識、すなわち「グローバルな倫理」が問われる時代になっている。

本講義では、第1部で「衣」、第2部で「食」、第3部で「住」に関わる諸問題を取り上げる。各回ではDVDの鑑賞も通して、どんな事態が進行しているのかを学ぶとともに、クラスでのディスカッションによって、どういった倫理的生活ができるのかを模索する。

この講義を通して、受講生が日々の暮らしを見つめ直し、先進国の大量生産・大量消費活動の裏側でどのような事態が進行しているのかを考え、倫理的な生活を考える契機にしてみたい。

【到達目標】

DP1「知識」設定されたテーマを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
DP3「思考・判断・表現力」設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
DP5「自立的行動力」設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示しますが、次に挙げる文献はとても参考になります。
末吉里花『はじめてのエシカル』山川出版社、2016年。
末吉里花『エシカル革命』山川出版社、2021年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション (講義の目的、進め方、文献案内など)、 「エシカル消費」とは何か？
 < 第1部【衣】 >
 第2回 『ザ・トゥルー・コスト』 (DVD) 前半の鑑賞
 第3回 『ザ・トゥルー・コスト』 (DVD) 後半の鑑賞、論点整理
 第4回 ディスカッション (ファストファッション、エシカルファッション)
 第5回 綿花栽培と農薬
 < 第2部【食】 >
 第6回 『種子—みんなのもの？ それとも企業の所有物？』 (DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
 第7回 『甘いバナナの苦い真実』 (DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
 第8回 『Food Inc.』 (DVD) 前半の鑑賞
 第9回 『Food Inc.』 (DVD) 後半の鑑賞、アニマル・ウェルフェア、論点整理、ディスカッション
 第10回 有機農業に関する外部講師講演会
 第11回 『0円キッチン』 (DVD) の観賞
 < 第3部【住】 >
 第12回 『プラスチックごみ—日本のリサイクルの幻想』 (DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
 第13回 『スマホの真実』 (DVD) の鑑賞、論点整理、ディスカッション
 第14回 『もっと！フェアトレード』 (DVD) の鑑賞
 第15回 まとめ+全体ディスカッション「～エシカルライフに向けて～」

※外部講師による講演会を予定しています。日程は講師の都合により前後する可能性があります。

環境特講B (現代社会とエシカル消費) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

3回のレポート (75%)、授業への貢献度 (25%)、Formsを使って毎回出席を取ります。5回以上の欠席で「一」 (評価不能) となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、各回のキーワードについてウェブサイトなどで調べておいてください。事後学習としては、各々が終了するたびにレポートを課しますので、必ず振り返りをしてください。

履修上の注意 /Remarks

数多くのDVDを視聴し、理解を深めます。その際、ディスカッションを行いますので、他人と議論するのを恐れずに、積極的に参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

課外活動として、小倉南区合馬での有機農業体験を実施する可能性があります。参加は任意で、成績評価には影響しません。

キーワード /Keywords

フェアトレード、エシカル

「SDGs 1. 貧困をなくそう」「SDGs 3. 健康と福祉を」「SDGs 5. ジェンダーと平等」「SDGs 10. 不平等をなくす」

「SDGs 12. 作る・使う責任」「SDGs 14. 海洋保全」「SDGs 15. 環境保全」「SDGs 16. 平和と公正」

「SDGs 17. パートナーシップ」

環境都市としての北九州【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
石川 敬之 / 地域共生教育センター, 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室
松永 裕己 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」	
ENV001F	◎		○		○	
科目名	環境都市としての北九州		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			

授業の概要 /Course Description

環境問題の全体像を把握し、持続可能な社会作りに向けた行動の重要性を理解する。そのために、学内の専門分野の異なる教員、学外からは行政・企業・NPO等の実務担当者を講師として迎え、オムニバス形式で様々な視点（自然・経済・市民）から環境問題とそれに対する取り組みについて学習する。北九州市はかつてばい煙に苦しむ街であったが、公害を克服した歴史を踏まえ、現在は環境モデル都市として世界をリードしている。北九州市の実施する「環境首都検定」の受検を通して、市のさまざまなプロジェクトや環境についての一般知識を広く学ぼうか、環境関連施設（環境ミュージアムなど）見学により、その体験を講義での学習につなげる。

到達目標

- 【知識】北九州市の環境問題に対する取り組みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】北九州市の環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】北九州市の環境問題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔授業（オンデマンド）です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。一部、ライブで収録する回もありますが、録画したものを後から視聴し、課題に取り組むことができます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

北九州市環境首都検定公式テキスト 1000円（税込み）
http://www.city.kitakyushu.lg.jp/kurashi/menu01_0438.html

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス（日高）
- 2回 持続可能な社会をめざして～ESD～（外部講師）
- 3回 北九州の自然と環境（基盤教育センター・村江）
- 4回 北九州における環境政策（外部講師）
- 5回 環境問題とエネルギー政策（外部講師）
- 6回 環境問題と市民の関わり（外部講師）
- 7回 環境ビジネスとエコタウン事業（大学院マネジメント研究科・松永）
- 8回 施設見学（環境ミュージアム）
- 9回 北九州の環境経済（経済学部・牛房）
- 10回 環境問題とNPO①（都市交通、外部講師）
- 11回 環境問題とNPO②（フードバンク、外部講師）
- 12回 環境問題と企業の取り組み（外部講師）
- 13回 特別講義（外部講師）
- 14回 環境問題と学生の取り組み（地域共生教育センター・石川）
- 15回 まとめ

環境都市としての北九州【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

環境首都検定の成績・・・20%
授業ごとの課題への取り組み(確認テスト・ミニレポート等)・・・70%
期末レポート・・・10%
課題・レポートの提出が全くない場合は評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：北九州市環境首都検定公式テキストに関連する箇所を学習しておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodleで提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

施設見学(環境ミュージアム等)は原則として必須とする。
・ 見学は授業期間中、レポート提出に間に合うよう、各自で行うこと。
・ 環境首都検定は12月11日(日)の予定。

*スケジュールは変更の可能性もある。第1回目ガイダンス時に確認すること。
*見学にかかる交通費は自己負担とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は副専攻「環境ESD」と深く関連しています。この講義をきっかけに副専攻にもトライしてみませんか。
<https://www.kitakyu-u.ac.jp/kankyo-esd>

キーワード /Keywords

環境、ESD、SDGs、北九州市

SDGsとの関連について

7. エネルギーをみんなに 12. つくる責任つかう責任 13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

生命と環境 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- 【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1回 ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高) | 【ウイルス】 |
| 7回 生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 8回 生物の多様性(4)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 9回 生物の多様性(5)多様な生命(日高) | 【生物多様性】 |
| 10回 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 11回 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 12回 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 13回 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 14回 科学的な方法とは(3)人類の起源(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 15回 質疑応答とまとめ(日高) | |

生命と環境 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み（質問・ディスカッション等） 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎		○		○
科目名	環境問題概論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑥山の管理（治水・利水）、そして⑩経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第9回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第10回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第11回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第13回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第14回 復習
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する課題：20%

小レポート試験：20%

最終試験：60%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能（-）とします。
- ・ 最終試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

環境問題概論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

環境問題概論 【昼】

担当者名
/Instructor

廣川 祐司 / Yuji HIROKAWA / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100F	◎		○		○
科目名	環境問題概論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

農林水産業の第一次産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」について、基礎的な知識を充足することを目的とする。望ましい人間と自然、または自然を介した人と人との関係性について、環境問題に対する総合的な理解を促すことが狙いである。

また、農林水産業の視点から、生物多様性、地域内物質循環、自然資源の管理等、「なぜ環境問題が生じるのか？」についての知識を生かし、SDGs（持続可能な開発目標）に関するテーマとして、③食の問題、④捕鯨問題、⑤・⑥山の管理（治水・利水）、そして⑩経済優先の消費活動に関すること等をテーマに、持続可能な社会となるための考え方を模索する授業である。

（到達目標）

【知識】人間と自然の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】人間と自然の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】人間と自然の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション -環境問題を見る視点について-
- 第2回 資源の在り方を問う
- 第3回 日本の捕鯨の行方
- 第4回 日本人の自然観
- 第5回 環境と経済の関係性
- 第6回 山を管理するとは？
- 第7回 環境問題の原因と焼畑農業
- 第8回 レポート試験の実施（※レポート試験は日程が前後する可能性があります）
- 第9回 里山の開発① -なぜ里山の宅地開発問題が生じるのか？-
- 第10回 里山の開発② -映画監督 高畑勲氏からのメッセージ-
- 第11回 里山の開発③ -動物視点で見る真の共生の形-
- 第12回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ① -農業の多面的機能-
- 第13回 「農業」と SATOYAMAイニシアティブ② -「共生」社会の在り方-
- 第14回 復習
- 第15回 総括 -おわりに-

成績評価の方法 /Assessment Method

不定期に何回か実施する課題：20%

小レポート試験：20%

最終試験：60%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能（-）とします。
- ・ 最終試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

環境問題概論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本授業は、最終試験での成績評価をするウエイトが高くなっている。そのため、各自で毎回の授業後に最終試験に向けた復習をすることが求められる。また、授業で使用するスライド資料は、学習支援フォルダに掲載しているため、事前の予習も試みてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境問題の中でも本授業は都市環境問題や地球温暖化等の問題ではなく、自然環境に特化した授業となる。
特に専門的な知識は必要ないが、中学生レベルの生物および、安易な生態学（食物連鎖等）的な基礎的な知識に対する言及や説明を行うことを想定し、履修していただきたい。

キーワード /Keywords

SDGs3.「健康と福祉」、SDGs 6.「安全な水とトイレ」、SDGs12.「作る責任使う責任」、SDGs14.「海の豊かさ」、SDGs15.「森の豊かさ」に強い関連がある、

未来を創る環境技術 【昼】

担当者名 /Instructor 上江洲 一也 / Kazuya UEZU / 環境生命工学科 (19~), 永原 正章 / Masaaki NAGAHARA / 環境技術研究所
 松本 亨 / Toru MATSUMOTO / 環境技術研究所, 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科
 金本 恭三 / Kyoza KANAMOTO / 環境技術研究所, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
 白石 靖幸 / Yasuyuki SHIRAIISHI / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV003F	◎		○		○

科目名	未来を創る環境技術	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	-----------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

環境問題は、人間が英知を結集して解決すべき課題である。環境問題の解決と持続可能な社会の構築を目指して、環境技術はどのような役割を果たし、どのように進展しているのか、今どのような環境技術が注目されているのか、実践例を交えて分かりやすく講義する（授業は原則として毎回担当が変わるオムニバス形式）。

具体的には、北九州市のエネルギー政策、特に洋上風力発電に関する取り組みと連動して、本学の特色のある「環境・エネルギー」研究の拠点化を推進するための活動を、様々な学問分野の視点で紹介する。

授業の到達目標は、以下の通りです。

豊かな「知識」：

環境問題や環境技術を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

次代を切り開く「思考・判断・表現力」：

環境問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

社会で生きる「自立的行動力」：

環境問題に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。オンラインでのグループワークを行うので、スマートフォンではなく、パソコンを利用することがのぞましい。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。適宜、資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：ガイダンス、社会における環境技術の役割
- 第2回：未来を創る空調技術【建築学からのアプローチ】
- 第3回：都市の環境とエネルギー【環境工学からのアプローチ】
- 第4回：未来を創る経済学【経済学からのアプローチ】
- 第5回：人工知能と超スマート社会【情報学からのアプローチ】
- 第6回：未来を創る植物学【生物学からのアプローチ】
- 第7回：未来を予知する保全技術【機械工学からのアプローチ】
- 第8回：北九州市の温暖化対策について【官】
- 第9回：2050年カーボンニュートラル実現に向けてのグリーン成長戦略【官】
- 第10回：再生可能エネルギーの産業【産】
- 第11回：日本における風力発電【産】
- 第12回：洋上風力発電の産業【産】
- 第13回：地域活性化につながる洋上風力発電事業開発のあり方【学】
- 第14回：エネルギーを“つくる”と“つかう”【学】
- 第15回：再生可能エネルギーのメンテナンスとリスクマネジメント【学】

未来を創る環境技術 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業参加 30%
レポート70%

5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。※北方生のみ、ひびきの除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については担当教員の指示に従うこと。また、新聞・雑誌等の環境技術に関連した記事にできるだけ目を通すようにすること。期末課題に備えるためにも、授業で紹介された技術や研究が、社会・地域・生活などの身の回りの環境問題解決にどのようにつながり、活かされているか、授業後に確認すること。

履修上の注意 /Remarks

必要事項は、moodleに掲載するので、定期的に確認すること。また、都合により、授業のスケジュールを変更することがある。オンラインでのグループワークも行うので、積極的にディスカッションに参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

北九州市における環境エネルギー政策、特に、次世代産業『洋上風力発電』について、現状と将来像を理解できます。皆さんのキャリアプランにもつながると思います。文系学生にもわかりやすい授業内容ですので、「ひびきの」および「北方」両キャンパスの多くの学生の受講を期待しています。

環境技術について、外部講師を招き、実践例を交えて学ぶ。

キーワード /Keywords

持続可能型社会、エネルギー循環、機械システム、建築デザイン、環境生命工学、超スマート社会、Society 5.0、人工知能、自動制御、エネルギー経済、環境経済、実務経験のある教員による授業
「SDGs 7. エネルギーをクリーンに、SDGs 9. 産業・技術革命、SDGs 13. 気候変動対策」

動物のみかた 【昼】

担当者名 /Instructor 到津の森公園、文学部 竹川大介

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ZOL001F	◎		○		○
科目名	動物のみかた		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

動物園とそのかかわる事項等を検証し、環境や教育など様々な問題を考える。

動物園は教育機関としてのみならず、情感に影響を与える施設として様々な広がりを持っている。
動物園の本来の姿を追求し、どうすれば地域の施設として欠くべからざる施設となりうるのかを検証する。

(到達目標)

【知識】

人間と動物の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

人間と動物の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】

人間と動物の関係性における課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストなし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『戦う動物園』島泰三編 小菅正夫・岩野俊郎共著

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 動物園学概論1 (動物園の歴史)
- 2回 動物園学概論2 (人と公園の歴史)
- 3回 キーパーの仕事1 (動物の飼育と歴史)
- 4回 キーパーの仕事2 (動物園のみかた)
- 5回 キーパーの仕事3 (動物の接し方と飼育員のもう一つの小さな役割)
- 6回 キーパーの仕事4 (どうぶつと人間のくらい)
- 7回 キーパーの仕事5 (動物園とデザイン)
- 8回 キーパーの仕事6 (動物園の植栽)
- 9回・10回 校外実習(到津の森公園)
- 11回 獣医の仕事1 (どうぶつの病気)
- 12回 獣医の仕事2 (どうぶつたちとくらし)
- 13回 動物園学まとめ1 (動物園を振り返る)
- 14回 動物園学まとめ2 (新しい動物園とは)
- 15回 まとめ(外部講師講演)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート... 80% 平常の学習状況... 20%
・レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め動物園関連の参考書籍をよんでおき、授業終了後にはその日の講義内容をまとめておくこと。

動物のみかた 【昼】

履修上の注意 /Remarks

講義では実際の動物園施設の見学もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

動物のことだけではなく、動物を知ることによって人間のことも考えてみましょう。
自然のことや地球のことも考えてみましょう

動物園の園長・獣医・飼育員らがオムニバス形式で、動物園のあり方、人と動物の関係性について講義をする。

キーワード /Keywords

動物園、実務経験のある教員による授業

自然学のまなざし【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科, 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV002F	◎		○		○
科目名	自然学のまなざし		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

街に住んでいると、海や森を懐かしく思う。殺風景な自分の部屋にもどるたびに、緑を置きたくなくなったり、せめて小さな生き物がそこにいてくれたらなあ、なんて考える。

西洋の学問の伝統では、ながらく文化と自然を切り離して考えてきた。文系・理系と人間の頭を2つに分けてしまう発想は、未だに続くそのなごりだ。でもそれでは解らないことがある。だれだって「あたま(文化)」と「からだ(自然)」がそろって初めてひとりの人間になれるように、文化と自然は人間の内においても外においても、それぞれが融合し合い調和し合いながら世界を作り上げている。

野で遊ぶことが好きで、旅に心がワクワクする人ならば、だれでも「自然学のまなざし」の講義をつうじて、たくさんの智慧を学ぶことができるだろう。教室の中でじっとしていることだけが勉強ではない。海や森に出かけよう、そんな小さなきっかけをつくるための講義です。教室の中の講義だけではなく、講義中に紹介するさまざまな活動に参加してほしい。大学生活を変え、自分の生き方を考えるための入り口となればと願っています。

(達成目標) 双方向的な学びを楽しんで下さい。

【知識】

自然の営みを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】

自然の営みについての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】

自然の営みに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『風の谷のナウシカ』 1-7宮崎 駿 徳間書店
- 『イルカとナマコと海人たち』 NHKブックス
- 「自然学の展開」「自然学の提唱」今西錦司
- 「自然学の未来」黒田末寿

自然学のまなざし【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 竹川
- 第1講 自然学で学ぶこと
- 第2講 今西錦司という人がいた
- 第3講 バックミンスターフラーという人がいた
- 第4講 人類の進化と狩猟採集生活
- 第5講 自然学における日常実践
- 第6講 カボチャ島の自然学【食と資源】
- 第7講 風の谷のナウシカの自然学【闘争と共存】
- 第8講 自然学の視点の重要性
- 岩松
- 第9講 近世の旅にみる自然の名所性
- 第10講 古民家に求める日本の故郷
- 第11講 山村の伝統的景観と村落社会
- 第12講 森林風景の認識と森林文化論
- 第13講 自然を言語化する曖昧さ
- 第14講 木の文化の伝統と変容
- 第15講 9～14講のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- (竹川)
- 講義で紹介するさまざまな活動に参加する . . . 15%
 - 講義で紹介するさまざまな本を読み考える . . . 15%
 - 講義の内容を元に人間の生き方について小論を書く . . . 20%
- (岩松)
- 小レポート...25% 試験...25%
- ・すべてのレポート(小論もふくむ)を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半の講義では、専用のウェブサイトを設置し、講義の補足や双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこないます。インタラクティブな学びを楽しんで下さい。

履修上の注意 /Remarks

学ぶことはまねること。さまざまな活動に参加するなかで、ソーシャルスキルは伸びていきます。
講義は教室の中だけでは終わりません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人の暮らしと自然の関わりに興味がある人。好奇心が旺盛な人、受講してください。
大学のもっとも大学らしい、自由で驚きのある講義を心がけています。
そして教えられるのでも覚えるのでもなく、自分から学ぶことを重視します。
講義では、行動すること、考えること、楽しむことを一番に心がけて下さい。

キーワード /Keywords

人類学
環境学
フィールドワーク

生命科学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0200F	◎		○		○
科目名	生命科学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約37兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- 【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔（オンデマンド）授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------|---------------------|
| 1回 | ガイダンス | |
| 2回 | 体を作る物質(1)細胞の構成成分 | 【多糖・脂質・タンパク質・核酸】 |
| 3回 | 体を作る物質(2)食物分子と代謝 | 【酵素】【触媒】 |
| 4回 | 体を作る物質(3)遺伝物質DNA | 【二重らせん】 |
| 5回 | 体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ | 【RNA】【セントラルドグマ】 |
| 6回 | 体を作るしくみ(2)遺伝子でできること | 【ゲノム】【体質】【遺伝病】 |
| 7回 | 体を作るしくみ(3)発生と分化 | 【転写因子】【クローン】【iPS細胞】 |
| 8回 | 細胞の社会(1)そのとき染色体は | 【細胞周期】【染色体異常】 |
| 9回 | 細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション | 【受容体】【シグナル分子】 |
| 10回 | 細胞の社会(3)社会の反逆者・がん | 【がん遺伝子】 |
| 11回 | 関連ビデオ鑑賞 | |
| 12回 | 体を守るしくみ(1)寿命と老化 | 【早老症】【テロメア】 |
| 13回 | 体を守るしくみ(2)免疫とウイルス | 【ウイルス】【抗体】 |
| 14回 | 体を守るしくみ(3)私たちと微生物 | 【腸内細菌】 |
| 15回 | 質疑応答・まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(一)です。

生命科学入門 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
3. すべての人に健康と福祉を

環境ESD入門 【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV102F	◎		○		○
科目名	環境ESD入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現在、地球上の至るところで自然環境が悪化しています。大気汚染、海洋汚染、森林破壊、異常気象、生物多様性の危機など、様々な問題が生じ、我々の生活環境にも影響を与えています。豊かな自然環境を守り、責任をもって次世代に継承していくためには、私たち一人ひとりが自発的に環境保全のための行動をとることが重要になります。本講義では、いま地球上で起こっている環境問題を知り、持続可能な社会の実現に向けて私たちがすべきことを考えていきます。

到達目標

- 【知識】 ESDの諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 ESDの諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 ESDに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

授業内で適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：環境ESDについて
- 第2回 北九州市と環境ESD
- 第3回 路上ゴミについて考える -日本人は果たしてきれい好きなのか-
- 第4回 海洋プラスチックゴミ問題について
- 第5回 経済活動とゴミ問題
- 第6回 ゴミ問題とリサイクル
- 第7回 環境に配慮した生活とは
- 第8回 地球の環境問題と私たちにできること
- 第9回 エネルギー問題から環境を考える
- 第10回 食から考える環境問題
- 第11回 環境問題と国際協力
- 第12回 環境問題とジェンダー問題
- 第13回 環境問題と持続可能な地域開発
- 第14回 北九州市のSDGsとESDの取り組み
- 第15回 まとめ・副専攻環境ESDプログラムの紹介

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業において課すレポートにて評価します（100%）
レポートとしての体裁を成していない場合、また内容や分量に著しい不備がある場合は評価不能（-）とします。

環境ESD入門【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から環境問題に対する関心を持ち、意識して様々な情報に触れるようにしてください。それが大きな事前学習になります。各回の講義テーマに関しては事前に紹介しますので、書籍やインターネットなどで予備知識を得ておいてください(事前学習)。また受講後は、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってください(自習時間の目安は60分程度)。

履修上の注意 /Remarks

本講義では、各回の講義ごとで小レポートの作成と提出を求めています。
講義全体を通じては、相当なボリュームになりますが、しっかり取り組んで頂きたいと思います。
また、対面で実施された場合は、講義内でのディスカッション、および質疑応答に積極的に参加できるように、事前・事後学習を実施しておくことを期待します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

環境ESDに関する入門的な講義となります。
本講義を履修したうえで、さらなる発展的な学びとして「副専攻環境ESDプログラム」を受講することを薦めます。

キーワード /Keywords

環境、持続可能性、国際理解、生物多様性

SDGsとの関連について

5. ジェンダー平等 6. 水とトイレを 7. エネルギーをクリーンに 12. 作る・使う責任 13. 気候変動対策 14. 海洋保全 15. 環境保全

世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
 /Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL103F	◎		○		○
科目名	世界（地球）特講A		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

2001年の911以降の国際社会を考える上で、テロリズム問題を避けて通ることはできません。しかし、テロは以前から歴然と脅威の対象であり続けました。特にわが国は、日本赤軍やオウム真理教など、これまでのテロの「進化」に「貢献」してきたテロの先進国でもあるので、もっとテロリズム全般の知識があってもよいのかなと考えます。この授業は、テロリズムの体系的な理解を得ることを目的とします。

コロナ対応で、動画配信となります。動画は、各回編集カット作業してBGMやテロップ付きのyouTube仕様を心がけます。

到達目標

- 【知識】テロリズムを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】テロリズムについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】テロリズムに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。レジュメを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※昨年度に配信した動画タイトルは以下の通りです。部分的に作り替えたり、組み替えたりする場合があります。授業回数は15回で、1回45～60分程度の視聴時間になります。各回の内容は変更する可能性があります。

- ガイダンス / 問題の所在（テロから何を学び取るのか）
- 自由の戦士としてのテロリスト像 / ルクソール事件
- 犯罪としてのテロ / テロに政治目的は必要か。 / テロの定義はたくさんある！
- 911の衝撃 / テロによる社会的動揺 / 対人テロ / 対物テロ
- テロリストとは誰か、残された課題
- 行動によるプロパガンダ（アナキズム） / 近代日本とテロ
- 政治的脅迫としてのテロ（アイルランドのナショナリズム）
- ナショナリズムとテロ（サライェヴォ事件とスラブ主義） / 民族解放（シオニズムとイスラエル建国）
- 爆弾テロという手法
- 国際テロの誕生（パレスチナ人の闘争）
- 学生運動の過激化と日本赤軍（ロッド空港事件）
- 劇場型テロ（ミュンヘン・オリンピック事件）
- 現代テロとテロ対策
- 動機が多様化（右翼・保守テロ、オクラホマシティ連邦ビル爆破テロ）
- 動機が多様化（環境テロ、ユナボマー）

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に1度、小テストを実施する。最終的に、小テストの合計点数から成績を評価する。

小テスト（6回）100%、ただし、小テストの回数は若干前後する可能性がある。

※「評価不能（-）」は、小テストを一回も受験していない場合、もしくは、総合得点が0点の場合である。

世界（地球）特講A（テロリズム論）【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容についてのフィードバックは、WEB掲示板を用意しますので、不明な点は書き込んでください。メールでも質問受付ます。

事後学習ですが、頻繁に小テストがあるので、何回でもいいので動画を視聴してください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

説明が主体になる講義については、教室での授業や生配信よりも、録画された動画の方が学習効果が高いと考えています。皆様の期待を裏切らないように、可能な限り、魅力的な動画を配信していくつもりです。

キーワード /Keywords

世界（地球）特講B（ジェンダー平等（SDG5）の課題解決型学習）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界（地球）科目

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科, 三宅 博之 / MIYAKE HIROYUKI / 北方キャンパス 非常勤講師
横山 麻季子 / Makiko, YOKOYAMA / 政策科学科, 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 集中 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL203F	◎		○		○
科目名	世界（地球）特講B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

SDG5（ジェンダー平等）を実現する方法を、課題解決型学習（PBL）を通じて受講者が主体となって策定する場を提供する授業です。実現可能な方策を協働して考究する過程を経て、理念および実践において革新的なアイデアが生み出されることが期待されます。授業はコミュニケーションの様々な手法を取り入れて学生のアクティブラーニングを促しながら進めます。また授業内の成果は社会に還元できる成果物として残すことを目指します。加えて、実践を積んだ受講者がワークショップや授業実践を通じて他の学生に成果を還元する仕組みの構築を試み、成果のより広範な波及を図ります。

ジェンダー平等は、2030年までの達成を目指す国際目標、持続可能な開発目標（SDGs）の目標5に掲げられています。SDGsの他の目標を達成するためにも、SDG5の達成は急務です。達成に向けた国際社会の取り組みについても理解を深めていく予定です。本授業を通じて、身近な事柄からグローバルな事柄まで、様々なレベルで問題意識を共有しながら、一緒に原因や解決方法について考えましょう。

教科書 /Textbooks

授業内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○図書館本館3F（SDGsのコーナー）、特にSDG5のコーナーを参照

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第3回 SDG5、ジェンダーおよびジェンダー平等概念の導入、哲学対話を通じたブレインストーミング・意見交換・問題提起、読書課題の提示

- 第1回： ガイダンス、授業計画の説明
- 第2回： ジェンダー平等とは何か
- 第3回： 哲学対話を通じたブレインストーミング

第4回～第6回 学内・国内外のジェンダー平等に関わる現状把握

- 第4回： 行政組織（国内外）におけるポジティブ・アクション
- 第5回： ワークショップ：ロジックモデルをつくってみよう（1）
- 第6回： ワークショップ：ロジックモデルをつくってみよう（2）

第7回～第9回 模擬国連の枠組みによる国際施策の検討

- 第7回： 国連女性の地位委員会（CSW）について、リサーチ開始
- 第8回： 施策案意見交換、二者間交渉、多数者間交渉
- 第9回： 国際施策ワークショップ

第10回～12回 海外の学生との意見交換と成果物作成

- 第10回： 海外の学生との意見交換
- 第11回： ワークショップ：アクティビティシートの作成（1）
- 第12回： ワークショップ：アクティビティシートの作成（2）

第13回～第15回 グループディスカッション、成果物の披露

- 第13回： 成果発表（1）
- 第14回： 成果発表（2）
- 第15回： まとめ

世界（地球）特講B（ジェンダー平等（SDG5）の課題解決型学習）【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界（地球）科目

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内の貢献度 50%、 プロジェクト達成度 50%
※授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め各回に扱う内容について準備・学習すること。
また授業終了後には授業の内容を反復し、課題等に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

本授業に関連する科目としては、「ジェンダー論」（担当：高木駿先生）があります。
本授業活動の一部にはオンラインによる協働活動が含まれる予定です。遠隔参加の方々とオンラインでつなぎ、本授業受講者は対面で活動する形をとる予定です。受講に際してマイクやカメラといった特別なツールを受講者自身が準備する必要はありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では受講者同士の学び合いと学びの連鎖を重視します。主体的に活動や議論に参加してください。
SDGs達成のターゲット年は2030年です。その頃には本授業の受講者の多くが社会の中核を担う世代になっていると思われます。受講者には、当事者としての意識を持ち、主体的にSDG5達成という課題に取り組むことが期待されます。本授業活動が、受講者のキャリア形成に、また長期的には国内外のジェンダー平等実現の加速に寄与するものとなることを願います。

キーワード /Keywords

持続可能な開発目標（SDGs）、SDG5：ジェンダー平等、課題解決型学習（PBL）、対話、コミュニケーション、アクティブラーニング、クリティカルシンキング、ポジティブ・アクション、模擬国連、国連女性の地位委員会（CSW）、グローバル人材、グローバル人材

韓国の社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 金 慶湖 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE010F	◎		○		○
科目名	韓国の社会と文化		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

授業では、適宜映像などを用いながら韓国全般、とりわけ韓国の社会と文化における様々な事象や、歴史を含めた日韓関係のあり方を考えるための幅広い教養的学知を習得し、等身大の韓国について理解を深める。これをベースに異文化理解とは何かについて考えてみる。また、つねに日韓比較的な視点を念頭に入れながら自国文化についても見つけなおす時間としたい。

並行して事前事後学習の一環として、日韓の歴史についても学習を深める。

(到達目標)

【知識】 韓国の社会と文化に関する基本的な知識を習得している。

【思考・判断・表現力】 文化の多様性や理解を深め、適切な思考・判断力・表現力を習得している。

【自立的行動力】 設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特に無し。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業にて提示

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 韓国のいろは①【韓国の基本的な知識を知る】
- 3 韓国のいろは②【国を象徴するものを中心に】
- 4 韓国の文字・ハングルの仕組みについて
- 5 韓国人の名字と名前①【苗字について】
- 6 韓国人の名字と名前②【名前について】
- 7 現代韓国社会と文化の特徴I (外部講師)
- 8 ドラマで「植民地時代」を追体験する
- 9 韓国(人)にとって日本(人)とは?
- 10 日本(人)にとって韓国(人)とは?
- 11 韓国における日本大衆文化の受容政策
- 12 グローバル化するK-POP
- 13 現代韓国社会と文化の特徴II (外部講師)
- 14 歴代大統領でみる韓国の社会と文化
- 15 韓国の宗教&詩人・尹東柱

* 上記スケジュール及びテーマはあくまで目安であり、受講生のニーズや進行状況などの都合により変更となる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の視聴レポート 40%
毎回のコメントカード 30%
その他、小レポートなど 30%

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日韓関係にかかわる歴史や問題点などについて学習できる資料と映像を適宜、提示し、課題を課す。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

韓国 社会 文化 歴史 異文化理解 日韓関係

国際学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL110F	◎		○		○
科目名	国際学入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際社会を理解するに当たっては、大きく2本の柱が必要となる。すなわち、①グローバル化のすすむ国際社会へ対応する形での研究（国際関係論、国際機構論、国際地域機構論、国際経済論、国際社会論など）と②世界の多様化に対応するための研究（地域研究、比較文化論、比較政治論など）である。本講義では、後者「地域研究」の問題意識、手法を中心に、現代国際社会理解に当たって、その有用性を考えてみる。

（到達目標）

【知識】現代の国際社会で生起する様々な問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断力・表現力】現代の国際社会で生起する諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】現代の国際社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準等の説明。
- 第2回：現代の国際社会、現代国際社会理解の方法。【国際問題の変容】【グローバル化】【多様化】
- 第3回：「地域研究」の問題意識、【地域研究のルーツ】
- 第4回：地域研究における総合的認識とは【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像把握とは【全体像の把握】
- 第6回：全体像把握の方法【全体像把握の方法】
- 第7回：オリエンタリズム関連DVDの視聴【オリエンタリズム】
- 第8回：オリエンタリズム克服の方法【オリエンタリズムの克服方法】
- 第9回：「地域研究」における文化主義的アプローチ【文化主義的アプローチ】
- 第10回：「地域」概念、中間的まとめ。【地域概念】
- 第11回：「地域研究」の技法。【フィールドワーク】
- 第12回：「関わり」の問題【ジョージ・オーウェルとミャンマー】
- 第13回：地域研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第14回：まとめ
- 第15回：質問

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。

レポートを提出した受講者に対してはS～D評価。未提出者に対しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「16. 平和と公正」

安全保障論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理します。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 安全保障と外交
- 自衛隊の海外派遣
- 安全保障の非軍事的な側面
- 日米同盟と自衛隊
- 自衛隊の任務
- 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 海上警備行動
- 企画動画
- 安全保障流の地図の読み方
- スクランブル
- 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- イージス・アショアと代替

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(6回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

※「評価不能(-)」は、小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、動画のコメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

現代の国際情勢【昼】

担当者名 /Instructor 篠崎 香織 / 国際関係学科, 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科
大平 剛 / 国際関係学科, ロドルフォ デルガド / Rodolfo Delgado / 英米学科
下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科, 白石 麻保 / 中国学科
久木 尚志 / 国際関係学科, 柳 学洙 / 国際関係学科
阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科, 政所 大輔 / Daisuke MADOKORO / 国際関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL003F	◎		○		○
科目名	現代の国際情勢				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

現代の国際情勢を、政治、経済、社会、文化などから多面的に読み解きます。近年、国際関係および地域研究の分野で注目されている出来事や言説を紹介しながら講義を進めます。

到達目標

- 【知識】現代の国際情勢を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】現代の国際情勢について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】現代の国際情勢に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義はメディア授業です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じてレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回（篠崎）オリエンテーション
- 第2回（北）日系アメリカ人の歴史と今日（1）概況と歴史【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第3回（北）日系アメリカ人の歴史と今日（2）現代のエスニシティ状況への視座【アメリカ合衆国】【日系人】【エスニシティ】
- 第4回（阿部）米中の技術覇権争いと日本経済【貿易摩擦】【DX革命】【知的財産権】
- 第5回（政所）国際連合の活動と日本【集団安全保障】【国連中心主義】【多国間外交】
- 第6回（政所）国内紛争と国連平和活動【「新しい戦争」】【平和維持活動】【平和構築】
- 第7回（久木）2010年代以降のイギリス（1）【政権交代】【国民投票】
- 第8回（久木）2010年代以降のイギリス（2）【EU離脱】
- 第9回（篠崎）世界文化遺産ベナン島ジョージタウンを歩こう【マレーシア】【マラッカ海峡】【華人】【イスラム教】【ヒンドゥー教】
- 第10回（大平）東南・南アジアにおける安全保障と開発【一帯一路】【Quad】【債務の罠】
- 第11回（デルガド）Becoming an International Citizen in Japan: Carlos Ghosn success story and experience. 【International, Citizen, Japan】
（※英語での講義です）
- 第12回（白石）中進国としての中国経済【経済成長】【SNA】【投資】
- 第13回（柳）朝鮮半島の冷戦体制と南北分断【朝鮮戦争】【体制競争】【民族主義】
- 第14回（柳）北朝鮮の核開発と北東アジアの安全保障【冷戦体制】【駐留米軍】【対話と圧力】
- 第15回（下野）台湾の多元化社会【民主化】【中国】【移民】

※都合により変更もあり得ます。変更がある場合は授業で指示します。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト（各担当者ごとに最低1回は行います。最少9回、最大14回）100%
小テストを1度も受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の担当者の指示に従ってください。授業終了後には復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

この授業は、複数の教員が、各自の専門と関心から国際関係や地域の情勢を論じるオムニバス授業です。授業テーマと担当者については初回授業で紹介します。

小テストを実施する際は、授業の最後に行います。授業中は集中して聞き、質問があればその回のうちに出してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では今の国際情勢を様々な角度から取り上げていきます。授業を通じて自分の視野を広げていききっかけにしてください。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連

第4回（阿部）9. 産業・技術革命

第5回、第6回（政所）16. 平和と公正

第7回（久木）3. 健康と福祉を

第8回（久木）10. 不平等をなくす

第9回（篠崎）11. まちづくり

第11回（デルガド）9. Innovation and Infrastructure（産業・技術革命）

第12回（白石）17. グローバル・パートナーシップ

第15回（下野）5. ジェンダー平等、10. 不平等をなくす、16. 平和と公正

国際社会と日本【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL004F	◎		○		○
科目名	国際社会と日本				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

[到達目標]

【知識】国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

この講義はメディア授業です。毎週、決められた時間にMoodleから受講してください。教科書の他、必要な資料をMoodleにアップすることがあります。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【テラント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

- レポート 50% テスト 50%
- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
 - ・ レポートと試験のどちらか一方でも、受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

グローバル化する経済【昼】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN001F	◎		○		○
科目名	グローバル化する経済				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題に取り組むことが求められます。

（到達目標）

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション－グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地（1）【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地（2）【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【金融市場】【外国人投資家】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 比較文化心理学（1）【文化と認知】
- 11回 比較文化心理学（2）【文化と感情】
- 12回 国際労働移動（1）【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動（2）【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とする。

グローバル化する経済【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 8. 働きがい・経済成長

近代史入門【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS110F	◎		○		○
科目名	近代史入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業では、第一次世界大戦から太平洋戦争終結までの日本近代史を講義します。授業を通して、学校教育や日常生活の中で学んできた「史実」の根拠となっている史料や諸研究に触れ、「史実」の実態をより深く理解すると共に、「史実」を相対化して歴史を多角的に捉える力の修得を目指します。その上で、近代日本の歴史が、現代の政治・外交・軍事・社会・文化・メディア等のあり方にいかなる影響を与えているのかを考え、各履修生が歴史を身近なものとして捉えられるようにします。

・本授業の到達目標

- 「知識」
→日本の近代史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 「思考・判断・表現力」
→日本の近代史について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 「自立的行動力」
→日本の近代史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジュメ・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史・「史実」・歴史学
- 第2回 第一次世界大戦ー「新しい戦争」の衝撃と影響
- 第3回 白虹事件と関東大震災ー「中立」化する言論、台頭する「世論」
- 第4回 政治の大衆化ー二大政党制と劇場型政治
- 第5回 軍事の大衆化ー戦争にまつわる文化、娯楽、記憶
- 第6回 北伐と革命外交ー1920年代の日中関係
- 第7回 ロンドン海軍軍縮会議ー「統帥権干犯」をめぐる政治とメディア
- 第8回 満洲事変ー「生命線」としての満蒙権益と「熱狂」の創出
- 第9回 政党内閣の崩壊ー「協力内閣」運動と五・一五事件
- 第10回 昭和陸軍と二・二六事件
- 第11回 日中戦争の諸相ー謀略と和平工作
- 第12回 第二次欧州大戦と日本
- 第13回 新体制運動
- 第14回 日米開戦への道
- 第15回 太平洋戦争の終結と「聖断」

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%
なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジュメ等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通して下さい。

近代史入門【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Japanese Culture and Society 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE221F	◎		○		○
科目名	Japanese Culture and Society				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識：日本の文化と社会を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

思考・判断・表現力：日本の文化と社会についての考え方をういて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

自立的行動力：日本の文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

The objective of this course is to cover and discuss various aspects of Japanese society and culture from the past till present. Topics will include subjects ranging from traditional customs to pop culture and the influence of different religions. One specific goal will be to analyze the way Japan has been influenced by outside cultural influences throughout its long history. Another aspect of this course will be to see Japan from the perspective of non-Japanese students in order to help international students adapt to their new surroundings as well as encourage Japanese students to realize their own cultural identity.

教科書 /Textbooks

Hood, Christopher P. Japan: The Basics, Routledge 2015 ISBN: 978-0-415-62971-3 (pbk) 2657円 or 978-1-315-74568-6 (ebk) 2398円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ellington, Lucien. Japan: A Global Studies Handbook (ebk)

Other printed materials will be supplied by instructor.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction and Orientation
- 2回 Studying about Japan
- 3回 Demographic challenges
- 4回 Japan on the move
- 5回 Natural Japan
- 6回 Student Led Discussion & Presentations I: Demographic challenges
- 7回 Student Led Discussion & Presentations II: Japan on the move
- 8回 Student Led Discussion & Presentations III: Natural Japan
- 9回 Japanese Core Values
- 10回 Pure Japanese
- 11回 One for all, all for one/ Re)building Japan
- 12回 Student Led Discussion & Presentations IV: Core Values
- 13回 Student Led Discussion & Presentations V: Pure Japanese
- 14回 Student Led Discussion & Presentations VI: One for all, all for one /
- 15回 Student Led Discussion & Presentations VII: Re)building Japan and submission of final paper

成績評価の方法 /Assessment Method

Presentation and Participation -50%

Final Paper -50%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(－)とします。

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade.

試験を受験しない場合は、評価不能(－)とします。

Failure to take an exam will result in a failing grade (-).

レポートを提出しなかった場合は、評価不能(－)となります。また、盗用が発覚した場合は、不合格となります。

Failure to submit a report will result in a failing grade (-). Any incidence of plagiarism will also result in a failing grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to participate actively in discussion and make presentations on materials presented in this course. Students should read assigned materials before class.

履修上の注意 /Remarks

All coursework will be done in English.
A TOEIC Score of 650 or higher before registration is highly recommended

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

English Speaking Cultures and Societies 【昼】

担当者名 /Instructor ローズマリー・リーダー / Rosemary Reader / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE231F	◎		○		○
科目名	English Speaking Cultures and Societies				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
 知識：英語圏の文化と社会を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
 思考・判断・表現力：英語圏の文化と社会についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
 自立的行動力：英語圏の文化と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

This class aims to provide an overview of the English speaking cultures and societies that exist, and provide a springboard for students to research the topics that interest them in particular in greater detail. This covers historical aspects such as British mythology as well as British expansion spreading English all over the globe, a variety of conflicts that have shaped some of the communities in different ways, and religious beliefs that underpin some cultural attitudes. We will also look at topics such as food, sport, and entertainment as well as exploring some well known festivals.

教科書 /Textbooks

None

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Suggestions to be made when necessary in class

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction
- 第2回 Legends and Lore
- 第3回 Three Chords and the Truth
- 第4回 Protest and Politics
- 第5回 Ghost Stories
- 第6回 Empire to Empire
- 第7回 The Clearances and the Troubles
- 第8回 Masters of War
- 第9回 Fusion Culture
- 第10回 Blood † Body
- 第11回 Silly Point
- 第12回 Food
- 第13回 Christmas
- 第14回 A Barrel of Laughs
- 第15回 POP!

成績評価の方法 /Assessment Method

Research-based projects 70%
Contributions 30%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Instructions to be given in class. Try to pay attention to English media and news, and keep up-to-date with topics that may intersect with those we cover in class to help deepen your understanding of relevant issues.

履修上の注意 /Remarks

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(－)とします。

English Speaking Cultures and Societies 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
世界（地球）科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代社会と文化【昼】

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2年 / 単位 /Credits 2単位 / 学期 /Semester 1学期 / 授業形態 /Class Format 講義 / クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT210F	◎		○		○
科目名	現代社会と文化				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

グローバルな現代世界において、異なる文化同士の共生が必要とされている。しかし、どの文化とも共生が可能になる万能のマニュアルのようなものは存在しない。ケースに応じて対応する能力が必要であり、本講義では、現代社会が抱える文化に関する問題を取り上げながら、判断のための基礎知識を身につけることを目的とする。

講義の前半は、「文化を知る」という行為そのものが持つ政治的意味について講義を行う。後半は、私たちが異なる文化を持つ人々とも認識を共有していると考えがちな身体に関する文化についての講義を行う。外国の文化については解説を無批判にうのみにしてしまいがちであるが、文化を理解することについての前提が正しいか常に問い返すことができるような総合的な知識の獲得をめざす。

(到達目標)

【知識】現代社会と文化の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】現代社会と文化の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】現代社会と文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。ただし、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。また、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書を用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 池田光穂・奥野克巳編 2007『医療人類学のレッスン』学陽書房
- 太田好信編 2012『政治的アイデンティティの人類学』
- 陳天璽 2005『無国籍』新潮社
- 本多俊和ほか 2011『グローバル化の人類学』放送大学教育振興会
- 塩原良和 2010『変革する多文化主義へ』法政大学出版局

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

現代社会と文化【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：授業の説明 / 本講義において文化とは何を意味するのか

第I部 現代社会において異文化を理解すること

第2回 文化とその認識

第3回 ナショナリズムと文化

第4回 「未開の人々」へのエキゾチズム

第5回 植民地主義と文化

第6回 マイノリティ文化の保護と多文化主義

第7回 多文化主義の可能性と限界

第8回 国籍・人種などの分類の不明瞭さ

第9回 移動する人々と世界

第10回 中間テスト

第II部 文化の違いを超えて？

第11回 近代・ポスト近代という時代の認識と文化

第12回 身体の近代化

第13回 医療の持つ権力と文化

第14回 癒しの多様性

第15回 中間テストの解説と授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

中間テストおよびそのほか課題 40%、期末テスト 60%

※課題の提出など、加点の対象となる活動が全くない場合は評価不能（－）です。

※受講人数、感染状況によってはテストがレポートになる可能性があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ この授業は中間テストほか学期中にさまざまな課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『人の移動事典』『社会学事典』など（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 高校レベルの世界史、地理、現代社会などに自信がない学生は、背景となる事象を知らないままにせず、調べておきましょう。高校の教科書は図書館にあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 評価方法や電子ブックの閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- ・ 講義で自分が学んだことを用いて、現代の文化に関する問題を自分なりに理解しようとするのが重要です。意欲的な学生の受講を歓迎します。
- ・ 「異文化理解の基礎」を受講済み・受講中の学生は理解が深まると思います。

キーワード /Keywords

文化、ナショナリズム、植民地主義、グローバリゼーション、近代、身体、SDGs10 不平等をなくす、SDGs 16 平和と公正

可能性としての歴史【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS200F	◎		○		○
科目名	可能性としての歴史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業では、本来はタブーとされる「歴史のif」に注目し、近代日本の政策決定に参画した政治家・官僚・軍人等の行動とその背景や動機に迫り、歴史とは別の選択肢が存在したのか、存在していたとすれば、異なる選択をした日本はいかなる道を行っていたのかについて考えていきます。講義の中で「あり得たかもしれない歴史」を考察することを通して、予測困難で不透明な未来を考える思考力の涵養を目指します。

- ・ 本授業の到達目標
- 「知識」
→ 歴史的過去の可能性を理解するための基盤となる 知識を総合的に身につけている。
- 「思考・判断・表現力」
→ 歴史的過去の可能性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 「自立的行動力」
→ 歴史的過去の可能性を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジюме・画像・映像等を使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 歴史学とは何か
- 第2回 歴史学にとっての「もしも・・・」
- 第3回 この国のかたち—近代日本の国家構想
- 第4回 国民—「日本人」の形成
- 第5回 言語—「共通語」の創成
- 第6回 国土—変動する「国境」
- 第7回 首都—東京以外の選択肢
- 第8回 学校—戦前期日本の教育と「学歴」
- 第9回 軍隊—徴兵制と通過儀礼、兵営と地域社会、前線と統後
- 第10回 日中関係—和平の可能性
- 第11回 日米開戦— the Point of No Return はどこだったのか
- 第12回 原爆投下—マンハッタン計画、軍都小倉、本土決戦
- 第13回 敗戦と占領—異世界型「戦後日本」
- 第14回 天皇制—「象徴」の起源
- 第15回 まとめ—「可能性」としての歴史

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験70%、日常の授業への取り組み30%
なお、学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後は、レジюме等の配布資料や各自が作成したノートを読み返し、授業中に紹介した参考文献にも目を通しておいて下さい。

可能性としての歴史【昼】

履修上の注意 /Remarks

第1回授業において、授業の進め方や受講する上での注意事項について説明しますので、受講希望者は必ず出席して下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / DANSAKO, Masahiko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - ア /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への取り組み(課題・レポートを含む) ... 100%
ただし、情報リテラシー(情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ)の必須課題に合格しなければならない。なお、課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能(-)です。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - イ /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への取り組み（課題・レポートを含む）… 100%
ただし、情報リテラシー（情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ）の必須課題に合格しなければならない。なお、課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能（-）です。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - ウ /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への取り組み（課題・レポートを含む） … 100%

ただし、情報リテラシー（情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ）の必須課題に合格しなければならない。なお、課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能（-）です。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1 - 工 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への取り組み（課題・レポートを含む） … 100%
ただし、情報リテラシー（情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ）の必須課題に合格しなければならない。なお、課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能（-）です。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズI【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1学期未修得者再履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への取り組み(課題・レポートを含む) ... 100%
ただし、情報リテラシー(情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ)の必須課題に合格しなければならない。なお、課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能(-)です。

アカデミック・スキルズI【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

アカデミック・スキルズII (思考と推論) 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

サブテーマ「思考と推論」

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた基礎的な考える力を応用して、より深く考えられるようになることである。特に、本授業では、人間が考えるときに重要なはたらきをしている「推論」と、その心理実験を通じて、考える力を総合的に活用できる能力・資質を伸ばすことを目指す。そのことを踏まえて、本授業では、以下のような項目について学ぶ。

- 思考スキルとその活用方法
- 推論を中心とした人間の思考と認知心理
- 心理実験の計画法
- 心理実験の調査方法とデータ分析

本授業の前半は講義による授業内容の解説となるが、後半は課題研究が中心となる。課題研究では、ワークシートを用いながら、心理実験の計画・実施・分析・考察までの一連の流れを実施する。

< 到達目標 >

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

市川伸一：考えることの科学～推論の認知心理学への招待～、中公新書、1997年、660円（税抜）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目：考える力と推論【ガイダンス】【認知心理学】
- 2回目：形式論理と日常的推論(1)【四枚カード問題】
- 3回目：形式論理と日常的推論(2)【主題材料効果】【全件否定の錯誤】【後件肯定の錯誤】
- 4回目：実用的推論スキーマ(1)【疑う】【問いを立てる】【スキーマとは】
- 5回目：実用的推論スキーマ(2)【検証する】【分析する】
- 6回目：心理実験の流れ(1)～疑う～【批判的思考】
- 7回目：課題演習(1)～疑う～
- 8回目：心理実験の流れ(2)～問いを立てる～【抽象化】【視点図】
- 9回目：課題演習(2)～問いを立てる～
- 10回目：心理実験の流れ(3)～検証する～【仮説】【視点図】【作問】
- 11回目：課題演習(3)～検証する～
- 12回目：心理実験の流れ(4)～分析する～【調査方法】【データ分析】
- 13回目：課題演習(4)～分析する～
- 14回目：提案された心理実験の発表
- 15回目：まとめ

アカデミック・スキルズII (思考と推論) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

心理実験の流れに関する課題・・・40%、課題演習レポート・・・40%、積極的な授業参加・・・20%
課題およびレポートの提出回数が全体の3分の2未満の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、授業開始前までに必ず教科書を読んで、その内容を理解しておくこと。
事後学習として、授業内容を反復すること。また、授業時間に課された課題に未到達、または、満足のいく完成度でなかった場合は、授業時間外に積極的に課題の続きに取り組み、次の授業に備えること。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。「アカデミック・スキルズI」を受講し、その内容をしっかり学んでいると受講しやすい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、各授業回に適した課題や質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。課題は、ワークシートやMoodleを使って取り組んでもらい、その成果は必ず提出してもらう。そのため、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブラーニング、推論、心理実験

アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) 【 昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 神原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることです。最終的な目標は、テーマに沿って自分で問いを設定し、文献を読んで考えをまとめるレポート（高校までの小論文でも調べ学習でも感想文でもなく）を書くことです。比較的読みやすいテキストを批判的に読解することを通して、レジユメの作りかた、論点の見つけ方、文献の探し方を学び、それをわかりやすく報告するコミュニケーション能力を養います。後半では、受講者同士の議論を経て、レポートの作成を目指します。

(到達目標)

【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている

教科書 /Textbooks

岡岡亮二 2019 『教育格差』ちくま新書 (1000円 + 税)

教育は多様な情報がメディアでもあふれており、みなさん一人ひとりに何らかの経験があるので、イメージで議論されやすい側面があります。大学生になったところで、これまで自分が受けてきた教育を客観的に振り返ってみましょう。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 慶応義塾大学教養研究センター 2014 『ダメレポート脱出法』慶応大学出版会
- 佐渡島沙織ほか編 2015 『レポート・論文をさらによくする書き直しガイド』大修館書店
- 白井利明・高橋一郎2008 『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房

そのほかMoodleに参考となる電子書籍のリンクを貼ります。必要に応じて閲覧してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入：レポートを書くとは
- 第2回 大学における本の読みかた・探しかた
- 第3回 読んだ本の理解を深めるには・レジユメの作りかた
- 第4回 テキスト輪読型の演習における報告と議論①
- 第5回 議論のしかた
- 第6回 テキスト輪読型の演習における報告と議論②
- 第7回 テキスト輪読型の演習における報告と議論③
- 第8回 テーマの見つけかた
- 第9回 レポート構想報告①
- 第10回 レポートの書きかた
- 第11回 レポート構想報告②
- 第12回 レポート構想報告③
- 第13回 文章を推敲する：レポートの相互添削
- 第14回 文章のブラッシュアップ
- 第15回 これまで学んだことの総括

※受講者の人数によって内容を若干変更することもある。

アカデミック・スキルズII (レポートを書くために) 【 昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート40%、授業中の活動（課題提出、報告、積極的な発言など）60%
（第13回で学生相互にレポートを添削し、その後最終的に書き直したレポートを評価の対象とします。）
※報告者の無断欠席は厳しく減点します。
※学期末レポートの最低文字数は2000字です。
※課題の提出など加点の対象となる活動が全くない場合は履修放棄（－）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

・ レジユメの作成、レポートの執筆およびそのための資料収集などはそれなりに時間がかかります。計画的かつ真摯に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 履修を希望する学生は、第1回の授業から必ず出席してください。
- ・ 問題意識は、漠然と本を読み、授業を聞くだけで生まれるものではありません。受講する段階で特定の学問的興味関心を持つことは求めませんが、学期末までには課題に対する問題意識を見つけることを心がけてください。
- ・ 演習の準備に時間がかかることを嫌がらないでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

・ 大学での本の読みかたやレポートの書きかたを基礎から学ぶので、どの学部の学生でも怖気づかずに履修してください。レポートをあまり書かない学部の学生も、学期末には2000字以上のレポートを頑張って書いています。レポートに慣れている学部の学生は、この機会に自分の書き方を点検し、より高く評価されるレポートを目指してみましよう。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、SDGs4 質の高い教育をみんなに

アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) 【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は「アカデミック・スキルズI」で培ってきた考える力をさらに活用して、大学での学びに必要な論理的思考能力を伸ばすことを目的とします。データ収集からはじめて、それを取捨選択して加工、可視化して、他者に向けて発信するという一連の過程を具体的に実践していきます。

具体的には、以下のような項目を身につけます：

- 情報収集を行い、その情報の信頼性をチェックすることができる
- 表計算ソフトなどを利用し、データを可視化することができる
- プログラミングを基礎から学ぶことで、論理的な思考力を鍛え、現在不足しているといわれるデータサイエンス人材への一歩を踏み出す
- グループ活動を通じて、他者とのコミュニケーションをとることができる

(到達目標)

【技能】 大学生生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。必要資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 データを集める【検索】 【情報の信頼性】 【着眼点】
- 3回 データを加工する(表計算の復習)
- 4回 論理的思考力1(プログラミングの基礎)
- 5回 論理的思考力2(図形の描画)
- 6回 論理的思考力3(変数の利用)
- 7回 論理的思考力4(条件分岐, ループ)
- 8回 論理的思考力5(双方向性)
- 9回 論理的思考力6(配列)
- 10回 データの可視化1(グラフの種類)
- 11回 データの可視化2(棒グラフ)
- 12回 データの可視化3(折れ線グラフ)
- 13回 データの可視化4(円グラフ)
- 14回 現実のデータを活用する
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 90%

積極的な授業参加 ... 10%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

アカデミック・スキルズII (論理的に生きる) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料などを提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、授業中に提示した課題を次回の授業時に提出したりしてもらいますので、授業時間外の作業が必要となります。特にグループ活動においては、グループメンバーと議論する時間を確保してください。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解度や授業進度、そのほかの社会状況に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在、ビッグデータやAIなど、ICTスキルやデータを活用できる人材が世の中で求められています。いわゆる「文系」という枠に自分を限定するのではなく、自分の将来に向けてプログラミングを学んでみませんか？

キーワード /Keywords

ロジカルシンキング (論理的な思考) , プログラミング , データの可視化 , コミュニケーション能力 , 思考力 , SDGs 4:質の高い教育をみんなに

アカデミック・スキルズII (論理的思考、批判的思考、対話) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、課題図書の本を輪読を通じて、論理的思考・批判的思考・対話の力を鍛えていきます。輪読では、毎回、任意の代表者に発表してもらい、グループでディスカッションを行なってもらいます。

課題図書は、ジェンダー論・フェミニズム論に関わる新書で、合計2冊を読み進める予定です。複数候補を出しますので、参加者の興味関心で初回に決定したいと思います。

なお、毎回1200字程度のレジユメの作成が全員必須となり、課題の量が比較的多い授業となりますので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

【到達目標】

《技能》大学生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。

《思考・判断・表現力》設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

《コミュニケーション力》異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

初回のイントロダクションのなかで決定します。

* 課題図書は新書に限定しますので、1冊の価格は1,000円ほどです。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 イン트로ダクション①：この授業について、課題図書の決定

第2回 イン트로ダクション②：レジユメの作り方、進め方

第3回 輪読 1冊目①

第4回 輪読 1冊目②

第5回 輪読 1冊目③

第6回 輪読 1冊目④

第7回 輪読 1冊目⑤

第8回 輪読 1冊目⑥

第9回 輪読 2冊目①

第10回 輪読 2冊目②

第11回 輪読 2冊目③

第12回 輪読 2冊目④

第13回 輪読 2冊目⑤

第14回 輪読 2冊目⑥

第15回 まとめ：レポートについて

成績評価の方法 /Assessment Method

・ 各回のレジユメ作成 60%

・ 期末レポート 40%

* レジユメを4回以上提出しなかった場合は、評価不能(-)となります。

* レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)となります。

アカデミック・スキルズII (論理的思考、批判的思考、対話) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ レジユメの作成
- ・ 前回範囲の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、授業全体の説明に加えて、課題図書を決定するので必ず参加してください。
- ・ この授業では、毎回1200字程度のレジユメの作成が全員必須となり、課題の量が比較的多くなるので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

みなさんと同じ本を読み、議論できることを楽しみにしています。

キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 8. ジェンダー平等、論理的思考、批判的思考

アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、アカデミック・スキルズIで身につけた考える力を活用して大学生活に必要なコミュニケーション能力を伸ばし、より深く考えられるようになることである。

身近なことをテーマに考えたり自分の考えを表現したりすることを、様々な学部（学群）の学生と行ってもらおう。

（到達目標）

【技能】大学生活に必要な「考える力」に必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業を通じて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーション
- 2回：考える力
- 3回：コミュニケーション能力
- 4回：ことばを有効に活用するためのスキル
- 5回：自分を理解する①【大切にするもの】
- 6回：自分を理解する②【違和感のあるもの】
- 7回：相手を理解する
- 8回：自分を理解してもらおう
- 9回：個人発表
- 10回：ここまでの振り返り
- 11回：北九大を理解する①【キャンパス探訪】
- 12回：北九大を理解する②【課題設定】
- 13回：北九大を理解する③【表現する】
- 14回：個人発表（または、グループ発表）
- 15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への参加（事前・事後学習を含む）50%、課題など 50%
課題などの提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業に役立つ活動を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

アカデミック・スキルズII (豊かな大学生活のために)

【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の興味や関心に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
様々な学部 (学群) の学生と一緒にたくさんのインプットとたくさんのアウトプットをしていただくことを期待しています。
よく考えて、受講してください。

キーワード /Keywords

思考力、アクティブ・ラーニング、コミュニケーション能力、レクリエーション

関連するSDGsゴール : 17. 「パートナーシップで目標を達成しよう」

アカデミック・スキルズII (歴史から考える) 【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES102F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズII		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

サブタイトル：歴史から考える

本授業では、「アカデミック・スキルズI」で身に付けた「考える力」を活用し、現代日本が抱える様々な問題の歴史的経緯を考えていきます。前例を参照することで目の前にある問題や「当たり前」とされている事象をより深く理解し、それらの解決・分析に活かせるようになることを目指します。

(到達目標)

【技能】大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。適宜、必要な資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、紹介していきます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 歴史的思考法とは【“今”の背景を考える】
- 第3回 過去へのアクセス方法①【史料とは何か】
- 第4回 過去へのアクセス方法②【どこから史料に触れられるのか】
- 第5回 「当たり前」の歴史的経緯を探る【異なる「今」を想像する。】
- 第6回 受講者（個人またはグループ）の発表①【例．自由、平等】
- 第7回 受講者（個人またはグループ）の発表②【例．平和、戦争】
- 第8回 受講者（個人またはグループ）の発表③【例．大人、子ども】
- 第9回 受講者（個人またはグループ）の発表④【例．恋愛、婚姻】
- 第10回 社会問題の歴史的経緯を把握する【過去から「今」と「これらか」を考える。】
- 第11回 受講者（個人またはグループ）の発表⑤【例．少子高齢化】
- 第12回 受講者（個人またはグループ）の発表⑥【例．格差社会】
- 第13回 受講者（個人またはグループ）の発表⑦【例．東京一極集中】
- 第14回 受講者（個人またはグループ）の発表⑧【例．教育問題】
- 第15回 まとめ

※受講者の人数や興味・関心事によって、授業計画・内容を変更する可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加（発表、質疑応答、小課題の実施など）60%

学期末レポート40%

なお、学期末レポートが未提出の場合は、評価不能（－）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

現代日本の様々な問題や身近なことの背景に、日頃から関心を持つように心掛けて下さい。

アカデミック・スキルズII (歴史から考える) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
知の技法科目

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

情報社会への招待【昼】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は【遠隔】授業（オンデマンド配信など）です。授業動画を視聴するための環境を準備するか、大学内施設を利用するようにしてください。

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分, 復習60分)。

その他, ICTに関するニュースを視聴するなど, 日常的, 能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナリーシップ

法への誘い【昼】

担当者名 /Instructor
 中村 英樹 / 法律学科, 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科
 大杉 一之 / OHSUGI, Kazuyuki / 法律学科, 清水 裕一郎 / Yuichiro Shimizu / 法律学科
 高橋 衛 / 法律学科, 近藤 卓也 / KONDO TAKUYA / 法律学科
 今泉 恵子 / 法律学科, 堀澤 明生 / Akio Horisawa / 法律学科
 水野 陽一 / 法律学科, 福本 忍 / FUKUMOTO SHINOBU / 法律学科
 岡本 舞子 / OKAMOTO MAIKO / 法律学科, 藤田 尚 / 法律学科
 林田 幸広 / 法律学科, 丸山 愛博 / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
 /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LAW001F		◎	○		○
科目名	法への誘い				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

(到達目標)
【技能】 法律の世界を正しく理解するために必要な技能を身につけている
【思考・判断・表現力】 法的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている
【自立的行動力】 社会における法的課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

この授業では、法律学科の教員たちが、社会のさまざまな問題を法というフィルターを通して眺めるとどのように捉えられるのかについて講義する。この講義を通じて、法というツールを用いて問題を読み解く技能を獲得することが本授業の目的であり、あわせて、発見したさまざまな課題への対処を考える思考・判断力、そしてそれらを活かして公共的な問題を解決していく自立的行動力を身につけることを目指す。

教科書 /Textbooks

特になし。
 各回、必要な資料があれば配布する（事前にMoodleにアップロードされる場合もあるので確認すること）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各種の法学入門書など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 おからはゴミなのか、劇物を輸入規制しなくていいのか-行政法解釈入門
- 第3回 信じる者は救われる?-法治主義と信頼保護原則
- 第4回 自殺や自傷行為を止めさせると犯罪か?
- 第5回 高齢者の罪は許すべき?
- 第6回 人間はAIとどのように向き合うべきか?-AIと法
- 第7回 電気は「物」か?-物に関する法
- 第8回 契約とは何か?-約束と契約の違い・両者の限界等について
- 第9回 あなたを狙う投資マルチ-マルチ商法と消費者法
- 第10回 保険契約制度により自然災害等に対応できるか?
- 第11回 会社の存在意義は何か?
- 第12回 長時間労働はなぜ起きるのか?
- 第13回 自分の臓器を売る自由?-自己所有権の限界
- 第14回 裁判しない法専門家-ADRとそのねらい
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末のレポートによる(100%)。

期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能(一)とします。

法への誘い【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回のテーマについて事前に情報を収集し、自分の考えを整理しておくこと。
事前に資料等の配布がある場合は、授業前に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講態度が著しく悪いと判断される受講者は、レポート提出があっても評価されないことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 3. 健康と福祉を、SDG 10. 不平等をなくす、SDG 16. 平和と公正

コンピューターリテラシー 【昼】

担当者名 /Instructor 古川 洋章 / 情報総合センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF101F		◎			
科目名	コンピューターリテラシー		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業のねらいは、コンピューターやインターネットを正しく扱うための知識や技術を学習し、情報社会において自らの考えや判断を表現・伝達する手段として利活用する能力を身につけることです。そのため、本授業では実際にコンピューターを操作しながら、以下のような項目を達成できる技能の習得を目指します。

【情報モラル・情報セキュリティ】

- ・ インターネットにおけるリスクを把握し正しい使い方について説明することができる
- ・ 著作権と引用のルールについて説明することができる

【電子メール】

- ・ 電子メールの特性および仕組みについて説明することができる
- ・ ビジスマナーを意識した電子メールの作成・送受信ができる

【文章作成】

- ・ 基礎的な文章の作成ができる
- ・ 文章作成ソフトの機能を活用した文章の装飾ができる
- ・ 長文レポートの作成ができる

【表計算・グラフ作成】

- ・ 基礎的な表の作成ができる
- ・ 数式や関数を用いたデータの集計ができる
- ・ 基礎的なグラフの作成ができる
- ・ 条件に応じて出力結果を変えることができる

なお、本授業は初心者を対象としています。

(到達目標)

【技能】コンピューターを適切に利用する技能を身につけている。

教科書 /Textbooks

『情報リテラシー Windows10 /Office2019対応』 FOM出版、2,000円 (税抜)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて授業中に紹介します。

コンピューターリテラシー 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コンピューターの操作方法
- 3回 情報モラル・情報セキュリティ：インターネットにおけるリスクとコミュニケーション
- 4回 電子メール：大学における電子メール
- 5回 文章作成1：文章作成の基本操作
- 6回 文章作成2：文章作成ソフト機能の活用
- 7回 文章作成3：レポート作成
- 8回 文章作成4：文章作成練習
- 9回 演習1：文章作成
- 10回 表計算・グラフ作成1：表作成の基本操作
- 11回 表計算・グラフ作成2：グラフ作成
- 12回 表計算・グラフ作成3：条件に応じた出力
- 13回 表計算・グラフ作成4：表計算・グラフ作成練習
- 14回 演習2：表計算・グラフ作成
- 15回 ふり返り・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ インターネット・情報モラル・情報セキュリティに関する課題...15%
- ・ 電子メールの課題...10%
- ・ 文章作成演習の課題...25%
- ・ 表計算・グラフ作成演習の課題...25%
- ・ 授業支援ツールを用いた授業への積極的な参加...25%
- ・ 課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能(－)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め授業テーマについて予習してください。また授業終了後には、パソコン自習室や自身のパソコン等で積極的に授業内容を復習してください。

なお予習および復習に必要な学習時間は1時間程度です。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、パソコンを使った演習が必須ですので、自由に利用できるパソコンを持っていることが望ましいです。パソコンを持っていない場合は、大学内のパソコン自習室を利用するなど、パソコンが利用できる環境を準備してください。

また、コンピューターの基本的な操作(キーボードによる文字入力、マウス操作など)ができるようになっておく受講しやすいです。

なお、受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

この科目は、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もあります。また、受講者数調整を実施する可能性もあります。詳細は、初回の授業中に説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業では、初心者を対象に、情報社会においてコンピューターやインターネットを正しく扱うための基本的な知識や技術について学習し、利活用する能力の体得を目指します。実際にコンピューターを操作しながら学習するため、授業時間外にも積極的に練習に取り組む姿勢が大切です。わからないことがあれば、随時、質問をしてください。

キーワード /Keywords

文章作成、表作成、グラフ、電子メール、情報モラル、情報セキュリティ

データ分析 【昼】

担当者名
/Instructor

浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。ICTの高度化は、分散する端末から高速ネットワークを通じてデータを収集し、収集した大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータからの要素が関連するかを考え、その関係性を明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから時系列的な変化を明らかにすることができる。

(到達目標)

【技能】データを適切に分析する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.オリエンテーション，データ分析の必要性
- 2.表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
- 3.表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
- 4.度数分布表とヒストグラム
- 5.データの平均と散らばり
- 6.正規分布とその特長
- 7.母集団と区間推定
- 8.演習1：分布に関する演習
- 9.質的データの要因比較のための集計
- 10.量的データの2要因間の関係
- 11.量的データの2要因間の関係から予測へ
- 12.演習2：要因比較に関する演習
- 13.時系列的なデータの変遷
- 14.総合演習
- 15.まとめ

データ分析【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，レポート・・・20%

6回以上欠席した場合は，評価不能（-）とします．

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として，授業内容・計画に従って予め調べて学習しておくこと．

事後学習として，授業内容を反復すること．

また，データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため，正規の授業時間以外に，積極的にデータ分析の練習を行うこと．

履修上の注意 /Remarks

この科目は，パソコンを使った演習が必須なので，自由に使えるパソコンを持っていることが望ましい．パソコンを持っていない場合は，大学内のパソコン自習室を利用するなど，パソコンが使える環境を準備しておくこと．また，表計算ソフトを使った演習が中心となるので，表計算ソフトがある程度使えると，受講しやすくなる．

受講生の興味関心や理解度等に応じて，授業計画や内容を変更することがある．その場合は，授業中に説明する．

この科目は，授業の一部，もしくは，全てを遠隔で実施する可能性もある．また，受講者数調整を実施する可能性もある．詳細は，初回の授業中に説明する．

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から，難しい数式が出てくる印象を与えるが，本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している．データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので，興味のある学生は積極的に受講して欲しい．

キーワード /Keywords

分布，要因比較，時系列分析，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

データ分析 【昼】

担当者名 佐藤 貴之 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。ICTの高度化は、分散する端末から高速ネットワークを通じてデータを収集し、収集した大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータからどの要素が関連するかを考え、その関係性を明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから時系列的な変化を明らかにすることができる。

(到達目標)

【技能】データを適切に分析する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.オリエンテーション，データ分析の必要性
- 2.表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
- 3.表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
- 4.度数分布表とヒストグラム
- 5.データの平均と散らばり
- 6.正規分布とその特長
- 7.母集団と区間推定
- 8.演習1：分布に関する演習
- 9.質的データの要因比較のための集計
- 10.量的データの2要因間の関係
- 11.量的データの2要因間の関係から予測へ
- 12.演習2：要因比較に関する演習
- 13.時系列的なデータの変遷
- 14.総合演習
- 15.まとめ

データ分析【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，レポート・・・20%

6回以上欠席した場合は，評価不能（-）とします．

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として，授業内容・計画に従って予め調べて学習しておくこと．

事後学習として，授業内容を反復すること．

また，データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため，正規の授業時間以外に，積極的にデータ分析の練習を行うこと．

履修上の注意 /Remarks

この科目は，パソコンを使った演習が必須なので，自由に使えるパソコンを持っていることが望ましい．パソコンを持っていない場合は，大学内のパソコン自習室を利用するなど，パソコンが使える環境を準備しておくこと．また，表計算ソフトを使った演習が中心となるので，表計算ソフトがある程度使えると，受講しやすくなる．

受講生の興味関心や理解度等に応じて，授業計画や内容を変更することがある．その場合は，授業中に説明する．

この科目は，授業の一部，もしくは，全てを遠隔で実施する可能性もある．また，受講者数調整を実施する可能性もある．詳細は，初回の授業中に説明する．

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から，難しい数式が出てくる印象を与えるが，本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している．データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので，興味のある学生は積極的に受講して欲しい．

キーワード /Keywords

分布，要因比較，時系列分析，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

データ分析 【昼】

担当者名 池之上 正人 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF201F		◎	△		
科目名	データ分析		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

情報社会と呼ばれる現代では、インターネットを通じて多種多様なデータが常に世界中を行き交っている。ICTの高度化は、分散する端末から高速ネットワークを通じてデータを収集し、収集した大量のデータを瞬時に分析することを可能にした。これらの事実は、社会のあらゆる場面において、データに基づいた意思決定が求められることを意味する。この背景から言えることは、社会は、大量のデータから何らかの意味のある情報や法則、関連性などを導き出し、そこから知識を獲得できる人材を求めているということである。

本授業は、データを分析する基本を学ぶ。具体的には、以下の能力を身につけることが目標である。

- ・ データ分析の必要性について説明することができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから平均や散らばり度合いなどを明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータからの要素が関連するかを考え、その関係性を明らかにすることができる。
- ・ 表計算ソフトを用いて、与えられたデータから時系列的な変化を明らかにすることができる。

(到達目標)

【技能】データを適切に分析する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 小島寛之：完全独習 統計学入門，ダイヤモンド社，2006年，1,800円（税抜）
- 西内啓：統計学が最強の学問である，ダイヤモンド社，2013年，1,600円（税抜）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.オリエンテーション，データ分析の必要性
- 2.表計算ソフト演習1【表作成】【グラフ作成】
- 3.表計算ソフト演習2【数式を使った計算】【関数を使った計算】
- 4.度数分布表とヒストグラム
- 5.データの平均と散らばり
- 6.正規分布とその特長
- 7.母集団と区間推定
- 8.演習1：分布に関する演習
- 9.質的データの要因比較のための集計
- 10.量的データの2要因間の関係
- 11.量的データの2要因間の関係から予測へ
- 12.演習2：要因比較に関する演習
- 13.時系列的なデータの変遷
- 14.総合演習
- 15.まとめ

データ分析【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

分布に関する演習・・・20%，要因比較に関する演習・・・20%，総合演習・・・40%，レポート・・・20%

6回以上欠席した場合は，評価不能（-）とします．

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として，授業内容・計画に従って予め調べて学習しておくこと．

事後学習として，授業内容を反復すること．

また，データ分析能力の習熟には日々の練習が欠かせないため，正規の授業時間以外に，積極的にデータ分析の練習を行うこと．

履修上の注意 /Remarks

この科目は，パソコンを使った演習が必須なので，自由に使えるパソコンを持っていることが望ましい．パソコンを持っていない場合は，大学内のパソコン自習室を利用するなど，パソコンが使える環境を準備しておくこと．また，表計算ソフトを使った演習が中心となるので，表計算ソフトがある程度使えると，受講しやすくなる．

受講生の興味関心や理解度等に応じて，授業計画や内容を変更することがある．その場合は，授業中に説明する．

この科目は，授業の一部，もしくは，全てを遠隔で実施する可能性もある．また，受講者数調整を実施する可能性もある．詳細は，初回の授業中に説明する．

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画・内容から，難しい数式が出てくる印象を与えるが，本授業では中学校レベルの数学で理解できるように設計している．データサイエンティストの入り口に立つための授業という位置づけであるので，興味のある学生は積極的に受講して欲しい．

キーワード /Keywords

分布，要因比較，時系列分析，統計学，表計算ソフト，データからの知識獲得

データサイエンス入門【昼】

担当者名 /Instructor 池之上 正人 / 基盤教育センター, 浅羽 修丈 / Nobutake Asaba / 基盤教育センター
廣渡 栄寿 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
												○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF102F	○	◎			
科目名	データサイエンス入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現在、社会のデータ化が著しく、第4次産業革命やSociety 5.0、データ駆動型社会などと呼ばれる変化が起きている。我々の日常生活においても、様々なものがデータ化され、広範囲に利用されている状況にある。このデータの活用は、データサイエンスやAIなどの技術を用いることによって、流通や製造、サービス、ヘルスケアなどの様々な分野で行われていて、我々の生活から切っても切り離せない密接なものとなっている。

本授業では、これらの社会状況の変化とデータサイエンスやAI技術等の基礎を学ぶことで、これらの技術が日常生活や社会における課題を解決するために有効な技術であることを理解する。ただし、これらの技術に伴う危険性と注意すべき点についても理解する。また、初歩的なデータ分析に取り組むことで、データの適切な活用法を獲得する。今後の社会で生き抜くための基本的な考え方を獲得することがねらいである。

<到達目標>

【知識】データサイエンスやAIなどの技術を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【技能】データを適切に活用するための基礎的な技能を身につけている。

本授業は、メディア授業科目である。授業の様子を、ネットワークを通じてライブ配信する授業回とオンデマンド形式による講義ビデオ配信する授業回とで構成されている。そのため、受講にはネットワークに接続できるパソコン環境が必要になる。各自で自由に使えるパソコンを準備してほしい。

受講方法の詳細は、初回の授業やMoodleで説明するので、必ず確認すること。

教科書 /Textbooks

なし。必要な資料を適宜配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション（ライブ配信）
- 第2回：データサイエンスと社会（ライブ配信）
- 第3回：AIと社会（ライブ配信）
- 第4回：データ・AIの利活用とその必要性（ライブ配信）
- 第5回：演習【データ・AIの利活用】（ビデオオンデマンド）
- 第6回：数値データの読み方（ビデオオンデマンド）
- 第7回：数値データから何が読み取れるか（ビデオオンデマンド）
- 第8回：数値データの扱い方（ビデオオンデマンド）
- 第9回：グラフの読み方(1)【度数分布表】【ヒストグラム】（ビデオオンデマンド）
- 第10回：グラフの読み方(2)【円グラフ】【折れ線グラフ】【散布図】（ビデオオンデマンド）
- 第11回：グラフから何が読み取れるか（ビデオオンデマンド）
- 第12回：グラフの扱い方（ビデオオンデマンド）
- 第13回：総合演習【実データを使った分析】（ビデオオンデマンド）
- 第14回：データサイエンス・AIは万能か（ライブ配信）
- 第15回：まとめ（ライブ配信）

成績評価の方法 /Assessment Method

課題への積極的な取り組み・・・100%

課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能(-)です。※北方生のみ、ひびきの生除く。

データサイエンス入門【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、データサイエンスに必要な操作能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業の進行状況や通信環境の影響によって、授業の計画や内容、形態等を変更することがある。
各自で表計算ソフトであるExcelを使用できる受講環境を準備してほしい。
「ライブ配信」の場合は、時間通りのリアルタイム受講が望ましいが、通信環境が良くない場合は、後日、ライブ配信を録画したオンデマンド配信用動画を視聴して学習してほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を行いながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加してほしい。

キーワード /Keywords

データサイエンス、AI、Soceity 5.0、データ駆動型社会、個人情報、データ倫理、AI社会原則

知の創造特講B (戦後の日本経済) 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL205F			◎		
科目名	知の創造特講B		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

かつて日本は、今よりずっと活気ある国としてありました。そしてこの時代の日本人は自信に満ちていました。彼らは今年より来年、来年より再来年、自分たちの生活はどんどん「豊か」で「贅沢」なものになっていくと信じていましたし、それが彼らの目標でもありました。

しかし現在、かつての活気は失われ、これとは対称的に、慢性的な不況や「少子高齢化」、地方の「過疎化」など、「衰退」を象徴するような、ネガティブな側面ばかりが目立っています。そして私たちは「豊かさ」や「贅沢」を追い求めることをやめ、積極的にお金を使い、物を買うことすら控えるようになっていきます。

では、それはなぜなのでしょう？

なぜかつての日本には活力があつて今はなく、私たちはかつての「豊かさ」を求めなくなってしまったのでしょうか。そしてそんな中、私たちは今、どんな生活を理想として生きているのでしょうか。

私たちは過去、何を経験し、その結果、今、未来に何を期待しているのでしょうか。

この講義は、私たち日本人が戦後、どのような時代を生き、そこで何を経験し、そのことでどう変わってきたのか、私たち自身の過去と現在、そして未来を客観的に理解するための授業です。そしてここではそれを、日本人の生活条件の変化、つまり日本経済の歴史をもとに考えていきます。

私たちの生活は、各時代の経済によって規定されています。

したがって、経済が過去からどう変化して来たのか知ることは、私たちの生活がこれまでどう変化して来たのか知ることであります。そして私たちの生活がどう変化して来たのか理解出来れば、上の問いに対する答えを見つけることもできるようになります。

ここではぜひ皆さんに、経済と歴史をもとに現在の私たち自身を理解する、経済学的・歴史学的な思考を実践し、身に付けていただきたいと思ひます。

到達目標：

【思考・判断・表現力】

設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

知の創造特講B (戦後の日本経済) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 なぜ「経済史」を学ぶのか
- 第2回 敗戦直後の日本経済
- 第3回 戦後復興の始まり - 「鉄は国家なり」 -
- 第4回 「団塊の世代」
- 第5回 人口の急増と経済危機 - 「人口転換」 -
- 第6回 「人口ボーナス」
- 第7回 産業基盤の整備と「高度経済成長」
- 第8回 「高度経済成長」と人口移動
- 第9回 「団塊の世代」の世帯形成と日本経済
- 第10回 都市的なライフスタイルの希求
- 第11回 「一億総中流」時代 - 「ホワイトカラー」の台頭 -
- 第12回 「高度経済成長」の終焉 - 「オイルショック」と「団塊ジュニア」 -
- 第13回 「安定成長期」 - 産業構造の転換と「鉄冷え」 -
- 第14回 「バブル崩壊」
- 第15回 「失われた20年」と現在

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 日常での授業への取り組み...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジュメを配布します。配布済みのレジュメを用い前回の講義内容を復習して授業に臨み、授業後には同じくレジュメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「歴史」と言えば「暗記科目」という印象を抱いている方も多いと思います。しかし大学で学ぶ「歴史」は「歴史学」であり、「歴史学」は、歴史をもとに過去そして現代について“考える”社会科学です。これまで「歴史」が苦手であった方、「歴史」に関する知識に自信がないという方であっても、「歴史」をもとに考える意思のある方であれば主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

日本経済史 戦後史 人口転換 団塊の世代 高度経済成長 オイルショック 安定成長期 団塊ジュニア バブル崩壊 失われた20年 口
ストジェネレーション

社会学的思考 【昼】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC002F			◎	○	
科目名	社会学的思考		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業のねらいは、社会学の基本的な考え方と概念を身につけ、人間と社会との関係性を総合的に理解することにある。まず、社会学の基本的な考え方について、E.デュルケム、M.ウエーバーなどの古典的著作を例にとりながら紹介していく。その中で、社会的行為、社会規範、社会制度、社会構造、社会的役割、社会集団等の基本概念についても説明する。さらに、現代の社会問題を社会学的に考えていく。

上記の内容を踏まえ、授業では以下の4点を目標とする。

- (1) 現代社会とはどのような社会なのか、社会学の基礎を学び、それを踏まえた上で現代社会の特性を理解する。
- (2) 多様な生き方を尊重することが望ましい現代において、生活の多様性における実態について理解する。
- (3) どのような社会構造の中で人が生活をしているのかを理解することを通して、人と社会のあり方を望ましいあり方について考えることができるようになる。
- (4) 社会問題とは何か、どのような背景によって社会問題は形成されるのかを理解し、社会政策等の社会問題への対策のあり方について考えることができるようになる。

なお、本科目は、SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」に関連するものである。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業であるため、学生は自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

到達目標

- 【思考・判断・表現力】現代の社会問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】他者と協働して、現代の社会問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

使用しない。
適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『生活からみる社会のすがた』, 稲月正・加来和典・牧野厚史・三隅一人編, 学文社, 2022年3月刊行予定
 - 『現代の社会的解読』, 山本努・辻正二・稲月正著, 学文社, 2014年, ¥2640 (古書)
 - 『最新 社会福祉士養成講座③ 社会学と社会システム』, 一般社団法人 日本ソーシャルワーク教育学校連盟編, 中央法規, 2021年, ¥2,750
- その他、講義の中で、適宜、紹介する

社会学的思考 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 インTRODクシヨン【社会、社会学】
- 2 社会学的な考え方とは【記述、説明、行為、規範、制度、集団、構造】
- 3 社会学の歴史的展開1 - E.デュルケムの方法【集合意識、機能、自己本位的自殺、アノミー的自殺】
- 4 社会学の歴史的展開2 - M.ウェーバーの方法【理解社会学、社会的行為、意図せざる結果】
- 5 復習と課題解説
- 6 変容する家族【近代家族、核家族、夫婦家族、直系家族、定位家族、生殖家族、小家族化と家族の多様化】
- 7 社会集団と組織【ゲマインシャフト、ゲゼルシャフト、第1次集団、第2次集団、準拠集団、官僚制】
- 8 逸脱と社会統制【機能主義、正機能、逆機能、顕在的機能、潜在的機能、アノミー、ラベリング理論】
- 9 都市【産業都市、都市問題、脱工業化、情報化、分極化した都市、世界都市、アーバニズム、下位文化理論】
- 10 社会階層と社会移動【階級、階層、不平等、社会的資源、ジニ係数、社会移動、開放性係数、地位の非一貫性】
- 11 生活困窮（貧困）と社会的排除【経済的困窮、社会的孤立、社会的排除】
- 12 戦後日本の社会変動【高度経済成長、安定成長、戦後日本型循環モデル、性別役割分業】
- 13 大衆社会とファシズム【ナチズム、社会的性格、権威主義的パーソナリティ、機械的画一性への逃げ込み】
- 14 グローバル化と移民【国際労働力移動、移住システム論、顔の見えない定住化、排外主義】
- 15 授業のまとめと振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

確認小テスト... 40%、課題レポート... 60%とし、総合的に判断する。いずれも、メディア授業の際に出す。提出期限を過ぎた課題・小テストは受け付けできない。
確認小テスト、課題レポートを1回も提出しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業にあたって配布プリント等をよく読んでおくこと。授業の内容を反復学習すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日常生活の中で生じているさまざまな出来事を、いろいろな立場や視点から考える習慣を身につけてもらえるとうれしいです。

キーワード /Keywords

社会的行為、エスノグラフィー、社会集団、社会構造、集合意識、社会規範、自己本位主義、アノミー、理解社会学、合理性、社会的性格、ファシズム、社会的排除、社会的包摂、社会的孤立、貧困、戦後日本型循環モデル
SDGs1「貧困をなくそう」、SDGs3「すべての人に健康と福祉を」、SDGs10「人や国の不平等をなくそう」、SDGs17「パートナーシップで目標を達成しよう」

ことばの科学 【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN110F	○	○	◎		
科目名	ことばの科学		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「ことば」は種としての「ヒト」を特徴づける重要な要素です。しかし、私たちはそれをいかにして身につけたのでしょうか。「ことば」はどのような構造と機能を持っているのでしょうか。「ことば」の構成要素を詳しく見ていくと、私たちが「ことば」のうちに無意識に体現しているすばらしい規則性が明らかになります。それは、狭い意味での「文法」ではなく、もっと広い意味での言語の知識です。この講義では、私の専門である生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータをもとに、「ことば」について考えていきます。

[到達目標]

DP1 知識：言語の様々な側面を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

DP2 技能：ことばの規則性を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

DP3 思考・判断・表現力：言語学に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。朝倉書店、2016年。¥2700＋税。

配布資料・その他授業中に指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○大津 由紀雄（編著）『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』。ミネルヴァ書房、2009年。

○スティーヴン・ピンカー（著）棕田 直子（訳）『言語を生みだす本能（上）・（下）』。NHKブックス、1995年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ことばの不思議
- 第2回 ことばの要素
- 第3回 ことばの習得
- 第4回 普遍文法と個別文法
- 第5回 ことばの単位(1)：音韻
- 第6回 連濁
- 第7回 鼻濁音
- 第8回 ことばの単位(2)：語
- 第9回 語の基本：なりたち・構造・意味
- 第10回 語の文法：複合語・短縮語・新語
- 第11回 ことばの単位(3)：文
- 第12回 動詞の自他
- 第13回 日本語と英語の受動態
- 第14回 数量詞
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の態度・参加度...10% 課題・期末試験...90%

定期試験を受験しなかった場合は評価不能（－）となります。

ことばの科学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業時に指示した文献の講読
事後学習：授業で扱った内容に関する課題の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。私語をしないことを心に銘じること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代人のこころ【昼】

担当者名 /Instructor 石田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科, 田島 司 / 人間関係学科
田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代の心理学では、人間個人や集団の行動から無意識の世界に至るまで幅広い領域での実証的研究の成果が蓄えられている。この講義は、現代の心理学が明らかにしてきた、知覚、学習、記憶、発達、感情、社会行動などの心理過程を考察する。とくに、現代人の日常生活のさまざまな場面における「こころ」の働きや構造をトピック的にとりあげ、心理学的に考察し、現代人を取り巻く世界について、心理学的な理論と知見から理解する。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 動物のもつ自己意識【自己像認知、マークテスト】
- 第3回 自己の発見【自己意識、自己概念】
- 第4回 他者への気づき【アニマシー、バイオリジカルモーション】
- 第5回 他者の心を読む【共感、心の理論】・まとめと小テスト
- 第6回 青年期の自己観・他者観【エゴグラムテスト】【自己意識】
- 第7回 青年期の親子関係【独自性】【結合性】
- 第8回 青年期の友人関係【チャムシップ】【ふれあい恐怖】
- 第9回 青年期の自己の問題【アイデンティティ】【同一性危機】
- 第10回 まとめと小テスト
- 第11回 こころの科学1【科学としての心理学、統計】
- 第12回 こころの科学2【行動主義、客観性】
- 第13回 こころと行動【本能、生得的プログラム】
- 第14回 こころと他者【愛着、葛藤】
- 第15回 まとめと小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

課題（複数の小テストまたはレポート）・・・100%
各担当教員の指定する課題を提出しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、シラバスに記載されているキーワードについて調べておく。
事後学習として、内容の理解を深めるため配布資料やノートをもとに授業の振り返りを行う。

現代人のこころ【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

臨床心理士としての実務経験のある教員が、日常生活や臨床場面に関わる心理学の理論や各時期の心理的・発達の特徴、人間関係などについてオムニバス形式で解説する。

キーワード /Keywords

実務経験のある教員による授業

企業と社会【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BUS001F	○		◎		○
科目名	企業と社会		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

企業は、現代社会においてそれなしでは成り立たない存在です。諸個人は一生を通じて何らかの形で企業と関わっていかざるをえません。企業を経営するとは、企業の経営者だけの問題ではなく、企業に関わるすべての人間にとっての問題です。この授業の狙いは、社会の中で企業がどのような原理で存在し、これまで歴史的にどのような側面を有してきたのか、また逆にそのような企業が社会に対してどのような影響を与えているか、現代社会においてこれからの企業はどのように経営されていくべきかを考えることにあります。なお、本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は自宅ないし大学からインターネットに接続して、パソコンやスマートフォン等で授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

(到達目標)

【知識】企業と社会に関する諸問題を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】企業と社会の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】企業と社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

三戸浩・池内秀己・勝部伸夫『企業論 第4版』有斐閣アルマ、2018年、2310円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

三戸公『会社ってなんだ』文真堂、1991年(○)

三戸公『随伴の結果』文真堂、1994年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回ガイダンス 【企業の社会における意味の変遷】【6つの企業観】
- 第2回企業と「豊かな社会」【現代における財・サービスの豊かさ】
- 第3回「株式会社」の仕組み① 【株式会社の歴史】【株式会社の機能と構造】
- 第4回「株式会社」の仕組み② 【株式会社の機能と構造】【上場と非上場】
- 第5回社会における「大企業」の意味① 【大企業とは何か】【所有と支配】
- 第6回社会における「大企業」の意味② 【商業社会と産業社会】【企業の性格の変化】
- 第7回社会における「大企業」の意味③ 【官僚制】【科学的管理の展開】
- 第8回社会における「大企業」の意味④ 【環境問題】【随伴的結果】
- 第9回社会における「大企業」の意味⑤ 【コーポレート・ガバナンス】【企業倫理】
- 第10回「家」としての日本企業① 人事における日本企業特有の現象【日本企業と従業員】【契約型と所属型】
- 第11回「家」としての日本企業② 日本企業特有の組織原理【階級制】【能力主義】【企業別組合】
- 第12回「家」としての日本企業③ 日本企業の行動様式【日米の株式会社の違い】【企業結合様式の独自性】
- 第13回「家」としての日本企業④ 「家」の概念 【日本企業の独自性】【家の論理】
- 第14回「家」としての日本企業⑤ 今後の日本的経営 【原理と構造】【家社会】
- 第15回総括

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・・・60% 小テスト・・・40%

なお、小テスト・学期末試験をまったく受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

企業と社会【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキスト該当箇所を読んでおいてください。授業後に該当箇所を再読し、復習しておいてください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)
また、適宜、任意のレポート課題を出します。
また該当箇所の参考文献をよく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

状況に応じて臨機応変に対応したいと考えていますので、若干の内容は変更される可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

積極的な参加を期待しています。

キーワード /Keywords

財・サービス 株式会社 大企業 家の論理 社会的器官

SDGs8.働きがい・経済成長、SDGs12.作る・使う責任、SDGs15.環境保全、等の問題と強く関連する。

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS002F			◎		○
科目名	民主主義とは何か		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。

近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理想的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。独裁とは何か、なぜ権威主義国家でも選挙が行われるのかを知って初めて、民主主義を知ることにもつながる。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間における集合的決定を下すことに理解を深めることができる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっている。これに基づき、成績評価と授業計画では以下の4点を重点とする。履修者が適切に学修を進めた場合、以下4点の知的地平へと到達できることを本科目は約束する。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる。また、これらができているかどうか、成績評価の基準となる。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファーソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカ-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(civil司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。より総合的な民主主義指標であるところのV-dem指標を知り、それを通じて、たとえば、民主主義の場から女性を排除していた時期のスイスがどのように扱われているか、といった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護する側の議論として、シムペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらはらむ危険性)について理解を深める。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにがんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想である(一方批判もある)ことを理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

各授業後の小テスト/アンケート：40%

期末試験：60%

小アンケート回答なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示するので、復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、自習にあつては本シラバスも参考にすること(大事なキーワード類はすべて本シラバスに記入済である)

各回授業後に、その授業の振り返りもしくは次回授業の予習となる、1・2問の簡単な小テストもしくはアンケートを出す。これに回答すること。

なお、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

前期と後期で内容は(時事争点への言及を除き)同じである。自らの履修計画に沿って対応されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ゆえ込み入った法学・政治学の知識は必要ない(それがない人を想定して授業を行う)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史の知見は必要である。

キーワード /Keywords

SDG5, SDG16

民主主義とは何か【昼】

担当者名 /Instructor 中井 遼 / NAKAI, Ryo / 政策科学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS002F			◎		○
科目名	民主主義とは何か		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

民主主義 / デモクラシー / 民主制とは何か。まずそれは単に選挙で物事を決めるだけの事ではない。選挙は独裁国家でも実施されている。またそれは善なる無謬のイズムでもない。近現代において多くの抑圧や圧政は「民意」や「国民の意思」の美名のもとに執行されてきた（そして「みんなのためだから」「多数決だから」の名のもとに行われる他者への抑圧は我々の日常でも見られる行為である）。

近代的な自由民主主義はいかにして民主主義の害悪を最小化しつつ実際の決定メカニズムとして運用してきたのか。本講義では、理念とデータの両面から検討する。様々な民主体制がある中で、どのような状況においてその決定の品質が保たれたり、そもそも政治的安定性を維持できるのか、様々な先行研究に基づいて講義・検討する。近年の研究は、理想的には優れた制度とされていたものが実際には劣った現実をもたらしていた（理念とデータにギャップがあった）事なども示している。また、民主主義が何かを知るためには民主主義ではないものが何なのかも知らなければならない。独裁とは何か、なぜ権威主義国家でも選挙が行われるのかを知って初めて、民主主義を知ることにもつながる。これらを知ることを通じてこそ、我々は多様な人々の間における集会的決定を下すことに理解を深めることができる。

本学DP上の到達目標は「民主主義について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている」「民主主義に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している」となっている。これに基づき、成績評価と授業計画では以下の4点を重点とする。履修者が適切に学修を進めた場合、以下4点の知的地平へと到達できることを本科目は約束する。

受講者は本講義を通じて、1) 民主主義を冠する複数の思想や歴史を理解し、特に自由民主主義（リベラルデモクラシー）とそれに付随する基礎的諸概念と効果について、複数の相反する考え方も含め理解し説明できるようになる；2) なぜ民主主義が好ましいのか/好ましくないのか、いかなる状況や領域において民主主義は好ましいのか/あるいは特段優れているわけではないのか、複数の相反する理論や実証結果を整理し説明できるようになる；3) 民主主義下における様々な制度的バリエーションについて説明できるようになり、それが実際の民主政治にいかなる影響を与えるのか、実証的根拠とともに説明できるようになる；4) 非民主主義体制ともいえる独裁制がもつバリエーションも説明でき、それが体制変動・民主化に与える影響を理解し、民主主義体制との違いや独裁制下での選挙がもたらす効果について説明できる。また、これらができているかどうか、成績評価の基準となる。

教科書 /Textbooks

指定教科書はない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 宇野重規 (2019) 『民主主義とは何か』
- 待鳥聡史 (2015) 『代議制民主主義-「民意」と「政治家」を問い直す』中央公論新社
- マクファアソン, C.B. (田口訳 1978) 『自由民主主義は生き残れるか』岩波書店
- ダール, R. (高島・前田訳) 『ポリアーキー』岩波書店
- 坂井豊貴 (2015) 『多数決を疑う-社会的選択理論とは何か』岩波書店
- エリカ・フランツ (2021) 『権威主義：独裁政治の歴史と変貌』白水社

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクションと投票参加について理解する。授業全体の方針や進め方について受講者との間に共通理解をもつ。しかる後に、民主主義の基礎的な制度と見られる、選挙に関して、なぜ人は選挙にいったり行かなかつたりするのか、ライカ-の投票参加理論をもとに理解する。
2. 民主主義と隣接概念(自由主義・共和主義)を理解する。民主政-独裁政の差異と君主政-共和政の差異は理論的・現代的な意味において別物であることを理解する。本来別物の自由主義と民主主義が歴史的経緯によって結びついてきたことを知り、時には自由主義と民主主義が衝突しうることも理解する。そのため現代的自由民主主義は自由をまもる諸制度(cf司法の独立)が必然的に含まれることを理解し、現在の自由民主主義指標(Freedom House, PolityIV)は実際にそれらを含めて世界の民主主義度を計測していることを知る。
3. 民主主義の多義性を理解し、最小限定義を示したダールのポリアーキー概念を学び、それが重要視する「競争」と「包摂」の2次元を理解する。自由で競争があっても、そこに参加できるメンバーが少なければ民主主義とは言えない。より総合的な民主主義指標であるところのV-dem指標を知り、それを通じて、たとえば、民主主義の場から女性を排除していた時期のスイスがどのように扱われているか、といった問題を検討する。
4. 直接民主主義と間接民主主義の関係性を理解する。現代において標準的な代議制民主主義の思想と対抗言説を理解する。間接民主制を擁護する側の議論として、シムペーターの競争的民主主義観を理解し、他方で強力な対抗言説としての人民民主主義論・ポピュリズム(とそれらはらむ危険性)について理解を深める。
5. この回より理論を離れて歴史や実証を重視する。こんにちの世界が近現代史上はじめて民主政が多数派となっている事を知り、それをもたらした「第3の波」について学ぶ。ラテンアメリカ、旧共産圏、アジア、世界の様々な地域で一斉に起こった民主化の波は、様々な形態を通じて発生したことを知り、それが定着に成功したり失敗したことがある事を知る。
6. 民主政と独裁政(権威主義体制)を比較検討する。独裁政もまた一定の制度的パフォーマンスをもとに体制維持を合理化していることを知り、民主政と独裁政の間に制度的なパフォーマンスの差があるのか、当為の言説からではなく実際のデータに基づいて理解する。経済的成長に関する古典的研究から、ガバナンスにがんする最新の研究まで触れることを通じて、民主政はどのような領域において独裁政より優れているのか/あるいは優れていないのかを理解する。
7. 権威主義体制の下位分類について理解する。リンスの全体主義論・権威主義論を元に、民主政とは言えなくとも一定の政治的多元性が許容されている制度があることを理解する。現代の権威主義体制の3分類法(軍・議会/党・個人)を知り、それぞれの特徴と、特に議会を通じた権威主義体制があることを把握する。そこから、選挙は民主主義の専売特許でもなんでもなく、時には独裁体制の強化につながり民主主義を棄損するだけである場合もあることを理解する。
8. 政治体制の変動について理解する。第3の波に限らず、体制変動はいかにして発生するか幅広いデータを通じて理解する。また、権威主義体制下における体制変動とは必ずしも民主主義体制への変動(民主化)を意味しないことや、民主主義を維持することと民主化を達成することは別であることなどを理解する。ムーアの階級構造理論と、経済発展(6055ドル仮説)・格差との関連性についての基礎的な実証分析を理解の補助線とする。
9. 独裁制と民主政を理解したうえで、そもそも民主主義という意味決定手続きがいかにして正当化できるか複数の理論を知る。特に、最大多数最大幸福原理とコンドルセ陪審定理(CJT)について学ぶ。最大多数の最大幸福に基づく正当化は容易に多数派の暴政につながりうること、結果合理性の議論としてはCJTが重要な発想である(一方批判もある)ことを理解する。ただし民主政の維持という観点から見た際、選挙結果の不確実性/戦略性こそが重要だとする議論もあることを紹介する。
10. 民主政下の下位分類としての執政制度について理解する。執政長官をいかにして選ぶかという制度が極めて重要であることを知り、大分類として大統領制と議院内閣制について理解する。この際、日本の教科書的な三権分立の理解には不都合もあることを学ぶ。両執政制度に当てはまらない、半大統領制や首相公選制についても理解する。執政制度の差異は民主主義の維持との関連で非常に激しい議論があり、日本の中央政治と地方政治の理解にも重要であることを把握する。
11. 民主政下の下位分類としての選挙制度について理解する。選挙制度を分類する方法としては、特に定数と議席変換方式が重要であり、多数代表性=小選挙区制と比例代表制=複数選挙区制の基礎的な制度設計ないし制度効果について理解する。実際の選挙結果などをもとにその効果について確認する。特に日本の選挙と民主主義を考える上では、多数代表性&複数選挙区制(いわゆる中選挙区制)の効果の理解は不可欠であり、その制度がもつ理論的な効果と課題について理解する。
12. 民主政下の下位分類としての多数決型とコンセンサス型について理解する。同じリベラルデモクラシーの諸国の中でも、実際の民主政の運用は多様であり、様々な制度や運用の組み合わせによってバリエーションを示している。これを民主政の二つの理念系とその中間とみるLijphartの民主主義理論を学ぶ。実際のデータなどを通じて、世界の民主政のバリエーションがどのような次元で区別でき、どのような位置に置くことができるのか理解する。
13. 多文化社会における民主政の実現可能性について理解する。多数派の政治的意思に基づき政治的な決定と介入を行う民主政が、多文化社会において抱える困難を理解し、そのうえで、現実にも多民族国家でありながら民主政を維持してきた国々の観察から生まれた、コンソシエーション(多極共存型)デモクラシー理論を事例とともに習得する。他方で、本理論も多文化社会の権力分有としては万能ではなく、オルタナティブな議論もあることを理解する。
14. 情報通信技術の発展と民主主義の関連性について考える。広義のE-デモクラシーのうち、主に3つの課題について理解する。1つ目は特にSNSの発展が現在そして未来の民主主義に与える影響であり、楽観論と悲観論の双方を理解する。2つ目はインターネット投票であり、先行事例としてのエストニアの状況の解説とその問題点、日本や世界の状況について知る。3つ目はいわゆるAIと民主主義の問題であり、古典的なテクノロジーと民主主義の緊張関係の延長としてこの問題をとらえる視点を涵養する。

民主主義とは何か【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

15. ここまでの授業の整理として各授業内容の定着を図る。授業スピードの進展の調整・授業の休講/補講・授業内での合同イベントの実施など、イレギュラーがあった場合の調整としてもこの回(に相当する回)を用いて、調整を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

各授業後の小テスト/アンケート：40%

期末試験：60%

小アンケート回答なし+期末試験未受験の場合、評価不能「一」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回において参考文献を授業スライドに提示するので、復習やさらなる学習のためにそれを用いる事。また、自習にあつては本シラバスも参考にすること(大事なキーワード類はすべて本シラバスに記入済である)

各回授業後に、その授業の振り返りもしくは次回授業の予習となる、1・2問の簡単な小テストもしくはアンケートを出す。これに回答すること。

なお、事前事後学習とは単に座学に限られない。本講義で学習した知見をもとに、現実に自らが生まれたり住んでいる国や地方の政治について考えたり、受講者同士で議論を交わしたり、関連するTV報道・新聞記事・ネットメディア報道などを購読して自分なりの意見形成をすることが、きわめて重要な事前事後学習となる。

履修上の注意 /Remarks

前期と後期で内容は(時事争点への言及を除き)同じである。自らの履修計画に沿って対応されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教養科目ゆえ込み入った法学・政治学の知識は必要ない(それがない人を想定して授業を行う)。ただし、高校卒業程度の英語・世界史の知見は必要である。

キーワード /Keywords

SDG5, SDG16

社会哲学入門 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR110F			◎		
科目名	社会哲学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにはどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ ○プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- ・ 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- ・ S. サリー『ジュディス・バトラー』, 青土社
- ・ 米本昌平『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- ・ ○植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- ・ 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

社会哲学入門 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション：哲学って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：（ホッブス、ロック、ルソー）
- 第7回 【近代】人間って何？③：（カント）
- 第8回 【近代】資本主義って何？（マルクス）
- 第9回 【現代】公共性って何？（ハーバーマス）
- 第10回 【現代】正義って何？（ロールズ）
- 第11回 【現代】ケアって何？
- 第12回 【現代】優生思想って何？
- 第13回 【現代】フェミニズムって何？
- 第14回 【現代】ジェンダーって何？
- 第15回 確認テスト

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 65%
- ・ 確認テスト 35%

* 小テストを4回欠席した場合は、評価不能（ - ）となります。
* 確認テストを受験しない場合も、評価不能（ - ）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

文化を読む【昼】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科, 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT001F			◎		○
科目名	文化を読む		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

文化を研究するうえで、解釈する＝読む行為は、分野をこえる基本的な営みである。本講義では、さまざまな人間の表現をとりあげて、人文的な知見からどのようにそれが読み解けるのかを示していく。表象研究、宗教研究、異文化間教育、文学研究といった専門的知見から、その基本的な知識と方法を提示してみたい。“いま”、“ここ”にいる“わたし”にとって、異文化は時空をこえてひろがっている。そのことに鋭敏になるための気づきを用意するので、受講者は文化を読み解く柔軟な視点・姿勢を獲得してほしい。

◎表象

人間は情報を共有するために様々なメディアを通じた表現活動をおこなう。本講義ではそれを、表象(representation)とよび、理解と誤解の源泉として位置付けてみよう。本講義では、イメージとして生み出される表象をとりあげて、歴史社会的な文脈のなかで読み解いてみたい。

◎宗教

宗教は文化の重要な構成要素であり、人間社会の価値観と密接な関係にある。我々にとってなじみ深い神道を取り上げ、他宗教との比較の観点を交えながらわかりやすく講義したい。

◎異文化間教育

文化というもの、見える文化と見えない文化があり、本人が自覚しにくい見えない文化に気づくことが異文化理解の始まりである。異文化の理解があってはじめて、外国語のコミュニケーション能力が育つ。

◎日本近現代文学および出版文化

日本の文学・出版物とはいえ、読めばわかるというものではない。明治・大正・昭和時代ともなれば、もはや異文化である。同時代の文化について学びながらテキストと対話する基本姿勢を身につけてもらいたい。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】文化について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しない。授業担当者が必要に応じて資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が適宜指示する。

文化を読む【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 表象概念の説明
- 第3回 表象を読む①描かれた〈日本人〉-明治期風刺画をとりあげて-
- 第4回 表象を読む②描かれた〈日本人〉-ジャポニズムの流行をとりあげて-
- 第5回 表象を読む③演じられた〈日本人〉-オペラ『蝶々夫人』をとりあげて-
- 第6回 異文化を理解することは可能なか？(見えない文化と価値観)
- 第7回 バイリンガルはうらやましい？(「移動する子ども」のライフストーリー)
- 第8回 異文化トレーニング(他者との出会いを捉え直す)
- 第9回 神社の成立① 神社建築成立以前の神社
- 第10回 神社の成立② 神社の成立年代
- 第11回 日本の神 -神教との比較を通して
- 第12回 罪・戒律・禁忌
- 第13回 エー「陽だまりの詩」の解釈
- 第14回 幕末・明治の出版物(西南戦争風刺画を知る)
- 第15回 幕末・明治の出版物(西南戦争風刺画を読み解く)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート=100%(表象、宗教、異文化間教育、文学に関する4つのレポートすべてを提出しなければ、評定不可で成績は「-」とする)
各回において、課題コメントの提出によって出席(視聴)を確認する。提出状況は成績に加味される。なお、成績評価の方法、レポート・課題の提出方法については、担当教員ごとに注意事項など指示が出されることがあるので、それにしたがうこと。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、授業担当者が講義中に指示する。
事後学習は、各回の授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

本講義は録画オンデマンドによる遠隔授業を予定している。講義回によっては、講義方法が変更される場合があるが、その際にはmoodleにて告知する。
修正登録による受講者は、必ずさかのぼって講義を視聴してコメントを提出すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等に関する質問は、コーディネーターの河内までメールで質問すること。
講義内容に関する質問は、各回の授業担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

表象、メディア、宗教、異文化、日本近現代文学

芸術と人間【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR006F			◎		○
科目名	芸術と人間		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

20世紀後半から現在まで、生き存在し活躍する芸術家の人物像に焦点をあて、その活動する時代背景や社会との関係性を浮かび上がらせる。また美術の歴史の中での位置を確認し、同様の主題によって広がる同時代の動きにつなげてみる。毎回一人のアーティストを選び、作品や展覧会活動を追って紹介しながら、美術一般や現代社会との関係を探り、表現の原動力となるものを考察する。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会と芸術の関係性について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】芸術に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」
美術手帖編集部 美術出版社 2009
- 「現代美術史日本篇 1945-2014」著・中ザワヒデキ アートダイバー 2014
- 「アート・パワー」現代企画室 ボリス・グロイス著 石田圭子ほか訳 2017
- 「現代アートとは何か」河出書房新社 2018年 著・小崎哲哉

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 浜田知明 戦争の目撃者 戦争画と現代美術における反戦・反原発主題の作家と作品
2. ボルトンスキー「暗闇のレッスン」で生と死を見つめる
3. ジャン・デュビュッフェ ART BRUTの世界を開いて
4. 寺山修司 劇的想像力について
5. 高松次郎 存在/不在を見つめる芸術表現
6. フランク・ステラ ミニマルからプロジェクトまで
7. ロバート・スミッソン 大地の改造計画
8. 青木野枝 鉄と生きる 鉄と遊ぶ 彫刻のあり方いろいろ
9. ソフィー・カル フィクションとしての写真
10. 白川昌生 生涯にわたるマイナーとして
11. 山口啓介 原発に抗する
12. ヤノベケンジ 失われた遊園地
13. ナデガタ・インスタント・パーティ 人々を巻込むプロジェクト
14. 会田誠 道程
15. Chim↑pom 世界を公共空間として認識すること

芸術と人間【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(2回)・・・50% 毎回moodle上で課題をあげます。15回のうち2回分を選んで回答を送ってください。
レポート・・・40% 13-14回目の授業動画とmoodle アナウンスメントで出題します。学内メール添付で提出してください。
日常の授業への取り組み(出欠、提出物の形式が的確かどうか)・・・10%
課題2回とレポートの提出がそろって評価可能となります。提出ゼロは評価不能、課題のみ、レポートのみではD評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したか、また、展開させたいか、を問うものである。
近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

アートと社会、反戦・反原発、プライベート/パブリック、プロジェクト

現代正義論 【昼】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR003F			◎		
科目名	現代正義論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(遠隔授業)

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ～ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ～ 本講義の概観
- [第3回～第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ～ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ～ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ～ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ～ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ～ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ～ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ～ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ～ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ～ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ～ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ～ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ～ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回に扱うテーマについて、自ら予習をしておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

情報表現【昼】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF230F		○	◎	○	
科目名	情報表現		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、自分自身が伝えたい情報を表現すると共に、他者が表現した情報を理解するための知識や技術等を習得することである。現代社会では、多様な人々と協力して、目標を達成するための力が求められている。自分の想いを一方的に伝えるだけでなく、他者の存在を意識して表現することが重要である。また、他者の意見を丁寧に聞き、その想いや立場を理解して、協調しながら物事を進めていく能力も大切である。このため、本授業では、個人ワークやグループワークなどを行いながら、以下の3点の習得を目指す。

- ・プレゼンテーションやロジカルシンキング、スライドデザインなどに関する学びや疑問などを具体的に表現することができる。
- ・プレゼンテーションソフトを活用して、伝えたい情報を分かりやすく表現することができる。
- ・相手に伝わりやすい表現を用いて、積極的に発表することができる。

(到達目標)

【技能】情報を適切に発信する技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 話し方や書き方1【要約】
- 3回 話し方や書き方2【PREP】
- 4回 考え方：ロジカルシンキング1【課題発見】
- 5回 考え方：ロジカルシンキング2【原因分析】
- 6回 プレゼンテーション1【Power Point】
- 7回 プレゼンテーション2【発表】
- 8回 情報の収集【検索】【信頼性】【ドメイン名】
- 9回 情報の整理【プロット】【ストーリー】
- 10回 情報の表現1【デザイン】【レイアウト】
- 11回 情報の表現2【スライド作成】
- 12回 情報の発信1【発表練習】
- 13回 情報の発信2【発表】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

プレゼンテーションソフトPowerPointを用いた課題提出... 40%

積極的な授業への参加(グループワークや発表、振り返りレポートなどを含む)... 60%

課題や振り返りレポートなどの提出が全くない場合は、評価不能(－)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前に、それまでの授業内容について振り返っておくこと。授業終了後には、学んだことをノートにまとめて、課題や振り返りレポートなどを提出条件に従って締め切りまでに間に合うように提出すること。課題は、プレゼンテーションソフトを用いて実施するものもある。

情報表現【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は、「アカデミック・スキルズ」を履修しておくことが望ましい。
授業中に、グループワークや発表などを行ってもらおう。グループワークを行う際のグループ分けについては、その都度、授業中に説明する。自由に組んでもらう場合もあれば、指定する場合もある。何れの場合も相手の立場を尊重して、建設的なグループワークを行って欲しい。
授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性がある。詳細は、授業中に説明する。なお、受講希望者多数の場合、受講者数調整を実施し、受講可能な学生を決定する。詳細は、授業開始前に掲示にて説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ほぼ毎回、振り返りレポートを提出してもらい、受講生の質問や意見を反映させながら、授業を展開する。このため、積極的に授業に参加して欲しい。また、実際にコンピュータを操作して作成する課題もある。その際には、授業時間外にパソコン自習室や自宅のパソコンなどで積極的に取り組むこと。受講生の理解度に応じて、授業計画や授業内容を変更することがある。その場合は、授業中に説明する。

キーワード /Keywords

プレゼンテーション、ロジカルシンキング、スライドデザイン

倫理思想史 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR005F			◎		
科目名	倫理思想史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは、振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょうか。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死/尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

倫理思想史【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 【基礎】倫理学って何？
- 第3回 【基礎】義務論って何？(カント)
- 第4回 【基礎】功利主義って何？(ベンタム、ミル)
- 第5回 【基礎】徳倫理学って何？(プラトン、アリストテレス、マッキンタイア)
- 第6回 【基礎】メタ倫理学って何？
- 第7回 【確認テスト①】
- 第8回 【応用】討議倫理学って何？(ハーバーマス)
- 第9回 【応用】生命医療倫理学って何？①
- 第10回 【応用】生命医療倫理学って何？②
- 第11回 【応用】環境倫理学って何？(ネス)
- 第12回 【応用】動物倫理学って何？(シンガー、レーガン)
- 第13回 【応用】ケアの倫理って何？(ギリガン、キテイ)
- 第14回 【応用】情報倫理学って何？
- 第15回 【確認テスト②】

* ()の中は、その回に扱う主な思想家です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

言語・認知・コミュニケーション【昼】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程, 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
木山 直毅 / Naoki KIYAMA / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN210F			◎		
科目名	言語・認知・コミュニケーション				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

言語の習得やコミュニケーションにおける処理はどのように行われるのか。特に、それらはヒトの他の認知能力（視覚、聴覚）や活動（記憶、認識）と同じなのか。また、語彙や構文はどのようにして私たちの頭の中に蓄えられ、用いられるのか。これらの問いについて、言語学(特に生成文法理論と認知言語学)、認知科学、心理学、生物学の側面から学際的に考えていきます。

(到達目標)

DP3 思考・判断・表現力

言語と認知、コミュニケーションの課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(授業形態)

メディア授業（学習マネジメントシステムMoodleによる遠隔授業（オンデマンド））

受講に必要な機器：パーソナルコンピューター、インターネット接続・通信に必要な環境（WiFi、光ファイバー等）

教科書 /Textbooks

Moodle上の配布資料

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

実際の日程により順番が変わる可能性があります。第1回授業時配布の予定表を参照して下さい。

- 第1回 序・授業の進め方・担当者紹介（漆原・全員）
- 第2回 ことばはどのように身につけられるのか（言語習得）（漆原）
- 第3回 ことばはどのように処理されるのか（言語脳内処理・失文法）（漆原）
- 第4回 コミュニケーション行動の初期発達過程（税田）
- 第5回 発達の障害とコミュニケーション（税田）
- 第6回 コミュニケーションにおける発達支援（税田）
- 第7回 脳と心のなりたち（脳のはたらきを支配する遺伝子）（日高）
- 第8回 ことばはなぜヒトに特有なのか（言語と遺伝子）（日高）
- 第9回 ヒューマンエラー（松田）
- 第10回 アフォーダンスとシグニファイアー（松田）
- 第11回 モノの見方と言語表現（認知意味論）（木山）
- 第12回 比喩は文学表現か（メタファー）（木山）
- 第13回 文は語彙の足し算か（構文文法論）（木山）
- 第14回 ことばとジェンダー（漆原）
- 第15回 まとめ：担当者からの課題の講評など（全員）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み 20% （最終）課題 16% x 5 = 80%

すべての教員の（最終）課題を提出しない限り評価不能（－）となります。
なお、各回の確認クイズ・小課題が最終課題に含まれるかどうかは各担当教員によって異なります。
各担当教員の説明にしたがってください。

言語・認知・コミュニケーション【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：担当教員あるいはコーディネーターが指示した文献等の講読
事後学習：担当教員ごとの確認クイズ・小課題・レポート等の提出

履修上の注意 /Remarks

集中力を養うこと。
* 「ことばの科学」を受講していると理解が一層深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

戦争論 【昼】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210F	○		◎		○
科目名	戦争論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです(できれば)。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

成績評価の方法 /Assessment Method

1~3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト(6回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

戦争論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。また動画のコメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード /Keywords

異文化理解の基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 中原 ゆうこ / YUKO KAMBARA / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT110F	○		○	◎	
科目名	異文化理解の基礎		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では文化を「人間の生活様式を規定してきたもの」としてより幅広く考え、現代社会における多様な文化のありかたを基礎から考えることを目指す。（おそらく大部分が）北九州周辺に在住の大学生という受講者にとってあたりまえである「常識」もまた、それまで生きてきた文化のなかではごくまれたものである。本講義では、その受講者にとっての「常識」を問いなおしつつ、世界や日本の家族・親族関係のありかた、世界観を軸に文化を理解することの基礎を学ぶ。文化に関する日常的な知識は、応用的なものばかりなので、基礎をしっかりと学び、総合的な理解力、思索力を身につけることをめざす。

毎回、受講者から事前に提出された課題から読み取れる「現在、受講者が持っている文化に関する常識」を導入として広義を進める。本講義は、個々の文化の違いについて逐一学ぶものではない。身近なようでつかみどころのない文化をどうとらえるか、文化という既存概念を問い直すことで、自分が世界に対峙するための姿勢を身につける手掛かりを学んでほしい。

なお、本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。受講にあたっては、基本的なPC操作環境が整っていることが望ましいです。

（到達目標）

【知識】異文化を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】異文化理解に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、異文化理解に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。

予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』（いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能）の関連項目のリンクをMoodleに掲載するので、各自ダウンロードして読むこと。個人で事典を購入する必要はありません。なお、講義に関する映画（有料動画の場合もあります）を見に行くように指示することもあるので、その費用がかかるかもしれません（観に行けない人のための代替手段として、図書館所蔵の図書も用いた課題などは指示します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 綾部恒雄・桑山敬己2006『よくわかる文化人類学』ミネルヴァ書房
- 奥野克己（編）2005『文化人類学のレッスン』学陽書房
- 田中雅一ほか（編）2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社
- 波平恵美子2005『からだの文化人類学』大修館書店

※そのほか必要に応じて講義中に指示する。

異文化理解の基礎【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 導入：世界を理解するてがかりとしての文化

第I部 文化の基礎としての家族

第2回 伝統的家族の多様性

第3回 家族観の変容

第4回 親族という認識

第5回 親族・家族関係から社会関係への拡張

第6回 ジェンダーと伝統文化

第7回 文化相対主義の考え方

第8回 伝統文化について：構築主義と本質主義

第9回 レポートの書き方と課題レポート①の説明

第II部 文化と世界観

第10回 儀礼と世界観

第11回 ささまざまな信仰心

第12回 宗教と近代化

第13回 不幸への対処としての呪術

第14回 政教分離と世俗化

第15回 課題レポート①の解説と課題レポート②の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート(2回)60%、毎回の授業課題 40%

※毎回の授業課題は、提出時期や授業への貢献によって得点が変わります。

※一度も課題提出がない場合は評価不能(一)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 毎回何らかの予習・復習のための課題があります。計画的に取り組みましょう。
- ・ 予習復習のための資料として、『世界民族百科事典』『世界宗教百科事典』『社会学事典』(いずれも丸善出版、北九州市立大学図書館契約の電子ブックとして閲覧可能)などの関連項目を講義中に指示するので、各自ダウンロードして読むこと。
- ・ 講義に関連する映画やDVDなどの映像資料を授業時間外に視聴することを求めることもあります。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 詳しい評価方法や電子書籍の閲覧方法などは第一回の講義で説明します。
- ・ 提出課題において剽窃などの不正が発覚した場合、評価割合の枠を超えて大幅に減点することがあります。
- ・ オンデマンド配信となので、時間割通りに受講する必要はありません。ですが、毎週課題があり、その課題は提出時期によって満点が異なります。計画的に受講しましょう。
- ・ 本講義で養われる「コミュニケーション能力」は、今後の実践の機会に向けた考え方を身に着けることを目指しています。授業では、記述を通じたコミュニケーションを実践する機会がありますが、発話を通じた実践機会はないので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

○○人に××を贈るのはタブーである、といった個別具体的な異文化理解のマニュアルは、必要な時に努力すればおそらく入手できます。この授業では、文化が異なるとはそもそもどういうことかについて、もっと根本に立ち戻って考えたいと思います。あなたは、人間関係をマニュアルで対応しようとする人と、あなた個人の特性を理解しようとする人と、どちらを友人として信頼しますか？

キーワード /Keywords

文化、個人と集団、家族、ジェンダー、宗教、社会関係、SDGs10 不平等をなくす

人権論 【昼】

担当者名 /Instructor 柳井 美枝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC004F			○	◎	○
科目名	人権論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「人権問題」といえば特別なものというイメージを抱くかもしれないが、実際には誰にとっても非常に身近なものであって、「気づかない」「知らない」ことにより、自分自身の「人権」が侵害されていたり、無自覚的に他者の「人権」を侵害しているということがある。

本講義では「人権」についての基本的な概念や現存する人権問題、その社会的背景を考察した上で、自分にとっての人権とは何か、我々の社会が抱える人権問題とは何かについて共に考えていきたい。

(目標)

【思考・判断・表現力】人権に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につける。

【コミュニケーション力】他者と協同して、人権に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につける。

【自立的行動力】人権に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有する。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は自宅・大学などからインターネットを接続して、自身のPCやスマートフォンで、(または大学のPC自習室でイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められる。

教科書 /Textbooks

『人権とは何か』(横田耕一著/(公社)福岡県人権研究所発行 ¥1000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要な参考書は授業時に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 「自分にとっての人権課題」 オリエンテーション / 自分と人権との関わりを考える。
- 2 「人権とは何か」 人権とは何かについて解説する。
- 3 「人権獲得の歴史」 人権獲得の歴史について近代革命を中心に解説する。
- 4 「世界人権宣言と人権条約」 世界人権宣言採択の歴史的経緯や意義などを解説する。
- 5 「平和と人権」 戦争・平和についての解説。
- 6 「ハンセン病について」 ハンセン病についての認識を深めることや元患者を取り巻く社会の状況を解説する。
- 7 「教育と人権～識字問題」 読み書きができないことがもたらす人権侵害などを解説する。
- 8 「教育と人権～夜間中学」 教育を受ける権利の保障とは何かを事例を交えて解説する。
- 9 「部落問題について」 現存する部落問題の事例から部落問題とは何かを解説する。
- 10 「部落問題について」 当事者の思いを聞き、部落差別とは何かを考える。
- 11 「在日外国人と人権課題」 在日外国人の現状と人権課題を解説する。
- 12 「在日コリアンについて」 在日コリアンの歴史、現状、課題などを解説する。
- 13 「障害者と人権」 障害者の立場からみる人権課題を知る。
- 14 「アジアの人権状況」 アジアの人権問題を事例を交えて解説する。
- 15 「まとめ」 現代社会の人権課題に自分たちはどう向き合うのか、共に考える。

※5～14については、状況により順序が入れ替わる場合あり。

人権論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業に取り組む姿勢（毎回の課題）【50%】と前期末試験（またはレポート）【50%】により評価する。
- ・ 出席率（課題提出）7割以上の学生のみ前期末試験の受験（またはレポート提出）を認める。
- ・ 出席が7割に満たない場合の評価は（D）、5割に満たない場合は評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 講義配信後、毎回の課題提出有り、締め切りは厳守のこと
- ・ 教科書及び配布資料は熟読すること。
- ・ 新聞、テレビ、ネットなどを通して、私たちの社会で起きている様々な人権問題に関心を持ち、毎回のコメント用紙に反映させることが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

代筆などを含む不正行為を行った場合は、即座に出席が停止され、単位取得は不可となる。
7割以上の出席が満たされない場合は、単位が取得できない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分の学ぶ権利を意識して授業に取り組んでほしい。
コロナの影響で、昨年に引き続きオンデマンドで講義を行います。何度でも視聴できるなど、オンデマンドの利点をいかして、講義にのぞんで欲しい。質問や問い合わせには個人メールで常時対応します。

キーワード /Keywords

「すべての人」「人間らしく生きる」
「SDGs 4 質の高い教育を」「SDGs 10 不平等をなくす」「SDGs 16 平和と公正」

ジェンダー論 【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GEN001F			○	◎	○
科目名	ジェンダー論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

「女性はわきまえているべき」、「男性は強くあるべき」、こんな言葉をどこかで耳にしたことはありませんか。みなさんの性自認がどうであれ、これを聞いて、納得した人もいるかもしれませんが、違和感を覚えた人もいるでしょう。しかし、どうして納得したり、違和感を覚えたりするのでしょうか。それは、私たちはだれもが、「女性はこういうものだ」「男性はこういうものだ」という性差、知識や規範、すなわち「ジェンダー」を意識しているからです。

本講義では、このジェンダーが何なのかを、思想、歴史、政治、社会運動などとの関係から理解することを目指します。そのなかで、多様な理解を得るためや、現状を知るために、ジェンダー平等やLGBTQをめぐる第一線で活躍する有識者や運動家へのインタビューも行います。

この講義は、遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

《思考・判断・表現力》ジェンダーに関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

《コミュニケーション力》他者と協働して、ジェンダーに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

《自立的行動力》ジェンダーに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

特にありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中村敏子『女性差別はどう作られてきたか』、集英社新書、2021
- 西井開『『非モテ』からはじめる男性学』、集英社新書、2021
- 森山至貴『LGBTを読みとく：クィア・スタディーズ入門』、ちくま新書、2017
- 千田有紀ら『ジェンダー論をつかむ』、有斐閣、2013

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション：ジェンダーって何？
- 第2回 ジェンダー規範①：近代国家と家長制
- 第3回 ジェンダー規範②：家族と母性
- 第4回 フェミニズムの変遷
- 第5回 ライフプラン教育と性の管理
- 第6回 ジェンダー規範③：新しいジェンダー規範、モテ
- 第7回 ポストフェミニズムと女子力：
- 第8回 ジェンダー規範④：男らしさ、非モテ
- 第9回 確認テスト①
- 第10回 ジェンダーとセックス
- 第11回 セクシャルマイノリティ
- 第12回 ジェンダーとセクシャリティ：排除の構造
- 第13回 セクシャルマイノリティの排除の実例と包摂の試み
- 第14回 トランスジェンダーバッシング
- 第15回 確認テスト②

ジェンダー論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能 (-) となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクション (導入) ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります (今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。

キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 5. ジェンダー平等、SDG 10. 不平等をなくす

サービスラーニング入門I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR110F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は、地域貢献活動（ボランティア活動）に参加するための入門科目として、以下の点を目的としています。

- ・ サービス・ラーニングに向けた基本的知識の学習
- ・ サービス・ラーニングに向けた実践的方法論の習得
- ・ 地域活動に参加している学生との交流を通じた地域活動に対する参加意欲の向上
- ・ 地域活動の実践と学び

また、この講義が目指す到達目標は以下のとおりです

- 【知識】 サービス・ラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。
- 【自立的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

地域貢献活動の経験を自らの学びや成長につなげていくための授業となります。
関心を持たれた方は受講されて下さい。

教科書 /Textbooks

レジュメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 サービス・ラーニングの考え方
- 第3回 サービス・ラーニングとボランティア
- 第4回 サービス・ラーニングを行う理由
- 第5回 サービス・ラーニングとしての地域貢献活動（事例紹介）
- 第6回 サービス・ラーニングを通じた自己の学びと成長（先輩登壇）
- 第7回 サービス・ラーニングと地域の変化
- 第8回 これからの社会とサービス・ラーニング
- 第9回 日本における社会貢献活動の歴史
- 第10回 経験学習について
- 第11回 サービス・ラーニングの実践に向けて
- 第12回 良き市民としてのサービス・ラーニング
- 第13回 受講生による実践報告（1）
- 第14回 受講生による実践報告（2）
- 第15回 まとめ

サービスラーニング入門I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55%) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45%) = 合計100%評価

第一回講義のレポートを未提出の方は評価不能(-)とします。
また、実際の地域活動に参加されなかった場合も評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。
講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題(関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー)を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください(自習時間の目安は60分程度)。
受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は受講者による「サービス・ラーニング」への参加(ボランティア活動の実施)を前提としています。受講生は、自ら「サービス・ラーニング」(ボランティア)を受け入れてくれる団体を探し、受け入れの交渉を行ない、その後、実際に活動をしてもらいます。このような意味から、本講義では受講者の積極性や自発性を必要とします。そのため、授業の第一回目に、本科目を受講する理由や学びに向けた思いなどを「事前レポート」(1500字程度)として書いてもらい、それを第二回目の授業の際に提出してもらいます。このレポートの提出は単位取得のための必須条件としています。このように本科目では受講生の積極的な参加意欲が必要となりますので、履修の際はご留意下さい。

さらに本講義では、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査や面談のためのアポイント、学習計画書の作成や実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことが必要になります。詳細は第一回のガイダンスの際に説明しますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本科目は全学組織である地域共生教育センターが提供する科目です。この科目をきっかけとして地域活動へ参加していただきたいと思います。また、この講義は第二学期開講の「サービス・ラーニング入門II」と連動していますので、続けて履修されることを望みます。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び

SDGsとの関連について

4. 質の高い教育を 10. 不平等をなくす 16. 平和と公正 17. パートナーシップ

サービスラーニング入門Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 石川 敬之 / 地域共生教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR180F	○			◎	○
科目名	サービスラーニング入門Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業の目的は、受講生が実際に地域活動に参加し、その実践をふりかえることでより深い学びを得るところにあります。授業では、各学生が自らの参加が参加した「サービスラーニング」の活動内容とそこでの学びを報告し合い、互いの議論を通じて、学習と理解を深めていきます。この授業を通じて多くの学びと気づきを得られることを期待します。

(到達目標)

【知識】 サービスラーニングを理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】 社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】 地域貢献活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

レジメを配布します。
講義時に適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義時に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 サービス・ラーニング概論①(サービスラーニングの理論枠組み)
- 3 サービス・ラーニング概論②(実践としてのサービスラーニングについて)
- 4 サービス・ラーニングの実践と学び①(受入先の探索)
- 5 サービス・ラーニングの実践と学び②(実践にむけての心構えと準備)
- 6 サービス・ラーニングの実践に向けて①(実習先での学習計画の作成・提出)
- 7 サービス・ラーニングの実践に向けて②(学習計画書の修正・提出)
- 8 計画発表会①
- 9 計画発表会②
- 10 実践報告①
- 11 実践報告②
- 12 実践報告③
- 13 実践報告④
- 14 受講生による振り返り
- 15 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

「第一回講義時のレポート+実践報告最終レポート」(55%) + 「授業内での小テスト+授業への取り組み」(45%) = 合計100点評価

第一回講義のレポートを未提出の方は評価不能(-)とします。

また、実際の地域活動に参加されなかった場合も評価不能(-)となります。

サービスラーニング入門II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「サービス・ラーニング」を実際に行うにあたっては、事前の学習、綿密な準備、計画を必要とします。講義内では、その回の内容に関連した復習用の自習課題（関連する映像資料や書籍・新聞記事などのレビュー）を提示しますので、次回の講義までに各自行ってきてください（自習時間の目安は60分程度）。受け入れ先についての下調べや打ち合わせのための準備もそうした作業に含まれます。また「サービス・ラーニング」後についても、その活動内容の記録、報告書の作成、および、自らの振り返りなどが必要になります。

履修上の注意 /Remarks

本科目は、前期の「サービス・ラーニング入門I」と連動しています。そのため講義内容も「サービス・ラーニング入門I」を履修した学生を対象にしたものとなります。ですので、受講希望者は、原則、1学期の「サービス・ラーニング入門I」を履修してから本科目を登録するようにしてください。「サービス・ラーニング入門I」の単位を取得していない学生の履修を認めないわけではありませんが、上述のように「サービス・ラーニング入門I」の内容を踏まえた講義になりますので、「サービス・ラーニング入門II」から履修しようとする学生に対しては、授業のはじめに別途課題を課します。そして、その課題+「サービス・ラーニング入門IIの課題」の両方を提出して、初めて単位を認めるかたちとします。以上の点を十分に留意し履修登録して下さい。

また本講義は、講義時間外の学習・作業も多くあります。受け入れ先の調査やアポイント、学習計画書の作成、実習に向くための事前準備などです。こうした課題をこなしつつ、講義と実習の両方に真摯に取り組むことを望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「サービス・ラーニング入門I」で得られた学びをより深めていくことを目的としています。社会への貢献活動を通じて多くの学びと喜びを得てください。

キーワード /Keywords

地域活動、ボランティア、経験を通じた学び、ピアディスカッション

SDGsとの関連について

4. 質の高い教育を 10. 不平等をなくす 16. 平和と公正 17. パートナシップ

市民活動論 【昼】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしなが授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
 - 2回 検討の枠組みについて
 - 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
 - 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
 - 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
 - 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
 - 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
 - 8回 市民活動の<再生>② - 市民
 - 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
 - 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
 - 11回 中間まとめ
 - 12回 北九州市における市民活動のうねり
 - 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
 - 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
 - 15回 全体まとめ
- ※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 50%
期末試験... 50%

最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

地域福祉論 【昼】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW011F	○			◎	○
科目名	地域福祉論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

（到達目標）

【知識】 地域福祉を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】 他者と協働して、地域福祉に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】 地域福祉に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

坂本毅啓（2022）『地方の地域福祉論』大学教育出版、2,800円＋税（予定価格）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○志賀信夫・ 畠中亨（2016）『地方都市から子どもの貧困をなくす 市民・ 行政の今とこれから』旬報社 1,400円＋税

一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規 2,900円＋税

○難波利光・ 坂本毅啓編（2017）『雇用創出と地域-地域経済・ 福祉・ 国際視点からのアプローチ-』大学教育出版 2,400円＋税

その他、適宜授業中に紹介します

授業計画・ 内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的コード】
- 4回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 5回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域包括ケアと地域共生社会【地域包括ケア、多機関協働、生活困窮者自立支援】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 災害と地域福祉活動【非常時や災害時における法制度、福祉避難所、災害ボランティア】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題の提出及び中間試験・・・40% 期末試験・・・60%
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書や参考文献の講義内容に関する箇所を読み込んだり、関連する情報の収集などを行って下さい。
事後学習としては、講義で学んだことを通して、自分の住んでいる地域について調べたり、新聞等の記事に書かれている地域福祉に関するニュースについて調べて考察をしてください。授業中に課題が出た場合は、必ず取り組むようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、基盤教育科目として開講される科目ですが、地域創生学群において社会福祉士養成課程における科目「地域福祉の理論と方法」に含まれる科目のひとつ（もうひとつは地域創生学群専門科目の「コミュニティワーク論」）でもあります。2019年度以降の地域創生学群入学生で、社会福祉士国家試験受験資格取得を希望される場合は、この科目の履修が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これからも地域で生活をしていくための教養として、「福祉のまちづくり」について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

SDGs1.貧困をなくそう、SDGs3.健康と福祉を、SDGs4.不平等をなくす、SDGs11.まちづくり、福祉のまちづくり、少子高齢化、子どもの貧困、コミュニティソーシャルワーク、社会福祉士

障がい学【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW001F	○		○	◎	
科目名	障がい学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「障害」という否定的なイメージで捉えられることが少なくないが、本講義では、「文化」といった視点から「障害」という概念を捉えなおし、具体的には発達障害である自閉スペクトラム症（障害）を取り上げながら、異文化が共存・共生していくための阻害要因や問題点を浮き彫りにしていくとともに、共存・共生社会を実現するための考え方を学ぶ。
障害をテーマとした映画等にも随時ふれながら、身近な問題として考えていく。

(到達目標)

【知識】障がいについての様々な捉え方を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】障がいの捉え方に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、障がいに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準。
- 第2回：「障害」に対するイメージ【障害イメージ】
- 第3回：「障がい学」とは【障害学】【障がい学】
- 第4回：障害の捉え方【医療モデル】【社会モデル】【文化モデル】
- 第5回：自閉スペクトラム症(障害)とは①自閉症の特性【自閉症】
- 第6回：自閉スペクトラム症(障害)とは②自閉症観の変遷【自閉症】
- 第7回：自閉スペクトラム症(障害)支援方法①構造化の意味【構造化】
- 第8回：自閉スペクトラム症(障害)支援方法②コミュニケーション支援【コミュニケーション】
- 第9回：合理的配慮とは【合理的配慮】
- 第10回：文化モデル的作品DVDの視聴①前半【文化モデル的作品】
- 第11回：文化モデル的作品DVDの視聴②後半【文化モデル的作品】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【3つのモデルとの関連で】
- 第13回：3つのモデルの関係性【3モデルの在り方】
- 第14回：共生社会へ向けての課題、自己への問いとしての障がい学【共生社会】【自己への問い】
- 第15回：質問日。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。
レポートを提出した受講者に対してはS~D評価。未提出者に関しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

障害関連の報道等に常に関心をもって接すること。具体的には、授業で、その都度、支持する。

履修上の注意 /Remarks

特になし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs「3. 健康と福祉」「16. 平和と公正」「17. パートナーシップ」

共生社会論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW200F	○		○	◎	
科目名	共生社会論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「共存」「共生」という言葉をキーワードとし、地域社会から国際社会における、共生のあり方を考え、実現可能性について探ってみる。特に、異質なものを異文化ととらえ、異文化の共存・共生のあり方を掘り下げの中で、この問題に迫っていききたい。

(到達目標)

【知識】共生社会の成立を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】共生社会の成立に関する課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、共生社会に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、授業の概要・評価基準
- 第2回：「共存」「共生」の意味、共生社会の阻害要因【共存】【共生】【オリエンタリズム】
- 第3回：異文化共存の方法【一元論的理解VS.多元論的理解】
- 第4回：異文化共存の阻害要因①【オリエンタリズム関連DVD視聴】
- 第5回：異文化共存の阻害要因②【オリエンタリズムとは】
- 第6回：オリエンタリズムの克服方法【文化相対主義】
- 第7回：障がい者との共生、「障害」の捉えかた【文化モデル】
- 第8回：自閉症とは【自閉症】
- 第9回：自閉症関連DVDの視聴（医療モデル的作品）【医療モデル】
- 第10回：医療モデル的作品の評価【医療モデル的作品の特徴】
- 第11回：自閉症関連DVDの視聴（文化モデル的作品）【文化モデル】
- 第12回：文化モデル的作品の評価【文化モデル的作品の特徴】
- 第13回：両作品の比較【3つのモデルとの関連で】
- 第14回：共生社会から共活社会へ【共生社会】【共活社会】
- 第15回：まとめ、質問。

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート(100%)。
レポートを提出した受講者に対してはS~D評価。未提出者に関しては一評価。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示するが、事前学習としては各回のキーワードに関し、インターネット・サイトなどで調べておく。事後学習に関しては、事前に調べた内容と授業の内容の相違をまとめる。

履修上の注意 /Remarks

本講義受講に当たっては、「国際学入門」や「障がい学」を既に受講していることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

基盤演習I (防衛セミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 戸蒔 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

別称「防衛セミナー」。我が国の防衛問題を考えてみることを目的とする。

この授業は、自衛隊福岡地方協力本部の全面的協力によって成立する、全国的にみても先例のない非常にユニークな試みである。経験豊富な幹部自衛官（陸海空、尉官・佐官クラス）をほぼ毎回（ゴールデンウィーク明けから）招聘し、それぞれの立場と経験に基づくレクチャーをしてもらい、レクチャーについての質疑応答を行う。

この科目では、防衛問題に関する総合的な知識を獲得し、この分野における課題発見・分析能力を養い、生涯にわたり継続して国防問題に向き合っていける能力の獲得を目指す。また、少人数の演習形式であるから、コミュニケーション能力の獲得も視野に入れる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『防衛白書』、その他は適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (戸蒔)
- 2回 日本の防衛と自衛隊 (戸蒔)
- 3回 陸海空自衛隊について (戸蒔)
- 4回 自衛隊の任務、総論 (戸蒔)

5回～14回 自衛官の招聘、各論のレクチャー

現段階でゲストは調整中であるが、陸海空の幹部自衛官で比較的若手を中心にする計画である。スケジュールは第1回のガイダンスで発表する予定。

15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度... 50% レポート... 50%

※3回以上の無断欠席、レポート未提出の場合、いずれも「評価不能(-)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日ごろから新聞をよく読む習慣を身に付けておくこと。

授業中、ノートをよくとり、授業後に必ず読み返しておくこと。

基盤演習I (防衛セミナー) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

履修上の注意 /Remarks

上記の注意を必ず守ること。防衛問題に関心がない者でも受講を歓迎する。

※授業の運営方法、評価方法、コロナ対応などについて、初回のガイダンスで詳しく話しますので、履修を希望する人は絶対に出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

基盤演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 演習
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

発達障害に対する理解を深め、支援の在り方について考える。特に自閉スペクトラム症(障害)を取り上げ、演習・グループワーク等もとりまぜながら、共生のあり方を探っていく。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

その都度指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

その都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、評価方法の説明【オリエンテーション】
- 第2回：発達障害とは【発達障害】
- 第3回：自閉スペクトラム症(障害)とは【自閉スペクトラム症】
- 第4回：自閉スペクトラム症の理解・対応に関する歴史の変遷【歴史の変遷】
- 第5回：障害の捉え方【文化モデル】
- 第6回：支援の基本(1) 障害特性の理解【障害特性】
- 第7回：支援の基本(2) 構造化の意味と意義【構造化】
- 第8回：構造化演習【演習】
- 第9回：支援の基本(3) コミュニケーション支援の基本的考え方【コミュニケーション支援】
- 第10回：応用行動分析的アプローチ【応用行動分析学】
- 第11回：支援の基本(4) 行動問題への対応【行動問題、冰山モデル】
- 第12回：支援の基本(5) 自己認知・理解プログラム【自己認知・理解】
- 第13回：支援の基本(6) 余暇支援、QOLの充実【QOL】
- 第14回：支援計画の立て方【支援計画】
- 第15回：まとめ～共生社会から共活社会へむけて～【共生社会、共活社会】

成績評価の方法 /Assessment Method

議論、演習等における参加(貢献)度30%。

課題への対応70%。

出席が全くない受講者に対しては、一(評価不能)評価とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマとなることに関しインターネット等で調べてくる。

事後学習としては、学習内容をその都度まとめてみる。

履修上の注意 /Remarks

1年時に「障がい学」を履修済みであることが望ましい。

基盤演習I (発達障がいセミナー) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGs 「3 . 健康と福祉」 「16 . 平和と公正」 「17 . パートナーシップ」

基盤演習I【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES201F			○	◎	○
科目名	基盤演習 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度 (100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能(-)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておく必要があります。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々と協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本基礎演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、
忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、
学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

基盤演習Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 2学期 /Semester 2学期 演習 /Class Format 授業形態 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES202F			○	◎	○
科目名	基盤演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業では、ゼミ形式で、ジェンダー論・フェミニズム論に関連する1冊の図書を通読していきます。図書は、研究書レベルのものになります。複数図書の候補を出しますので、参加者の興味関心で初回に決定したいと思います。なお、毎回1200字程度のレジユメ作成が必須となり、課題の量が比較的多い授業となりますので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
《コミュニケーション力》他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。
《技能》設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

初回のイントロダクションのなかで決定します。
*教科書の価格は～4,000円ほどのものを予定しています。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション①：この授業について、課題図書の決定
- 第2回 イントロダクション②：レジユメの作り方、進め方
- 第3回 演習
- 第4回 演習
- 第5回 演習
- 第6回 演習
- 第7回 演習
- 第8回 演習
- 第9回 授業の中間まとめ
- 第10回 演習
- 第11回 演習
- 第12回 演習
- 第13回 演習
- 第14回 演習
- 第15回 まとめ：レポートについて

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・各回のレジユメ作成 100%
- * レジユメを4回以上提出しなかった場合は、評価不能 (-) となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・レジユメの作成
- ・前回範囲の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 初回は、授業全体の説明に加えて、課題図書を決定するので必ず参加してください。
- ・ この授業では、毎回1200字程度のレジユメの作成が全員必須となり、課題の量が比較的多くなるので、他の授業との兼ね合いを十分考慮したうえで履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

みなさんと同じ本を読み、議論できることを楽しみにしています。

キーワード /Keywords

ジェンダー、フェミニズム、LGBT、SDG 8. ジェンダー平等

基盤演習Ⅱ【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES202F			○	◎	○
科目名	基盤演習Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

地域共生教育センターの学生運営スタッフとして、地域共生教育センターおよび地域にて実習を行います。センターの運営業務や地域活動に参加しながら、様々な知識やスキルの獲得を目指します。また実際の活動に取り組む際のマナーや心構えなども学んでいきます。多くの活動にかかわり、かつその振り返りを行うことで、座学だけでは得られない学びを経験していきます。

到達目標

- 【コミュニケーション力】他者との協働によって、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】地域への関心を持ち続け、地域創生に向けて主体的に取り組む意欲を有している

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回の各回では、地域共生教育センター、および地域にて以下のような実践活動を行う。

- ①学生運営スタッフとして地域共生教育センターの運営業務を担う。
- ②地域活動プロジェクトのメンバーとして地域の方と一緒に地域活動を行う。
- ③週一回の全体ミーティングにて報告、議論を行う。
- ④短期の地域ボランティア活動に参加する
- ⑤上記以外で必要となる諸活動

第15回 振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

実習に対する参加貢献度(100%)

3回以上無断欠席した場合は、評価不能(-)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

実習に参加する際には、事前に自らの担当業務内容をしっかりと把握し、準備しておくことが必要です。そのうえで、当日、スムーズに業務に入れるようにしてください。また実習後は、当日の活動の振り返りを行い、反省点などを踏まえて、次の実習に活かせるようにして下さい。他の実習メンバーへの申し送りや情報共有なども重要な作業となります。

履修上の注意 /Remarks

本演習は地域共生教育センターでの実習となります。
センターの運営スタッフとして幅広い業務を担い、その活動を通じて自律的な学びに取り組んでもらいます。
地域共生教育センターでは、地域の方々との協働プロジェクトを多く進めていますので、ミーティングへの出席や資料づくり、また報告書の作成など、授業時間以外の活動が多くあります。
履修者は、責任感を持って、事前、事後活動にも積極的に取り組んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、通常の演習とは異なり、実習の形をとります。
地域での活動も多くありますので、実習時間以外にも多くの活動が存在します。
そのため細かなスケジュール管理が必要になってきますが、忙しくて大変である半面、仲間との協働作業を通じては多くの知識や経験を得られます。
関心のあるかたは、一度、地域共生教育センター(421Lab.)に来て、学生運営スタッフから直接話を聞いてみてください。
また、421Lab.が企画する各プロジェクトに参加されるもの良いかもしれません。

キーワード /Keywords

地域活動、協働、セルフマネジメント、リフレクション

基盤力応用 (日本近代史演習) 【昼】

担当者名 藤田 俊 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES301F			○	◎	△
科目名	基盤力応用		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

グローバル化が進むにつれて、国内外で歴史の捉え方が議論されることが多くなっています。そうした情勢を踏まえ、本授業では、日本近代史研究（主に明治～昭和戦前期の政治・外交・軍事・社会）の通説の典拠に迫って知識を深め、また、専門書や史料に触れることで通説を相対化し、歴史を多角的に捉える力の修得を目標とします。

上記を通して、資料の分析、研究発表の方法、議論の進め方などを身に付けることを目指します。

(到達目標)

思考・判断・表現力：設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
コミュニケーション力：他者と協働して、設定されたテーマに関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身に着けている。
自立的行動力：設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

指定はありません。授業では、教員作成のレジュメ・史料、画像、映像などを使用します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献、史料などは授業の中で適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 歴史と歴史学研究―「歴史」の遍在と「史実」の多義性
- 第3回 日本近代史をめぐる近年の情勢
- 第4回 日本近代史研究と史料①―主要な公刊史料と史料保存機関
- 第5回 日本近代史研究と史料②―様々な史料の存在
- 第6回 日本近代史研究と史料③―史料の読解・活用
- 第7回 担当教員による発表
- 第8回 履修者による発表①【例：大正政変、対華二十一箇条要求】
- 第9回 履修者による発表②【例：米騒動、シベリア出兵】
- 第10回 履修者による発表③【例：普通選挙、治安維持法】
- 第11回 履修者による発表④【例：満洲某重大事件、ロンドン海軍軍縮会議】
- 第12回 履修者による発表⑤【例：満洲事変、五・一五事件】
- 第13回 履修者による発表⑥【例：日中戦争、日米開戦】
- 第14回 履修者による発表⑦【例：終戦工作、「聖断」】
- 第15回 総括・まとめ

※授業予定は、履修者の人数、興味・関心、習熟度などに応じて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点（授業への取り組み、小課題、発表の内容など）100%
なお、特段の事情なく発表担当回の場合は、評価不能（－）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に資料に必ず目を通し、議論に参加できる状態で出席してください。

基盤力応用 (日本近代史演習) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
共生と協働科目

履修上の注意 /Remarks

本授業では日本近代史研究に関する専門事項を取り上げます。日本近代史にまつわる国内外の諸問題や研究対象としての歴史に興味・関心がある学生を対象とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ライフ・デザイン特講B (海外学習プログラム) 【昼】

基盤教育科目
 教養教育科目
 ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 友松 史子 / 国際教育交流センター, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科
 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPL207F					◎

科目名	ライフ・デザイン特講B	※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連
-----	-------------	----------------------------------

授業の概要 /Course Description

本授業は、国際教育交流センターが主催する教員引率型の海外学修プログラムのための科目です。授業では下記海外学修での各活動で、主体的に学び、積極的に行動を起こすための下地を形成することを目標とします。また、海外の学びや体験からその後、さらなる海外体験へつなげる意欲を高めることも目指します。授業の前半は海外学修で設定されているフィールドワークテーマに関連するトピックについて理解を深め、後半は渡航先で予定している活動の準備を進めます。その他、渡航準備のためのポイントや海外での危機管理なども学び海外学修に向けた心構えを形成していきます。そのため、授業を受講するだけでなく、本授業に付随する短期海外学修にも参加し、座学で学んだことを渡航先の活動に活かし、日本ではできない貴重な体験を得ることを通じ、その後の学修や学内外での活動につなげてください。なお、海外学修の実施に際しては、出国から帰国まで教員が引率し、また渡航準備のための細やかな指導も行います。大学最初のチャレンジとして、海外経験のない学生や海外渡航に不安のある学生も安心して参加できる入門コースです。

○海外学修について

2022年度は次の海外学修の実施を予定しています。

- <学修テーマ> 韓国と世界を結ぶ国際都市仁川の歴史と伝統、そして今後の展望を学ぶ
- <学修活動先> 韓国・仁川広域市他
- <活動連携先> 仁川大学校、仁川市役所など
- <渡航時期・期間> 2022年9月下旬または2023年2月中旬～下旬にかけ1週間程度。(うち現地活動日数は5日間程度)
※履修登録学生には具体的な日程について改めて連絡します。
- <参加費用> 8万8,000円程度(航空費用、宿泊費)
- <募集人数> 16-20名
- <現地での活動内容(予定)>
 - ・仁川市役所訪問、仁川国際空港見学を通して国際港湾都市仁川を知る
 - ・仁川旧市街で日韓の歴史、韓国近代史を学ぶ
 - ・仁川大学校訪問、学生交流
 - ・現地市民団体とのボランティア活動またはフィールドリサーチ
 - ・ソウル近郊視察 など

【留意事項】

- ※韓国の海と空の玄関口である仁川広域市は国内第3番目の都市で、2000年に入ってから市内松島(ソンド)を経済自由区域に指定し、グローバル企業や国際機関、海外大学を誘致し一大国際都市を形成しています。(仁川大学校もその区域の一角にあります)そんな仁川広域市は北九州市とは姉妹都市関係にあり、この関係性を活かした活動を盛り込んでいく予定です。
- なお、上記の活動内容は訪問先の事情やCOVID-19の影響などにより変更となる可能性もありますので、予めご了承ください。活動日程詳細は集中講義時に紹介します。
- ※渡航時期については、COVID-19の感染状況によっては2024年度以降に変更することがあります。見直しについては集中講義の際に説明をします。
- ※海外学修帰国後、活動の振り返りをする時間をもちます。(日程は帰国時に調整)

○韓国・仁川コースの到達目標

- 様々なフィールドでの活動を通じこれまでと異なる視点を得、それぞれの価値観や考え方の幅を広げるとともに自律的に考え、行動する力を伸ばします。
- 各活動での取組みにおいて設定されたテーマに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有していること。
- 現地活動において、コミュニケーション力を駆使した現地での交流や経験を通じ、異国や異文化への理解を深めるとともに、自国や自文化、自己のアイデンティティについてもさらに掘り下げて考えるきっかけにします。
- 海外から日本を見る、海外で日本の事柄を説明するといった体験を通じ、日本について改めて知る機会とし、また、アジア地域での日本のプレゼンスや役割について考察し、自分なりの見解を持てるようにします。
- 帰国後の学修において、自己の経験や成長を振り返り、言語化し、他者に適切に発信できるとともに、それらをその後の学生生活に活かしていく積極的な姿勢を養います。

教科書 /Textbooks

教科書はありません。授業に必要な資料は適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 新城道彦,浅羽祐樹,金香男,春木育美(2019)『知りたくなる韓国』有斐閣.
- ・ 木宮正史(2021)『日韓関係史』岩波書店(岩波新書).
- ・ 伊東順子(2022)『韓国カルチャー隣人の素顔と現在』集英社(集英社新書).
- ・ 鳥飼玖美子(2021)『異文化コミュニケーション学』岩波書店(岩波新書).

上記他、授業でも参考書籍を紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

下記第1-15回の授業を9/5(月)~9/10(金)の日程で1日3コマ行います。各日程と内容は次の通りです。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

<1日目> 9/6 (月)

- 第01回 コースガイダンス -韓国スタディーツアーの概要-
- 第02回 講義：歴史から仁川を紐解く
- 第03回 グループリサーチ「韓国と日本の歴史」リサーチと発表資料作成

<2日目> 9/7 (火)

- 第04回 グループリサーチ (続) : 「韓国と日本の歴史」発表資料作成と発表準備
- 第05回 グループリサーチの発表と意見交換
- 第06回 個別リサーチ：朝鮮戦争・北九州市と朝鮮戦争との関連性・北九州市と仁川広域市の関係史・仁川国際空港について

<3日目> 9/8 (水)

- 第07回 個別リサーチ結果の情報交換
- 第08回 グループワーク「北九州市と北九州市立大学を海外でアピールする」(講義とデモンストレーション資料作成)
- 第09回 グループワーク (続) : デモンストレーション資料作成

<4日目> 9/9 (木)

- 第10回 グループワーク (続) : デモンストレーションの準備
- 第11回 デモンストレーション「北九州市と北九州市立大学を海外の人に紹介する」(振り返りと資料のブラッシュアップ)
- 第12回 仁川市内とその他の地域 (ソウル・水原) での視察プラン作成

<5日目> 9/10 (金)

- 第13回 講義：海外危機管理学修
- 第14回 海外学修の“チャレンジシート”作成
- 第15回 “チャレンジシート”の発表、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ リサーチ課題：40% (グループリサーチと個人リサーチ)
- ・ 企画作成課題：30% (グループワークでのデモンストレーション資料作成と視察プラン作成)
- ・ 最終課題：20% (チャレンジシート作成)
- ・ 取り組み姿勢：10% (グループ作業や講義での態度、課題提出状況等)

※最終課題を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にグループで取り組む課題のための情報収集をしっかりと行い、授業に臨んでください。また授業での学びを定着させるため、海外学修に参加することを事後学修とし、これに参加することを推奨します。なお、詳細は北方Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 授業はPC持参のこと
- ・ 韓国での海外学修に参加を希望する人は本授業を履修してください。

※なおこの科目に付随する海外学修はKGEP Challengeコースの「海外体験」分野のメダル付与や本登録のための対象プログラムになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

インターネットやメディアの報道で得た情報ではなく、現地で実際に自分の目で見ると、耳で聞く、肌で感じる活動は、視野を広げたり、それまでのものの見方を変えたり、知的好奇心を刺激したり、その後の学修やキャリア形成にインパクトを与えたりと自分の中で何かが動き出すのを感じる出来事になると思います。また、現地で様々な活動を行うことで、海外渡航へのハードルも低くなるでしょう。大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。夢は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、現地の視点で行動できる人材になる、このプログラムではそんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

国際教育交流センター、海外学修、ファカルティレッドプログラム (FLD)、Kiakyushu Global Challenge Program (KGEP)、SDGs 17: パートナリーシップ

キャリア・デザイン 【昼】

担当者名 眞鍋 和博 / MANABE KAZUHIRO / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

大学生生活を実りあるものにするための授業です。その為に、現在の社会、経済、環境を理解し、未来に向けてどのように変化していくのかを考えていきます。そして、自らのキャリアを主体的に考え、自ら切り拓いていってもらうために必要な知識・態度・スキルを身につけます。特に以下の2点をねらいとしています。

- ①社会、経済、環境の現状と未来について学ぶ
- ②将来のキャリアに向けた学生生活の過ごし方のヒントに気づく

授業はオンデマンド方式で実施します。「働く」ということを第一線で体験、分析されている外部講師からお話を聞きながら、各自感じたことや学んだことをレポート形式でアウトプットしてもらいます。

※この授業はメディア授業(オンデマンド方式)で実施します。Moodle上にコンテンツを提示します。履修方法については第1回目の授業コンテンツで説明をしますので、必ず見てください。

(到達目標)

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。オンデマンド形式で動画を配信して授業を進めます。また、適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しませんが、仕事、社会、人生、キャリア等に関係する書籍を各自参考にしてください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①全体ガイダンス
- ②学びのアップデート
- ③日本の「キャリアデザイン」
- ④日本が迎える大きな変化
- ⑤情報革命
- ⑥日本の働き方と組織の課題～ジェンダー～
- ⑦中間振り返り
- ⑧お金と情報
- ⑨ビジネスと就活
- ⑩もう一つのキャリアデザイン
- ⑪「働き方」の最新事情
- ⑫日本の潮流、世界の潮流
- ⑬誰もが持つリーダーシップを知る
- ⑭キャリアデザイン全体を総括する
- ⑮全体振り返り

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...60%

授業内のレポート...20%

まとめのレポート...20%

※授業内レポート、まとめレポートを1度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

初回の講義時に詳細のスケジュールを提示しますので、事前に各テーマについて調べてください。また、各回の授業後には、事前に調べたこととの相違を確認してください。更に、すべての回が終了した際に全体を振り返って、自分自身のキャリア形成に向けて何をすべきかについて考えを深めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業への積極かつ主体的な参加、また自主的な授業前の予習と授業後の振り返りなど、将来に対して真剣に向き合う姿勢が求められます。外部講師と連携しての授業を予定しています。詳細は第1回の講義で説明しますので、必ず参加してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は学生の皆さん自身のキャリアにかかわるものになりますので、特段正解があるわけではありません。授業の内容を自分なりに咀嚼しながら、授業の内容に加えて読書やWEBサイトを確認するなど、自主的な学習を進めてください。

人材採用・マネジメントの経験を持つ教員が、卒業後に企業等で働く上で必要となる能力や経験等について解説する。

キーワード /Keywords

キャリア、進路、公務員、教員、資格、コンピテンシー、自己分析、インターンシップ、職種、企業、業界、社会人、SPI、派遣社員、契約社員、正社員、フリーター、給料、就職活動、実務経験のある教員による授業

★関連するSDGsゴール

「4. 質の高い教育を」「8. 働きがい・経済成長」「9. 産業・技術革命」「12. 作る・使う責任」

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 石川 敬之 / 地域共生教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

月曜2限の「キャリア・デザイン」では、皆さんの来るべき将来に向けて「いま何をすべきか」ということを考える授業を行います。皆さんの将来は独立して存在しているわけではなく、現在の延長線上にあります。その意味で、大学生としての時間をいかに過ごすのかは、皆さんのキャリアに直接つながってきます。この授業では、大学生として充実した時間を過ごすためのヒントや刺激を受けられるようなコンテンツをたくさん提供したいと思います。

本授業では、ゲストスピーカーによる講演会も数回開催します。各分野で活躍されている人生の先輩方のお話を聞くことで多くを学ぶことができると思います。また様々な資料（映像・新聞記事・映画・webなど）を用い、それらを題材とすることで皆さんの進むべき道ややるべきことなども考えてもらいます。キャリア（人生デザイン）は他人から教えられるものではなく、自分で考えて切り拓いていくものだと思います。授業を通じてそのためのきっかけが提供できればと思います。

（到達目標）

【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜お伝えします。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス キャリアデザインとは
- 第2回 キャリアデザインと大学生活
- 第3回 日本の大学生の姿を通じて
- 第4回 大学生生活の落とし穴とその回避のために
- 第5回 来たるべき未来と皆さんのキャリアデザイン
- 第6回 自分を知る
- 第7回 キャリアは「デザイン」できるのか？
- 第8回 留学とキャリアデザイン
- 第9回 これからの働き方
- 第10回 就職とキャリアデザイン
- 第11回 自分の新たな扉を開く
- 第12回 「幸せ」な人生とは？
- 第13回 作品に学ぶキャリアデザイン
- 第14回 先輩からのメッセージ
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

各回の授業で課すレポートにより評価（100%）
レポートとしての体裁を成していない場合は、また内容や分量に著しい不備がある場合は評価不能（-）とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業終了時に次回の授業内容を伝えますので、前もって関連する知識を学習しておいてください。
また、本授業は「答え」のない授業ですので、各回の授業が終わった後は、自分なりの「答え」を探してもらいたいと思います。関連する映像資料や書籍・新聞記事などを紹介しますので、次回の講義までに各自確認し、自習をして授業に臨んでください（自習時間の目安は60分程度）。

履修上の注意 /Remarks

たくさんの問いかけをしますので、自分の頭でしっかりと考える姿勢をもって授業に望んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生だけでなく、2年生以上の学生の受講も歓迎します。

キーワード /Keywords

自分で考え、つくるキャリアデザイン

SDGsとの関連について

3. 健康と福祉を 5. ジェンダー平等 8. 働きがい・経済成長

キャリア・デザイン【昼】

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR100F				○	◎
科目名	キャリア・デザイン		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

<目的>

本授業の目的は、後述する「経験学習モデル」を体得し、社会が必要としている力を身に付けることです。近年、少子高齢化やグローバル化、IT化、環境やエネルギー、そして地方創生など、今までのビジネスモデルからの脱却およびイノベーションが求められる中、社会が求める人材も大きく変わりつつあります。日本経済団体連合会（2018年11月）の調査によると、「コミュニケーション能力」が16年連続で第1位、「主体性」が10年連続で第2位となり、「チャレンジ精神」が3年連続第3位となりました。コミュニケーション能力は当然として、主体性・チャレンジ精神といった、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力が求められる時代となりました。よってこれらの資質を卒業までに身に付ける必要があります。さらに、2018年9月3日、経団連が従来の「就活」「新卒採用」のルールを廃止すると宣言しました。慌てた政府が引き続きルールを提示していますが、それに拘束力はなく、完全に自由化になりました。

では、多様な人々とチームとなり、その中でも自ら新しい課題に挑戦する力を身に付けるにはどうすればいいのか。それは「経験学習モデル」をぐるぐる回し続けることの楽しさを理解し、実践することに尽きます。機会があれば「すぐ試す」→「振り返る」→「体験の言語化」→「仮説を立てる」→「すぐ試す」・・・具体的には大学生の本分である学びの深堀、つまり、自分が興味を持つことにとことん時間とコストを注ぎ込んで、学びまくればよい。そしてその学びは書籍や論文を読むだけでなく、仮説を立てて、すぐ試して、振り返って、体験の言語化を行い、そこで得た教訓をもとにまた仮説を立てて、すぐ試すといったモデルをぐるぐる回し続けることができれば、いつでも自らのキャリアを創り出すことができるのです。近年、大企業や地方公共団体に入社・就職することがベストではなくなりました。社会人になってからも、キャリアチェンジは日常的に起こり得るのです。だからこそ、「経験学習モデル」を主体的に回す力が必要なのです。

<進め方>

- ①一つ前の授業での学びを授業開始までに実践し、振り返っておく。
- ②授業開始前に「大福帳」を入手し、指定された席に着席する（毎回グループはシャッフルされます）。
- ③授業の冒頭に、実践と振り返りを「大福帳」に記述する。
- ④冒頭のグループワークで、先週の課題の実践と振り返りを発表し、共有する。
- ⑤講義
- ⑥授業終了後、大福帳を提出する。
- ⑦次週までに授業での学びを実践しておく。

以上のように、授業での学び実践し、振り返り、メンバーで共有することを繰り返します。授業の内容は第12回「オタクと心理的安全性」以外はすべて教科書「新しいキャリアデザイン」に書かれていますので、該当するページ（数ページです）を授業前に一読しておいてください（第12回のみMoodleに資料をアップしておきます）。

<目標>

経験学習モデル「すぐ試す→振り返る→体験の言語化→仮説を立てる」を理解し、実践できるようになること。よって、本授業の成績は「経験学習モデル」を体得できたかが基本となります。それぞれの授業で提示された課題を実践し、そこからの学びをルーブリックと照らし合わせて採点します。

（到達目標）【コミュニケーション力】社会と調和し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。【自立的行動力】自分自身のキャリアに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会（税込1,980円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- キャロル S.ドゥエック『「やればできる!」の研究-能力を開花させるマインドセットの力』草思社
- アンジェラ・ダックワース『やり抜く力 GRIT (グリット)-人生のあらゆる成功を決める「究極の能力」を身につける』ダイヤモンド社
- 金井寿宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP研究所
- 渡辺三枝子『新版 キャリアの心理学【第2版】-キャリア支援への発達のアプローチ-』ナカニシヤ出版
- 平木典子『改訂版 アサーション・トレーニング-さわやかな「自己表現」のために』金子書房
- 中原淳・長岡健『ダイアログ 対話する組織』ダイヤモンド社
- 香取一昭・大川恒『ワールド・カフェをやろう!』日本経済新聞出版社
- 金井寿宏『リーダーシップ入門』日本経済新聞社
- J.D.克蘭ボルツ、A.S.レヴィン『その幸運は偶然ではないんです!』ダイヤモンド社
- リンダ グラットン『ワーク・シフト-孤独と貧困から自由になる働き方の未来図』プレジデント社
- リンダ グラットン、アンドリュースコット『LIFE SHIFT (ライフ・シフト)』東洋経済新報社
- ポール・R・ドーアティほか『HUMAN+MACHINE 人間+マシン: AI時代の8つの融合スキル』東洋経済新報社
- ジェームズ・E・コテほか『若者のアイデンティティ形成-学校から仕事へのトランジションを切り抜ける』東信堂
- 日向野幹也『高校生からのリーダーシップ入門』筑摩書房
- 松尾睦『職場が生きる人が育つ「経験学習」入門』ダイヤモンド社
- 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター『体験の言語化』成文堂
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- エリン・メイヤー『異文化理解力-相手と自分の真意がわかる ビジネスパーソン必須の教養』英治出版
- 安斎勇樹ほか『問いのデザイン: 創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- エイミー・C・エドモンドソン『恐れのない組織-「心理的安全性」が学習・イノベーション・成長をもたらす』英治出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体ガイダンス・アイデンティティ資本
- 2回 経験から学ぶ力
- 3回 マインドセットとグリット
- 4回 コミュニケーション技法①傾聴
- 5回 コミュニケーション技法②アサーション
- 6回 コミュニケーション技法③リーダーシップ
- 7回 ロジカルシンキング
- 8回 問いを立てる力
- 9回 クリエイティブシンキング
- 10回 デジタルトランスフォーメーション
- 11回 新しい企業団体研究
- 12回 オタクと心理的安全性
- 13回 異文化理解力
- 14回 計画された偶発性
- 15回 自らのキャリアをデザインする

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(学びの実践レポート)・・・70%
最終レポート・・・30%
採点対象のレポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> 授業での学びを次の授業までに実践し、言語化しておいてください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、Moodleで提出してください。

履修上の注意 /Remarks

<基本事項>
※月曜日と火曜日の授業の内容は同じです。
※本授業は必修ではありませんが、将来のために大学生活をどう営むかを考える、1年生向けの授業です。よって、私もしくはほかの教員の「キャリアデザイン」のいずれかを履修することをお勧めします。
※曜日や時限を間違っても履修しても出席にはなりませんので注意してください。

<履修者調整について>
※ソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は1年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ2年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動がほぼ自由化され、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、1年生からの日々の授業はもちろん、アルバイトやクラブ活動など「毎日の過ごし方・課題への取り組み方」が皆さんの将来に大きく左右するようになりました。また、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップや、長期の地域活動・ボランティアなど、大学生だからこそ取り組むことができる「心が震える瞬間」「先入観を吹っ飛ばす機会」が、将来やりたいことを見出すために重要な要素となります。よって、できるだけ早く「大学生活を豊かにする過ごし方」と「自分探しの楽しみ方」を、授業や授業外課題を通して習得できるように設計しました。たくさん学生の履修をお待ちしてお

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ります。

キーワード /Keywords

キャリア、キャリア発達、キャリア形成、大学生生活、コミュニケーション、社会人マナー、倫理観、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、問題解決、課題解決
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命、SDGs 11.まちづくり、SDGs 15.環境保全
実務経験のある教員による授業

メンタル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 寺田 千栄子 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義はメンタルヘルスについて精神保健学、社会福祉学、心理学の観点から考察し、人間が健康なところで生活していくための対処方法について学んでいきます。そのために、まず、ライフサイクルを通して、メンタルヘルスに関する基礎知識や精神や行動の異変を理解するためのポイントを学習します。次に、セルフケアの重要性を理解し、自身がメンタルヘルスの問題と向き合うために必要な姿勢を獲得することを目的とします。

なお、授業は遠隔（オンデマンド）授業で実施します。そのため、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

(到達目標)

【自立的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。適宜資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 メンタルヘルスを学ぶ目的
- 第2回 メンタルヘルスに関する基礎知識（1）【日本における現状と課題】
- 第3回 ライフサイクルとメンタルヘルス（1）【子ども】
- 第4回 ライフサイクルとメンタルヘルス（2）【大人】
- 第5回 精神と行動の異変（1）【精神症状】
- 第6回 精神と行動の異変（1）【精神疾患】
- 第7回 映画から見るメンタルヘルス
- 第8回 大学生とメンタルヘルス（1）【ボディメイクと摂食障害】
- 第9回 大学生とメンタルヘルス（2）【アディクション】
- 第10回 自己分析
- 第11回 セルフケア①【ストレスの仕組み】
- 第12回 セルフケア②【ストレスマネジメント】
- 第13回 セルフケア③【相談の有用性】
- 第14回 セルフケア④【ソーシャルサポート】
- 第15回 まとめ・小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト 50% 日常の授業への取り組み（課題の提出） 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 小テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに、あらかじめメンタルヘルスに関する自身の身の回りの出来事を見つけてください。授業終了後は、授業内で出した課題を Moodle 上で入力することを求めます。また、授業で身につけた知識を活用し、自身の健康管理に努めてください。

履修上の注意 /Remarks

授業は遠隔（オンデマンド）授業で実施します。そのため、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

私たちが抱える悩みの多くには、メンタルヘルスに関する問題が関与しています。メンタルヘルスに関する問題に対して、「自分には関係ない。」「気持ちの問題だ。」と考える人も少なくありません。しかし、誰も精神や行動の異常は起こりうる問題です。こころも体も健康に生活していくための方法を、一緒に考えていきましょう。

キーワード /Keywords

メンタルヘルス・セルフケア・ストレス・精神保健福祉学

自己管理論 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター, 村江 史年 / Fumitoshi MURAE / 基盤教育センターひびきの分室

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS003F					◎
科目名	自己管理論				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、生活に必要な考え方と自己管理に関する正しい知識を身に付けることである。様々な情報が氾濫し、次々と新たな問題が発生する現代社会においては、自分自身の意思で物事を決定しつつ、健康的で自律した生活を送ることは容易ではない。このため、様々な角度からの正しい知識を得て、自分だけでなく周囲の人たちも含めて安全で安心に暮らすための意識を高めることが大切である。本授業では、様々な分野の専門家に講義を展開してもらい、以下の習得をめざす。

到達目標

【自立的行動力】自分自身の生活に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する力を身につけている。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション（基盤教育セ・日高）
- 2回 社会人のマナー（地域連携・木村）
- 3回 身体の健康（保健室看護師）
- 4回 心の健康（相談室・臨床心理士）
- 5回 スポーツと健康（基盤教育セ・山本）
- 6回 災害への備え（基盤教育セ・村江）
- 7回 自転車の交通安全（課題研究）
- 8回 犯罪防止・薬物乱用防止（小倉南警察署・市民文化スポーツ局）
- 9回 消防と救急（消防局予防課・救急課）
- 10回 ブラックバイト（福岡労働局雇用環境）
- 11回 消費者トラブル（消費生活センター）
- 12回 大学生とお金（福岡県金融広報委員会）
- 13回 ハラスメント防止（総務局男女共同参画推進課）
- 14回 市民生活の基本（行政委員会・市民文化スポーツ局・総務課）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 授業ごとの課題（確認テスト、ミニレポート等）70%
 - ・ 授業への積極的取り組み（質問・ディスカッション等）20%
 - ・ 期末レポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 授業開始前までに予め授業テーマについて学習しておくこと。
- ・ 終了後には、授業中に学んだことを振り返り、ミニレポートを締め切りに間に合うように提出すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

様々な分野の専門家に、それぞれのテーマについて講義を展開してもらう。
毎回の授業は一見すると関係性のないテーマのように見えるが、全体を通じて首尾一貫した狙いがある。毎回の授業に積極的に参加し、授業が目指す考え方を習得して欲しい。

キーワード /Keywords

リスクマネジメント、セルフマネジメント、倫理観、公共性

実務経験のある教員による授業

SDG3 健康と福祉を, SDG5 ジェンダー平等, SDG8 働きがい・経済成長, SDG11 まちづくり, SDG13 気候変動対策

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 運動処方
- 7回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 8回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 9回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 10回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 11回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 12回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 13回 ゲートボール実習(1)(スキルやルールの習得)
- 14回 ゲートボール実習(1)(ゲーム)
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・70% レポート・・・30%

欠席4回以上、レポート未提出の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】 自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションワーク(講義)
- 3回 ソフトバレーボール(実技)
- 4回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 5回 生活習慣病の予防と対策(実技)
- 6回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)①(実技)
- 7回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)②(実技)
- 8回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)①(実技)
- 9回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)②(実技)
- 10回 スポーツ実施の心理的効果について(データ分析)(講義)
- 11回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 12回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン)(実技)
- 13回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン)(実技)
- 14回 自宅でもできるエクササイズ(ストレッチ、自重トレーニング、チューブトレーニング、HIITなど)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%
4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実技を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実技)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口のホワイトボードにも記載するので、確認すること。実技の場合は、運動できる服装と体育館シューズを必ず準備して下さい。

フィジカル・ヘルス 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 豊田 直樹 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自立的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) 生涯スポーツ①(バドミントン)
- 10回 (実習) 生涯スポーツ②(アルティメット)
- 11回 (実習) 生涯スポーツ③(卓球)
- 12回 (講義) 身体活動と生活習慣病
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% レポート... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技を伴う科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践していただくこと。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動(ストレッチや体操)を実施し、怪我防止に努めること(ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

そこで、本授業では、自分自身の健康について身体的・精神的・社会的側面から考え（講義）、年齢、性別、障がいの有無にかかわらず、誰でもできる運動を取り入れ（実習）、生涯にわたる健康の自己管理能力や社会で生きる自律的行動力を養うことを目指していく。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自律的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 (講義) 運動と身体の健康
- 3回 (実習) 仲間づくりを意図したウォーミングアップ
- 4回 (実習) 運動強度測定
- 5回 (講義) 運動の効果(精神的側面)
- 6回 (実習) ウェイトトレーニングのやり方
- 7回 (実習) 体脂肪を減らすトレーニング
- 8回 (講義) 運動の効果(身体的側面)
- 9回 (実習) レクリエーションスポーツ①(車椅子ソフトボール)
- 10回 (実習) レクリエーションスポーツ②(ベタンク)
- 11回 (実習) レクリエーションスポーツ③(キンボール)
- 12回 (実習) レクリエーションスポーツ④(アルティメット)
- 13回 (講義) 運動の効果(社会的側面)
- 14回 これからのスポーツ
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技を伴う科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動(ストレッチや体操)を実施し、怪我防止に努めること(ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

運動ができる（得意）、できない（不得意）などは一切関係ありません。楽しく気軽に受講できると思います。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 高西 敏正 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは社会人になっても必要なことである。

この授業では、自分の健康管理や望ましい生活習慣獲得のために生理的、心理的な側面からスポーツを科学し、健康・スポーツの重要性や楽しさを多方面から捉え、理解し、将来に役立つ健康の保持増進スキルの獲得を主眼としている。

(到達目標)

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

授業時プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 健康と体力(体力とトレーニング)
- 3回 体力測定(筋力、敏捷性、瞬発力、持久力など) <実習>
- 4回 準備運動と整理運動
- 5回 ストレッチング実習 <実習>
- 6回 運動処方
- 7回 運動強度測定(心拍数測定) <実習>
- 8回 自分にとって最適な運動強度とは?
- 9回 自分に適した運動の種類や方法とは?
- 10回 正しいウォーキングとは? <実習>
- 11回 道具を使用したトレーニング(バランスボールなど) <実習>
- 12回 スポーツビジョントレーニング(バレーボールを利用して) <実習>
- 13回 ゲートボール実習(1)(スキルやルールの習得)
- 14回 ゲートボール実習(1)(ゲーム)
- 15回 北九州市立大学散策マップ作成(100kcal運動) <実習>

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・・・70% レポート・・・30%

欠席4回以上、レポート未提出の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること

履修上の注意 /Remarks

授業内容（講義・実習）によって教室・体育館（多目的ホール）と場所が異なるので、間違いがないようにすること。（体育館入り口の黒板にも記載するので確認すること）
実習の場合は、運動のできる服装ならびに体育館シューズを準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スポーツを科学する、健康と体力、コミュニケーション

フィジカル・ヘルス【昼】

担当者名 /Instructor 柴原 健太郎 / KENTARO SHIBAHARA / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS001F				○	◎
科目名	フィジカル・ヘルス		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われており、特に運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップやコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、今後いかに運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、社会人になっても必要なことである。

この授業では、グループ内で協力しながら、目的にあった運動を考える能力を講義と実習を通して身につけることを目的とする。他人と競争することなく楽しく身体を動かすことができる運動を中心に行う。さらに既存のルールにとらわれず、運動が苦手な学生でも楽しめるルール作りや新しい種目作りにも挑戦する。授業全体のキーワードは、笑顔とコミュニケーションである。

到達目標

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】 自分自身の健康管理に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

教科書については、特に必要ありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 コミュニケーションワーク(講義)
- 3回 ソフトバレーボール(実技)
- 4回 生活習慣病の予防と対策(講義)
- 5回 生活習慣病の予防と対策(実技)
- 6回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)①(実技)
- 7回 スポーツ実施の心理的効果について(低強度運動)②(実技)
- 8回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)①(実技)
- 9回 スポーツ実施の心理的効果について(中高強度運動)②(実技)
- 10回 スポーツ実施の心理的効果について(データ分析)(講義)
- 11回 フェアプレイ、スポーツマンシップとは(講義)
- 12回 球技を楽しもう①(卓球、バドミントン)(実技)
- 13回 球技を楽しもう②(卓球、バドミントン)(実技)
- 14回 自宅でもできるエクササイズ(ストレッチ、自重トレーニング、チューブトレーニング、HIITなど)
- 15回 まとめ、レポート提出

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 70% レポート ... 30%
4回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

理論を受けて実技を行う形式なので、講義内容の復習を行い、次週の実践の場で各自反復しながら生かせるようにすること。

履修上の注意 /Remarks

授業内容(講義・実技)によって教室・多目的ホール・体育館と毎回場所が変わるので、次回の予告を聞いて間違いがないようにする。体育館入口のホワイトボードにも記載するので、確認すること。実技の場合は、運動できる服装と体育館シューズを必ず準備して下さい。

フィジカル・ヘルス【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 山本 浩二 / YAMAMOTO KOJI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。* 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

フィジカル・エクササイズI (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 テニス(ストロークの基礎練習)
- 3回 テニス(サーブ・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。
テニスに関してはグラウンドの状況上「バドミントン」に変更の可能性があります。第1回ガイダンスで説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 倉崎 信子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

そこでこの授業では、体力・技術にあまり自信のない女性を対象に、身体活動の理論を踏まえ、レクリエーションスポーツ種目を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そしてその到達度をふまえて、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業内で紹介します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス (受講上の注意)
- 2回 体幹トレーニング (1)
- 3回 体幹トレーニング (2)
- 4回～7回 バレーボール (ソフトバレーボール)
- 8回～9回 選択種目 (1) 【バドミントン】 【卓球】スキル確認テスト①
- 10回～11回 選択種目 (2) 【バスケットボール】 【トレーニング】スキル確認テスト②
- 12回～13回 選択種目 (3) 【バレーボール】 【バドミントン】スキル確認テスト③
- 14回 女性のためのエクササイズ (1)
- 15回 女性のためのエクササイズ (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 70% スキル獲得テスト ... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能 (ー) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

その種目に関する映像視聴などで、ルールの確認やイメージを持つこと。

運動後のクールダウンは時間を設けて行わないので、各自で主要筋のストレッチをして身体ケアをすること。

フィジカル・エクササイズI (女性のスポーツ) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
授業で得た知識や実践を各自活用し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズ I
-----	----------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 八板 昭仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS081F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズ I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 バス練習(1) <アンダーバス>
- 5回 バス練習(2) <オーバーバス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <サーブに留意して>
- 12回 ゲーム(2) <サーブカットに意識して>
- 13回 ゲーム(3) <アタックに留意して>
- 14回 ゲーム(4) <フォーメーションに留意して>
- 15回 スキル獲得テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズI (バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 八板 昭仁 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、バスケットボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 集団行動(走る(ラン)・跳ぶ(ジャンプ)・投げる(スロー))
- 3回 ボールに慣れる(ドリブル・パス・シュート)
- 4回 シュートの基礎練習(レイアップシュート・ジャンプシュート)
- 5回 応用練習(2対1)
- 6回 応用練習(3対2)
- 7回 ルール・戦術の説明
- 8回 簡易ゲームを通してのオフェンス・ディフェンスの戦術習得
- 9回 スキルアップ(ドリブルシュート・リバウンド)
- 10回 スキルアップ(速攻、スクリーンプレイ)
- 11回 ゲーム(1) ゾーンディフェンス(2-3)
- 12回 ゲーム(2) ゾーンディフェンス(2-1-2)
- 13回 ゲーム(3) マンツーマンディフェンス
- 14回 ゲーム(4) まとめ
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (バスケットボール) 【昼 】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

担当者名 /Instructor 徳永 政夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅でも体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。
本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修についての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%

4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみること。運動前、運動後には自宅でも体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。

実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。

授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

本講義では、障害者差別解消法に基づき、障がいの有無に関わらず履修できるような授業内容の工夫・設定を行っています。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 小幡 博基 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎

科目名	フィジカル・エクササイズII
-----	----------------

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、ソフトバレーおよびバレーボールの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 サーブ練習(1) <アンダーサーブ>
- 3回 サーブ練習(2) <オーバーサーブ>
- 4回 パス練習(1) <アンダーパス>
- 5回 パス練習(2) <オーバーパス>
- 6回 サーブカット練習
- 7回 アタック練習(1) <サイド>
- 8回 アタック練習(2) <センター>
- 9回 ルール説明
- 10回 チーム練習
- 11回 ゲーム(1) <ソフトバレーボール>
- 12回 ゲーム(2) <ソフトバレーボール>
- 13回 ゲーム(3) <バレーボール>
- 14回 ゲーム(4) <バレーボール>
- 15回 スキル獲得の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み...70% スキル獲得テスト...30%

4回以上欠席した場合は評価不能(一)とします。*実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (ソフトバレー / バレーボール) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
男女混合および生涯スポーツを意図したソフトバレーボールと競技性を重視したバレーボールの両種目を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

担当者名 /Instructor 梨羽 茂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作り的手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

この授業では、身体活動の理論を踏まえ、テニスやサッカー、ソフトボールなどの屋外で実施するスポーツ実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進や生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

<到達目標>

【コミュニケーション力】他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 テニス(ストローウクの基礎練習)
- 3回 テニス(サービス・スマッシュの基礎練習)
- 4回 テニス(ゲーム①シングルス)
- 5回 テニス(ゲーム②ダブルス・スキル獲得の確認)
- 6回 サッカー(パスの基礎練習)
- 7回 サッカー(シュート・連携)
- 8回 サッカー(戦術・ルール把握・ゲーム①)
- 9回 サッカー(ゲーム②)
- 10回 サッカー(ゲーム③・スキル獲得の確認)
- 11回 ソフトボール(キャッチボール・守備)
- 12回 ソフトボール(バッティング・ルール解説)
- 13回 ソフトボール(ゲーム①)
- 14回 ソフトボール(ゲーム②)
- 15回 ソフトボール(ゲーム③・スキル獲得の確認)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
 4回以上欠席した場合は評価不能(-)とします。* 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、実習で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度に実践してみる。

フィジカル・エクササイズII (外種目) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や技能を各自活用し、授業内容を反復すること。
基本的にはグラウンドで実技を実施しますが、天候によっては体育館にて実施します。その場合は室内用シューズも準備すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は、実技科目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合は医師からの診断がある場合は、オリエンテーションの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

テニス、サッカー、ソフトボール、SDGs 3. 健康と福祉を

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 豊田 直樹 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 実技 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HSS082F				○	◎
科目名	フィジカル・エクササイズII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

健康の保持増進には、運動・栄養・休養の3つの柱が重要であると言われている。特に、運動は、体力の向上のみならず、リーダーシップ能力やコミュニケーション作りの手段としても有用である。また、運動習慣を継続して健康の保持増進を図ることは、今後社会人になっても必要なことである。

本授業では、身体活動の理論を踏まえ、バドミントンの実技を通して、スキルアップの目標を各自がたてる。そして、その到達度をふまえ、将来に役立つ健康の保持増進やコミュニケーション能力の向上、さらに社会で生きる自立的行動力を身につけ、生涯スポーツとしてのスキル獲得を図ることを目的とする。

< 到達目標 >

- 【コミュニケーション力】 他者と協働して、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している
- 【自立的行動力】 自分自身の身体活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション (授業の展開方法や履修に関しての諸注意)
- 2回 バドミントンの歴史、用具の点検方法、グリップ、スウィング
- 3回 スキル獲得テスト①
- 4回 基本的な打ち方とフライト (ヘアピン・クリアー)
- 5回 基本的な打ち方とフライト (ドロップ)
- 6回 サービスの練習・スキル獲得テスト②
- 7回 ゲームの展開方法と審判法の習得
- 8回 ダブルスのゲーム法の解説
- 9回～14回 ダブルスゲーム (リーグ戦)
- 15回 スキル獲得テスト③

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み... 70% スキル獲得テスト... 30%
4回以上欠席した場合は評価不能 (-) とします。 * 実技科目のため4分の3以上の出席が必要

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で行う内容を事前に文献、インターネット等で調べておくこと。また、講義で習得した内容に関しては、再度、自宅でも無理のない程度、実践してみる。運動前、運動後には自宅で体ほぐし運動 (ストレッチや体操) を実施し、怪我防止に努めること (ストレッチや体操に関しては授業内で紹介する)。

フィジカル・エクササイズII (バドミントン) 【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

履修上の注意 /Remarks

運動のできる服装とシューズを準備すること。
実技種目のため、4分の3以上の出席を必要とする。
授業で得た知識や実践を各自実践し、授業内容を反復すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本講義は実技種目です。運動を実施する上で身体的に困難な場合や医師からの診断がある場合は、ガイダンスの際にご相談ください。

キーワード /Keywords

SDGs3「健康と福祉を」と強い関連がある

世界での学び方【昼】

担当者名 /Instructor 友松 史子 / 国際教育交流センター, 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター
山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR001F					◎
科目名	世界での学び方				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業科目は、「海外での学びを体験することで、国際理解や知識を深めるとともに、語学力の向上につなげ、グローバル社会で活躍する意欲を高め、自ら行動できる人材を育成するための教育プログラム」であるKGEP (Kitakyushu Global Challenge Program) の Challengeコースの入門科目となっています (コース登録のための要件科目 (必修) です) 。

授業を通じ、大学時代に海外での学びを体験したいと考えている学生に、その経験が自己のキャリアにとってどのような意味を持つのかを考え、そして各自が社会で生きるために必要とされる「自律的に考え、自発的に行動できる (自律的行動力) 」人材として自己を確立する力を涵養することを目的としています。また本学の交換留学・派遣留学や短期の海外研修プログラムに参加するにあたっての留学準備科目としての性格も有することから、学生が海外体験を円滑に取り組めるよう、必要な知識を獲得し視座を高めることも意図しています。

なお具体的な本講義の到達目標として、以下の6点を設定しています。

- ① 北九州市立大学がなぜ学生の海外体験を推奨しているのか、大学理念・目的や国際交流の歴史の学修を通じ理解し、説明できる。
- ② 北九州市立大学の海外体験プログラムの種類や特徴を、私費留学との異同も含め理解し、説明できる。
- ③ 海外体験に伴う負担や危機 (リスク) について、一定の予備知識を獲得するとともに、困難に遭遇した際の基本的な対処の仕方を身につけている。
- ④ 海外体験を自己の成長の観点やキャリア設計の観点から位置づけ、その目標を設定することができる。
- ⑤ 外国での学びに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。
- ⑥ 授業内容を踏まえ、最終的に、自身の海外体験計画を策定できる。
 - a) 海外体験の前までにクリアしなければならない要件を明確に把握できている。
 - b) 要件をクリアするために必要なプロセスを理解し、時間軸に沿って計画を立案することができる。
 - c) 段階ごとに適切な目標を立て、それを達成するために必要な取り組みを考えることができる。
 - d) あわせて、それらに積極的に挑戦し、達成しようとする十分な意欲を有している。
 - e) 海外体験中や帰国後の視点を有している。
- ⑦ 海外体験で得た経験を、後輩たちに共有・継承する意欲や社会に還元しようとする高い意欲を有している。

授業は、講義を中心としますが、必要に応じ、グループワークや個人作業 (海外体験を経験した本学学生や海外協定校からの短期留学生への聞き取りやインタビュー)、講演などを組み合わせて進めていきます。この授業を通じ、海外で学ぶことに対する不安や迷いを解消できるように、また皆さんが各自の将来のことをより積極的に考えていけるように、支援したいと考えています。また皆さんの一人でも多くが、KGEP Challengeコースに取り組むことを期待します。

教科書 /Textbooks

指定テキストはありません。
講義資料は、北方Moodleにアップします。各自、印刷して精読してください。

参考書 (図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、講義時に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、留学を検討、実際に準備する際、また留学時の視点や知識について下のような予定で講義を進めます。なお、授業によって担当者が異なります。そのため、担当者の都合により、講義回の入替えが生じることがあります。具体的な授業日程と担当は、初回授業時に提示します。

- 第1回 オリエンテーション ～世界の学び方ってどんな授業～ 【学生時代の海外体験意義】
- 第2回 キャンパスが世界（北九大の「KGEP」と「海外体験プログラム」の紹介ほか） 【大学の国際的なリソースを活用するために】
- 第3回 北九州市立大学の国際交流の歴史と今 【自分の大学を振り返る】
- 第4回 グローバル化する地域（北九州市の国際化の歩みと環境外交） 【北九州市の国際的なプレゼンスを知る】
- 第5回 世界の中の日本 【グローバルな視点を持つとは】
- 第6回 ショートプログラム（語学研修など）への参加のすすめ 【ショートプログラム参加意義】
- 第7回 「交換留学」や「派遣留学」への挑戦のすすめ 【交換・派遣留学のメリット】
- 第8回 異文化体験と適応 【留学時の予備知識①】
- 第9回 海外体験を将来にどう生かすか考えよう（成長の可視化） 【海外体験とキャリア形成】
- 第10回 海外体験計画を作る 【各自の海外体験とキャリアを考える】
- 第11回 Group 1による海外体験計画の発表
- 第12回 Group 2による海外体験計画の発表
- 第13回 Group 3による海外体験計画の発表
- 第14回 海外渡航に際しての危機管理を考える① ～マインドセット編 【留学時の予備知識②】
- 第15回 海外渡航に際しての危機管理を考える② ～シミュレーション編 【留学時の予備知識③】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業課題・・・50%（10回実施：各回5%）
 実践課題・・・20%（2回実施：各回10%）
 最終課題・・・30%（「海外体験計画書」の作成：20%＋その発表：10%）
 ※最終課題を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習に取り組み授業に臨むことを求めます。また指示に従い、事後学習（課題）を進め、授業内容の定着を図ってください。詳細は、北方Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

国際教育交流センターの交換留学・派遣留学及び海外体験プログラムの事前教育の一環となりますので、同センターが募集を行う交換留学・派遣留学、語学研修等への参加を考えている方は、本授業を受講することを強くお勧めします。また、この授業は同センターが実施するKGEP（Kitakyushu Global Education Program）Challengeコース登録のための要件科目でもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢の幅は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、グローバルな視点で行動できる人材になる、そんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

交換留学、派遣留学、語学研修、海外短期研修、海外オンラインプログラム、KGEP (Kitakyushu Global Challenge Program)、SDGs17: パートナリーシップ

世界での学び方【昼】

担当者名 /Instructor 友松 史子 / 国際教育交流センター, 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター
山崎 勇治 / 北方キャンパス 非常勤講師, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR001F					◎
科目名	世界での学び方				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業科目は、「海外での学びを体験することで、国際理解や知識を深めるとともに、語学力の向上につなげ、グローバル社会で活躍する意欲を高め、自ら行動できる人材を育成するための教育プログラム」であるKGEP (Kitakyushu Global Challenge Program) の Challengeコースの入門科目となっています (コース登録のための要件科目 (必修) です) 。

授業を通じ、大学時代に海外での学びを体験したいと考えている学生に、その経験が自己のキャリアにとってどのような意味を持つのかを考え、そして各自が社会で生きるために必要とされる「自律的に考え、自発的に行動できる (自律的行動力) 」人材として自己を確立する力を涵養することを目的としています。また本学の交換留学・派遣留学や短期の海外研修プログラムに参加するにあたっての留学準備科目としての性格も有することから、学生が海外体験を円滑に取り組めるよう、必要な知識を獲得し視座を高めることも意図しています。

なお具体的な本講義の到達目標として、以下の6点を設定しています。

- ① 北九州市立大学がなぜ学生の海外体験を推奨しているのか、大学理念・目的や国際交流の歴史の学修を通じ理解し、説明できる。
- ② 北九州市立大学の海外体験プログラムの種類や特徴を、私費留学との異同も含め理解し、説明できる。
- ③ 海外体験に伴う負担や危機 (リスク) について、一定の予備知識を獲得するとともに、困難に遭遇した際の基本的な対処の仕方を身につけている。
- ④ 海外体験を自己の成長の観点やキャリア設計の観点から位置づけ、その目標を設定することができる。
- ⑤ 外国での学びに関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。
- ⑥ 授業内容を踏まえ、最終的に、自身の海外体験計画を策定できる。
 - a) 海外体験の前までにクリアしなければならない要件を明確に把握できている。
 - b) 要件をクリアするために必要なプロセスを理解し、時間軸に沿って計画を立案することができる。
 - c) 段階ごとに適切な目標を立て、それを達成するために必要な取り組みを考えることができる。
 - d) あわせて、それらに積極的に挑戦し、達成しようとする十分な意欲を有している。
 - e) 海外体験中や帰国後の視点を有している。
- ⑦ 海外体験で得た経験を、後輩たちに共有・継承する意欲や社会に還元しようとする高い意欲を有している。

授業は、講義を中心としますが、必要に応じ、グループワークや個人作業 (海外体験を経験した本学学生や海外協定校からの短期留学生への聞き取りやインタビュー)、講演などを組み合わせて進めていきます。この授業を通じ、海外で学ぶことに対する不安や迷いを解消できるように、また皆さんが各自の将来のことをより積極的に考えていけるように、支援したいと考えています。また皆さんの一人でも多くが、KGEP Challengeコースに取り組むことを期待します。

教科書 /Textbooks

指定テキストはありません。
講義資料は、北方Moodleにアップします。各自、印刷して精読してください。

参考書 (図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は、講義時に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は、留学を検討、実際に準備する際、また留学時の視点や知識について下のような予定で講義を進めます。なお、授業によって担当者が異なります。そのため、担当者の都合により、講義回の入替えが生じることがあります。具体的な授業日程と担当は、初回授業時に提示します。

- 第1回 オリエンテーション ～世界の学び方ってどんな授業～ 【学生時代の海外体験意義】
- 第2回 キャンパスが世界（北九大の「KGEP」と「海外体験プログラム」の紹介ほか） 【大学の国際的なリソースを活用するために】
- 第3回 北九州市立大学の国際交流の歴史と今 【自分の大学を振り返る】
- 第4回 グローバル化する地域（北九州市の国際化の歩みと環境外交） 【北九州市の国際的なプレゼンスを知る】
- 第5回 世界の中の日本 【グローバルな視点を持つとは】
- 第6回 ショートプログラム（語学研修など）への参加のすすめ 【ショートプログラム参加意義】
- 第7回 「交換留学」や「派遣留学」への挑戦のすすめ 【交換・派遣留学のメリット】
- 第8回 異文化体験と適応 【留学時の予備知識①】
- 第9回 海外体験を将来にどう生かすか考えよう（成長の可視化） 【海外体験とキャリア形成】
- 第10回 海外体験計画を作る 【各自の海外体験とキャリアを考える】
- 第11回 Group 1による海外体験計画の発表
- 第12回 Group 2による海外体験計画の発表
- 第13回 Group 3による海外体験計画の発表
- 第14回 海外渡航に際しての危機管理を考える①～マインドセット編 【留学時の予備知識②】
- 第15回 海外渡航に際しての危機管理を考える②～シミュレーション編 【留学時の予備知識③】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業課題・・・50%（10回実施：各回5%）
 実践課題・・・20%（2回実施：各回10%）
 最終課題・・・30%（「海外体験計画書」の作成：20%+その発表：10%）
 ※最終課題を提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

アサインメントに従い、事前学習に取り組み授業に臨むことを求めます。また指示に従い、事後学習（課題）を進め、授業内容の定着を図ってください。詳細は、北方Moodleの情報で確認してください。

履修上の注意 /Remarks

国際教育交流センターの交換留学・派遣留学及び海外体験プログラムの事前教育の一環となりますので、同センターが募集を行う交換留学・派遣留学、語学研修等への参加を考えている方は、本授業を受講することを強くお勧めします。また、この授業は同センターが実施するKGEP（Kitakyushu Global Education Program）Challengeコース登録のための要件科目でもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学は成長の場。4年間をどう過ごすかで、あなたの将来の選択肢の幅は大きく変わります。挑戦なくして成長なし。「夢」は成長の源。「困難」は成長の糧。「出会い」は成長の礎。世界を舞台に、地球規模の視野で考え、グローバルな視点で行動できる人材になる、そんなあなたの挑戦をサポートします。

キーワード /Keywords

交換留学、派遣留学、語学研修、海外短期研修、海外オンラインプログラム、KGEP (Kitakyushu Global Challenge Program)、SDGs17: パートナリーシップ

プロフェッショナルの仕事【昼】

基盤教育科目
教養教育科目
ライフ・デザイン科目

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR210F					◎
科目名	プロフェッショナルの仕事		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

<目的> 現場の第一線で活躍している社会人に教壇に立って頂き、仕事のやりがいや辛さ、そして自らが成長した学生時代の物語を語って頂きます。その話を聴くことで、①ビジネスの現状 ②仕事の現実 ③将来のために大学時代に何をすべきかを学びます。

<進め方>

- ① 授業が始まる前に講演者の企業団体および仕事について、各団体のwebサイトの読み込みはもちろん、図書館所蔵の書籍や雑誌、新聞などを予習して、質問を用意しておきます。
- ② 授業開始後、指定する席に着席し、グループで本日、特にどんなことを知りたいのかについて議論し、講演者に発表します。
- ③ 講演が始まります。第1セッションは「コロナ禍の影響を踏まえた、事業内容」。終了後、質疑応答の時間を作ります。以下、第2セッション「どんな仕事で、やりがいは何か?」、第3セッション「学生時代の何が、今に繋がっているか?」と続き、すべて質疑応答の時間を取ります。
- ④ ラストメッセージのあと、得た新しい知識や払拭できた先入観、将来へのヒントを元に、「将来のために今すべきこと」をレポートにまとめます。

<目標> 様々な企業や団体の第一線で働いている社会人の話を聴くことで、自らの将来の姿を描くことです。そして、大学時代においてどんな大学生生活を過ごせば良いかを理解します。

(到達目標)【自立的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありません。パワーポイントに沿って授業を進めます。パワーポイントは後日頂いて、Moodleにアップしておきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

登壇する企業団体にまつわる記事などが載っている書籍や雑誌、新聞を図書館で探して読んでください。
例：日経ビジネス、週刊東洋経済、週刊ダイヤモンド、日経MJなど。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 全体ガイダンス
第2～15回 各企業・団体の第一線で働く社会人の講演

※以下は過去の実績です(敬称略・順不同)。

<2021年度> Men Impossible (オランダのラーメン屋)、SALASUSU、リ・インベンション、井上純子氏(北九州市議会議員)、タカギ、ベンシル、ETIC、サイバーエージェント、日本放送協会、ソニーコンシューマーセールス、アクセンチュア、九州大学出版会、パデコ、スノーピーク
<2020年度> TOTOインフォム、タカギ、日本航空(JAL)、福岡出入国在留管理局、LINE Fukuoka、日本放送協会(NHK)、春日井製菓、杉養蜂園、JR博多シティ、アクセンチュア、田村ビルズ、アイ・ケイ・ケイ、i-plug
<2019年度> サイバーエージェント、RKB毎日放送、テイクアンドグヴ・ニーズ(T&G)、サニーサイドアップ、チームラボキッズ(teamLab)、労働基準監督官(厚生労働省)、カモ井加工紙(mt)、大創産業(ダイソー)、西日本旅客鉄道(JR西日本)、スノーピーク、全日本空輸(ANA)、本田技研工業(HONDA)、ヤッホーブルーイング、サマンサタバサジャパンリミテッド

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み(事前課題)・・・35%

毎回の授業での学び(振り返りレポート)・・・35%

最終レポート・・・30%

なお、採点対象の事前課題やレポートを一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

<通常授業> 登壇する企業団体への質問を用意してください。また、Moodleを確認し、授業で用いるレジュメを読んでおいてください。
<最終レポート> 提示する課題をもとに、授業を振り返り、Moodleで提出してください。

履修上の注意 /Remarks

2022年度より、A101の大人数授業からC教室でのグループワーク主体の形式に変更していますのでご注意ください。さらにソーシャルディスタンスを確保するために、受講人数の制限があります。もし、上限を超える時は2年生を優先とします。ただし、上限を超えなければ3年生以上も受講できます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本学の学生は、首都圏の大学生よりも立地的に、企業・団体に働いている社会人と出会う機会が少なくなっています。そんな中、自分の将来への視野を広げたい、将来のために自分を成長させるヒントを得たいと考えている学生のために設計しました。講演者の皆様は大学生活ではなかなか出会うことができない方ばかりです。また、本学の学生を是非採用したいと考える企業団体です。講演者の皆様が本学の学生のために語ってくれた言葉を聞き逃さず、何かを学ぼうという意思を持ってご参加ください。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、14団体の人事担当者を招致し、その企業紹介や求める力、そして大学時代の過ごし方についてお話しいただくようにコーディネートする。

キーワード /Keywords

働くこと、成長、キャリア、キャリア発達、大学生生活、将来の見通し、キャリアデザイン、キャリアプランニング、企業研究
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

担当者名 /Instructor 見館 好隆 / Yoshitaka MITATE / 地域戦略研究所

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CAR211F					◎
科目名	企業・団体の課題解決		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

<目的> 企業団体の現場の課題を題材に、グループで課題解決案を策定・発表し、その企業団体から評価をもらうことで「課題解決スキル」、具体的には、課題にグループで挑戦することを通して、セルフマネジメントおよびリーダーシップを発揮し、試行錯誤を繰り返して、新しい成果を生み出す人材になることを目指します。
本授業の位置づけや狙いは以下の2点です。

1) インターンシップの授業バージョン。企業団体との新しい接点
経団連は2021年3月卒業生から「採用選考に関する指針」を策定しないと発表。つまり、採用活動は自由化・通年化しました。だからこそ3年生は、インターンシップを軸に企業と接点を持ち、吟味し、自分に合う企業はどこか、試行錯誤する必要があります。また、2年生も通年採用だからこそ、3年生同様インターンシップを軸に企業と接点を持ち、吟味し、そのために残りの大学生活をどう過ごせばいいのか、試行錯誤するべきでしょう。しかし、授業期間中に長期のインターンシップに行くのは本末転倒。本授業なら、授業を通してインターンシップ同様の体験ができます。

2) 将来必ず必要となる、答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力
従来のように講義で学ぶだけの授業では、その知識をテストには活用できても、実際の現場で活用することは難しいでしょう。近年のグローバル化した知識基盤社会において、また高度成長時代を終えた現代日本において望まれる力は、多様で複雑な課題に対応しつつ、イノベーションを創出できる力です。答えのある課題ばかりをこなしていた学生よりも、答えのない課題に対し、グループで対話しながら、提案し、フィードバックをもらって修正し、諦めず有意な提案を行おうとする学生を、企業や団体は望んでいます。本授業はその力の修得を目指して設計されています。

<授業の進め方>

- ①第1回にてガイダンスを実施します。課題提供団体の理解を深めます。
- ②第2回にて、課題提供団体からの3つの課題を提示します。この間に挑戦する課題を吟味してください。
- ③第3回までにグループピングと挑戦する課題決定をします。その後第6回まで、課題解決のために役立つスキルについて講義をします。
- ④第7回にて教員への相談会を実施します。そして期日に企画書を提出して頂きます。
- ⑤第8回にて、課題提供団体からのフィードバックを解説します。
- ⑥第9～12回にて、課題解決のために役立つスキルについて講義し、第13回にて教員への相談会を実施します。
- ⑦第14・15回にて、課題提供団体に、最終プレゼンテーションを行い、フィードバックを頂きます。

<目標> 現場で働く社会人から自らがプランした案に対してフィードバックを頂き、修正し、最終評価を頂くことで、企業団体にて実際に働くために必要とされる「答えの無い課題に多様な人々と協働しながら挑戦し、成果を出す力」を身につけます。そして、その経験を糧に、大学時代においてどんな大学生活を過ごせば良いかを理解します。(到達目標)【自立的行動力】自分自身の成長に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキストはありませんが、企業団体の資料はその都度配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。

また、以下書籍を参考にしてください。

- 見館好隆、保科学世ほか『新しいキャリアデザイン』九州大学出版会
- ジェームス W.ヤング『アイデアのつくり方』CCCメディアハウス
- 嶋浩一郎『嶋浩一郎のアイデアのつくり方』ディスカヴァー・トゥエンティワン
- 加藤昌治『考具 - 考えるための道具、持っていますか?』CCCメディアハウス
- 加藤昌治『チームで考える「アイデア会議」 考具 応用編』CCCメディアハウス
- 大嶋祥誉『マッキンゼー流入社1年目問題解決の教科書』SBクリエイティブ
- 大嶋祥誉『マンガで読める マッキンゼー流「問題解決」がわかる本』SBクリエイティブ
- 茂木健一郎『最高の結果を引き出す質問力：その問い方が、脳を変える!』河出書房新社
- 上野千鶴子『情報生産者になる』筑摩書房
- 安斎勇樹、塩瀬隆之『問いのデザイン：創造的対話のファシリテーション』学芸出版社
- 伊藤羊一『1分で話せ 世界のトップが絶賛した大事なことだけシンプルに伝える技術』SBクリエイティブ

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 ガイダンス
- 第02回 3つの課題提示と解説 ★ゲスト登壇
- 第03回 課題解決に資する情報提供①ロジカルシンキング
- 第04回 課題解決に資する情報提供②問いを立てる力
- 第05回 課題解決に資する情報提供③クリエイティブシンキング
- 第06回 課題解決に資する情報提供④デジタルトランスフォーメーション
- 第07回 教員への相談会
- 第08回 中間発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇
- 第09回 課題解決に資する情報提供⑤課題解決のケーススタディ
- 第10回 課題解決に資する情報提供⑥課題解決のケーススタディ
- 第11回 課題解決に資する情報提供⑦課題解決のケーススタディ
- 第12回 課題解決に資する情報提供⑧プレゼン資料の作り方
- 第13回 教員への相談会
- 第14回 最終発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇
- 第15回 最終発表に対する評価とフィードバック ★ゲスト登壇

※参考

<2021年度の企業団体と課題>

■NHK北九州放送局

課題①北九大の学生全員がフォローしなくなる！コンテンツ（ツイッター企画）を考える

課題②コロナ禍でもできる！子ども向けリアルイベント

課題③どう伝える？どう残す？大学生が考える戦争伝承

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業への取り組み（リフレクション）…56%

最終発表に対する評価（企業団体からの評価と相互評価）…30%

最終レポート…14%

なお、採点対象のリフレクションを一度も提出しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に提示する課題をもとに、各自登壇企業団体のホームページの閲覧および企業団体訪問、統計資料の収集、アンケートの収集、インタビューなどを行い、中間および最終発表の準備をしてください。また、授業終了後は指定するフォームで授業での学びを言語化してください。

履修上の注意 /Remarks

※第3回で挑戦する課題とグループを決めます。

※課題に対する取り組み（授業時間以外でのグループワークやフィールドリサーチ、統計資料収集など）による、最終発表が評価の3割を占めます。企業団体のリアルな課題に対し、企業団体の現役社員（職員）からの生のフィードバックが頂ける企業な経験を積むことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

就職活動のスケジュールが変わり、以前のように3年生の秋から一斉スタートではなくなりました。そのために、夏季や春季の長期休暇などを活用したインターンシップが、将来の見通しを見出すために重要なファクターとなります。しかし、インターンシップは必ずしも希望する学生全てが参加できません（受け入れ企業団体が少ないため）。ゆえに、「授業の中」に企業団体の課題に取り組む機会を作り込み、現場の仕事を体感することで、多くの学生が働くことをイメージすることを狙って設計した授業です。企業団体の方から、直接フィードバックをもらえる機会はなかなかありません。本授業での経験を手掛かりに将来の見通しのヒントを得て、そのヒントを今後の大学生活における学業や課外活動への取組に活かすことを切に願っています。

※人事経験を持ち、全国の企業団体に人脈を持つ教員が、3団体の人事担当者と連携し、課題解決型授業を運営。

キーワード /Keywords

キャリア、成長、プレゼンテーション、フィールドリサーチ、マーケティング、クリエイティブシンキング、ロジカルシンキング、リーダーシップ
SDGs 8.働きがい・経済成長、SDGs 9.産業・技術革命
実務経験のある教員による授業

Communicative English I (比人 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

本授業ではTOEIC 形式に準拠したテキストを用いて、その形式に慣れると共に、リーディングとリスニングを中心にして英語力の向上を目指します。

教科書 /Textbooks

1. PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC L&R TEST (600点を目指すTOEIC L&R TESTへのストラテジー) (成美堂) (¥2,200)
2. TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ (朝日新聞出版) (¥979)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Unit 1 Sightseeing / Guided Tour、(金のフレーズ)単語小テスト 1
- 3回 Unit 2 Restaurant、U.1 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト 2
- 4回 Unit 3 Hotel / Service、U.2 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト 3
- 5回 Unit 4 Employment、U.3 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト 4
- 6回 Unit 5 Entertainment、U.4 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト 5
- 7回 Unit 6 Shopping / Purchases、U.5 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト 6
- 8回 Unit 7 Sports / Health、U.6 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト 7
- 9回 Unit 8 Doctor's Office / Pharmacy、U.7 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト 8
- 10回 Unit 9 Hobbies / Art、U.8 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト 9
- 11回 Unit 10 Education / Schools、U.9 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト 10
- 12回 Unit 11 Technology / Office Supplies、U.10 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト 11
- 13回 Unit 12 Transportation、U.11 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト 12
- 14回 Unit 13 Travel / Airport、U.12 単語小テスト
- 15回 まとめ、試験説明

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...70%、日常の授業への取り組み（課題、小テスト）...30%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示した予習課題、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進捗、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Communicative English I (比人 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 林 裕二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部に TOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

[授業の概要]

- ① 授業開始時に小テスト（5分）を実施。
- ② 教科書のポイントを押さえながら、主に、Listening Section、の練習問題をやる。

[授業のねらい]

- ① 多種多様な情報を収集・発信していくために、国際語としての英語の総合的運用能力を高めることを目的とする。
特に、「ビジネス関連の語彙や表現」を習得し、「TOEICの出題形式」そのものに慣れること。
- ② TOEICの出題形式や問題に慣れるとともに、英文法の基礎を強化する。

教科書 /Textbooks

PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC® L&R TEST 600点を目指すTOEIC®L&R TEST へのストラテジー

著者：松本 恵美子 / 西井 賢太郎 /Sam Little ¥2,200 （税込み）

出版社：成美堂 2021年発行

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

TOEICテスト新公式問題集（発行：財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会 TOEIC運営委員会）

映画英語教育論著者：中谷安男, 八尋春海共編 出版社：スクリーンプレイ 2003年○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 観光
- 3回 レストラン
- 4回 ホテル
- 5回 雇用
- 6回 エンターテインメント
- 7回 ショッピング
- 8回 スポーツ 健康
- 9回 病院 薬局
- 10回 趣味 アート
- 11回 教育
- 12回 テクノロジー オフィス
- 13回 移動
- 14回 旅行 空港
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ① 定期試験 (50%)
- ② 小テスト (30%)
- ③ 授業参加、授業貢献度(特に自発的、積極的な発表を評価する) (20%)
最終評価にはTOEICスコアが反映される。反映方法については、初回の授業で文書を配布して説明する。
- ④ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。(必要な学習時間の目安は、90分)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

語学は予習が必要です。どこがわかるかわからないかが、わかっていれば予習は成立しています。授業では、文字を見て意味がわかり、音声を聞いて意味がわかり、音読ができるようになっていただきます。受講生の理解度等に応じて、授業内容を変更することもあります。音声はダウンロード型式です。教室では音声は流しません。自分で聞く必要があります。

キーワード /Keywords

Communicative English I (比人 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて、主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習などを取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、また比較的平易な読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

Quick Exercises for the TOEIC L&R TEST 500 Listening (松柏社) ISBN978-4-88918-749-0 1,430円

連続ミステリー：もうひとりの自分 (朝日出版) ISBN978-4-255-15445-9 1,700円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時、あるいは moodle 上で指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	はじめに 英語を学ぶということ	
2回	聴解 (単語と文法の基礎的力をつける)	読解 (単語と文法の基礎的力をつける)
3回	聴解 (単語と文法の初歩的力をつける)	読解 (単語と文法の初歩的力をつける)
4回	聴解 (単語と文法の応用的力をつける)	読解 (単語と文法の応用的力をつける)
5回	聴解 (単語と文法の発展的力をつける)	読解 (語彙的表現に注目する)
6回	聴解 (英語の音に注目する 単語)	読解 (イデオム表現に注目する②)
7回	聴解 (英語の音に注目する 語句)	読解 (文章表現に注目する③)
8回	聴解 (英語の音に注目する 文)	読解 (文脈を考える①) 【語彙に注目する】
9回	聴解 (英語の音に注目する まとめ)	読解 (文脈を考える②) 【既出情報に注目する】
10回	聴解 (多様な英語に注目する①) 【英・豪英語に注目する】	読解 (文脈を考える③) 【まとめ】
11回	聴解 (多様な英語に注目する②) 【北米英語に注目する】	読解 (言語外の日常的知識を利用する)
12回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える①) 【語彙に注目する】	読解 (言語外の文化的背景を利用する)
13回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える②) 【既出情報に注目する】	読解 (言語外の社会的背景を利用する)
14回	聴解 (「聞き取る」から「理解する」へ)	読解 (訳読からテキスト理解へ)
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%

課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。

また、試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時、あるいは moodle 上で指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

Communicative English I (比人 1-C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(あるいはTOEFL)を受験することが義務付けられています。
また、初回の授業には必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (比人 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

successful keys to the TOEIC listening and reading test intro 2nd edition ISBN 978-4-342-55261-8 桐原書店 1980円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Daily Life
- 2回 Places
- 3回 People
- 4回 Travel
- 5回 Business
- 6回 Office
- 7回 Technology
- 8回 Personnel
- 9回 Management
- 10回 Purchasing
- 11回 Finances
- 12回 Media
- 13回 Entertainment
- 14回 Health
- 15回 Restaurants

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English I (比人 1-D) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English I (比人 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能の定着を目的とします。法能・語彙に加えて主に読む（リーディング）と聴く（リスニング）の向上を指します。また、授業の部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。
（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）をいて、学初級レベルで、常活のニーズを充つことができる。

教科書 /Textbooks

学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントをいいる。
（Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 分の好きな仕事
- 3回 働き改
- 4回 少齢化
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境
- 9回 TOEIC演習(2)【法問題】
- 10回 Internet of Things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【問題】
- 12回 読解
- 13回 これからの教育
- 14回 英語とのつきあい(2)【英語とつきあう時に】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（あるいは期末課題）...30%、平常の学習状況（小テストや課題実施状況を含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

小テストや課題の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

キーワード /Keywords

Communicative English I (比人 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / DANSAKO, Masahiko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

First Time Trainer for the TOEIC® TEST, Revised Edition (センゲージラーニング) (¥2,200 [税込])

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC(R) TEST 英単語 出るとこだけ! (アルク) 小石裕子・Dorey, Paul (著) (¥1,980 [税込])

○TOEIC(R) TEST 英文法 出るとこだけ! (アルク) 小石裕子 (著) (¥1,320 [税込])

○TOEIC(R) TEST リスニング 出るとこだけ! (アルク) 小石裕子 (著) (¥1,760 [税込])

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1: Shopping (動詞)
- 第3回 Unit 2: Daily Life (名詞)
- 第4回 Unit 3: Transportation (代名詞)
- 第5回 Unit 4: Jobs (形容詞と副詞)
- 第6回 Unit 5: Meals (時制)
- 第7回 Unit 6: Communication (受動態・分詞)
- 第8回 Unit 1~6 の振り返り / 腕試し
- 第9回 Unit 7: Fun (動名詞と不定詞)
- 第10回 Unit 8: Office Work (助動詞)
- 第11回 Unit 9: Meeting (比較)
- 第12回 Unit 10: Travel (前置詞)
- 第13回 Unit 11: Finance (接続詞)
- 第14回 Unit 12: Business (関係詞)
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：40%、平常の学習状況（小テスト・宿題を含む）：60%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業の振り返りとして、小テストを行います。小テスト対策として復習をすること。また、次回の授業のUnitの予習を宿題として提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

キーワード /Keywords

Communicative English I (比人 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG101F		◎			
科目名	Communicative English I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

当授業では、基礎的な文法学習を基に、TOEIC問題を中心に扱ったテキストを用いて、リーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。指定学習範囲の予習・復習は必ず行ってください。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになってください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「450点」です。（このスコアは前年度を参考にして出しています）

教科書 /Textbooks

PROGRESSIVE STRATEGY FOR THE TOEIC® L&R TEST
著者 松本 恵美子 他共著 成美堂 ¥2,200 (税込み)

☆授業では TOEIC問題を扱った下記のテキストを教科書として使用し、文法学習については随時プリントを配布する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Unit 1 Listening & 基礎文法(文型 1)
- 3回 Unit 1 Reading & 基礎文法(文型 2)
- 4回 Unit 2 Listening & 基礎文法(動詞 1)
- 5回 Unit 2 Reading & 基礎文法(動詞 2)
- 6回 Unit 3 Listening & 基礎文法(動詞 3)
- 7回 Unit 3 Reading & 基礎文法(時制 1)
- 8回 Unit 4 Listening & 基礎文法(時制 2)
- 9回 Unit 4 Reading & 基礎文法(時制 3)
- 10回 Unit 5 Listening & 基礎文法(関係詞1)
- 11回 Unit 5 Reading & 基礎文法(関係詞2)
- 12回 Unit 6 Listening & 基礎文法(関係詞3)
- 13回 Unit 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Unit 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Unit 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・50%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書以外の問題集に取り組むことを勧めます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

Communicative English II (比人 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習などを取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC LISTENING AND READING TEST Level 3 ISBN 9784255155968 朝日出版社 1836円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Eating Out
- 2回 Travel
- 3回 Amusement
- 4回 Meetings
- 5回 Personnel
- 6回 Shopping
- 7回 Advertisement
- 8回 Daily Life
- 9回 Office Work
- 10回 Business
- 11回 Traffic
- 12回 Finance and Banking
- 13回 Media
- 14回 Health and Welfare
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...90% 授業への取組...10%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

リーディング教材の下調べをしておく。

リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English II (比人 1 - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (比人 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて、主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習などを取り込みます。

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

具体的には、TOEICの演習問題を通して英語聴解能力を訓練し、またある程度の難易度の読み物を用いて文法能力と英語読解力の伸長を目指します。

教科書 /Textbooks

600点をめざす新TOEIC(R) TEST リスニング対策問題集 (松柏社) ISBN4-88198-572-8 1,100円
イギリス人特派員が見た日本 (金星堂) ISBN978-4-7647-4041-9 2,090円

その他、適宜、プリントをいたします。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時、あるいは moodle 上で指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	はじめに 英語を学ぶということ	
2回	聴解 (単語と文法の基礎的力をつける)	読解 (単語と文法の基礎的力をつける)
3回	聴解 (単語と文法の初歩的力をつける)	読解 (単語と文法の初歩的力をつける)
4回	聴解 (単語と文法の応用的力をつける)	読解 (単語と文法の応用的力をつける)
5回	聴解 (単語と文法の発展的力をつける)	読解 (語彙的表現に注目する)
6回	聴解 (英語の音に注目する 単語)	読解 (イデオム表現に注目する②)
7回	聴解 (英語の音に注目する 語句)	読解 (文章表現に注目する③)
8回	聴解 (英語の音に注目する 文)	読解 (文脈を考える①) 【語彙に注目する】
9回	聴解 (英語の音に注目する まとめ)	読解 (文脈を考える②) 【既出情報に注目する】
10回	聴解 (多様な英語に注目する①) 【英・豪英語に注目する】	読解 (文脈を考える③) 【まとめ】
11回	聴解 (多様な英語に注目する②) 【北米英語に注目する】	読解 (言語外の日常的知識を利用する)
12回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える①) 【語彙に注目する】	読解 (言語外の文化的背景を利用する)
13回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える②) 【既出情報に注目する】	読解 (言語外の社会的背景を利用する)
14回	聴解 (「聞き取る」から「理解する」へ)	読解 (訳読からテキスト理解へ)
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 80%
課題 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
また、試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時、あるいは moodle 上で指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

Communicative English II (比人 1 - B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(あるいはTOEFL)を受験することが義務付けられています。
また、初回の授業には必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (比人 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&Rテストの演習を取り込みます。さらに、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC L&R TEST 「TOEIC L&R テスト攻略の鍵」 安丸雅子 他著 金星堂 ¥2090(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Daily Life
- 3回 Unit 2 Shopping
- 4回 Unit 3 Parties & Events
- 5回 Unit 4 Traffic & Travel
- 6回 Unit 5 Office Work
- 7回 Unit 6 Marketing & ICT
- 8回 Review Test1
- 9回 Unit 7 Production & Logistics
- 10回 Unit 8 Employment
- 11回 Unit 9 Personnel
- 12回 Unit 10 Business
- 13回 Unit 11 Health & Environment
- 14回 Unit 12 Finance
- 15回 Review Test2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)、筆記試験(70%)

- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ・最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・第1回の授業に必ず出席してください。
- ・基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・事前に準備が必要な小テストに関しては、各自自宅にて暗記を済ませてテストに臨んでください。

Communicative English II (比人 1 - C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (比人 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 園迫 雅彦 / DANSAKO, Masahiko / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC L&R TEST-TOEIC L&Rテスト攻略の鍵（金星堂）（¥2,090 [税込]）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○TOEIC(R) TEST 英単語 出るとこだけ！（アルク）小石裕子・Dorey, Paul（著）（¥1,980 [税込]）

○TOEIC(R) TEST 英文法 出るとこだけ！（アルク）小石裕子（著）（¥1,320 [税込]）

○TOEIC(R) TEST リスニング 出るとこだけ！（アルク）小石裕子（著）（¥1,760 [税込]）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 Unit 1 Daily Life [文型・品詞]
- 第3回 Unit 2 Shopping [代名詞・疑問詞]
- 第4回 Unit 3 Parties & Events [形容詞・副詞]
- 第5回 Unit 4 Traffic & Travel [前置詞]
- 第6回 Unit 5 Office Work [接続詞]
- 第7回 Unit 6 Marketing & ICT [名詞・主語と動詞の一致]
- 第8回 Unit 1~6 の振り返り / Review Test 1
- 第9回 Unit 7 Production & Logistics [助動詞]
- 第10回 Unit 8 Employment [時制]
- 第11回 Unit 9 Personnel [受動態]
- 第12回 Unit 10 Business [分詞・分詞構文]
- 第13回 Unit 11 Health & Environment [不定詞・動名詞]
- 第14回 Unit 12 Finance [関係詞]
- 第15回 全体のまとめ / Review Test 2

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：40%、平常の学習状況（小テスト・宿題を含む）：60%

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業の振り返りとして、小テストを行います。小テスト対策として復習をすること。また、次回の授業のUnitの予習を宿題として提出してもらいます。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

キーワード /Keywords

Communicative English II (比人 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor 相原 信彦 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R)L&Rテストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

一歩上を目指すTOEIC®LISTENING AND READING TEST: Level 2

北尾泰幸編（朝日出版社、2021）9784255155951

（本体1,700円＋税）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方と予習の仕方について説明。
- 第2回 Part 1 Eating Out
- 第3回 Part 2 Travel
- 第4回 Part 3 Amusement
- 第5回 Part 4 Meetings
- 第6回 Part 5 Personnel
- 第7回 Part 6 Shopping
- 第8回 Part 7 Advertisement
- 第9回 Daily Life
- 第10回 Office Work
- 第11回 Business
- 第12回 Traffic
- 第13回 Finance and Banking
- 第14回 Media
- 第15回 授業のまとめと試験について

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30%

定期試験 70%

演習という授業の性格上、出席を重視します。最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習を重視しますが、やり方については第1回の授業で説明します。

Communicative English II (比人 1 - E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に 1 回、TOEIC (TOEFL)を受験することが義務付けられています。第 1 回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English II (比人 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 木梨 安子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の向上を目指します。また、授業の一部にTOEIC(R) L&R テストの演習を取り込みます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

当授業では、基礎的な文法学習を基に、TOEIC問題を中心に扱ったテキストを用いて、リーディングとリスニングの基礎力をつけていきます。指定学習範囲の予習・復習は必ず行ってください。翌授業の最初に前回授業の復習として小テストを実施します。毎回の小テストは70点以上を取るようになってください。当クラスの今学期におけるTOEIC目標スコアは、「450点」です。（このスコアは前年度を参考に出しています）

教科書 /Textbooks

Tipsで攻略するTOEIC L&Rテスト - Fun and Strategies for TOEIC Listening & Reading Test

著者 Ross Tulloch 他共著 英宝社 ¥2,310(税込み)

☆基礎文法学習として随時プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ TOEIC公式問題集

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション&基礎文法(品詞・句・節)
- 2回 Chapter 1 Listening & 基礎文法(文型 1)
- 3回 Chapter 1 Reading & 基礎文法(文型 2)
- 4回 Chapter 2 Listening & 基礎文法(動詞 1)
- 5回 Chapter 2 Reading & 基礎文法(動詞 2)
- 6回 Chapter 3 Listening & 基礎文法(動詞 3)
- 7回 Chapter 3 Reading & 基礎文法(時制 1)
- 8回 Chapter 4 Listening & 基礎文法(時制 2)
- 9回 Chapter 4 Reading & 基礎文法(時制 3)
- 10回 Chapter 5 Listening & 基礎文法(関係詞 1)
- 11回 Chapter 5 Reading & 基礎文法(関係詞 2)
- 12回 Chapter 6 Listening & 基礎文法(関係詞 3)
- 13回 Chapter 6 Reading & 基礎文法(比較)
- 14回 Chapter 7 Listening & 基礎文法(比較)
- 15回 Chapter 7 Reading & 基礎文法(特殊構文)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験・・・50%、平常の学習状況(小テストを含む)・・・50%

※最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回授業で文書を配布して説明します。

※ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※ 欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合には、原則として単位取得が難しくなります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の復習としての小テストの範囲、及び次回の学習範囲は授業の最後に告知します。その範囲を予習・復習してください。また、TOEICの多くの問題に取り組むことによって英語力も上がり、結果としてスコアも高くなります。常日頃から教科書に加えてTOEIC関連の問題集にも取り組んで下さい。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業計画や授業内容は、受講生の理解度を見ながら進めていくため、変更が生じる場合がありますが、基本的に、上記の流れで学習を進めていきます。

キーワード /Keywords

Communicative English II (比人 1-G) 【昼】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG111F		◎			
科目名	Communicative English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能の定着を目的とします。法能・語彙に加えて主に読む（リーディング）と聴く（リスニング）の向上を指します。また、授業の部にTOEIC (R) L&R テストの演習を取り込みます。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）をいいて、学初級レベルで、常活のニーズを充つことができる。

教科書 /Textbooks

学習管理システムMoodle内にある資料や配布プリントをいいる。（Moodle上のデータをダウンロードしたりするために、インターネット接続通信費がかかる場合がある。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時やMoodleにて紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 やり抜く
- 3回 分の好きな仕事
- 4回 成功の秘訣
- 5回 メディア・リテラシー
- 6回 英語とのつきあい(1)【英語とつきあう前に】
- 7回 TOEIC演習(1)【リスニング問題】
- 8回 環境問題
- 9回 TOEIC演習(2)【法問題】
- 10回 Internet of things (IoT)
- 11回 TOEIC演習(3)【問題】
- 12回 オンライン教育
- 13回 仕事を創る
- 14回 英語とのつきあい(2)【英語とつきあう時に】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験（あるいは期末課題）...30%、平常の学習状況（小テストや課題実施状況を含む）...70%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

小テストや課題の提出が全くない場合は、評価不能（－）です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明したりMoodle上に情報を掲載したりするので、その指に従うこと。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。詳細は、初回の授業で説明する。

Communicative English II (比人 1 - G) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

キーワード /Keywords

Communicative English III (比人 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2A 3rd Ed by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602761 OUP
2592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1 How was your vacation? (A)
Week 3 Unit 1 How was your vacation? (B)
Week 4 Unit 2 I think it's exciting (A)
Week 5 Unit 2 I think it's exciting (B)
Week 6 Unit 3 Do it before you're 30! (A)
Week 7 Unit 3 Do it before you're 30! (B)
Week 8 Review of Units 1-3
Week 9 Unit 4 The best place in the world! (A)
Week 10 Unit 4 The best place in the world! (B)
Week 11 Unit 5 Where's the party? (A)
Week 12 Unit 5 Where's the party? (B)
Week 13 Unit 6 You should try it! (A)
Week 14 Unit 6 You should try it! (B)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
40% PowerPoint and Reports
45% Class participation and Quizzes

試験 * を受験しなかった場合は、調査不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check the Moodle . They should do all assigned reading from the text, complete set homework and prepare for any presentation work that has been assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

Communicative English III (比人 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 3) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about daily life
- 4回 Talking about free time
- 5回 Talking about hometowns
- 6回 Talking about likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about music
- 11回 Talking about movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about eating out
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能（ - ）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

Communicative English III (比人 1 - F) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (比人 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
(see MOODLE)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
- 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
- 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
- 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
- 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

Communicative English III (比人 1-G) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
- (e) 「Active Learning」 自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 14 周目と 15 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるため(遠隔〜対面) 必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの方が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

Communicative English III (比人 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 3) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about daily life
- 4回 Talking about free time
- 5回 Talking about hometowns
- 6回 Talking about likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about music
- 11回 Talking about movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about eating out
- 14回 Talking about our futures
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能（ - ）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

Communicative English III (比人 1 - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English III (比人 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

Smart Choice: Level 2 : Multi-Pack A with Online Practice 3rd ed. ISBN 9780194602761
Price ¥2,592

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 1 How was your vacation? (A)
Week 3 Unit 1 How was your vacation? (B), Unit Quiz #1
Week 4 Unit 2 I think it's exciting (A)
Week 5 Unit 2 I think it's exciting (B) Unit Quiz #2
Week 6 Unit 3 Do it before you're 30! (A)
Week 7 Unit 3 Do it before you're 30! (B) Unit Quiz #3
Week 8 Midterm Speaking Test
Week 9 Unit 4 The best place in the world! (A)
Week 10 Unit 4 The best place in the world! (B) Unit Quiz #4
Week 11 Unit 5 Where's the party? (A)
Week 12 Unit 5 Where's the party? (B) Unit Quiz #5
Week 13 Unit 6 You should try it! (A)
Week 14 Unit 6 You should try it! (B) Unit Quiz #6
Week 15 Review and prepare for Final speaking Test

成績評価の方法 /Assessment Method

Attendance and Participation 30%
Unit Quizzes 20%
Homework 10%
Midterm Speaking Test 20%
Final Speaking Test 20%
Note: Missing the final test will result in a - grade! 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the material before and after class. Students may also be asked to make simple conversation with small groups at the beginning of class.

履修上の注意 /Remarks

Please be on time, and do not miss more than 5 sessions without an explanation.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You don't need a special brain to learn English, but you do need to make a consistent effort both in and out of class. With good attendance, homework, and preparation, you can do well in this class.

キーワード /Keywords

Communicative English III (比人 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

Communicative EnglishIII・ IV (共通)

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

教科書 /Textbooks

Four Corners 2A (ISBN 9781108570701)
Cambridge University Press
About ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

Communicative English III (比人 1 - C) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
Introductions, Class Rules, Textbook, Homework, Grades
2. "My Interests"
Discussing and learning about interests, / Basic communication skills. / Sports and exercise vocabulary.
3. "My Interests"
Unit listening and reading practice.
4. "Descriptions"
Learning to talk about and describe people. / Basic "What" question skills. / Personality adjectives and appearance.
5. "Descriptions"
Unit listening and reading practice.
6. "Rain or shine"
Learning to talk about the weather. / Using adverbs of intensity. / Weather and indoor activities vocabulary.
7. "Rain or shine"
Unit listening and reading practice.
8. Mid-Term Revision
9. "Life at Home"
Learning how to describe your home. / Using "How many, How much" and separable two word phrasal verbs. / Household chores, making requests vocabulary.
10. "Life at Home"
Unit listening and reading practice.
11. Health"
Giving and following instructions, discussing health. / Adverbs of manner. / "How" questions.
12. Health"
Unit listening and reading practice.
13. "What's on TV?"
Learning to talk about TV shows. / Talking about future plans. / Agreeing and disagreeing. / Types of TV shows.
14. "What's on TV?"
Unit listening and reading practice.
15. Final revision for testing.

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - Active participation in class.

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

Communicative English III (比人 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 比人 1 - D /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG102F		◎			
科目名	Communicative English III				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

Due to the nature of the Covid19 pandemic, ALL aspects of this syllabus is subject to change depending on how we might need to do classes face to face, or do them online/on-demand. In the case of those changes, the Instructor will provide as much instruction as possible. In all cases, we will make extensive use of the University's Teams for providing material and collecting assignments.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2 A 3rd edition by Ken Wilson Oxford University Press 2695 yen 978-0194602730

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary. Students are expected to use pens for writing.

In the case of doing assignments and classes online, you will require internet access from a computer as well as a working video camera.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.Course Introduction: Basic writing. Self Introduction Using Teams. Covid19 contingencies.
2. Unit 1 Speaking basics: How was your vacation? vocabulary, conversation and language practise
3. Writing and reading A tough vacation and likes and dislikes
4. Unit 2 Speaking basics: I think it is exciting vocabulary, conversation and language practise
5. Writing and reading Movie disasters and introducing yourself to a pen pal
6. Unit 3 Speaking basics: Do it before you're 30 vocabulary, conversation and language practise
7. Writing and reading Have you seen anything like this? write an interview with a celebrity
8. Review of Units 1,2 and 3
9. Unit 4 Speaking basics: The best place in the world! vocabulary, conversation and language practise
10. Writing and reading, the most dangerous place in the world Write a description of the city where you live
11. Unit 5 Speaking basics Where's the party? vocabulary, conversation and language practise
12. Writing and reading Festival time in Latin America and write about a festival in your country
13. Unit 6 Speaking basics: You should try it! vocabulary, conversation and language practise
14. Writing and reading Are you a stressed out student? Write about a class you have just started taking.
15. Test Practice

成績評価の方法 /Assessment Method

Class writing and peer journal 20%. Final writing test 80%

This part of the syllabus is also subject to change depending on how the class is conducted; whether online or face to face.

試験を受験しなかった場合は、評価不能（ - ）とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments will be assigned on a per-week basis.

履修上の注意 /Remarks

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion. All content subject to change at instructor's discretion.

During online classes, inattention to the class is prohibited and subject to penalty.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (比人 1 - E) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - E

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course aims to help students activate the English that they have learned in secondary school for oral communication. Class time is thus spent with students: (1) using their English actively with their classmates in pairs and small groups to complete communication tasks, and (2) listening and watching samples of proficient speakers performing the same tasks while completing activities which focus their attention on relevant aspects of the meaning and the language forms used.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 4) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Explanation of the course
- 2回 Getting acquainted
- 3回 Talking about part-time jobs
- 4回 Talking about daily routines
- 5回 Talking about hometown attractions
- 6回 Talking about hometown likes and dislikes
- 7回 Talking about where to live in the future
- 8回 Talking about travel experiences
- 9回 Talking about future travel ideas and plans
- 10回 Talking about entertainment
- 11回 Talking about music and movies
- 12回 Talking about recent meals
- 13回 Talking about exotic foods and eating out
- 14回 Talking about dream jobs
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.).

履修上の注意 /Remarks

Communicative English IV (比人 1-E) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (比人 1 - F) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - F

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
(see MOODLE)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
- 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
- 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
- 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
- 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
- (e) 「Active Learning」 自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるので(遠隔〜対面)必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

Communicative English IV (比人 1 - G) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - G

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2B 3rd edition by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602785 OUP
 2592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1 Introduction
- Week 2 Unit 7 There are too many stores! (A)
- Week 3 Unit 7 There are too many stores! (B)
- Week 4 Unit 8 I like people who are smart. (A)
- Week 5 Unit 8 I like people who are smart. (B)
- Week 6 Unit 9 What were you doing? (A)
- Week 7 Unit 9 What were you doing? (B)
- Week 8 Review of Units 7-9
- Week 9 Unit 10 It must be an earthquake! (A)
- Week 10 Unit 10 It must be an earthquake! (B)
- Week 11 Unit 11 I used to sing. (A)
- Week 12 Unit 11 I used to sing. (B)
- Week 13 Unit 12 If you live downtown (A)
- Week 14 Unit 12 If you live downtown (B)
- Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
40% PowerPoint and Reports
45% Class participation and Quizzes

試験 * を受験しなかった場合は、調査不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should check Moodle each week, complete all assigned homework tasks and prepare for any presentation or role-play work assigned.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Good luck and I look forward to meeting all of you

キーワード /Keywords

Communicative English IV (比人 1 - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 口バート・マーフィ / Robert S. Murphy / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This is an "Active Learning" style course.

We will work together and enjoy watching videos and conversations in English.

We will then assess each other and make our own videos.

You will be expected to speak and write your thoughts on a variety of topics on paper, in Moodle, and on video.

*Topics range: Social issues (theft, internet, discrimination), brain science (how we learn, memory tips, stress relief), personal growth (empathy vs sympathy, digital addiction, fair assessments)

動画やムードルを多く使うActive Learning授業です。

英語を用いて思考を深め、相手の英語を聞き指摘する力、表現したい事柄をテーマに沿って英語で流暢に表現できるようになること、動画作り等でコミュニケーション能力と作文能力の向上をねらいとする。

教科書 /Textbooks

なし
(see MOODLE)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし
(see MOODLE)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Introduction / Writing in Moodle: WHAT IS ACTIVE LEARNING?
- 第2回 Chapter 1 (社会現象) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第3回 Chapter 1 (社会現象) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第4回 Chapter 1 (社会現象) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第5回 Chapter 1 (社会現象) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第6回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 1: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第7回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 2: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第8回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) Video 3: Discussion, peer assessment, and writing on paper and in Moodle.
- 第9回 Chapter 2 (学生が得する脳科学) FINALE UPGRADE WEEK. Upgrade your work and upload to Moodle.
- 第10回 "BIG Thinking Sheet": Summarizing your learning from Chapters 1 and 2.
- 第11回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 1: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第12回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 2: Discussion, writing, and peer assessment on paper and in Moodle.
- 第13回 Chapter 3 (他人と自分の想い) Video 3: Discussion, writing, and peer assessment. FINALE/BIG Thinking Sheet.
- 第14回 "BIG Advice Week": Learn how to do well on the final essay. Upload to Moodle and peer assess each other.
- 第15回 Writing day: "Final Essay" and "Self-assessments"

Communicative English IV (比人 1 - A) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

- (a) Chapter 1 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (b) Chapter 2 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (c) Chapter 3 (Moodleフォーラム対話、学習フリップと動画のアップロード等) 15%
- (d) 英作文試験：フリップやMoodleフォーラム学習のまとめ (Final Essay) 15%
- (e) 「Active Learning」 自主的な活動の評価(フリップ、動画、投稿等の自主的なアップグレード回数と「深さ」、先生との対話等) 40%

*If you fail to submit the final report, you will be given a (-); you must therefore fully participate in Week 14 and 15.

* 1 4 周目と 1 5 周目の課題をすべて提出しなかった場合は、調査不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず毎週MOODLEにアクセスをして、(1) 宿題や課題等をアップロード、(2) 変更等の確認をする。

Active Learningに積極的に参加しましょう。

履修上の注意 /Remarks

新型コロナウイルスの影響などにより授業形式が変わる可能性があるため(遠隔～対面) 必ず事前にMOODLEにて確認してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学生が知って得する「脳の秘密」や流行ってる動画等を観て評価する授業です。完全にActive Learning式の授業です。文法や単語のテストはありませんので、多くの人が思う「典型的」な英語の授業とは一味違います。「考えさせられる」英語ベースの動画を観て自分の深い考えが英語で語れるようになる、「深い」&「楽しい」クラスです。グループでの動画作りもあって、お互いに評価しあってレベルアップして行きます。アイデアをたくさん出して、自由に表現できるようになりましょう。

キーワード /Keywords

Active Learning, video-making, Moodle, peer assessment

Communicative English IV (比人 1 - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

Communicative EnglishIII・IV (共通)
この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の向上を目指します。
(到達目標)
【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

教科書 /Textbooks

Four Corners 2B (ISBN - 9781108627726)
Cambridge University Press
About ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

Communicative English IV (比人 1 - B) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
Introductions, Class Rules, Textbook, Homework, Grades
2. "Shopping"
Describing and comparing products. Using comparative adjectives, enough and too. / Opposites, adjectives to describe clothing. /
3. Unit listening and reading practice.
4. "Fun in the City."
Learning to talk about what you can do in a city. / Using "should" and adjectives to describe. / Asking for and giving recommendations.
5. Unit listening and reading practice.
6. "People"
Learning to ask about and talk about people from the past. / Personality adjectives, certainty and uncertainty. / Talking about people you admire.
7. Unit listening and reading practice.
8. Mid-Term Revision
9. "In a Restaurant"
Learning to talk about menus and eating out. / Using present perfect to talk about experiences. / Menu items, ordering food, checking information.
10. Unit listening and reading practice.
11. Entertainment"
Learning to talk about movie habits and opinions. / Using so, too, either, neither. / Giving and making suggestions, types of music and movies.
12. Unit listening and reading practice.
13. "Time for a Change"
Learning to talk about reasons for personal changes. / Using infinitives of purpose, will, may, might. / Reacting to good or bad news.
14. Unit listening and reading practice.
15. Final revision for testing.

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - Active participation in class.

試験を受験しなかった場合は、評価不能(－)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

Communicative English IV (比人 1 - C) 【昼】

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の向上を目指します。（到達目標）
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

Smart Choice: Level 2 : Multi-Pack B with Online Practice 3rd ed.
ISBN 9780194602785
Price ¥2,592

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with instructor

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 7 There are too many stores (A)
Week 3 Unit 7 There are too many stores (B), Unit Quiz #1
Week 4 Unit 8 I like people who are smart (A)
Week 5 Unit 8 I like people who are smart (B) Unit Quiz #2
Week 6 Unit 9 What were you doing? (A)
Week 7 Unit 9 What were you doing? (B), Unit Quiz #3
Week 8 Midterm Speaking Test
Week 9 Unit 10 It must be an earthquake! (A)
Week 10 Unit 10 It must be an earthquake! (B), Unit Quiz #3
Week 11 Unit 11 I used to sing. (A)
Week 12 Unit 11 I used to sing. (B), Unit Quiz #4
Week 13 Unit 12 If you live downtown.... (A)
Week 14 Unit 12 If you live downtown.....(B) Unit Quiz #5
Week 15 Review and prepare for final speaking test

Communicative English IV (比人 1-C) 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

30% Attendance and Participation
20% Unit Quizzes
10% Homework
20% Midterm Speaking test
20% Final Speaking test
Note: Missing the final test will result in a — grade! 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will need to complete homework before coming to class

履修上の注意 /Remarks

Please be on time, and do not miss more than five sessions without an explanation.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English IV (比人 1-D) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 1 - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG112F		◎			
科目名	Communicative English IV		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力(ライティング力)と話す力(スピーキング力)の向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course should give you a chance to use the English you have studied in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Smart Choice 2B 3rd edition by K. Wilson & T.Healy ISBN 9780194602785
2592円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A dictionary will be useful.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
Week 2 Unit 7 There are too many stores! (A)
Week 3 Unit 7 There are too many stores! (B)
Week 4 Unit 8 I like people who are smart. (A)
Week 5 Unit 8 I like people who are smart.(B)
Week 6 Unit 9 What were you doing? (A)
Week 7 Unit 9 What were you doing? (B)
Week 8 Review of Units 7-9
Week 9 Unit 10 It must be an earthquake! (A)
Week 10 Unit 10 It must be an earthquake! (B)
Week 11 Unit 11 I used to sing. (A)
Week 12 Unit 11 I used to sing. (B)
Week 13 Unit 12 If you live downtown (A)
Week 14 Unit 12 If you live downtown (B)
Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
40% PowerPoint and Reports
45% Class participation and Quizzes

試験 * を受験しなかった場合は、調査不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please check Moodle each week and make sure you do all the assigned homework and class preparation.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to meeting you in class. Let's enjoy studying English together.

キーワード /Keywords

Communicative English V (比人 2 C - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 / 2 Year 単位 /Credits 1単位 / 1 Credit 学期 /Semester 1学期 / 1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 / Class クラス /Class 比人 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R)L & R)の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。
(到達目標)
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

DEVELOP GRAMMATICAL COMPETENCE FOR THE TOEIC(R) L & R TEST (松柏社) ISBN978-4-88198-758-2 2,090円
ハリウッド (2) ビデオで見る映画とスターたち (朝日出版) ISBN4-255-15355-8 1,800円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時、あるいは moodle 上で指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	はじめに 英語を学ぶということ	
2回	聴解 (単語と文法の基礎的力をつける)	読解 (単語と文法の基礎的力をつける)
3回	聴解 (単語と文法の初歩的力をつける)	読解 (単語と文法の初歩的力をつける)
4回	聴解 (単語と文法の応用的力をつける)	読解 (単語と文法の応用的力をつける)
5回	聴解 (単語と文法の発展的力をつける)	読解 (文脈を考える①) 【言語表現に注目する】
6回	聴解 (英語の音に注目する 単語)	読解 (文脈を考える②) 【既出情報に注目する】
7回	聴解 (英語の音に注目する 語句)	読解 (文脈を考える③) 【まとめ】
8回	聴解 (英語の音に注目する 文)	読解 (言語外の知識を利用する①) 【経験からの類推】
9回	聴解 (英語の音に注目する まとめ)	読解 (言語外の知識を利用する②) 【社会的・文化的背景に注目する】
10回	聴解 (多様な英語に注目する①) 【英・豪英語に注目する】	読解 (言語外の知識を利用する③) 【まとめ】
11回	聴解 (多様な英語に注目する②) 【北米英語に注目する】	読解 (言外の意味を捉える①) 【皮肉・冗談など】
12回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える①) 【言語表現に注目する】	読解 (言外の意味を捉える②) 【比喩表現など】
13回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える②) 【既出情報に注目する】	読解 (言外の意味を捉える③) 【まとめ】
14回	聴解 (「聞き取る」から「理解する」へ)	読解 (文法的な意味を超えたテキスト理解へ)
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 70%
課題 10%
指定 e-learning の学習状況 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
また、試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

Communicative English V (比人 2 C-A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時、あるいは moodle 上で指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(あるいはTOEFL)を受験することが義務付けられています。また、初回の授業には必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English V (比人 2 C - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R)L&R)の実践的なトレーニングを中心にを行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。
(到達目標)
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST PRE-INTERMEDIATE ISBN 9784764740891 金星堂 2052円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Travel
- 2回 Dining Out
- 3回 Media
- 4回 Entertainment
- 5回 Purchasing
- 6回 Clients
- 7回 Recruiting
- 8回 Personnel
- 9回 Advertising
- 10回 Meetings
- 11回 Finance
- 12回 Offices
- 13回 Daily Life
- 14回 Sales & Marketing
- 15回 Events

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 指定e-learnigの学習状況...20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声を聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

Communicative English V (比人 2 C-B) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English V (比人 2 C - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 2 C - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主に TOEIC (R) L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

TOEICの学習を通して、単語の覚え方、リスニングのコツ、基礎英文法、トレーニングのしかたなど英語学習を将来的に自力で成し遂げていくために必要なことをお伝えしていきます。TOEICでの受験のポイント、コツだけではなく、英語力自体を高めていけるように授業をデザインしていますので、皆さんも積極的に受講してください。

教科書 /Textbooks

公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 7 978-4-906033-61-4
Educational Testing Service 国際ビジネスコミュニケーション協会 2020.1
¥3,300

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1 - 8』国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス (グループ分け、単語学習アプリの紹介とダウンロード手続き、アイスブレイク)
- 2 . Part 2
- 3 . Part 2
- 4 . Part 3
- 5 . Part 3
- 6 . Part 4
- 6 . Part 4
- 7 . Part 5
- 8 . Part 5
- 9 . Part 5
- 1 0 . Part 7 SP (single passage)
- 1 1 . Part 7 SP
- 1 2 . Part 7 DP,TP (double passage, triple passage)
- 1 3 . Part 7 DP,TP
- 1 4 . Part 6
- 1 5 . Part 1 , まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内課題：20%
指定 e-learning の学習状況: 20%
小テスト：10%
期末試験：50%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能(－)とします。
最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第 1 回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中やMoodle上で指示をしますので必ず確認をしてください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に 1 回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第 1 回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICのテキストに収録されている英語はしっかりとトレーニングをすればとても「使える」英語です。英語のトレーニングは個人、ペア、グループでいろいろとあります。楽しんで受講してください。

授業ではアプリ、Moodleを使用しますので、スマートフォン、タブレット、ノートPCなどのデバイスを必ず持参してください。

キーワード /Keywords

Communicative English V (比人 2 C-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG201F		◎			
科目名	Communicative English V				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R) L&Rテスト）の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

- ① SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST : INTERMEDIATE 「レベル別TOEIC L&Rテスト実力養成コース：中級編」 番場直之 他著 金星堂 ¥2200(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ TEX加藤 著 朝日新聞出版 ¥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Travel
- 3回 Unit 2 Dining Out
- 4回 Unit 3 Media
- 5回 Unit 4 Entertainment
- 6回 Unit 5 Purchasing
- 7回 Unit 6 Clients
- 8回 Unit 7 Recruiting
- 9回 Unit 8 Personnel
- 10回 Unit 9 Advertising
- 11回 Unit 10 Meetings
- 12回 Unit 11 Finance
- 13回 Unit 12 Offices
- 14回 Unit 13 Daily Life
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テストによる平常点(30%)、筆記試験(50%)、e-learning学習状況(20%)
- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ・最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

Communicative English V (比人 2 C-D) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席してください。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VI (比人 2 C-A) 【昼】

担当者名 /Instructor 伊藤 晃 / Akira Ito / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 2学期 /2nd Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 比人 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R)L&R)の実践的なトレーニングを中心にを行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。
(到達目標)
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

TOEIC L&R TEST パーフェクト演習 改訂新版 ISBN 9784791934195 成美堂 2376円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Studying Abroad
- 2回 International Conference
- 3回 Holidays
- 4回 Leisure
- 5回 Restaurant
- 6回 Online Shopping
- 7回 Global Warming
- 8回 Web Sites
- 9回 Workplace
- 10回 Nursing Care
- 11回 Global Trading
- 12回 Eco-Friendly Economy
- 13回 Business Trips
- 14回 Hybrid Cars
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...80% 指定e-learningの学習状況...20%
最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。
試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- リーディング教材の下調べをしておく。
- リスニングの問題の音声聞く。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VI (比人 2 C-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 杉山 智子 / SUGIYAMA TOMOKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 比人 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験（主にTOEIC(R)L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

実生活で役立つ TOEIC(R) テストリスニング (成美堂) ISBN9-78479E+12 1,430円
ハリウッド (2) ビデオで見る映画とスターたち (朝日出版) ISBN4-255-15355-8 1,800円

その他、適宜、プリントを用います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、授業時、あるいは moodle 上で指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	はじめに 英語を学ぶということ	
2回	聴解 (単語と文法の基礎的力をつける)	読解 (単語と文法の基礎的力をつける)
3回	聴解 (単語と文法の初歩的力をつける)	読解 (単語と文法の初歩的力をつける)
4回	聴解 (単語と文法の応用的力をつける)	読解 (単語と文法の応用的力をつける)
5回	聴解 (単語と文法の発展的力をつける)	読解 (文脈を考える①) 【言語表現に注目する】
6回	聴解 (英語の音に注目する 単語)	読解 (文脈を考える②) 【既出情報に注目する】
7回	聴解 (英語の音に注目する 語句)	読解 (文脈を考える③) 【まとめ】
8回	聴解 (英語の音に注目する 文)	読解 (言語外の知識を利用する①) 【経験からの類推】
9回	聴解 (英語の音に注目する まとめ)	読解 (言語外の知識を利用する②) 【社会的・文化的背景に注目する】
10回	聴解 (多様な英語に注目する①) 【英・豪英語に注目する】	読解 (言語外の知識を利用する③) 【まとめ】
11回	聴解 (多様な英語に注目する②) 【北米英語に注目する】	読解 (言外の意味を捉える①) 【皮肉・冗談など】
12回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える①) 【言語表現に注目する】	読解 (言外の意味を捉える②) 【比喩表現など】
13回	聴解 (文脈や話題の流れを捉える②) 【既出情報に注目する】	読解 (言外の意味を捉える③) 【まとめ】
14回	聴解 (「聞き取る」から「理解する」へ)	読解 (文法的な意味を超えたテキスト理解へ)
15回	まとめ	

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験・小テスト 70%
課題 10%
指定 e-learning の学習状況 20%

欠席が授業実施回数の3分の1を超えた場合、不合格になることがあります。
また、試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。反映方法は、初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業時、あるいは moodle 上で指定する課題とリーディング教材の予習・復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として1学期に1回、TOEIC(あるいはTOEFL)を受験することが義務付けられています。また、初回の授業には必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VI (比人 2 C-C) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 2 C - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験 (TOEIC(R) L&Rテスト) の実践的なトレーニングを中心に、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

- ① PERFECT PRACTICE FOR THE TOEIC L&R TEST—Revised Edition—「TOEIC L&R TEST パーフェクト演習—改訂新版—」 石井隆之 他著 成美堂 ¥2420(税込)
- ② TOEIC L&R TEST出る単特急 金のフレーズ TEX加藤 著 朝日新聞出版 ¥979(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Unit 1 Studying Abroad
- 3回 Unit 2 International Conference
- 4回 Unit 3 Holidays
- 5回 Unit 4 Leisure
- 6回 Unit 5 Restaurant
- 7回 Unit 6 Online Shopping
- 8回 Unit 7 Global Warming
- 9回 Unit 8 Web Sites
- 10回 Unit 9 Workplace
- 11回 Unit 10 Nursing Care
- 12回 Unit 11 Global Trading
- 13回 Unit 12 Eco-Friendly Economy
- 14回 Unit 13 Business Trips
- 15回 Unit 14 Hybrid Cars

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テストによる平常点(30%)、筆記試験(50%)、e-learning学習状況(20%)
- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ・最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席してください。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VI (比人 2 C-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 十時 康 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG211F		◎			
科目名	Communicative English VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、英語資格試験(主に TOEIC (R) L&R)の実践的なトレーニングを中心に行い、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語(読む、書く、聞く、話す)を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

TOEICの学習を通して、単語の覚え方、リスニングのコツ、基礎英文法、トレーニングのしかたなど英語学習を将来的に自力で成し遂げていくために必要なことをお伝えしていきます。TOEICでの受験のポイント、コツだけではなく、英語力自体を高めていけるように授業をデザインしていますので、皆さんも積極的に受講してください。

教科書 /Textbooks

公式TOEIC® Listening & Reading 問題集 8 978-4-906033-63-8
Educational Testing Service 国際ビジネスコミュニケーション協会 2021.1
¥3,300

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 1 - 8 国際ビジネスコミュニケーション協会

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . ガイダンス (グループ分け、単語学習アプリの紹介とダウンロード手続き、アイスブレイク)
- 2 . Part 2
- 3 . Part 2
- 4 . Part 3
- 5 . Part 3
- 6 . Part 4
- 6 . Part 4
- 7 . Part 5
- 8 . Part 5
- 9 . Part 5
- 10 . Part 7 SP (single passage)
- 11 . Part 7 SP
- 12 . Part 7 DP,TP (double passage, triple passage)
- 13 . Part 7 DP,TP
- 14 . Part 6
- 15 . Part 1 , まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内課題 : 20%

指定 e-learning の学習状況: 20%

小テスト : 10%

期末試験 : 50%

期末試験を受験しなかった場合は評価不能 (-) とします。

最終評価には TOEIC スコアが反映されます。詳しくは第 1 回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内やMoodle上で指示を出すので必ず確認をしてください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

TOEICのテキストに収録されている英語はしっかりとトレーニングをすればとても「使える」英語です。英語のトレーニングは個人、ペア、グループでいろいろとあります。楽しんで受講してください。

授業ではアプリ、Moodleを使用しますので、スマートフォン、タブレット、ノートPCなどのデバイスを必ず持参してください。

キーワード /Keywords

Communicative English VII (比人 2 C - C) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 1単位 /1 Credit 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 比人 2 C - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

Basic English skills for everyday spoken and written communication. Clearly stated learning goals and 'can-do' statements for every lesson allow students to track their progress right through the course. This course also includes training for making effective professional and academic presentations.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (Cambridge University Press)

「税込価格：2.200円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Education 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第3回：Education 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第4回：Personal Stories 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第5回：Personal Stories 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第6回：Presentation 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第7回：Style and Fashion 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第8回：Style and Fashion 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第9回：Interesting Lives 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第10回：Interesting Lives 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第11回：Presentation 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第12回：Our World 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第13回：Our World 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第14回：Organizing your time [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第15回：Presentation 3 [Speaking Skills] [Writing Skills]

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

Students that fail to submit the final assignments as directed by the instructor will be assessed as (-) 【評価不能】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for the course and complete any assignments

Communicative English VII (比人 2 C-C) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Everyday conversation

Communicative English VII (比人 2 C-D) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

Communicative EnglishVII (共通)
この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (ISBN - 9781108627726)
Cambridge University Press
About ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

Communicative English VII (比人 2 C-D) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
Introductions, Class Rules, Textbook, Homework, Grades
2. "Education"
Learning to talk about routines. / Using present, present continuous. / Feelings, emotions, expressing prohibition, obligation.
3. "Education"
Unit listening and reading practice.
4. "Personal Stories"
Learning to talk about what happened in the past. / Using past continuous, past. / Using verbs to describe reactions, closing conversations.
5. "Personal Stories"
Unit listening and reading practice.
6. "Style and Fashion"
Learning to talk about and describe fashion. / Using "used to" and defining clauses. / Clothing styles and asking "where" questions.
7. "Style and Fashion"
Unit listening and reading practice.
8. Mid-Term Revision
9. "Interesting Lives"
Learning to talk about life experiences. / Using past present and simple past. / Experiences, checking and clarifying meaning.
10. "Interesting Lives"
Unit listening and reading practice.
11. "Our World"
Learning how to talk about human made structures. / Using comparatives and superlatives. / Expressing disbelief.
12. "Our World"
Unit listening and reading practice.
13. "Organizing Your Time"
Learning to talk about weekend plans. / Using present tense for future. / Taking and leaving messages, favors.
14. "Organizing Your Time"
Unit listening and reading practice.
15. Final Revision for Testing

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - Active participation in class.

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

Communicative English VII (比人 2 C - A) 【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to help students develop confidence and skills in one on one discussion style debate. Students will practice critical thinking and language skills, which will allow them to express their opinions and influence others through logical, reasoned discussion.

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力（ライティング力）と話す力（スピーキング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this class. Curriculum is based on class handouts and student generated materials

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to Discussion and Debate
- 2回 Critical Thinking Skills: Providing Facts / Opinions / Supporting Ideas
- 3回 Responding to Facts & Opinions: Agreeing, Disagreeing & Giving Reasons
- 4回 Organization & Structure: Starting the Discussion / Matching Ideas / Ending the Discussion
- 5回 Positive Persuasive Discussion: Writing Time
- 6回 Positive Persuasive Discussion: Pair Presentation 1
- 7回 Pro / Con Discussion: Research & Write
- 8回 Pro / Con Debate Debate Discussion: Peer Editing & Practice
- 9回 Pro / Con Debate Discussion: Pair Presentation 2
- 10回 Argumentative Debate: Research & Write
- 11回 Argumentative Debate: Presentation Skills & Practice
- 12回 Argumentative Debate: Pair Presentation 3
- 13回 Spontaneous Debate Challenge
- 14回 Final Test Preparation: Stage 1
- 15回 Final Test Preparation: Stage 2

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 20%, Presentations 30%, Final Exam 20%

Student's not attending the final exam will receive a (-) grade.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to have regular attendance and take part fully in class writing and speaking exercises. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will be working closely with group members and will have to fulfill many tasks together. As student absence will affect pair and group success, all students are required to be present and active at all times.

キーワード /Keywords

Communicative English VII (比人 2 C - B) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG202F		◎			
科目名	Communicative English VII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

Communicative EnglishVII (共通)
この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。主に書く力 (ライティング力) と話す力 (スピーキング力) の更なる向上を目指します。
(到達目標)
【技能】英語 (読む、書く、聞く、話す) を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3A (ISBN - 9781108627726)
Cambridge University Press
About ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

Communicative English VII (比人 2 C-B) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
Introductions, Class Rules, Textbook, Homework, Grades
2. "Education"
Learning to talk about routines. / Using present, present continuous. / Feelings, emotions, expressing prohibition, obligation.
3. "Education"
Unit listening and reading practice.
4. "Personal Stories"
Learning to talk about what happened in the past. / Using past continuous, past. / Using verbs to describe reactions, closing conversations.
5. "Personal Stories"
Unit listening and reading practice.
6. "Style and Fashion"
Learning to talk about and describe fashion. / Using "used to" and defining clauses. / Clothing styles and asking "where" questions.
7. "Style and Fashion"
Unit listening and reading practice.
8. Mid-Term Revision
9. "Interesting Lives"
Learning to talk about life experiences. / Using past present and simple past. / Experiences, checking and clarifying meaning.
10. "Interesting Lives"
Unit listening and reading practice.
11. "Our World"
Learning how to talk about human made structures. / Using comparatives and superlatives. / Expressing disbelief.
12. "Our World"
Unit listening and reading practice.
13. "Organizing Your Time"
Learning to talk about weekend plans. / Using present tense for future. / Taking and leaving messages, favors.
14. "Organizing Your Time"
Unit listening and reading practice.
15. Final Revision for Testing

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - Active participation in class.

試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

Communicative English VIII (比人 2 C-C) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比人 2 C - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

リーディング学習として、リーディングセクションの英文を文構造を理解しながら精読して読む力を伸ばします。リスニング学習として各チャプターのリスニング問題に取り組み、聞く力の向上を図ります。

教科書 /Textbooks

American Vibes: People, Places and Perspectives
著者：Todd Rucynski & Yoko Nakagawa
金星堂（2,970円 [税込]）
ISBN: 978-4-7647-4094-5

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Orientation (授業の進め方について説明)
- 第2回 Chapter 1 Boston, Massachusetts
- 第3回 Chapter 2 Maine
- 第4回 Chapter 3 New York City 1
- 第5回 Chapter 4 New York City 2
- 第6回 Chapter 5 Washington, D.C.
- 第7回 Chapter 6 Charleston, South Carolina
- 第8回 Chapter 7 Savannah, Georgia
- 第9回 Chapter 8 Oswego, New York
- 第10回 Chapter 9 Austin, Texas
- 第11回 Chapter 10 Saint Jo, Texas
- 第12回 Chapter 11 Santa Fe, New Mexico
- 第13回 Chapter 12 Arizona-- Grand Canyon, Route 66
- 第14回 Chapter 13 Los Angeles 1
- 第15回 Chapter 15 Seattle, Washington まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、小テストや授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。

平素の学習状況、課題の提出状況と小テスト・・・40% 期末試験・・・60%

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明しますので、その指示に従いましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。

授業の詳細は、初回の授業で説明します。

授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通してできるだけ英語にふれるようにしましょう。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (比人 2 C-D) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 比人 2 C - D

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

American Vibes People, Places and Perspectives 「映像で学ぶアメリカの素顔：都市・人々・視点」 Todd Rucynski 他著 金星堂 ¥2970(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 Chapter1 Boston, Massachusetts
- 3回 Chapter2 Maine
- 4回 Chapter3 New York City 1
- 5回 Chapter4 New York City 2
- 6回 Chapter5 Washington, D.C.
- 7回 Chapter6 Charleston, South Carolina
- 8回 Chapter7 Savannah, Georgia
- 9回 Chapter8 Oswego, New York
- 10回 Chapter9 Austin, Texas
- 11回 Chapter10 Saint Jo, Texas
- 12回 Chapter11 Santa Fe, New Mexico
- 13回 Chapter12 Arizona—Grand Canyon, Route 66
- 14回 Chapter13 Los Angeles 1
- 15回 Chapter14 Los Angeles 2

成績評価の方法 /Assessment Method

小テストによる平常点(30%)、筆記試験(70%)

※小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：単語テストの準備

事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席してください。
- ・ 受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・ 事前に準備が必要な小テストに関しては、各自自宅にて暗記を済ませてテストに臨んでください。

Communicative English VIII (比人 2 C-D) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (比人 2 C-A) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 2 C - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

（到達目標）

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

リーディング学習として、リーディングセクションの英文を文構造を理解しながら精読して読む力を伸ばします。

リスニング学習として各チャプターのリスニング問題に取り組み、聞く力の向上を図ります。

教科書 /Textbooks

American Vibes: People, Places and Perspectives
著者：Todd Rucynski & Yoko Nakagawa
金星堂（2,970円 [税込]）
ISBN: 978-4-7647-4094-5

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 Orientation (授業の進め方について説明 & 英字新聞について知ろう！)
- 第2回 Chapter 1 Boston, Massachusetts
- 第3回 Chapter 2 Maine
- 第4回 Chapter 3 New York City 1
- 第5回 Chapter 4 New York City 2
- 第6回 Chapter 5 Washington, D.C.
- 第7回 Chapter 6 Charleston, South Carolina
- 第8回 Chapter 7 Savannah, Georgia
- 第9回 Chapter 8 Oswego, New York
- 第10回 Chapter 9 Austin, Texas
- 第11回 Chapter 10 Saint Jo, Texas
- 第12回 Chapter 11 Santa Fe, New Mexico
- 第13回 Chapter 12 Arizona-- Grand Canyon, Route 66
- 第14回 Chapter 13 Los Angeles 1
- 第15回 Chapter 15 Seattle, Washington まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は、小テストや授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。
平素の学習状況、課題の提出状況と小テスト・・・40% 期末試験・・・60%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明しますので、その指示に従いましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
授業の詳細は、初回の授業で説明します。
授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通してできるだけ英語にふれるようにしましょう。

キーワード /Keywords

Communicative English VIII (比人 2 C-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 比人 2 C - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG212F		◎			
科目名	Communicative English VIII				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、引き続き基礎的な英語能力の定着を目的とします。文法能力・語彙力に加えて主に読む力（リーディング力）と聴く力（リスニング力）の更なる向上を目指します。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学初中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

教科書 /Textbooks

“INSIGHTS 2022” (世界を読むメディア英語入門2022) (著者) 村尾純子他 金星堂 ¥2,090

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 Chapter 1 Global Competition in the Sky
- 3回 C. 1の続き、Chapter 2 Library on Wheels
- 4回 C. 2の続き、Chapter 3 English Subtitles Help Foreign Residents、C. 1単語小テスト
- 5回 C. 3の続き、C. 2単語小テスト
- 6回 Chapter 4 Olympic Pride、C. 3単語小テスト
- 7回 C. 4の続き、Chapter 5 The Big Business of Water
- 8回 C. 5の続き、C. 4単語小テスト
- 9回 Chapter 6 Evacuation Shelters for Pets、C. 5単語小テスト
- 10回 C. 6の続き、Chapter 7 How to Live a Zero-Waste Lifestyle
- 11回 C. 7の続き、C. 6単語小テスト
- 12回 Chapter 8 Home Is Where the Heart Is、C. 7単語小テスト
- 13回 C. 8の続き、Chapter 9 Loss of Ice Increases Global Temperatures
- 14回 C. 9の続き、Chapter 10 The Historic Red-Planet Mission、C.8単語小テスト
- 15回 C. 10の続き、C. 9単語小テスト、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義成績：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（予習課題、小テスト）：30%
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業のChapterを読んでおくこと。また単語を覚えてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Intermediate English I (比人 2 I - A) 【昼】

担当者名 /Instructor 船方 浩子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比人 2 I - A

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG301F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

- ① “Challenges of Global Enterprises” (海外メディアで読むグローバル企業の挑戦) (著者)塩見佳代子他 金星堂 ¥2,310
- ② “TOEIC®L&R TEST 出る単特急 金のフレーズ” (著者)TEX加藤 朝日新聞出版 ¥979
- ・ TOEICの回はプリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス、語彙演習
- 2回 1 Zara’s Recipe for Success: More Data, Fewer Bosses、(金のフレーズ)単語小テスト1
- 3回 2 Airbnb’s Challenge and New Direction、1 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト2
- 4回 TOEIC演習、(金のフレーズ)単語小テスト3
- 5回 3 Augmented Reality Ecosystem in Facebook、2 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト4
- 6回 4 Adidas Brings the Fast Shoe Revolution One、3 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト5
- 7回 TOEIC演習、(金のフレーズ)単語小テスト6
- 8回 5 At Toyota, the Automation Is Humane-Powered、4 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト7
- 9回 6 How Starbucks Became a Successful Worldwide Brand、5 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト8
- 10回 TOEIC演習、(金のフレーズ)単語小テスト9
- 11回 7 McDonald’s Modern Marketing Methods、6 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト10
- 12回 9 Why Amazon Is the World’s Most Innovative Company、7 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト11
- 13回 10 Sony Comes Back from the Brink、9 単語小テスト、(金のフレーズ)単語小テスト12
- 14回 12 How Google Has Changed the World、10 単語小テスト
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

最終評価には、TOEICスコアが反映されます。詳しくは第1回の授業で文書を配布して説明します。

講義評価：期末試験：70%、日常の授業への取り組み（小テスト、宿題）：30%

期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業の範囲を予習し、小テストの準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC(TOEFL)を受験することが義務付けられています。第1回の授業に必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業の進度、文法説明等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。詳細は初回の授業で説明します。

キーワード /Keywords

Intermediate English I (比人 2 I - B) 【昼】

担当者名 /Instructor 安丸 雅子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 比人 2 I - B

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG301F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき、内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。また、自分の苦手な個所や課題を発見し、勉強法を工夫して計画を立て、不断の努力を行うことを通して、広い意味での問題解決能力や自己管理能力を身につけます。

(到達目標)

- 【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
- 【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。
- 【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

Broadcast : ABC WORLD NEWS TONIGHT 4 「映像で学ぶABCワールドニュース 4」 山根 繁 他著 金星堂 ¥3080(税込)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要・ガイダンス
- 2回 News Story1 Easter Egg Hunt
- 3回 News Story2 Youngest Inaugural Poet
- 4回 News Story3 Reopening Schools
- 5回 News Story4 Pope's Historic Trip
- 6回 News Story5 America is Back
- 7回 News Story6 Coast-to-Coast Storms
- 8回 News Story7 Hank Aaron: Baseball legend
- 9回 News Story8 Turtles Rescued from the Cold
- 10回 News Story9 Suez Canal BottleNeck
- 11回 News Story10 First Female Eagle Scouts
- 12回 News Story11 Voting Law Backlash
- 13回 News Story12 Queen: Family Saddened
- 14回 News Story13 First Pilot to Break the Sound Barrier
- 15回 News Story14 Biden's Historic Stimulus Bill

成績評価の方法 /Assessment Method

- 小テストによる平常点(30%)、筆記試験(70%)
- ・小テストを8回以上受験しなかった場合、または定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
 - ・最終評価にはTOEICテストのスコアが反映されます。詳しくは初回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：単語テストの準備
- 事後学習：学習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第1回の授業に必ず出席してください。
- ・ 基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
- ・ 受講に際しては、テキストを必ず持参してください。
- ・ 単語テストなどの準備が必要なテストに関しては、各自自宅で暗記を済ませてテストに臨んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Intermediate English I (比人 2 I - C) 【昼】

担当者名 /Instructor 大塚 由美子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2nd Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1st Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 比人 2 I - C

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG301F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

CNNの放送を利用して、英語運用能力を高めると同時に物事を考えて発信していくために必要な知識を身につけていきます。授業内容に沿った小テスト(課題)を実施します。

教科書 /Textbooks

“CNN :ビデオで見る 世界のニュース (23)”
関西大学CNN 英語研究会編 (朝日出版社) (2090円 [税込])
ISBN:978-4-255-15677-4

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation (授業の進め方やTOEICスコアの反映方法について説明)
- 2回 CNNニュース英語も特徴 & CNNで話される英語の特徴と音声変化のポイント
- 3回 Unit 1 Female Leaders Lead
- 4回 Unit 2 Unexpected but Deserved
- 5回 Unit 3 Strategic Benevolence
- 6回 Unit 4 Almost Like Being There
- 7回 Unit 5 Loss of Precious Life
- 8回 Unit 6 Mosquitoes: Friends and Foes
- 9回 Unit 7 Plastic-Eating Insects
- 10回 Unit 8 Inspirational Journey
- 11回 Unit 9 No Holding Her Back
- 12回 Unit 10 Getting Prepared
- 13回 Unit 11 Learning to Adapt
- 14回 Unit 12 Signs of Progress
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

成績は小テスト、授業への貢献度、学期末試験などを考慮に入れ総合的に評価します。

平常の学習状況と小テスト・・・40% 期末試験・・・60%

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

最終評価にはTOEICスコアが反映されます。詳細については第1回の授業で文書を配布して説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内で説明しますので、その指示に従ってください。

履修上の注意 /Remarks

基盤教育センターの方針で、原則として各学期に1回、TOEIC (TOEFL) を受験することが義務付けられています。
第1回の授業に必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講生の理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがあります。
授業の詳細は、初回の授業で説明します。
授業以外でも英字新聞や英語ニュース等を通して英語にふれるようにしましょう。
予習・復習をしましょう。

キーワード /Keywords

Intermediate English II (比人 2 I - A) 【昼】

担当者名 /Instructor デビット・ニール・マクレラン / David Neil McClelland / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 比人 2 I - A /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG311F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

Content and Language Integrated Learning: this course will present materials on various contemporary issues for discussion in class. The main focus will be on developing critical thinking skills and academic presentation in English. Students will learn and practice; oral discussion and academic presentation in class, and academic writing through homework assignments

教科書 /Textbooks

Pathways 2B - Listening, Speaking and Critical Thinking (National Geographic Learning)

「税込価格：3,091円」

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Electronic Dictionary and Internet use

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Orientation
- 第2回：Eating and Food 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第3回：Eating and Food 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第4回：Presentation 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第5回：Active Earth 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第6回：Active Earth 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第7回：Presentation 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第8回：Wonders from the Past 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第9回：Wonders from the Past 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第10回：Presentation 3 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第11回：Species Survival 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第12回：Species Survival 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第13回：Presentation 4 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第14回：Innovation 1 [Speaking Skills] [Writing Skills]
- 第15回：Innovation 2 [Speaking Skills] [Writing Skills]

成績評価の方法 /Assessment Method

Final grades will combine class participation (45%), presentations (15%) and homework assignments (40%)

Students that fail to submit the final assignments as directed by the instructor will be assessed as (-) 【評価不能】

Intermediate English II (比人 2 I - A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Check the Moodle site for this course and complete any assignments

履修上の注意 /Remarks

Be careful to complete all the homework assignments for this course

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's have fun learning English together

キーワード /Keywords

Content-based language learning

Intermediate English II (比人 2 I - B) 【昼】

担当者名 /Instructor クリスティン・マイスター / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 比人 2 I - B /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG311F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。
(到達目標)
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。
【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

教科書 /Textbooks

Milner&Martin. World English Level 3: Combo Split 3A with Online Workbook 3rd ed. paper 19. Cengage/National Geographic Learning.
ISBN:978-0-357-130339
Price: ¥3025 including tax

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Further details about references will be given in the first session

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Schedule
Lesson 1: Introduction to the class
Lesson 2: Unit 1, Lesson A&B
Lesson 3: Unit 1, Lesson C&D
Lesson 4: Unit 2, Lesson A&B
Lesson 5: Unit 2, Lesson C&D
Lesson 6: Unit 3, Lesson A&B
Lesson 7: Unit 3, Lesson C&D
Lesson 8: Midterm test
Lesson 9: Unit 4, Lesson A&B
Lesson 10: Unit 4, Lesson C&D
Lesson 11: Unit 5, Lesson A&B
Lesson 12: Unit 5, Lesson C&D
Lesson 13: Unit 6, Lesson A&B
Lesson 14: Unit 6, Lesson C&D
Lesson 15: Pair Presentation and review

*Schedule and pace may be changed to suit the needs of the class.

成績評価の方法 /Assessment Method

成績評価の方法 “Assessment Method”

30% Participation and Diligence (Attending class, following directions, asking questions, etc.)

10% Homework (Homework is not graded, but checked that it is finished)

20% Pair Presentation

20% Midterm test

20% Final Test

Note: Missing the final test will result in a — grade! 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are asked to review the materials before and after class. Students may also be asked to make simple conversation with classmates at the beginning of class, so please be prepared for that.

履修上の注意 /Remarks

Please be on time, and don't miss more than 5 classes without a sufficient explanation (job interview, physical or mental illness, covid exposure, etc.).

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

You don't need a special brain to learn English, but you do need to make consistent effort! With good attendance, homework, and preparing for the pair presentations, you can do well in this class.

キーワード /Keywords

Intermediate English II (比人 2 I - C) 【昼】

担当者名 /Instructor ケネス・ギブソン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 比人 2 I - C /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG311F		◎	△	△	
科目名	Intermediate English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

Intermediate English I・II [2単位科目] (共通)
この授業は、これまでに身につけた英語スキルに基づき内容理解を意識しながら英語能力の更なる向上を目的とします。
(到達目標)
【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。
【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。
【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

This course will focus on improving the students' communication skills in English by focusing on speaking and listening skills, improving grammar and building vocabulary. Pair work and group discussions will be used extensively and homework will be required to reinforce the lesson each week.

教科書 /Textbooks

Four Corners 3B (ISBN - 9781108627726)
Cambridge University Press
About ¥2,420

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

Intermediate English II (比人 2 I - C) 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Orientation
Introductions, Textbook, Class Rules, Homework, Grades
2. "Personalities"
Learning to talk about personality traits and opinions. / Using adverbs and present perfect with "for" and "since." / Giving and asking for opinions.
3. "Personalities"
Unit listening and reading practice.
4. "The Environment"
Learning how to discuss environmental problems. / Using qualifiers and first conditional. / Giving appropriate answers and avoiding answering.
5. "The Environment"
Unit listening and reading practice.
6. "Relationships"
Learning how to discuss what's important in a relationship. / "It's" expressions, infinitives. / Apologizing and accepting an apology.
7. "Relationships"
Unit listening and reading practice.
8. Mid-Term Revision
9. "Living Your Life"
Learning to talk about yourself and your experiences. / Using reflexive pronouns, second conditional. / Advising against something, considering advice.
10. "Living Your Life"
Unit listening and reading practice.
11. "Music"
Learning how to talk about music. / Using past passive, present perfect with yet and already. / Beginning, continuing, ending instructions.
12. "Music"
Unit listening and reading practice.
13. "On Vacation"
Learning how to discuss travel preferences. / Using gerunds, modals for necessity and recommendations. / Asking about preferences.
14. "On Vacation"
Unit listening and reading practice.
15. Final Revision for testing.

成績評価の方法 /Assessment Method

- 33.33% - Final Test
- 33.33% - Homework
- 33.33% - Active participation in class.

試験を受験しなかった場合は、評価不能(－)とします

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Homework will be given every week to reinforce what was studied in class. Preparation for future lessons will not be necessary.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Please relax and enjoy the class. Don't worry about making mistakes, just do your best to communicate!

キーワード /Keywords

Listening, Speaking, Vocabulary Building, Grammar Expansion

Higher English I (2 H-B) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG302F		◎	○	△	
科目名	Higher English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Higher English I (2 H-A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダンカン・ウォトリイ / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営比人律政

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG302F		◎	○	△	
科目名	Higher English I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

This course should give you many opportunities to use the English you have studied through years of formal study in a practical face-to-face manner. The text provides a range of topics for us to work through week-by-week and there will also be extra activities such as discussion, pair-work, a Power-point presentation, daily life journal conversations and tasks with topics from which you will be able to choose something that relates to your personal interests. The teacher will give advice about typical language usage in the situations and contexts that we cover in class. Students will keep a weekly journal.

教科書 /Textbooks

Materials to be provided by the class teacher on a weekly basis.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Where and when appropriate, the class teacher will recommend background reading to support vocabulary development.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1 Introduction
 Week 2 Unit 1 Stories from the World (A)
 Week 3 Unit 1 Stories from Japan (A)
 Week 4 Unit 2 Stories from the World (B)
 Week 5 Unit 2 Stories from Japan (B)
 Week 6 Unit 3 Stories from the World (C)
 Week 7 Unit 3 Stories from Japan (C)
 Week 8 Review
 Week 9 Unit 4 Stories from the World (D)
 Week 10 Unit 4 Stories from Japan (D)
 Week 11 Unit 5 Stories from the World (E)
 Week 12 Unit 5 Stories from Japan(E)
 Week 13 Unit 6 Stories from the World (F)
 Week 14 Unit 6 Stories from Japan (F)
 Week 15 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

15% Journal
40% PowerPoint and Reports
45% Class participation and Quizzes

試験 * を受験しなかった場合は、調査不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are advised to prepare for each class by reading up on - and thinking about - the relevant topic in advance.
Each class will be reviewed through reading- and writing-focused assignments.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I am looking forward to meeting you all.

キーワード /Keywords

Higher English II (2 H-B) 【昼】

担当者名 /Instructor 未定

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 中国済営比人律政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Higher English II (2 H-A) 【昼】

担当者名 /Instructor ダニー・ミン / Danny MINN / 基盤教育センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class 中国済営比人律政 /China Jiyang University of Law

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG312F		◎	○	△	
科目名	Higher English II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、特定のトピックを通じてより高度な英語能力の向上を目的とします。

(到達目標)

【技能】英語（読む、書く、聞く、話す）を用いて、大学中級レベルで、日常生活のニーズを充足することができる。

【思考・判断・表現力】様々なトピックについて、英語を用いて主体的に自分の意見を表現することができる。

【コミュニケーション力】英語によるコミュニケーションを通じて相互理解を深めることができる。

The aim of this course is to help students activate the English that they have learned in secondary school and university. We will cover a variety of topics while we improve your English ability. The course will be quite demanding as it will require a large amount of reading, writing, speaking, and listening. While it may be relatively demanding, another goal for the course is that it will be intellectually stimulating for students.

教科書 /Textbooks

English Central (Academic Premium 4-month access) (level 6) 2,750 yen

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the class, getting acquainted
- 2回 Conversation strategies, note-taking
- 3回 Assignment 1
- 4回 Discussion 1
- 5回 Assignment 2
- 6回 Discussion 2
- 7回 Assignment 3
- 8回 Discussion 3
- 9回 Assignment 4
- 10回 Discussion 4
- 11回 Assignment 5
- 12回 Discussion 5
- 13回 Assignment 6
- 14回 Discussion 6
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

Grades will be based on homework (34%), quizzes and tests (33%), and effort speaking English in class (33%).

試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare and review for each class (about 60 min.). We may use a CALL (computer-assisted language learning) classroom. In the CALL room, you will be required to bring your own headset (earphones and microphone).

Higher English II (2 H-A) 【昼】

基盤教育科目
外国語教育科目
第一外国語

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 (学籍番号 /Class 偶数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN101F		◎			
科目名	中国語Ⅰ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながらか、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』(日本語版)中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比1年(学籍番号 /Class 奇数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN101F		◎			
科目名	中国語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしながらか、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【軽声】
- 2回 第二課 発音【子音】
- 3回 第二課 発音【複合母音】【鼻母音】
- 4回 第三課 総合知識
- 5回 第三課 総合練習
- 6回 第四課 私達はみんな友達です 【人称代名詞】【指示代名詞】【是の文】など
- 7回 第四課 これは一枚の地図です(本文) 練習
- 8回 第五課 私は最近忙しい 【形容詞の文】【動詞の文】など
- 9回 第五課 あなたはいつ北京へ行きますか(本文) 練習
- 10回 第六課 私達は買い物に行きます【二重目的語を取る述語動詞】【連動文】【有・没有】など
- 11回 第六課 私は松本葉子です(本文) 練習
- 12回 第七課 私達の学校は九州にあります 【在】【方位詞】【了】など
- 13回 第七課 大学の生活(本文) 練習
- 14回 第八課 あなたは長城に行ったことがありますか【動詞+过】【是……的】など
- 15回 第八課 全聚徳へ北京ダックを食べに行く(本文) 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・60% 小テスト・・・20% 日常の授業への取り組み・・・20%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 秀子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 (学籍番号 /Class 偶数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN111F		◎			
科目名	中国語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になるました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞 / 形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 60% 小テスト・・ 20% 日常の授業への取り組み・・ 20%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比1年(学籍番号 /Class 奇数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN111F		◎			
科目名	中国語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、中国語の基礎をマスターするのに重要な文法を全般的に学びます。

- (1)発音から学び始め、語彙力を増やしなが、文法の学習を通して特に読み書きの能力向上を図り、日常生活に必要な表現ができるようになることを目指します。
- (2)課文の講読を通して中国の一部の生活、風習について理解します。
- (3)この教科書の内容を学ぶことにより、中国に対する理解を深めることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『精彩漢語 基礎』（日本語版）中国・高等教育出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 彼は今あなたを待っていますよ【動作の現在進行形】【助動詞：会、能、可以】など
- 2回 第九課 田中さんが病気になるました(本文) 練習
- 3回 第十課 私は日本にハガキを送りたい【結果補語】【様態補語】【仮定の表現】など
- 4回 第十課 雪中に炭を送る(本文) 練習
- 5回 第十一課 彼らが言っていることが、聞けば聞くほどわからない【可能補語】【方向補語】など
- 6回 第十一課 電話を掛ける(本文) 練習
- 7回 第十二課 私と外灘にコーヒーを飲みに行ってください【要】【“把”構文】など
- 8回 第十二課 ウィンドウショッピング(本文) 練習
- 9回 第十三課 陳紅さんは私に上海に転校して留学してほしい【使役動詞】【動詞/形容詞の重ね形】
- 10回 第十三課 “福”字を貼る(本文) 練習 【存現文】【因为……所以】など
- 11回 第十四課 私の自転車は王さんが乗って行ってしまいました【受身動詞】【“被”の文】
- 12回 第十四課 円明園(本文) 練習 【不但……而且】など
- 13回 第十五課 あなた達の話している中国語はまるで中国人のようです【比較文】【跟……一样】
- 14回 第十五課 日本概況(本文) 練習 【虽然……但是】など
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・60% 小テスト・・20% 日常の授業への取り組み・・20%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)

事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、IIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 中国への理解

中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比1年(学籍番号 /Class 偶数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN102F		◎			
科目名	中国語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 崔 学森 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 (学籍番号 /Class 奇数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN102F		◎			
科目名	中国語Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることが出来ます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 発音【単母音】【声調】【轻声】、練習問題
- 2回 第二課 発音【子音】、練習問題
- 3回 第三課 発音【複合母音】【鼻母音】、練習問題
- 4回 総合知識
- 5回 総合練習
- 6回 第四課 紹介
- 7回 第四課 自己紹介 練習問題
- 8回 第五課 入国・北京紹介
- 9回 第五課 飛行機搭乗・入国手続き、練習問題
- 10回 第六課 レストランにて・天津紹介
- 11回 第六課 レストランにて、練習問題
- 12回 第七課 道を尋ねる・上海紹介
- 13回 第七課 交通、練習問題
- 14回 第八課 観光する・蘇州と杭州紹介
- 15回 第八課 観光、練習問題

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
2. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

必ず出席すること。
必ず毎回授業の内容を予習と復習すること。
電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 陳 青鳳 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 (学籍番号 /Class 偶数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN12F		◎			
科目名	中国語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 必ず出席すること。
- 電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 崔 学森 / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 (学籍番号 /Class 奇数)

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN12F		◎			
科目名	中国語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

中国語初心者を対象に、実用的な初級段階のコミュニケーションが取れるようになることを目指します。

- (1)発音の基礎から学び始め、会話文の練習などを通して、正しい発音を定着させます。
- (2)日常会話に必要な語彙を増やし、様々な場面で使う文法や表現を習得し、発話できるように図ります。
- (3)会話文の学習を通して、場面に応じた中国語会話能力を高めます。
- (4)この教科書の内容を全て学ぶことにより、将来、中国へ旅行する時に役立つ知識を得ることができます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 西遊記』 中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 買い物をする・義烏と横店紹介
- 2回 第九課 買い物、練習問題
- 3回 第十課 お金を両替・西安と洛陽紹介
- 4回 第十課 銀行にて、練習問題
- 5回 第十一課 ホテルに泊まる・成都紹介
- 6回 第十一課 ホテルにて、練習問題
- 7回 第十二課 電話を掛ける・昆明紹介
- 8回 第十二課 電話、練習問題
- 9回 第十三課 興味について語る・広州紹介
- 10回 第十三課 興味、練習問題
- 11回 第十四課 見方について語る・大連紹介
- 12回 第十四課 語り合い、練習問題
- 13回 第十五課 搭乗手続き・日本の紹介
- 14回 第十五課 空港での搭乗手続き・免税店にて
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする (CDを聞く、分からない単語を調べる、课文の音読など)
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅲを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 教科書の「練習問題」は、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 必ず出席すること。
- 電子辞書を携帯すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 会話 表現 コミュニケーション

中国語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 比2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN201F		◎			
科目名	中国語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶというと相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 ポイント説明 日本紹介(本文)
- 2回 第二課 ポイント説明
- 3回 第二課 東京(本文)
- 4回 第三課 ポイント説明
- 5回 第三課 横浜(本文)
- 6回 第四課 ポイント説明
- 7回 第四課 富士山と東照宮(本文)
- 8回 第五課 ポイント説明
- 9回 第五課 静岡と名古屋(本文)
- 10回 第六課 ポイント説明
- 11回 第六課 京都(本文)
- 12回 第七課 ポイント説明
- 13回 第七課 奈良(本文)
- 14回 第八課 ポイント説明
- 15回 第八課 大阪(本文)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 60% 日常の授業への取り組み、小テスト等... 40%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小椋 吾郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN211F		◎			
科目名	中国語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

- (1)本文読解を通じ、主に「読解・翻訳」面の強化に重点を置いた授業を行います。
- (2)中級レベルの文法を学び、少し長めの文章を作る・自分の言いたいことを言えるレベルを目指します。
- (3)本文読解を通じ日本への理解を深めると共に、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 ポイント説明
- 2回 第九課 宮島と下関(本文)
- 3回 第十課 ポイント説明
- 4回 第十課 九州(本文)
- 5回 第十一課 ポイント説明
- 6回 第十一課 福岡(本文)
- 7回 第十二課 ポイント説明
- 8回 第十二課 佐賀(本文)
- 9回 第十三課 ポイント説明
- 10回 第十三課 長崎(本文)
- 11回 第十四課 ポイント説明
- 12回 第十四課 四国(本文)
- 13回 第十五課 ポイント説明
- 14回 第十五課 仙台と北海道(本文)
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...60% 日常の授業への取り組み、小テスト等...40%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN202F		◎			
科目名	中国語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第一課 日本紹介(会話) 練習
- 2回 第二課 東京(会話)
- 3回 第二課 練習
- 4回 第三課 横浜(会話)
- 5回 第三課 練習
- 6回 第四課 富士山と東照宮(会話)
- 7回 第四課 練習
- 8回 第五課 静岡と名古屋(会話)
- 9回 第五課 練習
- 10回 第六課 京都(会話)
- 11回 第六課 練習
- 12回 第七課 奈良と神戸(会話)
- 13回 第七課 練習
- 14回 第八課 大阪(会話)
- 15回 第八課 練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・・40% 暗誦・・・30% 日常の授業への取り組み・・・30%
※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

中国語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 艾文婷 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN212F		◎			
科目名	中国語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

外国語を学ぶという相手国のことばかりに目を向けがちですが、本テキストでは、日本についての知識を身につけ、外国語で表現するという能力を身につけることを目標としています。皆さんは、日本を「内から見る」ことには慣れていないかもしれませんが、今までと角度を変えて「他との関わりから日本を見る」ことをしてみませんか。きっと、日本が持つ別の側面を知ることができると思います。

中国語中級者を対象に、実用的な中級レベルのコミュニケーションが取れることを目指します。

- (1) 会話文の練習などを通して、正しい発音・自然な言い回しをしっかりと定着させます。
- (2) 本文を通じ日本への理解を深めると共に、日本のことを中国語で紹介できる能力を身につけます。また、日本各地の中国との関係への理解も深めます。

(到達目標)

【技能】中国語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『遊学漢語シリーズ 東遊記』（修訂版）中国・華語教学出版社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「中日・日中」辞書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第九課 宮島と下関(会話)
- 2回 第九課 練習
- 3回 第十課 九州(会話)
- 4回 第十課 練習
- 5回 第十一課 福岡(会話)
- 6回 第十一課 練習
- 7回 第十二課 佐賀(会話)
- 8回 第十二課 練習
- 9回 第十三課 長崎(会話)
- 10回 第十三課 練習
- 11回 第十四課 四国(会話)
- 12回 第十四課 練習
- 13回 第十五課 仙台と北海道(会話)
- 14回 第十五課 練習
- 15回 総合練習

成績評価の方法 /Assessment Method

複数回の小テスト・・ 40% 暗誦・・ 30% 日常の授業への取り組み・・ 30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：学習予定範囲の予習をする（CDを聞く、分からない単語を調べる、課文の音読など）
事後学習：学習範囲の復習をする

履修上の注意 /Remarks

1. 中国語I、II、III、IV、V、VIIを履修済であることが望ましい。
2. CDを聞いたり、単語を調べる等、予習・復習をすること。
3. 授業前に本文を読み、内容を把握しておくことが望ましい。
4. 教科書の「練習問題」について、担当教員の指示に従い、定期的に完成したものを教科書から切り取って提出することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回出席すること。

キーワード /Keywords

発音 語彙力 文法 日本の理解

上級中国語I【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN301F		◎			
科目名	上級中国語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

上級中国語は、中国語初・中級をひととおり終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などすることによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることである。

主に聴く、話す、文章の作成能力に重点を置く。

到達目標

中国語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

世界共通中国政府公認のビジネス中国語試験（BCI初級テスト）の内容も同時に指導する。

参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。

（到達目標）

【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

第1回の授業で指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1学期

第1回 授業説明、基礎復習

第2回 第1課① 文法、翻訳、聴解練習

第3回 第1課② 会話、リスニング、作文練習

第4回 第2課① 文法、翻訳、聴解練習

第5回 第2課② 会話、リスニング、作文練習

第6回 第3課① 文法、翻訳、聴解練習

第7回 第3課② 会話、リスニング、作文練習

第8回 場面の体験1

第9回 第4課① 文法、翻訳、聴解練習

第10回 第4課② 会話、リスニング、作文練習

第11回 第5課① 文法、翻訳、聴解練習

第12回 第5課② 会話、リスニング、作文練習

第13回 第6課① 文法、翻訳、聴解練習

第14回 第6課② 読む、会話、作文練習

第15回 場面の体験2

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表40% 定期試験30%

※5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習および復習する必要がある。
欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(BCIT初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語　ビジネス用語、　会話力、　翻訳力　作文力

上級中国語II 【昼】

担当者名 /Instructor 唐 雋 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英国済営比人3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
CHN311F		◎			
科目名	上級中国語II		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

上級中国語IIは、中国語初・中級をひとつおりの終えた学習者のために、さらに一歩上の段階で学ぶ講義である。
本講義は初・中級に続き、単語練習、聴解練習、短文作文、応用練習などを行うことによって、中国語の聴解と会話、作文力を身につけることである。
主に翻訳、話す、文章の作成能力に重点を置く。
到達目標
中国語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。
参考資料などを通して中国の文化や風習などを紹介する。
中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験（BCCT初級テスト）の内容も同時に指導する。
到達目標）
【技能】中国語を用い、上級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

第1回の授業時に説明する。（前期の上級中国語Iと同じ教科書を使用する予定。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて参考資料を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第2学期
第1回 第7課① 文法、翻訳、聴解練習
第2回 第7課② 会話、リスニング、作文練習
第3回 第8課① 文法、翻訳、聴解練習
第4回 第8課② 会話、リスニング、作文練習
第5回 場面の体験1
第6回 第9課① 文法、翻訳、聴解練習
第7回 第9課② 会話、リスニング、作文練習
第8回 第10課① 文法、翻訳、聴解練習
第9回 第10課② 会話、リスニング、作文練習
第10回 場面の体験2
第11回 第11課① 文法、翻訳、聴解練習
第12回 第11課② 会話、リスニング、作文練習
第13回 第12課① 文法、翻訳、聴解練習
第14回 第12課② 会話、リスニング、作文練習
第15回 場面の体験3

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み30% 発表40% 定期試験30%
※ 5回以上欠席した場合、また期末試験を受験しなかった場合は、
評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

予習、復習する必要がある。
欠席しないこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一緒に楽しく中国語を学びましょう。

就職に有利になる中国政府公認世界共通ビジネス中国語試験(B C T初級テスト)に挑戦してほしい。

キーワード /Keywords

日常生活用語 ビジネス用語、 会話力、考え力、ビジネス文章

朝鮮語Ⅰ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 香善 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は韓国語をはじめて学習する学生を対象とするので、文字（ハングル）や単語の発音練習に多くの時間を割く。ハングルの読み書きができるようになることを第一目標とし、自己紹介は勿論のこと、簡単な挨拶表現や初歩的な日常会話表現を学ぶ。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料・プリントなどを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス / 【ハングルの特徴と構成】
- 2回 文字と発音① 【母音字】とその発音
- 3回 文字と発音② 【子音字】とその発音
- 4回 文字と発音③ 【子音字+母音字】とその発音
- 5回 文字と発音④ 【濃音、激音、平音】の発音比較
- 6回 文字と発音⑤ 【二重母音字】とその発音
- 7回 文字と発音⑥ 【パッチム】の読み方と発音
- 8回 【日本の人名・地名をハングルで表記】する方法の練習
- 9回 【簡単な挨拶】の練習 / 教室用語 文字と発音
- 10回 発音ルール① 【有声音化 / 連音化 / 激音化 / 濃音化】
- 11回 発音ルール② 【鼻音化 / 口蓋音化 / 流音化 / その他】
- 12回 まとめと復習
- 13回 体言の肯定文（自己紹介）【～です】、助詞【～は】
- 14回 体言の否定文（自己紹介）【～ではありません】、助詞【～が】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語（韓国語）を基礎から学ぶ。入門段階である1学期はハングル文字と発音を正確に習得することが重要である。したがって、この講義では一言会話とともに正確に読み書きができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩』（巖 基珠他、白水社、2,200円）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞典 (必携)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 文字と発音【単母音】【鼻音】
- 3回 文字と発音【単母音その2】【流音】
- 4回 文字と発音【平音】【半母音】
- 5回 文字と発音【激音】【濃音】
- 6回 文字と発音【合成母音】まとめと復習
- 7回 文字と発音【パッチム】
- 8回 発音の規則【有声音化】【連音化】
- 9回 発音の規則【濃音化】【激音化】
- 10回 発音の規則【流音化】【口蓋音化】【その他】
- 11回 まとめと復習
- 12回 第11課 指定詞の丁寧形【～です】
- 13回 第12課 指定詞の丁寧な否定表現【～ではありません】
- 14回 第11課と第12課の復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に対する取り組み、小テストおよび宿題...30% 期末試験...70%
※コロナの状況により、変更の可能性あり

* 7回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の授業時に指定した課題を確実に履行する。また、学習した語彙・文法を確実に理解し、暗記すること。

履修上の注意 /Remarks

ほぼ毎回小テストや宿題あり。予習復習を徹底すること。

朝鮮語Ⅲと並行して受講することが望ましい。

朝鮮語I (1 - b) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ (1 - c) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日本語が母語である学習者にとって、他言語より習得しやすい言語であるといわれているのが韓国語である。ゆえに日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで個々の学習能力を高めていくことを教育方針とする。もっとも重要なことは文字と発音を正確に習得することである。

この講義では韓国語を正確に読み書きできるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な文章を読み、理解できることを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

巖基珠、金三順ほか『韓国語の初歩(三訂版)』白水社 2019年。2200円+税。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭 『韓国語へ旅しよう』初級 朝日出版社 2014年。2500円+税。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音】
- 4回 文字の発音及び書き順3【濃音】【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 文字の発音及び書き順4【母音2】
- 6回 文字の発音及び書き順5【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 7回 発音の法則【連音化】【激音化】【鼻音化】【濃音化】
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】単語読みと書き取りのドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【国名と地名】【あいさつ文章】【漢字合成語】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【～です】【～は】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】【辞書調べ方】
- 12回 指示・人称代名詞、疑問詞【こ・そ・あ・ど】
- 13回 かしこまった丁寧形 用言活用の仕組み
- 14回 数詞のまとめ 【漢字語数詞、固有語数詞】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(50%) 日常の授業への取り組み+小テスト(2回)+課題(50%)
5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語IIIの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

わかりやすい韓国語授業にしたいと思います。そうするためには皆様の手も必要ですので、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅰ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN101F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業では、朝鮮語の基礎を学び身につけます。具体的には、朝鮮語の音韻・語彙・発音の基礎を学んだ上で、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)について初級レベルの力を養います。
受講生の殆どは、朝鮮語を本格的に学ぶのは初めてですので、一段一段順を追って学んでいきます。前期の前半は、独特な文字であるハングルの仕組みや、韓国語の音韻を中心に学びます。前期の後半からは、会話文を利用して学習を進めます。また、韓国・朝鮮の文化についても教科書に沿って学んでいきます。朝鮮語を習得することはもちろん、隣国の異なる文化も学びます。
【到達目標】
朝鮮語の語彙や文法を学び自己紹介、簡単な挨拶表現や簡単な文章を読んで理解できることを目標としています。

教科書 /Textbooks

巖基珠・金三順ほか『韓国語の初歩(三訂版)』白水社 2019年 2200円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』初級 朝日出版社 2014年 2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業案内、朝鮮語の概要、文字の構成、挨拶表現、基本母音字
- 2回 基本母音字のドリル、基本子音字の練習、音節と単語読み
- 3回 激音と濃音
- 4回 複合母音
- 5回 ハングルの終声(パッチム)
- 6回 発音変化
- 7回 ハングル表記法及び話してみましょう。
- 8回 第11課 大学生ですか？
- 9回 第12課 会社員ではありません。
- 10回 第13課 どこで学びますか。
- 11回 11～13課までの復習
- 12回 第14課 暑くありませんか。
- 13回 第15課 誕生日はいつですか。
- 14回 14～15課までの復習
- 15回 助詞のまとめ及び総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 定期試験：50%
- ・ 日常の授業への取り組み：40% (小テスト4回)
- ・ レポート：10%

※成績評価の対象としない場合(評価不能)について
 ・ 5回以上欠席した場合、欠席6回目からは評価不能とします。
 ・ 定期試験を受験しなかった場合は評価不能とします。

朝鮮語I (1 - d) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：次の①と②について計30分程度の予習を行うこと。

①次の回で学習予定の部分について、教科書に目を通し、新出語彙はすべて辞書を使い意味を調べる。

②教科書の各課の練習問題は、予め自宅で取り組んだ上で授業に臨む。

復習：以下の①～③について計60分程度の復習を行うこと

①ダウンロードした音声を利用し、音声のあとをすぐ追って繰り返し音読ができるようにすること(シャドーイング)。

②ダウンロードした音声を利用し、音声からの書き起こしが正確にできるよう、繰り返し練習すること。

③その他、授業で指示された課題

履修上の注意 /Remarks

- ・ 入門レベルの授業になります。朝鮮語の基本的な動詞や形容詞を用いた文を読んだり書いたりすることができるレベルにある人には不向きです。
- ・ 1回の授業に対して、復習・予習を必ず行ってください。
- ・ 学期中に小テストを複数回実施します。進捗状況に応じて、予告を行ったうえで実施します。
- ・ 授業計画に沿った授業運営を心がけますが、状況によって前後することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語は、日本語を知っている者にとって大変学びやすい外国語ではありますが、積み重ねが重要である点は他の外国語と同じです。予習・授業・復習のサイクルを止めずに、着実に学習を積み重ねてください。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 奈良 美香 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義は朝鮮語Ⅰで学習したものを再確認しながら、基本的な単語や日常会話に必要な表現を学ぶ。文法的な知識を増やしつつも、それを実際のコミュニケーションの中で使えるように、語彙力をつけて短文を暗記するという作業に重点をおく。また、言葉を通して韓国文化への理解を深めることをねらいとする。

到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩（改訂版）』（巖基珠ほか、白水社、2200円）、
適宜資料やプリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『朝鮮語辞典』（小学館、8000円）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 どこでなってますか①【指示代名詞】【疑問代名詞】
- 3回 どこでなってますか②【用言の丁寧形】
- 4回 暑くありません【用言の否定形】
- 5回 数詞【漢数字】【固有数字】
- 6回 誕生日はいつですか【体言の打ち解けた丁寧形】
- 7回 どこに住んでいますか①【用言の連用形】
- 8回 どこに住んでいますか②【用言の連用形】の確認と応用
- 9回 先生いらっしゃいますか【電話対応】と【敬語表現】
- 10回 何をお探ですか【買い物】と【敬語表現】
- 11回 何をしましたか①【過去形】
- 12回 何をしましたか②【過去形】の確認と応用
- 13回 何を召し上がりますか①【意思・推量形】
- 14回 何時に会いましょうか②【願望・勧誘形】
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み... 30%、小テスト・課題... 30%、定期試験... 40%
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語II (1 - a) 【昼】

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 慶湖 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅰで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『韓国語の初歩 三訂版』 巖基珠他 (白水社) 2,200円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『プログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他 (小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅰの復習
- 2回 動詞の丁寧形【ハムニダ体①】【～を】
- 3回 形容詞の丁寧形【ハムニダ体②】【数詞①】
- 4回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 5回 指定詞の丁寧形【ヘヨ体①】【～です】【～ではありません】
- 6回 数詞のまとめ【数詞②】【年齢】【日付】
- 7回 助詞のまとめ【作文練習】
- 8回 動詞と形容詞の丁寧形【ヘヨ体②】
- 9回 否定表現【～しません】【～くありません】
- 10回 用言の尊敬形①【ハムニダ体】
- 11回 用言の尊敬形②【ヘヨ体】【特殊な尊敬語】
- 12回 尊敬形のまとめ【作文練習】
- 13回 用言の過去形①【ハムニダ体】
- 14回 用言の過去形②【ヘヨ体】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%
※コロナの状況により、変更の可能性あり

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

朝鮮語II (1 - b) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - c) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法において、類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現によって異なる言葉遣いにおける学習、短文の読解ができるための基礎文法を学習することを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

厳基珠、金三順ほか『韓国語の初歩(三訂版)』白水社 2019年。2200円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』朝日出版社 2014年。2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Iの学習内容確認、復習
- 2回 用言の否定表現
- 3回 丁寧形I、エヨ・イエヨ・アニエヨ。
- 4回 漢字語・固有語固数字【誕生日】【年齢】【時刻】
- 5回 助詞のまとめ
- 6回 丁寧形2 - 1【打ち解けた丁寧形】
- 7回 丁寧形2 - 2【打ち解けた丁寧形】ドリル
- 8回 尊敬表現1【用言】
- 9回 尊敬表現2【特殊な尊敬語、名詞、助詞】
- 10回 尊敬表現敬3【数字と敬語を使った場面会話練習】
- 11回 過去形【합니다体の過去】【해요体の過去】
- 12回 過去形のドリル【日記作成】
- 13回 好みを尋ね合う【注文場面の会話練習】
- 14回 希望・勧誘・提案表現
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験(50%)、日常の授業への取り組み+小テスト(2回)+課題(50%)
5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回する予定の練習問題をノートに予習すること。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅳの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文法をしっかり勉強すると会話が楽しくなりますので、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅱ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 京姫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN111F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業では、朝鮮語の基礎を学び身につけます。具体的には、朝鮮語の音韻・語彙・発音の基礎を学んだ上で、4技能(話すこと、聞くこと、書くこと、読むこと)について初級レベルの力を養います。
受講生の殆どは、朝鮮語を本格的に学ぶのは初めてですので、一段一段順を追って学んでいきます。前期の前半は、独特な文字であるハングルの仕組みや、韓国語の音韻を中心に学びます。前期の後半からは、会話文を利用して学習を進めます。
また、韓国・朝鮮の文化についても教科書に沿って学んでいきます。朝鮮語を習得することはもちろん、隣国の異なる文化も学びます。

【到達目標】自己紹介、簡単な挨拶表現、簡単な文章を読み理解することを目標とします。

教科書 /Textbooks

巖基珠・金三順ほか『韓国語初歩(三訂版)』 白水社 2019年 2200円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』初級 朝日出版社 2014年 2500円+税

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前期の復習
- 2回 16課 どこに住んでいますか。(打ち解けた丁寧形)
- 3回 17課 先生いらっしゃいますか。(かしこまった尊敬形)
- 4回 18課 何をお探しますか。(打ち解けた尊敬形)
- 5回 16～18課の復習、小テスト
- 6回 19課 何をしましたか。(過去形)
- 7回 20課 何を召し上がりますか。
- 8回 19～20課の復習、小テスト
- 9回 21課 何時にお会いしましょうか。
- 10回 22課 水泳をしています。(進行形)
- 11回 21～22課の復習 我が家に一度遊びに来てください。
- 12回 23課 我が家に一度遊びに来てください。24課 市庁から近いですか。
- 13回 24課 市庁から近いですか。22～24課の復習、小テスト
- 14回 23～24課の復習小テスト
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

本授業は、各到達目標の達成度を基準として、下記の方法と割合により成績評価します。

- ・ 定期試験：50%
- ・ 授業への取り組み：40点(小テスト4回)
- ・ レポート：10%

成績評価の対象としない場合(評価不能(-))について

- ・ 5回以上欠席した場合、欠席6回目からは評価不能(-)とします。
- ・ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

朝鮮語Ⅱ (1 - d) 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：次の①と②について計30分程度の予習を行うこと。

①次の回で学習予定の部分について、教科書に目を通し、新出語彙はすべて辞書を使い意味を調べる。

②教科書の各課の練習問題は、予め自宅で取り組んだ上で授業に臨む。

復習：以下の①～③について計60分程度の復習を行うこと

①ダウンロードした音声を利用し、音声のあとをすぐ追って繰り返し音読ができるようにすること(シャドーイング)。

②ダウンロードした音声を利用し、音声からの書き起こしが正確にできるよう、繰り返し練習すること。

③その他、授業で指示された課題

履修上の注意 /Remarks

・ 入門レベルの授業になります。朝鮮語の基本的な動詞や形容詞を用いた文を読んだり書いたりすることができるレベルにある人には不向きです。

・ 1回の授業に対して、復習・予習を必ず行ってください。

・ 学期中に小テストを複数回実施します。進捗状況に応じて、予告を行ったうえで実施します。

・ 授業計画に沿った授業運営を心がけますが、状況によって前後することもあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語は、日本語を知っている者にとって大変学びやすい外国語ではありますが、積み重ねが重要である点は他の外国語と同じです。予習・授業・復習のサイクルを止めずに、着実に学習を積み重ねてください。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語の実践的運用や韓国文化理解の第一歩として、朝鮮語の基礎力・基礎知識を習得することを目標に、講義を進める。朝鮮語学習の初級段階において最も重要な発音の訓練に重点を置き、ハングル文字について解説する。発音や文字に慣れる作業と並行して、基礎的な語彙・文法、簡単な挨拶文や会話表現を紹介する。授業においては毎回、発音練習を課す。また基礎的な語彙や文章表現の暗誦・作文などを課す。
・到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）。その他、授業において提示する資料。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金恵媛・李文相・朴賢珠 (2007) 『サランヘヨ！ハングル-初級から中級へ-』 白帝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【職業】
- 11回 疑問文と応答文【～ですか】【はい、いいえ】【～ではありません】
- 12回 韓国文化の紹介【映像資料】
- 13回 存在詞、場所名、ゼスチュア-位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ベアで指示代名詞の質問と応答】【自己紹介】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・平常点：20%、小テスト（3回）：30%、課題（2回）：20%、発表（1回）：10%、期末テスト：20%
- ・授業時間数の3分の2以上を出席していない場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容についての事前学習、授業内容についての事後学習を推奨する。

履修上の注意 /Remarks

関連の講義を幅広く受講することにより、朝鮮語スキルのより高いレベルを目指すことができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語を学ぶことは、韓国への理解を深めるための第一歩です。楽しく学び、しっかり身につけましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）
『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%
※コロナの状況により、変更の可能性あり

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語Ⅲ (1 - b) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - c) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

基本の文字習得や発音の法則は文法の授業と重なる部分があるが、聞き取りや学習者一人一人の発音の指導及び学んだ言葉を話す練習を主としてコミュニケーション能力を高めていくのを教育方針とする。もっとも重要なことはハングル（文字）と発音を正確に習得することである。この講義では韓国語を正確に聴いて書くことができるようにすること、また自己紹介、初歩的な挨拶表現や簡単な質問に返事できることを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子『最新チャレンジ！韓国語』白水社 2014年。2300円＋税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』朝日出版社 2014年。2500円＋税

油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語及び授業の概要、文字の構成【ハングル】【基本挨拶】【母音発音及び書き順】
- 2回 文字の発音及び書き順1【基本母音のドリル】【基本子音の発音】【音節と単語読み】
- 3回 文字の発音及び書き順2【激音・濃音】【半母音と二重母音】【半切表】
- 4回 文字の発音及び書き順3【バッチム】【二重バッチム】【名札作り】
- 5回 単語読みと書き取りのドリル【平音、激音、濃音の読みと聞き分け】【バッチムの発音】
- 6回 発音の法則【連音化】【激音化】ドリル
- 7回 発音の法則【鼻音化】【濃音化】ドリル
- 8回 発音の法則【流音化】【その他の発音法則】ドリル
- 9回 自然な発音で単語を読むドリル【体の部分名称】【単語カード】
- 10回 簡単な文章読み書き【自己紹介】【かしこまった「です・ます」体の作り方】
- 11回 韓国文化紹介【映画鑑賞】
- 12回 存在詞、場所名、位置名詞暗記【教室にある物と無いもの】【～に】
- 13回 家族紹介【存在詞を使ってペアで質問と応答】
- 14回 指示代名詞、人称代名詞、疑問詞【ペアで趣味・専攻などを質問と応答】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 (50%)、平常の学習状況 + 小テスト (2回) + 課題 (50%)。
5回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

朝鮮語Ⅲ (1 - c) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この講義と朝鮮語Ⅰの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

多くのアクティビティを含んだ授業を目指してやっていますので、楽しい韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅲ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN102F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

韓国語に初めて接する受講生の韓国語入門である。初級でつまづきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、正確な読み書きの習得を目指す。ペア練習やグループワークを取り入れ、日常生活に必要な挨拶や基礎的表現を覚えていく。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 定価2,300円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利他（小学館）
『韓国語ビジュアル単語集』 李恩周（高橋書店）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 文字と発音【基本母音】
- 2回 文字と発音【基本子音】
- 3回 文字と発音【激音】【濃音】
- 4回 文字と発音【合成母音字】
- 5回 文字と発音【終声①】【終声②】
- 6回 発音のルール【連音化】【濃音化】
- 7回 発音のルール【激音化】【鼻音化】
- 8回 その他の発音法則
- 9回 【文字の復習】【指定詞の丁寧形】
- 10回 疑問文と応答文【～ですか】【～です】【～ではありません】
- 11回 自己・物を紹介する時の表現【～といます】
- 12回 存在詞の丁寧形【～があります】
- 13回 場所名、時をあらわす単語【～に】【～があります、います】
- 14回 位置を表す単語と助詞【～に】存在詞の否定文【～がありません、いません】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 50% 日常の授業への取り組み・・ 40% レポートや課題・・ 10%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語は"ハングル"という独自の文字から覚えなければならない言語です。他にも覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張らないと身に付きません。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - a) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲの履修を受け、朝鮮語の実践的運用や韓国文化理解のために、朝鮮語の基礎力・基礎知識を学習する。授業内容は、朝鮮語Ⅲをステップアップした内容で、ハングル表記をマスターする。応用的な語彙・文法を習得し、少し長めの文章・平易な会話表現などを習得することを目標とする。

・到達目標：朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉他『新チャレンジ！韓国語』（白水社）。授業において提示する資料。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金恵媛・李文相・朴賢珠 (2007) 『サランヘヨ！ハングル-初級から中級へ-』 白帝社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、丁寧形 1【自己紹介】【授業に必要な言葉】
- 2回 助詞 1【助詞の例文を会話に用いる】、漢数字 1【【おいくらですか】【買い物】
- 3回 助詞 2、漢数字 2【電話番号を教えてください】【誕生日は何月何日？】
- 4回 時制表現【昨日は何曜日ですか】【一週間の予定表】
- 5回 丁寧形 2【해오体】動詞・形容詞の丁寧形ドリル
- 6回 丁寧形 2【해오体】文章に於いての丁寧形ドリル
- 7回 「해오体」の不規則、固有数字 1【一つ、二つ . . .】
- 8回 「해오体」のドリル、固有数字 2【おいくつですか】
- 9回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 10回 数量単位名詞【人・物を数える】【相づち】
- 11回 希望表現【将来何になりたいですか】【週末友達は何をしたがっていますか】
- 12回 否定及び不可能表現【ベアの質問と応答練習】【못~, ~지 못해요】
- 13回 過去形【きのう何をしましたか】【前置き表現】
過去形の否定及び不可能表現【~지 않았어요.】【~지 못했어요.】
- 14回 グループ発表(会話)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・平常点：20%、小テスト(3回)：30%、課題(2回)：20%、発表(1回)：10%、期末テスト：20%
- ・授業時間数の3分の2以上を出席していない場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容についての事前学習、授業内容についての事後学習を推奨する。

履修上の注意 /Remarks

関連の朝鮮語授業を並行して受講することによって復習効果が得られるとともに、朝鮮語のコミュニケーション能力を向上させることができる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

朝鮮語を学ぶことは、韓国への理解を深めるための第一歩です。楽しく学び、しっかり身につけましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者名 /Instructor 吳 珠熙 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社） 2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 7回 用言の否定形【～しません、～ありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【～に～しに行きます】好みの表現【～が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【～ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト及び課題到達度・・・25%
授業中の参加意欲及び発言状況・・・25%
学期末試験・・・50%
※コロナの状況により、変更の可能性あり

* 7回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ほぼ毎回行う小テストの準備のために復習をしておくこと。
次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

朝鮮語Ⅳ (1 - b) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - c) 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本語と韓国語の対照言語的なアプローチから両言語の文法における類似点と相違点を指導することで学習能力を高めていくことを教育方針とする。前学期に続いて、相手、時制、自己表現において異なる状況での必要な言葉遣いを学習、簡単に意見交換に必要な会話ができるためのコミュニケーション能力を学習することを目標とする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子『最新チャレンジ!韓国語』白水社 2014年。2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

李昌圭『韓国語へ旅しよう』朝日出版社 2014年。2500円+税
油谷幸利他『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの学習内容確認、助詞と疑問詞のまとめ復習
- 2回 うちとけた「です・ます」体(해요体)の作り方
- 3回 月日の言い方【何曜日・何月何日】【韓国の記念日】
- 4回 時刻【(固有数字)時(漢数字)分】【何時ですか】
- 5回 【僕の一週間の予定】発表
- 6回 不規則な「해요体」
- 7回 動詞・形容詞の否定文、行為目的表現【～しに行く・来る】
- 8回 好き・嫌いを尋ね合う、場所の単語を覚える
- 9回 韓国文化紹介【言語表現・しぐさ】
- 10回 過去形のドリル
- 11回 希望表現【日記作成・発表】
- 12回 反対語・関連語で単語を覚える練習
- 13回 予定・推測表現
- 14回 理由や根拠、動作の進行・状態を表す
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 50%、日常の授業への取り組み+小テスト(2回)+課題... 50%。
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生はこの講義と朝鮮語Ⅱの授業を並行して受講すればしっかり復習及び会話のコミュニケーションまで並行して勉強できる。理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定であるので、前回の授業の内容を復習しておくこと。

朝鮮語Ⅳ (1 - c) 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

アクティビティを多く含んだ授業を行いますので、楽しく韓国語を学びましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅳ (1 - d) 【昼】

担当者名 /Instructor 金 光子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中比人 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN112F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

朝鮮語Ⅲで学んだ基本的知識を踏まえて、発音変化を伴う単語や文章をより正確に読める力を身につける。初級テキストにあげる基本文型と同等レベルの作文ができ、正確に読めるようになることを目標とする。様々なシチュエーションでの実践的な対話力を養成し、会話をするうえで重要である動詞と形容詞に慣れ、より豊かな表現ができることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『最新チャレンジ！韓国語』 金順玉・阪堂千津子（白水社）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』 油谷幸利 ほか（小学館）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 朝鮮語Ⅲの復習
- 2回 持ち物について尋ねる会話【誰のものですか？】
- 3回 疑問詞を使った表現【～は何/どこですか？】
- 4回 時制や日付【漢数詞①】助詞のまとめ【いつ～しますか？】
- 5回 用言の丁寧形①【へヨ体】【漢数詞②】【電話番号、学年】
- 6回 用言の丁寧形②【へヨ体】【固有数詞①】【何時ですか？】
- 7回 用言の否定形【～しません、～ありません】【一週間の予定】
- 8回 目的表現【～に～しに行きます】好みの表現【～が好きです】
- 9回 数詞まとめ【電話番号、学年、誕生日は？いくらですか？】
- 10回 丁寧形の変則活用
- 11回 用言の尊敬形
- 12回 用言の過去形①【～ました、でした】
- 13回 用言の過去形②【変則活用】
- 14回 意思と推測表現【～するつもりです】動作の進行【～しています】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・ 50% 日常の授業への取り組み・・ 40% レポートや課題・・ 10%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習する単語の意味を調べて発音できるように予習しておくこと。

朝鮮語Ⅳ (1 - d) 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

覚えることがたくさんあります。日ごろコツコツ頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN201F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用能力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得するために、慣用表現とことわざ意および漢字語を習得するように指導する。それを用いて実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習も行う。長文や文学作品が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円+税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語I・II』の復習
- 2回 第1課 過去形・過去形の縮約形、仮定・条件・希望表現
- 3回 第1課 フランスから来ました【練習問題、スキット】
- 4回 第2課 尊敬形・特殊な尊敬形【名詞・助詞】、家族紹介
- 5回 第2課 家族は何名様ですか【練習問題、スキット】
- 6回 第3課 尊敬形の해요体、丁寧な命令形表現
- 7回 第3課 ㄹ 변則用言ドリル、勧誘・意志・確認、婉曲表現
- 8回 第3課 キム・ミンスさんのお宅ですよ【練習問題、スキット】
- 9回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 10回 第4課 ㄹ 변則用言ドリル、用言 + 아서/어서、意志表現【-을래요/르래요】
- 11回 第4課 野菜が多くて体にもいいです【練習問題、スキット】
- 12回 第5課 意志・推測【을/르 거예요】、現在連体形
- 13回 第5課 未来意志・推測・婉曲【겠】、~しに・~ために表現。【未来の計画発表】
- 14回 第5課 夏休みに何をするつもりですか【練習問題、スキット】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 安 静珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 / 2年
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN211F		◎			
科目名	朝鮮語VI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

基礎文法に基づいて応用力を伸ばすことに努める。より多くの語彙を習得し、実際コミュニケーションをする基礎になる文法を学び、作文練習を行う。長文が理解できる基礎をしっかりと学習するのを目指したい。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

崔柄珠 『おはよう韓国語2』朝日出版社 2015年。2400円＋税。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、『朝鮮語V』の復習
- 2回 第6課 条件【으면/면 돼요】、尊敬形の過去表現
- 3回 第6課 ㄹ変則ドリル、理由表現【用言+으니까/니까、指定詞・名詞+이니까/니까】
- 4回 第6課 どのように行けばいいですか【練習問題、スキット】
- 5回 第7課 名詞+하고/과/와、可能・不可能表現
- 6回 第7課 過去連体形【動詞・形容詞・存在詞・指定詞】、意志・約束表現【用言+을/르게요】
- 7回 第7課 写真を添付しますよ【練習問題、スキット】 【メール文を書く】
- 8回 第8課 未来連体形、決心・意図表現、ㄹ変則
- 9回 第8課 みんな一緒に歌を歌いましょう【練習問題、スキット】
- 10回 第9課 ㄱ変則ドリル、義務【用言+아/어야 되다(하다)】
- 11回 第9課 未来形推測【用言+을/르 것 같다】、許可【用言+아/어도 되다】
- 12回 第9課 どんなアルバイトをしていますか【練習問題、スキット】
- 13回 第10課 ㄷ変則ドリル、不可能【못~/~지 못하다】
- 14回 第10課 現在形推測【는 것 같다/은/ㄴ 것 같다/인 것 같다】、経験表現
- 15回 第10課 何にも聞いていませんが【練習問題、スキット】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

楽しく学び、韓国語が上手に話せる日を目指して頑張りましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN202F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。基礎レベルの範囲で多彩な文型を無理なく駆使できるようになる。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔栄美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語 改訂版』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．第1課 打ち解けた尊敬表現【-(으)세요】を使ってインタビューする。条件・仮定表現【-(으)면】
- 3回．第1課意図・計画【-(으)려고 해요】、休暇計画について尋ね合う
- 4回．第2課 説明・紹介【-인데】、期間【-L/은 지】、韓国語を習ってからどのくらい経ったか尋ね合う
- 5回．第2課動作の順序【-L/은 다음에/-기 전에】、自分の日課を順を追って話す
- 6回．第1課と第2課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 7回．第3課 義務【-아/어야 해요】、丁寧な命令・禁止命令【-(으)세요/-지 마세요】
- 8回．第3課 許可・禁止【-아/어도 돼요/-(으)면 안 돼요】、サークルの規則を決めて発表
- 9回．第4課 形容詞の連体形、理由表現【-아서서】
- 10回 第4課 決心・約束【-기로 했어요】、約束したことや決心したことについて尋ね合う
- 11回．第3課と第4課まとめ復習、聞き取り、会話文作成発表
- 12回．第5課 位置を表す語、手段【-로/으로】、家から学校までの交通手段と所要時間をインタビューする
- 13回．第5課 動作の順序・連結【-아/어서】、おすすめのスポットを紹介し、道順を教える
- 14回．第6課 動詞・存在詞の現在連体形、試行・経験【-아/어 봤어요】
- 15回．第6課 物や出来事の状態説明・感想【-는데】、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・小テスト(2回)・課題...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく韓国語で多くのことを話しましょう。

キーワード /Keywords

朝鮮語Ⅷ【昼】

担当者名 /Instructor 金 恵媛 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 クラス /Class 済営比人律政群 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN212F		◎			
科目名	朝鮮語Ⅷ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日常生活で必要とされるフレーズを中心に、自分が表現したいことを韓国語で表現できること、応用文型まで幅広く会話形式で練習することで、コミュニケーション能力を高める。さらに、グループ発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

金順玉・阪堂千津子・崔榮美 『ちょこっとチャレンジ!韓国語(改訂版)』白水社 2017年。2400円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか 『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 第5・6課 聞き取り、会話文復習
- 2回 第7課 依頼【-아/어 주세요】、勧誘・アドバイス【-아/어 보세요】
- 3回 第7課 より丁寧な依頼【-아/어 주시겠어요?】、買い物している場面を想定して話し合う
- 4回 第8課 理由・根拠【-(으)니까】、感嘆【-네요】、推測【-르/을 것 같아요】
- 5回 第8課 プレゼントをやりとりする場面を想定して話し合う
- 6回 第7・8課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 7回 第9課 がしこまった尊敬、不可能表現【自分ができないことを話し合う】
- 8回 第9課 時間・場合【-(으)ㄴ 때】
- 9回 第10課 傾向【-(으)ㄴ /는 편이에요】、同時・並行動作【-(으)면서】、学習方法をインタビューする
- 10回 第10課 ~するのが【-는 것이(-는게)】、自分の性格・学習スタイルについて話す
- 11回 第9・10課の復習、聞き取り、ペアで会話文を作って発表
- 12回 韓国文化紹介、映画鑑賞
- 13回 第11課 間接話法、インタビューした内容を間接話法を使って発表する
- 14回 第11課 間接話法の過去、間接話法の縮約形【気になっているニュースを友達に伝える】
- 15回まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50% 日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回)...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次の授業内容を確認し、知らない単語の事前学習をお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

理解の徹底を図るために随時小テストの実施や宿題を課す予定なので、前回の授業の内容を復習し、次回の予習をしておく必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語で多くのことを話し合しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語I 【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN301F		◎			
科目名	上級朝鮮語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。専門的な用語と社会全般の説明が理解出来る多彩な文型と諺を無理なく駆使できるようになることを目標にする。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．授業概要、オリエンテーション(韓国語で自己紹介を含む)
- 2回．読解【私の新年計画、韓国で人気のある職業】
- 3回．聞き取り、会話・文型練習【-가/이 되다, -(으)려고, -는 동안(에)】
- 4回．作文発表【夢と将来の計画について】
- 5回．読解【韓国社会人の悩み、進路についての悩み】
- 6回．聞き取り、会話・文型練習【-는 건 어때요?/-는 게 좋겠다/-때문에】
- 7回．作文発表【悩みについて】
- 8回．読解【自分の願望のために現在やっていること】
- 9回．聞き取り、会話・文型練習【-기 위해서/ -거나/-(으)면 좋겠다】
- 10回．読解【大衆文化、韓国映画】
- 11回．韓国映画鑑賞
- 12回．読解【韓国の住居環境、部屋探し】
- 13回．聞き取り、会話・文型練習【-보다/-지요/-중에서】
- 14回．作文発表【自分が今住んでいる家と将来住みたい家】
- 15回．まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ... 50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

単元ごとにスキットの暗記と応用会話を演じ、同じテーマを持って自分の意見を発表出来るように、事前に予習をする必要がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語でコミュニケーションする楽しさを体験しましょう。

キーワード /Keywords

上級朝鮮語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 安 滯珠 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
KRN311F		◎			
科目名	上級朝鮮語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常生活だけではなく、韓国全般に及ぶ社会と文化の理解を談話に取り入れ、対話を誘導できることを目指して練習する。そうすることで、自分が表現したいことを流暢に表現できること、応用文型まで幅広く会話形式、発表形式でコミュニケーション能力を高める。さらに、グループ研究発表の時間を設け、異文化理解を深める契機となることを目指す。

(到達目標)

【技能】朝鮮語を用い、応用レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

油谷幸利 ほか『ポケットプログレッシブ韓日・日韓辞典』小学館 2004年。3520円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回．オリエンテーション
- 2回．読解【韓国の交通手段、道路標識】
- 3回．聞き取り、会話・文型練習【-(으)로 해서, -(으)까요?,-(으)르 것 같다】
- 4回．作文発表【自分の国と他の国の交通事情を比較】
- 5回．読解【宿泊先の予約】
- 6回．聞き取り、会話・文型練習【-기 때문에, -(으)로,-밖에】
- 7回．作文発表【宿泊先に予約のメールを送る】
- 8回．韓国の観光事情について話し合う
- 9回．読解【インターネットバンキング、銀行事情】
- 10回．聞き取り、会話・文型練習【-고 나서, -(으)려면, -에다가】
- 11回．作文発表【自分の国と他の国のインターネット事情を比較】
- 12回．読解【終了式】
- 13回．聞き取り、会話・文型練習【-(으)리지, -(으)르 게요】
- 14回．作文発表【学期を終えての感想を発表】
- 15回．まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...50%、日常の授業への取り組み・課題・小テスト(2回) ...50%
5回以上欠席した場合、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の作文の課題を発表できるように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

課題提出の締め切りをしっかりと守ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

韓国語のコミュニケーションを楽しみましょう。

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM101F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅰ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書きます、それを発音します。

例えば、

Um wie viel Uhr gehen Sie ins Bett?

Ich gehe um elf Uhr ins Bett.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷 昌秀

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ドイツの若者をビデオで見る【アルファベット・発音・つづり・母音の長短】(5級対応)
- 2回 自己紹介。【動詞の現在人称変化】
- 3回 ハンスは今、テニスをしています。【分の作り方。平叙文、疑問文】
- 4回 その母親はワインを飲みます。【名詞の性と冠詞】
- 5回 その犬のその名前はタロウです。【名詞と冠詞の格】
- 6回 フランクはアナのために10本のバラを買います。【複数形の作り方】(4級対応)
- 7回 その子供達はサッカーをするのが好きです。【複数形の使い方】
- 8回 ケンはこのスポーツカーを買います。【定冠詞類】
- 9回 私の犬はタロウという名前です。【不定冠詞類】
- 10回 その息子はその犬と遊ぶのが好きです。【前置詞の格支配】
- 11回 私達は今日、ケンとその学食に行きます。【3・4格支配の前置詞】
- 12回 彼は彼女に一通の手紙を書きます。【人称代名詞】
- 13回 私は私の歯をみがきます。【再帰代名詞】
- 14回 私は明日、ドイツ語を学ぼうつもりです。【助動詞】
- 15回 彼は週末に何をしようか。【未来形】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

ドイツ語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM111F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

初級文法を習得し簡単な日常会話ができることを目的とする。授業全体のキーワードは、ドイツ語を身近に感じること。

到達目標

日常生活の行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「昨日何時に寝ましたか。」とその答え。
Um wie viel Uhr sind Sie ins Bett gegangen?
Ich bin um elf Uhr ins Bett gegangen.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

CD付き『独検5級・4級・3級対応 ドイツ語文法』三修社、著者：在間進、亀ヶ谷昌秀

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ビデオで「グリム兄弟の生涯」を見る。ハンスはパーティーを開きました。【過去形】(3級対応)
- 2回 私達は寿司を食べに行きます。【動詞の特殊な使い方】
- 3回 君達は何をしましたか。【完了形】
- 4回 私達は食べてしまっていました。【過去完了形】
- 5回 アナはいつも先生にほめられます。【受動文】
- 6回 私は昨日、先生にほめられました。【受動の過去形と完了形】
- 7回 ハンスはオーストリアあるいはスペインへ行きます。【並列接続詞】
- 8回 彼は仕事に行く前に、いつも新聞を読みます。【従属接続詞と副文の作り方】
- 9回 フランクはカナを愛しています、しかしお金を持っていない、と言いました。【接続法第1式】
- 10回 もし僕がとても金持ちならば、僕はカナと世界旅行をするでしょう。【接続法第2式】
- 11回 私は私の学友達よりもずっと勤勉でした。【比較変化】
- 12回 その車は私が期待したと同じように速く走ります。【同等の比較】
- 13回 あそこで歌っているその少年は、私の孫です。【関係文】
- 14回 それを主張する人は、嘘をついています。【不定関係代名詞】
- 15回 彼等は冷たい飲み物を飲みます。【形容詞の格変化】

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

ドイツ語II【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

語学は授業前の準備が重要です。そこで次の授業の範囲に目を通し、辞書で単語を調べます。授業後、理解したドイツ語文を3度正しい発音で音読しましょう。音に慣れ親しむことで独自の言葉になります。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語と英語には語源上関連するものがあります。Zaun (発音：ツアウン、「垣根」) と town です。中世の町は垣根で囲まれた円形状の地域でした。このように英語の知識がドイツ語に活かされ得ることがあります。しかしながら、各言語は異なる文化・歴史をもつ人々の中から生まれたものですから、文法や表現が異なるところもあるわけです。だからこそ、言語間の関連を見出したとき、大きな喜びを味わうことができるのです。そこで大切なことはドイツ語に、ドイツに好奇心を持つことです。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM102F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

目標

ドイツ語の基礎文法を学びます。「1年後には、辞書や教科書を参照しながら、独力で簡単なドイツ語の文章を読み書きし、情報を取得・発信できるようになること」を目標とします。読み書きの能力を養った延長上で、聞き話す能力も付いてきます。

方針

語学には暗記が不可避です。英語と違い、ドイツ語では、さまざまな変化表を覚える必要があります。しかし、単元ごとに記憶の定着を待つのでは、「文法をとりあえず一通り終えて、全体をざっと理解する」までに至らず、途中で挫折しがちです。そのような半端な事態は避けたいので、「まだ完璧には覚えていなくても、辞書・教科書を参照して思い出しながらなら、ドイツ語を使える」というレベルへまずたどり着くことを優先しましょう。

ドイツ語選択のメリット

みなさんにとって既習である英語の知識を土台に、近道をして習得できる言語です。

ドイツ語文法を英文法と比較してみると、英語に関する理解が深まります。また、英語という、現在世界中で支配的な言語を、相対化して見ることもできるようになります。

分野によっては、重要な一次情報をドイツ語文献・メディアから得ることが、大きな強み・利点です。英語や日本語に翻訳、紹介されるまでのタイムラグにこそ、ドイツ語習得者の利益が生まれます。

到達目標

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

荻原耕平 / 山崎泰孝『プロムナード やさしいドイツ語文法』（改訂版・CD付き）白水社、2019年、2400円

独和辞典（ポケットサイズの簡易辞書は、文法的な解説が乏しいので、薦めません。紙媒体の辞書には、見開き全体を一覧できる視覚的メリットがありますが、重さを理由に持って来るのが億劫になりがちなので、それなら始めから電子辞書を選択した方が賢明でしょう。スマートフォンの辞書アプリは、辞書持ち込み可形式のテストのときに（スマートフォン自体が）使用不可となるため、注意してください。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

独検受験希望者へ

矢羽々崇ほか『独検5級合格講座 入門ドイツ語スタート・ダッシュ』三修社、2018年、2170円

2000語前後の単語帳（単語の発音とアクセントが明記されており、例文が豊富なものをお勧めします。）

ドイツ語Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ドイツとドイツ語について ドイツ語のABC (アー・ペー・ツェー)
- 第2回 挨拶：グーテンターク！ ドイツ語の発音
- 第3回 動詞の使い方：主語によって動詞の形がコロコロ変わる
- 第4回 名詞の性と格：「自然」は女性で、「机」は男性？
- 第5回 名詞の複数形：-sでは済まない？！
- 第6回 冠詞（英a/the）：冠詞の形がコロコロ変わる
- 第7回 否定文とnicht（英not）の位置
- 第8回 人称代名詞（私・君・彼女・それ…）
- 第9回 不規則動詞：原則を無視して変化する動詞
- 第10回 分離動詞：動詞の頭が文末に飛んで行く
- 第11回 現在完了形（1）【過去分詞の作り方】
- 第12回 現在完了形（2）【文の組み立て方】
- 第13回 助動詞（1）【助動詞の意味一覧】
- 第14回 助動詞（2）【助動詞を使ってみる】
- 第15回 テスト前の総復習

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験…70% 日常の授業への取り組み…30%

定期試験を受けなかった場合、評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書に出てきた単語や変化表をそのつど着実に覚えていくのが理想で、そのために予習・復習の時間を取って欲しいとは思いますが、それよりもまず、「教科書や辞書のどこに、何が書いてあり、その情報をどういうときに、どう使うのか」の把握を優先してください。つまり、教科書を読み込み、付箋や書き込みなどでカスタマイズし、必要な場所を必要ときにさっと開けるような馴染みの道具に仕上げてください。

履修上の注意 /Remarks

■2学期のドイツ語Ⅳとセットで、ようやく文法の全体を網羅できる構成です。Ⅳの継続受講をお勧めします。

■独検受験者は、きっちりと「暗記」しておくべき項目があるので、その旨を随時指示します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「1年後にはドイツ語を使っている自分」を具体的にありありと想像するようにしてください。あの本を原書で読みたい、卒業旅行や新婚旅行でドイツに行きたい、ドイツ人サッカー選手のSNSに書き込みがしたい、ドイツ系企業に就職したい…など。使う当てのない道具を1年かけて磨くのは苦痛であり、虚しいものですから。

キーワード /Keywords

外国語 ドイツ語 ゲルマン諸語 ドイツ オーストリア スイス 文法

ドイツ語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM112F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

目標

ドイツ語の基礎文法（後半）を学び、ドイツ語を使って未知の情報を得られるレベルを目指します。学期の最後には、実際にドイツ語のテキストを読んでみましょう。（テキストは学期の前半に配布しておきます。）

方針

「少なくとも時間を費やしてドイツ語を学んできた以上、ドイツ語を「使ってみる」ところまで、ご案内します。ここまで来たからには、「ドイツ語がいったい何の役に立つのか」といままら受け身に問うのではなく、「せっかく学んだドイツ語を今後どう工夫して活かしていくか、元を取ってやるか」という創造的な学習計画・人生設計に、発想を転換してください。

到達目標

【技能】ドイツ語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

梶原耕平 / 山崎泰孝『プロムナード やさしいドイツ語文法』（改訂版・CD付き）白水社、2019年、2400円

独和辞典

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

独検受験希望者へ

矢羽々崇ほか『独検5級合格講座 入門ドイツ語スタート・ダッシュ』三修社、2018年、2170円

矢羽々崇ほか『新独検4級合格講座 入門ドイツ語ステップ・イン』三修社、2004年、2808円

2000語前後の単語帳（単語の発音とアクセントが明記されており、例文が豊富なものをお勧めします。）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 前学期の復習
- 第2回 過去形
- 第3回 命令形：「起きろ！」・「起きてください！」
- 第4回 接続詞：「そして・しかし・なぜなら・にもかかわらず…」
- 第5回 受動文：過去分詞+werden（～される）
- 第6回 形容詞：形容詞の語尾がコロコロ変わる
- 第7回 比較と最大級：「～より大きい」・「最も大きい」
- 第8回 再帰代名詞：「彼は彼自身を紹介する」＝「彼は自己紹介する」
- 第9回 zu不定詞：英語のto不定詞と何が違うのか
- 第10回 関係代名詞：冠詞のように形がコロコロ変わる関係代名詞
- 第11回 指示代名詞：「これ・それ・あれ」
- 第12回 接続法（1）：ひとの発言を引用するI式
- 第13回 接続法（2）：現実ではないことを表現するII式
- 第14回 ドイツ語で読んでみる（1）
- 第15回 ドイツ語で読んでみる（2）

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験…70% 日常の授業への取り組み…30%

定期試験を受けなかった場合、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

1学期にさまざまな文法事項を学びました。必要があるたびに、教科書をめくりながら、情報を取り出し思い出す作業も繰り返してきました。同じように、後半戦でも、「教科書のどこに何が書いてあり、どういうときにどう使うのか」を見失わないように努めてください。そのためには、教科書との接触時間をできるだけ増やし、なおかつ、自分が参照しやすいように付箋や書き込みなどで「教科書を作り上げていく」必要があります。予習・復習はその時間に当ててください。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語Ⅲの続きです。ドイツ語Ⅲの受講を前提にしています。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

言語は道具であって、鑑賞品ではありません。日々の授業で手にした道具を「どう使うのか」に想像力を動員して、挫けそうな自分を励ましてください。

キーワード /Keywords

外国語 ドイツ語 ゲンマン諸語 ドイツ オーストリア スイス 文法

ドイツ語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM201F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅴ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

自分の日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。
例えば、「君は昼食に何を食べますか。」とその答え。
Was isst du zu Mittag?
Ich esse Udon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ザビーネとパウルはハンブルクへ行きます。【時刻表】
- 2回 駅の券売窓口で。【列車の乗り換え】
- 3回 私達は注文したいのですが。【レストランで】
- 4回 部屋は空いていますか？【ホテルで】
- 5回 郵便局へはどう行けばいいですか？【道を教える】
- 6回 円をユーロに両替したいのですが。【銀行で】
- 7回 フライブルクはミュンヘンより暖かいです。【天気】
- 8回 ドイツの休暇の過ごし方。【長期休暇】
- 9回 どこが悪いのですか？【病気】
- 10回 頭痛に効く薬が欲しいのですが。【薬局で】
- 11回 君は彼女に何をプレゼントしますか？【贈り物】
- 12回 ドイツ人はお祝いをするのがとても好きです。【誕生日祝い】
- 13回 ドイツ語でクロスワード遊び。
- 14回 一日の活動を日記に書く。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

ドイツ語V 【昼】

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM211F		◎			
科目名	ドイツ語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

日常生活行動をドイツ語で書き、発音する。

例えば、「君はもうクリスマスを楽しみにしていますか。」とその答え。

Freust du dich schon auf Weihnachten?

Ja, schon.

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

『スツェーネン2 場面で学ぶドイツ語』三修社、佐藤修子 他
(Szenen 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 パーティーに何を着ますか？【服装】
- 2回 このグレーのスラックスはいいがですか？【お店で】
- 3回 家庭のゴミはどのように分類しますか？【環境問題】
- 4回 ドイツの学校の環境プロジェクト。【無駄を省く】
- 5回 ここで犬を放してはいけません。【禁止】
- 6回 何歳になったら何ができますか？【選挙権】
- 7回 ドイツの学校制度。【教育】
- 8回 パン屋になるためには大学へ行く必要はありません。【資格】
- 9回 あなたは何に興味がありますか？【職業】
- 10回 イースターはなぜ特別なお祭りなのですか？【祝日】
- 11回 イースターのウサギが語ります【祭り】
- 12回 君はクリスマスを楽しみにしていますか？【年末】
- 13回 君達はクリスマスには何をしますか。【年末】
- 14回 クリスマスクッキーの作り方。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

ドイツ語VI 【昼】

履修上の注意 /Remarks

テキストのCDを何度も聞きながら一緒に発音し、ドイツのニュースに興味を持ち、ドイツの映像をインターネットで見ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 単位 1単位 /Semester 学期 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM202F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」で検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 自己紹介、人の紹介、お礼をいうとき、お礼をいわれたとき
- 2回 人に会ったとき、人と別れるとき、知人に会ったとき、人と別れるとき
- 3回 軽く詫げて話しかけると、謝るとき、ちょっと席をはずすとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 人と別れるとき、相手の成功を祈るとき、お礼を言うとき
- 6回 相手の言うことが聞き取れないとき
- 7回 理解できないとき、単語が分からないとき、ドイツ語で何と言うか聞くと
- 8回 綴りを聞くと、英語の分る人を探すと、いい直しをすると
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 場所を聞くと、道順・方向を聞くと、距離を聞くと
- 11回 時刻を聞くと、時間を聞くと、曜日を聞くと、日付を聞くと
- 12回 値段を聞くと、数量を聞くと、方法を聞くと、理由を聞くと
- 13回 目的を聞くと、住所を聞くと、出身地を聞くと、生年月日を聞くと
- 14回 ドイツのビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

ドイツ語Ⅶ【昼】

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 哲雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GRM212F		◎			
科目名	ドイツ語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

ドイツ滞在中の旅行、隣人との交流、買い物などの際の基本会話を習得することを目的とします。学生達は二人一組になり、互いにドイツ語会話の練習を重ねることで、ドイツ語が自然に口から出るようになります。

旅してみたいドイツ諸都市の情報をドイツ語で読み、ドイツの人々の生活を映像で見て、文化・習慣・歴史の日独比較をします。

到達目標

スマホのGoogleで「heute logo nachrichten」を検索し、子供ニュース「Kindernachrichten」を字幕と共に見て、理解し、シャドーイングする。

(到達目標)

【技能】ドイツ語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

プリントおよび資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『びっくり先進国ドイツ』熊谷徹、新潮社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 事情を聞くとき、あることを頼むとき、人に何かを頼むとき
- 2回 両替を頼むとき、助力を求めるとき、助言を求めるとき
- 3回 服を買うとき、席・切符の予約をするとき、人に助言をするとき
- 4回 ドイツのビデオ、1回から3回までの復習
- 5回 相手の助言に応じるとき、相手の助言に応じられないとき、人を誘うとき
- 6回 自分の考え・意見を言うとき、相手の意見を聞くととき、相手の感想を聞くととき
- 7回 相手の発言・意見に同意するとき、関心事について言うとき、希望を言うとき
- 8回 予定・計画を言うとき、相手の都合が合わないとき、相手が気の毒な状態のとき
- 9回 ドイツのビデオ、5回から8回までの復習
- 10回 病状を言うとき、身体の具合を聞くととき、体調を言うとき
- 11回 会う日を相談するとき、会う場所を相談するとき、相手の都合を聞くととき
- 12回 自分の都合を説明するとき、場所と時間を確認するとき、招待に感謝するとき
- 13回 贈り物・お土産を渡すとき、飲み物を聞くととき、料理を勧めるとき
- 14回 ドイツビデオ、10回から13回までの復習
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

数回の小テスト(50%) 学期末試験(50%)。これらのテスト、試験を全て受けない場合、評価は「評価不能」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で理解した文を3回音読しましょう。

ドイツ語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

私のドイツ生活・ドイツ語通訳体験などのエピソードを通して、ドイツ・ドイツ語を身近に感じて、インターネットでドイツの情報を得ましよう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語I【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN101F		◎			
科目名	フランス語 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業のテーマは、基礎的なフランス語文法の習得です。授業中は、文法を解説するだけでなく、なるべくフランスを身近に感じてもらうために、長年の留学経験で得た生のフランスについて時々お話しする予定です。時間があれば、映画、テレビ番組、CDなどを用いて、習った表現の聞き取りも行いたいと思います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

小野ゆり子、村松マリ=エマニュエル『マ・グラメール(三訂版)』白水社、2018年。2300円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典(紙媒体、電子辞書)

無料の辞書アプリは、信憑性に欠けるものがあるので、使用しないで下さい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Leçon 1 授業の進め方、成績評価方法、フランス語の文字、音、つづり字の読み方
- 2回 Leçon 2 名詞の性と数、冠詞、Voici, Voilà、基数(1-10)
- 3回 Leçon 3-1, 2 主語人称代名詞、êtreの直接法現在
- 4回 Leçon 3-3, 4 avoirの直接法現在、c'est, ce sont, il y a、基数(11-20)
- 5回 Leçon 4 第1・2群規則動詞の直接法現在、形容詞の性と数・位置
- 6回 Leçon 5 基本文型、否定形、不規則活用動詞attendre, partir
- 7回 Civilisation I フランスを知る、復習
- 8回 Leçon 6 疑問形、Oui, Non, Si、所有形容詞、不規則活用動詞prendre, faire
- 9回 Leçon 7 指示形容詞、名詞と形容詞の女性形・複数形の特殊な形、不規則活用動詞acheter, préférer
- 10回 Leçon 8 aller, venir、近接未来、近接過去、冠詞の縮約、不規則活用動詞vouloir, pouvoir
- 11回 Leçon 9-1 疑問代名詞、Civilisation II 世界の中のフランスとフランス語、復習
- 12回 Leçon 9-2 疑問副詞、不規則活用動詞savoir, connaître
- 13回 Leçon 10 疑問形容詞、形容詞と副詞の比較級・最上級、不規則活用動詞voir, commencer
- 14回 Leçon 11 命令法、非人称構文、不規則活用動詞manger, dire
- 15回 まとめと復習

以上は予定であり、受講者の理解度に応じて変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業での積極性、宿題や小テストの出来)・・・30%、期末試験・・・70%。

各回の終わりに授業の感想や質問を書いてもらい、良い質問が出れば授業で紹介し共有します。内容によっては、加点することもあります。なお、期末試験を受験しなかった場合は評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

宿題が出されない場合でも、授業の後は必ず復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語の文法は覚えることが多いですが、英語と共通する部分もたくさんあります。分かりやすく丁寧に解説するつもりですし、よく言われるほど難しくないかもしれません。理解できればあなたの世界は広がります。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN111F		◎			
科目名	フランス語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本授業は、「フランス語Ⅰ」の続編です。引き続き、基礎的なフランス語文法の習得を目標とします。この授業でも、長年の留学経験で得た生のフランスについてお話しし、時間があれば、映画、テレビ番組、CDなどを用いて、習った表現の聞き取りを行う予定です。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

小野ゆり子、村松マリ=エマニュエル『マ・グラメール(三訂版)』白水社、2018年。2300円+税

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

仏和辞典(紙媒体、電子辞書)
無料の辞書アプリは、信憑性に欠けるものがあるので、使用しないで下さい。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Leçon 12 過去分詞、直説法複合過去
- 2回 Leçon 13 人称代名詞の目的補語形、人称代名詞の強勢形
- 3回 Leçon 14 複合過去と目的補語人称代名詞、複合過去と過去分詞のまとめ
- 4回 Leçon 15-1 関係代名詞
- 5回 Leçon 15-2, 3 強調構文、指示代名詞
- 6回 Civilisation III フランスの成り立ち、復習
- 7回 Leçon 16 代名動詞の活用・用法、不規則活用動詞s'appeler
- 8回 Leçon 17 直説法単純未来、中世代名詞le, en, y、不規則活用動詞devoir
- 9回 Leçon 18 直説法半過去の活用・用法
- 10回 Leçon 19-2, 3 現在分詞、ジェロンディフ
- 11回 Leçon 19-1 受動態、Civilisation IV さまざまな言葉、復習
- 12回 Leçon 20 条件法の活用・用法
- 13回 Leçon 21 接続法現在の活用・用法
- 14回 Appendice (補遺)
- 15回 まとめと復習

以上は予定であり、受講者の理解度に応じて変更することがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業での積極性、宿題や小テストの出来)・・・30%、期末試験・・・70%。
各回の終わりに授業の感想や質問を書いてもらい、良い質問が出れば授業で紹介し共有します。内容によっては、加点することもあります。なお、期末試験を受験しなかった場合は評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

宿題が出されない場合でも、授業の後は必ず復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

フランス語の文法は覚えることが多いですが、英語と共通する部分もたくさんあります。分かりやすく丁寧に解説するつもりですし、よく言われるほど難しくないかもしれません。理解できればあなたの世界は広がります。

キーワード /Keywords

フランス語Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor コモン テイエリ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN102F		◎			
科目名	フランス語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業では、フランス語の理解に不可欠な基礎知識を一年間でほぼフォローすることを目指します。平易な文章を読みこなせるようになることだけでなく、基本的な聞き取り能力や会話能力を身につけることによって、生きたフランス語の世界に触れ、同時にフランスの豊かな文化や歴史、そしてフランスの社会の現在の姿を知ってもらうことがこの授業の目的です。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『マ・グラメール (Ma grammaire) 』 (白水社、2,300円 + 税)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- 初対面 / 自己紹介
- 2- 自己紹介(2) / 子音と母音 / 子音の役割 / 音節とは
- 3- フランス語の成り立ち / アルファベット / "w" と "y"
- 4- アルファベットの書き方 / フランス語の母音 / 挨拶
- 5- フランスという国 / フランス語の子音 / 数字 : 0~20
- 6- 名詞の性 / 文章の基本構成 / プリント(動詞/単語) / AVOIR / 指示形容詞
- 7- ETRE / ALLER / ~から~まで / VENIR
- 8- ここ、そこ、あそこ / 否定形
- 9- 中間試験(20分) / FAIRE / 天気の表現
- 10- 形容詞 : 位置と変化
- 11- SAVOIR / CONNAITRE / COMPRENDRE / とても / たくさん
- 12- 冠詞 (不定/定/部分) / VOULOIR / POUVOIR
- 13- ETRE と IL Y A / 数字 : 21以上
- 14- 所有形容詞 / 現在形 (-er 動詞 [1])
- 15- まとめ / 試験準備

成績評価の方法 /Assessment Method

前期の中間・期末試験の合計60%以上を合格とする。前期中間試験・前期末試験の比率は50% / 50%とする。
ただし、授業への積極的な態度に欠ける場合、減点の可能性あり。
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の内容を元にした仏作文をメールで、担当講師に送ること。必ず確認、訂正等して、返信します。

履修上の注意 /Remarks

予習は特に必要ありませんが、復習は必ず行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor コモン ティエリ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN112F		◎			
科目名	フランス語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業では、フランス語の理解に不可欠な基礎知識を一年間でほぼフォローすることを目指します。平易な文章を読みこなせるようになることだけでなく、基本的な聞き取り能力や会話能力を身につけることによって、生きたフランス語の世界に触れ、同時にフランスの豊かな文化や歴史、そしてフランスの社会の現在の姿を知ってもらうことがこの授業の目的です。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

なし(プリント配布)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『マ・グラメール (Ma grammaire) 』 (白水社、2,300円 + 税)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1- 前学期の復習 / 前学期定期試験の内容について
- 2- 現在形 (-er 動詞 [2]) / フランス語特殊文字の入力 (パソコン)
- 3- 現在形 (-er 動詞以外) [1]
- 4- 現在形 (-er 動詞以外) [2]
- 5- 日付けの言い方 / 色の形容詞
- 6- 現在形 (代名動詞) / 疑問文 [1] / 疑問詞
- 7- 疑問文 [2]
- 8- 否定形と直接目的語の冠詞 / 直接目的語の代名詞化
- 9- 強調形 / 近接過去 / 近接未来
- 10- 中間試験(20分) / 代名詞 CEとCA / 前置詞 EN
- 11- 複合過去：AVOIR助動詞の場合 / 男性と女性の名前
- 12- 複合過去：ETRE助動詞の場合 / 過去分詞の変化 [1]
- 13- 過去分詞の変化 [2] / 命令形
- 14- 現在分詞 / ジェロンティフ
- 15- 後学期定期試験準備

成績評価の方法 /Assessment Method

後期の中間・期末試験の合計60%以上を合格とする。後期中間試験・後期末試験の比率は50% / 50%とする。
ただし、授業への積極的な態度に欠ける場合、減点の可能性あり。
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の内容を元にした仏作文をメールで、担当講師に送ること。必ず確認、訂正等して、返信します。

履修上の注意 /Remarks

予習は特に必要ありませんが、復習は必ず行ってください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN201F		◎			
科目名	フランス語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

松村博史他『クロワッサン 2』、朝日出版 2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：1課Dialogue、自己紹介
 - 第2回：複合過去の復習
 - 第3回：2課Dialogue、直接目的補語と間接目的補語
 - 第4回：強制形、
 - 第5回：小テスト① 3課Dialogue、代名動詞
 - 第6回：代名動詞の複合過去
 - 第7回：4課Dialogue、中性代名詞、
 - 第8回：指示代名詞
 - 第9回：小テスト②、5課Dialogue
 - 第10回：前未来
 - 第11回：現在分詞とジェロンディフ、過去分詞と受動態
 - 第12回：小テスト③、所有代名詞
 - 第13回：6課
 - 第14回：7課Dialogue、複合過去と半過去
 - 第15回：大過去
- ※上記は目安であり、習熟度によって変わる可能性があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。
4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習、復習をしっかりと行うこと

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参して下さい。紙でも電子辞書でも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN211F		◎			
科目名	フランス語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。
1年生で学んだ内容を踏まえ、さらに高度な文法を学んでいきましょう。
VIではLe petit prince (『星の王子さま』) のリーディングも行います。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

村松博史『クロワッサン2』、朝日出版、2300円+税

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Le Petit Prince (Antoine de Saint-Exupéry, Gallimard) ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：7課までの復習
- 第2回：8課Dialogue、時を表す接続詞
- 第3回：小テスト①、理由・条件を表す接続詞
- 第4回：長文読解(歌詞)
- 第5回：9課Dialogue、条件法現在
- 第6回：条件法過去
- 第7回：12課
- 第8回：小テスト②、10課Dialogue、関係代名詞
- 第9回：強調構文
- 第10回：11課Dialogue、接続法
- 第11回：小テスト③、リスニング
- 第12回：長文読解(『星の王子さま』狐の話)
- 第13回：長文読解(『星の王子さま』献辞)
- 第14回：長文読解(『星の王子さま』第1章)
- 第15回：長文読解(『星の王子さま』バオバブの話)

※上記はあくまで目安であり、習熟度に合わせて進度が変化する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト30%
授業中の取り組み20%
期末テスト50%
ただし出席が前提です。
4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習復習をしっかりと行うこと。

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参して下さい。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を学んだ学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅶ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN202F		◎			
科目名	フランス語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

日常的な場面でのフランス語会話を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』、朝日出版、税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) unité 1: 自己紹介 (前半)
- 2) unité 1: 自己紹介 (後半)
- 3) unité 1: 自己紹介 (総括)
- 4) unité 2: 質問する (前半)
- 5) unité 2: 質問する (後半)
- 6) unité 2: 質問する (総括)、小テスト
- 7) unité 3: 買い物をする (前半)
- 8) unité 3: 買い物をする (後半)
- 9) unité 3: 買い物をする (総括)
- 10) unité 4: いつ (前半)
- 11) unité 4: いつ (後半)
- 12) unité 4: いつ (総括)、小テスト
- 13) unité 5: どこ (前半)
- 14) unité 5: どこ (後半)
- 15) unité 5: どこ (総括)

上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (2回)・・・40%

期末テスト・・・40%

授業中の取り組み・・・20%

ただし出席が前提です。

4回以上欠席した場合、または期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参すること。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 小野 菜都美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
FRN212F		◎			
科目名	フランス語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、フランス語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができることを目指します。日常的な場面でのフランス語会話力を養うことを中心に、発音や聞き取りの力をつけることも目指します。ペア、またはグループでの会話を通して、なめらかにフランス語で意思疎通が測れるよう練習します。

(到達目標)

【技能】フランス語を用い、中級レベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

Albéric DERIBLE他『Rythmes & communication』、朝日出版、税別2500円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

皆さんからの質問や必要に応じて、授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1) 前期の復習、unité 6：誰 (前半)
 - 2) unité 6：誰 (後半)
 - 3) unité 6：誰 (総括)、リスニング
 - 4) unité 7：何 (前半)
 - 5) unité 7：何 (後半)
 - 6) unité 7：何 (総括)、小テスト
 - 7) unité 8：どのように (前半)
 - 8) unité 8：どのように (後半)
 - 9) unité 8：どのように (総括)、読解
 - 10) unité 9：過去について (前半)
 - 11) unité 9：過去について (後半)
 - 12) unité 9：過去について (総括)、小テスト
 - 13) unité 10：仮定、条件 (前半)
 - 14) unité 10：仮定、条件 (後半)
 - 15) 後期の復習、プレゼンテーション
- 上記は目安であり、受講生の理解度や関心に合わせて変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の取り組み・・・20%

小テスト(2回)・・・40%

プレゼンテーション・・・20%

レポート・・・20%

ただし出席が前提です。

4回以上欠席した場合、またはプレゼンテーションを行わなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

会話は復習を、読解は予習を行うこと。

フランス語VIII 【昼】

履修上の注意 /Remarks

必ず辞書を持参すること。紙でも電子辞書でもどちらでも構いませんが、スマートフォンは不可です。
すでに一年間フランス語を履修した学生が対象です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フランス語

スペイン語I【昼】

担当者名 /Instructor 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN101F		◎			
科目名	スペイン語 I		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなつた特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはず。どこが違って、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法 三訂版』朝日出版社 ISBN: 978-4-255-55126-5

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『西和中辞典』(小学館)
- 『現代スペイン語辞典』(白水社)
- 『クラウン西和辞典』(三省堂)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨ、授業運営と成績評価について
- 第2回 アルファベット、発音
- 第3回 音節の分け方、アクセント
- 第4回 名詞の性と数
- 第5回 冠詞
- 第6回 形容詞
- 第7回 動詞
- 第8回 現在形(規則活用)
- 第9回 疑問詞、接続詞
- 第10回 指示詞
- 第11回 所有詞
- 第12回 動詞estar
- 第13回 動詞ser
- 第14回 現在形(不規則活用)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テストの累計70% 日常の授業への取り組み30%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビューを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

スペイン語I【昼】

履修上の注意 /Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容についての小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書(スペイン語→日本語)を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン語 文法

スペイン語Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN111F		◎			
科目名	スペイン語Ⅱ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

スペイン語文法の初歩を学びます。ラテン語に起源をもつスペイン語は、おそらく皆さんの多くが外国語として学び、かつ慣れ親しんできた英語とはことなつた特徴を持つ言語です。しかし英語に限らずこれまでに学んだ外国語は、かならずスペイン語を学ぶ糧となるはず。どこが違って、どこが同じか、そういうことを意識的に比較検討しながら学んでいきましょう。簡単か難しいかは別にしても、スペイン語は歴史、文化、文学、さまざまな新しい世界を皆さんに開いてくれるでしょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

和佐敦子『初級スペイン語文法 三訂版』朝日出版社 ISBN: 978-4-255-55126-5

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『西和中辞典』(小学館)
- 『現代スペイン語辞典』(白水社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨ、授業運営と成績評価について
- 第2回 直接目的格人称代名詞
- 第3回 間接疑問文
- 第4回 時間の表現
- 第5回 現在形不規則動詞
- 第6回 間接目的格人称代名詞
- 第7回 現在形不規則動詞(完全に不規則)
- 第8回 前置詞格人称代名詞
- 第9回 gustar型動詞
- 第10回 不定語・否定語
- 第11回 天候表現
- 第12回 比較表現
- 第13回 再帰動詞
- 第14回 再帰動詞のその他の用法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テストの累計70% 日常の授業への取り組み30%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には指定された予習範囲について単語調べを入念に行うこと。授業後には当日扱われた内容についてレビューを行い、疑問点については次回授業で質問をすること。

履修上の注意 /Remarks

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。授業にはかならず予習をして臨んでください。各回の授業冒頭に前回の学習内容についての小テストを実施します。復習を怠らないでください。また教室にはかならず辞書(スペイン語→日本語)を持参してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン語 文法

スペイン語Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor ミヨコ・フジヨシ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 比1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN102F		◎			
科目名	スペイン語Ⅲ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は、アルファベットと発音の対応から始め、スペイン語の基礎的文法の確実な習得を目指す。また、現在形を用いながら基本的な会話(自己紹介、など)、を修得するとともに、スペイン語圏の文化習慣等も併せて学習する。

スペイン語は、スペイン人だけでなく、ラテンアメリカの19カ国の人々やアメリカ合衆国に在住のヒスパニックの人々等を含む4億人以上の人々が母語として使っている言語である。また、国連で公用語の一つとして使われている言語でもある。スペイン語を通じて多くの人とコミュニケーションができるようになって、新しい、興味深い文化などに会おうきっかけになることを期待している。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

山道佳子、Jesús M.Martínez Astudillo 「¡En español, por favor! (スペイン語でお願いします)」
同学社、ISBN 4-8102-0362-X

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和西一西和辞典や電子辞書の指定は特にありませんが、用意して、授業に臨むこと。

スペイン語Ⅲ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(直接法現在形)

- 第1回 ガイダンス
授業の目標と進め方。基本的な挨拶。
- 第2回 発音
アルファベット・発音・アクセントの位置。
- 第3回 名詞の作り方
男性名詞、女性名詞、単数名詞、複数名詞。
冠詞 + 名詞 + 形容詞
- 第4回 名詞 (2)
指示・所有、形容詞・代名詞
- 第5回 つなぎのSER動詞、
自己紹介、国籍、職業等。物や人物の描写
- 第6回 つなぎのESTAR動詞
健康状態、場所の説明。0～15の基数。
- 第7回 HAY動詞、
SER/ESTAR/HAY動詞の使い分け
- 第8回 規則活用動詞
～AR、～ER、～IR動詞の活用、重要な表現。
- 第9回 前置詞、疑問詞
前置詞の意味、使い方。
- 第10回 不規則動詞変化形 1 (e⇒ie)
～したい、～する予定、～し始める。
16～100の基数。
- 第11回 不規則動詞変化形 2 (o⇒ue)
～できる、～かもしれない。
時刻の表現。予定を言う。
- 第12回 不規則動詞変化形 3 (e⇒i)
頼み方、依頼するための表現、
101～億の基数。曜日、月日、季節。
- 第13回 不規則動詞変化形 4 (1人称単数だけ)
～しなければならない。～できる。
- 第14回 不規則動詞変化形 5
近い未来の表現。
- 第15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の受講状況・授業中の積極的な発言等(20%)、定期試験の成績(60%)、宿題・レポート・小テスト等(20%)を総合的に評価する。
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には意味が分からない単語を辞書で引くなどの予習、復習を確実にしてください。
事後には、その回次での不明点をなくすように復習して次回の授業へ備えてください。
分からないところはいつでも質問してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書の予習復習

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅳ 【昼】

担当者名 /Instructor ミヨコ・フジヨシ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 比 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN112F		◎			
科目名	スペイン語Ⅳ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

スペイン語Ⅲに引き続き、直接法現在形の基礎文法、過去形や未来形などの時制も学びます。現在形の動詞を用いた基本的な会話を基礎として、さらにスペイン語圏でサバイバルできる程度の会話能力を身につけることを目指します。

スペイン語は、スペイン人だけでなく、ラテンアメリカの人々やアメリカ合衆国在住のヒスパニックの人々等をなど4億人以上の人々が母語として使っている言語であり、第2言語や第1外国語として使う人も入れるとさらに多くの人々が使っている。また、国連で公用語の一つとして使われている言語でもある。スペイン語を通じて多くの人とコミュニケーションができるようになって、新しい、興味深い文化などに会うきっかけになることを期待している。

また授業終了後も、サッカーなどスポーツのスペイン語中継や様々な分野のスペイン語でのインタビューなどへの興味を維持し、自主的にスペイン語学習を継続してスペイン語を使う国々や人々の理解へつながることを期待している。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、初歩的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

山道佳子、Jesús M.Martínez Astudillo 「¡En español, por favor! (スペイン語でお願いします)」
同学社、ISBN 4-8102-0362-X

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

和西一西和辞典や電子辞書の指定は特にありませんが、用意して、授業に臨むこと。

スペイン語Ⅳ 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
スペイン語Ⅲの復習。
- 第2回 直接目的格人称代名詞
[~を]の代名詞。前置詞格人称代名詞。
- 第3回 間接目的格人称代名詞
[~に]の代名詞。前置詞格人称代名詞。
- 第4回 GUSTAR形 動詞
~が好きだ、~と思う、~が痛い。
- 第5回 再帰動詞
他動詞の自動詞化、~し合う。
無人称・受身の表現
- 第6回 時刻表現と天候の表現。
- 第7回 比較級、絶対最上級
- 第8回 点過去形
過去の出来事を説明する。
- 第9回 線過去形
過去の習慣、祭り、など。
- 第10回 点過去形と線過去形比較対照
- 第11回 現在完了形
完了、経験、継続を表す。
- 第12回 現在進行形
~している。~してきた。~し続ける。
- 第13回 命令形
~してください。~しなさい。
- 第14回 未来形
~しようと思う。未来の計画について話す。
- 第15回 まとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の受講状況・授業中の積極的な発言等(20%)、定期試験の成績(60%)、宿題・レポート・小テスト等(20%)を総合的に評価する。
定期試験を受験しなかった場合は、評価不能とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前には意味が分からない単語を辞書で引くなどの予習、復習を確実にしてください。
事後には、その回次での不明点をなくすように復習して次回の授業へ備えてください。
分からないところはいつでも質問してください。

履修上の注意 /Remarks

教科書の予習復習

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

スペイン語Ⅴ【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN201F		◎			
科目名	スペイン語Ⅴ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

昨年度（1年次）の続きとして、中級程度以上のスペイン語の文法と表現を学びながら、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします 授業を通じて随時スペイン語圏の文化に接することができるような教材も紹介します。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

昨年のテキストの文法事項の続きをしますが、テキストは用いず、moodleから教材のプリントに文法事項の内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項を積み上げていきます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西和辞典：
スペイン語中辞典（小学館）
新スペイン語（研究社）
現代スペイン語辞典（白水社）
プログレッシブスペイン語辞典（小学館）
級スペイン語辞典（白水社）
他多数有。
白水社の別の西和辞典（高橋編）は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。
和和辞典：
和和辞典（宮城、コントレラス監修：白水社）
クラウン和和辞典（三省堂）
その他
図説スペインの歴史（川成洋、中西省三編：河出書房新社）
スペインの歴史（立石、関、中塚著：昭和堂）
スペイン（増田監修：新潮社）
スペインの社会（寿里、原編：早稲田大学出版）
スペインの政治（川成、奥島編：早稲田大学出版）
スペインの経済（戸門、原編：早稲田大学出版）
スペイン語とつきあう本（寿里著：東洋書店）
スペイン語基礎文法（ロボ、大森、広康共訳：ピアソンエデュケーション）

スペイン語Ⅴ【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 年次の進度が若干異なるため、最初に復習を多めにやります。
- 1 1年の復習(代名詞を中心に)(1)
- 2 1年の復習(代名詞を中心に)(2)
- 3 1年の復習(代名詞を中心に)(3)
- 4 スペイン語の動詞活用の全体像について
- 5 点過去・線過去・現在完了の用法(1)
- 6 同上(2)
- 7 同上(3)
- 8 動詞の派生形とその用法(進行形、完了形、命令形など)(1)
- 7 同上(2)
- 9 未来形・過去未来・過去完了(1)
- 10 同上(2)
- 11 同上(3)
- 12 上記時制も含め、重要な文法事項：複文(副詞節・形容詞節)(1)
- 13 同上(2)
- 14 同上(3)
- 15 点過去と線過去の違いについてと、ここまでの復習(1)

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数(80%)だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも授業中評価が優秀な場合は20%を超えて加点して評価します。平常点は普段の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)は授業中評価が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験80% + 授業中評価20% = 100% で 60% で単位を認定します。

出欠について：全体の回数の3分の1以上の欠席については授業中評価を加点できません。

評価不能：定期試験を受験しなかった場合は評価できませんので、注意して下さい。

なお、新型コロナウイルスの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

動詞の活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかりと準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

上記文法資料に対するプリントなどの補助教材はポータル(moodle)から送ります。授業時に詳しく説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール：faoki@fukuoka-u.ac.jp(北九大メールではなく、こちらに送って下さい)

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう！

スペイン語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 青木 文夫 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN211F		◎			
科目名	スペイン語VI		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

スペイン語の中級から上級の文法を理解し使えるようにすることを目標にします。詳しくは授業計画を参照。前期のスペイン語Vに引き続き、スペインや中南米のスペイン語圏の文化理解の導入とします。視聴覚教材も楽しいものを提示し、スペイン語に馴染めるようにします

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、聞き、話すことができる。

教科書 /Textbooks

昨年度のテキストの前期の続きを、moodleから補助教材のプリントにテキストの内容をまとめたものを送るので、それを見ながら、文法事項をまとめていきます。

最後にスペイン語版のアニメ(題材未定)を見ながら、表現の聞き取りの練習を楽しみながらやりましょう。

スペイン語Vのプリントもmoodleに残っているので、スペイン語VIから受講の場合も教材はすべてそろいます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

スペイン語中辞典(小学館)

新スペイン語(研究社)

現代スペイン語辞典(白水社)

プログレッシブスペイン語辞典(小学館)

パスポート初級スペイン語辞典(白水社)

他多数有。

白水社の別の西和辞典(高橋編)は、見出し語は多いが使いにくいので薦めません。

和西辞典:

和西辞典(宮城、コントレラス監修:白水社)

クラウン和西辞典(三省堂)

その他

図説スペインの歴史(川成洋、中西省三編:河出書房新社)

スペインの歴史(立石、関、中川、中塚著:昭和堂)

スペイン(増田監修:新潮社)

スペインの社会(寿里、原編:早稲田大学出版)

スペインの政治(川成、奥島編:早稲田大学出版)

スペインの経済(戸門、原編:早稲田大学出版)

スペイン語とつきあう本(寿里著:東洋書店)

スペイン語基礎文法(ロポ、大森、広康共訳:ピアソンエデュケーション)

スペイン語VI 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 前期を含め、様々な構文のまとめ(受け身、使役、放任、比較など)(1)
 - 2 同上(2)
 - 3 時制の一致
 - 4 再帰動詞(1)
 - 5 同上(2)
 - 6 いくつかの文法事項(感嘆文、比較表現)
 - 7 同上(2)
 - 8 接続法の活用全般について
 - 9 接続法の用法(1)
 - 10 同上(2)
 - 11 同上(3)
 - 12 スペイン語版アニメ(題材未定)による聞き取りと訳
 - 13 同上(2)
 - 14 同上(3)
 - 15 まとめ
- 授業全体を通じて、スペイン語の表現を覚えるための会話・講読教材を随時学びます。

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験に授業中の評価(小テスト、口頭での答え、作文など)も考慮します。欠席が多い場合その部分が不利になります。具体的には出席は必要条件なので1/3以上休んだ場合は下で述べる平常点を一切加味せず定期試験の点数(80%)だけで評価します。その1/3の条件を満たしている範囲での欠席は構いません。なお、クラブ活動など一切欠席届は認めません。

定期試験が60点以上ならば無条件で単位を認定しますが、60点を下回る場合にも授業中評価が優秀な場合は20%を超えて加点して評価します。平常点は普通の教室でのやりとり(読む、書くなど)や小テストの点数を半期に亘って数値化します。したがって、欠席が多い場合(例えば小テストを受けていないとか、授業中答えていないなど)は授業中評価が少なくなりますので、そのつもりで取り組んでください。

定期試験80% + 授業中評価20% = 100% で 60% で単位を認定します。

出欠について: 全体の回数の3分の1以上の欠席については授業中評価を加点できません。

評価不能: 定期試験を受験しなかった場合は評価できませんので、注意して下さい。

なお、新型コロナの状況によって、オンライン授業になった場合には評価の方法を変更しますが、その時点で詳しく説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

活用を中心として、学習したことをしっかりと復習しましょう。(復習重視で、30分程度は必要になります)。また小テストがある場合はしっかり準備しましょう(30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

プリントなどの補助教材はmoodleから送ります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

留学・学習の相談、何でもOKです。メール: faoki@fukuoka-u.ac.jp(北九大メールではなく、こちらに送って下さい)

キーワード /Keywords

スペイン語でその広大な世界とつながろう!

スペイン語Ⅶ【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN202F		◎			
科目名	スペイン語Ⅶ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳを更に発展させ、聞き取りを強化していきます。

文法表現ではさらに進んだ時制を学び、聞き取り素材の単語とその使われ方を把握します。そのうえで、ニュースを聞き取っていきましょう。ニュースは難しいと思われがちですが、ニュースとは事実関係をはっきりとシンプルに伝えることが目的であるため、複雑な構文で延々と続く長い文章はあまりありません。使用教科書はさらにニュース本文も短く編集しており、理解しやすくなっています。ニュースが難しいと思われる理由は語彙力の問題です。語彙と聞き取りを強化し、ネイティブと会話をしていくときの基礎力を養いましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、話すことができる。また、語彙力を発展させ、ネイティブ並みのスピードで聞き取ることができる。

教科書 /Textbooks

『ニュースで学ぶ中級スペイン語[改訂版] La noticia de hoy[edición revisada]』中島聡子、佐藤佐知、David Taranco著、三修社、2022

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。前年度使用した辞書がある方は購入する必要はありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 前年度スペイン語の復習、1課 現在形と再帰動詞
- 2回 1課 SNSと余暇
- 3回 2課 gustarの用法と不定詞を伴う表現
- 4回 2課 スペインのテニス選手
- 5回 3課 過去時制の使い分け 現在完了と点過去
- 6回 3課 世界で最も古いレストラン
- 7回 4課 過去時制の使い分け 線過去
- 8回 4課 ファッション
- 9回 5課 過去時制の使い分け 点過去・線過去・過去完了
- 10回 5課 養子縁組
- 11回 6課 未来と過去未来 不定詞を伴う助動詞的表現
- 12回 6課 風力発電
- 13回 7課 不定詞を伴う助動詞的表現 おいしいコーヒーの入れ方
- 14回 8課 比較級 エラスムス留学制度
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

スペイン語Ⅶ【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、ニュースを聞いて正誤問題に答えてみる。単語の聞き取りができない箇所は前後の箇所から意味を推測してみる。

事後学習：ニュース音声を何度も流し、同じように発音する。テキストを見ずにスペイン語をリピートしていく。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、さらに発展した文法内容で、ネイティブのスピードで聞きとれるように訓練していきます。授業の予習は大変ですが、目にする、耳にする単語を引いて覚えること、ネイティブ並みのスピードで繰り返して発音することを繰り返していると、まったく知らないニュース映像を見た際にながしか内容が聞き取れてくるかもしれません。繰り返すことで確実に力が付きます。

インターネット上で見られるスペイン語の映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/>（TVE、スペイン国営放送。テレビとラジオを持つ。）

<http://www.cadena100.es/>（スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

スペイン語Ⅷ 【昼】

担当者名 /Instructor 辻 博子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 英中国済営比人律 政 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SPN212F		◎			
科目名	スペイン語Ⅷ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

前年度のスペイン語Ⅲ・Ⅳを更に発展させ、聞き取りを強化していきます。

文法表現ではさらに進んだ時制を学び、聞き取り素材の単語とその使われ方を把握します。そのうえで、ニュースを聞き取っていきましょう。ニュースは難しいと思われがちですが、ニュースとは事実関係をはっきりとシンプルに伝えることが目的であるため、複雑な構文で延々と続く長い文章はあまりありません。使用教科書はさらにニュース本文も短く編集してあり、理解しやすくなっています。ニュースが難しいと思われる理由は語彙力の問題です。語彙と聞き取りを強化し、ネイティブと会話をしていくときの基礎力を養いましょう。

(到達目標)

【技能】スペイン語を用い、基礎的なレベルで、読み、書き、話すことができる。また、語彙力を発展させ、ネイティブ並みのスピードで聞き取ることができる。

教科書 /Textbooks

『ニュースで学ぶ中級スペイン語[改訂版] La noticia de hoy[edición revisada]』（1学期と同じものを使用）中島聡子、佐藤佐知、David Taranco著、三修社、2022

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

西和・和西辞書については開講時に指示します。辞書必携です。

西和辞書で薦めるものは『クラウン西和辞典』三省堂2005、『現代スペイン語辞典』白水社1999、電子辞書などです。

和西辞書の利用も必要ですが、詳細は開講時に指示します。前年度使用した辞書がある方は購入する必要はありません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 1学期復習 9課 接続法現在1
- 2回 9課 ホンジュラスの交番
- 3回 10課 接続法現在2
- 4回 10課 育休取得
- 5回 11課 接続法現在3
- 6回 11課 アポロフォビア
- 7回 12課 接続法現在4
- 8回 12課 日本語学習のアドバイス
- 9回 13課 接続法過去1
- 10回 13課 スペインの安楽死
- 11回 14課 接続法過去2
- 12回 14課 チュッパチャップスの歴史
- 13回 15課 条件文
- 14回 15課 地中海に沈んだ夢
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50%、日常の授業への取り組み 50%

定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

スペイン語VIII 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：テキストを読んでわからない単語を調べてくる、ニュースを聞いて正誤問題に答えてみる。単語の聞き取りができない箇所は前後の箇所から意味を推測してみる。

事後学習：ニュース音声を何度も流し、同じように発音する。テキストを見ずにスペイン語をリピートしていく。

履修上の注意 /Remarks

辞書必携です。

スペイン語初級（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）の単位をとっていることは必須ではありませんが、よく理解している必要があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

スペイン語の1年目を終え、基礎的なことを理解した後は、さらに発展した文法内容で、ネイティブのスピードで聞きとれるように訓練していきます。授業の予習は大変ですが、目にする、耳にする単語を引いて覚えること、ネイティブ並みのスピードで繰り返して発音することを繰り返していると、まったく知らないニュース映像を見た際にながしか内容が聞き取れてくるかもしれません。繰り返すことで確実に力が付きます。

インターネット上で見られるスペイン語の映像・音声も随時参考にしてください。

<http://www.rtve.es/>（TVE、スペイン国営放送。テレビとラジオを持つ。）

<http://www.cadena100.es/>（スペインのFM放送ラジオ。音楽が中心で、英語圏の歌も多く流れる。）

また、YoutubeやTwitter, Instagram, Facebookなど、気に入ったSNSを見つけいろいろなスペイン語に触れてみるのも勧めます。

キーワード /Keywords

スペイン語 スペイン語圏 中南米 ラテンアメリカ

日本語I【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Iでは、特に「大学生生活へのオリエンテーション」に焦点を当てる。日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」を学ぶ。さらに、学期最後の一月は、チュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『スタディスキルズ・トレーニング改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』(佐々木瑞枝他、The Japan Times)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 大学生生活(1)【自己紹介から始めよう】
- 3回 大学生生活(2)【高校と大学の違い/大学について学ぶ】
- 4回 大学生生活(3)【キャンパスツアー】
- 5回 大学生生活(4)【大学教員・職員との付き合い方】
- 6回 大学生生活(5)【図書館ツアー】
- 7回 大学生生活(6)【大学生生活のデザイン】
- 8回 大学生生活(7)【講義の上手な受け方】
- 9回 大学生生活(8)【演習に参加するコツ】
- 10回 大学生生活(9)【大学の定期試験】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 50 %
ポートフォリオ評価 ... 50 % (自己評価30%/ピア評価20%)

- ・ 授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習し、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Iと日本語II及び日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学生生活を「自分らしく」「楽しく」過ごせるように応援します。

キーワード /Keywords

生活日本語 大学生生活日本語 大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) チュートリアル

日本語II 【昼】

担当者名 /Instructor 金 元正 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語IIでは、実際に日本語を使う場面で、文字によるコミュニケーション(書く)の能力を伸ばす。「対人性」と「場面性」を理解することで、適切な文章構成・日本語表現ができるようになる。そして、「自己推敲能力」を伸ばすために、自分の書いたものを自己評価し、より良いものに修正する。

教科書 /Textbooks

『中級からの日本語プロフィシエンシーライティング』(由井紀久子他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

『日本語Eメールの書き方』(築晶子他、The Japan Times)
『外国人のためのケータイメール@につぼん』(笠井淳子他、アスク)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション【文のスタイル】【配慮】【負担】【良好な関係】【今後のこと】
- 2回 アポイントをとる【PCメール】
- 3回 アドバイスを求める【PCメール】
- 4回 問い合わせる【PCメール】
- 5回 依頼する【PCメール】
- 6回 依頼される【PCメール】
- 7回 報告する【PCメール】
- 8回 謝る【PCメール】
- 9回 お礼を言う【携帯&PCメール】
- 10回 誘う【携帯メール】
- 11回 誘われる【携帯メール】
- 12回 なぐさめる・一緒に喜ぶ【携帯メール】
- 13回 伝言する【メモ】
- 14回 募集する【チラシ】【掲示】
- 15回 【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...70% 期末テスト...30%
(授業の3分の1以上の欠席及び未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行い、提示された課題はMoodleで提出する。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当することがある。
日本語I、日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連が深いので、同時受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

プロフィシエンシー 書く 対人性 場面性

日本語III 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 1単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス 留学生 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語IIIでは、大学生に求められる日本語文章表現能力の育成を目指す。具体的には、TAE(THINKING AT THE EDGE)を用い、日常的な身体感覚を日本語で展開できるようになることを目標とする。留学生にとって、第二言語である日本語で自己表現を行いながら大学生活を過ごすためには、まず、自己の身体感覚を第二言語で言語化する経験が重要となる。

教科書 /Textbooks

『TAEによる文章表現ワークブック』(得丸さと子、図書文化)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『ステップ式質的研究法-TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
【フェルトセンス】【リラックスのワーク】
- 2回 【色模様のワーク】
- 3回 【オノマトペのワーク】
- 4回 【比喩のワーク】
- 5回 【花束のワーク】
- 6回 【コツのワーク】【共同詩のワーク】
- 7回 【励ます言葉のワーク】
- 8回 【マイセンテンス】
- 9回 【パターンを見つける】
- 10回 【パターンを交差させる】
- 11回 【自己PR文を作ろう】
- 12回 【資料を使って論じよう】
- 13回 【経験から論じよう】
- 14回 【感想文を書こう】
- 15回 評価【学びを振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み・・・30% 発表・課題・・・30% 自己評価...20% ピア評価...20%

三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、ワークの手順を読んで理解しておく。
学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が一部の授業を教育実習として担当する予定です。
日本語I及び日本語II、日本語IIIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
日頃から、身体や気持ちの感覚に注意を払ってください。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。
自主的に練習をすることで、授業内容の理解が深まるので、後日繰り返し練習をすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

誰かが作った言葉のレパートリーから言葉を選択して使用するのではなく、自分の「身体感覚」から発して言葉を作り上げていくのがTAEです。
TAEを身につけることによって、感受性が豊かになると同時に、言葉で表現する意欲も湧いてきます。

キーワード /Keywords

TAE 身体を感じ 日本語の私 母語の私

日本語Ⅳ【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語Ⅳでは、特に口頭でのコミュニケーション力「スピーチ」に焦点を当てる。ともすれば似通った内容になりがちなスピーチから脱却するために、自分なりの興味や考え、相手の興味を「発見」し、協働で学びながら、スピーチの幅を広げる。さらに、日本語Ⅰ同様、学期最後の一月はチュートリアルを導入し、個別のニーズに応じた授業を提供する。

教科書 /Textbooks

『協働学習で学ぶスピーチ』(渋谷実希他、凡人社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アカデミック・プレゼンテーション』(三浦香苗他、ひつじ書房)
- 『自律を目指すことばの学習：さくら先生のチュートリアル』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション/聴衆分析と話題選び【戦略】
- 2回 話し手の心得/聞き手の役割【思い込み・相互評価】
- 3回 自己紹介【オリジナリティ】
- 4回 食べたい、あのお昼ご飯【説明力・伝える力】
- 5回 失敗から学ぶ教訓(1)【伝える力】
- 6回 失敗から学ぶ教訓(2)【内容の価値】
- 7回 情報探索【内容の深化・語彙力】
- 8回 質疑応答【内容の深化・聞き手の役割】
- 9回 責任を持って自慢する(1)【責任を伴った発信力】
- 10回 責任を持って自慢する(2)【学びと社会とのつながり】
- 11回 チュートリアル(1)【学習計画】
- 12回 チュートリアル(2)【振り返り】
- 13回 チュートリアル(3)【修正】
- 14回 チュートリアル(4)【評価】
- 15回 総括【一年間を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...50%
ポートフォリオ評価 ...50%(自己評価...30% ピア評価...20%)

・ 授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め授業範囲を予習すること、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語Ⅳと日本語Ⅴ、日本語Ⅵは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

相手が興味を持ってくれるような自分らしいスピーチを目指します。

キーワード /Keywords

相互評価・内容の価値・多様な視点

日本語V 【昼】

担当者名 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 1単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。
日本語Vでは、特に「スタディスキル」と「日本語発想法・読解力・表現力」に焦点を当てる。
「スタディスキル」では、日本の大学教育の特徴を理解しながら、大学生として必要な「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」を実際に体験しながら学ぶ。
「日本語発想法・読解力・表現力」では、タスクを用いた自己発信型トレーニングにより、論理的思考力を伸ばす。
(到達目標)
・ 大学生活での学び方を理解し、資料を分析し、発信するなど主体的に学ぶためのスキルを身につけている
・ 仲間と協働し、コミュニケーションし課題解決できる
・ 「論理的思考力」をもとに、自分の意見や主張を相手に伝えることができる

教科書 /Textbooks

『考える・理解する・伝える力が身につく 日本語口コミカルトレーニング 中級』(西隈俊哉、アルク)
『スタディスキルズ・トレーニング改訂版 - 大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○佐々木瑞枝他『大学で学ぶためのアカデミック・ジャパニーズ』The Japan Times
○石黒圭『この1冊できちんと書ける! 論文・レポートの基本』日本実業出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション	
2回	スタディスキル(1)アクティブラーニングをやってみよう	論理的思考力(1)リストアップ・マッピング
3回	スタディスキル(2)テーマからトピックを取り出そう	論理的思考力(2)イラストを見て考える
4回	スタディスキル(3)インターネットで情報を探そう	論理的思考力(3)表・グラフの内容を読み取る
5回	スタディスキル(4)本を手にして読んでみよう	論理的思考力(4)マッピングしながら読む
6回	スタディスキル(5)図解で考えよう	論理的思考力(5)登場人物になったつもりで読む
7回	スタディスキル(6)表・グラフを描いてみよう	論理的思考力(6)どちらがいいか考えながら読む
8回	スタディスキル(7)議論の方法を知ろう	論理的思考力(7)理由を考えながら読む
9回	スタディスキル(8)レポートの文章の特徴を知ろう	論理的思考力(8)意味を考えて読んでみる
10回	スタディスキル(9)レジュメを作成してみよう	論理的思考力(9)イラストを見て書いてみる
11回	スタディスキル(10)レポートの基本を知ろう	論理的思考力(10)定義を試してみる
12回	スタディスキル(11)発表の資料を作ろう(テーマ決め・準備)	論理的思考力(11)理由を考えて書いてみる 1
13回	スタディスキル(12)発表をやってみよう(レジュメ作成・準備)	論理的思考力(12)理由を考えて書いてみる 2
14回	スタディスキル(13)発表をやってみよう(発表と自己評価)	
15回	総括 1年間(半期)の学びをふりかえろう(評価)	

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...60%

・ 三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に本文を読んで予習し、目標や身につけるスキルを確認しておく。事後学習としては、授業や課題を通してどこまで何を身につけることができたか、まだ何が足りていないかをふりかえり、どうしたら目標を達成できるかなどについて考える。

履修上の注意 /Remarks

日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。

日本語Ⅴ【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

個人の学びだけでなく、仲間とともに調べ、研究し、発表することでさらに豊かな学びを実感してください。

キーワード /Keywords

論理的思考 大学日本語(アカデミック・ ジャパニーズ) ピア・リーディング スタディスキル

日本語VI 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIでは、学生が学び手として互いに協力し合い、課題達成に向けて取り組めるようになることを目指す。具体的には、「自己目標の明確化」を目指すために活動(1)「自己PR」を行う。そして、「能動的読解」のために活動(2)「ブック・トーク」を行い、「外部から得た情報や知識を適切に配列し、引用表現を用いて自分の意見と区別しながら書く」ことを目指すために活動(3)「ブック・レポート」を行う。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション：プレゼンテーションとライティング』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『スタディスキルズ・トレーニング：大学で学ぶための25のスキル』(吉原恵子他、実教出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 自己PR(1)【自分を伝える】
- 3回 自己PR(2)【情報を整理する】
- 4回 自己PR(3)【スピーチの準備をする】
- 5回 自己PR(4)【スピーチをする】
- 6回 自己PR(5)【志望動機書 / 学習計画書を読みあう】
- 7回 ブック・トーク(1)【情報を探す】
- 8回 ブック・トーク(2)【情報を読んで伝える】
- 9回 ブック・トーク(3)【アウトラインを書く】
- 10回 ブック・トーク(4)【ポスター発表を準備する】
- 11回 ブック・トーク(5)【発表する】
- 12回 ブック・レポート(1)【書く】
- 13回 ブック・レポート(2)【内容を検討する】
- 14回 ブック・レポート(3)【表現や形式を点検する】
- 15回 総括【全体を振り返る】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ...40%
 ポートフォリオ評価 ...60%(自己評価 30% ピア評価 30%)
 (授業の3分の1以上の欠席及び未提出の課題がある場合は、評価不能(－)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に学習目標を確認し、日本語エクササイズのワークシートを使って各課に必要な日本語表現を勉強しておく。
 学習活動終了後、学習目標に基づき、どんなことができたか、できなかったかなどを振り返る。

履修上の注意 /Remarks

日本語教育実習生(文学部比較文化学科日本語教師養成課程)が授業の一部を担当する予定である。
 日本語IVと日本語Vと日本語VIは、授業内容の関連性が深いので、同時に履修することが望ましい。
 テキストに付属する「日本語エクササイズ」は、授業外での自主学習とする。なお、2つの課題を発表する際、ビジターを交える可能性がある。
 また、ポートフォリオを作成して学習の軌跡を保存することで、自己評価に繋がります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ) ピア・ラーニング 相互リソース化 批判的思考の獲得 社会的関係の構築

日本語VII【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。

日本語VIIでは、日本語で読むことを中心とする。特に大学に必要なクリティカル・リーディング(批判的な読み)ができるようになることを目標とする。書かれたテキストに対して正確に読み取った上で、さらに複眼的な視点から検討するための思考技術を養成する。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

(到達目標)

- ・ 書かれている内容をさまざまな角度から検討し、批判的に読むことができる
- ・ 書き手の思考の筋道を追いながら問題を探し出し、明確な問いを立て、文章を吟味しながら読む技術を身につけている
- ・ 自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聞きながら仲間と協働的に学ぶことができる

教科書 /Textbooks

『読む力(中上級)』(奥田純子監修、竹田悦子他編著 くろしお出版) ¥1,900

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○『ひとりで読むことからピア・リーディングへ:日本語学習者の読解過程と対話的協働学習』(館岡洋子、東海大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【クリティカル・リーディング、複眼思考レッスン】
- 2回 私のニュースの読み方【主張や論点、問題提起、意図】
- 3回 価値の一様性【主張や論点、問題提起、意図】
- 4回 言葉の起源をもとめて【研究動機と仮説の概要】
- 5回 経済学とは何か【分野の概要】
- 6回 思いやり【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 7回 住まい方の思想【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 8回 決まった道はない。ただ行き先があるのみだ【比較、対照、構造化、アナロジー】
- 9回 メディアがもたらす環境変容に関する意識調査【研究論文の概要】
- 10回 改定 介護概論【目次から読む】
- 11回 ことばの構造、文化の構造【入門書】
- 12回 観光で行きたい国はどこ
- 13回 化粧する脳【現状、展望、原因、問題点】
- 14回 クリティカル・リーディングを磨こう
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...40% 授業への取り組み(課題を含む)...60%

- ・ 三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、事前に課題の予習をすることを前提として進める。事後学習としては、授業で身につけたスキルを使えるようになったか、自己評価をおこなう。

履修上の注意 /Remarks

日本語VIIおよびVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃からニュースや時事問題に関心を持ち、それに対する自分の意見を持っておいってください。

キーワード /Keywords

クリティカル・リーディング 批判的読み メタ・コンテンツ 全体把握 言語タスク 認知タスク

日本語VIII 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 留学生 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

外国人留学生特別科目「日本語」では、大学生として求められる日本語能力として、「生活日本語(ライフ・ジャパニーズ)」「大学生生活日本語(キャンパス・ジャパニーズ)」「大学日本語(アカデミック・ジャパニーズ)」の育成を行う。また、学習者による「主体的な学ぶ姿勢」を涵養するために、日本語学習ポートフォリオを導入する。ポートフォリオによって学習過程を重視し、自らの学習への気づきを促すためである。日本語VIIIでは、日本語で書くことを中心とする。特に、論拠を基に意見を述べる「論証型レポート」を作成することを目標とする。レポートを作成しながら課題に取り組むことで、日本語表現の学習だけでなく、構想からレポートの完成に至る一連の過程を学ぶ。授業ではピア(仲間)活動を多く取り入れ、自分の考えを論理的に伝え、相手の意見を聴くことで、協働的に学習することの有効性を感じてもらう。

教科書 /Textbooks

『ピアで学ぶ大学生の日本語表現(第2版)』(大島弥生他、ひつじ書房)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『レポートの組み立て方』(木下是雄、筑摩書房)
- 『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(二通信子他、東京大学出版会)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の目的及び必要性を知る【知る/課題の条件を確認する】
- 2回 レポートとは何かを考える【論証型レポート/根拠の大切さを知る】
- 3回 レポートのテーマを考える【構想マップ/練る】
- 4回 情報をカード化する【情報の信頼性/調べる】
- 5回 目標を仮に規定する【情報の整理/絞る】
- 6回 アウトラインを作る【序論・本論・結論】
- 7回 パラグラフライティング【中心文/説明文・指示文】
- 8回 パラグラフライティング【引用/引用文献リスト】
- 9回 文章を点検する【校正/表現の点検】
- 10回 文章を点検する【形式の点検/ピア・レスポンス】
- 11回 レポートの完成【体裁】
- 12回 発表を準備する【発表の意義・レジュメの作成】
- 13回 発表する【話し手/聴き手/司会】
- 14回 発表を踏まえてレポートを修正する【最終稿提出】
- 15回 学習プロセスを振り返る【自己評価・ピア評価】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40% レポート・発表...40% ピア評価...20%

・授業の3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに自己のテーマに関する参考文献の収集や精読を行っておくこと、授業終了後には指示された課題を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

日本語VII及びVIIIは、授業内容の関連性が深いので連続して履修することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から時事問題に関心を持ち、それに対して自分の意見を考えてほしい。

キーワード /Keywords

論証型レポート ピア・ラーニング 論理的思考

日本事情 (人文) A 【昼】

担当者名 /Instructor 清水 順子 / Shimizu Junko / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

日本事情(人文)Aでは、現代日本人に通ずる伝統文化「茶道」「歌舞伎」を通して、「日本社会・日本文化・日本人とは何か」を考える。そして、文化を理解する視点を持つことで、グローバル化した現代社会の中で、時代に流されない生き方を模索する。具体的には、日本の伝統芸能である「茶道」や「歌舞伎」を主たる題材として、体験学習を行う。その過程で立ち昇る日本文化について、クラス内で議論を重ねて行く。それらの過程で一人ひとりが、改めてそれぞれの文化を見つめ直し、気づきを得ることをもう一つのねらいとする。授業では、日本語の古語があまり得意ではない受講者のために、できるだけ視覚的聴覚的に工夫を凝らすことで理解を促進する。

教科書 /Textbooks

毎回レジュメを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『茶の湯六ヶ国語会話』(淡交社編集局、淡交社)
- 『「お茶」の学びと人間教育』(梶田勲一、淡交社)
- 『表千家茶道十二月』(千宗左、日本放送出版協会)
- 『歌舞伎入門事典』(和角仁・樋口和宏、雄山閣出版)
- 『歌舞伎登場人物事典』(古井戸秀夫、白水社)
- 『歌舞伎のびっくり満喫図鑑』(君野倫子、小学館)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【伝統文化】【現代生活】
- 2回 茶道(1)茶道の世界をのぞく【茶室】【茶道具】【わびさびの世界】
- 3回 茶道(2)茶道から歴史を学ぶ【千利休】
- 4回 茶道(3)現代に続く伝統【工芸】【作法】
- 5回 茶道(4)体験する【薄茶をいただく】
- 6回 歌舞伎(1)歌舞伎の世界をのぞく【人間国宝】【女形】【大道具】
- 7回 歌舞伎(2)歌舞伎から歴史を学ぶ【江戸の町と町民文化】
- 8回 歌舞伎(3)演じる【竹本・義太夫】【現代に残る名台詞】
- 9回 歌舞伎(4)歌舞伎を観る【仮名手本忠臣蔵大序・三段目・四段目】
- 10回 歌舞伎(5)現代のサムライ【切腹】【武士道】
- 11回 歌舞伎(6)忠臣蔵と現代社会【世界観】【義】
- 12回 歌舞伎(7)魅力【大衆性】【芸術性】
- 13回 伝統文化と現代社会(1)日本へ与えた影響【文化の伝承】【サブカルチャー】
- 14回 伝統文化と現代社会(2)外国へ与えた影響【文化の融合】【新しい文化】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート...40% ポートフォリオ評価60%(自己評価...20% ピア評価...20% 教師評価...20%)

・ 授業への3分の1以上の欠席及び、未提出の課題がある場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに予め指定された教材を視聴しておくこと、授業終了後には指示された課題を行い、復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学期の途中ではあるが、希望者を募り6月に博多座へ歌舞伎鑑賞に行く予定である。
日頃から伝統的な文化(日本文化や自国文化を問わず)に興味を持っていると授業を楽しみやすいと思う。
美しい所作(身のこなしや箸の持ち方、茶や菓子の頂き方)についても実践する。

キーワード /Keywords

茶道 歌舞伎 日本文化 自文化 異文化 伝統文化 現代生活 サブカルチャー 文化の伝承

日本事情 (人文) B 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

言語の学習と密接な関係にある文化について考える。文化とは何か、文化を学ぶとはいったいどのようなものであるのかを考えるにあたって、「境目」「母性」と「父性」の間をゆれる」「ことばと文化を結ぶために」の3つの読み物を題材とする。これらの題材を、各自の考えをまとめるためのリソースや共通の土台としながら、クラス内で議論していく。最終的には一人ひとりが自分にとっての文化「私にとって文化とは」をレポートとしてまとめていく。

(到達目標)

- ・ 複数のリソースをもとに、自分自身の考えをつくっていくことができる
- ・ クラス内での対話を通して自分の考えをつかみ、相手にわかるように表現できる
- ・ 文化に対する問題意識や価値観を認識し、自分の考えをレポートとしてまとめる

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川上弘美『あるようなないような』中公文庫
河合隼雄「『母性』と『父性』の間をゆれる」『国語総合』大修館書店
細川英雄『日本語教育と日本事情—異文化を超える—』明石書店

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 「境目」を読む
- 3回 「境目」について話し合う
- 4回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」を読む
- 5回 「『母性』と『父性』の間をゆれる」について話し合う
- 6回 「ことばと文化を結ぶために」を読む
- 7回 「ことばと文化を結ぶために」について話し合う
- 8回 文化観を比較する
- 9回 その他の読み物を読む
- 10回 レポートの作成(1)「私にとって文化とは何か」
- 11回 ピア・リーディング クラスメートのレポートを読んでコメントする
- 12回 レポートの作成(2)修正する
- 13回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングする
- 14回 完成したレポートをクラス内でピア・リーディングし、相互評価・自己評価する
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 日常の授業への取り組み(発表や課題を含む)...50%

- ・ 三分の一の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能(一)とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は課題の予習を前提として進める。事前に配布された読み物を読み、わからない語句については事前に調べておくこと。また、事後学習として自分自身の考えをもう一度まとめ、深めておく。

履修上の注意 /Remarks

受講者が多数の場合、2年次以上の学生を優先する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化 比較 交換 対話

日本事情 (社会) A 【昼】

担当者名 /Instructor 則松 智子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 留学生 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情 (社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の見解を求めるものではなく、「日本社会で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

「日本事情 (社会) A」では、さまざまな文化的背景を持つ人々が生活する日本社会においてどのような問題や課題があるのかを知り、それぞれの事柄を多角的にとらえ、自国の現状と比較しながら自分たちの問題として考えていく。

各テーマやトピックについて主体的に学び、知識を得ることで自分自身の考えや意見を持つ。また、自分自身の体験や生活の中で感じたことについて仲間と意見を交わすことで、分析能力やコミュニケーション能力の育成を図る。

(到達目標)

- ・ 幅広い分野から日本について知る
- ・ 様々なテーマについて主体的に学び、自分自身の意見を持つ
- ・ クラスで意見交換することで、分析能力やコミュニケーション能力を身につける

教科書 /Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『異文化理解入門』(原沢伊都夫、研究社)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業オリエンテーション
- 2回 「異文化を理解する①」(概要・事例・理解)
- 3回 「異文化を理解する②」(比較・考える・表現する)
- 4回 「多文化共生社会①」(概要・事例・理解)
- 5回 「多文化共生社会②」(比較・考える・表現する)
- 6回 「コロナ社会①」(概要・事例・理解)
- 7回 「コロナ社会②」(比較・考える・表現する)
- 8回 「就職活動①」(概要・事例・理解)
- 9回 「就職活動②」(比較・考える・表現する)
- 10回 「日本社会と子ども①」(概要・事例・理解)
- 11回 「日本社会と子ども②」(比較・考える・表現する)
- 12回 「無縁社会①」(概要・事例・理解)
- 13回 「無縁社会②」(比較・考える・表現する)
- 14回 「発表」
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

試験...40% 授業への取り組み・発表...60%

・ 三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は評価不能 (-) とする

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテーマについて調べ、自分の考えをまとめてくること。
事後学習では、クラスメートの考えや新しい情報を知った上で、もう一度自分の考えをまとめ直すようにしておく。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業であるが、言語能力としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められる。必ず初回のオリエンテーションには参加すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

日頃から身の回りの問題や社会に関心を持ち、それに対する自分の考えを持っておいください。

キーワード /Keywords

文化 社会 多様性 課題 分析

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者名 /Instructor 清藤 隆春 / 国際教育交流センター, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
友松 史子 / 国際教育交流センター, 二宮 正人 / Masato, NINOMIYA / 法律学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 留学生 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「日本事情(社会)」は、実際に生活している日本社会がどのような社会であるのかを理解するための授業である。そのため、常に幅広い分野から日本を知るリテラシーを身につけることを共通の目標に据える。

ここでいう日本社会とは、過去から現在に、そして未来へと続く社会を想定している。また、日本社会を知るのは、当事者個々人であり、決して共通の理解を求めるものではなく、「日本で生活している私」「日本語を使う私」の意識化を試みる。

授業では、在日外国人、特に留学生を対象とした研究論文や調査研究を読み進め、単に知識を得るだけでなく、自分自身の過去及び現在を理解し、未来を描くことに繋がられるように、クリティカル・リーディングを行う。そして、留学生や元留学生にまつわる言説を分析し、自分の人生を自分で切り拓けるようになることを目指す。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡益巳・深田博己『中国人留学生と日本』白帝社
- 坪谷美欧子『「永続的ソジョナー」中国人のアイデンティティ-中国からの日本留学にみる国際移民システム』有信堂
- 葛文綺『中国人留学生・研修生の異文化適応』溪水社
- 吉沅洪『日中比較による異文化適応の実際』溪水社
- 榎本博明(2002)『<ほんとうの自分>のつくり方-自己物語の心理学』講談社現代新書
- 高松里(2015)『ライフストーリー・レビュー入門』創元社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「研究論文を読む」「調査報告を読む」とは：クリティカル・リーディングの復習
- 第3回 クリティカル・リーディングの実践：研究論文を読む
- 第4回 留学生や元留学生にまつわる言説(1) 日本社会の中の外国人という視点から
- 第5回 言説の考察(1)
- 第6回 留学生や元留学生にまつわる言説(2) 留学の意義と留学に対する評価の視点から
- 第7回 言説の考察(2)
- 第8回 自己物語とアイデンティティ
- 第9回 自己物語を書こう(1) 自己物語の実際
- 第10回 自己物語を書こう(2) 自己物語の書き方
- 第11回 自己物語を読もう(1) 論理実証モードと物語モード
- 第12回 自己物語を読もう(2) 共感から共鳴へ
- 第13回 自己物語を語り直そう
- 第14回 留学生のキャリア発達
- 第15回 「ほんとうの自分」のつくり方

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...30% 課題...30% レポート40%

三分の一以上の欠席があり、かつ未提出の課題がある場合は、評価不能(一)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前半は、研究論文、エッセイをリソースとした学習を行うため、予習タスクをします。
事後学習では、各研究論文、エッセイでの学習を統合するための作業をします。

履修上の注意 /Remarks

外国人留学生対象の授業ではあるが、言語技能としての「読む」「書く」「話す」「聞く」に高い日本語能力が求められ、かつ、情報リテラシーや批判的思考力に基づく理論構築を目指していくので、初回のオリエンテーションに必ず参加して、履修するかどうかを判断しよう。
授業は課題に対する予習を前提として進めます。また、ポートフォリオを作成して、学習の軌跡を保存し、自己評価に繋がります。

日本事情 (社会) B 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

皆さん一人一人の日本での経験を活かしながら、「日本社会」を学びたいと思います。

キーワード /Keywords

言説 留学生のキャリア発達 自己物語

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG171M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course focuses on improving both written and conversational ability by actively using the four skills with a focus on critical thinking. Working with other class members is an essential part of the course.

到達目標

- [技能] 英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。
- [思考・判断] 基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。
- [コミュニケーション力] 基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Pathways 2, split edition B. Cengage Learning. 2018.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Writing in the present tense; Family
- 3 回 Writing in the past; school life
- 4 回 Writing in the future; future plans
- 5 回 Discussion (part 1) - Health and Nutrition introduction
- 6 回 Discussion (part 1) - Listening for data
- 7 回 Discussion (part 1) - Presenting personal experiences
- 8 回 Discussion (part 1) - Marketing tactics; group discussions
- 9 回 Writing in the continuous tense
- 10 回 Writing in the perfect tense
- 11 回 Writing using modal auxiliaries
- 12 回 Discussion (part 2) - Natural Disasters introduction
- 13 回 Discussion (part 2) - Listening for transitions and note taking
- 14 回 Discussion (part 2) - Discussing effects and preventative methods
- 15 回 Presentations and review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

6回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

英会話・英作文 1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to participate actively. We will be working and practicing with different partners every week.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG171M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course focuses on improving both written and conversational ability by actively using the four skills with a focus on critical thinking. Working with other class members is an essential part of the course.

到達目標

- [技能] 英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。
- [思考・判断] 基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。
- [コミュニケーション力] 基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Pathways 2, split edition B. Cengage Learning. 2018.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Writing in the present tense; Family
- 3 回 Writing in the past; school life
- 4 回 Writing in the future; future plans
- 5 回 Discussion (part 1) - Health and Nutrition introduction
- 6 回 Discussion (part 1) - Listening for data
- 7 回 Discussion (part 1) - Presenting personal experiences
- 8 回 Discussion (part 1) - Marketing tactics; group discussions
- 9 回 Writing in the continuous tense
- 10 回 Writing in the perfect tense
- 11 回 Writing using modal auxiliaries
- 12 回 Discussion (part 2) - Natural Disasters introduction
- 13 回 Discussion (part 2) - Listening for transitions and note taking
- 14 回 Discussion (part 2) - Discussing effects and preventative methods
- 15 回 Presentations and review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

6回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

英会話・英作文 1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to participate actively. We will be working and practicing with different partners every week.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG171M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

This is an intermediate course designed to give you ample practice in developing conversation skills and writing paragraphs. Your grade in this class will be based on conversation and writing tasks (paragraphs and in-class writing assignments), and participation (including homework, attendance, and being on-task.)

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Matthew A. Taylor and David E. Kluge, Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay, Cengage Learning, ¥2,700
CAUTION: No credit will be given to you if you do not have a textbook.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will also be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Getting Started – What Is Writing? Points to Remember for Academic Writing Unit 3: About the Paragraph / Conversations and Homework: Unit 4: Descriptive Paragraph
- 2 回 Conversations: Hold a conversation about your Descriptive Paragraph with the lecturer for four minutes
Preparation for Homework: Unit 4, Write a 150-word Descriptive Paragraph. (Exercises 1, 2, 3)
- 3 回 DUE: 150-word Descriptive Paragraph (Exercises 1, 2, 3) Unit 5: Comparison and Contrast Paragraph
- 4 回 Conversations: Hold a conversation about your Comparison and Contrast Paragraph with the lecturer for four minutes. Preparation for Homework: Unit 5, Comparison and Contrast Paragraph. (Exercises 1, 2, 3)
- 5 回 DUE: 150-word Comparison and Contrast Paragraph (Exercises 1, 2, 3) Unit 6: Process Paragraph
- 6 回 Conversations: Hold a conversation about your Process Paragraph with the lecturer for four minutes
Preparation for Homework: Unit 6, write a 150-word Process Paragraph. (Exercises 1, 2, 3)
- 7 回 DUE: A150- word Process Paragraph (Exercises 1, 2, 3) Unit 7: Narrative Paragraph
- 8 回 Conversations: Hold a conversation about your Narrative Paragraph with the lecturer for four minutes
Preparation for Homework: Unit 7 write a 150-word Narrative Paragraph. (Exercises 1, 2, 3)
- 9 回 DUE:150- word Narrative Paragraph (Exercises 1, 2, 3) Unit 8: Summary Paragraph
- 1 0 回 Conversations: Hold a conversation about your Summary Paragraph with the lecturer for four minutes
Preparation for Homework: Unit 8, write a 150-word Summary Paragraph. (Exercises 1, 2, 3)
- 1 1 回 DUE: 150-word Summary Paragraph (Exercises 1, 2, 3) Unit 9: Analysis Paragraph
- 1 2 回 Conversations: Hold a conversation about your Analysis Paragraph with the lecturer for four minutes
Preparation for Homework: Unit 9, write a 150-word Analysis Paragraph. (Exercises 1, 2, 3)
- 1 3 回 DUE: 150-word Analysis Paragraph (Exercises 1, 2, 3) Improving Your Skills
- 1 4 回 Conversations: Hold a conversation about your Best Paragraph with the lecturer for four minutes
- 1 5 回 Makeup class for those who had excused absence. Explanation and Preparation for Final Exam

成績評価の方法 /Assessment Method

CONVERSATIONS and WRITING ASSIGNMENTS: 84 percent Your assignment grades will be based on the conversations and paragraphs that you turn in to your lecturer. All writing must be submitted on the day due.
NO LATE PAPERS WILL BE ACCEPTED.
FINAL EXAM: 16 percent
NO LATE PAPERS WILL BE ACCEPTED.
6回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to review in-class activities and complete assigned written work. Students should bring dictionaries to class.

履修上の注意 /Remarks

6回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Due to Covid-19, we may have to do online classes.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG171M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Discover Debate by Lubetsky, Le beau and Harrington (Language solutions) (semester 1)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 Have an opinion
- 3 回 Unit 1 Have an opinion- agree or disagree
- 4 回 Unit 2 Explaining your opinion
- 5 回 Unit 2 Compare and contrast- giving reasons
- 6 回 Unit 3 Supporting your opinion
- 7 回 Unit 3 Giving supports
- 8 回 Unit 4 Organizing your opinion
- 9 回 Unit 4 Debate introductions and conclusions
- 1 0 回 Unit 5 Refuting explanations
- 1 1 回 Unit 5 Tennis debate
- 1 2 回 Tennis debate preparation
- 1 3 回 Tennis debate
- 1 4 回 Exam review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%
5 回以上欠席した場合は、評価不能 (一) とします。

試験を受験しない場合は、評価不能 (一) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students must prepare a peer journal

英会話・英作文 1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG171M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Discover Debate by Lubetsky, Le beau and Harrington (Language solutions) (semester 1)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 Have an opinion
- 3 回 Unit 1 Have an opinion- agree or disagree
- 4 回 Unit 2 Explaining your opinion
- 5 回 Unit 2 Compare and contrast- giving reasons
- 6 回 Unit 3 Supporting your opinion
- 7 回 Unit 3 Giving supports
- 8 回 Unit 4 Organizing your opinion
- 9 回 Unit 4 Debate introductions and conclusions
- 1 0 回 Unit 5 Refuting explanations
- 1 1 回 Unit 5 Tennis debate
- 1 2 回 Tennis debate preparation
- 1 3 回 Tennis debate
- 1 4 回 Exam review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 40% Tennis debate 40% Peer journal 20%

5 回以上欠席した場合は、評価不能 (一) とします。

試験を受験しない場合は、評価不能 (一) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students must prepare a peer journal

英会話・英作文 1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG171M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course focuses on improving both written and conversational ability by actively using the four skills with a focus on critical thinking. Working with other class members is an essential part of the course.

到達目標

- [技能] 英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。
- [思考・判断] 基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。
- [コミュニケーション力] 基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Pathways 2, split edition B. Cengage Learning. 2018.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Course Introduction: Meeting People.
- 2 回 Writing in the present tense; Family
- 3 回 Writing in the past; school life
- 4 回 Writing in the future; future plans
- 5 回 Discussion (part 1) - Health and Nutrition introduction
- 6 回 Discussion (part 1) - Listening for data
- 7 回 Discussion (part 1) - Presenting personal experiences
- 8 回 Discussion (part 1) - Marketing tactics; group discussions
- 9 回 Writing in the continuous tense
- 10 回 Writing in the perfect tense
- 11 回 Writing using modal auxiliaries
- 12 回 Discussion (part 2) - Natural Disasters introduction
- 13 回 Discussion (part 2) - Listening for transitions and note taking
- 14 回 Discussion (part 2) - Discussing effects and preventative methods
- 15 回 Presentations and review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70% Final Examination 30%

6回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

英会話・英作文 1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to participate actively. We will be working and practicing with different partners every week.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class:

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG171M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 1				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

このクラスは英語で教えられ、英語でのコミュニケーションを通じて国際理解を深めるように設計されています。このコースでは、4つのスキルを使用し、批判的思考スキルを導入することで、書面と会話の両方の能力を向上させます。さまざまな種類の記事やその他の資料を使用して、国際的な関連性の問題を紹介します。

Covid19のパンデミックの性質上、このシラバスのすべての側面は、クラスを対面で行う方法、またはオンライン/オンデマンドで行う必要がある方法に応じて変更される可能性があります。これらの変更の場合、インストラクターは可能な限り多くの指示を提供します。いずれの場合も、資料の提供と課題の収集に大学のMoodleLMSを幅広く活用します。

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

Due to the nature of the Covid19 pandemic, ALL aspects of this syllabus is subject to change depending on how we might need to do classes face to face, or do them online/on-demand. In the case of those changes, the Instructor will provide as much instruction as possible. In all cases, we will make extensive use of the University's Moodle LMS for providing material and collecting assignments.

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書は発行されません。必要な印刷物や資料はクラスで配布されます。

No textbook will be issued. Any printouts or materials necessary will be given out in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書。生徒はペンを使って書くことが期待されています。

オンラインで課題やクラスを行う場合は、コンピューターからのインターネットアクセスと、動作中のビデオカメラが必要になります。

Dictionary. Students are expected to use pens for writing.

In the case of doing assignments and classes online, you will require internet access from a computer as well as a working video camera.

英会話・英作文 1 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コース紹介。基本的な書き方。自己紹介。Moodleの使い方。Covid19の偶発性。初回ライティング
2. 前のトピックのビデオ。ウォーキングビデオの基本。スピーキング練習。
3. スピーキングの基本。活用、スピード、滑舌。ライティングの添削。Quizlet。
4. 時事問題についてのライティング。添削。ディスカッションをする。動物福祉。
5. 前回のトピックに関するビデオ。ウォーキングビデオの改善。スピーキング練習。
6. スピーキングの基本。質問構成、スピード滑舌。クイズレット。
7. 時事問題についてのライティング。添削。ディスカッション。グローバリズム
8. 前回のトピックのビデオ。ウォーキングビデオの基本。スピーキング練習。
9. スピーキングの基本。スピード：平均身長ラン、質問なし。ライティングの添削。クイズレット。
10. 時事問題についてのライティング。添削をする。ディスカッションをする。教育
11. 前のトピックに関するビデオ。ウォーキングの動画。スピーキングの練習。
12. スピーキングの基本。グループでのコミュニケーション。クイックレスポンス。ライティングの添削。クイズレット。
13. 練習用ビデオテスト。
14. 練習書き込みテスト。
15. ビデオ課題。

1. Course Introduction: Basic writing. Self Introduction. Using Moodle. Covid19 contingencies. Initial Writing
2. Video on previous topic: Walking video basics. Speaking practice.
3. Speaking basics: Conjugation, speed, smoothness. Writing corrections. Quizlet.
4. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Animal Welfare.
5. Video on previous topic: Walking video improvements. Speaking practice.
6. Speaking basics: Question construction, speed smoothness. Quizlet.
7. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Globalism
8. Video on previous topic: Walking video basics. Speaking practice.
9. Speaking basics: Speed: Mean Length Runs, No Questions. Writing corrections. Quizlet.
10. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Education
11. Video on previous topic: Walking videos. Speaking practice.
12. Speaking basics: Communication in Groups. Quick Responses. Writing corrections. Quizlet.
13. Practice video Test.
14. Practice writing Test.
15. Video Assignment.

成績評価の方法 /Assessment Method

ライティング・アサインメント 20%. ビデオ課題 20 その他の課題 10% 最終スピーキングテスト 25%. ファイナルライティングテスト 25

- ビデオ課題は4回。模擬試験ビデオ1回、最終試験ビデオ1回。
ライティングの課題は4回。ライティングの模擬テスト1回、ファイナルライティングテスト1回。
- ・ 3回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
 - ・ 試験※を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

シラバスのこの部分も、クラスの実施方法に応じて変更される可能性があります。オンラインであろうと対面であろうと。

Writing Assignments: 20%. Video Assignments 20%. Other Assignments 10% Final speaking test 25%. Final writing test 25%

There will be 4 video assignments. one practice test video and one final test video.
There will be 4 writing assignments. one practice writing test and one final writing test.

If the student is absent more than 3 times, the grade will be ungradable (-).
If the student does not take the examination*, the evaluation will be disallowed (-).

成績評価の方法 /Assessment Method

This part of the syllabus is also subject to change depending on how the class is conducted; whether online or face to face.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

クラスで使用するために前週の資料を確認します。準備の割り当ては、週ごとに割り当てられます。

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments will be assigned on a per-week basis.

履修上の注意 /Remarks

クラスへの到着が遅れたり、電話の不適切な使用や睡眠などの問題は、インストラクターの裁量で罰則が科せられます。すべてのコンテンツは、インストラクターの裁量により変更される場合があります。

オンラインクラス中は、クラスへの不注意は禁止されており、罰則の対象となります。

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion. All content subject to change at instructor's discretion.

During online classes, inattention to the class is prohibited and subject to penalty.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 1 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 1学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class:

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG171M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

このクラスは英語で教えられ、英語でのコミュニケーションを通じて国際理解を深めるように設計されています。このコースでは、4つのスキルを使用し、批判的思考スキルを導入することで、書面と会話の両方の能力を向上させます。さまざまな種類の記事やその他の資料を使用して、国際的な関連性の問題を紹介します。

Covid19のパンデミックの性質上、このシラバスのすべての側面は、クラスを対面で行う方法、またはオンライン/オンデマンドで行う必要がある方法に応じて変更される可能性があります。これらの変更の場合、インストラクターは可能な限り多くの指示を提供します。いずれの場合も、資料の提供と課題の収集に大学のMoodleLMSを幅広く活用します。

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

Due to the nature of the Covid19 pandemic, ALL aspects of this syllabus is subject to change depending on how we might need to do classes face to face, or do them online/on-demand. In the case of those changes, the Instructor will provide as much instruction as possible. In all cases, we will make extensive use of the University's Moodle LMS for providing material and collecting assignments.

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書は発行されません。必要な印刷物や資料はクラスで配布されます。

No textbook will be issued. Any printouts or materials necessary will be given out in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書。生徒はペンを使って書くことが期待されています。

オンラインで課題やクラスを行う場合は、コンピューターからのインターネットアクセスと、動作中のビデオカメラが必要になります。

Dictionary. Students are expected to use pens for writing.

In the case of doing assignments and classes online, you will require internet access from a computer as well as a working video camera.

英会話・英作文 1 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コース紹介。基本的な書き方。自己紹介。Moodleの使い方。Covid19の偶発性。初回ライティング
2. 前のトピックのビデオ。ウォーキングビデオの基本。スピーキング練習。
3. スピーキングの基本。活用、スピード、滑舌。ライティングの添削。Quizlet。
4. 時事問題についてのライティング。添削。ディスカッションをする。動物福祉。
5. 前回のトピックに関するビデオ。ウォーキングビデオの改善。スピーキング練習。
6. スピーキングの基本。質問構成、スピード滑舌。クイズレット。
7. 時事問題についてのライティング。添削。ディスカッション。グローバリズム
8. 前回のトピックのビデオ。ウォーキングビデオの基本。スピーキング練習。
9. スピーキングの基本。スピード：平均身長ラン、質問なし。ライティングの添削。クイズレット。
10. 時事問題についてのライティング。添削をする。ディスカッションをする。教育
11. 前のトピックに関するビデオ。ウォーキングの動画。スピーキングの練習。
12. スピーキングの基本。グループでのコミュニケーション。クイックレスポンス。ライティングの添削。クイズレット。
13. 練習用ビデオテスト。
14. 練習書き込みテスト。
15. ビデオ課題。

1. Course Introduction: Basic writing. Self Introduction. Using Moodle. Covid19 contingencies. Initial Writing
2. Video on previous topic: Walking video basics. Speaking practice.
3. Speaking basics: Conjugation, speed, smoothness. Writing corrections. Quizlet.
4. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Animal Welfare.
5. Video on previous topic: Walking video improvements. Speaking practice.
6. Speaking basics: Question construction, speed smoothness. Quizlet.
7. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Globalism
8. Video on previous topic: Walking video basics. Speaking practice.
9. Speaking basics: Speed: Mean Length Runs, No Questions. Writing corrections. Quizlet.
10. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Education
11. Video on previous topic: Walking videos. Speaking practice.
12. Speaking basics: Communication in Groups. Quick Responses. Writing corrections. Quizlet.
13. Practice video Test.
14. Practice writing Test.
15. Video Assignment.

成績評価の方法 /Assessment Method

ライティング・アサインメント 20%. ビデオ課題 20 その他の課題 10% 最終スピーキングテスト 25%. ファイナルライティングテスト 25

- ビデオ課題は4回。模擬試験ビデオ1回、最終試験ビデオ1回。
ライティングの課題は4回。ライティングの模擬テスト1回、ファイナルライティングテスト1回。
- ・ 3回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
 - ・ 試験※を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

シラバスのこの部分も、クラスの実施方法に応じて変更される可能性があります。オンラインであろうと対面であろうと。

Writing Assignments: 20%. Video Assignments 20%. Other Assignments 10% Final speaking test 25%. Final writing test 25%

There will be 4 video assignments. one practice test video and one final test video.
There will be 4 writing assignments. one practice writing test and one final writing test.

If the student is absent more than 3 times, the grade will be ungradable (-).
If the student does not take the examination*, the evaluation will be disallowed (-).

成績評価の方法 /Assessment Method

This part of the syllabus is also subject to change depending on how the class is conducted; whether online or face to face.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

クラスで使用するために前週の資料を確認します。準備の割り当ては、週ごとに割り当てられます。

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments will be assigned on a per-week basis.

履修上の注意 /Remarks

クラスへの到着が遅れたり、電話の不適切な使用や睡眠などの問題は、インストラクターの裁量で罰則が科せられます。すべてのコンテンツは、インストラクターの裁量により変更される場合があります。

オンラインクラス中は、クラスへの不注意は禁止されており、罰則の対象となります。

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion. All content subject to change at instructor's discretion.

During online classes, inattention to the class is prohibited and subject to penalty.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG172M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

This course is a continuation of 英会話・英作文1. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course focuses on improving both written and conversational ability by actively using the four skills with a focus on critical thinking. Working with other class members is an essential part of the course.

到達目標

- [技能] 英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。
- [思考・判断] 基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。
- [コミュニケーション力] 基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Pathways 2, split edition B. Cengage Learning. 2018.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Review of the first semester; course introduction
- 2 回 Writing paragraphs: topic sentences; using conjunctions
- 3 回 Writing paragraphs: supporting sentences; using more conjunctions
- 4 回 Writing paragraphs: concluding sentences; relative pronouns & relative adverbs
- 5 回 Discussion (part 1) - Cultural History; tourism
- 6 回 Discussion (part 1) - Listening for examples; guided tours
- 7 回 Discussion (part 1) - Summarizing; regional attractions
- 8 回 Discussion (part 1) - Presenting a historical site
- 9 回 Writing essays: supporting paragraphs
- 1 0 回 Writing essays: introductory paragraph
- 1 1 回 Essay work
- 1 2 回 Writing essays: concluding paragraph
- 1 3 回 Discussion (Part 2) - Entrepreneurship; successful traits
- 1 4 回 Discussion (Part 2) - Companies and Innovators; facts and opinions
- 1 5 回 Discussion (Part 2) - New products; review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70%
Final Examination 30%

6回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

英会話・英作文 2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to participate actively in class activities.
Please bring both textbooks to the class every week.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG172M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

This course is a continuation of 英会話・英作文1. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course focuses on improving both written and conversational ability by actively using the four skills with a focus on critical thinking. Working with other class members is an essential part of the course.

到達目標

- [技能] 英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。
- [思考・判断] 基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。
- [コミュニケーション力] 基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Pathways 2, split edition B. Cengage Learning. 2018.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Review of the first semester; course introduction
- 2 回 Writing paragraphs: topic sentences; using conjunctions
- 3 回 Writing paragraphs: supporting sentences; using more conjunctions
- 4 回 Writing paragraphs: concluding sentences; relative pronouns & relative adverbs
- 5 回 Discussion (part 1) - Cultural History; tourism
- 6 回 Discussion (part 1) - Listening for examples; guided tours
- 7 回 Discussion (part 1) - Summarizing; regional attractions
- 8 回 Discussion (part 1) - Presenting a historical site
- 9 回 Writing essays: supporting paragraphs
- 1 0 回 Writing essays: introductory paragraph
- 1 1 回 Essay work
- 1 2 回 Writing essays: concluding paragraph
- 1 3 回 Discussion (Part 2) - Entrepreneurship; successful traits
- 1 4 回 Discussion (Part 2) - Companies and Innovators; facts and opinions
- 1 5 回 Discussion (Part 2) - New products; review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70%
Final Examination 30%

6回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

英会話・英作文 2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to participate actively in class activities.
Please bring both textbooks to the class every week.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アルバート・オスカー・モウ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG172M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

This is an intermediate course designed to give you ample practice in developing conversation skills and writing paragraphs. Your grade in this class will be based on conversation and writing tasks (paragraphs and in-class writing assignments), and participation (including homework, attendance, and being on-task.)

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Matthew A. Taylor and David E. Kluge, Basic Steps to Academic Writing: From Paragraph to Essay, CENGAGE Learning
CAUTION: No credit will be given to you if you do not have a textbook.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Good dictionaries: both bi-lingual and mono-lingual are preferable. Extra materials, which have been written by the lecturer, will also be provided.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Getting Started and Review – What Is Writing? Points to Remember for Academic Writing
Unit 9: Analysis Paragraph
- 2 回 Conversations: Hold a conversation about your Analysis Paragraph with the lecturer
Preparation for Homework: Unit 9 : Write a 150-word Analysis Paragraph. (Exercises 1, 2, 3)
- 3 回 DUE: 150-word Analysis Paragraph (Exercises 1, 2, 3) Unit 8: Summary Paragraph
- 4 回 Conversations: Hold a conversation about your Summary Paragraph with the lecturer
Preparation for Homework: Unit 8 : Summary Paragraph. (Exercises 1, 2, 3)
- 5 回 DUE: 150-word Summary Paragraph (Exercises 1, 2, 3) Unit 10 : Cause and Effect Paragraph
- 6 回 Conversations: Hold a conversation about your Cause and Effect Paragraph with the lecturer
Preparation for Homework: Unit 10 : write a 150-word Cause and Effect Paragraph. (Exercises 1, 2, 3)
- 7 回 DUE: A150- word Cause and Effect Paragraph (Exercises 1, 2, 3) Unit 11 : Persuasive Paragraph
- 8 回 Conversations: Hold a conversation about your Persuasive Paragraph with the lecturer
Preparation for Homework: Unit 11 : write a 150-word Persuasive Paragraph. (Exercises 1, 2, 3)
- 9 回 DUE:150- word Persuasive Paragraph (Exercises 1, 2, 3) Unit 12 : Problem-Solution Paragraph
- 1 0 回 Conversations: Hold a conversation about your Problem-Solution Paragraph with the lecturer
Preparation for Homework: Unit 12 : write a 150-word Problem-Solution Paragraph. (Exercises 1, 2, 3)
- 1 1 回 DUE: 150-word Problem-Solution Paragraph (Exercises 1, 2, 3) Unit 13: About the Essay
- 1 2 回 Unit 13: About the Essay
- 1 3 回 Conversations: Hold a conversation about the essay you would like to write
- 1 4 回 DUE: 500-word essay
- 1 5 回 Makeup class for those who had excused absence. Explanation and Preparation for Final Exam

成績評価の方法 /Assessment Method

CONVERSATIONS and WRITING ASSIGNMENTS: 84 percent Your assignment grades will be based on the conversations and paragraphs that you turn in to your lecturer. All writing must be submitted on the day due. NO LATE PAPERS WILL BE ACCEPTED.

FINAL EXAM: 16 percent

NO LATE PAPERS WILL BE ACCEPTED.

6回以上欠席した場合は、評価不能（－）とします。

試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to review class activities and submit written work as assigned. Students should bring dictionaries to class.

履修上の注意 /Remarks

6回以上欠席した場合は、評価不能（－）とします。

試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Due to Covid-19, we may have to do online classes.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 2 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG172M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Impact topics by Day and Yamanaka (Pearson & Longman) (semester 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will have to use a variety of sources

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 The guy with green hair & tennis debate preparation
- 3 回 Tennis debate & First impressions
- 4 回 Tennis debate & Traffic jam
- 5 回 Tennis debate & Who needs the local language
- 6 回 Tennis debate & Getting ahead
- 7 回 Tennis debate & Forever single
- 8 回 Tennis debate & What are friends for
- 9 回 Tennis debate & What is for dinner
- 1 0 回 Tennis debate & Cyber Bullying
- 1 1 回 Tennis debate & Take care of mother
- 1 2 回 Tennis debate & Why go to school
- 1 3 回 Tennis debate & An international relationship
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

5 回以上欠席した場合は、評価不能 (一) とします。

試験を受験しない場合は、評価不能 (一) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

英会話・英作文 2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 2 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG172M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will in the first semester look at the skills and techniques needed for debate. The second semester will look at a number of topics and issues which can be used in a mini debate format. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Impact topics by Day and Yamanaka (Pearson & Longman) (semester 2)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students will have to use a variety of sources

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Unit 1 The guy with green hair & tennis debate preparation
- 3 回 Tennis debate & First impressions
- 4 回 Tennis debate & Traffic jam
- 5 回 Tennis debate & Who needs the local language
- 6 回 Tennis debate & Getting ahead
- 7 回 Tennis debate & Forever single
- 8 回 Tennis debate & What are friends for
- 9 回 Tennis debate & What is for dinner
- 1 0 回 Tennis debate & Cyber Bullying
- 1 1 回 Tennis debate & Take care of mother
- 1 2 回 Tennis debate & Why go to school
- 1 3 回 Tennis debate & An international relationship
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

5 回以上欠席した場合は、評価不能 (一) とします。

試験を受験しない場合は、評価不能 (一) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

英会話・英作文 2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor アンデリユー・ジッツマン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG172M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

This course is a continuation of 英会話・英作文1. The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course focuses on improving both written and conversational ability by actively using the four skills with a focus on critical thinking. Working with other class members is an essential part of the course.

到達目標

- [技能] 英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。
- [思考・判断] 基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。
- [コミュニケーション力] 基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

New Friends. Nan'un-Do. 2013.
Pathways 2, split edition B. Cengage Learning. 2018.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Review of the first semester; course introduction
- 2 回 Writing paragraphs: topic sentences; using conjunctions
- 3 回 Writing paragraphs: supporting sentences; using more conjunctions
- 4 回 Writing paragraphs: concluding sentences; relative pronouns & relative adverbs
- 5 回 Discussion (part 1) - Cultural History; tourism
- 6 回 Discussion (part 1) - Listening for examples; guided tours
- 7 回 Discussion (part 1) - Summarizing; regional attractions
- 8 回 Discussion (part 1) - Presenting a historical site
- 9 回 Writing essays: supporting paragraphs
- 10 回 Writing essays: introductory paragraph
- 11 回 Essay work
- 12 回 Writing essays: concluding paragraph
- 13 回 Discussion (Part 2) - Entrepreneurship; successful traits
- 14 回 Discussion (Part 2) - Companies and Innovators; facts and opinions
- 15 回 Discussion (Part 2) - New products; review

成績評価の方法 /Assessment Method

Class work and Assignments 70%
Final Examination 30%

6回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Review materials from the previous week after each class for use in the next lesson and have your homework completed as given to you by your instructor.

英会話・英作文 2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Be prepared to participate actively in class activities.
Please bring both textbooks to the class every week.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 2 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次
単位 /Credits: 1単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class:

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG172M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 2				

※修得できる能力との関連性 ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

授業の概要 /Course Description

このクラスは英語で教えられ、英語でのコミュニケーションを通じて国際理解を深めるように設計されています。このコースでは、4つのスキルを使用し、批判的思考スキルを導入することで、書面と会話の両方の能力を向上させます。さまざまな種類の記事やその他の資料を使用して、国際的な関連性の問題を紹介します。

Covid19のパンデミックの性質上、このシラバスのすべての側面は、クラスを対面で行う方法、またはオンライン/オンデマンドで行う必要がある方法に応じて変更される可能性があります。これらの変更の場合、インストラクターは可能な限り多くの指示を提供します。いずれの場合も、資料の提供と課題の収集に大学のMoodleLMSを幅広く活用します。

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

Due to the nature of the Covid19 pandemic, ALL aspects of this syllabus is subject to change depending on how we might need to do classes face to face, or do them online/on-demand. In the case of those changes, the Instructor will provide as much instruction as possible. In all cases, we will make extensive use of the University's Moodle LMS for providing material and collecting assignments.

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書は発行されません。必要な印刷物や資料はクラスで配布されます。

No textbook will be issued. Any printouts or materials necessary will be given out in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書。生徒はペンを使って書くことが期待されています。

オンラインで課題やクラスを行う場合は、コンピューターからのインターネットアクセスと、動作中のビデオカメラが必要になります。

Dictionary. Students are expected to use pens for writing.

In the case of doing assignments and classes online, you will require internet access from a computer as well as a working video camera.

英会話・英作文 2 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コース紹介。基本的な書き方。自己紹介。Moodleの使い方。Covid19の偶発性。初回ライティング
2. 前のトピックのビデオ。ウォーキングビデオの基本。スピーキング練習。
3. スピーキングの基本。活用、スピード、滑舌。ライティングの添削。Quizlet。
4. 時事問題についてのライティング。添削。ディスカッションをする。「思いやり」と「チャリティー」。
5. 前回のトピックに関するビデオ。ウォーキングビデオの改善。スピーキング練習。
6. スピーキングの基本。質問構成、スピード滑舌。クイズレット。
7. 時事問題についてのライティング。添削。ディスカッション。環境保護主義。
8. 前回のトピックのビデオ。ウォーキングビデオの基本。スピーキング練習。
9. スピーキングの基本。スピード：平均身長ラン、質問なし。ライティングの添削。クイズレット。
10. 時事問題についてのライティング。添削をする。ディスカッションをする。文化と伝統。
11. 前のトピックに関するビデオ。ウォーキングのビデオ。スピーキングの練習。
12. スピーキングの基本。グループでのコミュニケーション。クイックレスポンス。ライティングの添削。クイズレット。
13. 練習用ビデオテスト。
14. 練習書き込みテスト。
15. ビデオ課題。

1. Course Introduction: Basic writing. Self Introduction. Using Moodle. Covid19 contingencies. Initial Writing
2. Video on previous topic: Walking video basics. Speaking practice.
3. Speaking basics: Conjugation, speed, smoothness. Writing corrections. Quizlet.
4. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Compassion and Charity.
5. Video on previous topic: Walking video improvements. Speaking practice.
6. Speaking basics: Question construction, speed smoothness. Quizlet.
7. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Environmentalism.
8. Video on previous topic: Walking video basics. Speaking practice.
9. Speaking basics: Speed: Mean Length Runs, No Questions. Writing corrections. Quizlet.
10. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Culture and Traditions.
11. Video on previous topic: Walking videos. Speaking practice.
12. Speaking basics: Communication in Groups. Quick Responses. Writing corrections. Quizlet.
13. Practice video Test.
14. Practice writing Test.
15. Video Assignment.

成績評価の方法 /Assessment Method

ライティング・アサインメント 20%. ビデオ課題 20 その他の課題 10% 最終スピーキングテスト 25%. ファイナルライティングテスト 25

- ビデオ課題は4回。模擬試験ビデオ1回、最終試験ビデオ1回。
ライティングの課題は4回。ライティングの模擬テスト1回、ファイナルライティングテスト1回。
- ・ 3回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
 - ・ 試験※を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

シラバスのこの部分も、クラスの実施方法に応じて変更される可能性があります。オンラインであろうと対面であろうと。

Writing Assignments: 20%. Video Assignments 20%. Other Assignments 10% Final speaking test 25%. Final writing test 25%

There will be 4 video assignments. one practice test video and one final test video.
There will be 4 writing assignments. one practice writing test and one final writing test.

If the student is absent more than 3 times, the grade will be ungradable (-).
If the student does not take the examination*, the evaluation will be disallowed (-).

成績評価の方法 /Assessment Method

This part of the syllabus is also subject to change depending on how the class is conducted; whether online or face to face.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

クラスで使用するために前週の資料を確認します。準備の割り当ては、週ごとに割り当てられます。

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments will be assigned on a per-week basis.

履修上の注意 /Remarks

クラスへの到着が遅れたり、電話の不適切な使用や睡眠などの問題は、インストラクターの裁量で罰則が科せられます。すべてのコンテンツは、インストラクターの裁量により変更される場合があります。

オンラインクラス中は、クラスへの不注意は禁止されており、罰則の対象となります。

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion. All content subject to change at instructor's discretion.

During online classes, inattention to the class is prohibited and subject to penalty.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 2 【昼】

担当者名 /Instructor: ホセ・クルーズ / José Domingo Cruz / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 1年次 単位 /Credits: 1単位 学期 /Semester: 2学期 授業形態 /Class Format: 講義 クラス /Class:

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG172M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

このクラスは英語で教えられ、英語でのコミュニケーションを通じて国際理解を深めるように設計されています。このコースでは、4つのスキルを使用し、批判的思考スキルを導入することで、書面と会話の両方の能力を向上させます。さまざまな種類の記事やその他の資料を使用して、国際的な関連性の問題を紹介します。

Covid19のパンデミックの性質上、このシラバスのすべての側面は、クラスを対面で行う方法、またはオンライン/オンデマンドで行う必要がある方法に応じて変更される可能性があります。これらの変更の場合、インストラクターは可能な限り多くの指示を提供します。いずれの場合も、資料の提供と課題の収集に大学のMoodleLMSを幅広く活用します。

The class is taught in English and is designed to increase international understanding through communication in English. This course will improve both written and conversational ability with the use of the four skills, as well as the introduction of critical thinking skills. Articles and other materials of various kinds are used to introduce issues of international relevance.

Due to the nature of the Covid19 pandemic, ALL aspects of this syllabus is subject to change depending on how we might need to do classes face to face, or do them online/on-demand. In the case of those changes, the Instructor will provide as much instruction as possible. In all cases, we will make extensive use of the University's Moodle LMS for providing material and collecting assignments.

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書は発行されません。必要な印刷物や資料はクラスで配布されます。

No textbook will be issued. Any printouts or materials necessary will be given out in class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

辞書。生徒はペンを使って書くことが期待されています。

オンラインで課題やクラスを行う場合は、コンピューターからのインターネットアクセスと、動作中のビデオカメラが必要になります。

Dictionary. Students are expected to use pens for writing.

In the case of doing assignments and classes online, you will require internet access from a computer as well as a working video camera.

英会話・英作文 2 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コースの紹介。基本的な書き方。自己紹介。Moodleの使い方。Covid19の偶発性。初回ライティング
2. 前のトピックのビデオ。ウォーキングビデオの基本。スピーキング練習。
3. スピーキングの基本。活用、スピード、滑舌。ライティングの添削。Quizlet。
4. 時事問題についてのライティング。添削。ディスカッションをする。「思いやり」と「チャリティー」。
5. 前回のトピックに関するビデオ。ウォーキングビデオの改善。スピーキング練習。
6. スピーキングの基本。質問構成、スピード滑舌。クイズレット。
7. 時事問題についてのライティング。添削。ディスカッション。環境保護主義。
8. 前回のトピックのビデオ。ウォーキングビデオの基本。スピーキング練習。
9. スピーキングの基本。スピード：平均身長ラン、質問なし。ライティングの添削。クイズレット。
10. 時事問題についてのライティング。添削をする。ディスカッションをする。文化と伝統。
11. 前のトピックに関するビデオ。ウォーキングのビデオ。スピーキングの練習。
12. スピーキングの基本。グループでのコミュニケーション。クイックレスポンス。ライティングの添削。クイズレット。
13. 練習用ビデオテスト。
14. 練習書き込みテスト。
15. ビデオ課題。

1. Course Introduction: Basic writing. Self Introduction. Using Moodle. Covid19 contingencies. Initial Writing
2. Video on previous topic: Walking video basics. Speaking practice.
3. Speaking basics: Conjugation, speed, smoothness. Writing corrections. Quizlet.
4. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Compassion and Charity.
5. Video on previous topic: Walking video improvements. Speaking practice.
6. Speaking basics: Question construction, speed smoothness. Quizlet.
7. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Environmentalism.
8. Video on previous topic: Walking video basics. Speaking practice.
9. Speaking basics: Speed: Mean Length Runs, No Questions. Writing corrections. Quizlet.
10. Writing on current issues. Corrections. Discussion: Culture and Traditions.
11. Video on previous topic: Walking videos. Speaking practice.
12. Speaking basics: Communication in Groups. Quick Responses. Writing corrections. Quizlet.
13. Practice video Test.
14. Practice writing Test.
15. Video Assignment.

成績評価の方法 /Assessment Method

ライティング・アサインメント 20%. ビデオ課題 20 その他の課題 10% 最終スピーキングテスト 25%. ファイナルライティングテスト 25

- ビデオ課題は4回。模擬試験ビデオ1回、最終試験ビデオ1回。
ライティングの課題は4回。ライティングの模擬テスト1回、ファイナルライティングテスト1回。
- ・ 3回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
 - ・ 試験※を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

シラバスのこの部分も、クラスの実施方法に応じて変更される可能性があります。オンラインであろうと対面であろうと。

Writing Assignments: 20%. Video Assignments 20%. Other Assignments 10% Final speaking test 25%. Final writing test 25%

There will be 4 video assignments. one practice test video and one final test video.
There will be 4 writing assignments. one practice writing test and one final writing test.

If the student is absent more than 3 times, the grade will be ungradable (-).
If the student does not take the examination*, the evaluation will be disallowed (-).

成績評価の方法 /Assessment Method

This part of the syllabus is also subject to change depending on how the class is conducted; whether online or face to face.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

クラスで使用するために前週の資料を確認します。準備の割り当ては、週ごとに割り当てられます。

Review the materials from the previous week for use in class. Preparation assignments will be assigned on a per-week basis.

履修上の注意 /Remarks

クラスへの到着が遅れたり、電話の不適切な使用や睡眠などの問題は、インストラクターの裁量で罰則が科せられます。すべてのコンテンツは、インストラクターの裁量により変更される場合があります。

オンラインクラス中は、クラスへの不注意は禁止されており、罰則の対象となります。

Late arrivals to class or problems such as inappropriate use of phones or sleeping will be dealt with penalties at the instructor's discretion. All content subject to change at instructor's discretion.

During online classes, inattention to the class is prohibited and subject to penalty.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ドローキス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG271M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文3				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

(到達目標)

- 【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Handouts

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,...

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introductions
- 2回 Waiting in line
- 3回 Little White Lies
- 4回 I quit
- 5回 Whom should I hire
- 6回 One-eyed Monster
- 7回 Speaking Up
- 8回 They owe it to me
- 9回 Yes, sir.
- 10回 Don't forget to tip
- 11回 Smoking
- 12回 Who is the winner
- 13回 Which Job?
- 14回 Who gets the money
- 15回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%. Test must be taken.
4. Students may not be absent more than 4 times
5. If you are absent more than four class sessions, you will receive "—" on your transcript, not "D."
If you do not take the final exam, you will receive "—" on your transcript, not "D."

英会話・英作文 3 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Read material from previous lesson

履修上の注意 /Remarks

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文3 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG271M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文3				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The textbook 'Reflect, book 2, listening and speaking' helps teenage learners to better understand themselves, each other, and the world they live in. By encouraging self-expression, global citizenship, and active participation, This wonderful textbook motivates students to explore who they are and who they want to be, all while learning English!

This book has excellent online resources for students to use. In particular, the online listening activities and the course videos can be accessed anytime. All 4 language skills will be taught in this enjoyable course with a focus on listening and speaking skills.

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Reflect 2, Listening and Speaking (Cengage Learning) by Jonathan Bygrave
ISBN: 978-0-357-44912-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：Introduction to the course. An explanation about the textbook, information regarding being absent or being late, grading criteria, and what is required for a good class.

第2回：Unit 1 (p2). Vocabulary, and listening to three street interviews. Note taking. Grammar review of quantifiers and practice.

第3回：Unit 1 (p10). Vocabulary for the video. Watch the video. (p13). Listening task.

第4回：Unit 1. (p16). Speaking practice. Talking about what is good about where we live.

第5回：Writing week #1. 英作文. Write an opinion.

第6回：Unit 2 (p18). Vocabulary, and listening to birth order theory. Note taking. Grammar review of comparatives and superlatives and practice.

第7回：Unit 2 (p26). Vocabulary for the video. Watch the video. (p28). Listening task.

第8回：Unit 2. (p32). Speaking practice. Talking about similarities and differences between family members.

第9回：Writing week #2. 英作文. Write about your future.

第10回：Mid-term test. 中間テスト (based on units 1&2)

第11回：Unit 3 (p34). Vocabulary. Watch the video (p38) about music.

第12回：Unit 3 (p40). Pronunciation. Review of how to make suggestions. Vocabulary (p42)

第13回：Unit 3 (p44). Listening and speaking about music. Grammar review of wh-questions.

第14回：Writing week #3. 英作文. Write about your musical taste.

第15回：まとめ. Exam explanation. (based on unit 3)

成績評価の方法 /Assessment Method

Each writing task 英作文: 10% (in total 30%)
Mid-term exam 中間テスト: 50%
Final examテスト: 20%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you miss more than five class sessions, you will receive "-" on your transcript, not "D."
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

Check with the teacher regarding absences, and being late for class. If you have some trouble and cannot attend class, please inform the teacher ahead of time ideally.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Although the plan at this time (04/01/22) is to conduct face-to-face classes on campus, there is a possibility that we will suddenly have to do 'remote learning'. If this happens, everything will be put onto Moodle and a TEAMS meeting will be schedule. Be ready, check your Internet connectivity, camera and microphone.

With a bit of luck, we can have face-to-face classes for both semesters.

I do look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

英会話・英作文3【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG271M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文3				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will be encouraged to critically examine a variety of British cultural issues. Students will present their opinions on these issues through written assignments and class discussion. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

The heart of Britain J. Handle and A. Mukuhira Seibido (1semester)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good English-Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation
- 2回 Daniel Radcliffe- star of Harry Potter; listening, conversation and reading
- 3回 Should Heathrow be allowed to expand; listening, conversation and reading
- 4回 The Olympic legacy; listening, conversation and reading
- 5回 Happy Birthday, London Underground; listening, conversation and reading
- 6回 A snapshot of Britain; listening, conversation and reading
- 7回 The King in the car park; listening, conversation and reading
- 8回 Charity shops; listening, conversation and reading
- 9回 Shipshape and Bristol fashion; listening, conversation and reading
- 10回 Boomerang kids; listening, conversation and reading
- 11回 Book clubs; listening, conversation and reading
- 12回 Let us get a pret; listening, conversation and reading
- 13回 Modern Scotland; listening, conversation and reading
- 14回 Exam
- 15回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

試験を受験しない場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should research each unit of the textbook, checking new English vocabulary and grammar forms

英会話・英作文 3 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文3 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG271M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文3				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The textbook 'Reflect, book 2, listening and speaking' helps teenage learners to better understand themselves, each other, and the world they live in. By encouraging self-expression, global citizenship, and active participation, This wonderful textbook motivates students to explore who they are and who they want to be, all while learning English!

This book has excellent online resources for students to use. In particular, the online listening activities and the course videos can be accessed anytime. All 4 language skills will be taught in this enjoyable course with a focus on listening and speaking skills.

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Reflect 2, Listening and Speaking (Cengage Learning) by Jonathan Bygrave
ISBN: 978-0-357-44912-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：Introduction to the course. An explanation about the textbook, information regarding being absent or being late, grading criteria, and what is required for a good class.
- 第2回：Unit 1 (p2). Vocabulary, and listening to three street interviews. Note taking. Grammar review of quantifiers and practice.
- 第3回：Unit 1 (p10). Vocabulary for the video. Watch the video. (p13). Listening task.
- 第4回：Unit 1. (p16). Speaking practice. Talking about what is good about where we live.
- 第5回：Writing week #1. 英作文. Write an opinion.
- 第6回：Unit 2 (p18). Vocabulary, and listening to birth order theory. Note taking. Grammar review of comparatives and superlatives and practice.
- 第7回：Unit 2 (p26). Vocabulary for the video. Watch the video. (p28). Listening task.
- 第8回：Unit 2. (p32). Speaking practice. Talking about similarities and differences between family members.
- 第9回：Writing week #2. 英作文. Write about your future.
- 第10回：Mid-term test. 中間テスト (based on units 1&2)
- 第11回：Unit 3 (p34). Vocabulary. Watch the video (p38) about music.
- 第12回：Unit 3 (p40). Pronunciation. Review of how to make suggestions. Vocabulary (p42)
- 第13回：Unit 3 (p44). Listening and speaking about music. Grammar review of wh-questions.
- 第14回：Writing week #3. 英作文. Write about your musical taste.
- 第15回：まとめ. Exam explanation. (based on unit 3)

成績評価の方法 /Assessment Method

Each writing task 英作文: 10% (in total 30%)

Mid-term exam 中間テスト: 50%

Final examテスト: 20%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you miss more than five class sessions, you will receive "-" on your transcript, not "D."
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

Check with the teacher regarding absences, and being late for class. If you have some trouble and cannot attend class, please inform the teacher ahead of time ideally.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Although the plan at this time (04/01/22) is to conduct face-to-face classes on campus, there is a possibility that we will suddenly have to do 'remote learning'. If this happens, everything will be put onto Moodle and a TEAMS meeting will be schedule. Be ready, check your Internet connectivity, camera and microphone.

With a bit of luck, we can have face-to-face classes for both semesters.

I do look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

英会話・英作文3 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG271M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文3				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The textbook 'Reflect, book 2, listening and speaking' helps teenage learners to better understand themselves, each other, and the world they live in. By encouraging self-expression, global citizenship, and active participation, This wonderful textbook motivates students to explore who they are and who they want to be, all while learning English!

This book has excellent online resources for students to use. In particular, the online listening activities and the course videos can be accessed anytime. All 4 language skills will be taught in this enjoyable course with a focus on listening and speaking skills.

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Reflect 2, Listening and Speaking (Cengage Learning) by Jonathan Bygrave
ISBN: 978-0-357-44912-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回： Introduction to the course. An explanation about the textbook, information regarding being absent or being late, grading criteria, and what is required for a good class.

第2回： Unit 1 (p2). Vocabulary, and listening to three street interviews. Note taking. Grammar review of quantifiers and practice.

第3回： Unit 1 (p10). Vocabulary for the video. Watch the video. (p13). Listening task.

第4回： Unit 1. (p16). Speaking practice. Talking about what is good about where we live.

第5回： Writing week #1. 英作文. Write an opinion.

第6回： Unit 2 (p18). Vocabulary, and listening to birth order theory. Note taking. Grammar review of comparatives and superlatives and practice.

第7回： Unit 2 (p26). Vocabulary for the video. Watch the video. (p28). Listening task.

第8回： Unit 2. (p32). Speaking practice. Talking about similarities and differences between family members.

第9回： Writing week #2. 英作文. Write about your future.

第10回： Mid-term test. 中間テスト (based on units 1&2)

第11回： Unit 3 (p34). Vocabulary. Watch the video (p38) about music.

第12回： Unit 3 (p40). Pronunciation. Review of how to make suggestions. Vocabulary (p42)

第13回： Unit 3 (p44). Listening and speaking about music. Grammar review of wh-questions.

第14回： Writing week #3. 英作文. Write about your musical taste.

第15回： まとめ. Exam explanation. (based on unit 3)

成績評価の方法 /Assessment Method

Each writing task 英作文: 10% (in total 30%)

Mid-term exam 中間テスト: 50%

Final examテスト: 20%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you miss more than five class sessions, you will receive "-" on your transcript, not "D."
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

Check with the teacher regarding absences, and being late for class. If you have some trouble and cannot attend class, please inform the teacher ahead of time ideally.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Although the plan at this time (04/01/22) is to conduct face-to-face classes on campus, there is a possibility that we will suddenly have to do 'remote learning'. If this happens, everything will be put onto Moodle and a TEAMS meeting will be schedule. Be ready, check your Internet connectivity, camera and microphone.

With a bit of luck, we can have face-to-face classes for both semesters.

I do look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

英会話・英作文3【昼】

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG271M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文3				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

By exploring the spirit of Japanese life, students will gain valuable insight into the unique aspects of both traditional and modern Japanese culture that has shaped their own thinking and behavior. While learning, sharing, and teaching about Japan, students will gain confidence in their ability to understand and explain many of the interesting "talking points" that make Japan such a fascinating culture for so many people from around the world.

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

This is Japan: Your Culture, Your Life, Simon Capper, Macmillan Language House, ISBN: 978-4-7773-6383-4 (2,100円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Unit 1: "Knowing Me, Knowing You"- Getting to know each other better
- 2回 Unit 1: "Knowing Me, Knowing You"- Describing our families
- 3回 Unit 1: "Knowing Me, Knowing You"- All About Me and My Family (Presentation)
- 4回 Unit 2: "My Hometown" - Where is it located? What's it famous for?
- 5回 Unit 2: "My Hometown" - Where would you take visitors? What's there to see and do?
- 6回 Unit 2: "My Hometown" - Welcome to My Hometown! (Presentation)
- 7回 Unit 3: "Japanese Food" - Likes, dislikes, and uniquely Japanese tastes
- 8回 Unit 3: "Japanese Food" - Tastes, textures and cultural preference
- 9回 Unit 3: "Japanese Food" - Preparing a Menu for International Friends (Teaching Opportunity)
- 10回 Unit 4: "Mind Your Manners"- Good and bad manners
- 11回 Unit 4: "Mind Your Manners" - What should we do? Why do we do that?
- 12回 Unit 4: "Mind Your Manners" - Situational Manners (Teaching Opportunity)
- 13回 Unit 5: "Explaining Japanese Things" - Popular souvenirs
- 14回 Unit 5: "Explaining Japanese Things" - Describing unique items
- 15回 Unit 5: "Explaining Japanese Things" - My Favorite Things (Presentation)

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 20%, Quizzes and Presentations 30%, Final Exam 20%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 試験※を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

英会話・英作文 3 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build content specific vocabulary and improve their writing, speaking and teaching/presenting skills. Weekly preparation and review should take approximately 30.

履修上の注意 /Remarks

Students must be sure to complete all homework assignments in order to share their ideas and experiences fully with the class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy exploring Japanese culture together!

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ドローキス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG272M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 4				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Handouts

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,...

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introductions
- 2回 Life likes
- 3回 Vocabulary development for likes
- 4回 Who gets the money
- 5回 What programs to eliminate
- 6回 Whcih sports are best
- 7回 Which place to recommend
- 8回 How to advise them
- 9回 Plan a college curriculum
- 10回 Which articles do I take
- 11回 Who is responsible
- 12回 Going to Med School
- 13回 Which items represent the US
- 14回 Getting Involved
- 15回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%
4. Students ,may not be absent more than 4 times.
5. If you are absent more than four class sessions, you will receive "-" on your transcript, not "D."
If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should read material from previous lesson

英会話・英作文 4 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 4 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG272M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 4				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The textbook 'Reflect, book 2, listening and speaking' helps teenage learners to better understand themselves, each other, and the world they live in. By encouraging self-expression, global citizenship, and active participation, This wonderful textbook motivates students to explore who they are and who they want to be, all while learning English!

This book has excellent online resources for students to use. In particular, the online listening activities and the course videos can be accessed anytime. All 4 language skills will be taught in this enjoyable course with a focus on listening and speaking skills.

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Reflect 2, Listening and Speaking (Cengage Learning) by Jonathan Bygrave
ISBN: 978-0-357-44912-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：Welcome back to the course. Unit 4 (p50). Vocabulary. Listen to a conversation about science. (p54), listen to 3 experiments. Grammar review of the simple past tense.

第2回：Unit 4 (p58). Vocabulary and science quiz. Watch the video (p60) about the 4 experiments.

第3回：Unit 4 (p62). Listening task. Speaking skill and critical thinking.

第4回：Writing week #1. 英作文. Write about how to do something, describing a process.

第5回：Unit 5 (66). Vocabulary related to frequency. Listening task. Listen to the lecture about modern spending habits.

第6回：Unit 5 (p72). Pronunciation and grammar review about the past continuous. Vocabulary and watch the video about money-saving tips.

第7回：Unit 5 (p78). Critical thinking skills, and how to give tips and their benefits.

第8回：Writing week #2. Write a comparative essay, highlighting the similarities and differences between two things.

第9回：Mid-term test. 中間テスト. (based on units 1&2)

第10回：Unit 6 (p82). Vocabulary. Watch the video (p86) about how animals see the world.

第11回：Unit 6 (p88) Grammar review of adjectives and adverbs of manner. Listen to a quiz about animals.

第12回：Unit 6 (p92) Listen to a talk and take notes. p95, practice how to show purpose. Pronunciation.

第13回：Writing week #3. Write a short story containing a dialogue.

第14回：英会話. Let's practice some English conversation.

第15回：まとめ. Exam explanation. (based on unit 6)

成績評価の方法 /Assessment Method

Each writing task 英作文: 10% (in total 30%)

Mid-term exam 中間テスト: 50%

Final examテスト: 20%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you miss more than five class sessions, you will receive "-" on your transcript, not "D."
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

Check with the teacher regarding absences, and being late for class. If you have some trouble and cannot attend class, please inform the teacher ahead of time ideally.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Although the plan at this time (04/01/22) is to conduct face-to-face classes on campus, there is a possibility that we will suddenly have to do 'remote learning'. If this happens, everything will be put onto Moodle and a TEAMS meeting will be schedule. Be ready, check your Internet connectivity, camera and microphone.

With a bit of luck, we can have face-to-face classes for both semesters.

I do look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 1単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG272M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 4				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The goal of this course is to improve students' English opinion forming abilities. Students will be encouraged to critically examine a variety of British cultural issues. Students will present their opinions on these issues through written assignments and class discussion. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Britain at a Watershed J. Randle and A. Mukuhira Seibido 2nd semester

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A good English and Japanese dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 The Brexit referendum
- 3 回 The new Mayor of London; New vocabulary, reading and conversation
- 4 回 Brits on bikes; New vocabulary, reading and conversation
- 5 回 Oxford and Cambridge- looking to the future; New vocabulary, reading and conversation
- 6 回 A profile of Cornwall; New vocabulary, reading and conversation
- 7 回 The cost of being young today; New vocabulary, reading and conversation
- 8 回 It all began at Rugby school; New vocabulary, reading and conversation
- 9 回 Britain and the sea; New vocabulary, reading and conversation
- 1 0 回 Images of Scotland; New vocabulary, reading and conversation
- 1 1 回 The new look: Beards and Tattoos; New vocabulary, reading and conversation
- 1 2 回 The Japanese in Britain; New vocabulary, reading and conversation
- 1 3 回 Health matters; New vocabulary, reading and conversation
- 1 4 回 The house of Windsor: crises and continuity; New vocabulary, reading and conversation
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

5 回以上欠席した場合は、評価不能 (一) とします。

試験を受験しない場合は、評価不能 (一) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should prepare for each class by checking new vocabulary and grammar forms.

英会話・英作文 4 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 4 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG272M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 4				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The textbook 'Reflect, book 2, listening and speaking' helps teenage learners to better understand themselves, each other, and the world they live in. By encouraging self-expression, global citizenship, and active participation, This wonderful textbook motivates students to explore who they are and who they want to be, all while learning English!

This book has excellent online resources for students to use. In particular, the online listening activities and the course videos can be accessed anytime. All 4 language skills will be taught in this enjoyable course with a focus on listening and speaking skills.

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Reflect 2, Listening and Speaking (Cengage Learning) by Jonathan Bygrave
ISBN: 978-0-357-44912-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：Welcome back to the course. Unit 4 (p50). Vocabulary. Listen to a conversation about science. (p54), listen to 3 experiments. Grammar review of the simple past tense.

第2回：Unit 4 (p58). Vocabulary and science quiz. Watch the video (p60) about the 4 experiments.

第3回：Unit 4 (p62). Listening task. Speaking skill and critical thinking.

第4回：Writing week #1. 英作文. Write about how to do something, describing a process.

第5回：Unit 5 (66). Vocabulary related to frequency. Listening task. Listen to the lecture about modern spending habits.

第6回：Unit 5 (p72). Pronunciation and grammar review about the past continuous. Vocabulary and watch the video about money-saving tips.

第7回：Unit 5 (p78). Critical thinking skills, and how to give tips and their benefits.

第8回：Writing week #2. Write a comparative essay, highlighting the similarities and differences between two things.

第9回：Mid-term test. 中間テスト. (based on units 1&2)

第10回：Unit 6 (p82). Vocabulary. Watch the video (p86) about how animals see the world.

第11回：Unit 6 (p88) Grammar review of adjectives and adverbs of manner. Listen to a quiz about animals.

第12回：Unit 6 (p92) Listen to a talk and take notes. p95, practice how to show purpose. Pronunciation.

第13回：Writing week #3. Write a short story containing a dialogue.

第14回：英会話. Let's practice some English conversation.

第15回：まとめ. Exam explanation. (based on unit 6)

成績評価の方法 /Assessment Method

Each writing task 英作文: 10% (in total 30%)

Mid-term exam 中間テスト: 50%

Final examテスト: 20%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you miss more than five class sessions, you will receive "-" on your transcript, not "D."
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

Check with the teacher regarding absences, and being late for class. If you have some trouble and cannot attend class, please inform the teacher ahead of time ideally.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Although the plan at this time (04/01/22) is to conduct face-to-face classes on campus, there is a possibility that we will suddenly have to do 'remote learning'. If this happens, everything will be put onto Moodle and a TEAMS meeting will be schedule. Be ready, check your Internet connectivity, camera and microphone.

With a bit of luck, we can have face-to-face classes for both semesters.

I do look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 4 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG272M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 4				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The textbook 'Reflect, book 2, listening and speaking' helps teenage learners to better understand themselves, each other, and the world they live in. By encouraging self-expression, global citizenship, and active participation, This wonderful textbook motivates students to explore who they are and who they want to be, all while learning English!

This book has excellent online resources for students to use. In particular, the online listening activities and the course videos can be accessed anytime. All 4 language skills will be taught in this enjoyable course with a focus on listening and speaking skills.

(到達目標)

【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Reflect 2, Listening and Speaking (Cengage Learning) by Jonathan Bygrave
ISBN: 978-0-357-44912-7

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：Welcome back to the course. Unit 4 (p50). Vocabulary. Listen to a conversation about science. (p54), listen to 3 experiments. Grammar review of the simple past tense.

第2回：Unit 4 (p58). Vocabulary and science quiz. Watch the video (p60) about the 4 experiments.

第3回：Unit 4 (p62). Listening task. Speaking skill and critical thinking.

第4回：Writing week #1. 英作文. Write about how to do something, describing a process.

第5回：Unit 5 (66). Vocabulary related to frequency. Listening task. Listen to the lecture about modern spending habits.

第6回：Unit 5 (p72). Pronunciation and grammar review about the past continuous. Vocabulary and watch the video about money-saving tips.

第7回：Unit 5 (p78). Critical thinking skills, and how to give tips and their benefits.

第8回：Writing week #2. Write a comparative essay, highlighting the similarities and differences between two things.

第9回：Mid-term test. 中間テスト. (based on units 1&2)

第10回：Unit 6 (p82). Vocabulary. Watch the video (p86) about how animals see the world.

第11回：Unit 6 (p88) Grammar review of adjectives and adverbs of manner. Listen to a quiz about animals.

第12回：Unit 6 (p92) Listen to a talk and take notes. p95, practice how to show purpose. Pronunciation.

第13回：Writing week #3. Write a short story containing a dialogue.

第14回：英会話. Let's practice some English conversation.

第15回：まとめ. Exam explanation. (based on unit 6)

成績評価の方法 /Assessment Method

Each writing task 英作文: 10% (in total 30%)

Mid-term exam 中間テスト: 50%

Final examテスト: 20%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you miss more than five class sessions, you will receive "-" on your transcript, not "D."
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

Check with the teacher regarding absences, and being late for class. If you have some trouble and cannot attend class, please inform the teacher ahead of time ideally.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Although the plan at this time (04/01/22) is to conduct face-to-face classes on campus, there is a possibility that we will suddenly have to do 'remote learning'. If this happens, everything will be put onto Moodle and a TEAMS meeting will be schedule. Be ready, check your Internet connectivity, camera and microphone.

With a bit of luck, we can have face-to-face classes for both semesters.

I do look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 1単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG272M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 4				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

By exploring the spirit of Japanese life, students will gain valuable insight into the unique aspects of both traditional and modern Japanese culture that has shaped their own thinking and behavior. While learning, sharing, and teaching about Japan, students will gain confidence in their ability to understand and explain many of the interesting "talking points" that make Japan such a fascinating culture for so many people from around the world.

(到達目標)

- 【技能】英語を使用した基本的なコミュニケーションを行う力を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】基本的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】基本的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

This is Japan: Your Culture, Your Life, Simon Capper, Macmillan Language House, ISBN: 978-4-7773-6383-4 (2,100円)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

none

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Unit 7: "Visiting Temples and Shrines" - The Seven Gods of Good Fortune
- 2回 Unit 7: "Visiting Temples and Shrines" - Things we can find at a temple or shrine
- 3回 Unit 7: "Visiting Temples and Shrines" - A Visit to My Favorite Temple (Presentation)
- 4回 Unit 8: "The Traditional Japanese House" - Describing the features of a traditional Japanese Home
- 5回 Unit 8: "The Traditional Japanese House" - What suits you, the old or the new?
- 6回 Unit 8: "The Traditional Japanese House" - Traditional vs Modern Living Styles (Teaching Opportunity)
- 7回 Unit 9: "Special Days and Events" - Traditional Japanese Holidays and Festivals
- 8回 Unit 9: "Special Days and Events" - Adopted Western Holidays and Festivals
- 9回 Unit 9: "Special Days and Events" - Come Celebrate With Me! (Teaching Opportunity)
- 10回 Unit 11: "Famous Japanese People" - Who are they and what did they do?
- 11回 Unit 11: "Famous Japanese People" - Describing peoples achievements
- 12回 Unit 11: "Famous Japanese People" - "The World Should Know About . . ." (Presentation)
- 13回 Unit 12: "Japanese Movies & TV" - Japanese movies, actors, and genres
- 14回 Unit 12: "Japanese Movies & TV" - Describing movies, characters, and plots
- 15回 Unit 12: "Japanese Movies & TV" - "My Four Start Film Review" (Teaching Opportunity)

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Homework 20%, Quizzes and Presentations 30%, Final Exam 20%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ 試験※を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

英会話・英作文 4 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build content specific vocabulary and improve their writing, speaking and teaching/presenting skills. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

Students must be sure to complete all homework assignments in order to share their ideas and experiences fully with the class.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Let's enjoy exploring Japanese culture together!

キーワード /Keywords

英会話・英作文 5 【昼】

担当者名 /Instructor ドローキス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG273M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 5				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

(到達目標)

【技能】英語を使用した応用的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】応用的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】応用的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Handouts

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,...

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introductions
- 2回 Waiting in line
- 3回 Little white lies
- 4回 I quit
- 5回 Whom do we hire
- 6回 One eyed monster
- 7回 Speaking up
- 8回 They owe it to me
- 9回 Yes, sir
- 10回 Tipping
- 11回 Smoking
- 12回 Who is the winner
- 13回 Which job
- 14回 Which programs get the money
- 15回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%
4. Students ,may not be absent more than 4 times.
5. If you are absent more than four class sessions, you will receive "—" on your transcript, not "D."
If you do not take the final exam, you will receive "—" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should read material from previous lesson

英会話・英作文 5 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文5【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG273M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文5				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

地球温暖化や再生エネルギーなど、人類が抱える世界共通の問題を概説したAFP通信の動画を素材にしている映像教材です。リスニング力とスピーキング力を有機的に養成し、動画とスピーキング活動を結びつけることで活気のある授業展開を実現します。

Earth Watch is a new video-based listening & speaking course book for intermediate learners. The videos provide the perfect springboard for a range of relevant and thought-provoking topics, including artificial intelligence, food waste, facial recognition technology and self-driving vehicles.

This book has excellent online resources for students to use. In particular, the online listening activities and the course videos can be accessed anytime. All 4 language skills will be taught in this enjoyable course.

(到達目標)

【技能】英語を使用した応用的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】応用的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】応用的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Earth Watch by G. Todd, R. Palmer, M. Kano (Cengage Learning)
ISBN: 978-4-86312-370-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Course explanation, grading, course requirements and general advice.

Week 2: Unit 1 (page 9): Climate change scenarios. My opinion, vocabulary refresh, First watching (listening), Second watching (video).

Week 3: Communication focus: Agree and disagreeing. Model conversation, Thinking about the topic, Talking about your idea. Dictation activity.

Week 4: Unit 2 (page 15): Artificial Intelligence. My opinion, vocabulary refresh, First watching (listening), Second watching (video).

Week 5: Communication focus: Discussing probabilities. Model conversation, Thinking about the topic, Talking about your idea. Dictation activity.

Week 6: Unit 3 (page 21): Endangered species. My opinion, vocabulary refresh, First watching (listening), Second watching (video).

Week 7: Communication focus: Giving opinions. Model conversation, Thinking about the topic, Talking about your idea. Dictation activity.

Week 8: Mid-term exam based on units 1-3. 中間テスト

Week 9: Unit 4 (page 27): Journey into space. My opinion, vocabulary refresh, First watching (listening), Second watching (video).

Week 10: Communication focus: Describing people, places, things and experiences. Model conversation, Thinking about the topic, Talking about your idea. Dictation activity.

Week 11: Unit 5 (page 33): Australia's great barrier reef. My opinion, vocabulary refresh, First watching (listening), Second watching (video).

Week 12: Communication focus: Giving advice. Model conversation, Thinking about the topic, Talking about your idea. Dictation activity.

Week 13: Unit 6 (page 39): Self-driving cars. My opinion, vocabulary refresh, First watching (listening), Second watching (video).

Week 14: Communication focus: Offering encouragement. Model conversation, Thinking about the topic, Talking about your idea. Dictation activity.

Week 15: まとめ - Final exam will be based on units 4-6. Exam explanation and how to prepare.

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term exam: 50%
Final exam: 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you miss more than five class sessions, you will receive "-" on your transcript, not "D."
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

Check with the teacher regarding absences, and being late for class. If you have some trouble and cannot attend class, please inform the teacher ahead of time ideally.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Although the plan at this time (04/01/22) is to conduct face-to-face classes on campus, there is a possibility that we will suddenly have to do 'remote learning'. If this happens, everything will be put onto Moodle and a TEAMS meeting will be schedule. Be ready, check your Internet connectivity, camera and microphone.

With a bit of luck, we can have face-to-face classes for both semesters.

I do look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 6 【昼】

担当者名 /Instructor ドローキス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG274M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 6				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the students experiences in using the English language to communicate ideas on a variety of topics. Through activities found in the materials the students will gain skill and confidence in the ability to communicate in English.

(到達目標)

【技能】英語を使用した応用的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】応用的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】応用的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Handouts

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English/Japanese dictionary,...

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introductions
- 2回 Who will be the best teacher
- 3回 What will happen if
- 4回 Who gets the money
- 5回 Which school programs are eliminated
- 6回 Which sports are best
- 7回 Where do you recommend
- 8回 How do I advise them
- 9回 Plan a college curriculum
- 10回 What articles do I take
- 11回 Who is responsible
- 12回 Who goes to med school
- 13回 Which items represent the US
- 14回 Getting involved
- 15回 Test preparation and review

成績評価の方法 /Assessment Method

The students will be evaluated on:

1. Class participation and positive attitude 40%
2. In-class assignments 30%
3. Final test results 30%
4. Students may not be absent more than 4 times.
5. If you are absent more than four class sessions, you will receive "-" on your transcript, not "D."
If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students must review material from previous lesson

英会話・英作文 6 【昼】

履修上の注意 /Remarks

Prior to each class the students are expected to have used the dictionary to define any words they could not understand in the previous lesson. Also the students will be expected to do the reading for the unit prior to the class lesson.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 6 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG274M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 6				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

地球温暖化や再生エネルギーなど、人類が抱える世界共通の問題を概説したAFP通信の動画を素材にしている映像教材です。リスニング力とスピーキング力を有機的に養成し、動画とスピーキング活動を結びつけることで活気のある授業展開を実現します。

Earth Watch is a new video-based listening & speaking course book for intermediate learners. The videos provide the perfect springboard for a range of relevant and thought-provoking topics, including artificial intelligence, food waste, facial recognition technology and self-driving vehicles.

This book has excellent online resources for students to use. In particular, the online listening activities and the course videos can be accessed anytime. All 4 language skills will be taught in this enjoyable course.

(到達目標)

【技能】英語を使用した応用的なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】応用的な英語を通じて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】応用的な英語を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Earth Watch by G. Todd, R. Palmer, M. Kano (Cengage Learning)
ISBN: 978-4-86312-370-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Write a short narrative based on what you did during the summer vacation. Let's tell the story. This is NOT in the textbook, but will be taught as follows: 1. Give a background to the story 2. Event - what happened? 3. Reaction - what followed? 4. Outcome - how did the story end?
Week 2: Unit 7 (page 45): Organic farming in Europe. My opinion, vocabulary refresh, First watching (listening), Second watching (video).
Week 3: Communication focus: Stating intentions. Model conversation, Thinking about the topic, Talking about your idea. Dictation activity.
Week 4: Unit 8 (page 51): Renewable energy. My opinion, vocabulary refresh, First watching (listening), Second watching (video).
Week 5: Communication focus: Stating preferences. Model conversation, Thinking about the topic, Talking about your idea. Dictation activity.
Week 6: Unit 9 (page 57): Whaling. My opinion, vocabulary refresh, First watching (listening), Second watching (video).
Week 7: Communication focus: Checking understanding. Model conversation, Thinking about the topic, Talking about your idea. Dictation activity.
Week 8: Mid-term exam based on units 7-9. 中間テスト
Week 9: Unit 10 (page 63): Air pollution. My opinion, vocabulary refresh, First watching (listening), Second watching (video).
Week 10: Communication focus: Giving reasons. Model conversation, Thinking about the topic, Talking about your idea. Dictation activity.
Week 11: Unit 11 (page 69): Facial recognition. My opinion, vocabulary refresh, First watching (listening), Second watching (video).
Week 12: Communication focus: Making suggestions. Model conversation, Thinking about the topic, Talking about your idea. Dictation activity.
Week 13: Unit 12 (page 75): Food waste. My opinion, vocabulary refresh, First watching (listening), Second watching (video).
Week 14: Communication focus: Offering to do something. Model conversation, Thinking about the topic, Talking about your idea. Dictation activity.
Week 15: まとめ - Final exam will be based on units 10-12. Exam explanation and how to prepare.

成績評価の方法 /Assessment Method

Mid-term exam: 50%
Final exam: 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you miss more than five class sessions, you will receive "-" on your transcript, not "D."
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

As always, I would suggest to anyone to read the contents of the textbook ahead of time.

履修上の注意 /Remarks

Check with the teacher regarding absences, and being late for class. If you have some trouble and cannot attend class, please inform the teacher ahead of time ideally.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Although the plan at this time (04/01/22) is to conduct face-to-face classes on campus, there is a possibility that we will suddenly have to do 'remote learning'. If this happens, everything will be put onto Moodle and a TEAMS meeting will be schedule. Be ready, check your Internet connectivity, camera and microphone.

With a bit of luck, we can have face-to-face classes for both semesters.

I do look forward to teaching you.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG371M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 7				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

Students will have the opportunity to select and explore diverse topics of interest with socially meaningful themes. The selection will include issues related to education, equal rights, relationships, lifestyle choices, gender and technology.

Through targeted language building, information gathering and discussion activities, students will be exposed to a variety of opinions and ideas which will help them gain insight into their own unique way of thinking about themselves, others and the world around them. The end goal for each unit will be for students to express their final understanding of an issue through short, summative presentations.

教科書 /Textbooks

Impact Issues, Level 3, Third Edition: Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka, Pearson Education, ISBN: 9789813134393 (¥ 3,140)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction and Topic Selection
- 2回 Topic 1: Listening / Reading / Role-playing / Small Group Discussion
- 3回 Topic 1: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions / Model Video Presentation Analyses
- 4回 Topic 1: Summative Presentation / Large Group Discussion
- 5回 Topic 2: Listening / Reading / Role-playing / Small Group Discussion
- 6回 Topic 2: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions / Model Video Presentation Analyses
- 7回 Topic 2: Summative Presentation / Large Group Discussion
- 8回 Topic 3: Listening / Reading / Role-playing / Small Group Discussion
- 9回 Topic 3: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions / Model Video Presentation Analyses
- 10回 Topic 3: Summative Presentation / Large Group Discussion
- 11回 Topic 4: Listening / Reading / Role-playing / Small Group Discussion
- 12回 Topic 4: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions / Model Video Presentation Analyses
- 13回 Topic 4: Summative Presentation / Large Group Discussion
- 14回 Topic 5: Listening / Reading / Role-playing / Small Group Discussion
- 15回 Topic 5: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions / Model Video Presentation Analyses
- 16回 Final Exam

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Class Preparation and Homework 20%, Quizzes and Presentations 30%,
Final Exam 20%

- ・ 5 回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ 試験※を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build targeted vocabulary, critical thinking and writing skills. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students should bring enthusiasm, interest, and a strong willingness to share ideas in a warm, encouraging environment.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ポール・ガラフ・ステイール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG371M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 7				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to get a greater understanding of different cultures. Each week a different aspect of global culture will be examined through new and updated topics, video and visuals from National Geographic. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

(到達目標)

- 【技能】 英語を使用した高度なコミュニケーションを行う力を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 高度な英語力に基づいて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 高度な英語力を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

World English 3 3rd edition Cengage Learning Lee, Johannsen and Tarver

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Where we live
- 3 回 Migration and factors leading to it
- 4 回 The mind's eyes
- 5 回 Cognitive milestones and personality characteristics
- 6 回 Changing planet
- 7 回 pollution extreme weather events
- 8 回 The good life
- 9 回 Life changing events
- 10 回 Survival and conditions of species
- 11 回 Natural disasters and fossils
- 12 回 Art matters
- 13 回 Types of art and public art
- 14 回 Review
- 15 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80 % Peer journal 20%

5 回以上欠席した場合は、評価不能 (一) とします。

試験を受験しない場合は、評価不能 (一) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

英会話・英作文 7 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 7 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG371M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 7				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

In this exciting course, students will learn how to give interesting presentations in English. All the fundamentals of presentation will be covered. Later, students will be expected to give their own presentations about topics of interest and topics related to comparative cultures. At the end of the course, students will have the knowledge and confidence to give a presentation about any topic for an international audience.

(到達目標)

【技能】 英語を使用した高度なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】 高度な英語力に基づいて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】 高度な英語力を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A Japanese-English dictionary would be useful sometimes.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 : Course explanation and objectives. How to study effectively, and what to expect.
- 第 2回 : Getting started. Brainstorming topics and looking at sources. Are they reliable?
- 第 3回 : A short presentation about a news story of the week. What could we add? Narrow down topics of interest.
- 第 4回 : A short presentation about a news story of the week. Start to make the first short presentation.
- 第 5回 : A short presentation about a news story of the week. Finish making the first presentation.
- 第 6回 : Presentation day. Q & A. Feedback about the content.
- 第 7回 : A short presentation about a news story of the week. Brainstorming for the second presentation.
- 第 8回 : A short presentation about a news story of the week. Finalize the second presentation. Start making the presentation.
- 第 9回 : A short presentation about a news story of the week. Finish making the second presentation.
- 第 10回 : Presentation day. Q & A. Feedback.
- 第 11回 : A short presentation about a news story of the week. Brainstorming for the third presentation.
- 第 12回 : A short presentation about a news story of the week. Start making the third presentation.
- 第 13回 : A short presentation about a news story of the week. Finish making the third presentation.
- 第 14回 : Presentation day. Q & A. Feedback.
- 第 15回 : まとめ. Exam explanation.

About the topics covered: broadly speaking they will be cultural, political, social, economic, environment and lifestyle-related. The basic idea is to relate them to Japan and comparative cultures.

成績評価の方法 /Assessment Method

Final exam 25%, each presentation 25% (3 x 25%=75%).
More explanation will be given regarding grading at the beginning of the semester.

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you miss more than five class sessions, you will receive "-" on your transcript, not "D."
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

I recommend keeping up to date with the national and international news stories.

履修上の注意 /Remarks

Although the plan at this time (05/01/22) is to conduct face-to-face classes on campus, there is a possibility that we will suddenly have to do 'remote learning'. If this happens, everything will be put onto Moodle and a TEAMS meeting will be schedule. Be ready, check your Internet connectivity, camera and microphone.

I do look forward to teaching you.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Presentation skills are necessary in today's work place. It's true to say that the more you present, the more natural and confident you'll be. This lesson is a good opportunity to grow in confidence.

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor マーニー・セイデイ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG372M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 8				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

Students will have the opportunity to select and explore diverse topics of interest with socially meaningful themes. The selection will include issues related to education, equal rights, relationships, lifestyle choices, gender and technology.

Through targeted language building, information gathering and discussion activities, students will be exposed to a variety of opinions and ideas which will help them gain insight into their own unique way of thinking about themselves, others and the world around them. The end goal for each unit will be for students to express their final understanding of an issue through short, summative presentations.

教科書 /Textbooks

Impact Issues, Level 3, Third Edition: Richard R. Day, Joseph Shaules, Junko Yamanaka, Pearson Education, ISBN: 9789813134393 (¥ 3,140)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction and Topic Selection
- 2回 Topic 1: Listening / Reading / Role-playing / Small Group Discussion
- 3回 Topic 1: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions / Model Video Presentation Analyses
- 4回 Topic 1: Summative Presentation / Large Group Discussion
- 5回 Topic 2: Listening / Reading / Role-playing / Small Group Discussion
- 6回 Topic 2: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions / Model Video Presentation Analyses
- 7回 Topic 2: Summative Presentation / Large Group Discussion
- 8回 Topic 3: Listening / Reading / Role-playing / Small Group Discussion
- 9回 Topic 3: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions / Model Video Presentation Analyses
- 10回 Topic 3: Summative Presentation / Large Group Discussion
- 11回 Topic 4: Listening / Reading / Role-playing / Small Group Discussion
- 12回 Topic 4: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions / Model Video Presentation Analyses
- 13回 Topic 4: Summative Presentation / Large Group Discussion
- 14回 Topic 5: Listening / Reading / Role-playing / Small Group Discussion
- 15回 Topic 5: Interviewing / Formulating and Sharing Opinions / Model Video Presentation Analyses
- 16回 Final Exam

成績評価の方法 /Assessment Method

In-class Tasks and Participation 30%, Class Preparation and Homework 20%, Quizzes and Presentations 30%,
Final Exam 20%

- ・ 5 回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ 試験※を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will be expected to complete weekly homework assignments to build targeted vocabulary, critical thinking and writing skills. Weekly preparation and review should take approximately 30 minutes.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students should bring enthusiasm, interest, and a strong willingness to share ideas in a warm, encouraging environment.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 8 【昼】

担当者名 /Instructor ポール・ ガラフ・ スティール / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG372M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 8				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

The aim of this course is to get a greater understanding of global culture and history. Each week a different aspect of global cultures will be examined for example education, shopping and different events of the year. The students will also have the opportunity to express their opinions and feelings through a weekly peer journal

(到達目標)

【技能】英語を使用した高度なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】高度な英語力に基づいて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】高度な英語力を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

World English 3 3rd edition Cengage Learning by Lee, Johannsen and Chase

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students must have an English dictionary

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 Orientation
- 2 回 Getting round
- 3 回 public transportation and self driving vehicles
- 4 回 Competition
- 5 回 Sports skills
- 6 回 Dangerous jobs and injuries
- 7 回 Common injuries and Stuntman
- 8 回 Mysteries
- 9 回 Historical figures and mystery
- 1 0 回 Learning and and educational choices
- 1 1 回 The experience of learning
- 1 2 回 Innovation and inventions
- 1 3 回 competition and innovation
- 1 4 回 Review
- 1 5 回 Summary

成績評価の方法 /Assessment Method

Exam 80% Peer journal 20%

5 回以上欠席した場合は、評価不能 (一) とします。

試験を受験しない場合は、評価不能 (一) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students will have to write every week a peer journal with a fellow student and exchange and reply to it the next week. Students will also receive and have to check a vocabulary list with the words they will have in the textbook's unit

英会話・英作文 8 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英会話・英作文 8 【昼】

担当者名 /Instructor クリストファー・オサリバン / Chris O'Sullivan / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG372M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 8				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

In this exciting course, students will learn how to give interesting presentations in English. All the fundamentals of presentation will be covered. Later, students will be expected to give their own presentations about topics of interest and topics related to comparative cultures. At the end of the course, students will have the knowledge and confidence to give a presentation about any topic for an international audience.

(到達目標)

【技能】 英語を使用した高度なコミュニケーションを行う力を身につけている。

【思考・判断・表現力】 高度な英語力に基づいて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。

【コミュニケーション力】 高度な英語力を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Japanese-English dictionary might be useful

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：Welcome back to the course. Let's talk about what we did during the summer break. Story telling and giving a narrative.

第2回：Getting started. Brainstorming topics and looking at sources.

第3回：A short presentation about a news story of the week. What could we add? Narrow down topics of interest.

第4回：A short presentation about a news story of the week. Start to make the first short presentation.

第5回：A short presentation about a news story of the week. Finish making the first presentation.

第6回：Presentation day. Q & A. Feedback about the content.

第7回：A short presentation about a news story of the week. Brainstorming for the second presentation.

第8回：A short presentation about a news story of the week. Finalize the second presentation. Start making the presentation.

第9回：A short presentation about a news story of the week. Finish making the second presentation.

第10回：Presentation day. Q & A. Feedback.

第11回：A short presentation about a news story of the week. Brainstorming for the third presentation.

第12回：A short presentation about a news story of the week. Start making the third presentation.

第13回：A short presentation about a news story of the week. Finish making the third presentation.

第14回：Presentation day. Q & A. Feedback.

第15回：まとめ. Exam explanation.

About the topics covered: broadly speaking they will be cultural, political, social, economic, environment and lifestyle-related. The basic idea is to relate them to Japan and comparative cultures.

成績評価の方法 /Assessment Method

Final exam 25%, each presentation 25% (3 x 25%=75%).
More explanation will be given regarding grading at the beginning of the semester.

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ 試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ・ If you miss more than five class sessions, you will receive "-" on your transcript, not "D."
- ・ If you do not take the final exam, you will receive "-" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

I recommend keeping up to date with the national and international news stories.

履修上の注意 /Remarks

Although the plan at this time (05/01/22) is to conduct face-to-face classes on campus, there is a possibility that we will suddenly have to do 'remote learning'. If this happens, everything will be put onto Moodle and a TEAMS meeting will be schedule. Be ready, check your Internet connectivity, camera and microphone.

I do look forward to teaching you.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Presentation skills are necessary in today's work place. It's true to say that the more you present, the more natural and confident you'll be. This lesson is a good opportunity to grow in confidence.

キーワード /Keywords

英会話・英作文 9 【昼】

担当者名 /Instructor ドローキス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG473M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 9				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the experienced student more opportunities to express themselves in a variety of ways in the language classroom. Through these various routes the student will be able to improve on the ability to use the language in a variety of situations. These experiences will allow the student to carry on their studies beyond what has been previously experienced.

(到達目標)

- 【技能】 英語を使用した高度なコミュニケーションを行う力を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 高度な英語力に基づいて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 高度な英語力を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Handouts

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The students should have a good English/Japanese Japanese/English dictionary available for every class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to course
- 2回 Interests
- 3回 Language usage for interests
- 4回 Finances
- 5回 Educational questions and problems
- 6回 Athletics experience and interest
- 7回 Excursions
- 8回 Making suggestions
- 9回 University life
- 10回 Planning for the future
- 11回 Taking action and responsibility
- 12回 Continuing education
- 13回 American experiences and life
- 14回 Doing what is right
- 15回 Compilation of all previous activities

成績評価の方法 /Assessment Method

- Students will be assessed on;
- Class participation and attitude 40%
- Classroom assignments 30%
- 3. Final test results 30%
- 4. Students ,may not be absent more than 4 times.
- 5. If you are absent more than four class sessions, you will receive "—" on your transcript, not "D."
If you do not take the final exam, you will receive "—" on your transcript, not "D."

英会話・英作文 9 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should read all previously used materials and prepare questions to correct any misunderstandings in the class periods.
Students may sometimes be required to read material provided by the instructor prior to the following lesson.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

It is hoped that the students will ask questions to correct any misunderstanding and to make suggestions on topics of interest that may be included in the course activities

キーワード /Keywords

担当者名 /Instructor ドローキス ダニエル / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 1単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENG474M		◎	△	○	
科目名	英会話・英作文 10				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

This course is designed to give the experienced student more opportunities to express themselves in a variety of ways in the language classroom. Through these various routes the student will be able to improve on the ability to use the language in a variety of situations. These experiences will allow the student to carry on their studies beyond what has been previously experienced.

(到達目標)

- 【技能】 英語を使用した高度なコミュニケーションを行う力を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 高度な英語力に基づいて思考を深め、その内容を発信する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 高度な英語力を使用して自己を表現し、他者と協働する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Handouts

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The students should have a good English/Japanese Japanese/English dictionary available for every class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Re-Introduction to course
- 2回 Showing patience
- 3回 Being truthful
- 4回 The breaking point
- 5回 Finding work
- 6回 Entertainment choices
- 7回 Being a good citizen
- 8回 Doing the right thing
- 9回 Manners in society
- 10回 Foreign customs
- 11回 Being a good sport
- 12回 Making employment choices
- 13回 Making critical decisions
- 14回 Serious consequences
- 15回 Compilation of all previous activities

成績評価の方法 /Assessment Method

- Students will be assessed on;
- Class participation and attitude 40%
 - Classroom assignments 30%
 - 3. Final test results 30%
 - 4.Students ,may not be absent more than 4 times.
 - 5.If you are absent more than four class sessions, you will receive "—" on your transcript, not "D."
- If you do not take the final exam, you will receive "—" on your transcript, not "D."

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should read all previously used materials and prepare questions to correct any misunderstandings in the class periods.
Students may sometimes be required to read material provided by the instructor prior to the following lesson.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

It is hoped that the students will ask questions to correct any misunderstanding and to make suggestions on topics of interest that may be included in the course activities

キーワード /Keywords

英米文化講読II 【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE120M	△	◎	○		
科目名	英米文化講読II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

Ads Speak American Culture 『広告から見たアメリカ文化』はユニークなアメリカ文化論だ。広告に表されるアメリカ人の生き方、考え方や日米文化の違いを平易な英語で書いたものだ。アメリカ研究入門として、比較文化論に関心のある人は是非読んで貰いたい。広告は、PR=Public Relationsというように国民と企業とのコミュニケーション・メディアでありPopular Culture大衆文化でもある。世界中から移民してきた多人数の国で多様性を特徴とする国アメリカで大衆の心を掴むにはシンプルでかつ広告の中にもユーモアがなければならない。一方、日本の広告は、日本人の心を掴むものでなければならない。競争相手へのあけすけな非難や中傷は嫌われる。異文化間コミュニケーションを効果的に行うには、相手とのgapを知らねばならない。

広告は雄弁だ。広告コピーは文化を語り時代を告げる。化粧品の広告が語るアメリカのキャリア・ウーマンと成功の代価。車の広告が語るアメリカのpragmatism。スニーカーの広告が語るアメリカの個人主義とmobilityなど23章。著者の豊富な異文化体験に基づいて書かれたユニークなアメリカ広告文化論。日米比較文化の深い洞察とヒューマニズムにあふれている。

(到達目標)

【知識】アメリカと英語についての基本的な知識を身につけている。

【技能】アメリカと英語に関する知識を基にして、英文を的確に理解する力を身につけている。

【思考・判断・表現力】アメリカと英語に対する幅広い理解を基にして、自らの思考を英語によって表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

Ads Speak American Culture 『広告から見たアメリカ文化』 (成美堂)
ラクトリン 井上 久美 著

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

コウビルド英英辞典
ロングマン現代英英辞典 4訂増補版 CD-ROM2枚付
オックスフォード現代英英辞典 第7版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 You've Come a Long Way, Baby : 女性の今まで歩んできた辛い歴史とフェミニズム
- 第2回 The Art of Eye Contact : 「目は口ほどにものを言う」 : アイコンタクトの技術
- 第3回 Basic Jeans, Nothing Superficial Added. : ジーンズの種類と歴史とアメリカ文化
- 第4回 The Price of Success : キャリア・ウーマン : 仕事も結婚も子どもも ; "Super Woman"誕生
- 第5回 Be Wicked For a Week 快楽主義「旅の恥はかき捨て」 ; 突き詰めると禁欲主義に
- 第6回 To 27 Million Americans, This Scene is a Fairy Tales : 読み書きのできない人が2,700万人 ! ?
- 第7回 If You Stick with the Herd : 日 : 「みんな一緒」 vs . 米 : 「みんなと違う」
- 第8回 Beauty is in the Eye of the Beholder : 美の基準は ? 「夢食う虫も好き好き」 : 美は相対的、個性的 ?
- 第9回 Colt Firearms : 「市民の権力への抵抗権」 vs . 「銃規制」
- 第10回 Meet the Just in His Jockey Underwear Contest Winner : 下着と日米通商交渉
- 第11回 Depend Fitted Briefs : 老人用下着と介護 ; 老老介護など家族と介護の問題
- 第12回 Would You Buy a Condom for This Man? : 避妊・エイズ・性感染症・近年梅毒が急増
- 第13回 Champion Sportswear : 貧民街が生んだ不屈のヒロイン 金メダリストバスケット選手
- 第14回 Good as Gold : 人生のご褒美 : 金・宝石・美術品の価値 (永遠の美) vs. Fake Jewelry (今がいい綺麗なら)
- 第15回 Lunchables : アメリカの学校給食 (簡単な弁当) v s . 日本の給食 (手の込んだ弁当)

成績評価の方法 /Assessment Method

- 授業中の発表 (30%)、課題レポート・Quiz (30%)、学期末試験 (40%) などで総合評価する。
- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能 (-) とします。
 - ・ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
 - ・ 課題レポート (1回以上)、Quiz (小テスト) 10回 / 15回以上提出がない場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、1章ずつ英文を読み、分からない語彙を調べ、重要な語句を図書館でさらに調べる。

履修上の注意 /Remarks

1章ずつ予習して、よく理解できない語や熟語は辞書で調べて、さらに図書館で調べて、授業で発表・質疑・応答する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1章ずつ音声テープをよく聴いて繰り返し練習すると、不思議、自然と内容が理解できるようになります。
嘘だともって繰り返し練習してください。

キーワード /Keywords

【アメリカ広告文化】 【日米文化比較】

担当者名 /Instructor 吉津 京平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE120M	△	◎	○		
科目名	英米文化講読Ⅱ				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

以前、授業で『ハックルベリー・フィンの冒険』（1885年）における「人種」問題を扱った際、「この小説って児童文学ではないのか。子どもであるハックはそこまで深く考えていないのではないかと？」と質問され、この作品が「児童文学ではない」ことを前提として話していたことに気づき、はっとしたことがある。

本授業で扱う『トム・ソーヤーの冒険』（1876年）は児童文学であるが、続編の『ハック・フィン』は児童文学ではなく、アメリカ文学を代表する偉大な作品（「正典」ということになっている。どちらも元々は、作者マーク・トウェインがノスタルジアを込めて描いたであろう、トムとハックの少年文学的な世界であったはずだが、両者の評価やジャンルの違いは、いつ、どのような経緯で生じたのか。こうした疑問について、『トム・ソーヤー』の方に焦点を当てながらテキスト内外から探っていくとともに、「児童文学」や「正典」という捉え方によって見えづらくなっている観点や物語細部にも注目し検証する。（『ハック・フィン』にも適宜触れることになるため、受講前または受講中に一読することをお勧めする）

また、東京ディズニーランドのアトラクションにもなっている「トム・ソーヤー」や「マーク・トウェイン」、はたまた「ハックルベリー・フィン」というキャラクター（作家マーク・トウェインもペンネームという点ではキャラクター）が生まれる背景には、アメリカのいかなる歴史や文化が関わっていたのだろうか。「『国民作家』マーク・トウェインは、南北戦争『以前/以後』と、世紀転換期というアメリカ文化史における二つの大きな分岐点の中からもたらされた」（中垣恒太郎『近代国家アメリカとマーク・トウェイン』318）というが、本授業では「小説が執筆された時代（南北戦争後）/舞台とする時代（南北戦争前）」だけでなく、現代に至るまでこの小説が「どのように読まれてきたか」、その〈読み方〉の背景にある歴史や文化にも注目する。この授業の目的は、まず文学作品を丁寧にじっくりと読むこと、そして作品の時代背景、さらには私たちの身近に起きている様々な現象までも、「読み解かれるべき作品」として、その背後にあるものを見通す力を養うことにある。

（到達目標）

【知識】アメリカと英語についての基本的な知識を身につけている。

【技能】アメリカと英語に関する知識を基にして、英文を的確に理解する力を身につけている。

【思考・判断・表現力】英語に対する幅広い理解を基にして、自らの思考を英語によって表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

トウェイン、マーク『トム・ソーヤーの冒険』柴田元幸訳、新潮社、2011年。
Twain, Mark. The Adventures of Tom Sawyer. Ed. Beverly Lyon Clark. Norton, 2007.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 1) マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒けん』柴田元幸訳、研究社、2017年。
- 2) 小野俊太郎『「トム・ソーヤーの冒険」の世界』小鳥遊書房、2020年。
- 3) 後藤和彦『迷走の果てのトム・ソーヤー：小説家マーク・トウェインの軌跡』彩流社、2000年。
- 4) 佐野守男『ハックとトムの神話世界：「ハックルベリイ・フィンの冒険」を読む』彩流社、1996年。
- 5) 中垣恒太郎『マーク・トウェインと近代国家アメリカ』音羽書房鶴見書店、2012年。
- 6) 亀井俊介『ハックルベリー・フィンのアメリカ：「自由」はどこにあるのか』中央公論新社、2009年。
- 7) Scharnhorst, Gary. Critical Essays on The Adventures of Tom Sawyer. Boston : G. K. Hall, 1993.
- 8) 桂有子・成瀬俊一・高田賢一著『英米児童文学の黄金時代-子どもの本の万華鏡』ミネルヴァ書房、2005年。

英米文化講読II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション：『トム・ソーヤーの冒険』を読む（1）「序」と「結び」から分かること
授業の概要・進め方、出欠評価などについての説明
- 第2回 『トム・ソーヤーの冒険』を読む（2）第1～3章
小説冒頭から分かること、塀の白塗りの場面が有名な理由
- 第3回 『トム・ソーヤーの冒険』を読む（3）第4～6章
トム・ソーヤーというキャラクター、ハックルベリー・フィンというキャラクター
- 第4回 『ハックルベリー・フィンの冒険』と比較する（1）～『ハック・フィン』冒頭を読む
語りと視点
- 第5回 『トム・ソーヤーの冒険』を読む（4）第7～9章
物語におけるインジャン・ジョーの役割、「ステイブン・キング小説としての『トム・ソーヤー』」（カーター・リヴァード）
- 第6回 『トム・ソーヤーの冒険』を読む（5）第10～12章
インジャン・ジョーに対する人々の反応、健康療法
- 第7回 『トム・ソーヤーの冒険』を読む（6）第13～16章
自然の表象（ジェイムズ・M・コックス、ジョセフ・クロンプ）、「トムはクエアか？」（舌津智之）
- 第8回 『トム・ソーヤーの冒険』を読む（7）第17～19章
トムの生還～「詐欺師」としてのトム
- 第9回 『トム・ソーヤーの冒険』を読む（8）第20～22章
解剖学の本とベッキーの覗き見、信仰復興（リバイバル）と反知性主義
- 第10回 『トム・ソーヤーの冒険』を読む（9）第23章～26章
英雄となるトムとインジャン・ジョーの復讐～交差しない視線
- 第11回 『トム・ソーヤーの冒険』を読む（10）第27～30章
ハックの役割（ハックとトムの違い）
- 第12回 『トム・ソーヤーの冒険』を読む（11）第31～32章
インジャン・ジョーとハックルベリー・フィンの共通性、「牧歌のゆらぎ」（永原誠）
- 第13回 『トム・ソーヤーの冒険』を読む（12）第33～結び / まとめ
「なぜマーク・トウェインはインジャン・ジョーを殺しても非難されないのか」（カーター・リヴァード）、「結び」再び
- 第14回 『ハックルベリー・フィンの冒険』と比較する（2）ハックルベリー・フィンの「殺し方」
ハックの「ちゃんとした暮らし」への仲間入り、サンチヨ・パンサ（ハック）のドン・キホーテ（トム）化
- 第15回 『ハックルベリー・フィンの冒険』と比較する（3）ハックルベリー・フィンが2度「殺される」
「1910～30年代のアメリカの共産主義運動の底流」としての「ハックルベリー・フィンのもの」（内田樹）、冷戦期におけるアメリカ文学の制度化と『ハック・フィン』の「絶対正典化」（ジョナサン・アラック）、そしてF・O・マシーセン

※進度や状況により、扱う内容や順番等、一部変更する場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 平常点40%（授業への姿勢、予習や課題への取り組み、レスポンスシート等）、試験60%で評価する。
- ・ 欠席届の提出がなく5回以上欠席した場合は、評価不能（-）とする。
- ・ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと（予習範囲については、毎回の授業やMoodleで指示する）。
- ・ 授業の理解に有益な読書や映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 最初の授業で、授業の進め方や予習の仕方などについて説明する。
- ・ 第2回以降、毎回の範囲の予習をしてこよう。
- ・ 授業には英語の辞書を持ってこよう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基本的に作品を数回に分けて読んでいきます。一方的な講義というよりも、ディスカッション中心で行い、補足的な部分や最後のまとめなどで

英米文化講読II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

解説を加えていく予定です。皆さんの予習に期待しています！

キーワード /Keywords

日本文化文献講読 A 【昼】

担当者名
/Instructor

生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
								○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT110M	○	◎			
科目名	日本文化文献講読 A				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義は、近代の日本文化に関する同時代文献や、その文献を扱うための基礎的知識や読解能力を身につけることを目的とする。
具体的には、明治開化期の種々の刊行物をテキストとして、文献読解の基礎となる「くずし字」（板本や活字本に記されたものに限定し、写本等は取り扱わない）読解能力の修得を目指しながら、明治10年頃までの出版文化を学ぶ。この時期は、近世と近代との端境期にあたり、日本の印刷・出版文化の変容を捉えるための重要な時期である。

講義前半は、明治開化期の新聞、浮世絵、草双紙などをテキストとし、講義後半には、明治10年代までに書かれた文学テキストを講読しながら、明治維新を期に大量に流れ込んできた西欧文化と日本文化の接点を見る。自国文化の理解を深め、異文化理解の足がかりとする。

(到達目標)

【知識】日本文化に関する文献を講読するための基礎的な知識を身につけている。

【技能】日本文化に関する文献を講読するために必要な技法を身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山田俊治『大衆新聞がつくる明治の〈日本〉』（NHKブックス）

○『明治文学全集 1 明治開化期文学集（1）』（筑摩書房）

など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 くずし字とは何か
- 第3回 明治開化期の新聞を知る
- 第4回 明治開化期の新聞を読む
- 第5回 錦絵新聞を読む
- 第6回 異種百人一首を知る・読む
- 第7回 明治期の浮世絵を知る
- 第8回 明治期の浮世絵を読む
- 第8回 明治開化期の文学を知る
- 第9回 『安愚楽鍋』（1）【序文・口絵を読む】
- 第10回 『安愚楽鍋』（2）【時代背景を知る】
- 第11回 『安愚楽鍋』（3）【序章を読む】
- 第12回 『安愚楽鍋』（4）【本章（前半部分）を読む】
- 第13回 『安愚楽鍋』（5）【本章（後半部分）を読む】
- 第14回 『かたわ娘』（1）【前半部分を読む】
- 第15回 『かたわ娘』（2）【後半部分を読む】

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験 = 80% 日常の授業への取り組み = 20%

※5回以上欠席した場合は評価不能（－）とし、成績評価の対象としない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「くずし字」練習本やアプリなどを活用し、「くずし字」の学習を行うこと。授業後はテキストの再読にチャレンジし、読めない文字は辞書で調べて読めるようにしておくこと。

日本文化文献講読 A 【昼】

履修上の注意 /Remarks

語学の授業と同程度の家庭学習を要する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

国語の教科書に載ることはないけれど、当時の人々には盛んに読まれた新聞や戯作や浮世絵を、原文(くずし字)で読んでみましょう。教科書の記述では説明不十分な明治初期の世界が、そこには広がっています。

キーワード /Keywords

文化、文学、メディア、出版、明治

日本文化文献講読B 【昼】

担当者名 堀尾 香代子 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT210M	△	◎	○		
科目名	日本文化文献講読B				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

古代から現代までの日本語やことばについて書かれた文献を読んでいます。
それらの文献を精読し読解する力を養いつつ、ことばと文化の関わりについて考えます。

(到達目標)

【知識】 文献を読解するための基礎的な知識を身につけている。

【技能】 必要な情報を収集しつつ文献を正確に読解する能力を身につけている。

【思考】 文献を読解し、複眼的に思考して、自分の意見や考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業中にプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『日本語学論説資料』（1964年版～毎年刊行、論説資料保存会、旧称『国語学論説資料』）○

『日本語学研究事典』（2007年、飛田 良文他編、明治書院）○

『日本語学大事典』（2018年、日本語学会、東京堂出版）

この他は、図書館の「堀尾の指定図書コーナー」に設置。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献の種類と進め方
- 第3回 コミュニケーションの文献を読む(1)ーファティックコミュニケーションとポライトネス理論ー
- 第4回 コミュニケーションの文献を読む(2)ーヤーコブソンの6因子モデルとあいさつ言葉ー
- 第5回 コミュニケーションの文献を読む(3)ー語用論から見るあいさつ言葉の使用実態ー
- 第6回 役割語の文献を読む(1)ー位相語と役割語ー
- 第7回 役割語の文献を読む(2)ー「ボクっ娘」の発生と波及ー
- 第8回 役割語の文献を読む(3)ーねじれた役割語の発生メカニズムー
- 第9回 敬語の文献を読む(1)ーファミコン敬語ー
- 第10回 敬語の文献を読む(2)ー認知言語学的アプローチー
- 第11回 比喩表現の文献を読む(1)ー『源氏物語』の臨終場面の比喩表現ー
- 第12回 比喩表現の文献を読む(2)ー比喩表現史にみる死の表現ー
- 第13回 比喩表現の文献を読む(3)ー物語の構想と比喩表現ー
- 第14回 期末レポート課題の提示
- 第15回 まとめ

日本文化文献講読B 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末レポート...60% 日常の授業への取り組み...40%
学期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、次回の授業で取り扱う文献を読んで予習をしてください。
授業後に、授業内で取り扱った事項について復習してください。

履修上の注意 /Remarks

初回授業で授業の進め方を説明しますので、必ず出席してください。
初回授業を欠席した場合は、受講できないことがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化講読Ⅰ【昼】

担当者名 吉津 京平 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE131M	△	◎	○		
科目名	英米文化講読Ⅰ				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

『ガリヴァー旅行記』といえば知らない人はいないほど有名な文学作品であるが、全体を読み通している人は意外に少ない。また、児童文学というイメージも強いが、子ども向け版では全4編のうちの最初の2編だけが収録される場合が多く、分かりやすく書き直されたことで原作の持つ風刺や毒はほとんど削ぎ落とされてしまっている。また、空想物語としてのイメージも強いが、物語の背景にある歴史的コンテキストから切り離されてしまっている。小人国や大人国、空飛ぶラピュタ島や馬の国といった、奇想天外なガリヴァーの旅を綴った『ガリヴァー旅行記』が生まれた18世紀イギリスとは一体どのような時代だったのか。

本授業では、ジョナサン・スウィフト (Jonathan Swift) の『ガリヴァー旅行記』 (Gulliver's Travels) (1735)を原文と日本語翻訳版の両方を駆使して深く読み込んでいくことで、「空想旅行」の中いかに当時のイギリス社会の「現実」が反映されているかを明らかにしていく。また、帝国主義批判、宗教や政治の対立、科学諷刺、清潔 / 不潔のイデオロギーや優生思想、ジェンダーやセクシュアリティなど、18世紀におけるスウィフトの批判的・諷刺的眼差しは、現代においてもなお (あるいは、現代においてさらに) 有効であることを見ていく。その射程は、場合によっては我々読者のこの作品の読み方や、我々が当然のこととして受け入れてしまっている見方にまで及ぶかもしれない。

同時に、この授業では『ガリヴァー旅行記』の批評においてどのようなことが議論されているかについても見ていく。そうすることで、物語や時代背景への理解を深めるとともに、作品を批評することについても学ぶ。それは、小説を読み、批評する我々の生きる現代についても考えることになるだろう。

(到達目標)

【知識】イギリスと英語についての基本的な知識を身につけている。

【技能】イギリスと英語に関する知識を基にして、英文を的確に理解する力を身につけている。

【思考・判断・表現力】英語に対する幅広い理解を基にして、自らの思考を英語によって表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

スウィフト、ジョナサン『ガリバー旅行記』山田蘭訳、角川書店、2011年。(角川文庫)
Swift, Jonathan. Gulliver's Travels. Oxford UP: New York, 2008 (Reissued).

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- (1) 木下卓・清水明編著『ガリヴァー旅行記(シリーズ もっと知りたい名作の世界)』、ミネルヴァ書房、2006年。
- (2) 四方田犬彦『空想旅行の修辭学：「ガリヴァー旅行記」』七月堂、1996年。
- (3) 富山太佳夫『「ガリヴァー旅行記」を読む』岩波書店、2000年。
- (4) スティーブン、レズリー『スウィフト伝-「ガリヴァー旅行記」の政治学』高橋 孝太郎訳、彩流社、1999年
- (5) 指昭博『はじめて学ぶイギリスの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2012年。
- (6) 神山妙子『はじめて学ぶイギリス文学史』ミネルヴァ書房、1989年。
- (7) 川北稔『イギリス近代史講義』講談社、2010年。
- (8) 川北稔『世界システム論講義：ヨーロッパと近代世界』筑摩書房、2016年。

英米文化講読I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション：イギリス文化を読む / 社会的文脈から読む
～ジョージ・オーウェルの「一杯の美しい紅茶」
授業の概要・進め方、出欠評価などについての説明
- 第2回 「ガリヴァー船長より従兄のシンプソンへの手紙」
なぜ最初に手紙をつけたのか、ガリヴァーという語り手 / スウィフトという作者
- 第3回 『ガリヴァー旅行記』第1話前半
『ガリヴァー旅行記』の時代、帝国主義、衛生思想
- 第4回 『ガリヴァー旅行記』第1話後半
異化作用、諷刺の方法
- 第5回 『ガリヴァー旅行記』第2話前半
女性嫌悪？、視覚
- 第6回 『ガリヴァー旅行記』第2話後半
怪物と見世物、『不思議の国のアリス』と『ガリヴァー旅行記』の接点
- 第7回 『ガリヴァー旅行記』の批評を読む(1) 作品概説・作家概説
「『ガリヴァー旅行記』の諷刺の世界」、「スウィフトの顔、ガリヴァーの声」
- 第8回 『ガリヴァー旅行記』第3話前半
イングランド対アイルランド問題、狂人、死なない人間
- 第9回 『ガリヴァー旅行記』第3話後半
科学諷刺、宗教諷刺、歴史について、ジャポニスム
- 第10回 『ガリヴァー旅行記』の批評を読む(2) 18世紀の知の世界
「スウィフトの科学諷刺を読む」、「驚異の装置」、「『科学嫌い』の諷刺文学」、「見世物の世紀」
- 第11回 『ガリヴァー旅行記』第4話前半
固有名について、カリブ海の地政学、世界システム論、ユートピアについて
- 第12回 『ガリヴァー旅行記』第4話後半
優生思想、ガリヴァーはヤファーかフウイヌムか、ガリヴァーとスウィフトの距離
- 第13回 『ガリヴァー旅行記』の批評を読む(3) 植民地主義・帝国主義表象
「『ガリヴァー旅行記』、帝国、英蘭関係」、「ヤファーの咆哮、フウイヌムのいななき」
- 第14回 『ガリヴァー旅行記』の批評を読む(4) 新たな読みの地平(前半)
「パブル・フィクション」、「スウィフトの庭」
- 第15回 『ガリヴァー旅行記』の批評を読む(5) 新たな読みの地平(後半)
エッセイ 現代から見れば(「食べて、飲んで、悲惨なことに」、「年をとる前に死にたいものだ」)
「フウイヌムと差異のない世界」

※進度や状況により、扱う内容や順番等、一部変更する場合がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・平常点40% (授業への姿勢、予習や課題への取り組み、レスポンスシート等)、試験60%で評価する。
- ・欠席届の提出がなく5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とする。
- ・定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと(予習範囲については、毎回の授業やMoodleで指示する)。
- ・授業の理解に有益な読書や映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

- ・最初の授業で、授業の進め方や予習の仕方などについて説明する。
- ・第2回以降、毎回の範囲の予習をしてこよう。
- ・授業には英語の辞書を持ってこよう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英米文化講読I【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基本的に作品を数回に分けて読んでいきます。一方的な講義というよりも、ディスカッション中心で行い、補足的な部分や最後のまとめなどで解説を加えていく予定です。皆さんの予習に期待しています！

キーワード /Keywords

英米文化講読Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 今川 京子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE131M	△	◎	○		
科目名	英米文化講読Ⅰ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、英語で書かれた短編集を精読していく過程を通じてイギリスの文化や歴史、時代を特徴づけてきた思想や市民生活、社会事情に触れ、皆さん独自の作品解釈や分析を構築・展開していくことを目指します。したがって「英文読解力」と自発的な解釈およびそれを言語化して他者に発信する「コミュニケーション力」に重点を置いて進めていきます。学生が主体となって、英文を丁寧に読み、ワークシートに取り組み、授業では各自が分析した結果読み取ったことを他者に分かりやすくプレゼンテーションします。読者の数だけ「読み」の可能性、解釈の幅は広がります。その多様性を共に楽しみつつ、能動的にイギリスの文化や文学、思想に触れていきましょう。

教科書 /Textbooks

Oscar Wilde, "THE HAPPY PRINCE AND OTHER TALES" (ISBN: 978-4-523-15402-0) (NAN'UN-DO)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . オリエンテーション
- 2 . The Happy Prince (1)
- 3 . The Happy Prince (2)
- 4 . The Happy Prince (3)
- 5 . The Nightingale and the Rose (1)
- 6 . The Nightingale and the Rose (2)
- 7 . The Nightingale and the Rose (3)
- 8 . The Selfish Giant (1)
- 9 . The Selfish Giant (2)
- 10 . The Selfish Giant (3)
- 11 . The Devoted Friend (1)
- 12 . The Devoted Friend (2)
- 13 . The Devoted Friend (3)
- 14 . The Remarkable Rocket (1)
- 15 . The Remarkable Rocket (2)

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 60%
提出課題 40%
期末試験を受験しなかった場合は評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの該当箇所を必ず予習してきてください。事前にMoodleにアップロードするワークシートは予習の段階で自身の解釈・分析を文章で記述してMoodle上の指定された「提出箱」にWordデータをアップロードしてください。

履修上の注意 /Remarks

講義中の私語は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

イギリス文化・文学に興味のある方、英文読解力を磨きたい方を歓迎します。

英米文化講読I【昼】

キーワード /Keywords

日本文化英文講読【昼】

担当者名 吉津 京平 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
JPS190M	△	◎	○		
科目名	日本文化英文講読				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

川端康成の『雪国』のあまりにも有名すぎる冒頭「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった。夜の底が白くなった。」とその英訳“The train came out the long tunnel into the snow country. The earth lay white under the night sky.”は同じなのか。宮沢賢治の『風の又三郎』の冒頭の「どっどどどどうど どどうど どどう」は英語に翻訳するとどうなるのか。村上春樹の短編「かえるくん、東京を救う」の「くん」は翻訳可能なのか。

本授業では、こうした日本語を英語に翻訳する際に生じる様々な問題点を切り口として、日本特有の文化的事象について見ていく。日本人作家の作品の原文と英語版で表現の異なる箇所を探し出し、そこに浮かび上がる翻訳しにくい日本的な考え方や価値観について突き止める力を養う。また、欧米文化に対して日本の作家たちがどのように向き合ったのかについても考えを深める。主に前半では現代文学として村上春樹を、後半では明治期を中心とした近代文学を扱う。

同時に、日本の翻訳・模倣文化を日本語の歴史や明治時代の翻訳語成立事情から見てみることで、翻訳がいかに日本文化にとって大きな役割を果たしているか、さらには、データ・ラーニングなど技術の発達によって近い将来に言語の壁を超えるとも言われる中で、そもそも翻訳とは何か、翻訳は今後どうなるのか、についても考えたい。

(到達目標)

【知識】日本文化に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】英文を理解し聞き取る能力を身につけている。

【思考・判断・表現力】日本文化について批判的に分析できると同時に、自分の意見を適切に発信することができる。

教科書 /Textbooks

牧野成一『日本語を翻訳するということ：失われるもの、残るもの』(中公新書)

池上 嘉彦『英語の感覚・日本語の感覚：<ことばの意味>のしくみ』(NHKブックス)

授業で扱う日本文学作品とその英語翻訳版は、取り上げる箇所をプリント配布等で共有します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

(1) 鈴木孝夫『ことばと文化』(岩波新書)

(2) 山本史郎『翻訳の授業：東京大学最終講義』(朝日新書)

(3) 鴻巣 友季子『翻訳ってなんだろう？—あの名作を訳してみる』(ちくまプリマー新書)

(4) 橋本陽介『日本語の謎を解く 最新言語学Q&A』(新潮選書)

(5) 四方田犬彦『「かわいい」論』(ちくま新書)

(6) 柴田元幸『翻訳教室』(朝日文庫)

(7) 柴田元幸・村上春樹『翻訳夜話』(文春新著)

(8) 柴田元幸・村上春樹『サリンジャー戦記：翻訳夜話2』(文春新著)

それ以外の参考書に関しては必要に応じて授業中に紹介する。

日本文化英文講読【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：翻訳を通して分かること
授業の概要・進め方、出欠評価などについての説明
- 第2回 翻訳すると変わるもの / 村上春樹はアメリカ的か、日本的か～デビュー作『風の歌を聴け』を例に
- 第3回 マーク・トウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』
子どもの語り、方言、「人種」、階級
- 第4回 村上春樹「象の消滅」
無生物主語、責任の所在、決まり文句、直訳風の日本語、文の構造の違い、「象」とは何か、ハルキ文学と都市化
- 第5回 漫画『ワンピース』
ユーモア、擬音語・擬態語、漫画と漢字の共通性、任侠
- 第6回 川端康成『雪国』、太宰治『人間失格』
視点の違い、食べ物、比喻
- 第7回 歌詞を訳す～井上陽水「傘がない」、「最後のニューズ」、ビートルズ「愛こそはすべて」
誤訳とは、日本語の余白、意味の決定不能性
- 第8回 英語になると物語が変わる？～村上春樹「かえるくん、東京を救う」
- 第9回 日本の翻訳文化～日本語の歴史、明治期における日本近代文学の誕生と西洋化
- 第10回 西洋化と江戸的なもの、乃木希典について～夏目漱石『坊っちゃん』『こころ』
- 第11回 歴史小説(1) 自己犠牲～森鷗外「最後の一句」
- 第12回 歴史小説(2) 身体から心へ～芥川龍之介「鼻」
- 第13回 "Rashomon"と「藪の中」～芥川龍之介の「羅生門」と黒澤明の『羅生門』
- 第14回 私小説～志賀直哉「小僧の神様」
- 第15回 日本文学における3人称複数視点の難しさについて

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 平常点40% (授業への姿勢、予習や課題への取り組み、レスポンスシート等)、試験60%で評価する。
- ・ 欠席届の提出がなく5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とする。
- ・ 定期試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 第2回目以降、次回の授業で取り上げる範囲の予習を行うこと。
- ・ 授業の理解に有益な読書や映像視聴等を行うこと。
- ・ 図書館を積極的に活用すること。

履修上の注意 /Remarks

- ・ テキスト以外の配布・共有資料は、持参するか、授業中に参照できるようにしておくこと。
- ・ 授業には英語の辞書を持ってくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

一方的な講義というよりも、ディスカッション中心で行い、補足的な部分や最後のまとめなどで解説を加えていく予定です。皆さんの予習に期待しています！

キーワード /Keywords

日本文化英文講読【昼】

担当者名 /Instructor 濱 奈々恵 / HAMA NANAE / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
JPS190M	△	◎	○		
科目名	日本文化英文講読				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、日本文化を英語で学ぶというよりも、日本や日本文化が外からどう認識されているのか、特にその独自性を批判的に分析できる力を養っていきます。私たちは日本文化を知っているつもりになったり、あるいはそれを当然のこととして受けて入れてしまったりしがちですが、その姿勢は果たして「正しい」ものなのでしょうか。私たちが無意識に価値判断を下しているその物差しは妥当なものなのでしょうか。授業では、英語で書かれたものの一部や映像などを使って英語力の強化も図っていきます。

到達目標

- 【知能】 日本文化に関する基礎的な知識を身につけている。
- 【技能】 英文を理解し聞き取る能力を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 日本文化について批判的に分析できると同時に、自分の意見を適切に発信することができる。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各回のレジュメ内で適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、外から見た「ニッポン」の姿
- 2回 『武士道』、『菊と刀』
- 3回 「偉大な」日本人
- 4回 「日本人」の定義
- 5回 宗教観
- 6回 教育制度
- 7回 英語熱
- 8回 いじめ問題
- 9回 「かわいい」論
- 10回 日本の漫画
- 11回 日本の映画
- 12回 報道の仕方
- 13回 日本のスナックで見た世界
- 14回 怪談
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・70% レポートおよび日常の授業への取り組み・・・30%
* 欠席が5回に達した時点で学期末試験を受けられなくなり、「-」（評価不能）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行ってください（授業前でも後でも構いません）。

日本文化英文講読【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業の前にあらかじめ資料を渡すことがあります(紙か電子媒体)。予習や考察をしっかり行ってください。また授業には必ず辞書(紙・電子どちらでも可)を持参してください。知的怠慢は禁止です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外から見た日本の姿を通して、自国を客観的に見直すきっかけにしましょう。また英語を言語ツールにすることで、得られる情報源に広がり
と深みをもたらしましょう。

キーワード /Keywords

日本文化の独自性 / 文化比較 / 英文読解 / 批判的な分析

日本文化文献講読C 【昼】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT211M	△	◎			
科目名	日本文化文献講読C				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業ではくずし字の読解力を養うためのトレーニングを行う。
くずし字の読解は日本文学、日本史、宗教史、美術史など、近代を含む日本文化を専門的に学ぶ上に必須の能力である。
日本文化を学ぶことを希望する学生は、基礎的な読解力を身につけてもらいたい。
授業では筆写本のコピーを用いる。

- 【知識】 写本の読解に関する基礎的知識を身につけている。
【技能】 くずし字基礎的読解力を身につけている。

教科書 /Textbooks

笠間影印叢刊行会編『字典かな一出典明記一 改訂版』（笠間書院）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 児玉幸多編『くずし字解読辞典』（近藤出版社）
- 児玉幸多編『くずし字解読辞典 机上版』（東京堂出版）
- 児玉幸多編『くずし字用例辞典 普及版』（東京堂出版）
- 東京手紙の会編『くずし字辞典』（思文閣出版）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概要・成績評価について
- 2回 くずし字の読み方（仮名）
- 3回 くずし字の読み方（漢字）
- 4回 くずし字の読解（諸国一見聖物語p.5〈京都大学国語国文資料叢書29〉）
- 5回 くずし字の読解（諸国一見聖物語p.6）
- 6回 くずし字の読解（諸国一見聖物語p.7）
- 7回 くずし字の読解（諸国一見聖物語p.8）
- 8回 くずし字の読解（樹下乃御法1丁表〈早稲田大学教林文庫蔵本〉）
- 9回 くずし字の読解（樹下乃御法1丁裏）
- 10回 くずし字の読解（樹下乃御法2丁表）
- 11回 くずし字の読解（樹下乃御法2丁裏）
- 12回 くずし字の読解（樹下乃御法3丁表）
- 13回 くずし字の読解（樹下乃御法3丁裏）
- 14回 くずし字の読解（樹下乃御法4丁表）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 80% 授業への取り組み 20%
期末試験を受験しなかった場合は成績評価を（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業で読解する範囲の文章を事前に下調べしておくこと。指名し板書させます。
読めなかった字については復習して身につけておくこと。
予習・復習の繰り返しが大変な科目です。

日本文化文献講読C 【昼】

履修上の注意 /Remarks

教科書『字典かな一出典明記― 改訂版』（笠間書院）は必ず購入しておいて下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業では室町時代に著された『諸国一見聖物語』の江戸時代元禄年間の筆写本、および江戸時代の覚深著『樹下乃御法』をテキストとして取り上げる。いずれも比叡山延暦寺の僧侶の作である。授業の趣旨として、文章の意味解釈については重点を置かないが、適宜説明を加えながら読んでいきたい。

キーワード /Keywords

くずし字

ヨーロッパ文化講読II 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE341M		◎	○		△
科目名	ヨーロッパ文化講読II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、フランスの文化だけでなく、それに関連する政治、社会、歴史について学びつつ、フランス語の語彙力及び読解力の強化を目指す。

(到達目標)

【技能】長文を適切に読解することのできるフランス語運用能力を身につけている。

【思考・判断・表現力】フランス文化・社会が抱える諸問題について総合的、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【自立的行動力】フランス文化への関心を持ち続け、異文化理解に貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし。Denis C. Meyer, Clés pour la France en 80 icônes culturelles (Paris, Hachette, 2016)、加藤晴久、ミシェル・サガズ『時事フランス語 2019年度版』(朝日出版社、2019年)、石井洋二郎、ミシェル・サガズ『時事フランス語 2020年度版』(朝日出版社、2020年)などをコピーし、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Apéritif
- 2回 La liberté d'expression
- 3回 Le Petit Prince
- 4回 Pôle emploi
- 5回 Le droit du sol
- 6回 Fromages
- 7回 Édith Piaf
- 8回 L'abolition de la peine de mort en France
- 9回 Marianne
- 10回 Tour Eiffel
- 11回 La devise de la France
- 12回 Discrimination raciale
- 13回 Les droits des homosexuelles
- 14回 Les Journées européennes du patrimoine
- 15回 まとめと復習

以上の授業計画は、受講者のフランス語の習熟度に応じて変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極性・・・30%、期末試験・・・70%

なお、期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

ヨーロッパ文化講読II 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習の方法については、適宜指示する。復習を重点的に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

フランス語を1、2年生で履修し、文法をある程度習得している学生を対象とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ文化講読I【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE340M	○	◎		○	
科目名	ヨーロッパ文化講読 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

内容

【とりあえず手に入れたドイツ語という「道具」を、実際にどんどんと使ってみる授業です。外国語学習者向けに作られたドイツ語テキストではなく、ドイツ語話者がドイツ語話者に向けて書いたテキストだけを扱います。

受講条件について

【1年生で習ったドイツ語が錆びついている、あるいはそもそも半端な理解だった、ということはおおいにあり得るでしょう。そのことを前提に、文法の復習を交えながら授業を進めます。現在の自分の実力を低く見積もって躊躇せず、今後もドイツ語と付き合う気概があるならぜひ受講してください。

発信力について

【テキストを精確に読む作業をベースとします。しかし、ドイツ語を読む中で、「この表現は、自分が書く・話すときに使える！」という発見があるものです。そういう表現を着々とストックしていきましょう。独作文は独借文の発想です。

到達目標

- 【知識】ドイツ語圏の文化に関する幅広い知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】ある事物や出来事の文化的背景を論理的に分析する力を身につけている。
- 【自立的行動力】異文化への関心を持ち、他文化を尊重し、自文化を相対化できる。

教科書 /Textbooks

【独和辞典（スマートフォンの辞書アプリは、辞書持ち込み可形式のテストの際に（スマートフォン自体が）使用不可となるので、注意してください。）

【ドイツ語履修時に使用した教科書（あるいは、別途購入した文法書）

- 随時、テキストを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介・指示します。

ヨーロッパ文化講読I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ウォーミングアップ：独辞典でクイズ
- 第2回 事典類を読む(1)【小項目主義】
- 第3回 事典類を読む(2)【大項目主義】
- 第4回 写真・図版の説明文(キャプション)を読む
- 第5回 新聞を読む(1)【地方紙】
- 第6回 新聞を読む(2)【全国紙】
- 第7回 ウェブサイトを読む(1)【amazon.deなど】
- 第8回 ウェブサイトを読む(2)【大学の公式HPなど】
- 第9回 専門書・論文を読む(1)
- 第10回 専門書・論文を読む(2)【前回の続き】
- 第11回 専門書・論文を読む(3)【前回の続き】
- 第12回 文学作品を読む(1)【シュニツラーの短篇小説(予定)】
- 第13回 文学作品を読む(2)【前回の続き】
- 第14回 文学作品を読む(3)【前回の続き】
- 第15回 SNSやレビューを読む

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み…40% 授業への貢献度…60%

5回以上欠席した場合、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習

■訳読がベースになるので、配布されたテキストをあらかじめ読んできてください。授業では、「読む(発音する)・訳す・文法的に説明する」の3点がセットです。すべての単語を片っ端から辞書で引くような状況がしばらく続くでしょうが、語学はそういうものなので、深く考えず、アスリートが心を無にして筋トレするように、淡々と辞書を引いてください。

復習

■苦勞しながらどうにか読み進めたテキストを、授業後はすらすらと音読でき、意味を理解し、文法的に説明できるか、チェックしてください。こうして穴を一つ一つ潰していけないかぎり、上達のしようがありません。

履修上の注意 /Remarks

ドイツ語文法を一通り終えたことを前提にしています。ただし、本学の第二外国語でドイツ語を履修していないけれど、独学でドイツ語文法を学んできたという場合も、歓迎します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

言語は道具であり、道具は使うものです。

キーワード /Keywords

外国語 ドイツ語 原典講読 文学 学術論文 情報収集

ヨーロッパ文化講読Ⅲ【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE342M	○	◎	○		
科目名	ヨーロッパ文化講読Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

さまざまな時代のスペイン語テキストを講読します。多岐にわたるトピックについて内容を理解するとともに、辞書で目にした単語の意味を並べて「なんとなく読む」のではなく、理詰めで文の意味が分かることを目指します。また発音についての指導もします。スペイン語のテキストを使用するので、原則としてスペイン語を二年間既に学んだ者に受講を限定します。

(到達目標)

【知識】スペイン語に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】スペイン語で書かれた文章を正しく読解するスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】スペイン語で書かれた文章について、論理的に思考して読解し、解釈を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業担当者がプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『西和中辞典』(小学館)
- 『現代スペイン語辞典』(白水社)
- 『クラウン西和辞典』(三省堂)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨ、授業運営と成績評価について
- 第2回 La boda de sangre (Lorca)
- 第3回 Abel Sanchez (Unamuno)前半
- 第4回 Abel Sanchez (Unamuno)後半
- 第5回 Rimas (Becquer)
- 第6回 "Vuelva usted mañana" (Larra)前半
- 第7回 "Vuelva usted mañana" (Larra)後半
- 第8回 Cartas marruecas (Cadalso)前半
- 第9回 Cartas marruecas (Cadalso)後半
- 第10回 Teatro critico universal (Feijoo)前半
- 第11回 Teatro critico universal (Feijoo)後半
- 第12回 La vida es sueno (Calderon)前半
- 第13回 La vida es sueno (Calderon)後半
- 第14回 Don Quijote de la Mancha (Cervantes)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み50% 小テスト50%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。スペイン語既習者限定。授業にはかならず予習をして臨んでください。また教室にはかならず辞書(スペイン語→日本語)を持参してください。

履修上の注意 /Remarks

ヨーロッパ文化講読III 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

ヨーロッパ文化講読Ⅲ【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE342M	○	◎	○		
科目名	ヨーロッパ文化講読Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

さまざまな時代のスペイン語テキストを講読します。多岐にわたるトピックについて内容を理解するとともに、辞書で目にした単語の意味を並べて「なんとなく読む」のではなく、理詰めで文の意味が分かることを目指します。また発音についての指導もします。スペイン語のテキストを使用するので、原則としてスペイン語を二年間既に学んだ者に受講を限定します。

(到達目標)

【知識】スペイン語に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】スペイン語で書かれた文章を正しく読解するスキルを身につけている。

【思考・判断・表現力】スペイン語で書かれた文章について、論理的に思考して読解し、解釈を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業担当者がプリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『西和中辞典』(小学館)
- 『現代スペイン語辞典』(白水社)
- 『クラウン西和辞典』(三省堂)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション、授業運営と成績評価について
- 第2回 La boda de sangre (Lorca)
- 第3回 Abel Sanchez (Unamuno)前半
- 第4回 Abel Sanchez (Unamuno)後半
- 第5回 Rimas (Becquer)
- 第6回 "Vuelva usted mañana" (Larra)前半
- 第7回 "Vuelva usted mañana" (Larra)後半
- 第8回 Cartas marruecas (Cadalso)前半
- 第9回 Cartas marruecas (Cadalso)後半
- 第10回 Teatro critico universal (Feijoo)前半
- 第11回 Teatro critico universal (Feijoo)後半
- 第12回 La vida es sueno (Calderon)前半
- 第13回 La vida es sueno (Calderon)後半
- 第14回 Don Quijote de la Mancha (Cervantes)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み50% 小テスト50%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習にあたっては参考書に挙げた紙の辞書を使用し、語義例文を丁寧に熟読すること。スペイン語既習者限定。授業にはかならず予習をして臨んでください。また教室にはかならず辞書(スペイン語→日本語)を持参してください。

履修上の注意 /Remarks

ヨーロッパ文化講読III 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

目標

卒業論文を書き上げるために必要な、思考力を養い、調査方法を習得し、議論や意見表明の実践を積みましょう。素材は、ドイツ語圏の文物にかぎらず、幅広く選び、リクエストにも応じます。重要なのはあくまでも「方法」の習得にあります。

方針

芸術作品や文化的・社会的な事象などを前にして、それに反応し、まとまった意見を形成・表明する能力は、学位論文の執筆のみならず、社会に出てからも必要なスキルである、という考えに基づいた演習です。例えば先輩や上司に誘われて芸術鑑賞した後のカフェで感想を聞かれ、「よかったです」としか言えなければ、次のお誘いはないでしょう。無知でも、素人でも、「知らないなら知らないなり」の反応の仕方があるはずですから、それを模索しましょう。

進め方

毎回、特定の芸術作品やテキストを鑑賞・精読した後、それについての意見を募り、書き出していきます。その際に、意見の切り口をどう見出し、ささいな疑問をさらなる研究調査にどう展開していくのかなど、思考のめぐらせ方やメモ・ノート術をレクチャーします。どういう場合にどういう資料を当てるべきかについても、随時紹介します。私の提案する技術だけでなく、周りの参加者の良いところにも注目し、技を真似し合ってください。

到達目標

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

ノート（形式自由。自分が得た知識やアイデアを集約し、卒業論文まで繋げるための「ネタ帳」を用意してください。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介・指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション【自己紹介】
- 第2回 鑑賞・講読と議論(1) 【芸術篇】
- 第3回 鑑賞・講読と議論(2) 【芸術篇】
- 第4回 鑑賞・講読と議論(3) 【芸術篇】
- 第5回 鑑賞・講読と議論(4) 【芸術論篇】
- 第6回 鑑賞・講読と議論(5) 【芸術論篇】
- 第7回 鑑賞・講読と議論(6) 【歴史・文化篇】
- 第8回 鑑賞・講読と議論(7) 【歴史・文化篇】
- 第9回 鑑賞・講読と議論(8) 【歴史・文化篇】
- 第10回 鑑賞・講読と議論(9) 【歴史・文化論篇】
- 第11回 鑑賞・講読と議論(10) 【歴史・文化論篇】
- 第12回 鑑賞・講読と議論(11) 【哲学思想篇】
- 第13回 鑑賞・講読と議論(12) 【哲学思想篇】
- 第14回 鑑賞・講読と議論(13) 【哲学思想篇】
- 第15回 まとめ 今後のスケジュールリング

演習 A-1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み…40% 意見交換への参加・貢献…60%

5回以上欠席した場合、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

■あらかじめテキストを精読、映画などを鑑賞して来てもらうよう、お願いする場合があります。

■個人で行った芸術鑑賞や旅などの経験も、貴重な議題として、ゼミに持ち込んでください。「今度のゼミで何を語ろうか」と想像しながら、待ち構えて読む・観る・聞くのがコツです。そのためには随時メモを取り、必要があれば予備調査し、話の段どりをシミュレーションする必要があります。

履修上の注意 /Remarks

■ドイツ語の能力は問いません

■鑑賞・講読の具体的な対象は、参加者の興味関心やリクエストに応じて柔軟に決めます。上記の予定【～篇】が変更される可能性もあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文 議論 芸術鑑賞 文化 歴史 地理 哲学思想

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本美術史においては、古くから研究され続けている著名な作品でありながら、未だに通説が存在しない考察点を内包している作品が数多く存在する。本演習では、それらの未だに通説が存在しない問題を考察して来た先行研究論文群を輪読する。

まずは、美術史学研究者らが一般向けに執筆した書籍である千野香織・著『フィクションとしての絵画』の「絵の中の時間」等を輪読し、絵画とスナップ写真との違いを確認する。

次に、先行研究論文群の輪読を行う。今年度は、奈良・朝護孫子寺所蔵「信貴山縁起絵巻」の制作年代に関する複数の論文が、MOA美術館所蔵「湯女図」の失われた部分の復元に関する複数の論文を読む予定。先行研究論文群が読み終わったら、各自の説に賛同できるかといったことをディスカッションする。さらには、夏休み期間を利用して、自分の説をレポートにまとめてもらう（そのレポートの評価は、演習 A - 2 に加える）。これによって、美術史的な研究方法の理解を目指す。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】

受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自律的行動力】

社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

なし。輪読する論文を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 授業の手順の確認、大学図書館において美術史学関係書籍の種類・所在を確認、研究倫理教育について
- 2 回 『フィクションとしての絵画』の「絵の中の時間」前半を輪読
- 3 回 『フィクションとしての絵画』の「絵の中の時間」後半を輪読
- 4 回 「鳥獣人物戯画」甲巻(複製)の鑑賞および意見交換
- 5 回 博物館・美術館の展覧会見学A
- 6 回 「信貴山縁起絵巻」の先行研究論文の輪読①
- 7 回 「信貴山縁起絵巻」の先行研究論文の輪読②
- 8 回 「信貴山縁起絵巻」の先行研究論文の輪読③
- 9 回 博物館・美術館の展覧会見学B
- 10 回 「信貴山縁起絵巻」の先行研究論文の輪読④
- 11 回 「信貴山縁起絵巻」の先行研究論文の輪読⑤
- 12 回 「信貴山縁起絵巻」の先行研究論文の輪読⑥
- 13 回 6～11回を踏まえたディスカッション
- 14 回 博物館・美術館の展覧会見学C
- 15 回 研修旅行の日程説明、研究旅行における解説担当作品の決定

演習 A - 1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加態度...90%
作品観覧カード...10%

指示された提出物が未提出の場合と、5回以上欠席した場合には、評価不能「一」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で輪読する論文には、事前に目を通し、不明な語句や専門用語などはあらかじめ調べた上で授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 演 奈々恵 / HAMA NANAE / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、文献講読や研究発表を通して、文学研究の方法について学んでいきます。まずは文学作品を一つ読み通して自由に意見交換し、その後で文学研究の要となる批評理論を理解していきます。「好き」「嫌い」「面白い」「つまらない」に依存しない多角的な研究アプローチを身につけ、様々な価値観や問題意識を共有する力を養っていきます。

到達目標

- 【思考・判断・表現力】 問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】 受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】 社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

- 小林章夫訳 『フランケンシュタイン』（光文社、2010）¥880 （別の版でも可）
- 廣野由美子 『批評理論入門』（中公新書、2005）¥902

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 北村紗衣 『批評の教室』（ちくま新書、2021）¥902
- 廣野由美子 『小説読解入門』（中公新書、2021）¥990
- 三原芳秋他 『文学理論-読み方を学び文学と出会いなおす』（フィルムアート社、2020） ¥2,420
- 大橋洋一編 『現代批評理論のすべて』（新書社、2006）¥2,029
- 川口喬一他 『最新文学批評用語辞典』（研究社、1998） ¥3,080

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、研究倫理教育、研究プランの立て方
- 2回 『フランケンシュタイン』 読解、ディスカッション(1)
- 3回 『フランケンシュタイン』 読解、ディスカッション(2)
- 4回 『フランケンシュタイン』 読解、ディスカッション(3)
- 5回 『フランケンシュタイン』 読解、ディスカッション(4)
- 6回 研究発表(1)： 中間報告(1)
- 7回 批評理論(1)： 伝統的批評、ジャンル批評
- 8回 批評理論(2)： 読者反応批評、脱構築批評
- 9回 批評理論(3)： 精神分析批評、フェミニズム批評
- 10回 批評理論(4)： ジェンダー批評、マルクス主義批評
- 11回 研究発表(2)： 中間報告(2)
- 12回 批評理論(5)： 文化批評、ポストコロナル批評
- 13回 批評理論(6)： 新歴史批評、文体論的批評
- 14回 批評理論(7)： 透明な批評 および全体のまとめ
- 15回 研究発表(3)： 研究の総括と計画の見直し

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(レジュメ作成、ディスカッション参加)・・・70% 研究発表・・・30%
*ゼミへの出席が全くない場合、もしくは発表が全くない場合、「-」(評価不能)となります。

演習 A-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、指定された箇所の予習を徹底的に行ってからゼミに臨んでください。

履修上の注意 /Remarks

レジュメ作成の順番が回ってきた場合、欠席しないでください。授業が成立しなくなります。担当割やレジュメの分量などは初回の授業時に決めましょう。また授業には必ず辞書（紙・電子どちらでも可）を持参してください。知的怠慢は禁止です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ディスカッションでは「間違っているかもしれない」とか「的外れかもしれない」などと恐れしないでください。雑談的なやり取りの中から、研究の方向性や面白さをつかみ取れることがあります。お互いの研究にとって建設的な場となるように有意義な時間を作りましょう。

キーワード /Keywords

文学研究 / 批評理論 / ディスカッション / プレゼンテーション

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

近現代日本のメディア文化・表象文化を研究するための基礎をかためることが目標となる。
1学期は、文献講読を通して、読む・レジユメをつくる・プレゼンテーションする・コメントする・議論するという一連の過程に自覚的に取り組み、人文学的な知的探求に取り組むための基礎の錬成を目指す。「論文」という文章形式についての理解を深める。なお授業では、合宿形式の演習（発表・議論・交流）あるいは野外実習が含まれることがある。全員参加のなかで、テーマを共有し、各自の問題意識のブラッシュアップを目指す。生協「学生が推薦する書籍のコーナー」のプロデュースを、「メディアをつくる」協働作業として昨年度に引き続きおこなっていく。

到達目標

思考・判断・表現力：問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
コミュニケーション力：受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
自立的行動力：社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 リサーチ入門(研究倫理教育含む)
- 3回 4年生との交流ワークショップ1
- 4回 4年生との交流ワークショップ2
- 5回 文献講読1
- 6回 文献講読2
- 7回 文献講読3
- 8回 文献講読4
- 9回 文献講読5
- 10回 文献講読6
- 11回 卒論中間発表への参加1
- 12回 卒論中間発表への参加2
- 13回 グループディスカッション
- 14回 情報収集研修
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点... 50% 発表... 50%
発表がない場合「-」（評価不能）となる。
出席が全くない場合「-」（評価不能）となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：前回の演習内容の確認
事後：発表者は、改善点の確認。それ以外の参加者は、どのような質問、コメントがよかったのかを反省的に振り返る。

演習 A - 1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習では、チーム作業・全体討議を重視します。演習に積極的に参加してくれる受講生を歓迎します。授業時間外において、グループ討議などの準備が随時必要となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

具体的な内容・スケジュールの詳細、変更点は、ガイダンスで指示するので注意すること。

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

古典研究のための基本的な知識と調査方法を身につけ、古典の多様性に触れることを目標とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 橋本不美男『原典をめざして』笠間書院 1974年
- 池田亀鑑『古典学入門』岩波文庫 1991年
- 池田亀鑑『平安朝の生活と文学』ちくま学芸文庫 2012年

その他、必要に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究倫理について
- 3回 古典文学と「諸本」
- 4回 本と形態①
- 5回 本と形態②
- 6回 古典文学の特徴【素材・発想・構造】
- 7回 古典文学を読む【イントロダクション】
- 8回 同上【王朝物語①】
- 9回 同上【王朝物語②】
- 10回 同上【説話文学①】
- 11回 同上【説話文学②】
- 12回 同上【軍記物語①】
- 13回 同上【軍記物語②】
- 14回 同上【お伽草子の世界】
- 15回 1学期のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50%
平常の学習状況 50%

演習に参加しなかった場合は、評価不能(-)とします。
※ただし、場合によっては代替の課題を課すことがあります。

演習 A - 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

学習に際しては、予習として以下の作業をしておくこと。

- ・ くずし字の翻刻
- ・ 本文の現代語訳
- ・ 担当箇所に出てくる語句の意味調べ

また、参考文献について指示があった場合は、事前に読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

演習形式で授業を進めるため、積極的な態度で授業に臨むこと。

受講人数、受講者の興味・関心により、扱う作品を変更することがある。

場合によっては、通常のゼミの他、課外研修を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は、文学理論（批評理論）について幅広く学びます。
筒井康隆『文学部唯野教授』で紹介されている文学理論について、自分なりに調べたこと、考えたことを担当者が発表し、発表を基にみんなで議論することで、理論の理解を豊かなものにすることが、授業のねらいです。

（到達目標）

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

筒井康隆『文学部唯野教授』（1990年1月 岩波書店）
2000年1月に文庫版も出ています。そちらでもかまいません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○テリー・イーグルトン『文学とは何か』（大橋洋一訳 1985年10月 岩波書店）
その他の参考書については、授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 各自、『文学部唯野教授』から1つ、文学理論を選択し、担当する理論について調べます。そして、資料等を基に、どういう点かどのように解釈に役立つかなど、考えたことを発表。それを受けて、参加者みんなで自由に議論しましょう。
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（50%）、レポート（50%）により評価します。
①演習発表を行う、②学期末レポートを提出する、以上①、②を満たさない場合、評定不可で成績は「-」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習
次回学ぶことになる批評理論について、教科書を読んで予習しておいてください。
- 事後学習
学んだ批評理論について、教科書以外の本を手に取り読んで、理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

私語や教室の出入りなど、授業の邪魔になるようなことは慎んでください。
また、『文学部唯野教授』を読んでおいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

『文学部唯野教授』でされている理論の解説に、どれだけプラスαをつけることができるかがポイントです。
積極的に、楽しくやっていきましょう。

演習 A - 1 【昼】

キーワード /Keywords

文学理論 (批評理論)、新批評、ロシア・フォルマリズム、解釈学、受容理論、構造主義、ポスト構造主義

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この演習では、国語学ならびに日本語学上の問題を取り扱う諸文献を読みます。文献内容の解説作業を通して、国語学・日本語学についての基礎的な知識や研究方法を習得することを目指すとともに、それぞれのことばや言語現象と日本人の思考方法との関わりについても考察します。発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、議論を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 運営方針、担当文献決定、発表要領
- 第2回 模擬発表(近現代語)
- 第3回 模擬発表(古代語)
- 第4回 先行研究の探し方、図書館ツアー(研究倫理教育含む)
- 第5回 各人の発表(1)
- 第6回 各人の発表(2)
- 第7回 各人の発表(3)
- 第8回 各人の発表(4)
- 第9回 研修1(レポートの書き方、研究対象とする言語資料、索引・CD-ROM)
- 第10回 研修2(コーパス、データベースの使い方、先行研究の入手方法、夏休みの課題)
- 第11回 各人の発表(5)
- 第12回 各人の発表(6)
- 第13回 各人の発表(7)
- 第14回 各人の発表(8)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% 日常の授業への取り組み...50%
発表(2回)を行わなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、次回の授業で取り扱う文献を精読し、疑問点や自身の意見を整理し、授業に臨んでください。

演習 A-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

十分な発表準備を行うとともに、研修内容を踏まえ、夏休みの課題にしっかり取り組むこと。
授業科目の一環として学外活動を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習A-1 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	演習A-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら異文化間教育は、教師が単に知識を与え、学習者が知識や技能の習得を目指すものではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習A-1では、異文化間教育学の研究について、多様な事例を研究としている専門書を輪読します。特に、「モノリンガル思考と定住性」の呪縛に対する気づき及び、その呪縛からの解放を目指します。

また、同時に他者の人生経験を理解し、自分がこれまでの人生の中で経験したことを言葉にして表現できるようにするために、(自己)物語を学びます。自分自身の経験を言語化しようと試みることで、自己理解の度合いを推測することができ、そのことが内面的成長を促すと期待できます。そして、人にとって言葉がどのようなものであるのかの理解が深められます。これは、異文化間教育学を学ぶものにとって必須のことです。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①実践的な学問としての異文化間教育学について、その研究を知る。
- ②自らの関心を探索しながら自分の関心に適した研究分野を発見する。
- ③自分が異文化間教育実践分野の何に関心を持っているのか言語化を試みる。
- ④研究について深く知ることに興味を持つ。

教科書 /Textbooks

主：川上郁雄他(2018)『移動とことば』くろしお出版
副：榎本博明(2011)『<ほんとうの自分>の作り方：自己物語の心理学』講談社現代新書

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

かどやひでのり他(2017)『ことば / 権力 / 差別II 行動する社会言語学』三元社
野呂香代子他(2001)『「正しさ」への問い：批判的社会言語学の試み』三元社
○西條剛央(2009)『研究以前のモンダイ 看護研究で迷わないための超入門講座』医学書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	オリエンテーション、なぜ「移動とことば」なのか 【移動】【ことば】
2回	第1章 「ハーフ」の学生の日本留学【アイデンティティ変容】【ライフストーリー】
3回	第2章 移動する青年のことばとアイデンティティ【継承語】
4回	第3章 日仏国際家族環境を背景に持つ日本語専攻修了生の「移動」の経験と意味付け【統合】【SCAT】
5回	第4章 子どもたちが「移動しながら生きる自分と向き合う」授業実践【日本人学校】【ことばの教育】
6回	第5章 外国につながる子どものキャリアデザイン【キャリアデザイン】【外国につながる子ども】
7回	アイデンティティを考える
8回	第6章 国際結婚家庭2世代の「移動」と「選択」【家族の軌跡】【選択】
9回	第7章 ある中国残留孤児の系譜【同化】【適応】
10回	第8章 移住者の語りに見られる「経験の移動」が示唆するもの【ナラティブ】【Agency】
11回	第9章 国境を越えたあるろう者のライフストーリー【ろう者のことば】【越境】
12回	第10章 移動するパキスタン人ムスリム女性の青年期の言語生活【言語レパートリー】【ディアスポラ】
13回	第11章 「移動する子ども」からモバイル・ライブズを考える【複数言語環境】【移動のリアリティ】
14回	ライブを考える
15回	「移動とことば」研究とは何か【質的研究】

演習 A-1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジユメを含む)...50% 参加者としての貢献度...30% レポート...20%
(主に発表を聞く時)
・ 3分の1以上、無断で欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、テキストの内容理解と批判的考察によって成り立ちます。そのため、該当する章の予習は、必ず行ってください。
そして、授業後には、毎回授業報告を記録として残します。それをもとにして、復習を行います。

履修上の注意 /Remarks

助け合うことができるような人間関係を日頃から構築する努力をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習者オートノミーは、同僚性の中でこそ育つ。

キーワード /Keywords

異文化間教育学 移動 ことば アイデンティティ ライフ 質的研究 物語 認識論

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

アメリカ映画を題材として用いる、アメリカ研究ゼミです。アメリカ映画の中に登場する会話、情景描写、ストーリー展開、登場人物の描かれ方などを分析することにより、作品を背後で支配しているアメリカ人の美意識や、価値観がいかなるものであるかを考察します。さらにアメリカ映画とアメリカの現実との関係がいかなるものであるかを探求します。その作業を通して、アメリカ(人、文化、社会、歴史)の特質に対する理解を深めていくことを主な目的とします。

ゼミのやり方としては、毎回、担当者を3名決め、B4のレジュメを個別に作成してもらった上で、レジュメの解説を行なってもらい、その発表内容をゼミ生全員で検討する形で進めていきます。発表する際の視点、レジュメ作成の要領、作品分析の方法、発表に必要な書籍については、最初の時間に詳しく説明します。発表に必要な資料の配置場所を知ってもらうため、図書館巡りも2回目のゼミの際に行ないます。

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

取り上げる題材はゼミ生と相談し、できるだけゼミ生の意向が反映されるようにします。過去には、『プラダを着た悪魔』、『アラジン』、『魔法にかけられて』、『チャーリーとチョコレート工場』、『ホーム・アローン』、『アナと雪の女王』などの映画を取り上げ、内容を様々な文化的視点から議論しました。ゼミ生が卒論で取り上げることが決定した作品は最優先で題材として取り上げます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『早わかりアメリカ』 302.53 I32
 - 『そうだったのかアメリカ』 302.53 I33
 - 『読んで旅する世界の歴史と文化』 亀井俊介 290.8 Y82
 - 『異文化社会アメリカ』 示村陽一 302.53
 - 『アメリカ合衆国とは何か』 253. Ta45
 - 『アメリカ人の性格』 ゴーラー 書庫にしかない 361.6 G67
 - 『この一冊でアメリカの歴史がわかる』 253.01 Sa69
 - 『アメリカの大衆文化』 亀井俊介 253.07 H85
 - 『アメリカン・ウェイ・オブ・ライフ』 302.53 B89
 - 『ヨーロッパ人のアメリカ論』(アメリカ古典文庫21) 253 A44 1-21
 - 『アメリカの歴史 テーマで読む多文化社会の夢と現実』(有賀夏紀) 253 A79
 - 『アメリカ人の思考法』 エドワード・スチュワート 361.42 St5
 - 『文明としてのアメリカ』(全5巻) 日本経済新聞社 302.53
 - 『アメリカの歴史を知るための60章』 富田虎男 253 To58
- (すべて図書館の蔵書です。)

演習 A - 1 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 作品分析の方法やレジユメの作成要領の説明、参考文献などの紹介
- 2回 図書館めぐり、文献の検索方法の再確認
- 3回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論1 (ストーリーの分析を中心に)
- 4回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論2 (登場人物の分析を中心に)
- 5回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論3 (文化との関連性を中心に)
- 6回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論4 (社会との関連性を中心に)
- 7回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論5 (歴史との関連性を中心に)
- 8回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論6 (政治との関連性を中心に)
- 9回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論7 (経済との関連性を中心に)
- 10回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論8 (映画と原作の比較)
- 11回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論9 (フェミニズムの視点から)
- 12回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論10 (作中音楽の意義)
- 13回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論11 (監督の背景の視点から)
- 14回 学生が選択した映画作品に関する発表と議論12 (リメイクの意義)
- 15回 まとめ、夏休みの課題レポートに関する説明

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミの参加への積極性...60% 発表内容...40%

公欠を除いた欠席回数が、授業回数の3分の1以上の場合は、一 (評価不能) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、発表の担当が当たっている場合はB 4 のレジユメを作成して下さい。発表が当たっていない学生も、題材となる映画を文化的側面に注意しつつ、内容をチェックして下さい。授業後には、発表レジユメを再度読み直し、可能な限りレジユメのテーマと関連した書物を閲覧し、発表されたテーマに関する知識の拡充を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この演習では、文献講読と個人研究報告を通じて、イギリス文化を中心的な対象としながら、文化研究の様々な方法について学んでいきます。「文化」を通じて「社会」全体を把握するという目標を念頭に置きながら、参加者同士で議論を行い、理解を深めていきたいと思っています。

[到達目標]

- ・ 思考・判断・表現力：問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- ・ コミュニケーション力：受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- ・ 自立的行動力：社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

履修者と相談の上、演習中に指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 インTRODクシヨン (研究の進め方・研究倫理について)
- 第二回 文献講読 (1)
- 第三回 文献講読 (2)
- 第四回 文献講読 (3)
- 第五回 文献講読 (4)
- 第六回 文献講読 (5)
- 第七回 文献講読 (6)
- 第八回 文献講読 (7)
- 第九回 個人報告 (1)
- 第十回 個人報告 (2)
- 第十一回 個人報告 (3)
- 第十二回 個人報告 (4)
- 第十三回 個人報告 (5)
- 第十四回 個人報告 (6)
- 第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミへの参加 60% ゼミ報告 40%
※ゼミに全く参加しなかった場合、成績評価は「- (バー)」になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献講読においても、個人報告においても、事前に指示されたテキストないしは個人報告原稿を読んできて下さい。

履修上の注意 /Remarks

演習 A-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

幅広い興味を持って、討論に積極的に参加することを期待します。

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習では、まず、文献の読み方を理解する。次に、西洋（主にフランス）や日本を対象に、有形・無形の文化遺産、食、観光、アニメ、マンガ、ファッション、文化・社会における女性、性的マイノリティ、移民などのテーマについての基礎知識を習得する。また、これらのテーマを論じる上で重要な用語・概念や資料分析の方法を身につける。

（到達目標）

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

なし。プリントまたは文献のコピーを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の進め方
- 第2～4回 文献の読み方
- 第5～14回 文献講読・資料分析
- 第15回 まとめ

以上は予定であり、受講者の理解度や人数に応じて変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への積極性、発表・・・50%、期末レポート・・・50%
なお、期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前は、指示された通りに予習を行うこと。授業後は、授業の復習にとどまらず、紹介された文献を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習の主役は学生である。議論に参加しやすい雰囲気を作るよう心がけるので、間違いを恐れず積極的に発言してほしい。

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

歴史(政治・社会・文化)を中心としたアメリカ地域研究を行い、学問の方法に触れる。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

必要な文献を授業の最初に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時および授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方、テキスト選定などについての話し合い
- 2回 レジユメの作り方、発表の仕方についての説明および研究倫理教育
- 3回 受講者による発表・討議
- 4回 受講者による発表・討議
- 5回 受講者による発表・討議
- 6回 受講者による発表・討議
- 7回 受講者による発表・討議
- 8回 受講者による発表・討議
- 9回 受講者による発表・討議
- 10回 受講者による発表・討議
- 11回 受講者による発表・討議
- 12回 受講者による発表・討議
- 13回 受講者による発表・討議
- 14回 受講者による発表・討議
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、日常の授業への取り組み(授業への貢献度、発表内容、作成した資料やレジユメ)100%。ただし出席状況によって減点する場合がある。また5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストを読み、事後に授業中に興味を持ったことについて自分自身で調べ、知識を深める。また、日々のニュースに関心を持つ。

履修上の注意 /Remarks

受講生は全員、毎回テキストを読み込んで授業に出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習 A - 1 【昼】

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 1				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成にあたっては、自身の関心対象にまつわる知識を深めるだけではなく、研究としての方法論が必要となります。本演習では、批評理論の主だったものについて授業参加者がレジュメを準備して報告を行い、それらについての理解を深めます。効果的で説得的な発表形式、資料の作り方を模索してください。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

ピーター・バリー『文学理論講義: 新しいスタンダード』ミネルヴァ書房、2014。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫。
- 土田ほか『現代文学理論』新曜社、1996。
- テリー・イーグルトン『文学とは何か』岩波文庫。
- ラマー・セルデン『ガイドブック現代文学理論』大修館書店、1989。
- ウンベルト・エコ『論文作法』谷口勇訳、而立書房、1991。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン、授業運営と成績評価について
- 第2回 研究倫理教育
- 第3回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第4回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第5回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第6回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第7回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第8回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第9回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第10回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第11回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第12回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第13回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第14回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加60%、ゼミでの報告40%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には発表・報告対象となっている章を入念に読むこと。授業後には議論の対象となった問題について、関連する文献を確認すること。

演習 A-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

自分の意見を述べ、論理的に議論をすすめること。自分の関心領域につねにアンテナを張るとともに、隣接領域や自身の研究の参考になる可能性をもつものを貪欲に吸収すること。たくさん本を読み、色々な意見に耳を傾け、すばらしい作品や研究に数多くふれること。議論への積極的な参加が必須。議論を通じて卒業論文の構想を具体的なものにしていきましょう。合宿を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン 文学 文化 批評

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

東南アジア社会を対象に、主として文献購読に基づきながら、植民地化や観光化などを契機とする「他者」との相互作用の中で、文化がいかに持続、変容、展開しているのかを考察する。それにより、多民族多言語多宗教社会の現状を日本との関係性も視野に入れた歴史的な視座から理解していく。適宜オーディオビジュアル資料なども援用する。それらの資料を批判的に検討し、ゼミ生同士でディスカッションを重ねる。学外での見学調査実習も行う予定である。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

演習内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習内で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、研究倫理教育
- 第2回 文献講読とディスカッション(1)
- 第3回 文献講読とディスカッション(2)
- 第4回 文献講読とディスカッション(3)
- 第5回 文献講読とディスカッション(4)
- 第6回 文献講読とディスカッション(5)
- 第7回 文献講読とディスカッション(6)
- 第8回 中間討論と小活
- 第9回 文献講読とディスカッション(7)
- 第10回 文献講読とディスカッション(8)
- 第11回 文献講読とディスカッション(9)
- 第12回 文献講読とディスカッション(10)
- 第13回 文献講読とディスカッション(11)
- 第14回 文献講読とディスカッション(12)
- 第15回 総合討論とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40%、発表60%

演習への参加状況が著しく悪く、課題の提出がない場合は「一」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回事前学習用の資料を指示するので、目を通してから参加すること。演習内での購読やディスカッションの内容を踏まえて、参考資料を指示するので活用して復習すること。

演習 A-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

演習内での議論への積極的な参加を重視するので、事前にテキストを熟読し、疑問点、議論したい点を考えてくること。
新聞、テレビ、インターネットなどを通して実社会で生起する事象に日ごろからよく目配りし、
演習で学んだことに照らして再考してほしい。扱うテーマを自身の関心にひきつけて主体的に取り組んでほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

身近な他者の存在や、ちょっと新しい世界の見方など、小さな発見をともにしたいと思います。

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習では、テキストとの基本的な向き合い方を学ぶことを目標とする。

具体的にはまず、各自の興味と関心に基づきながら、日本の近代短編小説を1作品選ぶ。次に、本文を可能な限り細分化しながら、注を付ける作業を行う。この作業は、誤読を防ぐことはもちろん、恣意的な読みを抑制するために行うものだが、とはいえ注付けの作業もやはり恣意的なものであることを免れない。ある言葉に、どのような意味やイメージを重ねて読むかは、厳密には読者一人ひとり異なるからである。

ならばいっそのこと、注付けの際には私的解釈もふんだんに盛り込みながら行ってみよう。こうした注釈の作業をとおしてテキストのことはと向き合った際に立ち上がってくる〈物語〉が、〈私の読み〉となる。

〈私の読み〉が研究の成果となるためには、先行論にはないオリジナリティが必要だが、先行論と対話を始める前に、荒削りであっても〈私の読み〉を獲得しておくことが重要である。本演習では、それを可能とする一つの方法「注釈」を学ぶ。

なお、先行論との対話の仕方は、演習 A-2で学ぶ。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

各自で取り上げる作品のマスターコピーを準備し、教員がそれを印刷して配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○日本近代文学学会編『日本近代文学研究の方法』(ひつじ書房、2016年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ガイダンス
第2回	研究倫理教育
第3回	日本近代文学研究の基本①【注釈の方法】
第4回	日本近代文学研究の基本②【発表資料の作り方】
第5回～第14回	学生による演習発表
第15回	まとめ【演習A-2にむけて】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容... 70% 授業への取り組み... 30%

※発表を行わなかった場合や4回以上欠席した場合は評価不能(一)とし、成績評価の対象としない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予告された文学作品を必ず読んでから、演習に参加すること。授業後は、演習で学んだことや他の学生の解釈を踏まえて作品を再読すること。

履修上の注意 /Remarks

演習担当者は責任を持って準備と発表を行うこと。他の学生は、本文についての疑問や読解に関する意見を述べるための事前準備をしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習 A - 1 【昼】

キーワード /Keywords

演習 A - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM311M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

西洋美術史研究における専門的知識と方法論を学ぶ。
美術史研究を行う上で、作品を丹念に観察することはもちろん、専門の研究書や論文を読破することは非常に重要である。そこで本授業では、西洋美術について書かれた翻訳テキスト『西洋美術の歴史』を教科書として受講者全員で分担して精読する。それぞれ担当箇所を決め、各自の担当内容について事前にパワーポイントとレジュメを作成し、補足を交えながら発表してもらう。その後、受講者全員で研究史上の意義と問題点についてディスカッションを行い、検討を加える。
このようにして、さまざまな時代や地域の作品を精読することで美術史研究の基本を身に着けるのが本授業の目的である。また、こうした知識・方法論は、学芸員として働く際の基礎体力にもなる。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

H.W.ジャンソン、A.F.ジャンソン『西洋美術の歴史』（創元社、2001年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス及び研究倫理教育（授業の手順の確認と受講者の関心についての調査）
- 第2回 西洋美術史の文献の調べ方について
- 第3回 西洋美術史の方法論について
- 第4回 西洋美術史通史について
- 第5回 テキストの発表①
- 第6回 発表①についての整理、研究史上の意義と問題点をめぐるディスカッション
- 第7回 テキストの発表②
- 第8回 発表②についての整理、研究史上の意義と問題点をめぐるディスカッション
- 第9回 テキストの発表③
- 第10回 発表③についての整理、研究史上の意義と問題点をめぐるディスカッション
- 第11回 テキストの発表④
- 第12回 発表④についての整理、研究史上の意義と問題点をめぐるディスカッション
- 第13回 テキストの発表⑤
- 第14回 発表⑤についての整理、研究史上の意義と問題点をめぐるディスカッション
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み（レポート提出含む）...100%

- ※5回以上欠席した場合は、評価不能（－）とします。
- ※15分以上の遅刻は欠席扱いとします。
- ※担当の発表を行わなかった場合、評価不能（－）とします。

演習 A - 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で扱うテキストについては受講者全員が事前に目を通し、不明な語句や専門用語などはあらかじめ調べること。
発表担当者はいかなる質問にも答えられるよう、教科書以外の研究書をも読み込み、準備しておくこと。
発表担当者以外の者は、多角的な質問ができるように、内容を熟読しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

西洋美術の中で関心のある作家や作品についていくつか考えておくこと。(1回目の授業時に調査)
パワーポイントを扱えるようになっておくこと。
授業開始前と終了後は、使用機材(ノートパソコン、プロジェクター、スクリーン等)の準備と片づけを行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

西洋美術 博物館学

演習A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	演習A-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

目標

■前学期に引き続き、さまざまな対象を鑑賞・講読、分析し、意見交換をしつつ、それを経て得た知識を期末のプレゼンテーションへ収斂させましょう。

テーマ討論について

■前学期（演習A-1）を終えて、参加者各自の興味関心が見えてくるはずなので、それを踏まえて教員から討論テーマを提案します。それぞれが自分の得意分野にテーマを引き付けて意見し、みなが広い視野と知識を得て帰るのが目的です。

到達目標

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探索し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

ノート（前学期から継続の「ネタ帳」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介・指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 鑑賞・講読と討論（1）
- 第2回 鑑賞・講読と討論（2）
- 第3回 鑑賞・講読と討論（3）
- 第4回 鑑賞・講読と討論（4）
- 第5回 鑑賞・講読と討論（5）
- 第6回 対談・鼎談を読み、まねる（1）
- 第7回 対談・鼎談を読み、まねる（2）
- 第8回 テーマ討論（1）
- 第9回 テーマ討論（2）
- 第10回 プレゼンテーションの仕方（1）【話し手篇】
- 第11回 プレゼンテーションの仕方（2）【聞き手篇】
- 第12回 プレゼンテーションと質疑応答（1）【グループA】
- 第13回 プレゼンテーションと質疑応答（2）【グループB】
- 第14回 プレゼンテーションと質疑応答（3）【グループC】
- 第15回 プレゼンテーションと質疑応答（4）【グループD】 および、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み…50% プレゼンテーション…50%

5回以上欠席した場合、評価不能（-）とする。

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

■あらかじめテキストを精読、映画などを鑑賞して来てもらうよう、お願いする場合があります。

■前学期と異なり、プレゼンテーション用のレジюмеを準備するような作業も生じます。

■30分間のプレゼンでどれくらいの内容を語れるものなのか、文字で書き起こせば何文字ぶんなのか、体内時計を作っておくことが重要です。就職のための面接や、就職後のプレゼンでも役に立つはずの能力です。

■語り方やレジюмеを工夫するということは、聞き手の身になって想像するということです。そのためには聞き手である人たちが何者であるかを知っている必要があるでしょう。普段から、ゼミの仲間がどういうことに関心を持ち、どういう思考傾向をもった人たちなのか、観察して、把握しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

■鑑賞・講読の具体的な対象は、参加者の興味関心やリクエストに応じて柔軟に決めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

卒業論文 議論 プレゼンテーション 芸術鑑賞 文化 歴史 地理 哲学思想

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	演習 A-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習の前半は、先行研究論文の輪読を行う。まずは、黒田日出男「中世の夜と鬼の身体感覚-『長谷雄草紙』」の前半（添景モチーフの意味・時間表現）か、あるいは、MOA美術館所蔵「湯女図」の失われた部分の復元に関する先行研究論文を輪読する。さらには、佐藤康宏「ディスクリプション講義」（奈良国立博物館所蔵「十一面観音像」、伝・狩野元信「囲碁観瀑図屏風」など）を読む予定。

本演習の後半は、各自、卒業論文で中心的に取り上げる予定の作品を決めてもらい、絵画の場合には、描法や画面内容・描写表現を、彫刻の場合には、材質・造法や造形を詳細に紹介する発表を行ってもらおう。少なくとも発表の一週間前までには、レジュメの下書きを提出し、チェックを受けて、発表当日までには改善したレジュメを準備しておくこと。これによって、卒業論文のテーマ設定に向けての準備と、美術史学においては必須の能力であるディスクリプションの能力の習得を目指す。

（到達目標）

【思考・判断・表現力】

問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】

受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】

社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

なし。輪読する論文を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の手順の確認
- 2回 「中世の夜と鬼の身体感覚-『長谷雄草紙』」あるいは「湯女図」先行研究の輪読①
- 3回 「中世の夜と鬼の身体感覚-『長谷雄草紙』」あるいは「湯女図」先行研究の輪読②
- 4回 「中世の夜と鬼の身体感覚-『長谷雄草紙』」あるいは「湯女図」先行研究の輪読③
- 5回 「中世の夜と鬼の身体感覚-『長谷雄草紙』」あるいは「湯女図」先行研究の輪読④
- 6回 2～5回を踏まえた発表あるいはディスカッション
- 7回 「ディスクリプション講義」の輪読①
- 8回 「ディスクリプション講義」の輪読②
- 9回 「ディスクリプション講義」の輪読③
- 10回 「ディスクリプション講義」の輪読④
- 11回 博物館あるいは美術館見学A
- 12回 発表およびディスカッション①
- 13回 発表およびディスカッション②
- 14回 発表およびディスカッション③
- 15回 博物館あるいは美術館見学B

演習 A-2 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容...35% 夏休みの課題レポート・研修旅行レポート...30% 授業への参加態度...25% 作品観覧カード...10%

下記のいずれかに該当する場合には、評価不能「一」となります。
課題の未提出・5回以上の欠席・自身の発表を行っていない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で輪読する論文には、事前に目を通し、不明な語句や専門用語などはあらかじめ調べた上で授業に臨むこと。
発表者は、事前にレジユメのチェックを受けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 濱 奈々恵 / HAMA NANAE / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、「演習 A - 1」で学んだ批評理論を使って、さらに深い文学研究、特に自分の意見を論理的にまとめる能力を高めていきます。作品はゼミ生のテーマに合わせて選択し、どの批評理論を使えば効果的に自分の意見を述べられるかを見定めていきます。テーマ設定の仕方、先行研究の探し方、論文の読み方、論文の書き方、引用の仕方、文献のまとめ方など、研究倫理上必要な作法を身に付けて、実際に論文を仕上げていきます。

到達目標

- 【思考・判断・表現力】 問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探索し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】 受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】 社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

各回で資料（内容に応じて、日・英のもの）を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 戸田山和久 『新版 論文の教室-レポートから卒論まで』 (NHKブックス、2012) ¥1,320
- 石井一成 『ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方』 (ナツメ社、2011) ¥1,210

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究発表(1) : 研究の進捗状況と今後の計画
- 2回 作品批評(1)
- 3回 作品批評(2)
- 4回 作品批評(3)
- 5回 作品批評(4)
- 6回 作品批評(5)
- 7回 作品批評(6)
- 8回 テーマ設定の仕方、先行研究の探し方
- 9回 論文の読み方、論文の書き方
- 10回 引用の仕方、文献のまとめ方
- 11回 研究発表(2) : 中間報告
- 12回 論文執筆とディスカッション(1)
- 13回 論文執筆とディスカッション(2)
- 14回 論文執筆とディスカッション(3)
- 15回 研究発表(3) : 研究の総括と計画の見直し

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(レジュメ作成、ディスカッション参加、研究発表)・・・60% 論文・・・40%
*ゼミへの出席が全くない場合、もしくは発表が全くない場合、「-」(評価不能)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、指定された箇所の予習を徹底的に行ってからゼミに臨んでください。

演習 A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

レジュメ作成の順番が回ってきた場合、欠席しないでください。授業が成立しなくなります。担当割やレジュメの分量などは初回の授業時に決めましょう。また授業には必ず辞書（紙・電子どちらでも可）を持参してください。知的怠慢は禁止です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ディスカッションでは「間違っているかもしれない」とか「的外れかもしれない」などと恐れしないでください。雑談的な雰囲気の中から、研究の方向性や面白さをつかみ取れることがあります。最終的に提出する論文に関する詳細は、授業内で説明を行います。

キーワード /Keywords

文学研究 / 批評理論 / ディスカッション / プレゼンテーション / 論文執筆

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	演習 A-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

近現代日本のメディア文化・表象文化・大衆文化をテーマとした演習をおこなう。前半は演習A-1をふまえて共有テーマの継続議論をおこなう。後半は、独自の研究対象を決めて、発表・コメント・討議に引き続き取り組む。特に資料調査の技術、プレゼンテーションの技術向上を目指す。本演習は、卒業論文執筆にむけての準備期間として位置づけており、4年生の卒論中間発表の積極的な聴講を求める。なお授業では、合宿形式の演習（発表・議論・交流）が含まれることがある。また、演習の内容を補完するために、学外施設の見学を取り入れる予定。

到達目標

思考・判断・表現力：問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
コミュニケーション力：受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
自立的行動力：社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 4年生とのワークショップ
- 3回 4年生とのワークショップ
- 4回 卒論中間発表参加1
- 5回 卒論中間発表参加2
- 6回 卒論中間発表参加3
- 7回 グループ討議1
- 8回 グループ討議2
- 9回 グループ討議3
- 10回 グループ討議4
- 11回 個人発表1
- 12回 個人発表2
- 13回 個人発表3
- 14回 個人発表4
- 15回 まとめ(卒論ガイダンス)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点...50% 発表...50%
発表がない場合「-」（評価不能）となる。
出席が全くない場合「-」（評価不能）となる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：ワークショップ、個人発表のための素材を常時探しておくこと。
事後：プレゼンテーション、論文作成技術向上のために、演習内容を振り返る。

演習 A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

本演習は個人発表が中心となるが、小グループのなかでの相談や意見交換も重要な要素として取り込む。演習に積極的に参加してくれる受講生を歓迎する。授業外時間においてグループ討議などの準備が求められる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

具体的な内容・スケジュールの詳細、変更点は、ガイダンスで指示するので注意すること。

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

古典研究のための基本的な知識と調査方法を身につけ、古典の多様性に触れることを目標とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

適宜プリント資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○見玉幸多『くずし字用例辞典』東京堂出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション テキスト配布・担当の振り分け
- 2回 くずし字の読み方
- 3回 発表の進め方等の解説
- 4回 発表と質疑応答
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50%
平常の学習状況 50%

演習に参加しなかった場合は、評価不能(-)とします。
※ただし、場合によっては代替の課題を課すことがあります。

演習 A-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習として以下の作業をしておくこと。

- ・ くずし字の翻刻
- ・ 本文の現代語訳
- ・ 担当箇所に出てくる語句などの意味調べ

また、参考文献について事前・事後に指示があった場合は、かならず目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

演習形式で授業を進めるため、積極的な態度で授業に臨むこと。

受講人数、受講者の興味関心によって、取り扱う作品を変更することがある。

場合によっては、ゼミの他に課外研修を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	演習 A-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本現代文学の研究方法を習得することが、この授業のねらいです。
具体的に近現代の短編小説を一つ取りあげ、その小説における問題点を指摘するなどしてもらいます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

ゼミのガイダンス時に、参加者全員で作成します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 現代日本の短編小説から好きなものを1つ選び、40～50分程度の研究発表をしてもらいます。残りの時間は質疑応答の時間です。
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(50%)、レポート(50%)により評価します。

①演習発表を行う、②学期末レポートを提出する、以上①、②を満たさない場合、評定不可で成績は「-」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】

授業前に演習で扱う小説を読んで予習しておいてください。

授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

自分の扱う作品だけでなく、他のゼミ生の扱う作品もなるべく読んでくるようにしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最初の演習発表ですので、高度なことは要求しません。

文学研究の雰囲気を知ってもらえればと思います。

キーワード /Keywords

日本現代文学

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	演習 A-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この演習では、国語学ならびに日本語学上の問題を取り扱う諸文献を読みます。文献の解説作業を通して、国語学・日本語学についての基礎的な知識や研究方法を習得することを目指すとともに、それぞれのことばや言語現象と日本人の思考方法との関わりについても考察します。発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、議論を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 スケジュール、発表文献の決定
- 第2回 卒業論文途中経過発表会(1)
- 第3回 卒業論文途中経過発表会(2)
- 第4回 卒業論文途中経過発表会(3)
- 第5回 各人の発表(1)
- 第6回 各人の発表(2)
- 第7回 各人の発表(3)
- 第8回 各人の発表(4)
- 第9回 夏休みの課題レポートの講評、卒論テーマの設定について
- 第10回 レポートの修正と質問回答
- 第11回 各人の発表(5)
- 第12回 各人の発表(6)
- 第13回 各人の発表(7)
- 第14回 各人の発表(8)
- 第15回 春休みの課題、4年生1学期について

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...50% レポート...25% 日常の授業への取り組み...25%
レポート提出と発表(2回)のいずれかを行わなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、次回の授業で取り扱う文献を精読し、疑問点や自身の意見を整理し、授業に臨んでください。

演習 A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。
授業科目の一環として学外活動を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	演習 A-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら異文化間教育は、教師が単に知識を与え、学習者が知識や技能の習得を目指すものではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習A-2では、日本語がリンガフランカ化している現象に注目した論考を輪読します。英語に比べると、明らかに規模が異なるけれども、日本語は、既に、日本国内に限らず、日本人日本語母語話者がいないところでも、学ばれ、使われています。これをどのように受け止めたいのでしょうか。そして、日本語がリンガフランカ化している現象は、日本国内に目を向けた場合、多文化共生にとって好ましいことでしょうか。それとも、英語と同様に、一方で、深刻な問題を孕んでいると見るべきでしょうか。これは、異文化間教育を学ぶものにとって必須のことです。

この授業の主な到達目標は、以下のとおりである。

- ①これまでの異文化間教育について理論と実践例から、当事者の立場から問い直しをする。
- ②自らの関心を探求しながら自分の関心に適した研究分野を発見する。
- ③自分が異文化間教育の実践分野において何に関心を持っているのか言語化を試みる。
- ④研究について深く知ることに関心を持つ。

教科書 /Textbooks

青山玲二郎・明石智子・李楚成編(2020)『リンガフランカとしての日本語-多言語・多文化共生のために日本語教育を再考する』明石書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『「移動する子ども」という記憶とカ-ことばとアイデンティティ』(川上郁雄編、2013年、くろしお出版)
- 『異文化コミュニケーション学への招待』(鳥飼玖美子他、2011年、みすず書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、リンガフランカ現象【リンガフランカ】【国際共通語】【公用語】
- 2回 多言語世界における自己・他者・世界の理解【レパートリー】【トランスランゲージング】
- 3回 バイリンガル教育の現場における教師間協働【CLIL】【バイリンガル教育】【協働】
- 4回 継承日本語教育【ジャンルアプローチ】【継承語】【補習校】
- 5回 ムスリムコミュニティの形成と日本語能力【 Masjid 】
- 6回 協働学習と異文化コミュニケーション【内なる国際化】【高等教育】【正課内】【正課外】
- 7回 日本語の国際言語化【オーナーシップ】【母語話者主義】
- 8回 言語使用者を母語話者規範から解放する言語教育【国際英語】【国際日本語】
- 9回 リンガフランカとしての日本語【東亜共通語】【リンガフランカ使用】【母語話者主義】
- 10回 ポストパンデミック時代のオンライン授業と言語教育【デジタルディバイド】【視線の不一致】
- 11回 多文化共生と言語教育【やさしい日本語という考え方】
- 12回 多文化共生と外国語教育【外国語教育と異文化コミュニケーション】
- 13回 卒論の研究テーマにしたいこと(1)興味のあることが研究テーマなのか
- 14回 卒論の研究テーマにしたいこと(2)興味のあることが研究テーマとなるために
- 15回 卒業論文の研究計画を立てよう【研究計画】

演習 A-2 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメを含む)...50% 参加者としての貢献度...30% レポート...20%
(主に発表を聞く時)
・ 3分の1以上、無断で欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、予習を前提として行います。テキストの内容理解と批判的考察を行ってください。
また、授業終了後には、授業内容をまとめた報告書を交代で作成してもらいます。復習は、それを使って行います。

履修上の注意 /Remarks

助け合うことができるような人間関係を日頃から構築する努力をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学習者オートノミーは、同僚性の中でこそ育つ。

キーワード /Keywords

リンガフランカ 多文化共生 母語話者主義 外国語教育

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	演習 A-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

アメリカ映画を題材として用いる、アメリカ研究ゼミです。アメリカ文学・映画の中に登場する会話、情景描写、ストーリー展開、登場人物の描かれ方などを分析することにより、作品を背後で支配しているアメリカ人の美意識や、価値観がいかなるものであるかを考察します。またアメリカ文学・映画とアメリカの現実との関係がいかなるものであるかを探求します。その作業を通して、アメリカ（人、文化、社会、歴史）の特質に対する理解を深めていくことを主な目的とします。

また、夏休み中に研究テーマを決定し、そのテーマに関して4000字のレポートを書いてもらいます。二学期冒頭には、そのレポートに関する発表を行っていただきます。さらに、決定した研究テーマに関する発表を、2回ほど行っていただきます。最終回には、卒論執筆要領に関する指導も行います。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。学生が準備した発表用レジユメを印刷したものを主に使用します。
参考資料としてプリントを配布する場合があります。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『早わかりアメリカ』 302.53 I32
 - 『そうだったのかアメリカ』 302.53 I33
 - 『読んで旅する世界の歴史と文化』 亀井俊介 290.8 Y82
 - 『異文化社会アメリカ』 示村陽一 302.53
 - 『アメリカ合衆国とは何か』 253. Ta45
 - 『アメリカ人の性格』 ゴーラー 書庫にしかない 361.6 G67
 - 『この一冊でアメリカの歴史がわかる』 253.01 Sa69
 - 『アメリカの大衆文化』 亀井俊介 253.07 H85
 - 『アメリカン・ウェイ・オブ・ライフ』 302.53 B89
 - 『ヨーロッパ人のアメリカ論』(アメリカ古典文庫21) 253 A44 1-21
 - 『アメリカの歴史 テーマで読む多文化社会の夢と現実』(有賀夏紀) 253 A79
 - 『アメリカ人の思考法』 エドワード・スチュワート 361.42 St5
 - 『文明としてのアメリカ』(全5巻) 日本経済新聞社 302.53
 - 『アメリカの歴史を知るための60章』 富田虎男 253 To58
 - 『アメリカの文化』 現代文明を作った人たち 亀井俊介
 - 『アメリカの社会』 変貌する巨人 猿谷要
 - 『アメリカ文化事典』 亀井俊介 研究社
- (すべて図書館蔵書です。)

演習 A-2 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 夏休みレポートの内容発表1(歴史中心)
- 2回 夏休みレポートの内容発表2(文化中心)
- 3回 夏休みレポートの内容発表3(社会中心)
- 4回 各ゼミ生が決定した研究テーマに関する発表1(人種差別)
- 5回 各ゼミ生が決定した研究テーマに関する発表2(フェミニズム)
- 6回 各ゼミ生が決定した研究テーマに関する発表3(食文化)
- 7回 各ゼミ生が決定した研究テーマに関する発表4(肥満)
- 8回 各ゼミ生が決定した研究テーマに関する発表5(家族問題)
- 9回 各ゼミ生が決定した研究テーマに関する発表6(原作と映画の比較)
- 10回 各ゼミ生が決定した研究テーマに関する発表7(リメイクの意義)
- 11回 各ゼミ生が決定した研究テーマに関する発表8(映画の日米比較)
- 12回 各ゼミ生が決定した研究テーマに関する発表9(ディズニーとジブリ)
- 13回 各ゼミ生が決定した研究テーマに関する発表10(教育)
- 14回 各ゼミ生が決定した研究テーマに関する発表11(薬物問題)
- 15回 卒論執筆に関する指導

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...20% 夏休み明け提出のレポート(4000字以上)...40% ゼミ参加への積極度...40%
以下の何れかに該当する場合は、-(評価不能)とします。
①公欠を除いた欠席回数が、授業回数の3分の1以上の場合
②夏休み明けレポートの提出を行わなかった場合

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、発表の担当が当たっている場合はB4のレジюмеを作成しておいて下さい。発表が当たっていない学生も、題材となる映画を文化的側面に注意しつつ、内容をチェックして下さい。授業後には、発表レジюмеを再度読み直し、可能な限りレジюмеのテーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の充実を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	演習 A-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この演習では、一学期に身につけた方法論をベースにして、ゼミ生個々人が自分自身の興味関心に基づいた研究報告を行うことが中心となります。また必要に応じて、個々人のテーマに対応した形での、共同での文献講読・作品批評も行う予定です。

[到達目標]

- ・ 思考・判断・表現力：問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- ・ コミュニケーション力：受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- ・ 自立的行動力：社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 インTRODクシヨン
- 第二回 個人研究報告 (1)
- 第三回 個人研究報告 (2)
- 第四回 個人研究報告 (3)
- 第五回 個人研究報告 (4)
- 第六回 個人研究報告 (5)
- 第七回 文献講読・作品批評 (1)
- 第八回 個人研究報告 (6)
- 第九回 個人研究報告 (7)
- 第十回 個人研究報告 (8)
- 第十一回 個人研究報告 (9)
- 第十二回 個人研究報告 (1 0)
- 第十三回 個人研究報告 (1 1)
- 第十四回 文献講読・作品批評 (2)
- 第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加 30% 報告内容 70%
(※ゼミに全く参加しなかった場合、成績評価は「- (バー)」になります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

文献購読に際して事前にテキストを読んでくるのはもちろんですが、個人研究報告に際しても、各自の報告原稿を事前に丁寧に読み込んでおいてください。また個人報告の準備にあたっては、授業時間外でそれなりの作業が必要となります。

演習 A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

夏休みの間に、研究テーマをある程度絞り、報告に備えておいてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

自分自身の研究報告に責任を持つのはもちろんですが、他のゼミ生の報告に対しても真摯に耳を傾け、一緒になって考えるような態度を期待します。

キーワード /Keywords

演習A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	演習A-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習では、演習A-1同様、西洋（主にフランス）や日本を対象に、有形・無形の文化遺産、食、観光、アニメ、マンガ、ファッション、文化・社会における女性、性的マイノリティ、移民などのテーマを扱う。引き続き多様な文献・資料を読解し批判しながら、意義のある問いをどのように発見し、その問いにどうすれば説得的に答えられるかを重点的に考え、卒業論文執筆の土台を作る。

（到達目標）

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

なし。プリントまたは文献のコピーを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の進め方
- 第2～9回 文献の講読
- 第10～15回 研究発表

以上は予定であり、受講者の理解度や人数に応じて変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への積極性、発表・・・50%、期末レポート・・・50%
なお、期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前は、指示された通りに予習を行うこと。授業後は、授業の復習にとどまらず、紹介された文献を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には最低1度の発表が課される。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習の主役は学生である。議論に参加しやすい雰囲気を作るよう心がけるので、間違いを恐れず積極的に発言してほしい。

キーワード /Keywords

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

主として近現代アメリカ合衆国について各自が報告を行い、それを通して論文の書き方を学ぶ。また、適宜ディベートを行い、批判的な思考力を養う。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる

教科書 /Textbooks

原則として、各自で用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方などについての話し合い
- 2回 卒論の書き方などについての説明
- 3回 受講者による発表・討議
- 4回 受講者による発表・討議
- 5回 受講者による発表・討議
- 6回 受講者による発表・討議
- 7回 受講者による発表・討議
- 8回 受講者による発表・討議
- 9回 受講者による発表・討議
- 10回 受講者による発表・討議
- 11回 受講者による発表・討議
- 12回 受講者による発表・討議
- 13回 受講者による発表・討議
- 14回 受講者による発表・討議
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として日常の授業への取り組み(授業への貢献度、発表内容、準備した資料やレジユメなど)100%。ただし出席状況によって減点する場合がある。また、5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に発表に向けて参考文献を読み込み、事後に指摘されたことやさらに興味を持ったことについて各自で調べる。また、日々のニュースに関心を持つ。

履修上の注意 /Remarks

発表者は必ず、レジユメを作って発表にのぞむこと。

演習 A-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	演習 A-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成にあたって、自身の設定した研究テーマについてどのようなアプローチが可能か、ということ前期までに検討しています。夏休みを経て、授業参加者それぞれがどのように知識を深め、アイデアを練り、調査に着手したかを発表し、聴衆との議論を行います。また具体的な文学作品を取り上げて、それについて批評的なアプローチで発表してもらいます。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

ピーター・バリー『文学理論講義: 新しいスタンダード』ミネルヴァ書房、2014。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫。
- 土田ほか『現代文学理論』新曜社、1996。
- テリー・イーグルトン『文学とは何か』岩波文庫。
- ラマー・セルデン『ガイドブック現代文学理論』大修館書店、1989。
- ウンベルト・エコ『論文作法』谷口勇訳、而立書房、1991。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨ、授業運営と成績評価について
- 第2回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第3回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第4回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第5回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第6回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第7回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第8回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第9回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第10回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第11回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第12回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第13回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第14回 授業参加者による報告とディスカッション
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への参加60%、ゼミでの報告40%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には発表・報告内容について入念な準備を行うこと。授業後には議論となった問題に関連する文献を確認すること。

演習 A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

自分の意見を述べ、論理的に議論をすすめること。自分の関心領域につねにアンテナを張るとともに、隣接領域や自身の研究の参考になる可能性をもつものを貪欲に吸収すること。たくさん本を読み、色々な意見に耳を傾け、すばらしい作品や研究に数多くふれること。議論への積極的な参加が必須。議論を通じて卒業論文の構想を具体的なものにしていきましょう。合宿を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

キーワード /Keywords

スペイン 文学 文化 批評

演習 A - 2 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	演習 A - 2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

前半は演習 A - 1 での実践を踏まえ、東南アジア諸社会および日本との関係史を主題に資料を持ち寄って批判的に検討し意見交換をする。卒業論文のテーマ選定を視野に、資料収集の方法を実践的に学ぶ。学外施設への見学などのフィールドワークを通して視野を広げ思考を深化させたい。後半は卒業論文作成に向けて構想を発表し、ゼミ生同士で互いの関心を共有し、助言しあうとともに、プレゼンテーションの練習も行う。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

演習内で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習内で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス、資料収集の仕方
- 第2回 資料の検討とディスカッション(1)
- 第3回 資料の検討とディスカッション(2)
- 第4回 資料の検討とディスカッション(3)
- 第5回 資料の検討とディスカッション(4)
- 第6回 資料の検討とディスカッション(5)
- 第7回 資料の検討とディスカッション(6)
- 第8回 中間討論と卒論作成ガイダンス(1)
- 第9回 卒論構想発表(1)
- 第10回 卒論構想発表(2)
- 第11回 卒論構想発表(3)
- 第12回 卒論構想発表(4)
- 第13回 卒論構想発表(5)
- 第14回 卒論構想発表(6)
- 第15回 まとめと卒論作成ガイダンス(2)

成績評価の方法 /Assessment Method

常点40%、発表60%
演習への参加状況が著しく悪く、課題の提出がない場合は「一」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前期と同様、各回の事前に指示する資料に目をとし、追加調査を行い、ゼミの仲間と議論したい点を挙げてくる。演習後は授業内で指示された資料を読み込み、ディスカッションの内容などをより深く理解するよう努める。

演習 A-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

前期と同様、演習内での議論への積極的な参加を重視するので、事前にテキストを熟読し、疑問点、議論したい点を考えてくること。
新聞、テレビ、インターネットなどを通して実社会で生起する事象に日ごろからよく目配りし、
演習で議論し、学んだことに照らして再考してほしい。扱うテーマを自身の関心にひきつけて主体的に取り組んでほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

卒業論文作成を視野に、まずは視野広げ、次第に研究の焦点を絞っていきましょう。

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	演習 A-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習は、優れた先行論文から日本近代文学研究の基礎的な方法を学び、さらに先行研究との対話の中で、演習 A-1で発表した自分の論のオリジナリティを浮かび上がらせることを目標とする。

具体的にはまず、演習 A-1で取り上げて精読した日本の近代短編小説（あるいは近代日本を描いた短編小説）に関する先行論文にあたる。先行論文にあたれば、自分は気にもかけなかった部分に着目して疑問を提出し、詳細な分析を行った魅力ある論文に出会えるだろう。同じ作品を読んだはずなのに、なぜこの論者は私が気にも止めなかったこの部分に着目することができたのか。そして、どのようなアプローチの仕方で、問題の解決に挑んでいるのか。

先行論文から、日本近代文学研究における問いの立て方と、様々なアプローチの方法を学び、その学びの成果を演習内で発表する。と同時に、演習 A-1で発表した自分の〈読み〉がオリジナリティを維持できているのかの検討を行う。

発表者以外の者も、取り上げられる作品を必ず読んで演習に参加し、各担当者の発表を聴きながら、多種多様な作品アプローチの方法を学び、身につける。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

テキストは、各自が取り上げる作品と論文。それぞれに事前に連絡を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	ガイダンス
第2回	日本近代文学研究の基本1【先行論文の集め方】
第3回	日本近代文学研究の基本2【先行論文の読み方】
第4回	日本近代文学研究の基本3【発表資料の作り方】
第5回～第14回	学生による演習発表
第15回	まとめ【演習 B-1にむけて】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習発表内容... 70% 授業への取り組み... 30%

※発表を行わなかった場合や4回以上欠席した場合は評価不能(一)とし、成績評価の対象としない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予告された文学作品を必ず読んでから、演習に参加すること。授業後は、演習で学んだことや他の学生の解釈を踏まえて作品を再読すること。

履修上の注意 /Remarks

演習担当者は責任を持って準備と発表を行うこと。他の学生は、本文についての疑問や読解に関する意見を述べるための事前準備をしておくこと。

演習 A-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習 A-2 【昼】

担当者名 /Instructor 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM312M			◎	◎	○
科目名	演習 A-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

西洋美術史研究において必須となる文献（英語文献を含む）の精読を行い、専門性の基礎的体力を養ったのち、卒業論文制作に向けての準備に取り掛かる。

前半では、受講者の関心にしたがって、日本語で書かれたテキスト（文献）を選び精読し、その後、英語で書かれたテキスト（文献）を選び精読する。その際、数人のグループに分かれ、その内容について補足を交えながら発表してもらい、受講者全員で美術史上の意義と問題点についてディスカッションを行い、テキストの理解を深める。

後半では、各自、卒業論文で取り上げる予定の作品を決め、その先行研究について詳細にまとめ、発表を行う。発表者は、少なくとも発表の一週間前までにはレジユメの下書きを提出し、チェックを受けて、発表当日までに改善したレジユメを準備しておくこと。これにより、卒業論文のテーマ設定に向けての準備を行う。

（なお、前半と後半の授業回数割合は、受講者の人数によって変更する場合がある。）

（到達目標）

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて、適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス（授業の手順の確認と担当する論文の決定）
- 第2回 研究論文（文献）の発表およびディスカッション①
- 第3回 研究論文（文献）の発表およびディスカッション②
- 第4回 研究論文（文献）の発表およびディスカッション③
- 第5回 研究論文（文献）の発表およびディスカッション④
- 第6回 研究論文（文献）の発表およびディスカッション⑤
- 第7回 卒論中間報告会
- 第8回 美術館等見学
- 第9回 論文の書き方、文献の調べ方
- 第10回 卒論に向けての発表①
- 第11回 卒論に向けての発表②
- 第12回 卒論に向けての発表③
- 第13回 卒論に向けての発表④
- 第14回 卒論発表会
- 第15回 まとめ

演習 A - 2 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み (レポート提出を含む) ...40%
発表内容...60%

- ※ 5 回以上欠席した場合は、評価不能 (ー) とします。
- ※ 15分以上の遅刻は欠席扱いとします。
- ※ 担当の発表を行わなかった場合、評価不能 (ー) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で扱う論文については受講者全員が事前に目を通し、不明な語句や専門用語などはあらかじめ調べること。
後半について、発表者は少なくとも一週間前にはレジユメの下書きを提出し、チェックを受けること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は「演習 A - 1」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

西洋美術 博物館学

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習B-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

目標

■卒業論文のテーマを徐々に固め、本文執筆の下準備をしましょう。

方針

■初回で、参加者が何に興味をもっているのかを聞き取り、それを踏まえて、テーマ設定上のコツや注意事項をレクチャーします。4月の演習開始時点で確固たるテーマが決まっている必要はありません。教員が思考の展開へ誘導していくので、焦る必要もありません。ただし、6月を目処に卒論の題目を決めにかかるという意識はもっててください。

中間報告について

■中間報告では、提出前の論文題目を発表し合い、意見交換します。漠然とし過ぎていないか、唐突な比較論になっていないか、ちぐはぐな立論になっていないかなど、仲間からの率直な意見を聞き入れて、修正をかけましょう。意見・批判は「ギブ&テイク」を原則とします。おおいに発言して仲間に貢献し、また、謙虚かつ真摯に意見を聞き入れて、今より良いモノを目指しましょう。

到達目標

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

- ノート（形式自由。卒論に関する事柄を集約するような「ネタ帳」を用意してください。すでにそのようなものがある場合は、それを継続して使ってください。ノートPCを持ち込んでも構いません。スマートフォンだと、頭の回転に入力が追いつかないはずなので、お勧めしません。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介・指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション【自己紹介 今後のスケジュール確認】
- 第2回 自分の関心を広げる
- 第3回 自分の関心を絞り込む
- 第4回 一次文献はどれか
- 第5回 論文題目（タイトル）の付け方
- 第6回 中間報告（1）【前半】
- 第7回 中間報告（2）【後半】
- 第8回 問題を立てる
- 第9回 問題解決の道筋を想像する
- 第10回 構想メモの作り方
- 第11回 情報の整理法
- 第12回 資料調査の仕方
- 第13回 資料調査の実践【二次文献のリストアップ】
- 第14回 構想メモの添削とアドバイス
- 第15回 まとめ 今後のスケジュールリング

演習B-1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

中間報告・・・50% 構想メモの提出・・・50%

出された課題に対するリアクションがない場合、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

家で考えてまとめてくる、調べてくる、教室で報告する、といった作業が常に伴うでしょう。卒論の執筆につながるような課題のみを出すので、演習が卒論執筆のペースメーカーであるという感覚で、課題をこなしていきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

行き詰まりを感じたら、マメに相談してください。ダイレクトに答えを授けるような過保護にはしませんが、問題打開のきっかけを提案できます。みなさんがどういう状態なのか未知のまま時間が流れ、極限になってから「実は・・・白紙です」と打ち明けられるのが、教員にとっては一番無念なことです。

キーワード /Keywords

卒業論文 アカデミック・スキル 調査方法 論文作法

演習 B - 1 【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習 B - 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

各ゼミ生による卒論構想の報告を通じて、卒業論文の執筆を進めていきます。また必要に応じて文献購読も行い、論文の執筆方法などについても、詳しい指導を行います。

[到達目標]

- ・ 思考・判断・表現力：問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- ・ コミュニケーション力：受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- ・ 自立的行動力：社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 オリエンテーション
- 第二回 個人研究報告 (1)
- 第三回 個人研究報告 (2)
- 第四回 個人研究報告 (3)
- 第五回 個人研究報告 (4)
- 第六回 個人研究報告 (5)
- 第七回 卒論指導 (1)
- 第八回 個人研究報告 (6)
- 第九回 個人研究報告 (7)
- 第十回 個人研究報告 (8)
- 第十一回 個人研究報告 (9)
- 第十二回 個人研究報告 (1 0)
- 第十三回 個人研究報告 (1 1)
- 第十四回 卒論指導 (2)
- 第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加 30% 報告内容 70%
(※ゼミに全く参加しなかった場合、成績評価は「－ (バー)」になります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告をするにあたっては、自分がどのような卒論を書きたいと思っているのか、できるだけ具体的なイメージをふくらませ、授業時間外で十分な準備をすることが必須となります。また、他のゼミ生の個人報告に際しても、事前に送付する報告原稿をきちんと読んできてもらいます。

履修上の注意 /Remarks

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ここでの卒論構想の報告が、夏休み以降の勉強の土台となりますので、力を入れて取り組んで下さい。

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習B-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文で考察するテーマを明確に設定し、その問題に関する先行研究論文の紹介と批判を発表形式で行ってもらう。一回の発表につき、少なくとも三本以上の先行研究論文の紹介・批判を行い、それを各自に二回ずつ行なう。少なくとも発表の一週間前までには、レジュメの下書を提出し、チェックを受けて、発表当日までに改善したレジュメを準備しておくこと。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】

受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】

社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の手順の確認
- 2回 発表準備の進展状況の確認
- 3回 発表およびディスカッション
- 4回 発表およびディスカッション
- 5回 発表およびディスカッション
- 6回 発表およびディスカッション
- 7回 発表およびディスカッション
- 8回 博物館あるいは美術館見学A
- 9回 発表およびディスカッション
- 10回 発表およびディスカッション
- 11回 発表およびディスカッション
- 12回 発表およびディスカッション
- 13回 発表およびディスカッション
- 14回 博物館あるいは美術館見学B
- 15回 研修旅行の日程説明、研修旅行における解説担当作品の決定

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容...70% 授業への参加態度...20% 作品観覧カード...10%

下記のいずれかに該当する場合には、評価不能「一」となります。

課題の未提出・5回以上の欠席・自身の発表を行っていない

演習B-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は、事前にレジユメのチェックを受けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習B-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒論題目決定のための先行研究の取りまとめと文献目録作成の指導を行います。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

卒論のテーマを決めるのには以下の文献の論文を参考にしてください

- 『日本の近世』全18巻(中央公論社1991-94年)
- 『新視点日本の歴史第5巻 近世編』(新人物往来社1993年)
- 『岩波講座日本通史』全25巻(岩波書店1993-96年)
- 『日本女性史論集』全10巻(吉川弘文館1997-98年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 4月第3週 自由報告①
- 第2回 4月第4週 自由報告②
- 第3回 4月第5週 自由報告③
- 第4回 5月第2週 自由報告④
- 第5回 5月第3週 史料講読①
- 第6回 5月第4週 史料講読②
- 第7回 5月第5週 卒論題目指導①
- 第8回 6月第2週 卒論題目指導②
- 第9回 6月第3週 卒論構想発表①
- 第10回 6月第4週 卒論構想発表②
- 第11回 6月第5週 卒論構想発表③
- 第12回 7月第2週 文卒論構想発表④
- 第13回 7月第3週 仁川広域博物館での展示と交流プログラムの準備①(延期の場合は変更あり)
- 第14回 7月第4週 仁川広域博物館での展示と交流プログラムの準備②
- 第15回 7月第5週 仁川広域博物館での展示と交流プログラムの準備③

成績評価の方法 /Assessment Method

発表および質疑応答の内容・・・100%
事前もしくは事後(3日以内)に欠席の連絡がない無断欠席が3回以上の者は不可とする。
途中で受講を放棄した場合は、評価不能(-)とします。
遅刻は減点し、遅刻3回で欠席1回とみなす。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には発表のレジュメの準備や史料の下読みをしておくこと、授業後には発表についての指摘を踏まえてレジュメの手直しを行うこと。

演習B-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

1学期のまとめとして夏休み中にレポート(4000字以上)を課します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習B-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本の古代・中世文化に関するテーマを受講生各自が自由に選択し、研究に取り組んでもらい、その成果を発表してもらう。

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 日本の古代・中世文化を学び研究するにあたって
- 3回 研究発表に関する説明
- 4回 研究発表と討議
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 100%

特段の事情なく5回以上欠席した場合、または担当すべき研究発表を1回でも放棄した場合、成績は(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究発表にあたって、事前に発表内容に関する相談を受けること。
発表内容の不十分な点、指摘された課題は後日勉強しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-1 【昼】

キーワード /Keywords

日本文化、神道、仏教

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習B-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成のための発表をおこなう。
また1学期の終了時点で卒業論文の構想・進捗状況についてのレポートを提出してもらう。
3年生との研究上の交流にも積極的な参加が求められる。生協書店の本棚づくりにも引き続き参加していく。
なお本授業には、合宿形式の演習が含まれることがある。
到達目標
思考・判断・表現力：問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
コミュニケーション力：受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
自立的行動力：社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業論文作成にむけての準備
- 3回 3年生との交流会
- 4回 卒業論文作成にむけての発表①
- 5回 卒業論文作成にむけての発表②
- 6回 卒業論文作成にむけての発表③
- 7回 卒業論文作成にむけての発表④
- 8回 卒業論文作成にむけての発表⑤
- 9回 卒業論文作成にむけての発表⑥
- 10回 卒業論文作成にむけての発表⑦
- 11回 卒業論文作成にむけての発表⑧
- 12回 メディアをつくるワークショップ(事前討議)
- 13回 メディアをつくるワークショップ(総括討議)
- 14回 メディアをつくるワークショップ(2学期にむけて)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(参加態度、提出物など)...50% 発表...50%
発表がない場合「-」(評価不能)となる。
出席が全くない場合「-」(評価不能)となる。
提出物には、生協書棚に展示するコメントカードの作成も含まれる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：発表者、コメンテータ、司会者の打ち合わせ
事後：次のステップ(進捗状況のレポート、構想発表)にむけて得られた課題をこなす

演習B-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

授業外の時間において、発表にむけての情報収集をまめにおこなってほしい。
授業計画についてはガイダンスの際にあらためて具体的に伝える。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習B-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文執筆にむけて、受講者自らの興味関心に基づき、古典文学の問題を追及する。
作品に対する自らの解釈、意見などを演習形式で発表する。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じてその都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 研究倫理について
- 3回 発表担当の割り振りと発表資料の作り方
- 4回～14回 受講者による課題の発表と質疑応答
- 15回 1学期のまとめと2学期への課題

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の参加態度 50 %
演習の内容 50 %

- ・ 演習に参加しなかった場合は、評価不能 (-) とします。
- ※ただし、場合によっては代替の課題を課すことがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習には、十分に担当の作品を読み込み、調査したうえで臨むこと。
自らの発表の時だけでなく、他の受講者の発表であっても事前に内容をさらうなどの予習をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

場合によっては、通常のゼミの他に課外研修を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習B-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習は、日本近代文学の研究領域で卒業論文に取り組もうとする者が、論文の執筆に必要な知識を改めて学習し、卒業論文の準備を実際に行うことを目的とする。

扱う作品を決定した後、精読と共に行わなければならないことは、先行論文の収集とまとめ、そして問題提起である。卒業論文の第一章に該当する準備を、本演習では行っていく。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。演習中に適宜資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究倫理教育
- 第3回 先行論文の収集
- 第4回 論文の表記(引用と注)
- 第5回 先行論文の整理
- 第6回 先行研究史のまとめ
- 第7回 問題点の抽出
- 第8回 問題提起の方法
- 第9~14回 卒論構想発表【学生発表】
- 第15回 まとめ【演習B-2にむけて】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容...70% 授業への取り組み...30%

※発表を行わなかった場合や4回以上欠席した場合は評価不能(一)とし、成績評価の対象としない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に与えられた課題に取り組み、演習に参加すること。演習後は、学んだ内容を踏まえて、それぞれの卒業論文準備に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

春休み期間中に卒業論文で取り扱う作品を決めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習B-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この演習では、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。

授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、議論を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の運営方針、年間スケジュール、発表日決定
- 第2回 卒業論文構想の指導(1)
- 第3回 卒業論文構想の指導(2)
- 第4回 卒業論文構想の指導(3)
- 第5回 卒業論文構想発表(1)
- 第6回 卒業論文構想発表(2)
- 第7回 卒業論文構想発表(3)
- 第8回 卒業論文構想発表(4)
- 第9回 卒業論文指導(1)
- 第10回 卒業論文指導(2)
- 第11回 卒業論文指導(3)
- 第12回 卒業論文途中経過発表(1)
- 第13回 卒業論文途中経過発表(2)
- 第14回 卒業論文途中経過発表(3)
- 第15回 卒業論文途中経過発表(4)

演習B-1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...60% 日常の授業への取り組み...40%
発表(2回)を行わなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒業論文の構想を練り、仮説を立てて基礎調査を進め、研究方法と論証手続きの妥当性を検証しましょう。
授業の後に、発表の場でも出された意見等を踏まえ、研究内容をブラッシュアップしていきましょう。

履修上の注意 /Remarks

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。
授業科目の一環として学外活動を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習B-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら異文化間教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すものではなく、人と人の触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習B-1では、前半に各自の卒業論文のテーマに沿った発表を行います。そして、後半に卒業論文の構想発表会を行います。卒業論文の研究課題と研究方法を決定することが目標になります。

到達目標として、まず、異文化間教育学分野における具体的な研究事例を学ぶことを通して、研究方法等を知ります。同時に、具体的な論文を読むことで、論文とはいかなるものであるかについて理解を深めます。

次に、関心のある先行研究や過去の卒業論文を題材として、研究課題の選定や絞り込みを行います。

これらの過程においては、自分自身の研究計画及び、先行研究のレビューを論文形式を意識して発表できるようにします。また、ゼミ生間の協働学習によって、現実的な課題を設定した実践的研究を目指します。

教科書 /Textbooks

西條剛央(2007)『ライブ講義 質的研究とは何か：SCQRMベーシック編』新曜社
※講義形式で書かれている本です。教員の解説がなくても、初心者にもわかりやすい工夫がされています。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『実践研究計画作成法 - 情報収集からプレゼンテーションまで』(北原保雄、凡人社)
- 『ライブ講義 質的研究とは何か：SCQRMアドバンス編』(西條剛央、新曜社)
- 『<ほんとうの自分>のつくり方 - 自己物語の心理学』(榎本博明、講談社現代新書)
- 『ステップ式質的研究法 - TAEの理論と応用』(得丸さと子、海鳴社)
- 『日本語教育のための質的研究入門-学習・教師・教室をいかに描くか』(館岡洋子編、出版)
- 『混合研究法入門 - 質と量による統合のアート』(抱井尚子、医学書院)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション及び、春休みの課題報告
- 2回 卒論テーマ(1)：発表者数名
- 3回 卒論テーマ(2)：発表者数名
- 4回 卒論テーマ(3)：発表者数名
- 5回 卒論テーマ(4)：発表者数名
- 6回 研究デザインとは何か
- 7回 研究目的の明確化
- 8回 概念枠組み
- 9回 研究課題の決定
- 10回 研究方法
- 11回 研究の評価
- 12回 卒論構想発表：発表者(1)
- 13回 卒論構想発表：発表者(2)
- 14回 今後の研究計画
- 15回 総括及び

演習B-1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメ及び、質疑応答も含む) ... 70 % 授業への取り組み ... 30 %
・ 3分の1以上、無断で欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究方法を学ぶとともに、実際に自分自身の研究課題について、研究を実行していきます。
授業外での学習・研究がなければ、卒業論文は完成しません。

履修上の注意 /Remarks

参考文献は、適宜紹介します。
授業は、予習を前提として行います。授業終了後には、授業内容をまとめた報告書を交代で作成してもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、本格的な卒論作成に取り掛かる前に、「質的研究」「当事者研究」に対する理解を深めます。

キーワード /Keywords

研究動機 研究デザイン 研究方法 先行研究 レビュー

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習B-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒論テーマの設定に関する個別指導の後、卒論構想に対する個別指導を十分な時間をかけて行ないます。構想を十分に練った後に卒論の執筆を開始することが、能率的な卒論作成につながります。また、卒論の大まかな下書きを、早い時期から書き始めることにより、無理のない形で余裕をもって卒論を完成させます。4年次は、就職活動で全員が参集するのは困難なので、個別指導を中心とします。全員の卒論構想が確定した後、全員参加で卒論構想の発表会を行います。

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。必要に応じて資料をコピー形式で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館2階の指定図書コーナーに、卒論執筆に関するマニュアルが多数あるので、各自、参照してください。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 卒論テーマの決定に関する個別指導1：3年時の研究状況の確認
- 3回 卒論テーマの決定に関する個別指導2：現在の研究状況の確認
- 4回 卒論テーマの決定に関する個別指導3：先行研究の確認
- 5回 卒論テーマの決定に関する個別指導4：卒論タイトルの検討と確定
- 6回 卒論の全体的構成に関する個別指導1：使用する作品について
- 7回 卒論の全体的構成に関する個別指導2：使用する二次資料について
- 8回 卒論の全体的構成に関する個別指導3：章立てについて
- 9回 卒論の全体的構成に関する個別指導4：章ごとの内容について
- 10回 卒論の全体的構成に関する個別指導5：序論と結論の照応関係について
- 11回 卒論構想の発表会1：発表
- 12回 卒論構想の発表会2：質疑応答
- 13回 卒論構想の発表会3：教員からのコメント
- 14回 卒論構想の発表会4：教員からの指導
- 15回 夏休み中の課題に関する説明

2回から10回までは、個別指導の典型例を記載しています。

成績評価の方法 /Assessment Method

春休み明けレポート（卒論構想）...50% 卒論指導の受講状況...50%
以下の何れかに該当する場合は、一（評価不能）とします。
①指定された卒論指導を全く受けなかった場合
②春休み明けレポートの提出を行わなかった場合

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

卒論指導の日時に関してはメールで予約を取ってください。また、卒論の構想を作成し、指定された時間までに、そのファイルをメールで送付して下さい。授業後は、指導に従って卒論の構想に加筆と改訂を行ってください。

演習B-1 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習B-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習では、前年度に行った報告をもとにして、卒業論文執筆のための発表を行う。卒業論文の構成方法、注の付け方、引用の仕方などの執筆方法を理解し、教員や他の受講者からの助言を踏まえて議論を深め、説得力のある主張を展開できるようになることを目的とする。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の進め方
- 第2～3回 卒業論文の執筆方法
- 第4～7回 研究発表
- 第8～15回 卒業論文の構想の発表

以上は予定であり、受講者の人数や理解度に応じて変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への積極性、発表・・・30%、卒論中間報告(期末レポート)・・・70%
なお、期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分の発表の前には入念な準備を行うこと。発表後は、教員や他の受講者の意見の中で適切だと思うものを自身の論に反映させ、次の発表や学期末の卒論中間報告(期末レポート)に備えること。

履修上の注意 /Remarks

春休みの期間中に卒業論文のテーマを決め、具体的な構成について考えておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習B-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成に向けて、各自が卒論のテーマに沿った報告を行う。

(到達目標)

【思考・判断・表現】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

各自で用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、各自で調査・収集する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 演習の進め方についての話し合い。卒論の書き方などについての確認。
- 2回 受講者による発表・質疑応答
- 3回 受講者による発表・質疑応答
- 4回 受講者による発表・質疑応答
- 5回 受講者による発表・質疑応答
- 6回 受講者による発表・質疑応答
- 7回 受講者による発表・質疑応答
- 8回 受講者による発表・質疑応答
- 9回 受講者による発表・質疑応答
- 10回 受講者による発表・質疑応答
- 11回 受講者による発表・質疑応答
- 12回 受講者による発表・質疑応答
- 13回 受講者による発表・質疑応答
- 14回 受講者による発表・質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、日常の授業への取り組み(授業への貢献度、発表内容、作成した資料やレジュメなど)100%。ただし出席状況によって減点する可能性がある。また、5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に発表に向けて参考文献を読み込み、事後に指摘されたことやさらに興味を持ったことについて各自で調べる。また、日々のニュースに関心を持つ。

履修上の注意 /Remarks

発表者は、必ずレジュメを作成して発表にのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-1 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習B-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

四年次までの学習、研究、読書、調査の成果を元に卒業論文のテーマを設定し、執筆してもらいます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

○ウンベルト・エコ『論文作法』而立書房、1991。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

個別の学生の関心に併せて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回 ガイダンス、授業運営について
第二回から第十四回 履修者による経過報告
第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での議論への参加 50% 日常の研究活動 50%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、調査、執筆状況についての入念な報告準備をすること。授業後には、指摘された箇所の修正や指示された文献の内容を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

合宿を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

適宜必要なアドバイスや提案はしますが、あくまで勉強するのは自分です。計画的に調査・研究を進めてください。

キーワード /Keywords

スペイン 文学 文化 批評

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習B-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文を作成する上での第一歩目となる演習です。
扱う作品は何か、その作品における考えるべき問題は何か、問題に答える上で調べるべき資料は何かなどを、みんなで一緒に考えていきましょう。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 各自、扱う作品、作品における問題の所在、問題に答えるべく何を調査すべきかなどについて、現段階で考えていることを報告します。それを受けて、参加者みんなで、問いは妥当か、調査対象は妥当かなど、自由に議論しましょう。
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(50%)、レポート(50%)により評価します。
①演習発表を行う、②学期末レポートを提出する、以上①、②を満たさない場合、評定不可で成績は「-」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】
授業前に可能な限り他の参加者の扱う作品を読み、演習に参加してください。
授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

自分の扱う作品だけでなく、他のゼミ生の扱う作品もなるべく読むようにしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文学研究は、面白い問いをたてることができれば、8割がた終わったも同然です。
問いが固まれば自ずと作業も決まり、それを受けて結論も決まります。
最初で頭を大いに使って下さい。

キーワード /Keywords

日本現代文学

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習B-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

中国思想史、日中文化交流史に関するテーマを受講生各自に配り、勉強と研究に取り組んでもらい、研究成果を発表させる。

教科書 /Textbooks

使用しない。毎回資料を配る。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『日中交渉史』、山口修著、東方書店1996年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国思想史、日中交流史の学習にあたって
- 3回 研究発表に関する説明
- 4回 研究発表と討議
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...40%、研究発表の結果...60%。
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

よく資料を調べて予習する。先生から指定された本を真剣に読むこと。

履修上の注意 /Remarks

好好学习、天天向上。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国思想史、交流、漢字、儒学、道教、

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習B-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成のための研究と発表を行う。ゼミ生同士でピア・レビューを行い、関心を共有し、相互にアドバイスをしながら執筆を進める。なお本授業には、学外実習形式の演習が含まれる。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

各自の卒論作成上の必要に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の卒論作成上の必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業論文作成に向けた研究発表①
- 第3回 卒業論文作成に向けた研究発表②
- 第4回 卒業論文作成に向けた研究発表③
- 第5回 卒業論文作成に向けた研究発表④
- 第6回 卒業論文作成に向けた研究発表⑤
- 第7回 卒業論文作成に向けた研究発表⑥
- 第8回 卒業論文作成に向けた研究発表⑦
- 第9回 卒業論文作成に向けた研究発表⑧
- 第10回 卒業論文中間発表①
- 第11回 卒業論文中間発表②
- 第12回 卒業論文中間発表③
- 第13回 卒業論文中間発表④
- 第14回 卒業論文中間発表⑤
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(参加態度・課題) 40% 発表内容 60%
演習への参加状況が著しく悪く、課題の提出がない場合は「一」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回研究発表に向けて、調査と執筆を進める。演習の仲間の研究内容についてもコメントを用意する。
演習後は演習内で教員や仲間から受けたコメントと、参照資料についての指示などに基づき、研究と論文の改稿を進める。

履修上の注意 /Remarks

自分の卒論作成のみならず、ゼミの仲間と研究関心を共有し、刺激しあいながら卒論作成を進めていきたいので、演習前には発表者の草稿を熟読し、コメントで相互に助力してほしい。
そのために、専門外の文献や、実社会で生起する出来事にも広く目配りし、演習で学んだことに照らして思考を深めてほしい。

演習B-1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの仲間と助け合い、刺激しあいながら卒論を執筆し、「自分史上最も頑張った一年」にしましょう。

キーワード /Keywords

演習B-1 【昼】

担当者名 /Instructor 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM413M			◎	◎	○
科目名	演習B-1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文で考察するテーマを設定し、その問題に関する先行研究論文の紹介と批判を発表形式で行う。発表の際は、レジュメとともにパワーポイントで作成した視覚資料を用いること。発表後は、受講者全員で発表に関しての問題点などをディスカッションし、検討を加える。また、発表の一週間前までにはレジュメの下書きを提出し、チェックを受け、発表当日までに改善したレジュメを準備しておくこと。

授業の後半では、各自の卒論の進捗状況を発表する。

よって、少なくとも一人2回は発表の機会をもつ。また、毎回ディスカッションを行うことで、西洋美術史全体を概観できる力を養う。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

受講者の関心に応じて、適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業の手順の確認)
- 2回 美術関係資料検索システム的使用方法について
- 3回 発表準備の進捗状況の確認
- 4回 卒論へ向けての発表①
- 5回 発表①についてのディスカッション
- 6回 卒論へ向けての発表②
- 7回 発表②についてのディスカッション
- 8回 卒論へ向けての発表③
- 9回 発表③についてのディスカッション
- 10回 卒論へ向けての発表④
- 11回 発表④についてのディスカッション
- 12回 卒論へ向けての発表⑤
- 13回 発表⑤についてのディスカッション
- 14回 卒論構想発表会および質疑応答①
- 15回 卒論構想発表会および質疑応答②

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...40%

発表内容...60%

※5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

※担当の発表を行わなかった場合、評価不能(一)とします。

演習B-1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は、一週間前にはレジユメの下書きを提出し、事前にチェックを受けること。

履修上の注意 /Remarks

毎回ディスカッションがあるので必ず出席すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

西洋美術

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

目標

■卒業論文を完成させて提出し、卒業すること。

方針

■卒業論文を仕上げるまでの手続きは、社会に出てから仕事と取り組む際にも応用し得る、汎用性のあるものです。また、論文には、良くも悪くも、いまの自分がどのような人であるのかが如実に反映されてしまいます。大学を出るためだけの「やっつけ仕事」と捉えるべきではないでしょう。自分が納得のできる論文を提出し、「自分はこれだけできる人間なのだ」という確信とともに社会へ旅立てるかどうかは、非常に大きな岐路です。本ゼミでは卒論をこのように位置づけます。就職活動との両立は大変ですが、悔いの残らない一本を完成させましょう。

■学位論文は、提出期限が厳密に定められているため、時間とペースについては神経質になってください。もちろん、それが焦りの原因になってしまうわけですが、早めに相談してもらえれば、一緒に手を打つことができますし、それこそが問題の根本的解決です。

到達目標

■【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探索し、自分の意見を論理的に表現することができる。

■【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

■【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

ノート（前学期から継続の「ネタ帳」）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介・指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 論文執筆状況の確認とアドヴァイス(1)
- 第2回 論の構成について
- 第3回 学術論文の文体について
- 第4回 参考文献とその表記について
- 第5回 論文執筆状況の確認とアドヴァイス(2)【暫定稿の提出】
- 第6回 論文執筆に際しての技術的なことについて：Wordの使い方など
- 第7回 目次について
- 第8回 序論の書き方について
- 第9回 論文執筆状況の確認とアドヴァイス(3)【暫定稿の提出】
- 第10回 論文を冊子化する際の注意
- 第11回 ゼミ内での原稿の回し読みと、意見交換・校正(1)
- 第12回 ゼミ内での原稿の回し読みと、意見交換・校正(2)
- 第13回 ゼミ内での原稿の回し読みと、意見交換・校正(3)
- 第14回 ゼミ内での原稿の回し読みと、意見交換・校正(4)
- 第15回 論文提出

成績評価の方法 /Assessment Method

卒業論文の提出・・・80%、定期報告・・・20%

卒業論文を提出しなかった場合、評価不能(-)とする。

演習B-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

■調査し、考え悩み、言葉にして書き付け、(自己)批判し、赤ペンを加える…という作業の繰り返しになるでしょうが、ゼミ外でのそのような孤独な時間は、研究の重要な一部です。

■ゼミ内で仲間から得た意見を真摯に受け止め、それを原稿に反映させるという態度を大事にしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

毎回、ゼミの冒頭で、「順調？」と各自に問い掛け、妙に青ざめている人がいないか、確認させてください。「行き詰ったら早めに相談」を鉄則としましょう。

キーワード /Keywords

卒業論文 アカデミック・スキル 調査方法 論文作法

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒論の進行状況について、実際に執筆した原稿を使って報告をしてもらいます。報告に対しては細かな指導を加え、仕上げを目指します。

[到達目標]

- ・ 思考・判断・表現力：問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- ・ コミュニケーション力：受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- ・ 自立的行動力：社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて演習中に指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 オリエンテーション
- 第二回 個人研究報告 (1)
- 第三回 個人研究報告 (2)
- 第四回 個人研究報告 (3)
- 第五回 個人研究報告 (4)
- 第六回 個人研究報告 (5)
- 第七回 卒論指導 (1)
- 第八回 個人研究報告 (6)
- 第九回 個人研究報告 (7)
- 第十回 個人研究報告 (8)
- 第十一回 個人研究報告 (9)
- 第十二回 個人研究報告 (10)
- 第十三回 個人研究報告 (11)
- 第十四回 卒論指導 (2)
- 第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

演習への参加 30% 報告内容 70%
(※ゼミに全く参加しなかった場合、成績評価は「－(バー)」になります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分が報告者の際に十分な準備をするのはもちろんですが、他のメンバーの報告に際しても、前もって送付する原稿をきちんと読んでおくことが必要です。そうすることで、自身の卒業論文への示唆が得られることも少なくありません。

履修上の注意 /Remarks

演習B-2 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよラストスパートです。お互いに問題点などを指摘しあって、より良い卒論を目指しましょう。

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

各自に卒業論文の構想発表・中間報告を行ってもらおう。自分の発表の少なくとも一週間前までにはレジュメの下書を提出し、チェックを受けて、発表当日までに改善したレジュメを準備しておくこと。
また、卒業論文の書けた部分を随時提出し、その添削・コメントを踏まえながら、卒業論文の完成を目指してもらおう。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】

問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】

受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】

社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の手順の説明
- 2回 発表およびディスカッション
- 3回 発表およびディスカッション
- 4回 発表およびディスカッション
- 5回 発表およびディスカッション
- 6回 発表およびディスカッション
- 7回 博物館あるいは美術館見学A
- 8回 卒業論文進展状況の確認
- 9回 卒業論文進展状況の確認
- 10回 卒業論文進展状況の確認
- 11回 卒業論文進展状況の確認
- 12回 卒業論文進展状況の確認
- 13回 卒業論文進展状況の確認
- 14回 博物館あるいは美術館見学B
- 15回 卒業論文執筆報告会

演習B-2 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容...35% 添削・コメントを踏まえて論文の内容が改善されているかどうか...30% 授業への参加態度...20%
作品観覧カード・研修旅行レポート...15%

下記のいずれかに該当する場合には、評価不能「一」となります。
課題の未提出・自身の発表を行っていない

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は、事前にレジユメのチェックを受けること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

1学期に演習B-1で卒論の題目を決定した人が、卒論執筆の経過報告を行い、指導を受ける時間です。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

研究史と史料を各自で探して文献目録を作成してもらいます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 10月第2週 ガイダンスと期末レポート講評
- 2回 10月第3週 史料講読①
- 3回 10月第4週 卒論原稿添削指導A班①
- 4回 10月第5週 卒論原稿添削指導B班①
- 5回 11月第1週 卒論原稿添削指導A班②
- 6回 11月第2週 卒論原稿添削指導B班②
- 7回 11月第3週 卒論原稿添削指導A班③
- 8回 11月第4週 卒論原稿添削指導B班③
- 9回 11月第5週 卒論直前発表①
- 10回 12月第2週 卒論直前発表②
- 11回 12月第3週 卒論直前発表③
- 12回 12月第4週 卒論直前発表④
- 13回 1月第2週 卒論最終チェック
- 14回 1月第3週 卒論講評①
- 15回 1月第4週 卒論講評②

成績評価の方法 /Assessment Method

期末レポート・卒論原稿の提出状況で100%評価する。
途中で受講を放棄した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

2週間に1度原稿を添付ファイルで提出すること。添削授業後には指摘を踏まえて原稿の手直しを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本の古代・中世文化に関するテーマを受講生各自が自由に選択し、研究に取り組んでもらい、その成果を発表してもらう。

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究発表と討議
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 100%
特段の事情なく5回以上欠席した場合、または担当すべき研究発表を1回でも放棄した場合、成績は(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究発表にあたって、事前に発表内容に関する相談を受けること。
発表後、不十分な点について後日補足しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

日本文化、神道、仏教

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成のための発表をおこなう。
各自のテーマを引き続き深めて卒業論文の作成のための準備をする。
演習A-2と連動したグループ討議もおこなう。生協書店の本棚づくりにも引き続き参加していく。
なお本授業には、合宿形式の演習が含まれることがある。
到達目標
思考・判断・表現力：問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
コミュニケーション力：受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
自立的行動力：社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 卒業論文作成にむけての発表①
- 3回 卒業論文作成にむけての発表②
- 4回 卒業論文作成にむけての発表③
- 5回 卒業論文作成にむけての発表④
- 6回 卒業論文作成にむけての発表⑤
- 7回 卒業論文作成にむけての発表⑥
- 8回 卒業論文作成にむけての発表⑦
- 9回 ワークショップ①
- 10回 ワークショップ②
- 11回 ワークショップ③
- 12回 卒業論文草稿発表③
- 13回 卒業論文草稿発表④
- 14回 卒業論文草稿発表⑤
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(参加態度、提出物など) ...30% レポート・発表...70%
発表がない場合「-」(評価不能)となる。
出席が全くない場合「-」(評価不能)となる。
提出物には、生協書棚に展示するコメントカードの作成も含まれる。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：発表者、コメンテーター、司会者の打ち合わせ
事後：卒論作成のために、得られた課題をこなす

演習B-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

特になし。授業前には、卒業論文のための資料、レジユメの作成を十分におこない、各自指示された作業をおこなってからのごむこと。授業後には、討議内容をふまえた課題に取り組むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文執筆にむけて、自らの興味関心に基づいて、古典文学の問題を追及する。
自らの設定した問題について、演習形式で発表する。

教科書 /Textbooks

適宜プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション 1学期からの課題と取り組み方
- 2回 発表の担当割り振りと演習の進め方
- 3回～ 14回 演習 発表と質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の参加態度 50%
演習の内容 50%

・演習に参加しなかった場合は、評価不能(-)とします。
※ただし、場合によっては代替の課題を課すことがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習の際には十分に作品を読み込み、調査をしたうえで臨むこと。
自分の発表だけでなく、他の受講者の発表の場合も、事前に内容をさらうなど、予習を欠かさないこと。

履修上の注意 /Remarks

場合によっては、ゼミの他に課外研修を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習は、日本近代文学の研究領域で卒業論文に取り組もうとする者が、卒業論文の中間報告を行い、ゼミ内での議論のなかで自身の論を客観的に見直す機会を得ることを目的とする。

先行論文のまとめと問題提起を終えた後は、実際に文学作品の検討に移る。教員は具体的検討の際に必要な文献収集の方法や方法論についての助言や指導を適宜行う。学生は研究の途中成果をゼミ内で発表し、ゼミ生同士の討議を通して、自身の論を研ぎ澄ましていく。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。演習中に適宜資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

演習中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2～8回 学生発表①【問題点を再検討するための方法と資料の検討】
- 第9～15回 学生発表②【再解釈の試み】

成績評価の方法 /Assessment Method

演習内容...70% 授業への取り組み...30%

※発表を行わなかった場合や4回以上欠席した場合は評価不能(－)とし、成績評価の対象としない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に与えられた課題に取り組む、演習に参加すること。演習後は、学んだ内容・指摘事項をそれぞれの卒業論文に活かしながら執筆を進めること。

履修上の注意 /Remarks

夏休み期間中に準備を進めておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この演習では、卒業論文で国語学ならびに日本語学上の問題を取り上げようとする人が、論文の執筆に向けて必要な準備を行なうことを目的とします。

授業は、ゼミ生自らが国語学・日本語学上の問題点を見出し、調査・検討した結果を発表するという形態をとります。発表に際して必要となる文献収集の方法や研究方法についての助言・指導はその都度具体的に行なってゆきます。また、発表内容についてゼミ生全員が意見を出し合い、議論を重ねてゆくことを通して、論理的に思考する力・考察する力・表現する力を養っていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しません。授業中に適宜プリントを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 スケジュールの確認、発表日の決定
- 第2回 卒業論文途中経過発表(1)
- 第3回 卒業論文途中経過発表(2)
- 第4回 卒業論文途中経過発表(3)
- 第5回 卒業論文途中経過発表(4)
- 第6回 卒業論文指導(1)
- 第7回 卒業論文指導(2)
- 第8回 卒業論文指導(3)
- 第9回 卒業論文指導(4)
- 第10回 卒業論文最終発表(1)
- 第11回 卒業論文最終発表(2)
- 第12回 卒業論文最終発表(3)
- 第13回 卒業論文最終発表(4)
- 第14回 資料編の作成方法
- 第15回 まとめ

演習B-2 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表...40% レポート...35% 日常の授業への取り組み...25%
レポート提出と発表(2回)のいずれかを行わなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、各人の発表のレジюмеや草稿を読んで予習をしてください。
授業の後に、発表の場でも出された意見等を踏まえ、研究内容をブラッシュアップして行ってください。

履修上の注意 /Remarks

十分な発表準備を行うとともに、休み期間中の課題にしっかり取り組むこと。
授業科目の一環として学外活動を実施します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この演習では、演習を学習共同体としてとらえ、共同体という集団の中での個々人の人間的成長を目指します。なぜなら異文化間教育は、教師が単に知識を与え、学習者が言語技能の習得を目指すものではなく、人と人との触れ合いを通して、そこに関わる全ての人が新たな「自己」を構築していくものだからです。

演習B-2では、前半に卒業論文の中間報告を行います。そして、後半に卒業論文の提出後、研究成果発表会を行います。到達目標として、第一に、異文化間教育学分野における質的研究の実践と論文執筆ができるようになることを目指します。そのためには、質的研究に関する先行研究をレビューできる力と自分の研究課題を先行研究に位置づける力が必要となります。そして、これらを達成するためには、ゼミ生間で研究経過に関する中間発表を複数回実施し、研究課題や論建での洗練を行います。同時に、自らの研究課題の持つ社会的な意義を理解し、実社会において実践する力を養います。

教科書 /Textbooks

- 西條剛央(2008)『ライブ講義質的研究とは何か：SCQRMアドバンス編』新曜社
- ※講義形式で書かれているので、教員の解説がなくても、わかりやすくなっています。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 西條剛央(2008)『ライブ講義質的研究とは何か：SCQRMベーシック編』新曜社
 - 二通信子他(2009)『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』東京大学出版会
 - 館岡洋子編(2015)『日本語教育のための質的研究入門-学習・教師・教室をいかに描くか』ココ出版
- 過去の卒業論文

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション及び、夏休みの経過報告
- 2回 中間発表(1)：発表者数名
- 3回 中間発表(2)：発表者数名
- 4回 中間発表(3)：発表者数名
- 5回 論文の書き方(1)：全体
- 6回 論文の書き方(2)：序論と結論
- 7回 論文の書き方(3)：本論
- 8回 個別研究指導(1)
- 9回 個別研究指導(2)
- 10回 個別研究指導(3)
- 11回 論文完成前の点検(1)論の展開、構成
- 12回 論文完成前の点検(2)校正
- 13回 卒論発表の準備
- 14回 卒論発表会
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

発表(レジュメ及び、質疑応答も含む) ... 70 % 授業への取り組み ... 30 %
・3分の1以上、無断で欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

論文の書き方を学びながら、実際に執筆を行います。
指定された期日までに、原稿を書いてくるのが必須の条件になります。

演習B-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

参考文献は、適宜紹介します。
授業は、予習を前提として行います。授業終了後には、授業内容をまとめた報告書を交代で作成してもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では、実際に卒業論文が作成できるように促していきます。
自分のために行う研究が他者のためにもなり、それが面白いと思えるようになるといいですね。

キーワード /Keywords

研究デザイン 研究動機 研究意義 研究課題 研究方法 論文

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

4年前期に確定した卒論構想を卒論の形に結実させるべく、卒論に関する個別指導を、時間をかけて繰り返し行います。具体的には、夏休み明けに提出してもらう卒論の下書きに対して、どのような加筆をさらに行わなければならないのか、どのような文献をさらに参照しなければならないのかといった、詳細な指導を行います。個別指導の日はゼミ生の都合に合わせて。指導に沿って卒論の下書きを継続的に改訂することにより、無理なく卒論が完成するよう工夫したいと思います。

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

テキストは用いません。必要に応じて資料をコピーの形で配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館2階の指定図書コーナーに多数の卒論執筆に関するマニュアルがあるので、各自、参照してください。卒論執筆の際に必要と思われる資料や作品に関しては、個別指導の中で各人に具体的に示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 使用された資料の確認
- 3回 使用された資料の妥当性の検討
- 4回 章レベルでの個別指導1：不足している議論の指摘等
- 5回 章レベルでの個別指導2：序論と結論の照応関係
- 6回 段落レベルでの個別指導1：配置順の妥当性
- 7回 段落レベルでの個別指導2：相互関連性の視点から
- 8回 センテンスレベルでの個別指導
- 9回 学生同士の相互内容チェック：学生中心
- 10回 学生同士の相互内容チェック：教員の指導中心
- 11回 文献目録、註に関する確認
- 12回 日本語表記に関する確認
- 13回 引用の妥当性の確認
- 14回 体裁に関する確認
- 15回 提出前の最終チェック

成績評価の方法 /Assessment Method

夏休み明けレポート...50% 卒論指導の受講状況...50%
以下の何れかに該当する場合は、－(評価不能)とします。
①指定された卒論指導を全く受けなかった場合
②夏休み明けレポート(卒論の下書き)の提出を行わなかった場合

演習B-2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、卒論指導の日時に関してメールで予約を取ってください。また、卒論の下書きを指導に沿って改訂したのちに、指定された時間までに、そのファイルをメールで送付して下さい。授業後は指導に従って、卒論テーマの関連書籍を閲覧した上で、卒論の下書きに加筆と改訂を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本演習は、演習B-1に引き続き、卒業論文執筆のための発表を行う。発表では、卒論の進行状況を報告する。各自の問題関心を深めながら、質の高い卒業論文の執筆を目的とする。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 演習の進め方
- 第2～5回 研究発表
- 第6回 中間討論
- 第7～14回 卒業論文の仕上げ
- 第15回 まとめ

以上は予定であり、受講者の人数や理解度に応じて変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

議論への積極性・・・30%、研究発表・・・70%
なお、研究発表を行わなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

自分の発表の前には、入念な準備を行うこと。発表後は、議論の中で出てきた疑問や助言を踏まえて発表内容を練り直し、卒論の執筆を進めること。

履修上の注意 /Remarks

夏休みの間に、十分準備しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文作成に向けて、各自が卒論のテーマに沿った発表を行う。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

各自で用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、各自で調査・収集する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 卒論の進捗状況についての確認
- 2回 受講者による発表・質疑応答
- 3回 受講者による発表・質疑応答
- 4回 受講者による発表・質疑応答
- 5回 受講者による発表・質疑応答
- 6回 受講者による発表・質疑応答
- 7回 受講者による発表・質疑応答
- 8回 受講者による発表・質疑応答
- 9回 受講者による発表・質疑応答
- 10回 受講者による発表・質疑応答
- 11回 受講者による発表・質疑応答
- 12回 受講者による発表・質疑応答
- 13回 受講者による発表・質疑応答
- 14回 受講者による発表・質疑応答
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、日常の授業への取り組み(授業への貢献度、発表内容、作成した資料やレジュメなど)100%。ただし出席状況によって減点する可能性がある。また、5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に発表に向けて参考文献を読み込み、事後に指摘されたことなどを反映しつつ各自で卒論の作成を進める。また、日々のニュースに関心を持つ。

履修上の注意 /Remarks

発表者は、必ずレジュメを作成して発表にのぞむこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習B-2 【昼】

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

四年次までの学習、研究、読書、調査の成果を元に卒業論文のテーマを設定し、執筆してもらいます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。

【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

○ウンベルト・エコ『論文作法』而立書房、1991。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

個別の学生の関心に併せて適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回 ガイダンス、授業運営について
第二回から第十四回 履修者による経過報告
第十五回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における議論への参加 50% 日常の研究活動 50%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、調査、執筆状況についての入念な報告準備をすること。授業後には、指摘された箇所の修正や指示された文献の内容を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

合宿を行うことがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

適宜必要なアドバイスや提案はしますが、あくまで勉強するのは自分です。計画的に執筆しましょう。

キーワード /Keywords

スペイン 文学 文化 批評

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文を作成する上での最終確認をします。
たてた問いに答えるべく、調べるべき資料は何か、考えるべきことは何かなどを、再度みんなで一緒に考えていきましょう。
その上で、どのような結論が予想されるかを考えていきましょう。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特に使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回～14回 各自、扱う作品における問題に答えるべく調査したこと・考えたことについて、現段階での報告します。また、すでに結論を出している場合は、その結論についても報告してもらいます。それを受けて、参加者みんなで、調査対象は妥当か、調査に不備はないか、論理に矛盾はないか、どのような結論が予想されるかなど、自由に議論しましょう。
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(50%)、レポート(50%)により評価します。
①演習発表を行う、②学期末レポートを提出する、以上①、②を満たさない場合、評定不可で成績は「-」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】
授業前に可能な限り他の参加者の扱う作品を読み、演習に参加してください。
授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

自分の扱う作品だけでなく、他のゼミ生の扱う作品もなるべく読むようにしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いよいよ大詰めですね。
卒業論文はぎりぎりに出すのではなく、12月中には出せるよう、余裕をもって取り組んでください。

キーワード /Keywords

日本現代文学

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

中国近代思想史・文化史に関するテーマを受講生各自に配り、その研究に取り組んでもらい、研究成果を発表させる。その上、卒業論文をまとめる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

毎回配る。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究発表の説明
- 2回 研究発表と討議
- 3回 卒業論文の解題
- 4回 卒業論文の序論を修正
- 5回 卒業論文の第一章を修正
- 6回 卒業論文の第一章をまとめる
- 7回 卒業論文の第二章を修正
- 8回 卒業論文の第二章をまとめる
- 9回 卒業論文の第三章を修正
- 10回 卒業論文の第三章をまとめる
- 11回 卒業論文の終章を修正
- 12回 卒業論文の終章をまとめる
- 13回 卒業論文全体を顧みる
- 14回 卒業論文全体をまとめる
- 15回 卒業論文を最終確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 ...40%、卒業論文の結果60%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、指示されたキーワードを読んでおくこと。授業後にはノートを見直し復習すること。

履修上の注意 /Remarks

卒業論文につながるため、研究発表の結果をよく吟味しメモすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

好好学习、天天向上。

キーワード /Keywords

中国、思想、文化交流、

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

卒業論文完成に向けて、引き続き研究と発表を行い、ゼミ生同士でピア・レビューをしながら考察を深め、執筆を進めていく。
本授業には学外実習形式の演習も含む。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

各自の卒論作成上の必要に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の卒論作成上の必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 卒業論文の中間発表①
- 第3回 卒業論文の中間発表②
- 第4回 卒業論文の中間発表③
- 第5回 卒業論文の中間発表④
- 第6回 卒業論文の中間発表⑤
- 第7回 卒業論文の中間発表⑥
- 第8回 卒業論文の中間発表⑦
- 第9回 卒業論文の中間発表⑧
- 第10回 中間討論
- 第11回 卒業論文仕上げ①
- 第12回 卒業論文仕上げ②
- 第13回 卒業論文仕上げ④
- 第14回 卒業論文仕上げ⑤
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(参加態度、課題)30% 発表内容 70%
演習への参加状況が著しく悪く、課題の提出がない場合は「一」評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回研究発表に向けて、調査と執筆を進める。演習の仲間の研究内容についてもコメントを用意する。
演習後は演習内で教員や仲間から受けたコメントと、参照資料についての指示などに基づき、研究と論文の改稿を進めて仕上げていく。

演習B-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

前期に引き続き、ゼミの仲間と研究関心を共有し、刺激しあいながら卒論を完成させたいので、演習前には発表者の草稿を熟読し、コメントで相互に助力してほしい。そのために、専門外の文献や、実社会で生起する出来事にも広く目配りし、演習で学んだことに照らして思考を重ね執筆を進めてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミの仲間と助け合い、刺激しあいながら卒論を完成させ、「自分史上最も頑張った一年」にしましょう。

キーワード /Keywords

演習B-2 【昼】

担当者名 /Instructor 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year 4年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM414M			◎	◎	○
科目名	演習B-2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

各自が決めた卒業論文のテーマに従って、卒論構想発表・中間報告会を行う。発表の1週間前までにレジユメの下書きを提出し、チェックを受け、発表当日までに改善したレジユメを準備しておくこと。発表後は、受講者全員が参加して質疑応答を行い、改善点を探っていく。また、随時、中途段階の卒業論文を提出し、添削を行う。そのコメント等を踏まえて内容を精査・改善し、卒業論文の完成を目指す。

(到達目標)

- 【思考・判断・表現力】問題意識に基づき、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を論理的に表現することができる。
- 【コミュニケーション力】受講生と積極的な議論をしながら、効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。
- 【自立的行動力】社会への関心を持ち、市民として主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の手順の説明
- 2回 卒論構想発表およびディスカッション①
- 3回 卒論構想発表およびディスカッション②
- 4回 卒論構想発表およびディスカッション③
- 5回 卒論構想発表およびディスカッション④
- 6回 卒論構想発表およびディスカッション⑤
- 7回 卒論構想発表およびディスカッション⑥
- 8回 美術館等の施設見学
- 9回 卒論進捗状況の確認①
- 10回 卒論進捗状況の確認②
- 11回 卒論進捗状況の確認③
- 12回 卒論進捗状況の確認④
- 13回 卒論進捗状況の確認⑤
- 14回 卒論発表会①
- 15回 卒論発表会②

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(添削、コメントに対する改善態度を含める)…80%
発表内容…20%

- ※5回以上欠席した場合は、評価不能(－)とします。
- ※担当の発表を行わなかった場合、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表者は一週間前にはレジユメの下書きを提出し、事前にチェックを受けること。

演習B-2 【昼】

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は「演習B-1」を履修しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

西洋美術

比較文化入門 1 【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM111M	◎	○	○		
科目名	比較文化入門 1				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

比較文化入門では、文化資源と文化共生について学びます。

本授業は、講義形式の回と、少人数のクラスに分かれたクラスセミナーの回で構成されます。
講義形式の回では、文化資源について、基本的な知識や研究方法などをオムニバス方式で講義します。
クラスセミナーの回では、図書館研修やレポートの書き方の学習などを通して、大学生としての基礎的な能力を身につけるとともに、少人数の演習形式の授業の準備をします。

(到達目標)

【知識】文化資源に関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

【技能】文化資源の理解のために必要となる基礎的な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】文化資源について、複眼的かつ論理的に思考して、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しません。(授業ごとに適宜プリントなどを配布します。)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館の「比較文化入門・指定図書コーナー」に、各教員の推薦図書を設置しています。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 文化資源・文化共生とは
- 第2回 クラスセミナー(大学生活について)
- 第3回 講義1
- 第4回 講義2
- 第5回 クラスセミナー(レポートの書き方、研究倫理教育)
- 第6回 講義3
- 第7回 講義4
- 第8回 クラスセミナー(図書館研修)
- 第9回 講義5
- 第10回 講義6
- 第11回 講義7
- 第12回 講義8
- 第13回 クラスセミナー(レポート講評)
- 第14回 講義9
- 第15回 クラスセミナー(レポート指導・学習指導)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート100%。授業の欠席は減点の対象になります。クラスセミナーでの参加態度を加味します。

- ・ レポートは2つ課されます。2つとも提出しなければ、評価不能(一)とします。
- ・ 各学期5回以上欠席した場合、もしくはクラスセミナーを2回以上欠席した場合も、評価不能(一)とします。
遅刻の取り扱いなどを含め、詳細は初回の授業で説明します。

比較文化入門 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 事前に読むべき作品などを指定することがあるので、その予習を行うこと。
- ・ クラスセミナーで配布された資料は2学期に必要なになるので、授業後もよく読んでおくこと。
- ・ 授業後はノートなどを基に内容を整理し、復習を行うこと。
- ・ 授業の前後に可能な限り各教員の推薦図書を読み、各領域に関する学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業計画は若干変更になる可能性があります。
初回の授業で詳細なスケジュールや成績評価の方法をお知らせしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化、文化資源

比較文化入門 2 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SEM112M	◎	○	○		
科目名	比較文化入門 2				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

比較文化入門では、文化資源と文化共生について学びます。

本授業は、講義形式の回と、少人数のクラスに分かれたクラスセミナーの回で構成されます。

講義形式の回では、文化共生について、基本的な知識や研究方法などをオムニバス方式で講義します。

クラスセミナーの回では、演習形式で全員が発表を行い、意見交換をします。その中で3年次からの演習（ゼミ）や卒業論文作成の基礎を身に付けます。

（到達目標）

【知識】文化共生に関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

【技能】文化共生の理解のために必要となる基礎的な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】文化共生について、複眼的かつ論理的に思考して、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しません。（授業ごとに適宜プリントなどを配布します。）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

図書館の「比較文化入門・指定図書コーナー」に、各教員の推薦図書を設置しています。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 クラスセミナー（プレゼンテーションについての説明）
- 2回 講義1
- 3回 講義2
- 4回 講義3
- 5回 講義4
- 6回 クラスセミナー（プレゼンテーション）
- 7回 講義5
- 8回 講義6
- 9回 クラスセミナー（プレゼンテーション）
- 10回 講義7
- 11回 クラスセミナー（プレゼンテーション）
- 12回 講義8
- 13回 講義9
- 14回 クラスセミナー（プレゼンテーション）
- 15回 クラスセミナー（レポート指導・学習指導）

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、プレゼンテーション50%。授業の欠席は減点の対象となります。クラスセミナーでの参加態度を加味します。

・レポート提出とプレゼンテーションの両方を満たさなければ、評価不能（-）とします。

・各学期5回以上欠席した場合、もしくはクラスセミナーを2回以上欠席した場合も、評価不能（-）とします。

遅刻の取り扱いなどを含め、詳細は初回の授業で説明します。

比較文化入門 2 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 事前に読むべき作品などを指定することがあるので、その予習を行うこと。
- ・ クラスセミナーでのプレゼンテーションの事前準備を十分に行うこと。
- ・ 授業後はノートなどを基に内容を整理し、復習を行うこと。
- ・ 授業の前後に可能な限り各教員の推薦図書を読み、各領域に関する学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業計画は若干変更になる可能性があります。
最初のクラスセミナーで詳細なスケジュールや成績評価の方法をお知らせしますので、必ず出席してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化、文化共生

日本文化資源論【昼】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科, 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
JPS110M	◎		○		
科目名	日本文化資源論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

一口に「文化」と言っても、漫画や映画、身体的な所作、考え方や価値観、そして障害や性別といった属性に関するものまで、様々です。それぞれの研究対象の性質や、おかれている状況等を考えた上で、説得力のある研究の仕方を検討するという、文化研究の手つきを学ぶことが、授業のねらいです。

2回目からの前半の講義は日本の貴重な文化資源として神楽に焦点を当てて講義します。神楽は古代に源流がありながら、時代を通して多様な形態を生み出し地域に拡散していった文化です。芸能と宗教の結びつき、芸能の歴史的展開について理解を深めてもらいます。また、9回目からの後半の講義では、日本の現代文化の研究の仕方について話します。

(到達目標)

【知識】日本文化を研究する上で必要とされる幅広い知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】様々な日本の文化に関する問題について、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を論理的に表現することができる

教科書 /Textbooks

柄谷行人『日本近代文学の起源』他。必要に応じて資料を配布します。
前半（第2回～第8回）の講義では教科書は使用しません。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

参考書については授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 見学レポートの説明 後半の授業の概要説明
- 3回 神楽の分類をめぐって
- 4回 神楽の多様性①宮廷神楽・巫女神楽・湯立神楽
- 5回 神楽の多様性②出雲流神楽その他
- 6回 神楽の源流①天岩戸神話と神楽
- 7回 神楽の源流②鎮魂祭と神楽
- 8回 古代の神楽と現代の神楽
- 9回 「風景の発見」1章解説
- 10回 「風景の発見」2章解説
- 11回 「風景の発見」3章解説
- 12回 「風景の発見」4章解説
- 13回 「風景の発見」5章解説
- 14回 「風景の発見」6章解説
- 15回 「風景の発見」小レポート

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員が課すレポート（50点×2）により評価します（前半のレポートは神楽の実地見学レポートになります）。レポートを2つ提出しなければ、評定不可で成績は「-」とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】

授業前に講義で扱うテキストを読むことをお勧めします。また前半の授業では見学に向けて事前調査を進めて下さい。
授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

私語や教室の出入りなど、講義の邪魔になるようなことは慎んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

1年生向けの授業ですので、できるだけ分かりやすくお話ししたいと思います。

キーワード /Keywords

文化研究

メディア文化概論【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC110M	◎	△	○		
科目名	メディア文化概論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

我々の生活は、様々なモノや表現によって媒介されて成り立っている。この授業では、「メディア」という概念が含み込んでいる視点を、講義するなかでメディア論的思考を獲得することを目指す。個人の生活あるいは集団生活がどのようなメディアの仕掛けのもとに成立しているのかを批判的に見直すことが目標となる。以下の予定内容以外に、日常生活環境を見つめ直すためのトピックを随時挿入する。そのため、スケジュールは便宜的であり、順序の変更もありうる。

(到達目標)

知識：メディア文化についての基礎的な知識を身につけている。

技能：メディア文化を論じるために必要な情報の収集と基礎的な分析ができる。

思考・判断・表現力：メディア文化について論理的に思考し、自分の考えを適切な方法で表現できる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】はキーワード)

- 第1回 ガイダンス メディアは「当たり前」をつくる
- 第2回 メディア論的思考①メディア史の見取り図
- 第3回 メディア論的思考②マクルーハンの思想1【メディアはメッセージである】
- 第4回 メディア論的思考③マクルーハンの思想2【身体の拡張である】
- 第5回 メディア論的思考④マクルーハンの思想3【活字】
- 第6回 メディア論的思考⑤マクルーハンの思想4【感覚比率】
- 第7回 中間まとめ
- 第8回 メディア史概観①変容する電話
- 第9回 メディア史概観②ラジオの歴史的位置づけ【エンコーディング・デコーディング】
- 第10回 メディア史概観③聴取経験の歴史【レコード】【ウォークマン】
- 第11回 メディア史概観④アトラクションとしての初期映画
- 第12回 メディア史概観⑤物語る映画【トーキー】
- 第13回 メディア史概観⑥テレビとは何か【メディアイベント】
- 第14回 メディア史概観⑦つくられる「わかりやすさ」
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業参加、コメントカードなど)...30% レポート(中間+期末)...70%

* レポート未提出が1つ以上あった場合「-」(評価不能)となる。

* 平常点が一定の基準を満たさない場合「-」(評価不能)となる。基準については第1回(ガイダンス)で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：各回の受講準備として、それまでの講義内容のメモ・ノートを必ず見直しておくこと。

事後：授業内容を復習し、それをふまえて事前の調べを振り返る。身の回りの関連事例について調べてみる。

履修上の注意 /Remarks

授業時間内に、クイズやアンケートをおこなうので、デバイス(ノートPC、スマホなど)を持参すること。

メディア文化概論【昼】

専門教育科目
比較文化科目
文化資源領域科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近現代美術【昼】

担当者名 /Instructor 真武 真喜子 / Makiko Matake / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR213M	◎		○		
科目名	近現代美術				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

20世紀前半に現れた数々の集団的な運動体による冒険と実験、変革としての前衛美術の動向が、20世紀末から21世紀の美術表現にどのように受け継がれ検証され、今日の状況があるのかを探る。20世紀末、すなわち1980年代以降今日までは、前述のような集団的な動きやまとまった主義主張は現れなくなった。むしろ個人的であったり、逆に汎国際的な動向を示す文化表象を一つずつ点検し、それら相互の関連を探っていく。

(到達目標)

【知識】近現代美術に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】近現代美術について論理的に思考・探求し、専門の見地から自分の考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「コンセプチュアル・アート」 著・トニー・ゴドフリー 岩波書店 2001

「アート：“芸術”が終わった後の“アート”(カルチャー・スタディーズ)」著・松井みどり 朝日出版社 2002

「現代アート事典 モダンからコンテンポラリーまで...世界と日本の現代美術用語集」 美術手帖編集部 美術出版社 2009

「アートとは何か：芸術の存在論と目的論」著；アーサー・C.ダントー 人文書院 2018

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. マルセル・デュシャン「泉」から100年、デュシャンは21世紀までも抜群の影響
2. 第1次世界大戦期に生まれたダダ運動とその継承、1950～60年代のネオ・ダダ、そして現代
3. シュルレアリスムの魔力、ヨーロッパからアメリカ大陸、日本へ
4. アール・ブリュット 生の芸術
5. 身体・環境・日常 ダダの継承からポップアートへ
6. ポップ・アートのクールな兄弟姉妹 ミニマル・アートとその膨張
7. アートとは何か？、コンセプチュアル・アートの探求は続く
8. 限定のない展示空間、非芸術的空間から野外まで
9. 大衆消費社会から高度資本主義社会へ、経済を反映したアートの表現
10. 写真が重要なメディアに
11. 映像も重要なメディアに
12. ジェンダー、エコノミー、ポリティクス コンセプチュアル・アートからの展開
13. 国際美術展の興隆
14. 芸術に中心はなく グローバリズムと多民族主義のアート
15. プロジェクト型のアート 地域社会・都市を舞台に

成績評価の方法 /Assessment Method

課題(2回)・・・50% 毎回moodle上で課題をあげます。15回のうち2回分を選んで回答を送ってください。

レポート・・・40% 13-14回目の授業とアナウンスメントで出題します。学内メール添付で提出してください。

日常の授業への取り組み・・・10%

課題2回とレポートの提出がそろって評価可能となります。提出ゼロは評価不能、課題のみ、レポートのみではD評価となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1)自主練習を行い、授業の内容を反復すること。
- (2)随時、課題を学習支援フォルダに挙げるので、参照し準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

小テストやレポートは、授業の内容を把握しているかどうかよりも、むしろ授業で得た知識を自身の関心においてどのように展開したが、また、展開させたいか、を問うものである。

近隣の展覧会を見て回るなど、日常的にも美術の環境に親しんでいただきたい。

キーワード /Keywords

ダダ シュルレアリスム アール・ブリュット コンセプチュアル・アート以後 ジェンダー、民族、国境を超えて グローバリズムと地域性

日本の宗教文化【昼】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR214M	◎				
科目名	日本の宗教文化				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

テーマ：神道の成立と展開

初詣やお祭りやお祓いなど、日本人の宗教生活に密着した宗教である神道については、義務教育や高校教育では詳しく触れられることがない。学界においても、戦前戦後を通じて本格的に考究されることがなかった。近年になってようやく研究が進展しはじめた。最近ではパワースポット詣でやスピリチュアルブームでもてはやされているところがあるが、そうした関連書籍に目を通して、ずいぶん誤解されているところが見受けられる。

神道という宗教は日本の民族宗教として原始時代から成立していたと考えられがちである。また民俗宗教として社会の中で自然発生的に形をなしてきた宗教という見方もなされることもある。あるいは、神道は土俗的信仰が仏教に取り込まれる中で、仏教の一つの部門・形態として形成されてきたとする議論もある。しかしながら本当にそうであろうか。

神道という宗教は、稲作漁労文化を基盤としているが、それが自然に発展を遂げて今日に至ったものではなく、古代東アジアの国際関係・文化交流・宗教交流の中の様々な力学によって形作られていったと考えられる。

神道は奈良時代に仏教との関係を深めていく。律令国家が神道と仏教を国家の宗教の二本柱と位置付ける中で、神を仏との関係をどう位置付けるか、その思想は政治的要因も絡んで大きく揺らいでいく。今日に続く神道と仏教という二つの宗教の共存のあり方は平安時代まで試行錯誤が続いていくのである。こうした古代の宗教史は今日の日本人の宗教生活や文化のありかたとも密接に関わってくる問題だろう。古代のみならず中世から現代までの日本宗教の流れにも触れながら講義を進めていきたい。

【知識】日本の宗教文化に関する基礎的知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岡田莊司編『日本神道史』（吉川弘文館）
- 井上光貞『日本古代の王権と祭祀』（東京大学出版会）
- 高取正男『神道の成立』（平凡社）
- 村山修一『本地垂迹』（吉川弘文館）
- 吉田孝『日本の誕生』（岩波新書）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方
- 2回 「神道」の成立をめぐる諸学説
- 3回 律令制以前の「神道」
- 4回 律令制と神道の成立
- 5回 中国の神祇祭祀
- 6回 神祇令と唐の祭祀制度(1) 律令制の導入と神祇祭祀
- 7回 神祇令と唐の祭祀制度(2) その共通点と相違点
- 8回 神祇令と唐の祭祀制度(3) 供饗と神饌
- 9回 日本における儒教・道教の受容
- 10回 仏教伝来と神道
- 11回 神仏習合の発生
- 12回 神仏習合と神仏隔離
- 13回 平安時代の神仏習合
- 14回 神仏習合と近代の神仏分離
- 15回 まとめ(受講者からの質問を中心に)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(コメントカード提出)100%
コメントカードを1回も提出しなかった場合、成績を評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

シラバスで紹介した参考書をよく読んでおくと、授業への理解が深まりますので読み進めて下さい。
授業で分からない点があったら、授業終了後に時間を設けますので質問をコメントカードに記入すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

高校レベルの日本古代史(飛鳥時代~平安時代)について高校時代の教科書や図書館の日本史概説書で復習しておいてください。

キーワード /Keywords

神道、神社、神祇令、皇帝祭祀、律令制、神仏習合、本地垂迹説、神仏隔離

日本の近代思想【昼】

担当者名 /Instructor クラマー スペン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR217M	◎		○		
科目名	日本の近代思想				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

明治憲法（大日本帝国憲法）が作られる過程を通して明治前期の政治史を理解するとともに、憲法に関する当時の様々な議論に触れ、今日の憲法をめぐる政治的課題を、過去との比較から考える視座を学ぶことを目標とする。

講義は主に講義形式で進め、毎回レジュメないし必要なテキスト・史料を配布する。授業の最後にリアクションペーパーを書いてもらう。

（到達目標）

【知識】明治期の民権運動から大正期のデモクラシー運動に至る日本近代の社会思想の流れの基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】近代国家の構造・運用・機能などからその背後にある思想について論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて次回講義につかうテキスト・史料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

鳥海靖『日本近代史講義』東京大学出版会、1988年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 近世日本の秩序と国際環境
3. 「公儀」から「公議」へ
4. 新秩序の模索と戊辰戦争
5. 揺籃期の明治（1）：新政府の樹立と立憲政治の理念
6. 揺籃期の明治（2）：明治6年の政変と西南戦争
7. 立憲国家への道程（1）：自由民権運動と憲法草案
8. 立憲国家への道程（2）：政府内の意見対立と明治14年の政変
9. 立憲国家への道程（3）：自由党と立憲改進黨
10. 立憲国家への道程（4）：憲法調査と草案の検討
11. 華族制度・内閣制度の確立
12. 明治憲法とはどのような憲法だったか？（1）：天皇の地位と権限
13. 明治憲法とはどのような憲法だったか？（2）：帝国議会の地位と権限
14. 明治立憲制の運用と問題点
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度（平常点）20%、ペーパーテスト80%
平常点60点未満あるいはペーパーテスト欠席の場合、評価不能（-）とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布された資料に事前に目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

「授業態度（平常点）」は総合成績の20%だけ占めるが、15回目までに60点以上を取らない受講生はペーパーテストが受験できないので、授業に積極的な出席が不可欠である。「授業態度（平常点）」の評価方法は出欠の把握と「出席カード兼リアクションペーパー」（毎週の授業に配付）に書いてあるコメントである。なお、授業態度の観点から問題と見なせる行為（私語、居眠り、長時間の携帯電話・スマートホンいじりなど）は発見次第減点の理由になる可能性がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の生活文化【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
JPS210M	◎	○	○		
科目名	日本の生活文化				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

前半は日本人の生活の中心である衣食住の歴史を先史時代にさかのぼるとともに、日本文化の確立期である江戸時代の食文化、衣服、化粧を見ていきます。

後半は北部九州の菓子の歴史の背景にある社会の歴史を外来文化や政治的・経済的背景を中心に見ていきたいと思えます。

(到達目標)

【知識】日本の衣食住の歴史に関する幅広い知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】現代日本の生活文化の歴史的理解に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】日本の生活文化について、複眼的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えを論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○永原慶二『苧麻・絹・木綿の歴史』(吉川弘文館2004年)(新書は明記)

○柳田國男『木綿以前の事』(岩波文庫1979年)

○丸田薫『江戸の卵は1個400円』(中公新書2011年)

○原田信男『江戸の料理史-料理本と料理文化-』(中公新書1989年)

○原田信男編『江戸の料理と食生活』(小学館2004年)

○八百啓介『砂糖の通った道-菓子から見た社会史-』(弦書房2011年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 江戸時代における衣食住の成立
- 3回 生活文化の東日本と西日本
- 4回 照葉樹林文化の食文化と発酵食品
- 5回 江戸時代の食文化
- 6回 肉食と鶏卵食
- 7回 木綿の歴史
- 8回 近世の国産木綿と輸入木綿
- 9回 古代・中世における外来菓子と宗教
- 10回 長崎貿易と輸入砂糖
- 11回 長崎警備と南蛮菓子
- 12回 南蛮菓子のルーツ
- 13回 飴の歴史
- 14回 藩政改革と菓子 城下町小倉と菓子
- 15回 福岡県の近代産業社会と菓子

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の授業レポート...50% 筆記試験...50%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・教科書・参考文献をよく読んでおくこと。
第1回目の授業で受講上の重要事項の説明と注意を行います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学史（古典）【昼】

担当者名 /Instructor 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT223M	◎		○		
科目名	日本文学史（古典）				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

古典文学の生成、発展という大まかな流れを理解する。
現在、「古典」として扱われている作品は、いかにして「古典」となったのか、「古典」とはどのようなカテゴリーなのかを追求することを通して、「古典」の意味を考える。

（到達目標）

【知識】日本古典文学史に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】日本古典文学史について、総合的、論理的に思考して解決策を探し、自分の考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「古典」とは何か
- 2回 文学の曙：神話
- 3回 和歌と権威
- 4回 物語の誕生
- 5回 物語の展開
- 6回 古典と学問【漢籍】
- 7回 古典と学問【和歌・物語】
- 8回 古典と中世の注釈
- 9回 古典となった芸能、なれなかった芸能
- 10回 近世の出版と古典【古活字版と「準古典」】
- 11回 近世の出版と古典【物語と作者】
- 12回 近世の出版と古典【江戸の思想史と古典形成】
- 13回 明治維新と古典【国家のアイデンティティと古典形成】
- 14回 明治維新と古典【演劇の近代化と歌舞伎】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 80%

平常の学習状況 20%

- ・試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ※ただし、場合によっては代替の課題を課すことがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習は特に必要としないが、授業後に授業内容を整理し理解しておくこと。
参考文献などの指示があった場合は目を通しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

文学史年表を暗記するのではなく、自分なりに文学史の流れを組み立てられるよう、自ら考える姿勢で臨むこと。
受講者数や参加者の希望に応じて、一部内容を変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文学史（近現代）【昼】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT224M	◎		○		
科目名	日本文学史（近現代）				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業は教職科目です。ですから、まずは高校で現代文・文学史を教える上で必要な、基礎的な知識の習得を目標とします。その上で、文学研究に関わる専門的な話もしていきます。

文学作品は、それ以前に書かれた作品とのつながり、同時代における様々な関心事や文化との関わりの中から生まれます。表現や思想を流れとして把握し、同時に、各作家とその作品を取りまく状況（コンテクスト）を学ぶことで、作品の理解・解釈は、これまでとは違ったものになります。

高校までとは一味違う、文学を研究する魅力を、知っていただければと思います。

【知識】日本文学史に関する幅広い知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】日本文学史に関する問題について、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しません。必要に応じて資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 矢野龍溪（政治小説）
- 3回 坪内逍遙・二葉亭四迷
- 4回 尾崎紅葉・幸田露伴
- 5回 島崎藤村（自然主義・前夜）
- 6回 田山花袋（自然主義）
- 7回 夏目漱石
- 8回 森鷗外
- 9回 ここまでのまとめと小テスト
- 10回 宮沢賢治（大正期の童話）
- 11回 芥川龍之介（新思潮派）
- 12回 横光利一（新感覚派）
- 13回 太宰治（無頼派）
- 14回 三島由紀夫（戦後派）
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（40%）、レポート（60%）により評価します。

学期末レポートが未提出の場合、評定不可で成績評価は「-」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】

授業前に講義で扱う作家について文学史の本等で学習しておいてください。

授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

私語や教室の出入りなど、講義の邪魔になるようなことは慎んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

文学史は、高校では手薄になりがちでしょうから、なるべく基本的な話を心がけます。

キーワード /Keywords

日本近・現代文学史

日本語学概論I【昼】

専門教育科目
比較文化科目
文化資源領域科目

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN120M	◎	△	△		
科目名	日本語学概論 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

我々が普段何気なく使用している日本語を、音声・音韻・文字などの観点より観察することを通して、日本語の特色について考える。その中で、日本語学の基礎理論を学ぶとともに、過去の日本語と現代日本語とのかかわりについても、個別の現象を抑えながら把握するよう努める。

(到達目標)

- 【知識】日本語学に関する基礎的な知識を総合的に身につけている。
- 【技能】日本語を様々な角度から複眼的に分析することができる。
- 【思考】日本語の実相を多様な観点から体系的に説明することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』和泉書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 音声学と音韻論
- 第3回 音声学の基礎
- 第4回 単音：母音を観察する
- 第5回 単音：子音を観察する一調音点と調音法(1)
- 第6回 単音：子音を観察する一調音点と調音法(2)
- 第7回 カ行音と硬口蓋化現象
- 第8回 サ行音と中舌母音
- 第9回 タ行音と四つ仮名の混同
- 第10回 ハ行音と唇音退化の法則
- 第11回 マ行音～ワ行音
- 第12回 撥音と条件異音
- 第13回 促音と逆行同化現象
- 第14回 期末レポート課題提示
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% レポート...80%
レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の事後には、ノートをもとに内容を整理し、復習を行うとともに、授業中に指示された課題にも取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

この科目履修後に「日本語学概論II」を受講すれば、より多角的な観点から日本語の諸現象を理解することができます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語学概論II 【昼】

担当者名 /Instructor 堀尾 香代子 / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN121M	◎	△	△		
科目名	日本語学概論II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

普段何気なく使用している日本語を語彙・文字・文法・方言などの観点から観察することを通して、日本語の特色について考える。そのなかで日本語学の各分野における基礎理論について、個別の現象を抑えながら把握するよう努める。とくに、知識の習得に終始するのではなく、各分野における様々な問題点について自ら考える力を養っていく。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。授業中に適宜プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

佐伯哲夫・山内洋一郎編『国語概説』和泉書院

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日本語学と日本語史
- 第2回 語彙論の基礎
- 第3回 方言(1)－方言圏論－
- 第4回 方言(2)－アクセント－
- 第5回 アクセントの型
- 第6回 日本語の語種と表記
- 第7回 漢字の来歴
- 第8回 漢字と漢語の受容
- 第9回 漢語の変容と和製漢語
- 第10回 外来語の受容
- 第11回 上代における万葉仮名の誕生
- 第12回 上代語の音韻と仮名遣い
- 第13回 中古における平仮名・片仮名の誕生
- 第14回 期末レポート課題の提示
- 第15回 異体仮名

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...20% レポート...80%
レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の事後には、ノートをもとに内容を整理し、復習を行うとともに、授業中に指示された課題に取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の古典文学【昼】

担当者名 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT220M	◎		○		
科目名	日本の古典文学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

中世の文学作品を取り上げ、読解を通して、内容を鑑賞するとともに、現代にも通じるテーマを探し出す。
関連する作品との比較対照を通して古典文学の思考法、特徴などを理解する。

(到達目標)

【知識】日本の古典文学に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】日本の古典文学について、総合的、論理的に思考して解決策を探し、自分の意見を論理的に表現することができる

教科書 /Textbooks

大津雄一・平藤幸『平家物語 覚一本 全改訂版』武蔵野書院 2014年

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 市古貞次訳注『平家物語』新編日本古典文学全集 小学館
『平家物語』一～四 完訳日本の古典 小学館
- 『平家物語』角川ソフィア文庫ビギナーズクラシック
- 大津雄一『『平家物語』の再誕』NHKブックス
- 佐伯真『戦場の精神史-武士道という幻影』NHKブックス
- 佐伯真『建礼門院という悲劇』角川選書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション-平家物語とは？-
- 2回 平家物語の享受史と諸本
- 3回 祇園精舎・殿上の闘闘【平家の栄華】
- 4回 西光被斬【鹿の谷事件とその後】
- 5回 橋合戦【高倉宮の謀反】
- 6回 入道逝去【清盛の死】
- 7回 実盛
- 8回 宇治川【板東の武士団】
- 9回 木曾最期
- 10回 敦盛最期
- 11回 小宰相【中世的女性像】
- 12回 那須与一
- 13回 先帝御入水
- 14回 能登殿最期
- 15回 大原御幸【平家の鎮魂と建礼門院】

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 90%
平常の学習状況 10%

- ・試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
- ※ただし、場合によっては代替の課題を課すことがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で扱いきれない部分についても現代語訳などを読み、内容を理解して参加することが望ましい。
授業で扱った章段については、登場人物の関係や物語の流れについて、物語の内容を整理し理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講人数、受講者の興味関心によって、取り扱う章段を変更する場合がある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の近代文学【昼】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT221M	◎		○		
科目名	日本の近代文学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、明治時代以降の近代文学作品を取り上げ、文学研究の基礎を学びながら、研究対象としての文学作品との向き合い方を学びます。
具体的には、太宰治の短編小説を取り上げ、そこで用いられている数々の小説技法を解説します。その上で、研究対象として文学作品を〈読む〉ということはどのようなことなのか、どのようにして〈読む〉のかなど、趣味読書と文学研究の違いを学びます。

(到達目標)

【知識】日本の近代文学に関する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】日本の近代文学に関する諸問題について、論理的に思考して、自分の考えや意見を明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○花田俊典『太宰治のレクチュール』(双文社出版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文学研究のイメージと実際①【作家論】
- 第3回 文学研究のイメージと実際②【作品論】
- 第4回 文学研究のイメージと実際③【テキスト論】
- 第5回 文学研究のイメージと実際④【文学研究の現在】
- 第6回 太宰治と『晩年』
- 第7回 「魚服記」第一章①【小説のタイトルと冒頭の関係】
- 第8回 「魚服記」第一章②【小説の語り手に着目する】
- 第9回 「魚服記」第二章①【登場人物の設定を読む】
- 第10回 「魚服記」第二章②【登場人物の変貌を読む】
- 第11回 「魚服記」第二章③【登場人物の心情を読む】
- 第12回 「魚服記」第三章①【登場人物の無意識を読む】
- 第13回 「魚服記」第三章②【小説の空白を読む】
- 第14回 「魚服記」第四章【小説の結末を読む】
- 第15回 「魚服記」まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...80% 日常の授業への取り組み...20%
※5回以上欠席した場合は評価不能(一)とし、成績評価の対象とはしない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に作品を読んで講義に参加し、事後には講義内容を踏まえて再読すること。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

3年時に日本近代文学ゼミを考えている人は、本講義をぜひ受講してみてください。また本講義は、文学研究についての知識を持たない受講生を想定して、講義内容を設定しています。これまで日本の近代文学作品に触れることのなかった学生の受講を大いに歓迎します。

キーワード /Keywords

日本近代文学、太宰治

日本の現代文学【昼】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT222M	◎		○		
科目名	日本の現代文学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この講義では、第二次大戦以後（1945～）の文学作品を扱います。戦後の文学作品を複数とりあげ、文学研究の手つきを示すとともに、戦後文学が抱え込んだ問題等について話します。文学研究の方法を学び、戦後文学に関する幅広い知識を習得することが、講義のねらいです。

（到達目標）

【知識】日本の現代文学に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】日本の現代文学に関する問題について、総合的、論理的に思考して解決策を探索し、専門の見地から自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

使用しません。授業中に扱う作品のコピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 坂口安吾「桜の森の満開の下」(1) 作家・坂口安吾について
- 3回 坂口安吾「桜の森の満開の下」(2) 先行研究および作品の特徴概観
- 4回 坂口安吾「桜の森の満開の下」(3) 解釈 主人公の山賊の男について
- 5回 坂口安吾「桜の森の満開の下」(4) 解釈 都の女の設定について
- 6回 坂口安吾「桜の森の満開の下」(5) 解釈 満開の花の下について
- 7回 坂口安吾「桜の森の満開の下」(6) 小テスト
- 8回 三島由紀夫「月澹荘綺譚」(1) 作家・三島由紀夫について
- 9回 三島由紀夫「月澹荘綺譚」(2) 作品の中心テーマについて
- 10回 三島由紀夫「月澹荘綺譚」(3) 解釈 「白痴」の君江について
- 11回 三島由紀夫「月澹荘綺譚」(4) 解釈 勝造について
- 12回 三島由紀夫「月澹荘綺譚」(5) 解釈 照茂について
- 13回 三島由紀夫「月澹荘綺譚」(6) 解釈 見るという行為について
- 14回 三島由紀夫「月澹荘綺譚」(7) 小テスト
- 15回 講義のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(30%)、レポート(70%)により評価します。
学期末レポートが未提出の場合、評定不可で成績評価は「-」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前・事後学習の内容】

授業前に講義で扱う作家の作品を読んでおいてください。
授業後はノートを基に内容を整理し、復習を行ってください。

履修上の注意 /Remarks

私語や教室の出入りなど、講義の邪魔になるようなことは慎んでください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

扱う作品数は少ないですが、講義中にそれぞれの作家の他の作品についても話します。
1つ1つの作品をじっくり、丁寧に解釈していきたいと思います。

キーワード /Keywords

日本現代文学、坂口安吾、「桜の森の満開の下」(作品)、三島由紀夫、「月澹荘綺譚」

日本美術史入門【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR215M	◎	○	○		
科目名	日本美術史入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

辻惟雄・著『岩波 日本美術の流れ 7 日本美術の見方』に基づきながら、日本美術を概観する。日本美術の概説書と言うと時代順に美術作品が列記されているものを想像する人が多いかと思うが、本書の章立ては「美しい自然」「飾る喜び」「飾らない美意識」「遊戯する心」「聖なるもの、縄文的なるもの」となっている。つまり、特質毎にまとめられており、日本美術の様々な側面を的確に把握することが可能となっていると言えよう。また、本書では、日本美術ならではの特質をわかりやすく紹介するために、適宜、中国美術との比較が行われている。

本講義では、日本美術史の多様性を理解することを目指したい。尚、時代順の概説も学習したい者は、本書と合わせて、『岩波 日本美術の流れ』の1～6に目を通すと良いであろう。

さらには、本講義の12～15回では、絵巻の基礎を学習する。段落式絵巻と連続式絵巻とは何か、段落式絵巻と連続式絵巻との画面構成の違い、時間表現の違いなどを確認する。

(到達目標)

【知識】日本美術史に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】日本美術史の考察に必要な情報を収集・分析することができる。

【思考・判断・表現力】日本美術史について論理的に思考・探求し、専門的見地から自分の考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 辻惟雄『岩波 日本美術の流れ 7 日本美術の見方』について
- 2回 飾る喜び-縄文土器、装飾古墳、平等院鳳凰堂
- 3回 飾る喜び-西本願寺「三十六人歌集」、巖島神社「平家納経」
- 4回 飾る喜び-座敷飾り、唐物、「日月花鳥図屏風」
- 5回 飾る喜び-桃山建築、変わり兜、岩佐又兵衛「豊国祭礼図屏風」
- 6回 飾る喜び-葛飾北斎「男浪・女浪図」、尾形光琳「紅白梅図屏風」
- 7回 飾らない美意識-金地院「秋冬山水図」、長谷川等伯「松林図屏風」
- 8回 遊戯する心-笑う埴輪、正倉院文書落書き
- 9回 遊戯する心-「をこ絵」「地獄草紙」「鳥獣人物戯画」
- 10回 遊戯する心-「蝦蟇・鉄拐図」「枯木猿猴図」
- 11回 遊戯する心-伊藤若冲「野菜涅槃図」、長澤芦雪「白象黒牛図屏風」
- 12回 絵巻入門-段落式絵巻・連続式絵巻、国宝「源氏物語絵巻」の概要
- 13回 絵巻入門-「源氏物語絵巻」内「関谷」「柏木」「夕霧」「御法」「宿木」等
- 14回 絵巻入門-平安時代から鎌倉時代の連続式絵巻に見る異時同図法
- 15回 絵巻入門-平安時代から鎌倉時代の連続式絵巻に見る画面展開(進行方向逆行・コマ割り)の手法

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末テスト(自筆ノート・授業時配布レジュメ持ち込み可)・・・70%

コメントカード・・・30%

下記のいずれかに該当する場合には、評価不能「一」となります。

学期末試験を受験していない・5回以上の欠席

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、十分に理解できていない箇所については、レジユメに挙げた参考文献等に目を通して理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の宗教美術【昼】

担当者名 /Instructor 五月女 晴恵 / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR216M	◎	○	○		
科目名	日本の宗教美術				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

平安時代は、美術品制作に関して技術・美意識ともに一つの頂点を迎えた時期とも言われ、数多の仏画の名品が生み出された時代としても知られる。本講義では、平安時代から鎌倉時代前半までの仏画の名品を取り上げながら、仏画の基本（尊像名・描法・修法など）を概観したいと思う。

(到達目標)

【知識】日本の宗教美術に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】日本の宗教美術の考察に必要な情報を収集・分析することができる。

【思考・判断・表現力】日本の宗教美術について論理的に思考・探求し、専門的見地から自分の考えを適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の導入-平安仏画・鎌倉仏画
- 2回 仏画概説(如来・釈迦の一生)
- 3回 仏画概説(菩薩)
- 4回 仏画概説(明王・天部)
- 5回 藤田美術館所蔵「玄奘三蔵絵巻」の内容(前半~後半)
- 6回 藤田美術館所蔵「玄奘三蔵絵巻」の内容(末尾)と、唐におけるインド風仏像の流行
- 7回 金剛峯寺所蔵「仏涅槃図(応徳涅槃)」をめぐって【鉄線描・肥瘦線】
- 8回 金剛峯寺所蔵「仏涅槃図(応徳涅槃)」をめぐって【絵仏師・宮廷絵師】
- 9回 奈良国立博物館所蔵「十一面観音菩薩像」をめぐって【東大寺戒壇院】
- 10回 奈良国立博物館所蔵「十一面観音菩薩像」をめぐって【法隆寺金堂壁画】
- 11回 平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって【四方四季・悉皆金色】
- 12回 平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって【迎講・四天王寺西門信仰】
- 13回 平安時代から鎌倉時代の「阿弥陀来迎図」をめぐって【重源・臨終儀礼】
- 14回 聖衆来迎寺「六道絵」をめぐって
- 15回 「僻邪絵」「地獄草紙」「餓鬼草紙」をめぐって

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験(自筆ノート・授業時配布レジユメ持ち込み可) or 二本の小レポート・・・70%

コメントカード(小テスト)・・・30%

下記のいずれかに該当する場合には、評価不能「一」となります。

学期末試験を受験していない(or小レポート二本を未提出)、5回以上の欠席

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、十分に理解できていない箇所については、レジユメに挙げた参考文献等に目を通して理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の大衆文化【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
JPS211M	◎	○	△		
科目名	日本の大衆文化				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

本講義で扱う「大衆文化」とは、メディア史・都市史を補助線としつつ形成されて流通してきた文化を指している。現在の大衆文化のトピックをとりあげながら、問題意識を共有し、歴史的事象の紹介や事例分析をおこなっていく。とりあげる素材は、人間が生み出す物語あるいは芸が中心となる。現在を照らし返すきっかけを提供するという目的のもとに、近世・近代・現代に目配せをして事象の紹介をしていく。本講義の目標のひとつは、物語・場・受け手という焦点のあて方を知るなかで大衆文化研究のテーマを学ぶことにある。受講者は、そのテーマに基づき自らの問題意識を醸成していくことを求められる。ふたつには、日本の大衆文化史についての歴史的な知識をできるだけ増やしていくことにある。つまり、どの事象を扱ううえでも、必ず歴史的・社会的なコンテクストへの関心を深めていくことが求められる。

●到達目標

知識：日本の大衆文化についての専門的な知識に見つけている。

技能：日本の大衆文化を論じるために必要な情報の収集、分析ができる。

思考・判断・表現力：日本の大衆文化の特徴について論理的に思考し、自分の考えを適切な方法で表現できる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス 講義のデザイン
- 第2回 大衆文化史概説①【近世】【近代】
- 第3回 大衆文化史概説②【近現代】
- 第4回 大衆文化史概説③【現代】
- 第5回 物語の比較①【比較の基準】
- 第7回 物語の比較②【股旅】
- 第5回 物語の比較③【村落共同体】
- 第6回 物語の比較④【サラリーマン】
- 第7回 物語の比較⑤【家族】
- 第8回 中間まとめ
- 第9回 上演空間の比較①【祝祭の渴望】
- 第10回 上演空間の比較②【歌舞伎】
- 第10回 上演空間の比較③【受容論的視点】
- 第11回 上演空間の比較④【演じる観客】
- 第12回 上演空間の比較⑤【歌舞伎の変貌】
- 第13回 上演空間の比較⑥【現代の上演空間】
- 第14回 映像鑑賞
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業参加への積極性、コメント提出)…約30%

レポート…約70%

* 期末レポートに加え中間レポートを課すことがある。中間レポートのかわりに、中間試験がおこなわれることがある。

* レポート未提出が1つ以上あった場合「-」(評価不能)となる。

* 平常点が一定の基準を満たさない場合「-」(評価不能)となる。基準については第1回(ガイダンス)で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：告知された内容については各自調べておく
事後：コメント記述のために講義内容を復習しておく

履修上の注意 /Remarks

各回の講義の内容は、以降の講義につねに関連していくことになる。したがって、講義内容を各自自主的に見直し、なおかつ情報収集をまめに心がけていく必要がある。
授業時間内に、クイズやアンケートをおこなうので、デバイス（ノートPC、スマホなど）を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大衆文化というテーマは、誰にでも親しみやすいものである一方で意識をとぎすまさない、問題が見えてこないということもまた確かです。コメントカードにも自分が授業を聞いて考えたことを積極的に記述することを求める。

キーワード /Keywords

メディア、物語、芸、歴史

日本文学概論 【昼】

専門教育科目
比較文化科目
文化資源領域科目

担当者名 /Instructor 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科, 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科
生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT111M	◎		○		
科目名	日本文学概論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義は、受講生が培ってきた読書慣習や教科「国語」を通じての知識を、日本文学研究のための専門知識へと、レベルアップすることを目的とする。

具体的には、今、日本文学を学ぶ者として知っておくべき基礎知識や概念について概説し、同時に代表的な作家や作品、文学史的な事象について講義する。これにより、人や時代の動的な営みのなかで文学を捉えることの可能性を考えていく。

最終的には、日本文学とは何か、日本文学を「今」学ぶとは何か、についてぜひ受講者それぞれに考えてもらいたい。

(到達目標)

【知識】日本文学に関する基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】日本文学について、論理的に思考して、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○各種、日本文学史。

他は授業内で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 ガイダンス - 日本文学のイメージ -
- 第 2 回 古典文学における「作者」
- 第 3 回 古典文学における「作品」
- 第 4 回 古典文学における「読者」
- 第 5 回 古典文学における「メディア」
- 第 6 回 近代文学における「作者」
- 第 7 回 近代文学における「作品」
- 第 8 回 近代文学における「読者」
- 第 9 回 近代文学における「メディア」
- 第 10 回 現代文学における「作者」
- 第 11 回 現代文学における「作品」
- 第 12 回 現代文学における「読者」
- 第 13 回 現代文学における「メディア」
- 第 14 回 日本文学特論
- 第 15 回 おわりに - まとめと課題 -

成績評価の方法 /Assessment Method

担当者ごとの課題 (レポートもしくはテスト) による・・・100%

・ 3つの課題のうち、1つでも提出 (もしくは受験) しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に作品を指定、もしくは複写資料を配布する場合があるので、その予習・復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等についての質問は今年度主担当の教員まで。
講義内容については、各担当教員に問い合わせてください。

キーワード /Keywords

日本文学・日本古典文学・日本近代文学・日本現代文学

現代日本語学 【昼】

担当者名 /Instructor 岡田 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN222M	◎	○	○		
科目名	現代日本語学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、日本語非母語話者による誤りの表現や身近でふしぎな日本語の現象について考えることで、文法研究のおもしろさを味わい、文法的な分析力・応用力を養います。

(到達目標)

[知識]現代日本語に関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

[技能]現代日本語の理解のために必要な情報を収集し分析することができる。

[思考・判断・表現力]現代日本語にみられる諸現象について複眼的に思考し、その原理を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

オリエンテーションの時に知らせる。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『ふしぎ発見！日本語文法』（名古屋大学日本語研究会GA6著、三弥井書店刊）

『はじめての人の日本語文法』（野田尚久著、くろしお出版）

○『よくわかる文法』（藤原雅憲著、アルク）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。日本語クイズ。
- 2回 身近な文法。日本語の語順
- 3回 外国人はどやうやって品詞を区別する？（「ほしい」は「want」だから動詞？）
- 4回 何が格助詞を決めるの？（「きのうに行った」と言わないのはなぜ？）
- 5回 述語と項。（「大介、京子が好きなんだって」なぜ解釈の違いが生まれる？）
- 6回 活用の法則はどのくらい覚えなければならないの？
- 7回 ボイス（「太郎は、子どもに泣かれた」に対応する能動文は？）。
- 8回 テンス（過去のことなのに「*日本へ来た前に両替した」はなぜ変なの？）。
- 9回 アスペクト。動詞分類。
- 10回 一語とは。アクセント。
- 11回 コソア・ダイクシス。
- 12回 補語と名詞修飾。
- 13回 つなぐ言葉と条件表現。
- 14回 ら抜き・レタス・さ入れ。数量詞。
- 15回 「は」と「が」にまつわる話。いろいろな「タ」。

・ 但し、授業内容は授業の進行状況により変わることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テスト80%、日常の授業への取り組み20%

・ 6回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後には自分が取ったノートを読み返すこと、ふしぎな日本語の現象を身の回りで見つけて考えてみること。
授業前には前の回の小テストの問題と解答を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語表現法 【昼】

担当者名 /Instructor 岡田 美穂 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN223M	◎	○	○		
科目名	日本語表現法				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業は自分の考えを相手の的確に伝える力を養うこと、および、論文の展開パターンを用いて文章を書く力をつけることを目的として行います。

(到達目標)

[知識]日本語表現法に関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

[技能]論理的でわかりやすい文章を書くスキルを身につけている。

[思考・判断・表現力]自分の考えや判断を的確な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションのときに知らせる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション。日本語カテスト
- 2回 基本構文力・ねじれない文
- 3回 単語（単語を的確に使おう）
- 4回 要約してみよう
- 5回 パラグラフ（主題文と支持文）
- 6回 言葉の時間感覚
- 7回 図化・文章化の往復運動（基本練習）
- 8回 図化・文章化の往復運動（応用練習）
- 9回 相手に会わせた表現。日本語の理解と表現力
- 10回 文体と表現。参考文献の書き方。論文の構成
- 11回 序論の構成要素（課題の提示）
- 12回 序論の構成要素（目的の提示）
- 13回 本論の構成要素（原因の考察）
- 14回 本論の構成要素（列挙）
- 15回 本論の構成要素（帰結）・結論の構成要素（結論の提示）

・授業の内容は進度によって変わることがあります。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の小テスト80%・授業への取り組み20%

・6回以上欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後には自分が取ったノートを読み返すこと、授業中に行った練習問題をもう一度やってみること。
授業前には前の回の小テストの問題と解答を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本語音声学 【昼】

担当者名 /Instructor 矢野 準 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN224M	◎	○	○		
科目名	日本語音声学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

- ① 学習の理解を助けるために、適宜、音声教材を取り入れながら、国語教育的な観点を意識しつつ日本語の音声学や音韻論の基本を講ずる。
- ② 共時的観点から、日本語の音(含アクセント)について、聴き取りを含め、母音や子音などの現代日本語の有り様を講ずる。また、通時的観点から音韻やアクセントの歴史についても、簡単に触れる。
- ③ 音と表記との関連も踏まえ、国語教育に反映させる得るような知識の修得を支援する。

(到達目標)

- 【知識】日本語音声学に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- 【技能】国語教育及び日本語教育を行う上で必要とされるスキルを身につけている。
- 【思考・判断・表現力】日本語音声学に関する問題について、総合的、論理的に思考して解決策を探求し、専門的見地から自分の考えや意見を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用せず、ハンドアウト(レジュメ)をMoodleのコース上にアップして事前に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

川原繁人『ビジュアル音声学』三省堂刊(2018.7)、竹内京子・木村琢也『たのしい音声学』くろしお出版(2019.4)、青木直史『ゼロからはじめる音響学』講談社(2014.3)など種々有るが、ハンドアウト(レジュメ)に記載するなどして、講義時間中に提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 はじめに 音声学の分野 / 言語音 / 調音器官 / 聴覚器官 など
- 第2回 言語音① 分節音と超分節音 / 音声学と音韻論 / 単位 / 最小対
- 第3回 言語音② IPA / 異音 / 母音と子音 / 共鳴音と阻害音 など
- 第4回 日本語の音① 日本語の音数 / 音節と拍 / 日本語の母音 など
- 第5回 日本語の音② 日本語の子音(破裂音 / 摩擦音 / 破擦音)
- 第6回 日本語の音③ 日本語の子音(流音 / 接近音)
- 第7回 日本語の音④ 同化と異化 / 音声と五十音 など
- 第8回 日本語音韻の歴史 変化の様相(音韻の増減/音価の変化/用法変化)
- 第9回 日本語のアクセント① 日本語アクセントの特徴 / アクセント核と滝 など
- 第10回 日本語のアクセント② 共通語アクセント規則 / 機能 / 体言のアクセント / 用言のアクセント など
- 第11回 日本語のアクセント③ 外来語のアクセント / 平板化 / 地域差 など
- 第12回 日本語のイントネーションとプロミネンス イントネーション / フォーカス / プロミネンス など
- 第13回 日本語アクセントの歴史 変化の様相 / 歴史研究の方法 など
- 第14回 音の知覚 聴音の仕組 / 可聴範囲 / カクテルパーティー効果 / マガーク効果 など
- 第15回 おわりに(補足)音と表記 / まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験及び小テストの点数を70%、日常の授業(や課題など)への取り組みを30%として評価する。定期試験は、状況によって、レポートに変更することがある。
なお、授業に5回以上欠席した場合や、定期試験を受験(レポート、小テストは、期限までに提出)しなかった場合には、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の授業前に、ハンドアウトの該当部分に通しておくこと(目安は60分)。
授業後には、講義内容を整理要約すること(目安は60分)。また、課された課題にきちんと取り組み、必ず提出すること。
内容上、Moodleのコース上に、必要に応じて、音声映像などをアップするので、復習の折の自主学習に役立てること。

履修上の注意 /Remarks

「日本語学概論」を受講していると、より理解が深まると思われる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

コビッド19流行の状況に劇的な改善が見られない場合、教室での実際の発声による音の観察は難しいと思われるが、復習などで各自観察などに努めて欲しい。

キーワード /Keywords

漢文学【昼】

担当者名 /Instructor 榎崎 洋一郎 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 1学期 /1 Semester 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT250M	◎		○		
科目名	漢文学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「漢文」とは、中国古代の「文語文」で書かれた文章である。中国ではこれが正式の文章語として、ほぼ二千年にわたって使用されてきた。日本や、朝鮮半島・ベトナムでも、各地域共通の「書記言語」として、西洋のラテン語と同じような役割を果たしてきた。したがって「漢文」を学ぶことは、日本人にとって、自己の文化形成の「追体験」をすることにもなる。

この授業では、過去に中国からもたらされ、日本人によって広く読まれ、親しまれていた「古典的」な文章をまず取り上げる。日本における「訓点」の発明や、仮名と漢字の関係、などについても基礎的な理解をする。さらに、日本人によって書かれた「漢文」作品をも読んでいく。こうした作業によって、異文化交流に対する関心を高め、また相互比較などによって、自国の文化についても、いっそう理解を深めていくことをねらいとする。

(到達目標)

【知識】漢文学に関する知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【思考・判断】漢文学について、総合的思考をして解決策を探索し、自分の考えを論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜、プリント・資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

金文京著『漢文と東アジア-訓読の文化圏-』(岩波書店、岩波新書)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション【「漢文」とは何か】
- 2回 儒教(1)【孔子の生涯】【論語】
- 3回 儒教(2)【孔子の生涯】【論語】
- 4回 儒教(3)【孟子】【荀子】【儒教】
- 5回 諸子百家(1)【百家争鳴の時代】【道家】
- 6回 諸子百家(2)【百家争鳴の時代】【法家】
- 7回 諸子百家(3)【百家争鳴の時代】【墨家など】
- 8回 仏教漢文【インド思想と中国人】【格義仏教】【音訳】【翻訳仏典】
- 9回 中国漢文の中の日本・日本人【魏志倭人伝】
- 10回 漢字・漢文の伝来【訓点】【日本語と漢文】【万葉仮名】
- 11回 日本漢詩文(1)【飛鳥・奈良~室町】【十七条憲法】【日本書紀】
- 12回 日本漢詩文(2)【奈良~室町】【懐風藻】【菅原道真】
- 13回 日本漢詩文(3)【江戸時代】【菅茶山】【頼山陽】
- 14回 近代日本文学者と漢詩文【夏目漱石】【森鷗外】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(課題など)... 30% 期末試験(もしくは最終レポート)... 70%

・期末試験を受験しなかった(もしくは最終レポートを期限までに提出しなかった)場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業前には、あらかじめ指示もしくは配布された資料などを読んでおくこと。
授業後には、配布プリントなどを再読し、内容を各自まとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化論II 【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE321M	◎		○		△
科目名	英米文化論II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標:

知識: アメリカに関する基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力: アメリカと関連する問題を正しく分析し、社会の諸問題を学術的、複眼的に思考できる。

自立的行動力: 国際人らしい良識と倫理観を持ち、主体的に行動することができる。

American Studies will look at American culture from various historical perspectives. The course is designed to follow trends in American history and how specific events helped shape and change American culture. We will start with the early settlers in the New Land and move through important periods. One of the goals of the course will be to make the events in America's past relevant to present day issues.

This lecture course examines American culture from various perspectives. The story of the United States can be traced through many historical materials, such as The Declaration of Independence and important political speeches. We will examine the path the United States has taken and the significance of these events in present day America. Through this course, students will gain applicable knowledge about the United States and acquire the ability to analyze noteworthy trends.

The objective is to broaden your understanding of how the United States has been transforming over the last 400 years. Through learning about these events, you will better understand how America works as a country as well as comprehend why certain events still impact present-day United States.

In this course, students will:

- Learn about the origins of American political thought
- Better understand how America's past has lasting impact into present-day life
- Advance your understanding of American culture and regional differences
- Learn new vocabulary related to historical, political, social, and cultural topics

Major requirements:

- Regular attendance, including bringing a question each week about the topic
- Six minor quizzes, of which the lowest grade will be dropped; there are no make-up quizzes (unless you have a university-approved reason for being absent)
- Homework readings, including answering the questions at the end of the textbook reading
- A final three-page essay on any three topics we discussed (you choose which topics interest you the most)

教科書 /Textbooks

S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992.

Additionally, there will be a weekly news/history article that you will need to read online.

There will be TWO readings every week.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Information regarding required reading will be provided on the course syllabus given to you on the first day of class.

Please do NOT miss the first day of class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Course Introduction
- 2回 The New World
- 3回 The Original Colonies
- 4回 British Influence
- 5回 Early Expansion to the Mississippi
- 6回 The Moving Frontier
- 7回 The Civil War
- 8回 The Great Depression
- 9回 The Second World War and The United States
- 10回 The 1960's Counterculture
- 11回 The Industrial Revolution
- 12回 Women's Rights in the United States
- 13回 The Civil Rights Movement
- 14回 Immigration and Continuing Immigration
- 15回 Course Review

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly Moodle question on that week's class topic/theme 20%;
Six minor quizzes: 50%;
Final analysis essay (3+ pages): 30%;

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

Any form of plagiarism on homework or final analysis essay (i.e. copying from the internet) will result in a final grade of (D).

レポートを提出しなかった場合は、評価不能(一)となります。
Failure to submit a report will result in a failing grade (一).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preview: Please familiarize yourself with the topics and vocabulary by reading through assigned textbook chapters before class and answering the questions assigned.

Review: Be careful to review English vocabulary relating to each chapter.

履修上の注意 /Remarks

This lecture course will be taught in English. Lecture notes will be provided to aid review for quizzes. The quizzes will be in English and will emphasize English language vocabulary and ideas relating to American culture. Students are expected to read before class the English-language textbook chapter and any additional homework readings relating to each week's topic to gain historical background understanding.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

In this course, we will be learning about important historical events and trends across the history of the United States. Every week, you will be required to read two different texts relating to the topic of the week. You will need to purchase the following text: S. Kathleen Kitao et al. Events and Trends in American History. Sanshusha, 1992. Additionally, there will be an online article that you must print and read each week before coming to class.

キーワード /Keywords

American Dream;
Democracy;
the wild west;
Industry vs. Agriculture;
Racial tensions;
immigration;
racism;

英米文学概論II 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT130M	◎	△	○		
科目名	英米文学概論II				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

本講義で取り扱うのはアメリカ文学である。そのアメリカ文学全体を時代を越えて貫いている複数の特徴を確認することにより、アメリカ文学の全体像を把握してもらおう。さらには、アメリカ文学の特徴が、ハリウッド映画によっても共有されている事実を、実際に映像を見ながら確認する。次いで、そのような、アメリカ文学とハリウッド映画の共通性が生じた理由を、アメリカの社会・歴史・文化の特質に目を向けることにより明らかにする。講義を通して、文学と映画という、一見、全く異質に見える存在が、同一の社会背景の下に誕生した以上、同根の存在となる点を理解してもらえれば幸いである。また、アメリカ文学を文化的背景と絡めて分析する視点も身につけてもらえたらと考えている。

(到達目標)

- 【知識】アメリカ文学に関する基礎的な知識を身につけている。
- 【技能】アメリカ文学の分析を行う基礎的スキルを身につけている。
- 【思考・判断・表現力】アメリカ文学について自分の考えを明確に表現できる。

教科書 /Textbooks

使用しない。必要に応じてアメリカ文学の作品からの抜粋やレジュメをプリント形式で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『アメリカ文学思潮史』 福田陸太郎 中教出版
- 『アメリカ文学史 1、2、3』 亀井俊介 南雲堂
- 『アメリカ文学必須用語辞典』 スティーブン・マタソン 松柏社
- 『アメリカ文学案内』 寺門泰彦/渡辺信二 朝日出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 アメリカ文学に関する基礎知識
- 3回 アメリカ文学に読み取れるアメリカ人としての自意識
- 4回 ハリウッド映画に読み取れるアメリカ人としての自意識と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 5回 アメリカ文学における暴力描写
- 6回 ハリウッド映画における暴力描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 7回 アメリカ文学における移動描写
- 8回 ハリウッド映画における移動描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 9回 アメリカ文学における恋愛・結婚描写
- 10回 ハリウッド映画における恋愛・結婚描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 11回 アメリカ文学における超常現象描写
- 12回 ハリウッド映画における超常現象描写と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 13回 アメリカ文学における社会意識
- 14回 ハリウッド映画における社会意識と、映画と文学の共通性が生じた文化的背景
- 15回 補足説明、総括

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100% 持ち込みは一切不可とする。
定期試験を受験しなかった場合は、一(評価不能)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前：講義で取り上げる作家と作品名は事前に知らせますので、参考書等を講義前に参照し、作者と作品に関する基礎的な情報を確認しておいてください。同様に、講義で取り上げる映画も事前に周知しますので、各自で事前に鑑賞しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。

授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義テーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米の現代文学II 【昼】

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT230M	◎	△	○		
科目名	英米の現代文学II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

英米の現代文学に対する関心を高めるとともに、その特質を理解する上で必要な専門的知識を習得する。また、英米の現代文学の基本的な研究方法に加え、この分野に関する課題発見力、解決力を身につける。

現代の第一次世界大戦後の荒廃をロス・ジェネレーションの世代としてニヒリズムの虚無と闘ったE・Hemingwayの作品をはじめ、ユダヤ系文学、南部文学、第二次世界大戦後のポストモダニズム文学やマイノリティの文学を読んで、現代アメリカ文学を中心に、その背景と関連ある文化への理解を深めていく。

なお、この授業の到達目標は以下の通りである。

「知識」アメリカ現代文学についての基本的な知識を身につけている。

「技能」文学を社会背景を踏まえながら読み解くスキルを身につけている。

「思考・判断・表現力」文学を通じた現代社会への理解を通じて、現代社会の課題と文学の役割に関する考察を行う力を身につけている

教科書 /Textbooks

『Let's Learn English from American Literature II』（英宝社）早瀬博範・江頭理江 編著

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『楽しく読めるアメリカ文学』 高田賢一他編著 (ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：授業のイントロダクション
 - 第2回：Ernest Hemingway: A Short Happy Life of Francis Macomber
 - 第3回：Ernest Hemingway: The Old Man and the Sea Hemingwayのテーマは何か？
 - 第4回：John Steinbeck: Of Mice and Men
 - 第5回：John Steinbeck: Of Mice and Men テーマは何か？
 - 第6回：F・S Fitzgerald : The Great Gatsby
 - 第7回：F・S Fitzgerald : The Great Gatsby テーマは何か？
 - 第8回：William Faulkner: A Rose for Emily
 - 第9回：William Faulkner: A Rose for Emily テーマは何か
 - 第10回：Saul Bellow: Seize the Day
 - 第11回：Saul Bellow: Seize the Day テーマは何か？
 - 第12回：Hisae Yamamoto: Seventeen Syllables
 - 第13回：Leslie Maron Silko:
 - 第14回：全体を通して、ポストモダニズムの文学をいかに読むべきかを考察する。
 - 第15回：授業全体のまとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 毎回の課題レポート 50%
なお、課題レポートを提出すべき回数の3分の1以上未提出の場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと (必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米の近代文学II 【昼】

担当者名 /Instructor 江頭 理江 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT231M	◎	△	○		
科目名	英米の近代文学II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

英米の近代文学に対する関心を高めるとともに、その特質を理解するうえで必要な専門的知識を習得する。同時に英米の近代文学の基本的な研究方法や課題発見力及び解決力を身につける。

特にアメリカ文学に注目し、アメリカ文学の古典であり、アメリカ植民地時代のピューリタニズムとアメリカの独立の時代を見事に描いた Nathaniel Hawthorne の文学、超絶主義 (Transcendentalism) を唱え、アメリカの独自思想の構築に貢献した R.L. Emerson、民主主義の国アメリカの新しい、独立心の強い女を描いた Henry James の Daisy Miller、アメリカの国民的作家であり、Minority の問題に真正面から取り組んだ Mark Twain などの小説の一節を読んで、アメリカ文学の特徴とその背景にある文化、社会的状況への理解を深めていく。

なお、この授業の到達目標は以下の通りである。

- 「知識」アメリカ近代文学についての基本的な知識を身につけている。
- 「技能」文学を社会背景を踏まえながら読み解くスキルを身につけている。
- 「思考・判断力・表現力」文学を通じた社会や歴史への理解を通じて、文学と社会の関わりについて幅広い視点から考察する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

『Let's Learn English from American Literature I』 (英宝社) 早瀬博範・江頭理江 編著
適宜テキストの補充資料なども配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『楽しく読めるアメリカ文学』 高田賢一編著 (ミネルヴァ書房)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

概要のとおり、授業ごとに作品をピックアップし、作品の特徴や背景について学ぶ。また、文学作品特有の英語表現についても触れていく。

(【 】 はキーワードを表す)

- 第1回：授業全体のイントロダクション
- 第2回：Nathaniel Hawthorne: Short Stories
- 第3回：Nathaniel Hawthorne: The Scarlet Letterをどう読むか？
- 第4回：Nathaniel Hawthorne: テーマは何なのか？
- 第5回：R・W・Emerson: 超絶主義とは？
- 第6回：R・W・Emerson: 超絶主義 Nature
- 第7回：Mark Twain: Adventures of Huckleberry Finn イン트로ダクション
- 第8回：Mark Twain: Adventures of Huckleberry Finn 31章をどう読むか
- 第9回：Mark Twain: Adventures of Huckleberry Finn 最終章をどう読むか？
- 第10回：Henry James: Daisy Miller イン트로ダクション
- 第11回：Henry James: Daisy Miller テーマは何なのか？
- 第12回：Edgar Allan Poe イン트로ダクション
- 第13回：Edgar Allan Poe The Black Cat
- 第14回：Edgar Allan Poe 他の作品の主題との関連
- 第15回：授業全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 50% 毎回の課題レポート 50%
課題レポートを提出すべき回数の3分の1以上未提出の場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習は必ず行ってください。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です)

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米の大衆文化II 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE221M	◎		○		
科目名	英米の大衆文化II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本人も接する機会が多いハリウッド映画をアメリカ大衆文化の素材として取りあげ、映画の中にアメリカ人の精神性や、美意識、価値観がいかなる形で投映されているかを考察する。この視点からの分析を行うことによって、映画とアメリカ文化との関係に対する理解を深めてもらう。講義では、アメリカ文化の特性を、映画を通して可能な限り具体的に把握できるよう工夫したい。また、アメリカ人の価値観や美意識の独自性に関しても概説する。最終的には、ハリウッド映画を文化的な文脈の中で分析的に鑑賞する視点を、講義を通して体得してもらえればと考えている。

(到達目標)

【知識】アメリカ大衆文化に関する応用的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】アメリカ大衆文化について専門的見地から自分の考えを表現できる。

教科書 /Textbooks

テキストは使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『映画で学ぶアメリカ文化』、八尋春海、スクリーンプレイ (映画とアメリカ文化の関連性を様々な視点から)
- 『映画で楽しむアメリカ文学』、八尋春海、金星堂 (アメリカ文学と映画の比較の視点から)
- 『映画で楽しむアメリカの歴史』、八尋春海、金星堂 (映画とアメリカ史の関連性を様々な視点から)
- 『サーカスが来た!』、亀井俊介、岩波書店 (サーカス、ターザン、ハリウッド)
- 『アメリカンヒーローの系譜』、亀井俊介、研究社 (ランボー、ロッキー)
- 『アメリカの大衆文化』、清水知久、明石書店 (映画、音楽、スポーツ、広告)
- 『アメリカの大衆文化』、亀井俊介、研究社 (テレビ、漫画、音楽、映画)
- 『アメリカが見えてくる』、越智道雄、サイマル出版会 (アメリカ社会の諸現象と映画の関連性)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の内容の説明
- 2回 『ビッグ』を全編鑑賞
- 3回 『ビッグ』の子供描写の特徴
- 4回 『アイ・アム・サム』、『ターミネーター2』、『バック・トゥ・ザ・フューチャー』の子供描写の特徴
- 5回 アメリカ映画の子供描写の特徴と、アメリカ史との関係
- 6回 『アナと雪の女王』、『モンスターズ・インク』、『タイタニック』、『魔法にかけられて』に見る階級制
- 7回 アメリカ映画における階級制の位置づけと、アメリカ文化との関係
- 8回 『ホーム・アローン』、『レオン』、『アイ・ロボット』、『A.I.』に見る権力描写
- 9回 アメリカ映画の権力描写と、アメリカ文化との関係
- 10回 『フォレスト・ガンブ』、『チャーリーとチョコレート工場』、『ブラダを着た悪魔』の金銭の位置付け
- 11回 アメリカ映画の金銭の位置付けと、アメリカ文化との関係
- 12回 『スタンド・バイ・ミー』、『スター・ウォーズ』、『ダーティハリー2』の銃描写の特徴
- 13回 アメリカ映画の銃描写と、アメリカ史との関係
- 14回 『フェイス/オフ』、『メン・イン・ブラック』、『ミッション・インポッシブル』の変身描写の特質
- 15回 アメリカ映画の変身・変装へのこだわりと、アメリカ文化との関係

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100% 持ち込みは一切不可とする。

定期試験を受験しなかった場合は、一(評価不能)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前：講義で取り上げる映画とテーマは事前に知らせますので、各自で映画を事前に鑑賞しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。

授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義のテーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化論Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科, 福田 展淳 / Hiroatsu FUKUDA / 建築デザイン学科 (19~)

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE224M	◎		○		
科目名	英米文化論Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、20世紀前半を中心としたアメリカの近代建築と、それらが建ち並ぶ都市の歴史を学び、現代合衆国都市の文化や人びとのくらしの源流を探ることにある。本講義では、福田は、合衆国の1900年以降に建設されたモダニズム建築を取り上げ、映像や写真を中心に、デザインの裏側にあるアメリカの文化、建築家の思考、建築デザインが生み出される社会的な背景などを解説する。寺田は、19世紀末から20世紀前半の合衆国社会の変容と都市における居住空間の形成、およびそれに伴い発生する問題について解説する。授業を通して、アメリカの歴史や社会に関する知識を修得したうえで、現代のアメリカ社会の問題について考え、それを的確に表現する力を身につける。

(到達目標)

【知識】アメリカの歴史や文化に関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】アメリカ社会について総合的に思考し、自分の意見を的確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Twentieth-Century American Architecture: The Buildings and Their Makers (W. W. Norton & Company, 2000) ; 竹田有『アメリカ労働民衆の世界』(ミネルヴァ書房、2010年) ; リチャード・プランツ『ニューヨーク 都市居住の社会史』(鹿島出版会、2005年)。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 . はじめに(寺田)
- 2 . シカゴの近代建築 1 : スカイスクレーパーの誕生 (福田)
- 3 . シカゴの近代建築 2 : 世界の都市に影響を与えたシカゴの超高層建築(福田)
- 4 . シカゴの近代建築 3 : シカゴ建築に見る新たな建築様式(福田)
- 5 . ニューヨークの近代建築 1 : ネオコ ``シックからアールデ ``コ超高層へ(福田)
- 6 . ニューヨークの近代建築 2 : モダニズムからポストモダニズム超高層へ(福田)
- 7 . ニューヨークの近代建築 3 : 新たな超高層建築 / 小括:都市と建築 (福田)
- 8 . 歩き回れる都市の変容 1 : 20世紀初頭アメリカにおける産業化・都市化(寺田)
- 9 . 歩き回れる都市の変容 2 : 20世紀初頭アメリカにおける移民の流入 (寺田)
- 10 . メトロポリスの形成 1 : エスニシティと階級(寺田)
- 11 . メトロポリスの形成 2 : 人種と階級(寺田)
- 12 . 都市における対立と隔離の発生 1 : 20世紀初頭のアフリカ系アメリカ人の北上(寺田)
- 13 . 都市における対立と隔離の発生 2 : 1919年シカゴ人種暴動(寺田)
- 14 . 郊外における中産階級の再生産 : オークパーク(寺田)
- 15 . 総括 : 都市と人びとの営み(寺田)

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、レポートまたは試験(福田・50%、寺田・50%)に日常の授業への取り組みを加味して評価を行う。レポートの未提出、および学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に授業で紹介された参考文献等を積極的に読んだり見たりする。事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。また、授業に関連したものを中心に、ニュースをチェックする。

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化論I【昼】

専門教育科目
比較文化科目
文化資源領域科目

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 2年次
単位 /Credits 2単位 2単位
学期 /Semester 1学期 1学期
授業形態 /Class Format 講義 講義
クラス /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE231M	◎		○		△
科目名	英米文化論 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標

知識：英国の社会、文化、歴史等について基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力：文化的また歴史的観点から総合的に思考し分析することができる。

自立的行動力：スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

The course is taught mainly in English, but at the beginning of each class a brief summary of the previous class and the topic of the day are explained in Japanese.

This course will assess and analyse British Culture through a focus on film, literature and journalism. Both historical and modern perspectives will be maintained and embraced throughout this investigation into the key themes of class, media, ideology, economy, sexuality, science, technology, nationalism and religion.

教科書 /Textbooks

Handouts will be provided at the beginning of each class.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Relevant material for further study will be introduced during each class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

We will focus on 9 important era-defining figures from 18th century till today that shaped the times, some of which are listed not because they are important in British history but as significant keys to consider each period: William Shakespeare, John Bunyan, Oliver Cromwell, Daniel Defoe, Erasmus Darwin, Mary Shelley, Isambard Kingdom Brunel, Charles Darwin, William Morris, Conan Doyle, D. H. Lawrence, A. A. Milne and John Lennon.

Class 1: Introduction

Class 2: Erasmus Darwin's "Luna Society" and 18th Century Industrial Revolution (1) 【media, coffee house, luna society】

Class 3: Erasmus Darwin's "Luna Society" and 18th Century Industrial Revolution (2) 【industrial revolution, national roads, canal, network, Josiah Wedgewood】

Class 4: Mary Shelley's Frankenstein and Bioethics in 19th Century (1) 【exploration, science and religion】

Class 5: Mary Shelley's Frankenstein and Bioethics in 19th Century (2) 【romanticism, feminism】

Class 6: Isambard Kingdom Brunel and the Age of Iron: Civil Engineering and the Industrial Hero (1) 【George & Robert stevenson, railway and media】

Class 7: Isambard Kingdom Brunel and the Age of Iron: Civil Engineering and the Industrial Hero (2) 【British Empire, globalization, colonialism】

Class 8: Charles Darwin and A. R. Wallace: When did the Idea of Evolution Become Scientific? (1) 【mechanism and organism, romanticism】

Class 9: Charles Darwin and A. R. Wallace: When did the Idea of Evolution Become Scientific? (2) 【leading spirit, survival of the fittest】

Class 10: William Morris and the British Style 【arts and crafts movement, socialism, romanticism】

Class 11: Conan Doyle's Sherlock Homes and the End of the Century: 19th Century Occultism and Science 【mystery and occultism, London, urbanism】

Class 12: D. H. Lawrence's Lady Chatterley's Lover and the Idea of Obscenity 【class, sex, violence, reason, instinct】

Class 13: A. A. Milne's Winnie the Pooh and the Age of Wars: What Exists Where There is Nothing? 【humour, comedy, the idea of nothingness, war】

Class 14: John Lennon and the Rock Music: Pop, Youth and Identity in the Postcolonial World 【subculture, counterculture, freedom, love and peace movement】

Class 15: General Overview

成績評価の方法 /Assessment Method

Examination 70%

Class Contribution 30%

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Each student will read the given material before each class.

Each student will review the class.

履修上の注意 /Remarks

Students must prepare for the class by reading the suggested materials and doing some research in advance.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ文化資源論I【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE240M	◎		○		△
科目名	ヨーロッパ文化資源論I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

授業概要

ドイツ語圏（主にドイツ、そしてオーストリアとスイス）の文化についてさまざまな視点から概観し、何が「ドイツ的」かを感じ分ける力を養います。

ドイツに何が在るのかを知識として暗記し、それをテストで吐き出して単位を得るような情報処理ではなく、「なぜそれがそのような仕方で在るに至ったのか」推理し、論じる力をつけましょう。

「知る / 知らない」ではなく、知らないなりに精度の高い推測をする力、そして態度を身につければ、社会で自立して生きてゆくにあたって役に立つはずです。

到達目標

- 【知識】ドイツ語圏の文化に関する幅広い知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】ある事物や出来事の文化的背景を論理的に分析する力を身につけている。
- 【自律的行動力】異文化への関心を持ち、他文化を尊重し、自文化を相対化できる。

教科書 /Textbooks

なし（毎回、プリントを配布します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

高校世界史で使用した副読本（図説）を手元に置くと便利です。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①ドイツ人とドイツとの成り立ち
- ②ドイツの地理
- ③ドイツの歴史
- ④ドイツの食
- ⑤ドイツの宗教
- ⑥ドイツの建築
- ⑦ドイツの芸術
- ⑧ドイツの言葉
- ⑨小まとめ
- ⑩オーストリア
- ⑪スイス
- ⑫ドイツと日本
- ⑬ドイツとフランス
- ⑭ドイツとアメリカ
- ⑮総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

小課題（毎回授業終わり）50% + 期末レポート50%

※小課題の提出は、出席確認も兼ねます。レポートを提出しなかった場合、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

何が「ドイツ的」で、何がドイツ的ではないかを嗅ぎ分けてやろうという意識で、周囲を見渡しながら生活し、気付いたことがあれば、毎回配布される演習シート内で報告してください。ヨーロッパに関する学術的な本を読むときにかぎらず、テレビや映画を観たり、洋食を食べたり、洋楽を聴いたり、留学生と会話したりしたときにもアンテナを張り、その感度を上げていくことこそ、立派な学びです。

履修上の注意 /Remarks

高校時の世界史履修や、ドイツ語履修は、前提にして「いません」ので、気軽に受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ドイツ オーストリア スイス 歴史 芸術 言語 文化

英米文学概論Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 濱 奈々恵 / HAMA NANAE / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT131M	◎	△	○		
科目名	英米文学概論Ⅰ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

『ハリー・ポッター』、『ピーター・パン』、『クマのプーさん』、『ピーター・ラビット』…。これらは全てイギリスで生まれた作品です。作家はどのような時代を生き、どのような作品を残したのでしょうか。そこには何が書かれているのでしょうか。この授業では、「今」の英文学を知ることから始め、その後で1500年以上に及ぶ英文学史を追いかけていきます。各時代の特徴、代表的な作家とその作品を概観しながら、原書（あるいは邦訳）の一部や映像などを使って英文学の知識を深めていきます。過去の作品や英文学の流れを知ることで、「今」の作品を楽しむ素養を身につけていきます。

到達目標

- 【知能】 イギリス文学史に関する基礎的な知識を身につけている。
- 【技能】 イギリスの文学作品を読むための英語力を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 イギリスの文学作品を歴史的な観点で分析すると同時に、様々なテーマで読解し、作品を論じることができる。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 浦野郁他 『よくわかるイギリス文学史』(ミネルヴァ書房、2020) ¥2,750
- 石塚久郎他 『イギリス文学入門』(三修社、2014) ¥3,580

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、ノーベル文学賞とブッカー賞
- 2回 中世前期：古英語 『ベオウルフ』
- 3回 中世後期：中英語 『カンタベリー物語』、『アーサー王物語』
- 4回 ルネッサンス：演劇(シェイクスピア)の時代
- 5回 ピューリタニズム：『失楽園』
- 6回 王政復古：『天路歷程』
- 7回 古典主義の興隆と衰退：デフォー、スウィフト
- 8回 小説誕生：リチャードソン、フィールディング
- 9回 ロマン主義(1)：ブレイク、ワーズワス、コールリッジ
- 10回 ロマン主義(2)：バイロン、シェリー、キーツ
- 11回 19世紀(1)：オースティン、ブロンテ姉妹、ディケンズ、ギャスケル
- 12回 19世紀(2)：エリオット、ハーディ、キャロル、コナン・ドイル
- 13回 20世紀(1)：ウェルズ、ジョイス、ウルフ、ロレンス、フォースター、オーウェル
- 14回 20世紀(2)：グリーン、ウォー、「怒れる若者たち」、マードック、スパーク
- 15回 現代：ポストコロニアリズム および全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・70% レポートおよび日常の授業への取り組み・・・30%
* 欠席が5回に達した時点で学期末試験を受けられなくなり、「-」(評価不能)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行ってください（授業前でも後でも構いません）。

履修上の注意 /Remarks

近代イギリス文学に興味がある学生は「英米の近代文学I」を、現代イギリス文学に興味がある学生は「英米の現代文学I」の受講をお勧めします。また授業には必ず辞書（紙・電子どちらでも可）を持参してください。知的怠慢は禁止です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内で扱った作品を自分で読んだり見たりして、自分なりの楽しみ方を見つけてください。

キーワード /Keywords

ノーベル文学賞 / ブッカー賞 / 英文学史 / 詩 / 演劇 / 小説

英米の現代文学I 【昼】

担当者名 /Instructor 濱 奈々恵 / HAMA NANAE / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT232M	◎	△	○		
科目名	英米の現代文学 I				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

この授業では、歴代のノーベル文学賞とブッカー賞受賞者の中から、英・英連邦と関わりのある作家を選び、毎回一人の作家に注目しながら、(1)作家の経歴と時代背景、(2)主要作品の概要、(3)評価された点について学んでいきます。授業で取りあげる作品は、作家の評価を決めるにあたって特に重要だと思われる作品で、原書、訳本、映像(インタビュー映像や、映画・ドラマ)なども積極的に使用します。この授業を通して、現代英文学を理解するには、時代と国の枠組みを超える必要があること、作品には常に「誰かの価値観」が関わっていることを読み取っていきます。また、作品理解に必要な用語や概念も、適宜、学んでいきます。

到達目標

- 【知能】 イギリスの現代文学に関する基礎的な知識を身につけている。
- 【技能】 イギリスの現代文学作品を読むための英語力を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 文学作品をテーマに基づいて分析し、自分の意見を論理的に表現できる。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 都甲幸治他 『ノーベル文学賞にもっとも近い作家たち』(青月社、2014) ¥1,650
- 高本孝子他 『新世紀の英語文学-ブッカー賞総覧(2001-2010)』(開文社、2011) ¥3,080
- 吉田徹夫他 『ブッカー・リーダー-現代英国・英連邦小説を読む』(開文社、2005) ¥2,400

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ブッカー賞とノーベル文学賞の基本情報
- 2回 ウィリアム・ゴールディング(1911-1993): 人間に潜む二面性
- 3回 ドリス・レスリング(1919-2013): 女性たちの経験
- 4回 V.S.ナイポール(1932-2018): 標準英語への対抗
- 5回 マーガレット・アトウッド(1939-): 管理社会とディストピア
- 6回 J.M.クッツェー(1940-): 西欧的支配への批判
- 7回 ピーター・ケアリー(1943-): 奪われた土地と声
- 8回 マイケル・オンダーチェ(1943-): 暴力と口マンズ
- 9回 ジュリアン・バーンズ(1946-): ポストモダンと記憶の改ざん
- 10回 サルマン・ラシュディ(1947-): 闘争とマジック・リアリズム
- 11回 イアン・マキューアン(1948-): 倫理観の倒錯
- 12回 ヒラリー・マンテル(1952-): 歴史の再構築
- 13回 カズオ・イシグロ(1954-): 記憶と記録
- 14回 アンナ・バーンズ(1962-): アイルランドの宗教対立
- 15回 番外編(C.アディーチェ) および全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・70% レポートおよび日常の授業への取り組み・・・30%
* 欠席が5回に達した時点で学期末試験を受けられなくなり、「-」(評価不能)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行ってください（授業前でも後でも構いません）。

履修上の注意 /Remarks

現代アメリカ文学に興味がある学生は、「英米の現代文学II」の受講をお勧めします。また授業には必ず辞書（紙・電子どちらでも可）を持参してください。知的怠慢は禁止です。各賞決定時期の前後には、一部、授業内容に変更が生じる可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内で扱った作品を自分で読んだり見たりして、自分なりの楽しみ方を見つけてください。

キーワード /Keywords

ノーベル文学賞 / ブッカー賞 / (旧) 植民地 / 体制批判 / 記憶と記録 / 歴史

英米の近代文学I 【昼】

担当者名 /Instructor 今川 京子 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT233M	◎	△	○		
科目名	英米の近代文学 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

イギリスの7世紀から始め、18-19世紀文学を中心に講義を展開します。西洋の文学や精神文化を理解するうえで知っておくべき作家・作品については特に詳しく掘り下げていきます。また、時代背景や作品理解、宗教観を深めるため、適宜映像作品や洋楽などを紹介し、ディスカッションの場を設けながら講義を進めていきます。テキスト参照および教員が作成した資料とスライドを事前にMoodleにアップロードしたものを参照しながら講義を進める形になります。Moodleにアップする資料は教員が印刷して配布することは致しません。必要に応じて受講者個人で印刷してください。枚数が多くなるのが予想されますので、印刷する・しないは個人の自由です。また、期末試験の一部には、論述課題として指定した映画（図書館蔵）を事前に個人で鑑賞して与えられたテーマに基づき自身の考えを論理的に記述する、という課題を課します。

教科書 /Textbooks

『イギリス小説入門』川口喬一 著（研究社出版）ISBN: 978-4-327-37505-8
適宜、講義資料はMoodleにアップロードしていきます。教員は印刷・配布は致しません。必要と判断すれば各自で印刷してください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『はじめて学ぶイギリス文学史』神山妙子 編著（ミネルヴァ書房）ISBN: 4-623-01873-3
『イギリス文学史』平井正徳・海老池俊治 著（明治書院）ISBN: 4-625-48028-0

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション
2. イギリス文学の登場
3. 14・15世紀の文学
4. 16世紀の文学（1）
5. 16世紀の文学（2）
6. 17世紀の文学（1）
7. 17世紀の文学（2）
8. 王政復古～18世紀前半の文学（1）
9. 王政復古～18世紀前半の文学（2）
10. 18世紀後半の文学（1）
11. 18世紀後半の文学（2）
12. 19世紀初期の文学（1）
13. 19世紀初期の文学（2）
14. 19世紀中期の文学
15. 19世紀後期～20世紀初期の文学

成績評価の方法 /Assessment Method

ミニクイズ（第13・14回授業週にMoodle上で実施）40%
期末試験60%
ミニクイズ（第13・14回授業週にMoodle上で実施）および期末試験を受験しなかった場合は評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義のなかで紹介した映像作品や楽曲についてはなるべく自身で視聴しましょう。また、取り上げた楽曲の歌詞については講義のなかで指摘したキーワードを手掛かりに自分なりの理解・解釈を深める習慣をつけてください。自筆ノートを作りながら講義を受けましょう。

履修上の注意 /Remarks

講義中の私語は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前にMoodleにアップロードされている資料を確認する習慣をつけましょう。文学作品の背後にはリアル社会に息づく人間の脈打つ鼓動や普遍的な人間心理があることを肝に銘じ、人間の歩んだきた過去・あなたの現在・未来を思いながら作品に触れていきましょう。

キーワード /Keywords

英米の大衆文化I【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE233M	◎		○		
科目名	英米の大衆文化 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「大衆文化」と聞くと、アニメやマンガ、ポップ音楽などを連想する人は多いかもしれませんが、しかし、そもそも「大衆文化」というものに学問的な興味が向けられたのは、偉くもなく、お金も持っていないような、社会の中の普通の人々（民衆）が、どのような独自の「文化」を作ってきたのか / いるのか、について見なければ、「文化」を全体として捉えることはできない、という考えが生まれてきたからです。従って、「大衆文化」とは、普通の人々の日々の営みを幅広く含むものなのです。

本講義では、そのような考え方にに基づき、イギリスにおける「余暇」や「娯楽」を扱います。「余暇」や「娯楽」というと少し堅苦しいですが、簡単に言えば、「遊び」ということです。現在の私たちが、スポーツをしたりゲームをしたりしながら「遊ぶ」ように、どの時代のイギリス人も様々な「遊び」を開発して楽しんできました。そして、そうした「遊び」こそ、いつの時代ももっとも人気のあった「大衆文化」と言ってよいでしょう。そうした「遊び」を見ることを通じて、「遊び」以外の領域も含めた、イギリス社会における暮らしや仕事の様子を浮かび上がらせることが最終的な目的となります。また、イギリスに限らず、私たち人間にとって「遊び」とは何を意味するのかについても考えてみたいと思っています。

[到達目標]

- ・ 知識：イギリスの大衆文化についての体系的な知識を身につけている。
- ・ 思考・判断・表現力：「大衆文化」という観点からの文化理解を通じて、社会を総合的に把握し、文化に関する新たなヴィジョンを描き出す力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし（毎回レジュメを配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『英国社会の民衆娯楽』（ロバート・W・マーカムソン）、平凡社
- 『ヴィクトリア朝の女性たち』（山村明子）原書房
- 『イギリス人はどう遊んできたか』（ジョン・アーミテージ）三友社出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 インタロダクション～「遊び」と「スポーツ」
- 第二回 余暇と自由と不平等
- 第三回 余暇を禁ずる力
- 第四回 ピュージリズムと暴力
- 第五回 祝祭としてのフットボール
- 第六回 近代化とオフサイド
- 第七回 賭博とサラブレッド
- 第八回 劇場の誕生
- 第九回 趣味は読書
- 第十回 野を歩き、山に登る
- 第十一回 解放としてのスポーツ
- 第十二回 スポーツの大英帝国
- 第十三回 映像から考えるスポーツ
- 第十四回 スポーツという見世物
- 第十五回 スポーツというビジネス

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験 100%。
※試験を受けなかった場合、成績評価は「－(バー)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習用・復習用のテキストを配布することがありますので、配布された際には指示に従ってテキストを自己学習の時間で読むようにしてください。また授業で配布するプリントも、当該授業の復習として、また次回授業の予習として何度も読み返してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「遊び」という観点から、イギリスの文化について幅広く扱う予定です。授業を「遊び」と思うのは難しいと思いますが、できるだけ楽しめる授業にしたいと思います。

キーワード /Keywords

スポーツ、共同体、祝祭、ゲーム、演芸、格闘技、階級

ヨーロッパ文化資源論II 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE241M	◎		○	△	
科目名	ヨーロッパ文化資源論II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、有形及び無形の文化資源を題材に用いて、文化を考察するためのアプローチの方法を紹介しつつ、フランス文化を様々な側面から解説する。また、他の国・地域（特に日本）の文化にも適宜触れつつ、フランス文化の普遍性や特殊性を検討する。フランス文化に興味がない人にも、他の国・地域の文化について研究する際に参考になるような授業を展開したい。

（到達目標）

【知識】フランス文化に関する幅広い知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】フランス文化・社会が抱える諸問題について総合的、論理的に思考して解決策を探求し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

【コミュニケーション力】異なる文化的背景を有する人々と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

教科書 /Textbooks

なし。教科書の代わりにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

杉本淑彦、竹中幸史編『教養のフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2015年（○）。
鈴木雅生、福島勲編（田村毅監修）『フランス文化読本 フランスを知るための16の窓』丸善出版、2014年（○）。
田村毅、塩川徹也、西本晃二、鈴木雅生編『フランス文化事典』丸善出版、2012年（○）。
上記以外の参考文献については、授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方の説明と基礎的な知識の確認
- 2回 建築でめぐるフランス① -中世の建築-
- 3回 建築でめぐるフランス② -近世の建築-
- 4回 建築でめぐるフランス③ -19世紀・20世紀における、建築とその管理-
- 5回 景観の保護
- 6回 都市と郊外
- 7回 移民文化
- 8回 コロニアリズムと文化財
- 9回 「モードの国」フランス
- 10回 ファッションと女性① -服装-
- 11回 ファッションと女性② -化粧、香水-
- 12回 「多言語国家」フランス
- 13回 「暗い過去」と映画① -占領期の歴史-
- 14回 「暗い過去」と映画② -占領期の表象-
- 15回 まとめと復習

以上は予定であり、変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度 (授業中の発言や受講後に提出するコメント用紙) ・ ・ ・ 30%、期末レポート ・ ・ ・ 70%
なお、期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業の導入として、新聞記事や文献のコピーを配布することがあるので、その場合は必ず読んでくること。授業後は、配布したプリントを復習するだけでなく、授業中に紹介した文献を積極的に読み、授業内容の理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の受講に際し、特別な知識は必要ない。高校で世界史を勉強しなかった学生も歓迎する。
また、本授業は、基本的に講義形式で行われるが、映画を中心とする映像資料の視聴や、ペアワークないしグループワークを伴う。特にこれらのワークにおいては、話しやすい雰囲気を作るよう心がけるので、間違いを恐れず積極的に発言してほしい。

キーワード /Keywords

西洋美術史 【昼】

担当者名 /Instructor 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR218M	◎		○		
科目名	西洋美術史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

西洋美術は、ヨーロッパの中でもイタリア（近代以前）とフランス（近代以降）を軸としながら展開してきた。本講義では、「西洋美術史」の核となっている14世紀から17世紀頃のヨーロッパの絵画を取り上げる。イタリアやフランス、ドイツ、オランダその他のヨーロッパの画家を紹介し、作品をプロジェクターで見ながら、その時代を形成している絵画の様式や思想、モチーフの特徴などを見ていく。全15回で長い時代を扱うため、個別の画家を詳しく取り上げるのではなく、西洋美術史全体の大枠をとらえることとする。西洋美術史についての基礎的知識を養うとともに、西洋美術史全体の流れを理解することを目標としたい。

（到達目標）

- 【知識】西洋美術史に関する基礎的な知識を身につけている。美術の様式論について総合的に理解している。
- 【思考・判断・表現力】西洋美術史の様式論的観点から作品を見て分析し、論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ H.W. ジャンソン、A.F. ジャンソン著『西洋美術の歴史』（創元社、2001年）○
- ・ 高階秀爾監修『カラー版 西洋美術史』（美術出版社、2002年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「美術」を「みる」とは？
- 第3回 絵画の時代—ゴシック時代の終わり
- 第4回 国際ゴシック様式について
- 第5回 イタリアの初期ルネサンス美術◎【都市フィレンツェの勃興】
- 第6回 イタリアの初期ルネサンス美術◎【フィレンツェ興隆期】
- 第7回 イタリアの初期ルネサンス美術◎【その他の都市ヴェネツィア、ローマ】
- 第8回 イタリアの盛期ルネサンス美術◎【天才芸術家の誕生】
- 第9回 イタリアの盛期ルネサンス美術◎【ローマ、フィレンツェ、ヴェネツィア】
- 第10回 15世紀の北方美術—ネーデルラント絵画を中心に
- 第11回 北方美術—15世紀から16世紀へ
- 第12回 16世紀の北方美術「北方ルネサンス美術」
- 第13回 マニエリスム—極度の洗練と凝った奇想
- 第14回 バロック美術のはじまり—イタリア・スペイン
- 第15回 バロック黄金期—フランドル・オランダ

※変更が生じる場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み（小レポート含む）...30%
定期試験...70%

※5回以上欠席した場合は、評価不能（－）とします。

※15分以上の遅刻は欠席扱いとします。

※試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とします。

※諸事情により、定期試験がレポートとなる場合があります。その場合、レポートを提出しなければ評価不能（－）となります。

※その他、変更が生じる場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

近隣の美術館で開催されている美術展覧会を可能な限り鑑賞し、美術に親しむこと。
授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

美術作品の画像を見ながらの授業となるので、講義開始時間を守って、教室内の見やすい席に座ること。
本授業は西洋美術史・博物館ゼミの基礎となるため、当該ゼミを考えている者は受講が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

作品を「見る」ということが最も大事な科目なため、日ごろから作品の細部に注目する習慣をつけてほしい。

キーワード /Keywords

西洋美術

ヨーロッパ文化資源論Ⅲ【昼】

担当者名 /Instructor 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE242M	◎		○		
科目名	ヨーロッパ文化資源論Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

あえて問う、スペインとは何であるかと。ニュートンによる万有引力の発見しかり、ソシュールの言語論しかり、広く当然のものとして受け入れられている事柄を疑うことはきわめて困難です。しかし先入見に阻害されて看過されているものは数多いのではないのでしょうか。この授業では、イベリア半島に位置し、今日スペインと呼ばれている国が、どのように「ひとつのネイション」として自分たちを認識するようになったか、すなわちネイション意識を獲得するようになったか、その必要性が生じた背景と経緯について、芸術のジャンルでありながら強力な教育機能を有するメディアでもあった演劇に注目して、ひとつの仮説を提示します。ネイションという概念に関する社会学分野の研究を参照し、かつより特殊な関心に肉薄する形に改変しながら検討します。今日のスペインが直面する地域ナショナリズムの問題についても重要な視座を与えてくれるはずです。

(到達目標)

【知識】スペインの文化資源に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】スペインの文化資源にかかわるトピックについて、総合的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

富田広樹『エフィメラル スペイン新古典悲劇の研究』論創社、2020。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』NTT出版、1997。
- アーネスト・ゲルナー『民族とナショナリズム』岩波書店、2000。
- 大澤真幸ほか『ナショナリズム論・入門』有斐閣、2009。
- 富田広樹編訳『スペイン新古典悲劇選』論創社、2022。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション、問題提起(ネイションとは何か)、授業運営と成績評価について
- 第2回 一八世紀という時代、同時代人としてのゴヤ
- 第3回 (映画『宮廷画家ゴヤは見た』)
- 第4回 ネイションという迷路
- 第5回 演劇の研究、なぜそこにフォーカスをあてるのか
- 第6回 新古典演劇とはなにか
- 第7回 先行研究と方法の検討
- 第8回 オルメシダの死
- 第9回 作品の言説分析：ホベリャーノス『ムヌーサの死』
- 第10回 作品の言説分析：カダルソ『ソラーヤ、あるいはチエルケス人たち』
- 第11回 作品の言説分析：ロベス・デ・アヤラ『ヌマンシアの滅亡』
- 第12回 作品の言説分析：モラティン『グスマン・エル・ブエノ』
- 第13回 作品の言説分析：ガルシア・デ・ラ・ウエルタ『ラケル』、まとめ
- 第14回 結論、アンダーソンの主張
- 第15回 ナショナリズムの暴発(映画『ある愛へと続く旅』)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み50% レポート課題の提出50%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、指示された課題に取り組むこと。授業後には、講義内容をレジユメを見直して復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。参考書は事前に入手して開講までに必ず目を通しておくこと。

キーワード /Keywords

スペイン ネイション ナショナリズム 新古典演劇

ヨーロッパ文化資源論Ⅲ 【昼】

担当者名 /Instructor 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE242M	◎		○		
科目名	ヨーロッパ文化資源論Ⅲ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

あえて問う、スペインとは何であるかと。ニュートンによる万有引力の発見しかり、ソシュールの言語論しかり、広く当然のものとして受け入れられている事柄を疑うことはきわめて困難です。しかし先入見に阻害されて看過されているものは数多いのではないのでしょうか。この授業では、イベリア半島に位置し、今日スペインと呼ばれている国が、どのように「ひとつのネイション」として自分たちを認識するようになったか、すなわちネイション意識を獲得するようになったか、その必要性が生じた背景と経緯について、芸術のジャンルでありながら強力な教育機能を有するメディアでもあった演劇に注目して、ひとつの仮説を提示します。ネイションという概念に関する社会学分野の研究を参照し、かつより特殊な関心に肉薄する形に改変しながら検討します。今日のスペインが直面する地域ナショナリズムの問題についても重要な視座を与えてくれるはずです。

(到達目標)

【知識】スペインの文化資源に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】スペインの文化資源にかかわるトピックについて、総合的に思考して解決策を探索し、自分の考えを論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

富田広樹『エフィメラル スペイン新古典悲劇の研究』論創社、2020。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』NTT出版、1997。
- アーネスト・ゲルナー『民族とナショナリズム』岩波書店、2000。
- 大澤真幸ほか『ナショナリズム論・入門』有斐閣、2009。
- 富田広樹編訳『スペイン新古典悲劇選』論創社、2022。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション、問題提起(ネイションとは何か)、授業運営と成績評価について
- 第2回 一八世紀という時代、同時代人としてのゴヤ
- 第3回 (映画『宮廷画家ゴヤは見た』)
- 第4回 ネイションという迷路
- 第5回 演劇の研究、なぜそこにフォーカスをあてるのか
- 第6回 新古典演劇とはなにか
- 第7回 先行研究と方法の検討
- 第8回 オルメシダの死
- 第9回 作品の言説分析：ホベリャーノス『ムヌーサの死』
- 第10回 作品の言説分析：カダルソ『ソラーヤ、あるいはチエルケス人たち』
- 第11回 作品の言説分析：ロベス・デ・アヤラ『ヌマンシアの滅亡』
- 第12回 作品の言説分析：モラティン『グスマン・エル・ブエノ』
- 第13回 作品の言説分析：ガルシア・デ・ラ・ウエルタ『ラケル』、まとめ
- 第14回 結論、アンダーソンの主張
- 第15回 ナショナリズムの暴発(映画『ある愛へと続く旅』)

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み50% レポート課題の提出50%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、指示された課題に取り組むこと。授業後には、講義内容をレジユメを見直して復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。参考書は事前に入手して開講までに必ず目を通しておくこと。

キーワード /Keywords

スペイン ネイション ナショナリズム 新古典演劇

アジア文化資源論 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT213M	◎		○		△
科目名	アジア文化資源論				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

「アジア」とはどこだろうか。何かそこに共通し、他とは峻別される「アジア文化」はあるのだろうか。ぼんやりとイメージはできるが、改めてそれが何かと問われると案外と返答に困ってしまうかもしれないその「アジア文化」に対して、本講義では複数の時空間コンテキストを設定して多角的にアプローチする。具体的には①「アジア」内部の生態環境とその人間による多様な「資源化」の動態、②植民地化や現代のグローバルなモノや人、情報の移動にともなう「アジアの文化」の変容、③アジアの枠を越境し、アジア外部でいっそう花開く「アジア文化」などである。これらの具体的な事例に即して、文化的他者との相互交渉の中で多様に展開するアジア文化の動態を理解していく。

(到達目標)

【知識】アジアの多様な文化領域に関する幅広い知識を体系的かつ総合的に理解している。

【思考・判断・表現力】アジアの生態・社会環境について総合的かつ論理的に思考し、自ら課題を見つけ出し解決策を探求し、専門的な見地から自分の考えや判断を論理的に表現・発信できる。

【自立的行動力】多様に展開するアジア文化の動態への関心を持ち続け、問題解決に向けて主体的に取り組む姿勢を有している。

教科書 /Textbooks

毎回でレジュメ、ワークシート、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義内で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 アジアの多様性：自然と社会
- 第2回 オリエンタリズムとアジア成立の歴史
- 第3回 生態環境と生業・1：牧畜のワークスと近代
- 第4回 生態環境と生業・2：焼畑と自然観
- 第5回 生態環境と生業・3：狩猟採集民の衣食住
- 第6回 ウォーレシア：もうひとつの進化論のふるさと
- 第7回 アジアのコモンスの現在
- 第8回 鑑賞されるアジア文化：万国博覧会と博物館
- 第9回 植民地化とアジア文化の展開
- 第10回 観光化と「現地」の応答：バリ、トラジャの事例から
- 第11回 越境するアジア文化・1：更紗に見るもう一つのグローバルイゼーション
- 第12回 越境するアジア文化・2：ヨーロッパの子ベット仏教
- 第13回 越境するアジア文化・3：映画、文学
- 第14回 アジアの国際人口移動と日本の「移民政策」
- 第15回 遺産化するアジアの文化

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小テスト、ワークシート、小レポートを含む)40%、試験60%
(講義の3分の2以上の出席がないと、評価の対象にならない)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講前にはそれ以前の講義内容をよく復習しておくこと。
受講後は、各講義で指示された参考文献などを活用して理解の深化に努め、
講義内で出された課題にも積極的に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから実社会で生起する事象に広く関心をもち、講義で学んだことと相互参照させてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義では頻繁に皆さんに問いかけをして、そのリアクションを基に議論をさらに展開させていきます。
主体的かつ積極的な受講態度で臨んでください。
アジア、日本、「世界」について、小さな発見と再発見を重ねながら理解を深めていきましょう。

キーワード /Keywords

書道【昼】

担当者名 /Instructor 大森 アユミ / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期(ペア) 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC220M		◎	○		○
科目名	書道				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

授業のねらい：

毛筆とともに発展してきた文字文化について理解を深め、中学校国語科書写の基礎的な内容の理解を図る。
具体的には、国語科書写の目標と指導内容を理解し、基本的な見識を養うとともに、実技力を高めることを目指す。
実技での漢字は行書体を中心とする。

授業方法：

理論は、DVD視聴、グループ討議、プリン記入を通して理解を深めていく。
実技は、ポイントを確認しながら練習し、技能を高めていく。

到達目標：

【技能】毛筆を用いて書写を行う技法を身につけている。
【思考・判断・表現力】書道について、総合的に思考・探求し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
【自立的行動力】書道への関心を持ち続け、将来にわたって学び続ける姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

「国語科書写の理論と実践」 萱原書房 全国大学書写書道教育学会編

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校国語科学習指導要領
「学習指導要領準拠 漢字指導の手引き」 久米公編著 教育出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ①第 1・ 2回 : オリエンテーション、日本語表記に用いる文字の知識と技能
- ②第 3・ 4回 : 筆順の原則とその指導、書写指導の考え方
- ③第 5・ 6回 : 基本点画の種類、姿勢・執筆と用具の扱い方、記念作品を書く
- ④第 7・ 8回 : 文字を書くことの歴史と関連用語、基本点画の筆使い
- ⑤第 9・ 10回 : 書体の変遷と六書、楷書の筆使いと字形
- ⑥第 11・ 12回 : 漢字指導と許容体、許容体と筆写体
- ⑦第 13・ 14回 : 行書の成立と特徴、行書の筆使いと字形I【点画の丸み・方向や形の変化】
- ⑧第 15・ 16回 : 常用漢字における字形と字体、行書の筆使いと字形II【筆脈の実線化】
- ⑨第 17・ 18回 : 仮名の成立と字源、行書の筆使いと字形III【横画と払いの直接連続】
- ⑩第 19・ 20回 : 行書の筆使いと字形IV【点からの直接連続】、行書の筆使いと字形V【点画の省略】
- ⑪第 21・ 22回 : 行書の筆使いと字形VI【筆順の変化と省略】、行書の筆使いと字形VII【筆順の変化】
- ⑫第 23・ 24回 : 文字の大きさと配列、行書に調和する仮名
- ⑬第 25・ 26回 : 行書と仮名の調和【DVD「百人一首カレンダー」】、評価とその実際
- ⑭第 27・ 28回 : 行書きと散らし書き、生活に生かす実用書式
- ⑮第 29・ 30回 : 生活に生かす【のし袋】、授業全般の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(全5回) : 70%
課題 : 10%
日常の授業の取り組み : 20%
授業開始20分以内に入室した場合を「遅刻」とし、遅刻回数3回を欠席回数1回とみなす。
授業実施回数に対して2/3以上の出席がない場合は、評価不能(-)とする。
課題の提出は締め切り厳守のこと。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、授業終了後に「学習記録」の記入を課すため、授業内容と成果の振り返りを行い、プリントに記入すること。
毛筆の実技に関しては、経験の無い者・苦手意識の強い者は、授業終了後に復習を行うこと。
授業前に指示された参考書を読んでおくこと。
小テストを、第4・6・8・10・12回目に実施するため、自宅にて復習をすること。

履修上の注意 /Remarks

遠隔授業の場合は、実技(筆ペン)に関してはPDFファイルで課題提出となります。
受講希望者は、下記書道用具一式を準備しておくこと。2週目の授業より使用します。
書道用具一式は各自で持参【共有は不可】(筆4号サイズ,筆ペン,硯,文鎮,下敷,半紙,墨液)
指定された履修学年時に履修のこと。
大学が「出席扱い」とする欠席の場合は、「欠席届」及び「出席扱い確認書」を提出のこと。
それ以外は基本、欠席扱いとする。「実習・課外活動」「病気・就職活動」

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

書写・書道 行書

博物館概論 【昼】

担当者名 /Instructor 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MUS100M	◎		○		△
科目名	博物館概論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

博物館に関する基礎的な知識全般を理解し、専門性の基礎となる能力を養う。
具体的には、最新の博物館の動向をふまえながら、博物館の定義、種別、目的、機能、歴史、関係法規、また学芸員の役割や社会で求められている博物館像について学ぶ。実際の博物館での事象を具体例として検証することで、博物館の現状や課題について理解することを目指す。

(到達目標)

【知識】博物館概論に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】博物館概論について論理的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

【自立的行動力】博物館概論への関心を持ち続け、文化資源の有効活用に貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 『博物館関係法令規則集』(日本博物館協会、1969年)
- ・ 『月刊 博物館研究』(日本博物館協会、1951年～)
- ・ 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編 『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012年)○
- ・ 大堀哲・水嶋英治編 『博物館学I 博物館概論 * 博物館資料論』(学文社、2012年)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(授業の手順と内容について)
- 2回 博物館の定義(意義と理念)
- 3回 学芸員とは?
- 4回 博物館の歴史【西洋】
- 5回 博物館の歴史【日本】①「博物館」ができるまで
- 6回 博物館の歴史【日本】②明治期以降
- 7回 博物館の種別および組織図
- 8回 博物館における展示 Display
- 9回 博物館における展示の種別
- 10回 展覧会をつくる
- 11回 博物館の展示の方法
- 12回 博物館における展示の企画と手法
- 13回 博物館と文化遺産
- 14回 博物館を取り巻く諸問題について
- 15回 まとめと確認

※授業内容は変更する場合があります。

博物館概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30%
定期試験...70%

- ※ 4回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
- ※ 15分以上の遅刻は欠席扱いとします。
- ※ 試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。
- ※ 諸事情により、定期試験がレポートとなる場合があります。その場合、レポートを提出しなければ評価不能(一)となります。
- ※ その他、変更が生じる場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書館などで博物館に関する書籍を見て授業に臨むこと。
授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。
授業後に、授業内で扱った展覧会や博物館について、インターネット等で詳細を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

少なくとも一か所以上の博物館を観覧しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

博物館などの文化施設を訪問する際の基本的事項を学ぶ授業です。授業内容は聞き流すことなく、ポイントをしっかりメモしてください。
この科目は、「学芸員」資格取得のために必要な科目です。「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講してください。
新聞などに取り上げられる博物館の情報に気を配るとともに、なるべく多くの博物館へ足を運び、博物館に親しんでください。

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

博物館経営論 【昼】

担当者名 永尾 正剛 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MUS210M	◎		○		△
科目名	博物館経営論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

博物館の形態面と活動面における適切な管理・運営について理解し、博物館経営（ミュージアムマネジメント）に関する基礎的能力を養う。具体的には、博物館施設の管理と事業目的に即した運営の在り方を理解し、博物館の総合的経営に関する基礎的知識と能力、コスト意識を学ぶ。あわせて市民参画の在り方や、関連施設・組織との連携方法を考える。

（到達目標）

【知識】博物館経営に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】博物館経営について論理的に思考し、専門的見地から自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

【自立的行動力】博物館経営への関心を持ち続け、文化資源の有効活用に貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

必要に応じてプリントを用意し、受講者各自に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『博物館学講座』全10巻（雄山閣）
網干善教編『博物館学概論』（関西大学出版）
『月刊 博物館学研究』（日本博物館協会）
伊藤寿朗・森田恒之編『博物館概論』（学苑社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 社会教育施設としての「博物館」
- 2回 「博物館法」の理念と事業
- 3回 博物館の世代と推移（機能と変遷）
- 4回 博物館の設置及び経営方針の策定
- 5回 博物館運営状況の点検と評価
- 6回 博物館資料の収集と保管
- 7回 博物館資料の展示と調査研究
- 8回 利用者への学習機会と情報の提供
- 9回 学校・家庭及び社会との連携
- 10回 博物館の組織（職員配置と研修）
- 11回 施設及び設備と危機管理
- 12回 事業計画と予算編成
- 13回 博物館経費の運用
- 14回 費用対効果の点検（コストの効率化）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験 100%。

授業出席だけでは「評価不能（－）」となりますので、必ず試験を受けてください。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

博物館法を熟読し、社会教育施設としての役割を考える。ついで、新聞などで報じられる博物館に関する情報から、博物館経営の課題を検討する。

履修上の注意 /Remarks

聞き流すことなく、講義のポイントをしっかりメモすること。
授業前に前講義の概要を見直しておくこと。
授業後は筆記したノートの要点を確認すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」資格を取得するという強い意志をもって出席してほしい。

キーワード /Keywords

地域社会への貢献とコスト意識。

博物館情報・メディア論【昼】

担当者名 /Instructor 那須 孝幸 / Takayuki Nasu / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MUS212M	◎		○		△
科目名	博物館情報・メディア論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この講義では、広義の「情報」「メディア」の観点から、美術館という現場の話題を中心に、博物館の仕組み、芸術と日常との関わりについて学びます。また、産業革命から現代まで世界の視覚メディアがどう変わってきたのかという事例を軸に、現代にいたる国内外の芸術表現、メディア思想を幅広く概観し、博物館メディアの現状と今後について考えます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日本教育メディア学会編『博物館情報・メディア論』ぎょうせい
※授業では使用しませんし、未読でもレポートや試験に影響しません。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 メディアとは何か ～メディア社会の博物館
- 2回 メディアとしての博物館(1)【展示会場ができるまで】
- 3回 メディアとしての博物館(2)【博物館の役割とコレクション】
- 4回 展示会見学(1)【北九州市立美術館本館「コレクション展」「院展」視察】 ※学外授業
- 5回 メディアとしての博物館(3)【学芸員による本の仕事について(立案、構成、執筆、編集)】
- 6回 メディアとしての博物館(4)【展示会企画について(調査、立案、交渉、構成、設営)】 ※レポート作成
- 7回 展示会見学(2)【北九州市立美術館分館「吉村芳生の世界展」視察】 ※学外授業
- 8回 視覚メディアの歴史(1)【視覚メディアとは(有史以来の映像装置)】
- 9回 視覚メディアの歴史(2)【19世紀前半における絵画と写真の関係1】
- 10回 視覚メディアの歴史(3)【19世紀後半における絵画と写真の関係2】
- 11回 視覚メディアの歴史(4)【20世紀前半の絵画と写真】 ※レポート作成
- 12回 展示会見学(2)【北九州市立美術館本館「ホログラフィ・アートの先駆者 石井勢津子展」視察】 ※学外授業(開会前特別観覧)
- 13回 芸術・メディア・社会(1)【1960年代の芸術動向を事例に】
- 14回 芸術・メディア・社会(2)【アートとメディアの関係】 ※レポート作成
- 15回 著作権とメディア ～最終講義【アーティストとアート作品の関係について】
- 16回 期末定期試験

※学外授業の日程は変動する場合がありますのでご注意ください(随時、授業でお知らせします)
※授業の詳細は、皆さんの関心や美術館現場の変化に合わせて変えていきます。

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(3回)50%、定期試験30%、日常の授業への取り組み20%
・学外授業を含め3回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
・期末定期試験を受験しなかった場合または2回以上レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- (1) 授業当日までに各自前回の復習を行ってください。
- (2) 関心のある博物館や美術館など文化施設の自主見学を日頃から行くと、本講義の理解がより深いものになります。

履修上の注意 /Remarks

- (1) この講義は、博物館や美術館、文学館などに勤務する研究職「学芸員」資格取得のための必修科目です。学外授業を含め、授業への出席は評価以前の大前提です。
- (2) この講義は、最新のメディア・テクノロジーを学ぶ内容ではありません。
- (3) 通常の学内講義のほか、北九州市立美術館（本館または分館）での学外授業（計3回程度）を予定しています。また、期末定期試験のほか、テーマごとにレポート課題（計3回程度）があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義や学外授業体験を通じて、博物館にまつわるメディアの知識だけでなく、自身が生きるメディア社会の実態と構図を多角的に洞察する姿勢や分析力を身につけてもらいたいと思っています。

キーワード /Keywords

博物館 展覧会 視覚メディア オリジナリティ 写真と絵画 社会と法律

博物館展示論 【昼】

担当者名 /Instructor 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MUS213M	◎	○			△
科目名	博物館展示論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

博物館の展示の基本理念と具体的方法についての基礎的な知識を養う。
様々な分野の博物館における様々な展示形態・展示方法・機材の使用方法について学ぶとともに、実際の展示の現状・課題について習得する。
第5回～第8回および第11回～15回は外部講師として、北九州市漫画ミュージアム、北九州市立文学館、北九州市立美術館の学芸員をお招きして学内で行う。（詳細な予定については、第1回目の授業のときに説明する。）

（到達目標）

- 【知識】博物館展示に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
- 【技能】博物館展示を行うための基本的なスキルを身につけている。
- 【自立的行動力】博物館展示への関心を持ち続け、文化資源の有効活用に貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』（芙蓉書房出版、2012年）○
- ・ 表智之・金澤韻・村田麻里子『マンガとミュージアムが出会うとき』（臨川書店、2009年）○
- ・ 難波祐子『現代美術キュレーター・ハンドブック』（青弓社、2015年）○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 「展示」とは？
- 第3回 博物館の分類とその具体的事例
- 第4回 展覧会企画と展示の方法
- 第5回 マンガ資料の特性と展示手法
- 第6回 展示設計と企画展マネジメント
- 第7回 地域の文化としてのマンガ / 北九州ゆかりのマンガ家たち
- 第8回 マンガ展示は誰のために
- 第9回 大学との協働での博物館展示について
- 第10回 仁川広域市立博物館の展示事例
- 第11回 文学館の展示制作物
- 第12回 文学館の展示と図録
- 第13回 美術館の展示作業（絵画・版画・古美術）
- 第14回 現代アートの展示とその特徴
- 第15回 教育普及と展示

※授業内容は変更する場合があります。

博物館展示論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...10%
課題レポート...90%

※4回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

※15分以上の遅刻は欠席扱いとします。

※試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

※諸事情により、定期試験がレポートとなる場合があります。その場合、レポートを提出しなければ評価不能(一)となります。

※その他、変更が生じる場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。

学芸員の方による授業前には、その方が勤務されている博物館についてインターネットなどで情報を得ておくこと。

講師の学芸員の方が勤務されている博物館を訪れる際は、授業内容を確認の上、観覧すること。

履修上の注意 /Remarks

少なくとも一か所以上の博物館を訪ね、展示の仕方について観覧しておくことが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

現在、博物館で勤務されている学芸員の方の話を聞ける貴重な科目です。内容を聞き流すことなく、ポイントをしっかりとメモするようにしてください。

「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講してください。

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

博物館資料保存論 【昼】

担当者名 /Instructor 佐藤 浩司 / SATO KOJI / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MUS214M	◎	○			△
科目名	博物館資料保存論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

博物館資料とはいえ、その来歴はさまざまである。

たとえば、遺跡の発掘調査で出土する遺構や遺物は埋蔵文化財と呼ばれ、埋没した環境や使用された状況、また人為的な改変などにより、様々な態様を示して土中から掘り出される。その現状を克明に観察・記録することで、詳細な分類や分析が可能となり、それらを通して当時の生活、生産、消費活動の復元や精神的行為のあり方、さらには当時の人々、家族や組織などの社会形態をも知ることができる。

考古学的調査研究の対象となる遺構や遺物資料の歴史性を重視しつつ、個々の持つ多面的な情報を把握するとともに、それらが土中に埋もれながら今日まで守られてきたことの意味を考えること、またこうした埋蔵文化財を保存し後世に伝えていくための技術や方法を学ぶことで、過去から現在、未来へと受け継がれていく歴史と文化への理解を深めることを目的としたい。

通常の博物館資料保存論は、博物館資料＝「もの」の保存に関する基本的な知識や技術の習得、さらには日常的な管理と非日常的な危機管理を見据えた総合的な維持・管理のなかから、学芸員の役割や責務を理解することを主たる目的にしているため、この講座はやや異例ともいえる内容になる。

博物館に収納される以前の、いわば発見の原点に立ち、資料が残存する現状と限界を見極めることで、保存のあり方を考える講義をめざす。

この講義の到達目標は、①博物館資料保存に関する専門的知識を体系的かつ総合的に身につけること、②いずれ実習科目を受けることになるが、博物館資料保存を行うための基本的なスキルを学んで備えておくこと、③博物館資料保存論への関心を持ち続け、文化資源の有効活用に貢献できる姿勢を身につけること、としたい。

教科書 /Textbooks

なし

適宜、配布資料を用意する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 本田光子・森田稔『博物館資料保存論（放送大学教材）』放送大学教育振興会 2012
- デビッド・ワトキンソン『出土遺物の応急処置マニュアル』柏書房 2002
- 藤本強『考古学の方法 調査と分析』東京大学出版会 2000
- 文化庁文化財部記念物課（編）『発掘調査のてびき-整理・報告書編-』2010
- 国立歴史民俗博物館『考古資料と歴史学』吉川弘文館 1999

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス.....埋蔵文化財ともうひとつの博物館資料保存論
2. 総論(1) 【先史・原史時代(旧石器～古墳時代)の遺構と遺物】
3. 総論(2) 【歴史時代(古代～近代)の遺構と遺物】
4. 資料保存各論(1) 【土器・土製品の種類と保存】
5. 資料保存各論(2) 【石器・石製品の種類と保存】
6. 資料保存各論(3) 【金属器・ガラス製品の種類と保存】
7. 資料保存各論(4) 【木製品・繊維製品の種類と保存】
8. 資料保存各論(5) 【骨・骨製品・動物製品の種類と保存】
9. 遺跡と遺構調査(1) 【地形、土壌、遺構確認、掘削】
10. 遺跡と遺構調査(2) 【記録と情報】
11. 遺物調査(1) 【接合、復元、実測、拓本、トレース、写真撮影の内容】
12. 遺物調査(2) 【科学分析と保存】
13. 発掘調査報告書の作成と注意点
14. 学外授業.....文化財関連施設の見学および遺跡所在地周辺のフィールドワーク
15. まとめ.....地下保存から地上保存へ(博物館に受け渡すためにできること)

博物館資料保存論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

筆記試験を課す。受験資格は3分の2以上の出席とする。(ただし初回は履修未確定期間のため、含めない)

成績評価点の配分方法

平常の授業への取り組み 20%、課題レポート 2回×10点、学期末筆記試験 60%

また、以下の場合には評価不能(-)とします。

・ 初回を除き、5回以上欠席した場合 ・ 学期末筆記試験を受験しなかった場合 ・ 試験開始後20分以上経過して入室した場合

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書、新聞、ウェブなどを通して各回の授業テーマについて事前に情報収集したり、前回までの授業内容の復習を行うこと。(目安の時間 予習60分、復習30分)

考古資料の取り扱いという視点では、近隣で行われている遺跡の発掘調査情報を取得して、現地説明会などの機会で見学したり、他都市の保存整備され公開されている遺跡を訪れて、どのような点に配慮して遺構復元や解説を行っているのか、またガイダンス施設などがあれば、その構造や周辺景観との調和など、多面的に観察して遺跡への理解を深めること。

さらに資料保存という視点で、実際に近くの博物館、資料館の展示を見学すること。

(目安の展覧時間と頻度 40分×3回)

履修上の注意 /Remarks

講義の14回目は、文化財関連施設あるいは遺跡公園などの見学を行うので、昼休みを利用して各自移動すること。

(現地集合)

また、途中、急遽発掘現場の見学を行う場合もありうる。その際は直前の講義の中で知らせることとする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

博物館資料を構成する考古資料がどんな手順で見学・保存され、現在まで守られて来たのか、また今後どう守り伝えていけばいいのかを念頭に講義に臨んでほしい。

受講にあたっては常に積極的、主体的に、問題意識をもって臨むこと。わからないことがあればその場での質問も受けるし、授業後メールでの問い合わせでも構わない。学芸員資格を取得するために、あらゆる機会を利用して知識を習得するんだという前向きな気持ちが必要である。

キーワード /Keywords

考古学 埋蔵文化財 遺構 遺物 発掘調査報告書 保管・保存 公開・活用

博物館教育論 【昼】

担当者名 /Instructor 岩本 史緒 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MUS215M	◎			○	△
科目名	博物館教育論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

美術館・博物館には「調査・研究」「保存・保管」「展示」といった役割があります。この授業では美術館・博物館の役割のうち、外に向かって開かれている部分＝人や地域と関わる部分を広く美術館の「教育的機能」ととらえます。そして美術館・博物館の教育的機能の考え方がどのように移り変わってきたかを踏まえつつ、近年の特徴的な試みについて国内外の事例から学びます。

美術館・博物館の教育的役割について考えることは、地域と文化、社会と文化、そしてひとりひとりの暮らしと文化の関わりについて考えることにつながります。例えば高齢化や産業構造の変化に対峙する地方自治体において、あるいは自然災害や公害で破壊されたコミュニティにおいて、美術館・博物館はどのような役割を担っていくことができるのでしょうか？多文化社会を生きていく子どもたち、障害や言語的・設備的ハードルによって施設に足を運びにくい人々に対し、どのように美術館・博物館の資料やノウハウを活用し、豊かな文化的体験を提供することができるでしょうか？そして昨今の新型コロナウイルス感染症の広がりといった状況の中で、美術館・博物館はどのような社会的役割を果たすことができるでしょうか？

本講義を通し、既存の美術館・博物館のイメージや現在の美術館・博物館のあり方を受講者それぞれの視点で問い直し、これからの美術館・博物館の役割についてより具体的に考えることができればと思います。

(到達目標)

【知識】博物館教育に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】博物館教育の諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】博物館教育への関心を持ち続け、文化資源の有効活用に貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

ありません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示します

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 博物館の資料を用いた教育プログラム 1
3. 博物館の資料を用いた教育プログラム 2
4. 博物館の教育的役割の変遷
5. 博物館教育の理論的背景
6. 高齢者と博物館
7. 障がい者と博物館
8. 多文化社会と博物館
9. 博物館と地域 (災害と地域の記憶)
10. 博物館と社会の変化 1 (都市の衰退)
11. 博物館と社会の変化 2 (パンデミック)
12. 観光と博物館
13. 最終課題に関連した授業
14. 最終課題に関連した授業
15. 最終課題に関連した授業

成績評価の方法 /Assessment Method

事前事後課題と授業への積極的な参加：50% ワークショップ・レポート：20% 最終課題（WSづくり）：30%
理由なく3回以上欠席した場合は評価不能とします。
「WSレポート」と「最終課題」のどちらかもしくは両方ともを提出しない場合は評価不能とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の形式（オンライン/オフライン）にもよりますが、基本的に事前or事後課題を課します。

履修上の注意 /Remarks

- ・ 対話・演習による授業のため、出席と議論への貢献を求めます。授業はグループワーク（グループで演習を行ったり、テーマに応じてグループで調べ発表する）が中心となります。
- ・ ワークショップ・レポートは実際に博物館が行うワークショップに参加し、それをもとにレポートを提出してもらいます。進め方は新型コロナウイルスの状況を見て指示します。実際に博物館を訪れる場合は、受講者が各自日程を調整の上参加するものとします。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学芸員資格を持つ学生の進路も多様化しつつあります。この講義でカバーする内容は、美術館・博物館に勤めることを目指す方だけでなく、地方自治体や政府機関、劇場・音楽堂といった文化施設、まちづくりに関わる企業やNPOなどを目指す方にも有効な視点を多く含みます。自分の中の「問い」を大切にしながら参加してもらえればと思います。

キーワード /Keywords

美術館、博物館、教育、ワークショップ、まちづくり、記憶、地域、文化

博物館資料論 【昼】

担当者名 /Instructor 門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MUS211M	◎		○		△
科目名	博物館資料論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

博物館資料についての基礎知識を養う。
具体的には、博物館資料の種類や意味からはじめ、その収集・整理・保管等に関する理論や方法について学ぶ。また、博物館における調査・研究活動と、博物館資料の取り扱い、資料の活用に関する手順などを知り、博物館資料についての理解を深める。

(到達目標)

【知識】博物館資料に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】博物館資料について論理的に思考し、専門の見地から自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。

【自立的行動力】博物館資料への関心を持ち続け、文化資源の有効活用に貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

適宜資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・『月刊 文化財』(文化庁、1963年～)
- ・全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『新時代の博物館学』(芙蓉書房出版、2012年)○
- ・大堀哲・水嶋英治編『博物館学I 博物館概論 * 博物館資料論』(学文社、2012年)○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび博物館資料について
- 第2回 博物館法と博物館資料
- 第3回 博物館資料の分類
- 第4回 博物館資料のいろいろなかたち
- 第5回 博物館資料の輸送作業
- 第6回 博物館資料の収集作業
- 第7回 博物館資料の形態および資料の整理・分類
- 第8回 博物館資料災害の実例と文化財保護法
- 第9回 博物館資料の保全-損壊因子①環境因子
- 第10回 博物館資料の保全-損壊因子②二次因子
- 第11回 博物館資料の保全-生物被害からの防除①物理的防除
- 第12回 博物館資料の保全-生物被害からの防除②科学的防除
- 第13回 博物館資料の保全-天災・人災からの保全
- 第14回 ルーブル美術館について
- 第15回 まとめと確認

※授業内容は変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...30%
定期試験...70%

- ※4回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
- ※15分以上の遅刻は欠席扱いとします。
- ※試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。
- ※諸事情により、定期試験がレポートとなる場合があります。その場合、レポートを提出しなければ評価不能(一)となります。
- ※その他、変更が生じる場合があります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書館などで博物館に関する書籍を見て授業に臨むこと。
授業前に前講義の概要を見直し、授業後は講義内容の要点を確認すること。

履修上の注意 /Remarks

この授業を受講する場合は「博物館概論」を受講しておくこと、理解がより深いものとなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「学芸員」の資格を取得するという強い意志をもって受講してください。
新聞などに取り上げられる博物館や文化財の情報に気を配るとともに、日常生活においても「物」を大切に、丁寧に扱う習慣を身につけてもらえればと思います。

キーワード /Keywords

「学芸員」資格の取得

地域文化資源演習【昼】

担当者名 富田 広樹 他
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE280M			○		◎
科目名	地域文化資源演習				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

地域の文化振興に寄与する人材育成のため、文化資源の発見や継承、活用、課題解決等に向けた基本的な手法や考え方について学ぶ。市内の文化施設を見学し、文化施設そのものと、その常設展示を紹介するポスター等をグループで作成する。主に学内学生に対しての施設PRを目的として、作成物は本学北方キャンパス内にて展示する。施設見学は、北九州市内の博物館や美術館等を予定している。施設見学やポスター等作成の際には、博物館実習II履修の学生も同席するので、助言を受けながら見学や作成を行う。
(到達目標)
【思考・判断・表現力】地域の文化資源について総合的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現することができる。
【自立的行動力】地域の文化資源への関心を持ち続け、地域の文化振興に貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスおよび施設紹介
- 第2回 事前学習および担当施設決め
- 第3回 施設見学①
- 第4回 施設見学②
- 第5回 ポスター等の作成準備
- 第6回 ポスター等の作成①
- 第7回 ポスター等の作成②
- 第8回 ポスター等の仕上げ
- 第9回 発表準備
- 第10回 発表①
- 第11回 発表②
- 第12回 発表③
- 第13回 作成物の手直しおよび提出
- 第14回 作成物展示
- 第15回 まとめ(レポート課題)

※第3, 4回施設見学は、まとめて土曜日等に行う(10月の予定)。日程については第1回目の授業で指示する。

※授業内容は変更する場合があります。

成績評価の方法 /Assessment Method

グループワークへの取り組み・・・20%

発表・・・30%

成果物・・・30%

レポート・・・20%

※4回以上の欠席は評価不能(-)とする。また、15分以上の遅刻は「欠席」扱いとする(施設見学で欠席した場合は、2回分の「欠席」扱いとする)。

地域文化資源演習【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

施設見学の前には、インターネットなどで施設の情報を得ておくこと。
ポスター等の作成の前には、施設紹介のポイントをまとめておき、自分の意見を整理した上で、グループ内で協力しながら制作にとりかかること。
発表前には、グループ内で役割分担をし、リハーサルを含めた十分な準備をして臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

施設見学の人数把握のため、1学期の履修期間に履修申請を済ませておくこと。
9月上旬に授業に関する事前連絡を行うので、大学から付与されたアドレスに届くメールを定期的に確認すること。
第1回目の授業から参加することを履修条件とする。
グループワーク中心の授業となるため、欠席は原則として認めない。施設見学を欠席した場合は各自で赴き、後の授業に支障のないようにしておくこと。
施設見学の際の留意事項を心得ておくために、博物館概論を受講していることが望ましい。
施設見学に際しての交通費・入館料や、制作にかかる費用は各自の負担とする。
事前に、生協などの損害賠償保険に加入しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本演習は、北九州の文化の特徴をよく知り、魅力を発見していくことを目標としています。日ごろから、この地域の様々な文化事象に目を配るよう習慣づけてください。
成果物は、該当施設の方にも見ていただく可能性もあります。施設の魅力を効果的にアピールできるものを作成しましょう。

キーワード /Keywords

地域 文化資源 文化振興

Film and Society 【昼】

担当者名 /Instructor アーノルド・ ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義・実習 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC352M	◎		○		△
科目名	Film and Society 【G】				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標:

知識: 映画に通じ、それを通して社会を考える力を身につけている。

思考・判断・表現力: 映像表現を通して社会や文化を分析し、考えを発信することができる。

自立的行動力: 専門的な知識を活かして多彩な社会貢献ができる。

Film and Society is a course designed to use American films as a means by which we can analyze and discuss important social and cultural topics related to both personal and public life in the United States. We will be reading sections of and watching parts of three famous American plays that have been made into movies in order to introduce various topics/themes for discussion.

This lecture course is designed to encourage students to learn about a variety of aspects concerning American culture and social issues. We will study how films are used to depict certain social and cultural concerns—both positively and negatively—in order to better understand how these issues impact or represent current day United States. Through different approaches of looking at these theatrical play/films, this course will help broaden student understanding concerning the importance of the cinema in the following three areas: social issues (including gender, race, class and religion), political issues, and cultural issues. Every class will include sections from Hollywood film versions of the three plays as well as reading sections of the play for analysis.

The objective is to have you broaden your understanding of how cinema is an important medium through which cultural and social issues can be represented. We will consider the following questions: Is the cinema a good way to examine these various issues? Do the cinematic representations help us understand the situation of other people? In every class, we will use the following content for our weekly topic: 1) weekly theme; 2) language focus; and, 3) output. In all classes, you will be required to bring your homework to the class in order to participate with classmates. I am interested in helping students further develop their critical thinking skills. Creativity is crucial to “thinking outside the box,” and through our examination of these plays, I hope that we will learn new ways of viewing different aspects of our global society.

教科書 /Textbooks

No text book required. Every week, on Moodle there will be sections of the play that you need to read for homework. There will also be a Japanese version of the text to help you understand the English version. You will also be required to watch the DVD movie in the library.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The library has DVD movie version of all three movies we will be discussing. You need to watch each movie in the library.

Film and Society 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Introduction to course
2. American Film and Society: Play 1--The Crucible, Part 1
3. American Film and Society: Play 1--The Crucible, Part 2
4. American Film and Society: Play 1--The Crucible, Part 3
5. American Film and Society: Play 1--The Crucible, Part 4
6. American Film and Society: Quiz 1, A Streetcar Named Desire, Part 1
7. American Film and Society: Play 2--A Streetcar Named Desire, Part 2
8. American Film and Society: Play 2--A Streetcar Named Desire, Part 3
9. American Film and Society: Play 2--A Streetcar Named Desire, Part 4
10. American Film and Society: Quiz 2, Fences, Part 1
11. American Film and Society: Play 3--Fences, Part 2
12. American Film and Society: Play 3--Fences, Part 3
13. American Film and Society: Play 3--Fences, Part 4
14. American Film and Society: Play 3--Fences, Part 5
15. Quiz 3, Final analysis essay due.

成績評価の方法 /Assessment Method

3 major quizzes: 45%;
4 character analyses: 15%;
4 Listening activities: 15%;
Final Analysis Essay: 25%.

5回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (一).

Any form of plagiarism on homework or final analysis essay (i.e. copying from the internet) will result in a final grade of (D).

レポートを提出しなかった場合は、評価不能(一)となります。
Failure to submit a report will result in a failing grade (一).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please do NOT miss the first class.

Students will be expected to attend all classes.

履修上の注意 /Remarks

This class will be taught in English.

We will be watching the Hollywood movie versions of these plays. Each week, I will lecture for about 30-40 minutes on a specific topic; we will then watch a section of the film. It is very important that you watch the entire film outside of the class. The better you understand the film/play, the better you will do on the quizzes and homework. All three films are located in the library, so you can watch them there. Or, you can easily find the movies online or at a rental store and watch them in your home.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

During the semester, you must watch the film version of the play. The DVD of the film version is in the library.

キーワード /Keywords

Theatre
American culture
Social topics

Theatre and Performance Studies 【昼】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC351M	◎		○		△
科目名	Theatre and Performance Studies 【G】				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

DP に基づく 3つの到達目標

知識: 演劇・パフォーマンス研究に関する基礎的な知識を身につけている。

思考・判断・表現力: 演劇・パフォーマンス研究の観点から思考・論理的な分析を行うことができる。

自立的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This course will offer an overview of the ways theatre and performance are studied. Course content will focus on performers, spectators, performance spaces, theatre theory, the history of theatre, and analysis of performance itself. A wide range of theatrical genres will be approached including drama, musical theatre and dance.

Each class will consist of a teacher-focused lecture followed by student-focused discussion.

教科書 /Textbooks

Christopher B. Balme, The Cambridge Introduction to Theatre Studies (Cambridge: Cambridge University Press, 2008)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Relevant material for further study will be introduced during each class.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to Theatre and Performance Studies
- 2回 Performers and Actors
- 3回 Spectators and Audiences
- 4回 Spaces and Places
- 5回 Theories of Theatre: Historical Paradigms
- 6回 Theories of Theatre: Systematic and Critical Approaches
- 7回 Theatre Historiography
- 8回 Text and Performance
- 9回 Performance Analysis
- 10回 Music and Dance Theatre
- 11回 Applied Theatre
- 12回 Theatre and Media
- 13回 Henry V: Expanding The Stage
- 14回 Othello: Performing Persuasion
- 15回 Review: The Purpose of Playing

成績評価の方法 /Assessment Method

Short Essay (700-1000 words) - 100%

Please note that if you are absent from more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade (-).

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

From Session 2 on, students will be assigned short, manageable texts as preparatory reading on a weekly basis.

Students are advised to reread course content/reading material after each class.

履修上の注意 /Remarks

Please note that this course will be conducted in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

欧米文化概論 【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科, 濱 奈々恵 / HAMA NANAE / 比較文化学科
門田 彩 / SAI KADOTA / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 単位 2単位 /Semester 学期 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE161M	◎	○	○		
科目名	欧米文化概論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

長い歴史を持つ欧米文化は、その歴史の積み重ねの上に成り立っています。したがって、たとえ現代文化であっても、理解するためには、その基盤になっている様々なことを把握していなくてはなりません。欧米で作られた映画や小説においては、内容を理解するための前提となるような知識が特に説明されることはありませんし、欧米社会の日常生活の中においてすら、誰もが知っていて当然のこととして扱われることも少なくありません。本講義では、そうした欧米文化の「基盤」となるようなものの中から、ギリシア神話、キリスト教、マザー・グース (Mother Goose or Nursery Rhymes) の3つを取り上げます。これらは、いずれも日本での影響力が弱いため、見過ごしてしまいがちですが、実は「欧米文化」という「異文化」と交流する上での鍵でもあります。

例えば、ヨーロッパを代表する芸術作品である《ミロのヴィーナス》や《ヴィーナスの誕生》などの作品は、ギリシア神話に出てくる女神を描いたものです。そして、これらの作品を、その文化的な背景まで含めてきちんと理解して味わうためには、ギリシア神話の基礎知識が不可欠です。またキリスト教も西洋美術の理解には欠かせません。

もちろん、ギリシア神話もキリスト教も、美術の理解にだけ必要というわけではなく、生活の様々な場面に姿を見せます。とりわけ欧米人のほとんどが「神」を信じていた19世紀までは、生活や文化のあらゆる場面に「神」の影響があったため、現代にいたるまで、キリスト教信仰は欧米社会に大きな影響力を及ぼしており、その知識がないことは、異文化コミュニケーションの妨げにもなりかねません。

英米文学や映画、音楽におけるマザー・グースの重要性も無視できません。英米の子どもたちは、幼い頃からマザー・グースに親しみ、マザー・グースを介して言語や文化の素養を身につけます。英語圏の国民の意識形成や言語表現に大きな役割を果たすマザー・グースの理解がなければ、異文化の面白さは半減し、本当の意味で英語を理解したことにはなりません。

こうしたことをふまえ、本講義では過去から現在に至るまで、欧米社会において、以上の3つがいかなる役割を果たしているかを学び、異文化理解の礎を築きます。具体的には、前半から中盤(第1回～第9回)ではギリシア神話もしくはキリスト教を題材に世界の文化の多様性及び異文化コミュニケーションの現状と課題を、中盤から後半(第10回～第15回)ではキリスト教もしくはマザー・グースを題材に英語圏の歴史、社会、文化について学びます。また、第14回では、英語圏からの留学生を招待し、Mother Goose を題材として、文化の多様性及び異文化交流の意義をテーマに交流を行います。

[到達目標]

- ・ 知識：欧米文化に関する幅広い知識を身につけている。
- ・ 技能：欧米文化を理解するために必要な知識を運用する能力を身につけている。
- ・ 思考・判断・表現力：欧米社会について文化という観点から総合的に考察し、その特色を把握しつつ、異文化に対する適切な判断力を身につけている。

教科書 /Textbooks

プリントを適宜配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- トマス・ブルフィンチ『「完訳 ギリシア・ローマ神話(上・下)」(角川文庫)
- オウイディウス『変身物語』(岩波文庫)
- 三浦篤『まなごしのレッスン ①西洋伝統絵画』(東京大学出版会)
- 池澤夏樹『ぼくたちが聖書について知りたかったこと』(小学館文庫)
- 平野敬一『マザー・グースの唄』(中公新書)
- 鳥山淳子『映画の中のマザーグース』(スクリーンプレイ)
- 鳥山淳子『もっと知りたいマザーグース』(スクリーンプレイ)

欧米文化概論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：導入、異文化理解のためのギリシア神話
- 第2回：ギリシア神話由来の世界の言葉
- 第3回：西洋美術から読み解くギリシア神話（ヴィーナスをめぐる）
- 第4回：西洋美術から読み解くギリシア神話（神々の王ゼウスをめぐる）
- 第5回：西洋美術から読み解くギリシア神話（さまざまな神々の表現）
- 第6回：キリストの誕生 / キリスト教の誕生（欧米社会とキリスト信仰）
- 第7回：マリア信仰とジェンダーの問題（女神信仰から『ダ・ヴィンチ・コード』まで）
- 第8回：科学と宗教の相克（ダーウィンの進化論からアメリカの宗教原理主義まで）
- 第9回：キリスト教と現代欧米社会（北アイルランド紛争からパレスチナ問題まで）
- 第10回：中間まとめ（小括と試験）
- 第11回：Mother Gooseの概説
- 第12回：文学作品におけるMother Goose
- 第13回：映画や音楽におけるMother Goose
- 第14回：Special Lecture
- 第15回：Mother Gooseにおける差別や偏見の修正、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 試験・・・65%
- レポート・・・・・・・・・・35%
- （講義を三分の一以上欠席している受講者は、レポート・試験の採点の対象になりません。）
- また、試験とレポートのどちらも未提出の場合、成績は「一（バー）」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布する資料は、当該授業の復習、および次回授業の予習として、よく読んでおいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

「ギリシア神話」「キリスト教」「ユダヤ教」「宗教紛争」「マザーグース」「伝承童謡」

比較文学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 濱 奈々恵 / HAMA NANAE / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT100M	◎	○	○		
科目名	比較文学概論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、時代、ジャンル、国などが異なる文学作品を比較し、その分析を通して様々な価値観や問題意識を共有する力を養っていきます。まずは文学研究の要となる批評理論を理解し、「好き」「嫌い」「面白い」「つまらない」に依存しない多角的な研究アプローチを身につけます。その後、実際にいくつかの作品を比較・分析し、論理的な意見を述べる方法論を学びます。「比較」は優劣をつけることが目的ではなく、時代や国、立場を超えた価値観の理解と許容にあります。どちらか一方に偏らない、複眼的な視座を持てる一助になればと思います。

到達目標

【知能】 比較文学に関する基礎的な知識を身につけている。

【技能】 比較文学の方法論を身につけている。

【思考・判断・表現力】 文学作品を学際的、複眼的に比較し、自分の意見を論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメと資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 北村紗衣 『批評の教室』（ちくま新書、2021） ¥902
- 廣野由美子 『小説読解入門』（中公新書、2021） ¥990
- 三原芳秋他 『文学理論-読み方を学び文学と出会いなおす』（フィルムアート社、2020） ¥2,420
- 大橋洋一編 『現代批評理論のすべて』（新書社、2006） ¥2,029
- 廣野由美子 『批評理論入門』（中公新書、2005） ¥902
- 川口喬一他 『最新文学批評用語辞典』（研究社、1998） ¥3,080

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、伝統的批評、「比較」の方法論
- 2回 ジャンル批評
- 3回 フェミニズム、ジェンダー批評
- 4回 クィア批評
- 5回 ポストコロニアル批評
- 6回 新歴史批評
- 7回 実践(1)： 変わりゆく「待ちぼうけ」
- 8回 実践(2)： マンガ化(山下和美と萩尾望都)
- 9回 実践(3)： 現代版『ロミオとジュリエット』
- 10回 実践(4)： テニスとモーム
- 11回 実践(5)： おとぎ話の異化(1)： アンジェラ・カーター
- 12回 実践(6)： おとぎ話の異化(2)： エマ・ドナヒュー
- 13回 実践(7)： 『ジェイン・エア』『サルガッソーの広い海』
- 14回 実践(8)： 『戦場のメリークリスマス』『奥の細道』
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験・・・70% レポートおよび日常の授業への取り組み・・・30%

* 欠席が5回に達した時点で学期末試験を受けられなくなり、「-」（評価不能）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行ってください（授業前でも後でも構いません）。

履修上の注意 /Remarks

授業の前にあらかじめ資料を渡すことがあります（紙が電子媒体）。予習や考察をしっかりと行ってください。また授業には必ず辞書（紙・電子どちらでも可）を持参してください。知的怠慢は禁止です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内で扱った作品を自分で読んだり見たりして、自分なりの楽しみ方を見つけてください。

キーワード /Keywords

文学研究 / 比較文学 / 批評理論 / 演劇 / 映像 / 小説 / マンガ

文化交流史【昼】

担当者名 / Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 / Year 1年次 / 1st Year 単位 / Credits 2単位 / 2 Credits 学期 / Semester 2学期 / 2nd Semester 授業形態 / Class Format 講義 / Lecture クラス / Class

対象入学年度 / Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS100M	◎	○	○		
科目名	文化交流史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 / Course Description

1. 「文化」と「交流」の意味を考える
2. 「日本史」「世界史」の枠を越えて歴史の知識がどのように結びつくのかを見る
3. 歴史を時間ではなく空間における変化として捉える
4. 「もの」が人間の歴史に果たした役割を理解する
5. 味覚・視覚・嗅覚などの感覚から歴史を見る

(到達目標)

- 【知識】日本史・世界史に関する応用的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。
 【技能】グローバルな視野に必要な高度な歴史知識を適切に運用できる能力を身につけている。
 【思考・判断・表現力】異なる歴史世界について複眼的に思考して、専門的見地から判断を論理的に表現することができる。

教科書 / Textbooks

プリントを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) / References (Available in the library: ○)

- アンドレ・G・フランク『リオリエント』（藤原書店2000年）（以下、新書・選書・文庫の場合は明記）
- 生田滋『大航海時代とモルッカ諸島』（中公新書1998年）
- 山田憲太郎『香料の歴史』（紀伊国屋新書1994年）
- 村井章介『世界史の中の戦国日本』（ちくま学芸文庫2012年）
- トム・スタンデージ『世界を変えた6つの飲み物』（インターシフト2007年）
- W・シヴェルプシュ『楽園・味覚・理性』（法政大学出版局1988年）
- 白井隆一郎『コーヒーが廻り世界史が廻る』（中公新書1992年）
- 武田尚子『チョコレートの世界史』（中公新書2010年）
- 南直人『ヨーロッパの舌はどう変わったか』（講談社選書メチエ1998年）

授業計画・内容 / Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 ガイダンス
 - 2回 文化とは？交流とは？【社会革命】とは？
 - 3回 文化交流としての「ルネサンスの三大発明」・・・火薬・羅針盤・活版印刷
 - 4回 【香料革命】①香料とは
 - 5回 【香料革命】②宋代中国の海外発展と【香料革命】
 - 6回 【香料革命】③ヨーロッパの【香料革命】
 - 7回 【香料革命】④14・15世紀におけるヨーロッパの食文化
 - 8回 「地理上の発見」から大航海時代へ
 - 9回 【価格革命】と【銀革命】
 - 10回 大航海時代と【鉄砲革命】①鉄砲伝来史料の比較
 - 11回 大航海時代と【鉄砲革命】②火薬の製造と塩硝年貢
 - 12回 大航海時代と【鉄砲革命】③在村鉄砲
 - 13回 ヨーロッパの【嗜好品革命】①コーヒーとプロテスタンティズム
 - 14回 ヨーロッパの【嗜好品革命】②チョコレートの呪術
 - 15回 【産業革命】と食品の工業化

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートを整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。
第1回の授業で受講上の重要事項の説明と注意を行います。
情報量が多い授業なので欠席するといけなくなるので注意してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化共生概論 【昼】

専門教育科目
比較文化科目
文化共生領域科目

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科, 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科
山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE160M	◎	△	○		
科目名	文化共生概論				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

本講義では、異なる文化がどのようにすれば共生することが可能なのかという視点から、「文化」を「比較」する方法を考えていく予定です。「文化」を「比較」というのは、単に、地域ごとに異なる習慣や決まりごとなどを見ていくというだけではありません。その違いは何を意味するのか、またその違いに対して、私たちはどのように振る舞えばよいのかまで考える必要がありますし、またそうすることで初めて、「文化共生」は可能になります。

そもそも、「文化」の「違い」というものも、それほど自明のものではありません。「比較」するそれぞれの「文化」のどこに、どのように光をあてるのかによって、「比較」を通じて見えるものは、全く異なってくるでしょう。ある角度からは深刻な違いに見えるものも、別な角度から見れば共通点の方が目立つということもあります。また、多様な「文化」が、それぞれ固有の価値を持つのはもちろんですが、それらの価値は歴史的・社会的な要因に規定されるため、それぞれを平等に「比較」することは容易いことではありません。ある「文化」が他の「文化」に優越するといったことが、現実には常に起こっているのです。そうしたことも考えなければ、やはり異なる文化が本当の意味で「共生」することは難しいでしょう。

以上のことをふまえ、この授業では、「文化」とは何かということから始まり、様々な地域や時代の「文化」について実例を提示しながら検討していきます。さらには、現代世界が抱えている「文化」をめぐる様々な問題にも、「共生」という観点からアプローチしていくつもりです。

[到達目標]

- ・ 知識：文化に関する体系的な知識を身につけている。
- ・ 技能：文化を総合的に理解するために必要な知識やスキルを身につけている。
- ・ 思考・判断・表現力：文化に対する体系的な理解を基に、新たな共生社会のヴィジョンを描き出す力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし（必要に応じてレジュメを配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『文化とは何か』（テリー・イーグルトン）、松柏社
- 『言語が違えば、世界も違って見えるわけ』（ガイ・ドイッチャー）、インターシフト
- 『オリエンタリズム 上・下』（エドワード・W・サイード）、平凡社

文化共生概論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回：イントロダクション～「文化」とは何か
第二回：比較文化の前提① 人間は他の動物と何が違うか
第三回：比較文化の前提② 「イヌ」という動物は存在するか
第四回：比較文化の前提③ 「エスニック料理」って何料理？
第五回：比較文化の前提④ 「日本文化」はどこにあるか
- 第五回：比較文化の方法① フィールドワークの可能性
第六回：比較文化の方法② 文化の普遍性と多様性
第七回：比較文化の方法③ 通時的比較と共時的比較
第八回：比較文化の方法④ 特別講義
- 第九回：比較文化の実践① 翻訳：言語の純粋性を疑う
第十回：比較文化の実践② 旅行記：書くことと文化
第十一回：比較文化の実践③ 文化と記号：文化論の実践1
第十二回：比較文化の実践④ 編集としての文化：文化論の実践2
- 第十四回：比較文化の現代的課題① 共存と対立の異文化
第十五回：比較文化の現代的課題② 混淆と豊穡の文化共生に向けて

成績評価の方法 /Assessment Method

- 試験：70% 授業への取り組み：30%
(講義を三分の一以上欠席している受講者は学期末試験を受けることはできません。)
※試験を受けなかった場合、成績評価は「一(バー)」になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布された資料をよく読み、授業前後によく予習、復習をしてください。特に講義内で指示された参考資料にも積極的に目をとおして、講義の内容をより深く理解するよう努めてください。

履修上の注意 /Remarks

特になし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

入門的な講義ではありますが、抽象的な事柄も多く含んだ「骨のある」内容となる予定です。心して受講して下さい。

キーワード /Keywords

多文化社会、グローバリゼーション、エスニシティ、フィールドワーク

人類学概論 【昼】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT101M	◎				
科目名	人類学概論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

今までに「自己」と「他者」について深く考えてみたことはあるだろうか。他人とともに生きていくため人間関係を理解には、なにが必要だろうか。たとえ「心」や「社会」の仕組みががわかって、人間関係は理解できない。人間関係はつねに変わっていく「なまもの」だから。時代や地域や育った環境によって異なる価値観をもとに、それぞれの人は他人と交渉し合意をはかり意思決定をする。そうした倫理や判断基準の背景になっているのが「文化」である。

自分と他人は、異なる身体を持ち、異なる価値観を持ち、異なる時間を生きているにもかかわらず、共感したり、相手のいうことが理解できたりするのはなぜだろう。口では「他人のことなんてわかるはずはない」といいながら、そんな他人を信じて毎日を生きられるのは、考えてみればとても不思議なことだ。

人類学では、理解できるはずのない他人にフィールドワークという手法をつかって近づいていく。内容はちょっと難しいかもしれないけど、講義の中で人間の文化の多様性と他者認知や自己認知の普遍性について考えを巡らしながら、恋だの政治だの常識だの、みんなが大好きな人間関係のパワーゲームについて分析し、いろいろと回り道をしようと思う。そうしたたくさんの経験を通して、「他人を知ることは自分を知ることである」という、もっとも基本的な道筋が見えてくるはずだ。

(到達目標)

【知識】

人間と文化について基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

講義中にたくさんの本と映画を紹介する。
そのうちで最低でも5つくらいは最終講義までに読み終えておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 「人間らしさとはなにか? 人間のユニークさを明かす科学の最前線」 マイケル・S・ガザニガ
- 「共感の時代へ 動物行動学が教えてくれること」 フランス・ドウ・ヴァール
- 以下はほんの一部である
- 「完全な人間を目指さなくてもよい理由 遺伝子操作とエンハンスメントの倫理」 マイケル・J・サンデル
- 「日常人類学宣言! 生活世界の深層へ / から」 松田 素二
- 「熊から王へ」 中沢新一
- 「人類大図鑑」 ロバート・ウィンストン 小笠原景子
- 「フィールドワークへの挑戦 〈実践〉人類学入門」 菅原和孝
- 「身体の零度」 三浦雅士
- 「自由を耐え忍ぶ」 テッサ・モリス・スズキ 辛島理人

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 文化とはなにか
- 第2講 近代とはなにか
- 第3講 共感とはなにか
- 第4講 他者とはなにか
- 第5講 交換とはなにか 入門編
- 第6講 交換とはなにか 応用編
- 第7講 社会とはなにか
- 第8講 国家とはなにか
- 第9講 信じるとはなにか 入門編
- 第10講 信じるとはなにか 応用編
- 第11講 自然とはなにか 入門編
- 第12講 自然とはなにか 応用編
- 第13講 わかるとはなにか 入門編
- 第14講 わかるとはなにか 応用編
- 第15講 すべてのまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- | | | |
|-----------------------------|-----|-----|
| 講義で紹介するさまざまな活動に参加する | ... | 20% |
| 講義で紹介するさまざまな本を読み考える | ... | 20% |
| 講義に関連して提示されるさまざまな議論に参加する... | | 20% |
| 講義の内容と上記の活動を踏まえた上で小論を提出 | ... | 40% |
- 課題を小論を一度も提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

専用のウェブ掲示板または北方Moodleを用いて、双方向的なやりとりを進め、課題の提示と提出をおこなう。主体的でインタラクティブな学びを意識してほしい。

履修上の注意 /Remarks

「人間ってなんだろう」「生きるってなんだろう」みたいなことについて、ふだんからよく考えており、すでに大人の心の準備ができている人。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

大学の講義は教えられることよりも、自分で考える事が大切です。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

比較宗教・思想I【昼】

担当者名 /Instructor 新村 昭雄 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR211M	◎		○		
科目名	比較宗教・思想 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本の宗教・思想の特徴は、古代からの我が国固有の神への信仰【神道】と、インドから中国または朝鮮半島を経て我が国に渡来した【仏教】への信仰とを融合させた【神仏習合】である。仏教は紀元前5世紀頃に誕生し、紀元前後に中国に伝わったといわれるが、中国には紀元前6世紀頃より【儒教】があり、紀元前2世紀には漢が儒教を国教として以来、儒教は東アジアの宗教思想の中核となった。さらに西洋に目を向ければ、紀元前後にはギリシャとローマで、アポロ神など神々への信仰がある一方では、中東ではさらに古くからベルシャヤやユダヤの特異な宗教であるゾロアスター教や【ユダヤ教】のような一神教があった。ユダヤ教は紀元前4年頃誕生したイエスによって【キリスト教】へと発展して、紀元4世紀初期にローマ帝国が国教として以降、西洋で大きな勢力をもった。さらに又、紀元6世紀にムハンマドが誕生し、【イスラム教】を布教するようになると、イスラム教は中東のみならず世界的な宗教へと発展した。これら世界の主要な宗教である仏教、キリスト教、儒教、イスラム教そして日本古来の神道の宗教・思想を比較しながら、日本人の生き方と中国人の生き方、中東の人々の生き方、そして西洋人の生き方を学んでいきたい。そして、できたらそれぞれの国々の異なる文化を学ぶ一助になれることを願う。

令和二年（2020年）、『鬼滅の刃』が、3ヶ月で動員2,644万人、興行収入361億円！というとんでもない記録を打ち立てたが、『鬼滅の刃』の宗教思想は『古事記』をもとにしているから難解だ。竈門炭治郎の日輪刀や日の呼吸やヒノカミ神楽は、素戔鳴尊の天叢雲剣（八岐大蛇）や天照大神の太陽崇拝を継承していると同時に、雷火神は自分を産んだ母の伊弉冉を殺し黄泉の国の大神となった。また「柱」は神様を数えるとき、「人柱」を立てるときに使う。カラスは八咫鳥で、さらに仏教の「（輪廻）転生」を暗示させておわる。興行収入2位の『千と千尋の神隠し』（宮崎駿）の時にもそうだったが、・・・

（到達目標）

【知識】日本の宗教思想・欧米の宗教思想・民主主義思想・インドの哲学宗教思想・インドと中国の宗教思想・日本の仏教思想・神道の宗教思想・イスラームの宗教思想・中国の宗教思想（儒教/道教など）に関する基本知識を体系的かつ総合的に理解している。

【思考・判断・表現力】世界の宗教思想と日本に関する諸問題を総合的に思考して解決策を探求し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

テキスト： 毎回の講義資料はTeamsのMoodleにPowerPoint、Word文書等で添付します。
 出口治明：『哲学と宗教全史』（予算があれば指定図書に）Kindle版 ¥2,138
 出口治明：『全世界史』上巻（新潮文庫）¥781
 出口治明：『全世界史』下巻（新潮文庫）¥880
 Kindle版：『聖書』¥99
 『古事記』¥100～¥1100
 『阿弥陀経』¥0～¥1100
 『コーラン』¥0～¥1000

比較宗教・思想I【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

(参考書)

- 鎌田東二：『神道とは何か』（PHP新書）
- 松前 健：『日本の神々』（中公新書）
- 三枝 みつよし：『仏教入門』（岩波新書）
- Kindle版：『聖書』口語訳（旧約聖書＋新約聖書）＋文語訳（旧約聖書＋新約聖書）＋聖書地図 Y 99
- 加地 伸行：『儒教とは何か』（中公新書）
- 桑原武夫：『論語』（ちくま文庫）
- 小杉 泰：『イスラームとは何か』（講談社現代新書）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 日米宗教比較—「日本人は無宗教か？信仰心が篤いのか！」
- 第2回 中東の宗教思想—ユダヤ教とキリスト教【一神教】
- 第3回 ユダヤ・キリスト教と西洋民主主義思想【民主主義と人権思想】
- 第4回 仏教誕生前後【キリスト教と古代インド宗教哲学（ウパニシャッド）】
- 第5回 仏教伝来【インドの仏教⇒中国の仏教⇒日本への仏教伝来】
- 第6回 仏教【日本における展開（神道との衝突・習合）】
- 第7回 縄文人の古代信仰【アニミズムとシャーマニズム】
- 第8回 神道の形成【禊ぎと祓え】
- 第9回 アイスや沖縄などの縄文信仰＋弥生信仰⇒神道成立⇒明治期の復古神道（伊勢の神宮・靖国神社）
- 第10回 イスラム教【ムハンマド誕生】
- 第11回 イスラム教【ユダヤ教とキリスト教 vs. イスラム教】
- 第12回 儒教【孔子誕生・道教】
- 第13回 儒教【古い価値感からの脱皮】
- 第14回 儒教【現代的意味】
- 第15回 比較宗教・思想 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ユダヤ・キリスト教、インドの宗教/思想と仏教、日本の古代/縄文/弥生の宗教/思想と神道、中東の宗教/思想、中国の宗教思想（道教と儒教）の課題レポートとQuiz（小テスト）70％と期末試験（30％）によって評価します。
- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能（-）とします。
- ・ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（-）とします。
- ・ 課題レポート（1回以上）、Quiz（小テスト）10回 / 15回以上提出がない場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

世界の五大宗教に関する聖典/仏典や参考書を読み、さらに講義の後図書館で調べる。

履修上の注意 /Remarks

授業前に、指示された神道・仏教・キリスト教・イスラム教・儒教に関する参考書等を読んでおくこと。授業後には、配付資料やノートを見直し復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

令和二年（2020年）、とんでもないことが起きた。『鬼滅の刃』が映画界で前人未踏の記録を打ち立てた。10月に公開され、3ヶ月で動員2,644万人、興行収入361億円！ご存知の通り、『鬼滅の刃』の宗教思想は難解だ。日本の古代の宗教思想のもととなった『古事記』をもとにしているから当然だ。竈門炭治郎の日輪刀や日の呼吸やヒノカミ神楽は天照大神の太陽崇拝を継承していると同時に、黄泉の国の大神である伊弉冉を殺した雷火神でもあった。さらに仏教の（輪廻）転生を暗示させておわる。2位の『千と千尋の神隠し』（宮崎駿）の時にもそうだったが、・・・

キーワード /Keywords

【日米宗教比較】【日本：神道（神仏習合）】【中東：ユダヤ教・キリスト教・イスラム教】【インド：ヒンズー教・仏教】【東アジア：儒教文化圏】【中東・アフリカ・東南アジア：イスラーム】

比較歴史・文化【昼】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS200M	◎		○		
科目名	比較歴史・文化				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

近藤和彦の言葉を借りると、歴史学とは、「過去という異文化を考察し、甦らせる営み」である。あるいはE・H・カーに言わせれば、歴史とは、「現在と過去の間の尽きることをしらぬ対話」である。本講義では、主として18世紀以降の大西洋を挟んだふたつの国、イギリスとアメリカ合衆国における民衆の広い意味での「抗議行動」を学ぶことを通して、そうした国や地域の歴史に関する知識を修得し、何故人びとに制裁や抗議という行動を選択させたのか、またその行動は彼らが生きた社会の中でどのような意味をもっていたのかを考え、的確に表現する力を養成する。

(到達目標)

【知識】欧米の歴史や文化に関する基礎的な知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】欧米の歴史や文化について論理的に思考し、自分の意見を的確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。資料等は授業中に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献は授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス：【比較の手法】【歴史とは何か】
- 2回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代イギリスにおける女房売り
- 3回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代イギリスにおけるスキミントン(1)【エリートと民衆の世界】
- 4回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代イギリスにおけるスキミントン(2)【世代・よそ者・共同体】
- 5回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代ヨーロッパにおける魔女狩り(1)【宗教改革・ルネサンス】
- 6回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代ヨーロッパにおける魔女狩り(2)【共同体解体の危機】
- 7回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代アメリカ合衆国における魔女狩り(1)【ピューリタニズム】
- 8回 【制裁の儀礼】とコミュニティ：近代アメリカ合衆国における魔女狩り(2)【ジェンダー】
- 9回 【異議申立て】とコミュニティ：近代イギリスにおける食糧暴動(1)【18世紀英国社会】
- 10回 【異議申立て】とコミュニティ：近代イギリスにおける食糧暴動(2)【民衆による価格設定】
- 11回 【異議申立て】とコミュニティ：アメリカ合衆国における食糧暴動(1)【20世紀初頭の米国】
- 12回 【異議申立て】とコミュニティ：アメリカ合衆国における食糧暴動(2)【コウシャール肉暴動】
- 13回 【異議申立て】とコミュニティ：【モラル・エコノミー】とは何か
- 14回 【異議申立て】とコミュニティ：1980年代英米の新自由主義
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、学期末試験(80%)と授業後のFormsを使った簡単な質問への回答(20%)により評価を行う。学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に授業中に紹介された参考文献を積極的に読み、事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。また、授業に関連するものを中心にニュースに目を通す。

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日米文化比較 【昼】

担当者名 /Instructor 川上 耕平 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 /2 Credits 単位 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE260M	◎		○		
科目名	日米文化比較				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この講義は、タイトルが示すように日本とアメリカを「文化」という視点から比較することを目指していくが、この「文化」という茫漠とした概念を、第2～7回は政治の側面から、第8～12回は社会の側面から、第13～14回は経済の側面から、それぞれ説明したい。

(到達目標)

【知識】アメリカと日本の文化についての幅広い知識を身につけている。

【技能】文化比較に必要な知識とスキルを身につけている

【思考・判断・表現力】文化比較を通じた異文化理解によって自文化を反省的に考察する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書は指定せず、毎テーマごとにレジュメを配布する（1回ごとに終わらない可能性もあり、その場合はつぎの週にまたがってしまうが、その際にご容赦いただきたい）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教科書は使わないが、以下のような文献は講義を理解する助けとなるであろう（購入の必要はない）。

- A50日米戦後史編集委員会編『日本とアメリカ—パートナーシップの50年』ジャパンタイムズ、2001年。
- 五百旗頭真 編『日米関係史』有斐閣、2008年。
- 高坂正堯『不思議の日米関係史』PHP研究所、1996年。
- 増田弘、土山實男 編『日米関係キーワード』有斐閣双書、2001年。
- 松本典久『日米比較文化論』増補改訂版、一粒書房、2018年。
- 渡辺靖 編『ワードマップ 現代アメリカ—日米比較のなかで読む』新曜社、2014年。
- マイケル・シャラー（市川洋一 訳）『「日米関係」とは何だったのか—占領期から冷戦終結後まで』草思社、2004年。
- ケネス・B.パイル（山岡由美 訳）『アメリカの世紀と日本—黒船から安倍政権まで』みすず書房、2020年。
- シーモア・M.リプセット（上坂昇、金重紘 訳）『アメリカ例外論—日欧とも異なる超大国の論理とは』明石書店、1999年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 政治文化の日米比較(1)—アメリカにおけるポピュリズム
- 第3回 政治文化の日米比較(2)—日本におけるポピュリズム
- 第4回 政治文化の日米比較(3)—アメリカ:大統領制
- 第5回 政治文化の日米比較(4)—日本:議院内閣制
- 第6回 核兵器観の日米比較(1)
- 第7回 核兵器観の日米比較(2)
- 第8回 マイノリティ社会の日米比較(1)—アメリカ:先住民を事例に
- 第9回 マイノリティ社会の日米比較(2)—日本:沖縄を事例に
- 第10回 宗教の日米比較—日米社会それぞれにとってのキリスト教について
- 第11回 女性史の日米比較(1)—アメリカの場合
- 第12回 女性史の日米比較(2)—日本の場合
- 第13回 経済発展の日米比較(2)—アメリカ:第二次産業革命
- 第14回 経済発展の日米比較(2)—日本:第二次大戦後の高度成長
- 第15回 まとめ(遅れが生じた場合はその調整にあてる)

※ 講義の進捗状況によってスケジュールが遅れる場合もある。

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験：70%、小テスト：30% (オンラインの講義となった場合は、それぞれレポートの提出に代える)

【注意点】

- ・ 全講義のうち1/3以上欠席した場合は、評価不能 (-) とする。
- ・ 期末試験を受験しなかった場合は、評価不能 (-) とする。
- ・ 小テストの回数は1~2回を予定。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にレジユメを配布した場合は、その予習 (事前学習) に励んでほしいが、基本的にこの講義は復習 (事後学習) に重点を置いていただきたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日英文化比較 【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE261M	◎		○		
科目名	日英文化比較				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

私たちは普段、「もっと大人になりなよ」とか「そんな子どもみたいなことはするな」と、「大人」と「子ども」という言葉をよく使います。けれども、「大人」とは具体的にどういう人のことなのかを、はっきりと答えられる人はそれほどいないのではないのでしょうか。また自分が「大人」とであると自信を持って言える人もあまりいないかもしれません。

これらのことは、実はそれほど不思議なことではありません。なぜなら、私たちはどうすれば「子ども」から「大人」になるのかというのは、決して古くから存在する問ではないからです。例えばイギリスでも日本でも、「若者」について考えるようになってから100年少ししか経っていません。もっと言えば、それより前には「若者」は存在すらしていなかったのです。つまり私たちは、つい最近になってから、「子どもから大人になる」というのはどういうことかについて考えるようになったのです。

本講義では、その「大人になるとはどういうことか」という問いについて、イギリスと日本の比較を通じて考えていきたいと思います。一例を挙げれば、イギリスと日本では、選挙で投票できるようになる年齢も、アルコールを飲めるようになる年齢も異なります。これは何を意味するのでしょうか。両国の歴史と文化に深く分け入って、社会のあり方そのものの比較に至るような授業を目指します。

[到達目標]

- ・ 知識：文化比較という観点に基づき、イギリスと日本の文化についての幅広い知識を身につけている。
- ・ 思考・判断・表現力：文化比較の観点から、社会を総合的に把握し、異なる文化の理解を通じた新たなヴィジョンを描き出す力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし（毎回、レジュメを配布します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回： イントロダクション「大人になる」とはどういうことか
- 第二回： 「子ども」の発見～イギリス編
- 第三回： 「子ども」の発見～日本編
- 第四回： 「若者」の発見～イギリス編
- 第五回： 「若者」の発見～日本編
- 第六回： 「成長」するとはどういうことか～イギリス編
- 第七回： 「成長」するとはどういうことか～日本編
- 第八回： 「若者文化」の発見～イギリス編
- 第九回： 「若者文化」の発展～イギリス編
- 第十回： 「若者文化」の発見～日本編
- 第十一回： 「若者文化」の発展～日本編
- 第十二回： 「成長」の変容～イギリス編・ 1【移行期の困難】
- 第十三回： 「成長」の変容～イギリス編・ 2【新しい「大人」のかたち】
- 第十四回： 「成長」の変容～日本編・ 1【周縁化する「若者」たち】
- 第十五回： 「成長」の変容～日本編・ 2【定まらない「成人」】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%。ただし、授業態度などの平常点を加味する。
※試験を受けなかった場合、成績評価は「－(バー)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習用・復習用のテキストを配布することがありますので、配布された際には指示に従ってテキストを自己学習の時間で読むようにしてください。また授業で配布するプリントも、当該授業の復習として、また次回授業の予習として何度も読み返してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

おそらく受講する皆さんのほとんどは「若者」だと思います。講義内容を自分の経験や家族の経験などと照らし合わせながら考えていてもらえれば嬉しいです。

キーワード /Keywords

若者文化、青年政策、成人年齢

日仏文化比較 【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE262M	◎		△	○	
科目名	日仏文化比較				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業では、社会学、人類学、歴史学などの研究の知見を用いて、様々な角度から日本とフランスの食について考察する。目的は、現在及び過去の日本とフランスで見られる、食材や食事方法に関する知識を取得しつつ、両国の食文化の特徴、さらには両国の文化と社会が有する特殊性及び普遍性を把握することである。

食は、日常的で身近な行為であるため、多くの学生は食についてよく考えたことがないかもしれない。しかし、普段何気なく食べている料理を深く掘り下げていけば、多種多様な事実を発見できる。この授業を受けた後は、自分の普段食べているものや食べ方が、食文化に規定されており、自分自身の趣味・嗜好に基づいて「選んだ」というよりもむしろ、単に国や地域の食文化によって無意識のうちに「選ばされた」ものである場合が多いことを理解できるようになるはずである。また、食事が一層興味深いものになるだけでなく、食に限らず普段あまり意識の向かない様々な物事について考える癖が身につく問題点に気づくようになるだろう。

(到達目標)

【知識】日本・フランスの両文化に関する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】日本とフランスの相互理解のあり方について学際的・複眼的に思考して解決策を探求し、自分の考えや判断を明確に表現することができる。

【コミュニケーション力】異なる文化的背景を有する人々と協働して効果的に活動できるコミュニケーション力を有している。

教科書 /Textbooks

なし。毎回プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 奥村彪生 『日本料理とは何か：和食文化の源流と展開』 農山漁村文化協会、2016年(○)。
- ・ 北山晴一 『フランス』 (世界の食文化〈16〉) 農山漁村文化協会、2008年(○)。
- ・ エイミー・グブテイル、デニス・コプルトン、ベツツイ・ルーカル 『食の社会学-パラドクスから考える』 (伊藤茂訳) NTT出版、2016年(○)。
- ・ 鈴木謙一 『フランス美食の世界』 世界文化社、2006年(○)。
- ・ 日仏料理協会編 『フランス食の事典(普及版)』 白水社、2007年(○)。
- ・ エドモンド・ネランク、ジャン＝ピエール・プーラン 『よくわかるフランス料理の歴史』 (藤井達巳、藤原節訳) 同朋舎出版、1994年(○)。
- ・ 原田信男 『和食と日本文化：日本料理の社会史』 小学館、2005年(○)。
- ・ ジャン＝ロベール・ピット 『美食のフランス：歴史と風土』 (千石玲子訳) 白水社、1996年。

上記以外の参考文献については、授業中に適宜指示する。

日仏文化比較【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針の説明と基礎的な知識の確認
- 2回 食とアイデンティティ
- 3回 日本の食事様式
- 4回 フランスの食事様式
- 5回 日仏の穀物
- 6回 日仏の発酵食品
- 7回 日仏の菓子
- 8回 日本における食のタブー
- 9回 フランスにおける食のタブー
- 10回 料理の日仏交流
- 11回 日仏における食の政治
- 12回 日仏における食育 スローフードも
- 13回 日仏における外食産業
- 14回 日仏におけるフードツーリズム
- 15回 まとめと復習

以上は予定であり、変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度 (授業中の発言や受講後に提出するコメント用紙) ・ ・ ・ 30%、期末レポート ・ ・ ・ 70%
なお、期末レポートを提出しなかった場合は、評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業に関連するテーマの新聞記事等を配布することがあるので、その場合は事前に読んでおくこと。受講後は必ず復習し、次回の授業に備えること

履修上の注意 /Remarks

私語は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業の受講に際し、特別な知識は必要ない。高校で世界史、日本史、地理のいずれかしか履修していない学生も歓迎する。
また、本授業は、基本的に講義形式で行われるが、映画などの映像資料の視聴や、ペアワークないしグループワークを伴う。特にこれらのワークにおいては、話しやすい雰囲気を作るよう心がけるので、間違いを恐れず積極的に発言してほしい。

キーワード /Keywords

食、食文化、和食、フランス料理、美食、ガストロノミー、宗教、健康、ツーリズム

アジア文化共生論 【昼】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE263M	◎	○	○		
科目名	アジア文化共生論				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

日中比較の視角から、中国文化の基本知識、日中文化交流の歴史、日中文化の共通点と相違点との三方面から、日中文化の基本知識を学ぶ。

(到達目標)

【知識】中国文化と日本との関係に関する基本知識を体系的かつ総合的に理解している。

【技能】日本と中国文化に関する必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】日中両文化に関する問題を総合的に思考して解決策を探索し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業ごとに配る。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

日中交渉史-文化交流の二千年(東方選書)1996年版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 中国文化とは何か
- 3回 中国の思想
- 4回 中国の宗教
- 5回 中国の科挙制度と現代教育
- 6回 中国の神話
- 7回 中国の世界文化遺産と自然遺産
- 8回 日中文化交流史-古代篇
- 9回 日中文化交流史-中古篇
- 10回 日中文化交流史-近世近代篇
- 11回 漢字と中国
- 12回 漢字と日本
- 13回 孫文と日本そして九州
- 14回 郭沫若と日本
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況…40% レポート…60%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、指示されたキーワードをよく調べる。授業後にはノートを見直し復習すること。

履修上の注意 /Remarks

授業中によくメモすること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

好好学习、天天向上。

キーワード /Keywords

比較、思想、宗教、漢字、神話、交流

比較宗教・思想II【昼】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE310M	◎	○	○		
科目名	比較宗教・思想II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

中国思想史の流れを勉強したうえで、日本における儒学の発展軌跡を勉強する。中、日両国の思想を比較し、それぞれの特徴を解明する。

到達目標

「知識」

中国思想の比較的理解に関する専門的な知識を身につけている。

「思考・判断・表現力」

中国思想の比較的理解に関する諸問題について学際的に思考して解決策を探索し、自分の考えを論理的に表現することができる。

「自立的行動力」

中国思想の比較的理解への関心とキャリア意識を持ち続け、より良き未来に向けて主体的に行動できる。

教科書 /Textbooks

授業ごとにプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『中国文化叢書』、大修館書店1980年。○

『从汉学到中国学』(中華書局2007年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 中国思想史概論
- 第二回 中国神話と古代国家のイデオロギ
- 第三回 先秦諸子百家の思想
- 第四回 秦漢時代の思想
- 第五回 六朝の思想
- 第六回 唐代の思想
- 第七回 宋代の思想
- 第八回 日本古代の思想と儒教
- 第九回 江戸時代の思想史
- 第十回 日本の朱子学と古学派
- 第十一回 日本の陽明学
- 第十二回 日本における儒学の終焉と近代学校
- 第十三回 中國の儒教の終結
- 第十四回 新文化運動
- 第十五回 新中国の思想傾向、まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に臨む態度30%、レポート70%。

※原則として、出席が足りていない場合、レポートを提出しなかった場合に評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講者は、授業前に前回提示したキーワードを調べ、授業後にノート確認すること。授業中に出された課題に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

本授業は、外国語学部中国学科と文学部比較文化学科の共通授業。
授業は日本語で行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

外国語が、普通の学生にとってはこれからの人生の武器に過ぎざるも、外国語学部の学生にとってはすべてである。

キーワード /Keywords

儒学、儒教、仁義礼智信、忠孝

比較東洋美術 【昼】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR212M	◎	○	○		
科目名	比較東洋美術				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本絵画史においては、古くから「やまと絵」と「唐絵」という対概念が存在したが、これらの概念の意味するところは時代によって変化して来た。本講義では、各時代において、「やまと絵」「唐絵（漢画）」という言葉が、どのような絵画を指し示していたかを、具体的な作品を提示しながら確認して行く。また、それによって、日本絵画は中国絵画から、どのような影響を受け、どのように自家薬籠中のものとしていったかを確認する。

昨年度は、室町時代から江戸時代の絵画を取り上げたので、今年度は、平安時代から鎌倉時代までを概観する。

(到達目標)

【知識】比較東洋美術に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】比較東洋美術の考察に必要な情報を収集・分析することができる。

【思考・判断・表現力】比較東洋美術について論理的に思考・探求し、自分の意見を適切な方法で表現することができる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 「やまと絵」の誕生
- 2回 教王護国寺旧蔵「山水屏風」と隋・唐の絵画
- 3回 教王護国寺旧蔵「山水屏風」と男絵系絵巻
- 4回 神護寺所蔵「山水屏風」の画面内容・主題
- 5回 神護寺所蔵「山水屏風」と女絵系絵巻
- 6回 「華嚴宗祖師絵伝」内「義湘絵」の内容
- 7回 「華嚴宗祖師絵伝」内「義湘絵」と南宋絵画-花鳥動物図・草虫図・羅漢図-
- 8回 「華嚴宗祖師絵伝」内「元暁絵」の内容
- 9回 「華嚴宗祖師絵伝」内「元暁絵」と南宋山水画・歌仙絵
- 10回 「華嚴宗祖師絵伝」と明恵上人
- 11回 「一遍上人絵伝」の内容
- 12回 「一遍上人絵伝」と北宋山水画
- 13回 「一遍上人絵伝」と南宋山水画・藻魚図
- 14回 「一遍上人絵伝」と聖衆來迎寺所蔵「六道絵」・平安絵巻
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末テスト(自筆ノート・授業時配布レジユメ 持ち込み可)・・・70%
コメントカード・・・30%

下記のいずれかに該当する場合には、評価不能「一」となります。
学期末試験を受験していない・5回以上の欠席

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、十分に理解できていない箇所については、レジユメに挙げた参考文献等に目を通して理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較映像・文化【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC211M	◎		○		
科目名	比較映像・文化				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、題材たる映像として誰もがなじみの深いハリウッド映画を用いる。比較は、映画と映画、また、映画と小説の組み合わせの形で、映画の重要な場面を複数確認しつつ行う。このような形で映像の比較を行なうことによって、今まで見えていなかった、各国の文化の特質を明らかにしたい。同時に、比較という作業が、文化を研究するにあたって、有効な研究手段であることを理解してもらいたい。併せて、アメリカと日本、アメリカとイギリス、ユダヤ系と非ユダヤ系の間に存在する、感性や世界観の違いに関する理解も深めてもらいたい。

(到達目標)

【知識】映像文化の比較に関する幅広い知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】映像文化の比較に関する自分の考えを表現できる。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要に応じてレジュメ等の資料をプリント形式で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

入門・現代ハリウッド映画講義	藤井仁子	人文書院
時計じかけのハリウッド映画	芦刈いずみ	角川SCC新書
大人のための『ローマの休日』講義	北野圭介	平凡社新書
カーチェイス映画の文化論	谷川功一	リム出版新社
映画の構造分析	内田樹	晶文社
「戦争映画」が教えてくれる現代史の読み方	福井次郎	彩流社
シネマの宗教美学		フィルムアート社
家族の幻影	伊藤淑子	大正大学出版会
ハリウッド100年のアラブ	村上由見子	朝日選書
映画で読む21世紀	長坂寿久	明石書店
イエローフェイス	村上由見子	朝日選書
映画の中のアメリカ	藤原帰一	朝日選書

(大半が図書館蔵書です。)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方の説明、参考図書の紹介
- 2回 アメリカ版ゴジラ(1998年)の分析
- 3回 日本版ゴジラ(1954年)の分析
- 4回 日米のゴジラの比較分析
- 5回 ゴジラの違いが日米の文化の差とどのように連なっているかの考察
- 6回 日米の映画タイトルの比較
- 7回 『シンドラーのリスト』と『ライフ・イズ・ビューティフル』を比較
- 8回 上記二作品の映画製作者の意図の差異を分析
- 9回 ユダヤ人と非ユダヤ人の感性の比較
- 10回 日米の映画に見られる語りの様式の違いを分析
- 11回 日米の映画に見られる語りの様式の違いと、文化との関係を分析
- 12回 映画『ハリー・ポッターと賢者の石』と原作とを比較：ハリーの活躍の度合いの違い
- 13回 映画『ハリー・ポッターと賢者の石』と原作とを比較：ハリーのキャラクターの違い
- 14回 『ハリー・ポッターと賢者の石』の原作と映画との比較によって明らかになる、アメリカ文化の特質
- 15回 補足説明等

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100% 持ち込みは一切不可とする。
定期試験を受験しなかった場合は、－(評価不能)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前：講義で取り上げる映画とテーマは事前に知らせますので、指定されたテーマの視点から、各自で映画を事前に鑑賞しておいて下さい。
講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。
授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義のテーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較表象文化 【昼】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC210M	◎	○	△		
科目名	比較表象文化				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

本講義では「表象」という概念の基礎を理解・習得し、そのうえで人間の様々な表象行為を比較検討して考察することを目的としている。人間のコミュニケーションの根本を理解し、そこから文化社会を見つめなおす訓練をつんでいきたい。表象は視覚のみならず聴覚にもかかわる。声・身体といった人間の最も身近なメディアにも注目していく。表象を比較するうえでの方法にも随時注意しながら、人間の感動、喜怒哀楽といった感情を引き起こすさまざまな技術、及びその技術を可能にしている条件について考えてみたい。

(到達目標)

知識：表象文化についての専門的な知識を身につけている。

技能：表象文化を論じるために必要な情報を収集し分析できる。

思考・判断・表現力：表象の特徴について論理的に思考し、自分の考えを適切な方法で表現できる。

教科書 /Textbooks

特になし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス-表象概念の説明-
- 第2回 写真は何を写すのか-ベンヤミンの思考をきっかけとして-
- 第3回 生活のなかの写真①-「におわせ」の想像力喚起-
- 第4回 生活のなかの写真②-表象装置としてのプリクラ-
- 第5回 写真「集」とは何か-北九州の表象-
- 第6回 公共広告の表象分析
- 第7回 歴史資料の表象分析①絵双六
- 第8回 歴史資料の表象分析②見立番付
- 第9回 メディア史のなかの表象-紙芝居の相関的位置づけ-
- 第10回 演じられる「らしさ」
- 第11回 中間まとめ
- 第12回 比較表象分析①導入
- 第13回 比較表象分析②展開
- 第14回 比較表象分析③まとめ
- 第15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業参加、コメントカードなど)...約30% 学期末レポート...約70%

* レポートには製作物の作成が含まれることがある。

* レポート未提出の場合は「-」(評価不能)となる。

* 平常点が一定の基準を満たさない場合「-」(評価不能)となる。基準については第1回(ガイダンス)で説明する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：告知した事例について調べておく

事後：授業内容でわからないところがないか復習しておく。関心をもった事項について自主的に調べてみる。

履修上の注意 /Remarks

授業時間外においては、毎回授業内容についてのノートを確認し、コメントカード執筆にそなえること。
授業時間内に、クイズやアンケートをおこなうので、デバイス（ノートPC、スマホなど）を持参すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較日本文学（近現代）【昼】

担当者名 /Instructor 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス /Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT225M	◎		○		
科目名	比較日本文学（近現代）				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義は、多様な〈比較〉の視点とその方法の獲得を目的とする。
具体的には、日本の近現代文学作品を〈比較〉という観点から分析することによって、一作品と向き合うだけでは成しえない〈読み〉の深化を試みる。
あらゆるモノは、その他のモノとの関係性の中で初めて明確にそのカタチを現す。そうした関係論的世界において、〈比較〉は欠かせない視点である。

(到達目標)

【知識】日本の近現代文学に関する幅広い知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】日本の近現代文学について、論理的に思考して、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

取り上げる作品は、「青空文庫」などで入手できるものが多い。事前に適宜紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 近世文学と近代文学の比較【近世文学概観】
- 第3回 明治開化期の文学と新聞記事との比較【文学の種としての新聞記事】
- 第4回 前近代の詩歌と近代の詩歌との比較(1)【前近代の詩歌】
- 第5回 前近代の詩歌と近代の詩歌との比較(2)【近代詩の試み】
- 第6回 前近代の詩歌と近代の詩歌との比較(3)【近代詩の誕生】
- 第7回 前近代の詩歌と近代の詩歌との比較(4)【まとめ】
- 第8回 一作家の新旧作品の比較
- 第9回 小説内世界と現実世界との比較
- 第10回 男性研究者と女性研究者の「読み」の比較
- 第11回 作家論・作品論とテキスト論の比較(1)【作家論・作品論的立場から小説を読む】
- 第12回 作家論・作品論とテキスト論の比較(2)【テキスト論的立場から小説を読む】
- 第13回 作家論・作品論とテキスト論の比較(3)【同時代言説に照らして結末を読む】
- 第14回 典拠となった外国文学作品との比較
- 第15回 国語教材の比較

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...80% 日常の授業への取り組み...20%
※5回以上欠席した場合は評価不能(一)とし、成績評価の対象とはしない。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

取り上げる作品については事前に紹介するので、読んだ上で講義に参加すること。講義後は、講義内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は慎むように。

比較日本文学（近現代）【昼】

専門教育科目
比較文化科目
文化共生領域科目

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

主に短編小説を取り上げる予定です。小説を読んでから講義に参加してください。学びは俄然深まるはずです。

キーワード /Keywords

日本近代文学、日本現代文学

比較日本文学 (古典) 【昼】

担当者名 /Instructor 渡瀬 淳子 / WATASE Junko / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT226M	◎		○		
科目名	比較日本文学(古典)				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

日本文学が、どのように外国文化を学び受け入れてきたかを、漢文との関わりを通して学ぶ。
漢文学の受容を通して日本文学の特質を考える。

(到達目標)

【知識】日本古典文学の比較文学研究に関する幅広い知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】日本古典文学について、学際的・複眼的に思考して 解決策を探求し、専門の見地から自分の意見を論理的に表現することができる

教科書 /Textbooks

適宜レジュメ、プリントを配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 羽衣と白鳥処女伝説
- 3回 異界訪問譚と時間【仙界と時間の流れ】
- 4回 異界訪問譚と時間【浦島太郎】
- 5回 眉間尺【孝子伝と搜神記】
- 6回 眉間尺【日本における眉間尺譚】
- 7回 楊貴妃【長恨歌と長恨歌伝】
- 8回 楊貴妃【「長恨歌」と『源氏物語』】
- 9回 楊貴妃【日本の楊貴妃伝説】
- 10回 原典と翻案【中国小説の受容：白話小説の流行と日本文学】
- 11回 原典と翻案【中国小説の受容：近世前期の文学と白話小説】
- 12回 原典と翻案【中国小説の受容：雨月物語①序盤】
- 13回 原典と翻案【中国小説の受容：雨月物語②中盤】
- 14回 原典と翻案【中国小説の受容：雨月物語③終盤】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験 90%
平常の学習状況 10%

・試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。
※ただし、場合によっては代替の課題を課すことがあります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で取り扱う作品については、事前に読んでおくこと。
授業で指示された参考文献には、事前に目を通して授業に臨むこと。

比較日本文学（古典）【昼】

専門教育科目
比較文化科目
文化共生領域科目

履修上の注意 /Remarks

受講人数、受講者の興味関心によって、扱う作品を一部変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較広域文学 【昼】

担当者名 /Instructor 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT200M	◎		○		△
科目名	比較広域文学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

授業概要

一つのテーマに沿って、各国の文学作品を渉猟し、幅広い知識を身につけるとともに、精読で得た発見を自分の言葉にして表現する力を養いましょう。

今回は、「文学と身体」をテーマとします。言語芸術としての文学を書く・読むという知的な行為は、一見、純粋に観念的な営みのように見えます。しかし、ペンやキーボードがなければそもそも書けない、空気が無ければ発話も語りもままならないというように、実は物質に大きく依存しています。このように文学が依存する物質のなかには、書き手や読み手の身体もまた含まれるでしょう。この講義は、文学の物質性を、身体への依存という観点から浮き彫りにする試みです。（なお、本講義は受講者の積極的な発言・参加を期待した授業です。）

到達目標

- 【知識】文学テキストを学問的に読み解く手順を理解している。
- 【思考・判断・表現力】特定のテーマにのっとり文学テキストの細部を解釈し、その解釈の正当性を説得できる。
- 【自立的行動力】読む・書くという行為に対して高い意識をもち、日頃の言語行為に反映できる。

教科書 /Textbooks

なし（そのつど資料を配布します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション：問題提起
- 第2回：文学と手
- 第3回：文学と口
- 第4回：文学と耳
- 第5回：文学と頭
- 第6回：文学と体液
- 第7回：前半の復習
- 第8回：文学と痛み
- 第9回：文学と性
- 第10回：文学と恥
- 第11回：文学と傷
- 第12回：文学と健康 / 病
- 第13回：文学と拡張された身体
- 第14回：文学と精神
- 第15回：まとめ、および書く技法

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回授業末の演習50% + レポート50%

レポートを提出しなかった場合、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で得た思考の切り口や思考回路を、自分の身のまわりのものに適用してみるという実践を、意識的に積んでください。「こういう点を疑ってかかれば、ステレオタイプが剥がれて、考えが深まっていく」というコツをつかんで、自在に扱えるようになるには、日々の訓練が不可欠です。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学 身体 物質 批評 メディア 外国文学

比較ジェンダー論【昼】

担当者名 /Instructor 力武 由美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GEN210M	◎		○		
科目名	比較ジェンダー論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この科目では、グローバル化が進展するなか、ナショナルとグローバルのせめぎあいのなかで変容する表象文化に焦点を当て、そこに潜むジェンダー・ポリティクスを、国際比較というツールを用いて、歴史的 / 地域横断的に読み解く視点と理論を学びます。

【到達目標】

【知識】日本及び欧米をはじめとする地域のジェンダーの問題について理解している。

【思考・判断・表現力】日本及び欧米におけるジェンダーに関する課題を自ら設定し、適切な研究方法を活用しながら、複眼的視野に立って考察し、解決できる。

教科書 /Textbooks

授業のパワー・ポイント資料および関連・補足資料を配信・配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- (○) 『象徴としての女性像-ジェンダー史から見た家父長制社会における女性表象』(若桑みどり著)筑摩書房 4,500円
- (○) 『視線と差異-フェミニズムで読む美術史』(グリゼルダ・ポロック著)新水社 4,515円
- 『女性・ネイティブ・他者-ポストコロニアリズムとフェミニズム』(トリンティ・ミンハ著)岩波書店 3,675円
- 『岩波女性学辞典』(井上輝子・上野千鶴子・江原由美子・大沢真理・加納美紀代編)岩波書店 4,830円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 絵画に表象された家族・子ども
- 2回 絵画に表象された妻・娼婦
- 3回 絵画に表象されたオリエンタリズム
- 4回 モダンガール・東アジア・植民地的近代
- 5回 対(旧)ソ戦略-韓国・沖縄・台湾・フィリピン防衛ラインにおける米軍基地文化と暴力
- 6回 小説・戯曲・宝塚にみる異性装
- 7回 広告・映画に表象されたジェンダー、人種 / エスニシティ、階級とポストコロニアリズム
- 8回 広告・映画に表象されたマッチョ文化
- 9回 デイズニー映画と帝国主義
- 10回 映画に表象されたホモソーシャル、ホモフォビア、ミソジニー
- 11回 絵画・映画・小説に表象された美女の死
- 12回 ファッション雑誌がつくる「美」と美容整形
- 13回 越境する日本のマンガ・アニメ、コスプレ
- 14回 アメリカ大統領家族と日本天皇家家族の肖像とナショナリズム
- 15回 セックス / ジェンダー / セクシュアリティの境界を侵犯する表象文化とその展望

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...45%、期末試験...45%、授業への積極的な関り...10%

授業に対するミニコメントを5回以上提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、事前に配信される各回の授業の資料を授業開始前までに読み、内容に類似した作品が他にないか情報検索をしてみることに。
事後学習として、また期末課題の準備作業として、日頃から表象文化に対して比較の視座をもって関心を向け、授業の各回の主題に関連した表象文化の課題分析に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

グローバル化が進展する状況下でのメディア表象に日頃から関心を向け、ジェンダーの視点で問い直す作業を行い、その成果をレポートおよび期末試験に反映させること。

キーワード /Keywords

オリエンタリズム、階級、グローバリゼーション、コロナリズム、セックス / ジェンダー / セクシュアリティ、人種 / 民族、多文化主義、帝国主義、ナショナリズム、表象文化、ポストコロナリズム、ポリティクス、眼差し

比較社会意識 【昼】

担当者名 /Instructor 入江 恵子 / Keiko IRIE / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC200M	◎		○		
科目名	比較社会意識				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

わたしたちの生活に密接なものひとつに「男」「女」という性別があります。ジェンダーとは、そうした男・女といった身体の違いに、例えば「男らしさ」「女らしさ」などの様々な意味をつけたもの、または意味をつけることを指します。この授業では、ジェンダー概念と女性学との関係と歴史、ジェンダーに関する諸問題について考察します。授業はグループ毎のディスカッションやプレゼンテーションなど、積極的な授業参加によって成り立ちます。

到達目標：

【知識】社会学におけるジェンダー論の基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】ジェンダー論の観点に基づいた論理的な分析をもとに、批判的な論点を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。随時、必要な文献や資料を紹介、あるいはプリント配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 佐藤文香監修(2019)『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』明石書店
- 荻野美穂(2014)『女のからだ：フェミニズム以後』岩波新書

比較社会意識 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ジェンダーとは
ジェンダー概念の説明と整理。コース全体を貫くテーマについて。
2. 女性学とジェンダー研究—その1
その起源と発展を社会背景から考察する。
3. 女性学とジェンダー研究—その2
日本におけるフェミニズムと基本文献の読解。
4. 男性学とは
男性学の歴史、理論と現在の状況。
5. 生殖とジェンダー—その1
日本における産児調節運動について。
6. 生殖とジェンダー—その2
生殖技術の発展をめぐる諸問題について。
7. 多様なセクシュアリティ
異性愛も含めたさまざまなセクシュアリティとカテゴリーについて。
8. セクシュアリティと社会運動
「LGBT」、「クエア」をめぐる社会運動の興隆と傾向について。
9. メディア文化におけるジェンダー表象
ジェンダーメディア分析の方法と実践。
10. 教育とジェンダー
文系・理系におけるジェンダー差、隠れたカリキュラム、女子大学の存在意義について。
11. 就労とジェンダー
ワークライフバランス、M字型就労、ガラスの天井について。
12. 貧困とジェンダー
女性をめぐる貧困の構造と支援について。
- 13、14. グループ発表
15. 授業の総括
これまでの授業内容をふまえた上で、今後のジェンダー研究の課題について議論する。

暦に沿って講義の順番が前後したり、内容が変更になることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内発表 / コメントシート (40%)、定期試験 (60%)
原則として6回以上欠席した場合は評価不能 (-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で配布するプリント類に事前に目を通してから授業に臨むこと。また、授業後は書籍や新聞をはじめとしたメディアに当たり、授業で扱ったテーマの理解を深めること。
グループワークでは積極的に参加・発言すること。
オンラインで実施される場合は、関連する参考映像、記事などに目を通し、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

感染拡大などの社会状況の変化により、シラバスの内容を大幅に変更することがある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較社会文化 【昼】

担当者名 /Instructor 阪井 俊文 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC201M	◎		○		
科目名	比較社会文化				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

社会学が「文化」として捉える事象は幅広い。本科目では、音楽や観光、コンビニ、ゲーム、ファッション、恋愛など、学生にとって身近なトピックと思われるものを題材として取り上げ、社会学の諸理論を用いて考察する。身近な事柄を客観的、批判的に読み解くことで、社会的な視点を感覚的に理解できるようになることを目指す。

(到達目標)

【知識】文化社会学に関する基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】文化社会学の観点からの論理的な分析をもとに、批判的な論点を立案し、その効果を評価できる力を身につけている。

教科書 /Textbooks

井上俊・長谷正人(編)「文化社会学入門」ミネルヴァ書房 2010年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：イントロダクション
- 第2回：文化社会学と近接領域
- 第3回：文化と階級・階層
- 第4回：文化と権力
- 第5回：文化とメディア
- 第6回：文化とジェンダー
- 第7回：文化と消費
- 第8回：都市の文化(コンビニ、カフェ、オタクなど)
- 第9回：アートの文化(音楽、マンガなど)
- 第10回：身体の文化(スポーツ、ファッション、フィットネスなど)
- 第11回：娯楽の文化(観光、ゲーム、テーマパークなど)
- 第12回：暮らしの文化(食生活、住まい、出産・育児など)
- 第13回：人間関係の文化(恋愛、友だち、職場など)
- 第14回：儀礼の文化(結婚式、クリスマス、祭りなど)
- 第15回：まとめとレポート課題の説明

成績評価の方法 /Assessment Method

講義の中で実施する小レポート(20%)と期末レポート(80%)
なお、出席が3分の2に満たない場合は評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の指定箇所を読んで予習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディアと社会【昼】

担当者名 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC204M	◎		○		
科目名	メディアと社会				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

私たちの日常生活にありふれた様々な「メディア」を通じ、社会的な視点からの理論と方法論を身につける。人と社会との関係において、このような「メディア」が人と人、そして人ともを結びつける上でいかなる役割を果たしているのかを理解する

到達目標

【知識】メディア社会学に関する基礎的な知識を身につける。

【思考・判断・表現力】メディア社会学の観点からの論理的な分析をもとに、批判的な論点を立案し、その効果を評価できる力を身につける。

教科書 /Textbooks

なし。ただし、必要に応じリーディングを配布する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

池田理知子・松本健太郎, 2010, 「メディア・コミュニケーション論」ナカニシヤ出版。
辻泉(他), 2018, 「メディア社会論」有斐閣ストゥディア。
藤田真文(編), 2016, 「メディアの卒論-テーマ・方法・実際[第二版]」ミネルヴァ書房。
吉見俊哉, 2013, 「メディア文化論-メディアを學人のための15話 改訂版」有斐閣。
吉見俊哉(編), 2001, 「メディア・スタディーズ」せりか書房。
また、必要に応じてリーディングリストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【注】ゲスト講師による特別講義を含む。講義計画は変更することがある。

第1回：オリエンテーション：「メディア」とは何か。本講義について。

第2回：メディア史-そのスナップショット：モダンからポストモダン，そしてその先へ

第3回：メディア研究の方法①：記号論の基礎

第4回：メディア研究の方法②：オーデイエンス研究

第5回：第1回から第4回の振り返り

第6回：メディアと大衆文化：マンガから見る社会

第7回：メディアとジェンダー①：ジェンダー再生産装置としてのメディア

第8回：メディアとジェンダー②：ジェンダーと消費社会のメディアーション

第9回：メディアとセクシュアリティ：BL作品とその批評の再読解

第10回：メディアと人種・エスニシティ：メディアによる再生産と異種混雑性

第11回：第6回から第10回の振り返り

第12回：メディアと権力：テクノロジーと監視のネットワーク

第13回：メディアと新しい連帯：情動・公共圏・民主主義

第14回：メディアと身体：身体の拡張性と「ポストヒューマン」

第15回：まとめ：社会を理解するためのメディア研究

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 10%
第一課題 (小テスト) 10%
第二課題 (中テスト) 30%
期末レポート 50%
※全ての成績評価の合計が0点以下の場合は判定不能「-」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodle等で事前にリーディングや資料が配布された場合、必ず一読して授業に臨むこと (60分程度)。また、講義後は配布資料と自作の講義ノートを用い課題に向けた復習を実施しておくこと (30分程度)。

履修上の注意 /Remarks

社会学的な視点からの講義となるため内容を深く理解する上で、関連する基盤教育科目や専門科目を履修しておくことが望ましい。図書館に設置された「社会学がわかる」コーナーに配架された文献に主体的に目を通しておくことで、講義の理解も深まる。社会的情勢によっては遠隔での講義に切り替えることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

演習や卒業論文でメディアに関連する研究を取り上げたいと考えている場合、専攻の如何を問わず積極的に履修してください。

キーワード /Keywords

観光社会学【昼】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOC205M	◎		○		
科目名	観光社会学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

社会における「モビリティ」の拡大をキー概念とし、今日の観光と人の移動をめぐる様々な事象を横断的にとりあげ、そこから現代社会の成り立ちとその変動を社会的に考察することを目的とする。観光の成り立ちとその展開を社会の中に位置づけ、観光という事象とそれを取り巻く諸々の社会的組織や制度との関わりを分析することから、移動に基礎を置く社会がいかにして構成されつつあるかを検証する。講義では国内外様々な事例を取り上げるとともに、こうした事例を分析するための社会理論や文化理論を多岐にわたり紹介する。

到達目標

- 【知識】メディア社会学に関する基礎的な知識を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】メディア社会学の観点からの論理的な分析をもとに、批判的な論点を立案し、その効果を評価できる力を身につける。

教科書 /Textbooks

必要に応じて適時資料を配付。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適時紹介。
※本講義内容に即したリーディングリストを講義の中で配布予定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- (【 】はキーワード)
- 1回 オリエンテーション：移動する社会【モビリティ】
 - 2回 観光の誕生【近代化】【産業化】
 - 3回 消費社会と観光①：理論編【記号論】【再魔術化】
 - 4回 観光者の誕生【ポスト・ツーリスト】【パフォーマンス】
 - 5回 消費社会と観光②：事例編【テーマパーク】
 - 6回 第1回から第5回の振り返り
 - 7回 社会の観光①：ポピュラー・カルチャーと観光【コンテンツ・ツーリズム】
 - 8回 社会の観光②：負の遺産の観光化【ダークツーリズム】
 - 9回 社会の観光③：歓呼と自己規定【バックパッカー・ツーリズム】
 - 10回 社会の観光④：観光と労働【ワーキングノリデー】
 - 11回 社会の観光⑤：観光と国家【修学旅行】【伝統文化】
 - 12回 第7回から第11回の振り返り
 - 13回 社会の観光⑥：ソフトパワーとしての観光!?【インバウンド・ツーリズム】【セルフオリエンタリズム】
 - 14回 社会の観光⑦：あたらしい時代の観光【COVID-19】
 - 15回 まとめ：モビリティからみる「社会の観光」

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 10%
第一課題(小テスト) 10%
第二課題(中テスト) 30%
期末レポート 50%
※全ての成績評価の合計が0点未満の場合は判定不能「-」とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Moodle等での配付資料には事前に目を通すこと。
レポートに備え、配付資料や講義ノートをもとに講義内容をよく復讐しておくこと。
講義で紹介した関連書籍について図書館等で確認しておくこと。
講義で紹介した事例について関連するオンライン動画などを視聴すること。

履修上の注意 /Remarks

社会現象に対する社会学的な理解を要求するので、同時に開講されている社会学専門科目と併せて履修することが望ましい。
事前資料が配付された場合、必ず目を通してから講義に出席すること。
社会的情勢によっては遠隔での講義に切り替えることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

シラバスに掲載した授業計画は一部変更されることがある。
定期的に観光地に足を運び、自身の観光者としての経験を積み重ねておくことが望ましい。

キーワード /Keywords

フィールドワーク基礎論 【昼】

担当者名 /Instructor 井上 大輔 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT100M	◎			○	
科目名	フィールドワーク基礎論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、さまざまなフィールドワークの報告を紹介しながら、フィールドワークのエッセンスを学びます。フィールドワークとは、他者の生活の場で、他者とふれあい、他者について知り、それを伝えることをです。

インターネットなどのメディアを通じて多くの情報が氾濫し、検索エンジンを使えば、世界中のどんなことでも手のひらの中で調べられる現在の生活の中で、フィールドに出向いて自分の身体で体験する意義は何なのか、そしてその体験を自分の言葉で、あるいは映像で表現する意義は何なのか。フィールドワークの理論と実践、楽しさについて、受講者と一緒に考えていきます。

《到達目標》

知識：フィールドワークに関する基礎的な知識を身につけている。

コミュニケーション力：フィールドワークに関する多くの事例を学び、調査に必要なコミュニケーション能力を身につける。

教科書 /Textbooks

指定なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『フィールドワークの絶望と愉悦 山野や村を歩く』2015 篠原徹○
- 『フィールドワークへの挑戦-“実践”人類学入門』2006 菅原和孝○
- 『調査されるという迷惑-フィールドに出る前に読んでおく本』2008 宮本常一・安溪遊地○
- 『ヤシガラ椀の外へ』2009 ベネディクト・アンダーソン○
- 『驚きの介護民俗学』2012 六車由実○
- 『飯場へ：暮らしと仕事を記録する』2017 渡辺 拓也○
- 『なぜふつうに食べられないのか』2015 磯野真穂○
- DVD『祝の島』2011 額縁あや○

その他講義中に適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：フィールドワークとは
- 第2回 なぜフィールドワークをするのか
- 第3回 どうフィールドワークをするのか
- 第4回 フィールドとてあう
- 第5回 フィールドの中で生活する
- 第6回 さまざまなフィールド：自然
- 第7回 さまざまなフィールド：異文化
- 第8回 さまざまなフィールド：身近な生活
- 第9回 フィールドワークの計画を立てる
- 第10回 他者を知ること-調査・参与観察
- 第11回 他者を知ること-身体活動・技法の習得
- 第12回 他者を知ること-分析・比較
- 第13回 理解したことを伝える：論文
- 第14回 理解したことを伝える：作品
- 第15回 まとめ

フィールドワーク基礎論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中のディスカッションに参加：30%
講義で紹介した「活動」に参加、「書籍」を読む、「ドキュメンタリー映画」を観るといような体験をして講義内容をふまえたレポートを書く：70%
授業の中で課されたレポートの提出がない場合は、評価対象外とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に紹介するイベントに参加することを推奨します。
授業中に紹介する本を読むことを推奨します。
「北方シネマ」で上映されるドキュメンタリー映画を活用します。
生活の中で、ふと興味をもったことについて立ち止まってそれを知ろうとする姿勢を歓迎します。
web掲示板等を活用して議論を進めます。

履修上の注意 /Remarks

授業の時間外でのさまざまな活動への参加を推奨し、それについてのレポートが課題となることがあります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義の中で自分の考えや疑問を発信してください。一方的に講義をするのではなく、みなさんの好奇心に沿いながら授業が進んでいくことを期待しています。

キーワード /Keywords

フィールドワーク 他者理解 共感 ドキュメンタリー映画

人間性の進化 【昼】

担当者名 /Instructor: チョウ ピンピン / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 2年次
単位 /Credits: 2単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ANT201M	◎		○		
科目名	人間性の進化				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業では、ヒトの「人間性」について考えます。
人間性やモラルは、時代や地域、文化や環境によって、さまざまな違いがあります。しかし、ヒトという種を概観すると、共通する「人間性」があることがわかります。それは複雑な社会をつくるために、長い進化の過程を経てヒトだけに備った特別な能力なのかもしれません。こうした「人間性」を明らかにすることは簡単なことではありませんが、たとえばヒトに近い動物の観察をとおして、ヒトにいたる進化の道についてさまざまな新しいアイデアを得ることができます。
授業の前半では、ヒトだけにそなわるユニークな性質である人間性の起源について語ります。後半では、最新の人類学の研究をもとに、そうした人間性から生まれる、情動や芸術を考え、普遍的な人間像を探ります。
(到達目標)
【知識】
人間性とはなにか。人間の本質と進化的背景を理解している。
【思考・判断・表現力】
幅広い社会現象について人間性の観点から考察することができる
指定の教科書はありません。
適宜レジュメの配布や参考文献を紹介します。

教科書 /Textbooks

特にありません。講義で紹介する幅広い本を読んでください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル.S.ガザニカ (著) 2010『人間らしさとはなにか?』インターシフト
- ドナルド・E・ブラウン 2002『ヒューマン・ユニバーサルズ』昭和堂
- ペーテル・ヤーデンフォッシュ 2005『人はいかにして知恵者となったのか』研究社
- 西田利貞 1999『人間性はどこから来たか? : サル学からのアプローチ』京都大学学術出版社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: インタロダクション
- 2: 人間性の起源
- 3: ヒトは他の動物と何が違うのか
- 4: ヒトの生物学的特性
- 5: ヒトの環境への適応
- 6: 社会行動の起源
- 7: 協力と裏切り
- 8: 道徳の起源
- 9: 他人の情動を感じる「心の理論」
- 10: 身体性と普遍性
- 11: 意識とはなにか
- 12: 芸術と美の起源
- 13: 人間文化の豊かさ
- 14: 人間性とは何か
- 15: まとめ

人間性の進化【昼】

専門教育科目
比較文化科目
文化共生領域科目

成績評価の方法 /Assessment Method

中間レポート (50%)
学期末試験 (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回キーワードや疑問を紹介するので、自分なりの答えや新たな疑問を考えておいてください。
興味のある、または関連する項目について、授業の前後で自分なりに調べ、理解を深めてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

疑問を持ちながら、たのしく、一緒に勉強します。

キーワード /Keywords

人間性、道徳、協力行動、芸術、心の理論、普遍性

アジアの中の日本文化 【昼】

担当者名 /Instructor 山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
JPS291M	◎		○	△	
科目名	アジアの中の日本文化				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

本講義では、日本とアジアをとりまくマクロな政治経済動向を踏まえつつ、アジアを舞台に展開される人間のミクロの生活世界に分け入っていく。日本と深く関わる人、もの、情報の、ダイナミックで多様なフローに対して歴史的パースペクティブを踏まえて接近する。具体的には、政府の移民政策の記録には残らないような東南アジアに渡った日本人、アジアにおける日本の食やポップカルチャーなど「日本文化」の流通と消費、技術の越境と文化変容、「和食」やイスラーム圏に逆輸入される「国産」ハラール食品などの「文化の越境」、オリエンタリズムと日本イメージの変遷などについて考究していく。

「アジア」とは何か。日本にとってアジアは自己なのかエキゾチックな他者なのか……。改めて問われると明確な回答が難しい「アジア」への多角的なアプローチを通して、本講義全体としては、アジアを学び、他者との関係を構築する上で不可欠な「自己」への理解も深化させたい。

(到達目標)

- 【知識】アジアでの日本文化の流通・展開を多様な文化領域に留意して総合的かつ体系的に理解している。
- 【思考・判断・表現力】アジアとの歴史的関係性を踏まえて日本社会の諸特徴について複眼的に思考して諸課題を見出し、専門的見地から解決策を探求して発信できる。
- 【コミュニケーション力】アジアにおける日本文化の多様な存在様態への着目によって、自他の文化的諸領域に対する関心を高め、文化的な自他の双方と協働して自他の文化を理解し尊重する姿勢を身に着けている。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、ワークシート、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 アジアとは何か・1：その内的多様性
- 第2回 アジアとは何か・2：誕生の歴史と日本の位置づけ
- 第3回 オリエンタリズムと日本イメージの変遷・1：客体から主体へ
- 第4回 オリエンタリズムと日本イメージの変遷・2：テクノオリエンタリズムから他者の複数化
- 第5回 アジアの中の日本文化・1：納豆と照葉樹林文化圏
- 第6回 アジアの中の日本文化・2：照葉樹林文化圏と生活文化
- 第7回 アジアの中の日本文化・3：「日本文化の起源」論
- 第8回 技術の越境と文化変容・1：自動販売機、イチゴ、銭湯
- 第9回 技術の越境と文化変容・2：物流、ETC、ご当地戦隊ヒーロー
- 第10回 寿司からSushiへ：「和食」の遺産化と消費
- 第11回 イスラーム圏に逆輸入される「メイドインジャパンのハラール食品」
- 第12回 宗教と世界観：環太平洋の『日本神話』
- 第13回 消費される日本文化と世界の工場
- 第14回 二つのオリエンタリズム
- 第15回 新たな関係性に向けて (総括)

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内での学習状況 (小テスト、ワークシート、小レポート含む) 40%、試験 60%
(講義を3分の2以上出席しないと、評価の対象外となります)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回事前に参考資料を指示するので目を通してから出席すること。受講後は、各講義で指示された参考文献などを活用して理解の深化に努め、講義内で出された課題にも積極的に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから実社会で生起する事象に広く関心を持ち、講義で学んだこととリンクさせて理解を深めてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義では頻繁に皆さんに問いかけをして、そのリアクションを基に授業をさらに展開させていきます。
主体的かつ積極的な受講態度で臨んでください。
アジアについて、そして日本について、小さな(再)発見をともにしながら探求したいと思います。

キーワード /Keywords

日本の歴史と社会【昼】

担当者名 /Instructor 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 / 2単位 /Credits 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in "Diploma Policy" (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS210M	◎	○	○		
科目名	日本の歴史と社会				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

「江戸時代」は我々にとって最も「日常的な歴史」になっていますが、それゆえにそこには多くの誤解や先入観がまかり通っています。江戸時代は260年間続きましたが、その間変化がなかったわけではありません。18世紀の中頃の社会の変化によって、その前半と後半では一つの時代とはいえなほ大きく社会と経済が変化をしています。また同じ時代でも武士と町人や農民の庶民では身分が違えば社会や言葉も違ってきます。それはまだ「日本」や「日本人」という近代の概念が成立する以前の社会なのです。ここでは女性の地位や農村の社会を中心に「江戸時代」という時代を検証してみたいと思います。

(到達目標)

【知識】近世史の論点に関する専門的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

【技能】歴史の実証に必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】近世史の論点について、論理的に思考して解決策を探索し、専門的見地から自分の考えやを論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 脇田晴子編『日本女性史3 近世』(吉川弘文館1982年)
- 近世女性史研究会編『論集近世女性史』(吉川弘文館1986年)
- 脇田晴子編『ジェンダーの日本史 下』(東京大学出版会1995年)
- 高木侃『三下り半-江戸時代の離婚と女性たち-』(平凡社1987年)
- 高木侃『三下り半と縁切寺』(講談社〔現代新書〕1992年)
- 網野善彦『無縁・公界・楽』(平凡社1978年)
- 山本英二『慶安の触書は出されたか』(山川出版社〔日本史リブレット〕2002年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

(【 】内はキーワード)

- 1回 ガイダンス
- 2回 【近世】という時代
- 3回 【三行半】を読み直す①江戸時代の女性の地位
- 4回 【三行半】を読み直す②江戸時代の離婚
- 5回 【三行半】を読み直す③離婚理由と再婚許可文言
- 6回 『【女大学】』と『和俗童子訓』①作者と成立時期
- 7回 『【女大学】』と『和俗童子訓』②貝原益軒と女子教育
- 8回 【好色物】と女性の社会進出
- 9回 【縁切寺】の歴史
- 10回 【慶安御触書】を読み直す①荘園制と太閤検地
- 11回 【慶安御触書】を読み直す②幕藩領主財政と幕政・藩政の改革
- 12回 【慶安御触書】を読み直す③榎本宗次説
- 13回 【慶安御触書】を読み直す④「百姓身持書」と丸山雍成説
- 14回 【慶安御触書】を読み直す⑤神崎直美・木崎弘美論争
- 15回 【慶安御触書】を読み直す⑥山本英二説

成績評価の方法 /Assessment Method

授業レポート...50% 筆記試験...50%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にシラバスの授業計画を確認しておくこと。
事後にノートの整理をしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

シラバス・プリント・参考文献をよく読んでおくこと。
第1回の授業で受講上の重要事項の説明と注意を行います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米の社会と文化II 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE222M	◎		○		
科目名	英米の社会と文化 II				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

身近なアメリカ文化の代表であるハリウッド映画を題材として取りあげ、アメリカの社会や文化の特質が、いかなる形でハリウッド映画に投映されているかを考察する。具体的には、編集した映画の重要な場面をビデオで見ながら、映画の全体的構造を背後で支配している、ハリウッド映画特有の方向性について考察する。その過程を通して、映画とアメリカの社会・文化との相互関係に対する理解を深めてもらう。その結果として、アメリカ人の国民性の独自性、アメリカ文化の特質に対する理解も深めてもらえればと考えている。さらに、ハリウッド映画を文化的な文脈の下で分析的に鑑賞する視点を講義を通して体得してもらえたら幸いである。

(到達目標)

【知識】アメリカの社会と文化に関する応用的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】アメリカの社会と文化について専門の見地から自分の考えを表現できる。

教科書 /Textbooks

テキストは用いない。必要に応じてレジュメをプリント形式で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講座・アメリカの文化 (全6巻、別巻2)		南雲堂
総合研究アメリカ (全7巻)		研究社
文明としてのアメリカ (全5巻)		日本経済新聞社
アメリカ古典文庫 (全23巻)		研究社
アメリカンヒーローの系譜	亀井俊介	研究社
荒野のアメリカ	亀井俊介	南雲堂
サーカスが来た	亀井俊介	東京大学出版会
読んで旅する世界の歴史と文化 アメリカ		新潮社
物語 アメリカの歴史	猿谷要	中公新書
エスニックアメリカ	明石紀雄	有斐閣選書
新書アメリカ合衆国史 大陸国家の夢		講談社現代新書
アメリカの20世(上・下)	有賀夏紀	中公新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方、参考文献の説明
- 2回 『フォレスト・ガンブ』、『デイトライト』とアメリカ人にとってのキリスト教
- 3回 『タイタニック』とアメリカ人にとってのキリスト教
- 4回 『トイ・ストーリー』とアメリカ人にとってのキリスト教
- 5回 『モンスターズ・インク』とアメリカの多様性
- 6回 『猿の惑星(2014)』とアメリカの多様性
- 7回 『ロード・オブ・ザ・リング』とアメリカの多様性
- 8回 『ホビット』とアメリカのほら話
- 9回 『スター・ウォーズ』とアメリカのほら話
- 10回 『プラダを着た悪魔』とアメリカ人の個人観
- 11回 『アルマゲドン』とアメリカ人の個人観
- 12回 『マトリックス』とアメリカ人の機械観
- 13回 『ターミネーター2』とアメリカ人の機械観
- 14回 『チャーリーとチョコレート工場』とアメリカ人の機械観
- 15回 全体の総括、補足説明

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験...100% 持ち込みは一切不可とする。
定期試験を受験しなかった場合は、－(評価不能)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前：講義で取り上げる映画とテーマは事前に知らせますので、各自で映画を事前に鑑賞しておいて下さい。講義で取り上げる映画の大半は、図書館にソフトがあります。
授業後：講義ノートと配布プリントを再度読み直し、可能な限り講義のテーマと関連した書物を閲覧し、テーマに関する知識の更なる充実を図って下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語学概論 【昼】

専門教育科目
比較文化科目
文化共生領域科目

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN101M	◎		○		△
科目名	英語学概論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
 知識: 英語学に関する基礎的な知識を身につけている。
 思考・判断・表現力: 英語学の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。
 自律的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This course gives an overview of many different areas of linguistics including:

- ・Phonology
- ・Morphology
- ・Syntax
- ・Pragmatics
- ・Semantics
- ・Sociolinguistics
- ・First and second language acquisition
- ・Animal communication

It is meant to give students a taste of the many different areas of study that are contained within the umbrella term "linguistics".

You should be able to give a sound answer to the questions given in the following areas after taking this course:

- ・Phonetics: What is the phonetic alphabet? What is a voiced sound?
- ・Morphology: What kinds of parts can we divide words into?
- ・Syntax: How is meaning shown by the structure of sentences?
- ・Pragmatics: How do people mean more than what they say?
- ・Semantics: How do we know what words mean?
- ・Sociolinguistics: How do word choices relate to peoples' different social groups or situations?
- ・First and second language acquisition: How do human beings learn a first language and is that different from how they learn a second language?
- ・Animal communication: How does animal communication differ from human language? Can any animals 'speak' to us?

教科書 /Textbooks

There is no textbook for this class because I have not been able to find anything appropriate. Therefore, you will have to rely heavily on your notes for this class, making it even more important to come to class and to understand what we are doing. I will have readings available which may help you to understand better what I am saying in class, but the things covered in class may not always be exactly the same as the readings. Take a look at them and see if they are helpful for you for understanding each chapter.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ Fromkin, V. & Rodman, R. An Introduction to Language.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: Reading IPA
Week 3: Phonetics
Week 4: Morphology (words)
Week 5: Prefixes and Suffixes
Week 6: Sentences
Week 7: Syntax and Ambiguity
Week 8: Midterm Review
Week 9: Midterm Exam
Week 10: First Language acquisition
Week 11: Second Language acquisition
Week 12: Sociolinguistics
Week 13: Pragmatics
Week 14: Animal Communication
Week 15: Review for final exam

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly Quizzes: 30%
Homework: 20%
Midterm exam: 25%
Final exam: 25%

- ・ 授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
- ・ Midterm + Final 試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework will be given out and answers may be checked online. Doing homework will prepare students for weekly quizzes on the material.

履修上の注意 /Remarks

This class moves fast. Be prepared to work hard to keep up with the large amount of information that we cover.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

My hope for this class is that you learn a little bit about a number of areas of linguistics in order to correct some mistaken ideas you may have about language. Also, if you are interested in any of the areas we cover, we offer further in-depth classes in these areas so this class is like tasting a little bit of linguistics and seeing which things appeal to you the most!

キーワード /Keywords

linguistics, foundation

英語史 【昼】

担当者名 /Instructor: ホロウェイ グレゴリー キース / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year: 3年次
単位 /Credits: 2単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN335M	◎		○		△
科目名	英語史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
英語史に関する基礎的な知識を身につけている。
英語史の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。
スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

This class focuses on the history of English from the earliest times that we have writings about the language until the present day.

It is an introduction to the topic of language change in general, but this topic is illustrated through the examination of specific changes in the English language from Old English to Middle English to contemporary English.

In addition, we will discuss various other varieties of English spoken around the world, language change, and language death. Through this course you will understand how languages may change across time, geography, and culture.

このクラスは、英語の初期の時代から現代の英語への歴史に焦点を当てています。一般的な言語変化の話題を紹介しますが、このクラスでは特に古英語から中級英語、現代英語への英語の具体的な変化を説明します。このコースをとおして言語が時間、地理、文化にどのように変化するかを理解します。

教科書 /Textbooks

Schmitt, Norbert & Marsden, Richard. (2006). "Why is English like that?". Michigan Teacher Training.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 永野芳郎 『英語学要説』英宝社。
- Crystal, David and 西出, 公之. (2000). A History of the English Language [英語の歴史]. 単行本.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction: The World of Old English
 Week 2: Introduction: The World of Old English & IPA Consonants in English
 Week 3: Sound change: Major differences from Old to Early Modern
 Week 4: English Grammar: What is grammar?/Morphological change
 Week 5: Sources of new vocabulary in Old and Middle English
 Week 6: Morphological Change
 Week 7: Syntactic Change
 Week 8: Mid-term exam
 Week 9: The Sounds of Modern English
 Week 10: How language change occurs
 Week 11: Writing and written records
 Week 12: Dialects of English (Many Englishes)
 Week 13: Language contact (Spanglish)
 Week 14: Dialects of English around the World
 Week 15: English in the Future

1週目：はじめに：古英語の世界
 2週目：はじめに：古英語の世界と英語のIPA子音
 3週目：音の変化：古代から近世への大きな相違
 4週目：英文法：文法とは/形態変化
 5週目：古英語・中英語と新しい語彙の根源
 6週目：形態変化
 7週目：構文変化
 8週目：中間試験
 9週目：現代英語の音
 10週目：言語の変化がどのように生じるか
 11週目：書体と記録
 12週目：英語の方言（様々な英語）
 13週目：言語接触（スبانグリッシュ）
 14週目：世界中の英語の方言
 15週目：将来の英語

成績評価の方法 /Assessment Method

Homework 50%; Midterm exam 25%; Final exam 25%

5回以上欠席した場合は、評価不能（－）とします。
 If you are absent more than five times, you will receive a failing grade (－).

試験を受験しない場合は、評価不能（－）とします。
 Failure to take an exam will result in a failing grade (－).

盗用したり、学業不正に従事したりする学生は、深刻な結果に直面します。制裁には、課題の失敗、成績の低下、またはコースの失敗が含まれますが、これらに限定されません。
 Students who plagiarize or otherwise engage in academic dishonesty face serious consequences. Sanctions may include, but are not limited to, failure on an assignment, grade reduction or course failure.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students should read the upcoming chapter of the text each week. Following each lesson students should complete the homework, which will help prepare them for the short quiz we will take every week in class. I

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Linguistics, English language, history of English, historical linguistics, Old English, Modern English

英文法I【昼】

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN231M	◎		○		△
科目名	英文法 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

この授業では、主に動詞、tenseとaspect、不定詞・動名詞・分詞などの性質や使い方を学習していきます。いわゆる「受験文法」とは異なり、テキストの内容を題材に、「なぜそうなるのか?」「実際にどう使いこなせばいいのか?」などを実践的に考えていきます。また、教員を目指す人や教える仕事に関わっている人のために、実際に授業の場でも使えるような具体例も交えて説明していきます。なお、授業内容や授業ペースは、学習者の関心や学力・授業形態により、適宜変更する可能性があります。

英文法I◎△ 英文法に関する基礎的な知識を身につけている。英文法の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

『英文法のエッセンス』（江藤裕之著）、大修館書店 2015年 1,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』（豊永 彰著）、南雲堂 2009年 1,400円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概説、1. 動詞の基本時制 現在が表すもの
- 2回 過去、未来を表す様々な表現
- 3回 現在完了(1) 現在完了の基本概念、tenseとaspect
- 4回 現在完了(2) 現在完了と過去の違い
- 5回 過去完了、未来完了
- 6回 進行形(1) 進行の基本概念、現在進行
- 7回 進行形(2) 過去進行、未来進行、完了進行
- 8回 助動詞(1) それぞれの助動詞が持つ本質的意味
- 9回 助動詞(2) それぞれの助動詞の使い方
- 10回 仮定法(1) 仮定法の基本概念
- 11回 仮定法(2) 仮定法の使い方、不定詞(1)
- 12回 不定詞(2)、動名詞 不定詞と動名詞の使い分け
- 13回 分詞(1) 分詞の働き
- 14回 分詞(2) 分詞構文、不定詞・動名詞・分詞の共通項目
- 15回 今学期の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...20% 定期試験...80% (ただし、授業形態により変更する可能性あり)
なお、無届けでの欠席が5回以上になった場合や定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された次回の学習予定箇所を必ず読んでおくこと。また復習としてはテキストやノートを読み返しておくこと。(必要な学習時間の目安は予習60分以上、復習60分以上)

履修上の注意 /Remarks

授業時に辞書（紙または電子）を持ってくること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

動詞句、tenseとaspect

英文法Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 廣田 恵美 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN232M	◎		○		△
科目名	英文法Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

1学期の「英文法Ⅰ」と同じテキストの後半の内容を学習します。この授業では、名詞・冠詞・形容詞・副詞・接続詞・関係詞など、特に英語を書く際に知っておきたい文法項目に重点を置きます。授業の進め方は1学期と同様、内容を説明しながら、皆さんと一緒に各項目について考えていく形式です。また今期からの受講もどうぞ。なお、受講者の関心や授業形態により、適宜、授業内容や授業ペースを変更する可能性があります。

英文法Ⅱ ◎○△ 英文法に関する基礎的な知識を身につけている。英文法の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

『英文法のエッセンス』（江藤裕之著）大修館書店 2015年 1,400円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『英文法ビフォー&アフター』（豊永 彰著）南雲堂 2009年 1,400円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の概説、名詞の種類
- 2回 数えられる名詞・数えられない名詞
- 3回 不定冠詞、定冠詞(1) theの基本概念
- 4回 定冠詞(2) theの具体的用法、zero article
- 5回 形容詞(1) 形容詞の用法、形容詞の並べ順
- 6回 形容詞(2) 形容詞の並べ順の続き、副詞(1)副詞とは
- 7回 副詞(2)副詞の位置、比較(1)比較表現
- 8回 比較(2)比較の用法
- 9回 接続詞 接続詞の性質
- 10回 関係詞(1) 関係詞の注意すべき用法
- 11回 関係詞(2) 前置詞+関係詞、関係副詞の性質
- 12回 関係詞(3) 関係副詞の使い方
- 13回 前置詞(1) 前置詞のcore meaning
- 14回 前置詞(2) 前置詞の用法
- 15回 今学期の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み...20% 定期試験...80% 但し、授業形態によって変更する可能性があります。
なお、無届けの欠席が5回以上となった場合や定期試験を受験しなかった場合は評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回学習予定個所の項目を必ず読んでおくこと。復習としては、テキストとノートを読み返すこと。(必要な学習時間の目安は予習60分以上、復習60分以上)

履修上の注意 /Remarks

授業時に必ず辞書(紙または電子)を持ってくること。スマートフォンの辞書アプリの使用は認められません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

名詞句、"使える英文法"

英語音声学 【昼】

専門教育科目
比較文化科目
文化共生領域科目

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 講義 /Class クラス 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN211M	◎		○		△
科目名	英語音声学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
 知識: 音声学・音韻論に関する基礎的な知識を身につけている。
 思考・判断・表現力: 音声学・音韻論の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。
 自立的行動力: スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。
 The purpose of this course is to introduce you to the analysis of physical sounds, a study called Phonetics. Japanese students can benefit from understanding how the sounds of English are related to the spelling of English, which in turn can help them better pronounce English words (although probably not become better spellers!). Since neither English nor Japanese has letters adequate to precisely convey the sounds of English, we will learn a different alphabet called the International Phonetic Alphabet, which can actually describe the sounds of any language in the world. In addition, in every language, speakers think they are saying sounds that they actually are not, so that their psychological view of the sounds of language differs from the physical sounds of language. We will learn to categorize sounds so as to better understand the patterns of this psychological organization of sounds, which is called phonology.
 The goals of this course are:
 1) To help you understand how English spelling and sounds are related
 2) To help you better pronounce English
 3) To describe sounds (phones) with a formal system (called the International Phonetic Alphabet)
 4) Identify the phones (sounds) of English
 5) Learn what a phoneme is and how they differ from phones

教科書 /Textbooks

Avery, Peter & Ehrlich, Susan. (1992). Teaching American English Pronunciation. Oxford Handbooks for Language Teachers.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- Roach, P. English phonetics and phonology: A practical course (2nd edition).
- Wells, J. C. Sounds fascinating: Further observations on English phonetics and phonology.
- Carr, P. 英語音声学・音韻論入門

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: Spelling and pronunciation
Week 3: Vowels
Week 4: Short vs. long vowels
Week 5: Voicing, manner and place of articulation for consonants
Week 6: Identifying consonants by categories
Week 7: Place of articulation for vowels
Week 8: Review for midterm exam
Week 9: Midterm
Week 10: The shape of English words
Week 11: English sounds in context
Week 12: Word stress and vowel reduction
Week 13: English syllabus structure
Week 14: Problems of pronunciation for Japanese speakers of English
Week 15: Review for final

成績評価の方法 /Assessment Method

Weekly Quizzes: 35%
Homework: 20%
Midterm Test: 20%
Final Exam: 25%

- ・ 授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
- ・ Midterm + Final 試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Weekly homework will be given out and answers may be checked online. Doing homework will prepare students for weekly quizzes on the material.

履修上の注意 /Remarks

This class moves fast. Be prepared to work hard to keep up with the large amount of information that we cover.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

linguistics, phonetics, spelling

英米の社会と文化I【昼】

担当者名 /Instructor 高山 智樹 / TAKAYAMA TOMOKI / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 /Class クラス

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE232M	◎		○		
科目名	英米の社会と文化 I				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、イギリスの「社会」と「文化」についての理解を深めるとともに、「社会」と「文化」との関係についても検討します。「文化」というのは、基本的には「社会」の一部であり、「社会」の中で一定の役割を果たしていますが、そのはたは見え見えでなかなかつかみづらいものです。そこで本講義では、「社会」と「文化」との関係が比較の見えやすいイギリスを材料にして、「文化」というものが、「社会」の他の部分とどのようにかかわってきたのか、そしてその結果として、現代においてはいかなる状態にあるのかを考えていきたいと思ひます。

その際、キーワードとなるのは「移動」です。しばしば「文化」も「社会」も固定的なものとして受け止められがちですが、実際には、人々が「移動」することによって、「文化」も「社会」も作られてきました。そこで本講義では、イギリス人がこれまでどのような移動をしながら暮らしを作り上げてきたのか、それぞれの場所で何を見て何を考えたのか、またそうした自分たちをどのように捉えてきたのか...といったことに着目しながら、様々な時代に生きるイギリス人、様々な「日常」に光をあて、そこに潜んでいる様々な「文化」現象を取り出していきます。

[到達目標]

- ・ 知識：イギリスの社会と文化に関する幅広い知識を身につけている。
- ・ 思考・判断・表現力：文化という観点から社会を総合的に把握することを通じて、これからの社会に対する新たなヴィジョンを描き出す力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特になし（毎回、レジュメを配布します）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『イギリス帝国の歴史』（秋田茂）中公新書
- 『近代文化史入門』（高山宏）講談社現代文庫
- 『イギリス文化史』（井野瀬久美恵 編）昭和堂

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回 イントロダクション～民族の移動と「イギリス」の誕生
- 第二回 「連合王国」の形成とナショナリズム
- 第三回 近代都市と「移動の自由」
- 第四回 航海するイギリス人
- 第五回 移動する言葉
- 第六回 帝国を移動する「モノ」たち
- 第七回 「風景」の中を歩く
- 第八回 娯楽としての「移動」
- 第九回 探検と征服
- 第十回 室内から眺める風景
- 第十一回 都市という迷宮
- 第十二回 戦場を生き抜く
- 第十三回 「移民」とイギリス
- 第十四回 グローバリゼーションの中の移動
- 第十五回 彼我的世界を移動する

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験100%。ただし、授業態度などの平常点により多少の増減あり。
※試験を受けなかった場合、成績評価は「－(バー)」となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習用・復習用のテキストを配布することがありますので、配布された際には指示に従ってテキストを自己学習の時間で読むようにしてください。また授業で配布するプリントも、当該授業の復習として、また次回授業の予習として何度も読み返してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義名に「歴史」は入っていませんが、どんな社会現象・文化現象を語るにも、その歴史を外すことはできませんので、歴史の話にも時間は割きます。ただし、歴史(世界史)は苦手、という人にもぜひ受講してほしいと思っています。

キーワード /Keywords

移民、階級意識、多文化主義、帝国主義、消費社会

英米文化史Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE225M	◎		○		
科目名	英米文化史Ⅱ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

21世紀に入り20年余りが経過した現在でも、アメリカ社会は相変わらず、人種や民族の問題を抱えている。人種や民族をめぐる問題は、アメリカ合衆国の原則ともいえる民主主義を揺るがしかねない深刻な一面をはらんでいる一方で、アメリカのダイナミズムの源にもなりうる。本講義では主に、アフリカ系アメリカ人、日系人の歴史的背景に関する知識を修得したうえで、今日のアメリカ社会における人種や民族をめぐる問題を考え、的確に表現する力を養成する。

(到達目標)

【知識】アメリカの歴史に関する専門的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断力・表現力】アメリカ社会について論理的に思考し、自分の意見を的確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

開講時及び授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争以前の状況
- 第3回 アフリカ系アメリカ人の歴史：南北戦争後の南部社会
- 第4回 アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の確立と黒人の抵抗運動
- 第5回 アフリカ系アメリカ人の歴史：「分離すれども平等」の原則の否定
- 第6回 アフリカ系アメリカ人の歴史：公民権運動の進展
- 第7回 アフリカ系アメリカ人の歴史：アフリカ系アメリカ人を取り巻く今日の状況
- 第8回 小括
- 第9回 日系アメリカ人の歴史：前世紀転換期における移住の開始
- 第10回 日系アメリカ人の歴史：20世紀初頭の日本人移民制限の動き
- 第11回 日系アメリカ人の歴史：太平洋戦争の勃発と強制立ち退き
- 第12回 日系アメリカ人の歴史：第二次世界大戦における日系人部隊
- 第13回 日系アメリカ人の歴史：戦後の補償問題
- 第14回 ヒスパニック系アメリカ人の歴史：ブラセロ計画と1965年移民法
- 第15回 まとめ：人種・民族をとりまく今日的状況

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、学期末試験(80%)に授業後のFormsを使った簡単な質問への回答(20%)を加味して評価を行う。学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に授業中に紹介された参考文献を積極的に読み、事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。また、授業に関連するものを中心にニュースに目を通す。

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英米文化史Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE130M	◎	○			
科目名	英米文化史Ⅰ				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

イギリスを中心に、旧植民地を含む英語圏の文化を幅広く検討する。異文化に接近するための方法論と基礎知識を身につける。

【到達目標】

(知識) 英米文化(主にイギリス)に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に理解している。

(技能) 英米文化(主にイギリス)を知るために必要な情報を収集、分析できる。

教科書 /Textbooks

指定しない。各回でレジュメ等を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション【イギリス文化】
 - 第2回 英米文化への接近方法【異文化理解】【コミュニケーション】
 - 第3回 イギリスには建国記念日がない【アングロ・サクソン】【ノルマン征服】
 - 第4回 イギリスの国王は(意外と)権力が強い【立憲君主制】【マグナ・カルタ】
 - 第5回 20世紀まで英語は国際言語ではなかった【英語】【百年戦争】
 - 第6回 イギリス国旗には緑がない【国旗】【ウェールズ】
 - 第7回 スコットランド人は「秘密の多い世界」を好むといわれる【帝国】【スコットランド】
 - 第8回 イギリス国歌には歌われない歌詞がある【国歌】【名誉革命体制】
 - 第9回 イギリスでは厳格な政教分離がなされていない【政教分離】【国教会】
 - 第10回 アイルランドはイギリスが作った(1)【アイルランド】【カソリック】
 - 第11回 アイルランドはイギリスが作った(2)【アイルランド】【北アイルランド問題】
 - 第12回 ホワイトハウスが白なのはイギリスのせいでもある【アメリカ独立】【自由】
 - 第13回 イギリスの覇権は奴隷貿易がもたらした【奴隷貿易】【産業革命】
 - 第14回 イギリスにもねじれ国会があった【貴族】【民主主義】
 - 第15回 まとめ【イギリス文化】
- オンライン授業の場合、対面での期末試験は実施しない。

成績評価の方法 /Assessment Method

対面授業の場合 = 期末試験(小テスト含む): 100%

オンライン授業の場合 = 各回の課題(小テスト含む): 100%(対面での期末試験は実施しない)

試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業で指示されたことを、授業の事前・事後に学習・準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環大西洋の社会史【昼】

担当者名 /Instructor 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
HIS230M	◎		○		
科目名	環大西洋の社会史				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

21世に入って20年余りが経とうとしている現在、世界各地で民衆による大規模な抗議行動が頻発している。その行動は、ある地域では「革命」であり、ほかの地域では「異議申し立て」ととどまるが、いずれも権力や権威に対する抗議であることにおいては共通する。こうした抗議行動の原因や意義を考えるうえでひとつの手掛かりとして、本講義では、環大西洋世界で生じた歴史的な「革命」を取り上げ、近代の欧米を中心とした政治的な流れを、経済・社会・文化と絡めて考察する。授業を通して、主にイギリス・アメリカ・フランスの歴史に関する知識を修得し、17世紀から18世紀の欧米に生じた問題や変化の原因を考え、それを的確に表現する力を養成する。

(到達目標)

【知識】英米仏の歴史に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】英米仏の社会について論理的に思考し、自分の意見を的確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに：授業の狙い・テーマについてのガイダンス
- 2回 イギリス革命：ピューリタン革命以前のイギリス社会【コモン・ロー、マグナ・カルタ】
- 3回 イギリス革命：ピューリタン革命(1)【イギリス宗教改革】
- 4回 イギリス革命：ピューリタン革命(2)【ピューリタニズム、共和国】
- 5回 イギリス革命：王政復古体制と名誉革命【立憲君主制】
- 6回 小括【トマス・ホッブズ、ジョン・ロック】
- 7回 アメリカ革命：反英抗争(1)【ビルグリム・ファーザーズ、メイフラワー誓約、ジョン・ウィンスロップ】
- 8回 アメリカ革命：反英抗争(2)【ニューイングランド植民地、中部植民地、南部植民地】
- 9回 アメリカ革命：独立革命(1)【7年戦争、印紙法、ボストン大虐殺、ボストン茶会事件】
- 10回 アメリカ革命：独立革命(2)【コモン・センス、独立宣言】
- 11回 小括【ジョン・ロック】
- 12回 フランス革命：アンシャン・レジーム【社団、公衆、イマヌエル・カント】
- 13回 フランス革命：1789～1792年【絶対王制、立憲君主制、共和制】
- 14回 フランス革命：1793～1814年【革命の急進化、第一帝政、ジャン＝ジャック・ルソー】
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

原則として、学期末試験(80%)と授業後のFormsを使った簡単な質問への回答(20%)により評価を行う。学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に授業中に紹介された参考文献を積極的に読み、事後はノートや配布資料を見ながら各自で復習する。また、授業に関連するものを中心にニュースに目を通す。

履修上の注意 /Remarks

授業中に紹介する参考文献等を積極的に読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ文化共生論【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE243M	◎		○		
科目名	ヨーロッパ文化共生論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ことなる出自を有する人々が行き交った、文化民族の十字路口としてのイベリア半島スペインの社会とその文化について、一般的な視座を獲得することを目標とします。ときに共生を模索し、ときに失敗したそのいとなみを、スペインが内包する「複数性」をひとつのキーワードとして歴史的に概観します。

(到達目標)

【知識】スペイン語圏の文化共生に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】スペイン語圏の文化共生にかかるトピックについて、総合的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 関哲行・立石博高・中塚次郎編、『スペイン史』山川出版社、2008。(2巻本)
- 清水憲男『ドン・キホーテの世紀』岩波書店、2010。
- セルバンテス『ドン・キホーテ』岩波文庫
- カダルソ『モロッコ人の手紙 / 鬱夜』現代企画室、2017。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 スペインの言語(映画『スパニッシュ・アパートメント』を参考に)
- 第2回 地理と風土(イベリア半島、北と南)
- 第3回 古代史、イスラムスペイン、レコンキスタ、『エル・シド』
- 第4回 1492、レコンキスタ終焉の年、アメリカ大陸との遭遇
- 第5回 スペインによる新大陸侵略を考える(映画『ミッション』を参考に)
- 第6回 映画『ミッション』、ディスカッション
- 第7回 エル・グレコ、ベラスケス、スペインの美術館をめぐる
- 第8回 セルバンテス『ドン・キホーテ』を読んでみる
- 第9回 王朝の交替(ハプスブルグからブルボンへ)、近代化、スペイン独立戦争
- 第10回 スペイン音楽をめぐる
- 第11回 ガウディの建築をめぐる
- 第12回 内戦、フランコ独裁
- 第13回 フランコ独裁を考える(映画『サルバドール』を参考に)
- 第14回 映画『サルバドールの朝』、ディスカッション
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み30% レポート課題70%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、取り扱われる時代について参考書の該当部分に目を通しておくこと。授業後には、講義内容をレジュメを見直して復習すること。

履修上の注意 /Remarks

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

普段からスペインやスペイン語圏の国々についての情報やニュースに注意を払ってください。スペインを知るためのさまざまなヒントがそこに含まれているかもしれません。

キーワード /Keywords

スペイン 歴史 文化 共生

ヨーロッパ文化共生論【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE243M	◎		○		
科目名	ヨーロッパ文化共生論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ことなる出自を有する人々が行き交った、文化民族の十字路口としてのイベリア半島スペインの社会とその文化について、一般的な視座を獲得することを目標とします。ときに共生を模索し、ときに失敗したそのいとなみを、スペインが内包する「複数性」をひとつのキーワードとして歴史的に概観します。

(到達目標)

【知識】スペイン語圏の文化共生に関する基礎的な知識を体系的に身につけている。

【思考・判断・表現力】スペイン語圏の文化共生にかかるトピックについて、総合的に思考して解決策を探求し、自分の考えを論理的に表現することができる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 関哲行・立石博高・中塚次郎編、『スペイン史』山川出版社、2008。(2巻本)
- 清水憲男『ドン・キホーテの世紀』岩波書店、2010。
- セルバンテス『ドン・キホーテ』岩波文庫
- カダルソ『モロッコ人の手紙 / 鬱夜』現代企画室、2017。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 スペインの言語(映画『スパニッシュ・アパートメント』を参考に)
- 第2回 地理と風土(イベリア半島、北と南)
- 第3回 古代史、イスラムスペイン、レコンキスタ、『エル・シド』
- 第4回 1492、レコンキスタ終焉の年、アメリカ大陸との遭遇
- 第5回 スペインによる新大陸侵略を考える(映画『ミッション』を参考に)
- 第6回 映画『ミッション』、ディスカッション
- 第7回 エル・グレコ、ベラスケス、スペインの美術館をめぐる
- 第8回 セルバンテス『ドン・キホーテ』を読んでみる
- 第9回 王朝の交替(ハプスブルグからブルボンへ)、近代化、スペイン独立戦争
- 第10回 スペイン音楽をめぐる
- 第11回 ガウディの建築をめぐる
- 第12回 内戦、フランコ独裁
- 第13回 フランコ独裁を考える(映画『サルバドール』を参考に)
- 第14回 映画『サルバドールの朝』、ディスカッション
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み30% レポート課題70%
5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、取り扱われる時代について参考書の該当部分に目を通しておくこと。授業後には、講義内容をレジュメを見直して復習すること。

履修上の注意 /Remarks

いかなる理由であっても、遅刻、欠席が五回に及んだ場合は評価の対象としない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

普段からスペインやスペイン語圏の国々についての情報やニュースに注意を払ってください。スペインを知るためのさまざまなヒントがそこに含まれているかもしれません。

キーワード /Keywords

スペイン 歴史 文化 共生

社会言語学【昼】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN212M	◎		○		△
科目名	社会言語学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義は社会言語学の基礎知識を学び、日常における様々な言語現象を観察し理解する力を身につけることが目的です。ことばは様々な要因によって影響を受け、変化やバリエーションが生じます。どのような要因がどのような影響を与えるのか、また私たちはことばをどのように駆使しているのかを、社会言語学の視点から考えます。ことばと社会との関係、そこに生じる諸問題を理解することがこの授業の狙いです。

(到達目標)

【知識】社会言語学に関する基礎的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】社会言語学の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。

【自立的行動力】スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回社会言語学とは
- 2 回英語の地域変種
- 3 回標準英語と非標準英語
- 4 回ことばと社会階級
- 5 回ことばと性(1) コミュニケーションとジェンダー
- 6 回ことばと性(2) バリエーションとジェンダー
- 7 回ことばと年齢
- 8 回ことばと人種・民族
- 9 回ことばとソーシャルネットワーク
- 10 回ことばとスタイル
- 11 回ことばの変化
- 12 回方言接触(1) 第二方言習得
- 13 回方言接触(2) コイネ化
- 14 回言語接触
- 15 回小テスト

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の課題...70% ; 小テスト...20% ; 平常の学習状況...10%

欠席・遅刻はマイナス評価とし、欠席が授業回数数の3分の1を超えた場合は評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業後に講義内容を復習し、関連する言語現象を観察してください。

履修上の注意 /Remarks

出席・参加を重視します。単位取得には3分の2以上の出席が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アジアの社会と文化 【昼】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE210M	◎	○	○		
科目名	アジアの社会と文化				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

中国に関する基本知識を勉強し、中国の社会、文化、歴史、文学などを知る。
受講者は一回演習を担当するチャンスがある。

(到達目標)

【知識】中国の社会と文化に関する基本知識を体系的かつ総合的に理解している。

【技能】中国の社会と文化に関する必要な情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】中国に関する基本問題を総合的に思考して解決策を探索し、自分の考えを明確に表現することができる。

教科書 /Textbooks

授業ごとにプリントを配る。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『図解雑学・中国』（ナツメ社）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第一回：中国の社会
- 第二回：中国の人と自然
- 第三回：中国の国家体制
- 第四回：中国の政治
- 第五回：中国の地方
- 第六回：中国の文化と暮らし
- 第七回：中国経済の歴史
- 第八回：中国経済のゆくえ
- 第九回：中国歴史—古代篇
- 第十回：中国歴史—現代篇
- 第十一回：中国文学入門
- 第十二回：中国文学と日本
- 第十三回：世界の中の中国
- 第十四回：日中関係
- 第十五回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業に臨む態度（20%）+課題演習（30%）+レポート（50%）
5回以上欠席、あるいは課題演習を担当する日に欠席した場合は、評価不能（-）とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

よく予習すること。
与えられたキーワードを暗記すること。

アジアの社会と文化 【昼】

専門教育科目
比較文化科目
文化共生領域科目

履修上の注意 /Remarks

課題演習はプレゼンで行うこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

中国に関する新聞記事を留意すること。

キーワード /Keywords

中国特色、社会主義、

アジアの歴史と社会 【昼】

担当者名 山口 裕子 / YAMAGUCHI Hiroko / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ARE212M	◎	△	○		
科目名	アジアの歴史と社会				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

本講義ではアジアの中でも東南アジアを対象に、1.多民族多言語多宗教社会の現状とそこにいたる経緯、2. 日本との関わりを歴史的に考究する。
主に取り上げるのは、1. 近代国民国家が成立する以前の東南アジアの「伝統的国家」の特徴と、それによる現代の「国民国家」の相対化。2. ナショナリズムと国境成立の歴史、および日本を含む植民地主義のかかわり、3.現在の途上国の首都の構造と象徴性、4.現代日本に流通する身近な「もの」の来歴と社会関係史。5. 多民族、多言語、多宗教社会の動態と国民統合における「文化」の役割、6.これと同時に進行する、国家の枠をこえた人、もの、情報の流通などである。
さらにヨーロッパ覇権以前のアジアを中心とするもう一つの「グローバルゼーション」や、西洋近代において体系化された知の枠組みの中で、「アジア」なる概念ないし範疇が形成される歴史的経緯を学ぶ。
講義では随所で「日本 - アジア」の関係を省みる。全体を通して、これまで学んできた「世界史」や、アジアとの関係ないしアジアにおける日本の位置づけ、現代日本社会に暮らす限り相対的に意識に上る必然性に乏しい「国境」「民族」「宗教」などの諸事象を再考し、相対化する視座を養っていきたい。

(到達目標)

【知識】現代日本社会を生きる上で必要な教養としての、アジアの歴史・社会についての基盤となる知識を体系的かつ総合的に理解している。

【技能】アジアに立脚しそれとの関りを問いながら、世界と日本の歴史と社会を理解するための情報を収集、分析することができる。

【思考・判断・表現力】現代アジア社会の諸課題を日本との関りに留意しつつ考察・発見し、歴史を踏まえた研究方法によって論理的に思考して解決策を探索し、自分の意見を論理的かつ説得的に表現できる。

教科書 /Textbooks

各回でレジュメ、ワークシート、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜指示する。

アジアの歴史と社会 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション：アジアを学ぶその前に
- 第2回 もう一つの世界史・1：アジアの基層文化と伝統的国家
- 第3回 もう一つの世界史・2：商業の時代～アジアの植民地化と日本
- 第4回 もう一つの世界史・3：東南アジアのナショナリズム
- 第5回 日本の戦後賠償からODAへ：もう一人の「デヴィ夫人」
- 第6回 歴史のはざまを生きる人々：日蘭混血児から見る終わらない戦争
- 第7回 首都にみる東南アジアの歴史・1：独立から国家のモニュメントへ
- 第8回 首都に見る東南アジアの歴史・2：格差と環境の課題
- 第9回 身近な「もの」の流通と東南アジア・1：コーヒーの社会史
- 第10回 身近な「もの」の流通と東南アジア・2：染色の社会史
- 第11回 多民族国家の国民統合と文化・言語・宗教・1：東南アジア大陸部
- 第12回 多民族国家の国民統合と文化・言語・宗教・2：東南アジア島嶼部
- 第13回 せめぎあう中央と地方：文化的多様性をめぐる政治
- 第14回 アジアの民主化と「地域おこし」
- 第15回 日本 - アジア関係の一側面：国際的連携と「アジアのアイデンティティ」

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内の学習状況(ワークシート、小レポート含む)40%、試験 60%
(講義の3分の2以上の出席がないと、評価の対象になりません)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講前にはそれ以前の講義内容をよく復習し、課題を事前に取り組んでおくこと。
受講後は、各講義で指示された参考文献を活用して理解の深化に努め、
講義内で出された課題にも積極的に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

日ごろから実社会で生起する事象に広く関心をもち、講義で学んだことと相互参照させてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義では頻繁に皆さんに問いかけをし、そのリアクションに基づいて授業をさらに展開させていきます。
教員対学生の対話にとどまらず、他のクラスメートの意見にも耳を傾け学ぼう、主体的に臨んでください。
アジア、日本、そして世界について小さな(再)発見を重ねながら、理解を深めていきましょう。

キーワード /Keywords

第二言語習得論【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 講義 /Lecture クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN251M	◎			△	△
科目名	第二言語習得論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

第二言語 / 外国語の習得に関しては、とかく俗説や思い込みが多い。非専門家であっても、高い第二言語 / 外国語能力を身に付けた人の主張に説得力を感じてしまうが、やり方を真似したところで、必ずしも期待通りの成果を上げられないという経験を持つ人が少なくない。本授業では、第二言語習得研究の知見を利用して、外国語の教育や学習を批判的に考察する。担当者の専門は、英語教育ではなく、日本語教育ではあるが、多くの受講者と同様に英語学習の経験を持つので、本授業では、主に英語学習に焦点を当てることにする。しかし、第二言語習得研究の成果は、その全てが必ずしも個別言語に限定されるものではないので、どの語を学習する場合にでも応用できる内容と考える。ただし、第二言語習得研究は、歴史の浅い分野であり、かつ、第二言語習得という現象が多様な要因によって影響を受けるため、皆さんの疑問や困難の全てを研究が解決してくれるわけではありません。研究上、何が明確にわかっていて、何がそうではないかを理解することで、俗説や思い込みから解放され、自由に学習できるようになるでしょう。到達目標として、第一に第二言語習得に関する豊かな「知識」を身につけてもらい、自分自身の第二言語学習を評価できるようになることを目指します。その過程では、他の学習者とのコミュニケーションを通じた相互理解が有効だとされます。また、自律的な学習者になるための方法についても学び、受講者の皆さんの第二言語学習が変容することを目指します。

教科書 /Textbooks

廣森友人 (2015) 『英語学習のメカニズム-第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』大修館書店

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『自律を目指すことばの学習』(桜美林大学日本語プログラム「グループさくら」、凡人社)
- 『英語習得の「常識」「非常識」：第二言語習得研究からの検証』(白畑知彦他、大修館書店)
- 『日本語を教えるための第二言語習得論入門』(大関浩美、くろしお出版)
- 『「国際英語論」で変わる日本の英語教育』(塩澤正他、くろしお出版)
- 『はじめての第二言語習得論講義：英語学習への複眼的アプローチ』(馬場今日子他、大修館書店)
- 『外国語学習アドバイジング：プロのアドバイスであなただけの学習プランをデザインする』(青木直子、Kindle版)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション
- 第2回 「グローバル社会」の英語教育
- 第3回 仕事で使える第二言語力
- 第4回 第二言語習得のプロセス
- 第5回 第二言語学習と言語適性の関係
- 第6回 言語習得の第一歩：インプット
- 第7回 言語習得の臨界期
- 第8回 言語知識の自動化：アウトプット
- 第9回 言語技能
- 第10回 学習をサポートする原動力：動機付け
- 第11回 動機減退
- 第12回 自律的な言語習得のために：学習方略
- 第13回 学習方法と学習方略
- 第14回 個性に合った学びのあり方：学習スタイル
- 第15回 学習者の個人要因

第二言語習得論【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

実践報告...50% (どのような学習を実践したのかを確認するため)
期末試験...50% (授業及びテキストの内容理解を確認するため)
※期末試験実施が困難な状況の場合には、レポート課題に切り替えます。
・実践報告の未提出及び、期末試験の未受験のいずれかに該当する場合、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は、課題の予習を前提として行います。事前学習として、テキストを読み込み、疑問点を明確にしてから臨んでほしい。事後学習としては、テキスト該当章の練習問題・復習編を行うこと。翌回の授業冒頭において、復習を行います。

履修上の注意 /Remarks

本授業では、受講者自身の持つこれまでの外国語学習を振り返り、学習上の問題点を特定しながら、同時に第二言語習得研究の知見によって改善策を考え、それを実際の学習に生かすことが期待されています。そのため、自分自身の第二言語学習に関する実践報告を作成してもらいます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本来、いかなる学習も「楽しさ」を感じてこそ、意欲が自然と湧いてくるものです。「第二言語 / 外国語がうまくならないけれど、成果が出ているように思えない...」「やる気がないわけではないけれど、面白くないから段々やらなくなってしま...」という皆さん、この授業をきっかけとして一緒に考えて、新しい学習をスタートしましょう！

キーワード /Keywords

第二言語習得研究 習得理論 習得プロセス 動機付け 学習方略 学習スタイル 学習者オートノミー

異文化間教育 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIN250M	◎			△	△
科目名	異文化間教育				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

世界がグローバル化することによって、異文化接触に限られた特定の人の経験ではなくなりました。言い換えれば、多様化が進む現代社会において、「いかに異なる他者と共存できるのか」が共通の課題になっているということです。この課題に向き合うためには、異なる文化を理解する知識と実践的な異文化コミュニケーション能力が必要不可欠ですが、いつ、どこで、このような知識や能力が身につくのでしょうか。皆さんにとって、異文化間教育という言葉は、聞きなれない言葉かもしれませんが、異文化間教育の分野では、「全ての教育は、異文化間教育である」という考えがあります。本授業では、教育において多様な文化接触が生じるものを全て「異文化間教育」と捉えることによって、包括的にこの現象を捉えたいと思います。その中でも、特に、外国語教育について批判的な考察をすることになります。また、本授業では、授業の場においても、「異文化間教育」を実践するために、講義に加えて、「ピア・ラーニング」という協働学習を取り入れます。これは、異文化間教育においては、どこかに正解があるのではなく、学習者が自ら学ぶことを重視するため、学習者一人ひとりの「異なり」を尊重します。必然的に、教師は、正解を与える立場になく、授業の場を「異文化コミュニケーション」の実践の場を作るコーディネーターや、異文化理解を促進するファシリテーターの役割を担います。 ※コロナウイルス感染拡大防止のために、教室内の協働学習が制限される可能性もあります。到達目標として、異文化に対する態度や思考に関する豊かな「知識」を理解することを第一に掲げます。これに付随して、異文化コミュニケーション力及び、異文化間行動力を身につけるための方法についても、紹介していきます。

教科書 /Textbooks

原沢伊都夫（2013）『グローバルな時代を生きるための異文化理解入門』研究社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 八代京子ほか（2009）『異文化トレーニング-ボーダレス社会を生きる[改訂版]』三修社
- 八代京子ほか（2001）『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
- 館岡洋子ほか（2015）『協働で学ぶクリティカル・リーディング』ひつじ書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業オリエンテーション【授業目的】【授業スタイル】【評価】
- 第2回 異文化を理解する【異文化交流の歴史】【異文化理解の意義】
- 第3回 文化とは（その1）【冰山モデル】【常識】
- 第4回 文化とは（その2）【トータルカルチャー】【サブカルチャー】【特徴】
- 第5回 異文化適応【カルチャーショック】【U字曲線】【W字曲線】
- 第6回 異文化の認識【固定概念】【ファイリング】【ステレオタイプ】
- 第8回 差別を考える【差別の種類】【背景】【差別と異文化理解】
- 第9回 世界の価値観【個人主義対集団主義】【性善説対性悪説】他
- 第10回 異文化トレーニング【ケーススタディ】【DIEメソッド】【カルチャー・アシミレーター】他
- 第11回 異文化受容【受容プロセス】【相対化】
- 第12回 自分を知る【ジヨハリの窓】
- 第13回 非言語コミュニケーション【言語 / 非言語】【パラ言語】
- 第14回 アサーティブ・コミュニケーション【相互性】【尊重】
- 第15回 多文化共生社会の実現に向けて【多文化共生】【参画】

異文化間教育 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート4回 20×4 = 80%
実践課題 20%

課題レポートを全て提出した場合にのみ、成績評価の対象となります。
成績評価の対象者のみ実践課題についても評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、テキストの該当章を読み、「確認チェック」を済ませてから、授業に臨むようにしてください。
事後学習として、ノートを一冊用意し、毎回授業で扱ったテーマについて、自分自身の過去の体験を振り返り、それを自分の言葉で表現するようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

この授業では、講義形式以外に、授業時間にやりとりを多用する「応答型」を採用します。そのため、授業内でペア・ワークやグループ・ワークを多用します（受講者数を見てから、その頻度や程度を判断します）。
当該分野における予備知識の有無は、問いません。
※コロナウイルス感染拡大防止のために、教室内での協働学習が制限される可能性もあります。この場合、Moodleのフォーラムを利用して、意見集約や意見交換を行いたいと思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

異文化間教育の分野では、「全ての教育は、異文化間教育である」という考えがあります。著者と読者、教師と学生、学生同士...など、大いに相互交流しながら、「学び」の実感を期待しています。

キーワード /Keywords

異文化間教育 外国語教育 異文化理解 異文化コミュニケーション

Cross-cultural Fieldwork 【昼】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 3年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC314M	○		△	◎	
科目名	Cross-cultural Fieldwork 【G】				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
知識: 海外経験を通して異文化間コミュニケーションに関する知識を身につけている。
DP3 思考・判断・表現力: 異文化間コミュニケーションの知識を活かして判断表現することができる。
コミュニケーション力: 海外経験を通して高い英語コミュニケーション力を身につけている。

この科目は、学生の自主的な異文化体験を「生きた学習」として認め、それに対して一定の評価を与え、学生の積極的な異文化体験を促進する目的のために開講されている。受講開始時において、原則として1年以内に1ヶ月以上の海外滞在経験を持ち、撮ってきた写真を使って異文化体験を報告することができることが受講条件となる。

教科書 /Textbooks

特にテキストは定めない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指摘。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
 - 第2回 学生による異文化体験プレゼンテーション1(タコマなど)
 - 第3回 ディスカッション1(タコマなど)
 - 第4回 学生による異文化体験プレゼンテーション2(カーディフなど)
 - 第5回 ディスカッション2(カーディフなど)
 - 第6回 学生による異文化体験プレゼンテーション3(オックスフォード・ブルックスなど)
 - 第7回 ディスカッション3(オックスフォード・ブルックスなど)
 - 第8回 学生による異文化体験プレゼンテーション4(アジア諸国など)
 - 第9回 ディスカッション4(アジア諸国など)
 - 第10回 学生による異文化体験プレゼンテーション5(フォート・ルイスなど)
 - 第11回 ディスカッション5(フォート・ルイスなど)
 - 第12回 学生による異文化体験プレゼンテーション6(ハワイなど)
 - 第13回 ディスカッション6(ハワイなど)
 - 第14回 Paper outline guidance
 - 第15回 Submission of final paper and discussion
- ※()内の渡航先は暫定的で、未定です。各学生の行った場所によって変わります。

成績評価の方法 /Assessment Method

海外滞在体験報告のプレゼンテーションと、それを簡単に文にまとめたレポートによって成績を出す。

レポート - 50% 参加 / プレゼンテーション - 50%

授業回数の3分の1以上を欠席した場合は、評価不能(一)とします。

If you miss more than one-third of the class sessions, you will receive a failing grade.

試験を受験しない場合は、評価不能(一)とします。

Failure to take an exam will result in a failing grade (-).

レポートを提出しなかった場合は、評価不能(一)となります。また、盗用が発覚した場合は、不合格となります。

Failure to submit a report will result in a failing grade (-). Any incidence of plagiarism will also result in a failing grade.

Cross-cultural Fieldwork 【昼】

専門教育科目
比較文化科目
文化共生領域科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前準備：海外滞在経験を示す写真等のマテリアルを用意すること。

復習：授業で行ったディスカッションと発表を参考にして、レポートとしてまとめること。

履修上の注意 /Remarks

All Instruction will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Gender and Japanese Popular Culture 【昼】

担当者名 /Instructor: フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year: 3年次
単位 /Credits: 2単位
学期 /Semester: 2学期
授業形態 /Class Format: 講義
クラス /Class: 3年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
MCC342M	◎		○		△
科目名	Gender and Japanese Popular Culture 【G】				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

DP (Diploma Policy) に基づく3つの到達目標
ジェンダー論に関する基礎的な知識を身につけている。ジェンダー論の観点から論理的な思考・分析を行うことができる。スペシャリストとして専門分野で貢献できる姿勢を身につけている。

In this class students will have the opportunity to explore Japanese popular culture and gender by looking at anime, music, beauty, and fashion. Students will be able to analyze and think critically about the culture they are being brought up in and how this influences the way they think about gender.

Students will also work together in small groups with the aim of introducing a part of gender and popular Japanese culture they are most interested in and presenting it to the class.

Culture is in a constant state of change, students are therefore encouraged to come to class and share new and exciting ideas they may have discovered about gender and popular Japanese culture.

教科書 /Textbooks

Materials will be provided by the instructor

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Students are encouraged to browse the library for materials.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction to the course
- Week 2: Exploring gender, culture, and Japan
- Week 3: Heterosexuality
- Week 4: Intersectionality
- Week 5: Unconscious Bias
- Week 6: 君の名は
- Week 7: 天気の子
- Week 8: The Music Industry
- Week 9: 'Boy' Bands
- Week 10: 'Girl' Bands
- Week 11: JK business I
- Week 12: JK business II
- Week 13: Group Presentations I
- Week 14: Group Presentations II
- Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

- 50% in class assessments
- 25% Report
- 25% Group Presentation

授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。

Gender and Japanese Popular Culture 【昼】

専門教育科目
比較文化科目
文化共生領域科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to prepare for classes in advance every week
1 hour reading
30 minutes preparing for class

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

I look forward to learning about Japanese popular culture from you all as well as guiding you through the exciting and colorful world of gender.

キーワード /Keywords

Gender, Japan, Popular Culture

大地と森の環境概論 【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科, 野井 英明 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV100M	◎				
科目名	大地と森の環境概論【環】				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

地球環境問題が、早急な対応が必要な世界共通の課題であることは、ここ数年の間に世界中で発生した様々な気象災害や森林火災などから、ますますはっきりしてきました。その解決のためには、人間の経済活動の再検討が必要であることはいうまでもありません。しかし、それに加えて環境の正しい理解、とくに環境問題を引き起こした私たち人間と自然の関係について考えをめぐらさなければ、本質的な解決には結びつかないと思われます。地球環境問題は、人間の環境への関わり方が誤っていたことから発生した問題だからです。この授業では、人間と環境との関わりについて、自然、特に大地（地球）と森と人間との関わりについて理解を深めます。

この授業の目標は、以下の通りです。

人間と環境の関係について、学際的で基礎的な専門知識を習得する。

人間と環境の関係について関心を持ち、主体的に学習できる。

(到達目標)

【知識】自然と人間の関わりに関する幅広い知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。適宜プリントを配付します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 只木良也「森と人間の文化史」(NHKブックス)
- 樋口忠彦「日本の景観」(ちくま学芸文庫)
- 有岡利幸「里山III」(法政大学出版局)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地球環境の概観 【地球史の中で考える環境問題】
- 2回 環境問題のしくみ1 【代表的な環境問題：地球温暖化】
- 3回 環境問題のしくみ2 【環境問題は自然界のバランスの破壊が原因】
- 4回 私たちの住んでいる場所・今という時 【自然の猛威と災害】【現在は歴史の流れの一部であるという視点】
- 5回 環境と文明1 【文明は環境変動の中で生まれ消滅してきた】
- 6回 環境と文明2 【パラダイムの変遷：環境問題にアプローチする新しい価値観】
- 7回 1～6回のまとめ
- 8回 森林の多面的機能
- 9回 農山村と自然環境1【地形と村落景観】
- 10回 農山村と自然環境2【山村問題と住民生活】
- 11回 森林資源と利用1【森林伐採と林業史】
- 12回 森林資源と利用2【木造住宅と木の文化】
- 13回 森林資源と利用3【世界の林産物と日本】
- 14回 地域社会と森林【北九州市の森林環境】
- 15回 8～14回のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

野井 (1回~7回) 小テストまたはレポート...50%
岩松 (8回~15回) レポート...25% 日常の授業への取り組み...25%

前半 (野井担当) と後半 (岩松担当) のレポート (あるいは指示された小テスト) を、一方でも未提出の場合は、原則評価不能 (-) とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

環境問題に関する情報が、テレビやネットで最近特に頻繁に発信されています。これらを見て環境問題の最新の状況を知ると、この授業を受けるのが楽しくなると思います。授業後は、ノートを整理し、配付された資料等をもう一度よく読んで理解してから、それらを将来的に利用できる形で保存しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地球 環境 森林 災害 文明 文化 景観 山村 木材

人と竹の文化学【昼】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ENV250M	◎				
科目名	人と竹の文化学【環】				
※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連					

授業の概要 /Course Description

人と自然、人と植物の関係について、主に人文的考察をする講義です。ここで事例にする自然は、日本人にとって密接な植物である竹です。竹は「万能性」とも表現できるような、多くの場面で活用される特性を持っています。人もまた、竹に対して、その時代の文化や社会の状況に合わせて独特の反応をしてきました。「竹をみて、人を知る」、「竹を知って、色々なことが分かる」、こうした学びを期待しています。

到達目標

この講義では、竹をめぐる、時間的にも空間的にも多様な視点からの知識や分析を提供することによって、人と植物の豊かなつながりの仕組みを考え、幅広い問題意識を持ってもらうことが目標です。そして、各自がそれぞれに自然に対する関心事項を見つけ、卒業論文のテーマを自由に構想する準備になることをねらいとしています。

教科書 /Textbooks

教室で講義資料を配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 中西進校注「万葉集：全訳注原文付 1～4」講談社
- 宮内泰介編著「半栽培の環境社会学」昭和堂
- 室井紳「竹」法政大学出版局
- 白幡洋三郎「プラントハンター」講談社
- その他、講義中に随時、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【竹学の可能性】
- 2回 竹の言葉と想い【和歌・日本語】
- 3回 竹の生態と認識【竹笹の種・開花】
- 4回 竹製品の変化【道具・用途】
- 5回 伝統的な竹林業【マダケ・竹材加工・切り子】
- 6回 集落の生業史【モウソウチク・社会・環境】
- 7回 竹種と盛衰関係史【適材適所・産業】
- 8回 竹林拡大を考える【栽培史・政策史】
- 9回 中国と日本の筍食文化【交流・比較】
- 10回 台湾の筍食文化【多様性】
- 11回 竹の移動【採集・植物伝播】
- 12回 竹と異国情緒【観光・美竹林】
- 13回 竹製品の移動【近現代貿易史】
- 14回 竹籠から竹芸へ【博物・美術・蒐集家】
- 15回 まとめ【竹をみて人を知る・竹学の有効性】

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験またはレポート・・・40% 日常の授業への取り組み・・・60%

6回以上欠席すると自動的に評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

日頃から竹や植物に関するものごとを意識して観察し、講義に備えること。
授業中に興味を持ったことや疑問に思ったことを自主的に調べ、復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

2020年度にスタートした新しい科目です。

キーワード /Keywords

教職論 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教職論は、通常の場合、4年間の教職課程への導入的性格を持つ科目である。
本授業では、教職という仕事の社会的意義と役割、また、教員に求められる資質や倫理の内容を理解するとともに、本学出身者の若手の教員の体験報告とその後の意見交流、ベテラン教員の講演と意見交流を通して、教員という仕事の喜びや困難さを理解し、自らの進路選択を検討するとともに、めざすべき教員像を探究する。
また、教員の職務内容の全体像と教員に課せられる服務上・身分上の義務を理解するとともに、今日の学校が担うべき役割を実現していくために必要不可欠な教職員や多様な専門職種との連携の在り方について検討する。

なお、この科目は「教職に関する科目」のカリキュラムマップでは、1類 - 1 に該当する科目である。

到達目標 教職という仕事に関する基本的な知識を理解している。

教科書 /Textbooks

教科書は指定しない。毎回の授業で必要な資料は配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

岩田康之・高野和子編 「教職論」 学文社
文科省 中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. オリエンテーション 本授業の目的と進め方、「教職課程を履修する目的」に関するアンケート
2. 教育に求められる実践的指導力と学校ボランティア体験の意義(外部講師の報告)
3. 教員に求められる資質 その1 共感的理解と対話力
4. 今日の教員に求められる役割と職務内容について(講師 森恵美先生)
5. 教員に求められる資質その2 生徒指導と学級経営(学級づくり) - 実践報告を手がかりに
6. 教員に求められる資質その3 教科指導と授業づくり(本学出身の教員の実践報告と意見交流)
7. チーム学校と専門職との連携 その1 「特別なニーズ」を持つ子どもへの支援
8. チーム学校と専門職との連携 その2 被虐待・貧困状況にある子どもと家族への支援
9. 教員に求められる資質その4 特別活動と学級づくり(本学出身の教員の報告と意見交流)
10. 学級づくりに関するグループワーク
11. 現代社会における学校教育の課題 その1 セクシュアルマイノリティの生徒と学校づくり
12. 現代社会における学校教育の課題 その2 部活動・体罰問題を考える。
13. 現代社会における学校教育の課題 その3 「道徳教育」をめぐる問題を考える。
14. 若手教員からみた教員の仕事の生きがいと悩み(本学出身の中学校教員の報告と意見交流)
15. 全体のまとめと課題の説明

* 講師の都合などにより、計画が変更になることがある点、了解されたい。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(授業内で実施するミニレポート等) 50点、レポート試験50点
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- ・ 新聞記事やテレビなどを通して日常的に生じている教育の問題に関心を持ち、自分自身の見解を持つ努力をすること
- ・ 授業での現職教員との出会いを通して、自分自身が理想とする教師像を育てていくこと
- ・ 学校現場でのボランティア体験などを通して、教師としての実践的指導力の獲得に向けての自己教育の課題に取り組むこと

教職論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

この授業はすべての回に出席し、毎回のミニレポートを提出してもらうことを前提にして進めます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では多くの学校現場の先生に来ていただいて、教師という仕事の魅力と困難さを語っていただきます。
この半年の授業のなかで皆さん自身がめざすべき「教師像」を育んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教職の意義と役割、教員の仕事、理想の教師像

教育原理【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

課題

発達と教育、教育思想や教育史等、教育についての基礎的な知識を習得し、現代の教育における課題について学ぶ。

到達目標

教育に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育に関わる基礎的な専門知識を習得する。
- ②教育の課題について整理し、対応策を考えることができるようになる。

(以下、平成26年度以降入学生)

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類-1」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。
プリント資料配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じ、授業時に提示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション：教育の関係：教育のモデル・家族・学校
- 2回 生涯にわたる発達と教育：生涯発達
- 3回 発達課題と教育支援：思春期・青年期
- 4回 教育思想①：諸外国の教育思想
- 5回 教育思想②：日本の教育思想
- 6回 教育史①：西洋の教育史
- 7回 教育史②：日本の教育史
- 8回 学ぶ意欲と教育指導
- 9回 学校教育の機能：基礎集団としての学級
- 10回 学校の制度：学校体系
- 11回 学校教育の課題：学校で生じる問題
- 12回 メディアと教育：メディアと子ども・教材・方法
- 13回 国際化と教育：言語・文化
- 14回 仕事と教育：進路形成
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況(小課題等) 40%

最終課題(試験) 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題(試験)受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題(試験)を受験しなかった場合は原則評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育原理【夜】

キーワード /Keywords

教育心理学【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育心理学とは、教育活動を効果的に推進するために役立つ心理学的な知見や技術を提供する学問である。

この授業では、まず【学習】分野として、幼児、児童及び生徒の教育場面に関連する学習理論を学ぶことを通して、より効果的な教育活動を展開するための教育心理学の基礎的事項について理解する。次に【発達】分野として、子どもの発達段階について学んだ上で、教育現場での個々人に応じた教育及び発達支援について理解を深める。さらに、知的障害・発達障害のある幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程についても学ぶ。また、教育心理学の知見を生かした多様な【教授法】について学ぶとともに、学級集団や子ども理解、教育評価等の理解を深め、教育現場へと【応用】する術を学ぶ。

授業形態は講義とする。授業内で出される課題についてのグループディスカッション、心理学実験、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを部分的に取り入れる。

<到達目標>

【知識】教育現場に生かすための教育心理の基礎（学習理論や教授法等）を幅広く理解している。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「I類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

やさしい教育心理学 第4版 鎌原 雅彦(著), 竹網 誠一郎(著) 有斐閣

教育心理学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：教育心理学が心理学の分野においてどのように発展してきたのか、また教育心理学とは何を目的とした学問なのかについて学ぶ。
- 第2回：【学習①】古典的条件づけやオペラント条件づけ等の基本的な学習理論（経験説）について教育との関係から学ぶ。
- 第3回：【学習②】洞察説やサイン・ゲシュタルト説等の基本的な学習理論（認知説）について教育との関係から学ぶ。
- 第4回：【学習③】学習における動機づけについて学ぶ。また動機づけを高め、維持するための働きかけ方についても学ぶ。
- 第5回：【学習④】学習における原因帰属理論について学ぶ。また、原因帰属と動機づけの関連性についても学ぶ。
- 第6回：【学習⑤】記憶に関する基礎理論（長期記憶、短期記憶、忘却等）を学ぶ。また、学習活動における記憶の役割や記憶の定着を促す学習方法について学ぶ。
- 第7回：【発達①】発達に及ぼす遺伝要因と環境要因の相互作用の影響に焦点を当てる。特に発達における環境要因としての教育が果たす役割について理解する。
- 第8回：【発達②】発達初期における養育者との愛着形成と初期経験の重要性について理解する。また、生涯発達の視点からピアジェの認知発達理論についても学ぶ。
- 第9回：【発達③】生涯発達の視点からエリクソンのライフサイクル論を理解し、特に思春期・青年期に関して、発達段階を踏まえた適切な学習方法について理解を深める。
- 第10回：【発達④】発達障害（自閉症スペクトラムや学習障害、注意欠陥多動性障害等）の特徴について学ぶとともに、発達障害児との関わりについて理解を深める。
- 第11回：【教授法①】発見学習や有意義受容学習等の学習指導法について、その特徴と提唱された理論的背景について学ぶ。
- 第12回：【教授法②】プログラム学習やバズ学習、ジグソー学習等の学習指導法について、その長所と短所を理解し、実践場面での使い分け方について学ぶ。
- 第13回：【応用①】学級集団の諸相を仲間集団の発達の変容や測定方法など仲間関係の側面から学ぶ。また教師のリーダーシップや教師期待効果などの教師の役割についても学ぶ。
- 第14回：【応用②】知能の定義や考え方の変遷について学ぶ。また、教育場面での評価の形態（絶対評価、相対評価、個人内評価等）について学び、その特徴を理解する。
- 第15回：【応用④】教育心理学的観点から、子ども理解を深めるとともに、特別な支援を必要とする子ども（知的障害・発達障害等）への対応・支援や、子どもの不適応問題（いじめ・不登校等）への対応・支援についても学ぶ。
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート・・・40%
最終試験・・・60%

（出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。）
（6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能（-）とする。）

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回次回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワークを行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

子どもの発達、子どもの学習、子どもへの関わり方

教育社会学【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

社会学的な視点から学校教育と学校をめぐるとして、国内外の動向も紹介しながら、政策・実践課題について考えていきます。あわせて、子どもや子どもをめぐるとして社会変化についても理解を深めていきます。

日本については近年の様々な課題や政策動向など状況の変化について理解を深めます。

国外については日本との比較を念頭に置きながら、少子化への対応や、教育への考え方、取り組みの違いなどを理解し、社会全体で子どもを育成していく視点の重要性、教育の役割について説明します。

学校教育と家庭教育、社会教育（地域教育）の連携や協働についても具体的な事例を取り上げながら理解を深めていきます。また、自然災害に対する子どもの安全を含めた、子どもの安全への対応についても事例を取り上げて考えます。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

教育に関する社会学的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション ー教育に関する社会学とは
- 第2回学校をめぐるとして近年の動向 ー初等教育
- 第3回学校をめぐるとして近年の動向 ー中等教育
- 第4回子どもをめぐるとして社会の変化 ー少子高齢化、地域・社会の変容
- 第5回諸外国の子ども・子育ての動向 ー家族支援、教育支援
- 第6回諸外国の教育 ー学校教育
- 第7回諸外国の教育 ー青少年の社会参加・参画
- 第8回日本における教育政策・改革の動向
- 第9回子どもの生活の変化と指導の課題 ー家族、少子化
- 第10回子どもの生活の変化と指導の課題 ー孤食、栄養と食育
- 第11回子どもの生活の変化と指導の課題 ーメディアと遊び
- 第12回子どもの生活の変化と指導の課題 ー社会性、自主性
- 第13回学校と地域の連携 ー地域の変化、学校と地域の連携・協働、開かれた学校づくり
- 第14回学校や子ども活動での子どもの安全
- 第15回子どもの生活安全、交通安全、災害安全

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート・・・30%、課題レポート・・・70%
6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

子どもや教育に関する情報収集を行い、統計や社会動向、社会の反応などを踏まえて、予習に関しては授業時の小レポートに、復習に関しては課題レポートに記載すること。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分です。)

履修上の注意 /Remarks

教職や社会教育主事資格の関連科目とあわせて受講すると、本講義の理解がより深いものになります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

実践的な取り組みを視聴覚教材を活用しながら紹介します。

キーワード /Keywords

公教育制度、地域、連携、協働、学校安全

教育課程論【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

概要

教育課程に関わる概念や学校における教育課程編成・方法、学習指導要領に関する基礎的な知識を習得し、今日の教育課程の課題について学ぶ。

到達目標

教育課程に関する基礎的な知識を体系的かつ総合的に身につけている。

- ①教育課程に関わる基礎的な知識を習得する。
- ②教育課程の課題について整理し、対応策などを考えることができるようになる。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

なし。

プリント（講義レジュメ及び資料）を配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に配布するプリントに提示するもの他、必要に応じ適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 教育課程の基本原則 (1) カリキュラムとは
- 第 2回 教育課程の基本原則 (2) カリキュラムの類型
- 第 3回 教育課程の変遷と学習指導要領
- 第 4回 学力と教育課程 (1) 教育課程設計の前提となる「力」
- 第 5回 学力と教育課程 (2) 学習状況調査の影響
- 第 6回 諸外国の教育課程
- 第 7回 教育課程の編成 (1) 教科教育
- 第 8回 教育課程の編成 (2) 教科外教育
- 第 9回 学習環境のデザイン
- 第10回 教育課程の評価
- 第11回 教育課程の開発
- 第12回 カリキュラム・マネジメントと学校改善
- 第13回 今日の課題と教育課程 (1) 異文化理解
- 第14回 今日の課題と教育課程 (2) ESD
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (小課題等) 40%

最終課題 (試験) 60%

* 感染症拡大の状況等によってはレポート課題に切り替えることもある。これについては授業中に改めて指示する。

* 3分の2以上の出席が最終課題 (試験) 受験資格

* 6回以上欠席した場合や最終課題 (試験) を受験しなかった場合は原則評価不能 (-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教育について興味・関心をもって臨んでもらいたいと思っています。

配布したレジュメ・資料は、授業後にもよく読んでおくこと。

発展課題として授業中に紹介した参考文献を読むことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

道徳教育指導論【夜】

担当者名 船原 将太 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本講義では、道徳・道徳教育とは何かを問う作業から始め、それをもとに、現在の学校教育における道徳教育の目的と内容について学ぶ。そのために講義の前半では、私たちが日ごろ行っている些細な「正しさについての判断」を検討し、この判断の妥当性が形成される歴史的過程を追っていくこととなる。また、いくつかの現代的課題について取り上げ、道徳教育に必要な思考力を鍛える。さらに、「道徳の授業」に関する著名な教材の分析を行うとともに、実際に指導する場面を想定し、学習指導案の作成などを行っていく。このことより、道徳教育の実践的な指導力の育成をはかるものとする。

本科目の到達目標は、道徳教育指導に必要な基本的な知見を身につけているものとする。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。各回、必要な資料を配布し、これをもとに講義を実施する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の際に、適宜提示するものとする。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション、道徳とは何か
- 第2回：社会における「正しさの基準」について
- 第3回：道徳教育の変遷①ー戦前
- 第4回：道徳教育の変遷②ー戦後
- 第5回：「道徳」の特別教科化をめぐる諸問題
- 第6回：道徳教育の目標と各教科・特別活動等における指導内容
- 第7回：道徳教育の現代的課題①(グループ討論)
- 第8回：道徳教育の現代的課題②(グループ討論)
- 第9回：道徳教育の現代的課題③(グループ討論)
- 第10回：道徳教育の現代的課題④(グループ討論)
- 第11回：道徳科の学習指導案の作成方法
- 第12回：道徳教育の教材研究①
- 第13回：道徳教育の教材研究②
- 第14回：指導案作成
- 第15回：道徳教育の今日的な意義について

成績評価の方法 /Assessment Method

学習指導案：50%
コメントシート：20%
小テスト：30%
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜、指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動・キャリア教育論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の概要

本講義の主な内容は以下のとおりである。

1. 文科省の中学校及び高等学校の学習指導要領・特別活動の目標と内容について
2. 学級活動や学校行事、生徒会活動を通じた「人間関係形成」「社会参加」「自己実現」の課題と方法
3. 特別活動の取り組みを進めていくための教職員の共同や家庭・地域との連携の課題と方法
4. 学校における進路指導、キャリア教育の位置づけと学校教育全体を通じたキャリア教育の課題
5. 職場体験学習などの体験活動を通じたキャリア教育の意義と進め方
6. キャリアカウンセリングの基本的な課題と方法について

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 文科省の学習指導要領「特別活動」の課題と方法についての基本的な知識を修得している。

教科書 /Textbooks

文科省 中学校学習指導要領解説「特別活動編」 東山書房

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

折出健二編 「特別活動」(教師教育テキストシリーズ) 学文社

○文部科学省 中学校キャリア教育の手引き

○見美川孝一郎 権利としてのキャリア教育 明石書店

○キャリア発達論 - 青年期のキャリア形成と進路指導の展開 ナカニシヤ出版

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 1回 特別活動の目標と内容
- 2回 教育課程の中での特別活動の位置づけと各教科との関連
- 3回 学級活動の目標と内容
- 4回 学級活動の実際 その1 中学校の取り組み
- 5回 学級活動の実際 その2 高等学校の取り組み
- 6回 学級活動における対立解決プログラムの取り組み
- 7回 学校行事の目標と内容
- 8回 学校行事の実際
- 9回 生徒会活動の目標と内容
- 10回 生徒会活動の実際
- 11回 キャリア教育の課題について
- 12回 今日の若者の就労問題とキャリア教育の課題
- 13回 北九州キャリア教育研究会 夢授業の取り組み(講師 北九州キャリア教育研究会 木原大助さん)
- 14回 キャリアカウンセリングの課題と方法(ポートフォリオの活用を含む)
- 15回 中学校におけるキャリア教育の取り組み

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 30点

キャリア教育に関する学習指導案 15点、対立の調停のシナリオ 15点

期末試験 40点

本授業は原則としてすべての授業回に出席して、課題を提出してもらうことが原則です。

出席について、3分の2以上の出席が最終レポート試験受験資格とします。))

(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

この授業では多くのグループワークと意見発表の機会を設け、教師としての実践的な指導力の育成を目指します。
大変かと思いますが、よろしくお願いします。

特別活動・キャリア教育論【夜】

履修上の注意 /Remarks

遅刻に対しては厳しく対応するので、十分に注意すること

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別活動の目標、学級活動、生徒会活動、学校行事、キャリア教育

教育の方法と技術・総合的な学習の時間の指導法【夜】

教育の基礎的理解に関する科目等
必修科目

担当者名 /Instructor 下地 貴樹 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

近年、課題解決型授業やアクティブ・ラーニング（主体的・対話的で深い学び）といった確かな学力を求めるための、教育のあり方が議論されている。この授業では、授業の構成要素である「教材・教師・生徒」の視点からそれぞれのあり方を捉えながら、授業理論やICT教育の求められる背景を講義する。また学校ごとに特色ある「総合的な学習の時間」について、その内容の取り扱いや目標のあり方を理解し、各教科との関連を踏まえて捉えるようにする。

そのために、講義形式以外にもグループ活動やペアワークなど実際に作業することで教育方法の理論の一部を体験しながら、教材開発や教材研究を行っていく。

到達目標

【知識】これからの子ども達に求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法、技術、情報機器及び教材の活用に関する基本的知識を身につけている

教科書 /Textbooks

新しい時代の教育方法 改訂版 (2019 有斐閣アルマ)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省)
高等学校学習指導要領 (平成30年告示 文部科学省)
他にも授業内で随時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：西洋における教育思想と教育方法の歴史
 - 第3回：日本における教育改革と教育方法の歴史
 - 第4回：現代教育方法学の論点と課題
 - 第5回：子どもは何を学ぶのか・学習とは何か
 - 第6回：「学力」について考える・学力とは何か
 - 第7回：授業のデザイン・教師・生徒・教材
 - 第8回：教育の道具・素材・環境を考える
 - 第9回：何をどう評価するのか・評価と評定・基準と規準
 - 第10回：教科外活動を構想する
 - 第11回：授業研究・授業をいかに捉えるか
 - 第12回：総合的な学習の意義と課題
 - 第13回：総合的な学習の指導計画と取り扱い
 - 第14回：教師の専門性・専門職性
 - 第15回：まとめ
- 定期試験

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（グループワークや質疑などへの参加）・・・ 30%
発表・レジュメ作成・・・ 20%
最終試験・課題レポート・・・ 50%
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

人数によって課題の方法は変化するが、テキストについてまとめた資料（レジュメ）を作成してもらう。
また担当でない者も、内容について疑問点や感想などを報告してもらいたいので、事前にテキストを読んでおくこと。

履修上の注意 /Remarks

講義の3分の2以上の出席が試験受験の前提となる。
欠席の際は、連絡を入れるようにしましょう。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

総合的な学習の時間は、各学校や地域ごとに特色ある活動を行っています。どのような実態があるかを考えるためには、他者との交流や対話的な学びが不可欠です。

能動的・積極的な姿勢を身に着けていきましょう。

キーワード /Keywords

生徒指導論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業の概要

本授業の目的は以下のとおりである。

- ① 生徒指導の意義、生徒指導の3機能(①児童生徒に自己存在感を与えること、②共感的な人間関係を育成すること、③自己決定の場を与え、自己の可能性の開発を援助すること)を理解するとともに、開発的生徒指導、予防的生徒指導、問題解決的生徒指導の区別と関連などを検討していくこと
- ② 教育課程と生徒指導、生徒指導に関する法制度、生徒指導における家庭・地域・関係諸機関との連携等に関する基本的な知識・理解を修得すること
- ③ 養育環境や発達障害、セクシュアルマイノリティ等の何らかの要因による困難を抱える子どもの自立を支援する生徒指導のあり方を学習すること。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

到達目標 生徒理解と生徒指導に対する基本的な知識を修得している。

教科書 /Textbooks

文部科学省編 「生徒指導提要」
楠凡之 「虐待・いじめ 悲しみから希望へ」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

テキスト

参考書・参考資料等

桑原憲一編 中学校教師のための生徒指導提要実践ガイド 明治図書
嶋崎政男 「法規+教育で考える 生徒指導ケース100」 ぎょうせい

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

- 1回 生徒指導の意義と目的 - 子どもたちの自己存在感を育むために
- 2回 生徒指導における個別指導と集団指導、積極的生徒指導と生活指導
- 3回 教育相談と生徒指導、不登校問題と生徒指導
- 4回 教育課程と生徒指導 その1 - 教科教育と生徒指導
- 5回 教育課程と生徒指導 その2 - 総合的な学習の時間、道徳教育と生徒指導
- 6回 教育課程と生徒指導 その3 - 学級づくりを通じた生徒指導
- 7回 生徒指導に関する法制度等(第7章他)
- 8回 生徒指導における規範意識の醸成をめぐる諸問題(ゼロトレランスの問題も含めて)
- 9回 生徒指導における体罰問題を考える - 家父長制的学校観を乗り越えるために
- 10回 性の多様性、セクシュアルマイノリティへの理解と性教育の課題
- 11回 性被害児童・生徒に対する理解と支援
- 12回 生徒指導における関係諸機関の連携
- 13回 青少年の自殺予防の取り組み
- 14回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その1 学校での支援
- 15回 被虐待状況に置かれた生徒への理解と援助 その2 関係諸機関との連携

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点40点、課題レポート20点、期末レポート40点
出席について、3分の2以上の出席が最終試験受験資格とする。
(6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

「虐待 いじめ 悲しみから希望へ」のテキストはしっかり読み込んで内容を修得しておくこと。

生徒指導論【夜】

履修上の注意 /Remarks

全学の教職課程履修学生の必修科目ではありますが、人間関係学科の学生で、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの仕事に関心がある学生にも対応した内容になっているので、積極的に履修してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生活指導、生徒指導の3機能、積極的生徒指導と消極的生徒指導、児童虐待問題

教育相談【夜】

担当者名 山下 智也 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業では、学校での教育相談の意義、生徒の問題行動の理解、教育相談の理論と技法（積極的傾聴、共感的応答、開かれた質問、直面化など）を習得する。

また、不登校やいじめ、発達障害、非行、自傷・自殺、虐待等、様々な問題を表出している生徒に対する理解を深めていくと同時に、生徒に対する援助の留意点について、具体的な教育相談の事例や実践を踏まえて検討するとともに、教育相談の組織的な体制づくりや関係諸機関との連携の課題を考察する。

<到達目標>

【知識】教育相談の意義を理解し、関連する専門的な知識を身につけている。

【思考・判断・表現力】教育相談に関する知識を元に、適切な支援の道筋を見出すことができる。

この科目は、履修ガイドの「教育の基礎的理解に関する科目等」カリキュラムマップの「II類-2」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

虐待 いじめ 悲しみから希望へ 楠凡之（著） 高文研
その他、適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

生徒指導提要 文部科学省
Next教科書シリーズ 教育相談 津川律子、山口義枝、北村世都（著） 弘文堂
子どものこころの支援 連携・協働ワークブック 前川あさみ（編著） 金子書房

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：本講義のオリエンテーション、教育相談の歴史
 - 第2回：学校における教育相談の現代的意義と課題
 - 第3回：教育相談とカウンセリング（カウンセリングマインドの理解も含む）
 - 第4回：子どもの問題行動の意味（子ども理解も含む）
 - 第5回：教育相談の実際①（発達障害、不登校、いじめ等）
 - 第6回：教育相談の実際②（非行、自傷・自殺、虐待等）
 - 第7回：教育相談の基本的な理論の修得（来談者中心療法等）
 - 第8回：教育相談の基本的なスキル①（受容、傾聴、共感的理解、開かれた質問等）
 - 第9回：教育相談の基本的なスキル②（感情の明確化、共感的応答、直面化等）
 - 第10回：教育相談に役立つ心理的支援①（アサーション、ブリーフセラピー等）
 - 第11回：教育相談に役立つ心理的支援②（行動療法、認知行動療法等）
 - 第12回：教育相談に役立つ心理的支援③（ストレスコーピング、ストレスマネジメント等）
 - 第13回：教育相談のための連携と協働①（保護者との相談、学内での体制づくり等）
 - 第14回：教育相談のための連携と協働②（関係諸機関との連携）
 - 第15回：本講義全体のまとめ
- 最終試験

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・ミニレポート 40%
最終試験 60%
(出席について、原則として3分の2以上の出席を最終試験受験資格とする。)
(6回以上欠席した場合や最終試験を受験しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：毎回回の予告を行い、関連キーワードを調べておくなど、次回までの課題を提示する（必要な学習時間の目安は60分）。
事後学習：授業の冒頭で、前回の授業内容について振り返りをしたり、グループで発表し合ったりするため、授業で学習した学習内容を自分の言葉で他者に説明できるようになるよう努める。（必要な学習時間の目安は90分）

履修上の注意 /Remarks

教育相談【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

講義だけでなく、個人ワークやペアワーク、グループワーク、ロールプレイ等を行います。
授業への主体的な参加を期待します。

キーワード /Keywords

教育相談、いじめ、不登校、虐待

教育実習 1 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科

履修年次 3年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 3年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

4年次の「教育実習」(実習校実習)に向けての事前指導として、実習校実習に求められる指導能力の獲得に取り組む。その課題は以下の通りである。

1. 教育実習生としての基本的な心構え、社会的責任の自覚
2. 学習指導に求められる基本的な理論・知識・技術など
3. 生徒指導・学級経営に求められる基本的な理論・知識・技術など

到達目標

- ・教育実習(実習校実習)に臨み、学習指導や生徒指導などの基本的な知識を身につけている。
- ・教育実習(実習校実習)に臨み、学習指導や生徒指導などの基本的な技能を身につけている。

この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「III類-3」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』(756円)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

高野和子・岩田康之共編 「教育実習」 学文社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
教育実習及び教員採用に向けての力量形成の課題
- 2回 教育実習生の1日
- 3回 教育実習の体験から学ぶ(中学)
- 4回 教育実習の体験から学ぶ(高校)
- 5回 学級づくりと学級経営案(合同授業)
- 6回 特別活動の模擬授業について(4年生の実演)
- 7回 教科教育の模擬授業について(4年生の実演)
- 8回 子どもの問題行動と生徒指導(外部講師の講演)
- 9回 教科の模擬授業(合同授業)
- 10回 特別活動の模擬授業 その1
- 11回 特別活動の模擬授業 その2
- 12回 学級づくりの実際(外部講師の講演)
- 13回 教育相談のロールプレイ
- 14回 教科に関するフィールドワーク(合同授業)
- 14回 学級経営・学級づくりの実際(外部講師の講演)
- 15回 全体のまとめと教育実習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況の評価(60%) 学習指導案(特活、教科)などの提出物の評価(40%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業での学習内容については必ず教育実習ノートに清書をおこなうこと。
(授業中に実習ノートに記入することは決してしないこと)

模擬授業の前には必ず指導案を作成し、十分な準備をしてから模擬授業に臨むこと

履修上の注意 /Remarks

この授業は全回出席が原則。万一、やむを得ない事情で欠席した場合にはすみやかに教職資料室で補講を受け、学習内容を実習ノートに記載すること。

一回でも欠席し、補講を受けてその内容の学習を行っていない場合には、授業の単位が出ないこともあるので十分に留意すること。
新型コロナウイルス感染症の拡大にける授業方法の変更などがある場合はアナウンスするのでよく掲示を見ておくこと。

教育実習 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業は実習校実習の約半年前に行われる授業であり、これまでの教職課程の授業科目や学校現場体験、指導体験を基盤にして、実習校実習に必要な実践的指導力の修得をめざす科目です。
皆さんには半年後に迫っている実習校実習に向けて、真摯な態度で授業に臨むことを期待します。

キーワード /Keywords

模擬授業、実践的指導力

教育実習 2 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 4年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義・実習 クラス 4年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

- ①教育実習生として必要な心構えや、指導方法等について学習する(事前指導)
- ②教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める(実習校実習)
- ③実習校実習で得た成果や反省すべき事項等を整理し、今後の課題を考察する(事後指導)

この科目は、教職課程履修ガイドのカリキュラムマップの「III-4」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】 【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に関する諸注意(外部講師による講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(教科の授業、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会と教職総合演習に向けての課題

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習 1 などの復習と、前回までの指導内容・確認事項をチェックしておく。
事後は、教育実習の反省点と自己教育の課題(学習指導、生徒指導)を教育実習ノートに記載すること。

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

教育実習 3 【夜】

担当者名 /Instructor 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科, 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義・実習 クラス 4年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

教育実習校において教師として必要な教育実践の能力の基礎を培うとともに、学校教育についての理解を深める。

この科目は、教職課程履修ガイドのカリキュラムマップの「III類-4」に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

3年次より使用している北九州市立大学編『教育実習ノート 教育実習日誌』を使用する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「学習指導要領」「学習指導案集」等

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 【 】内はキーワード
- 1回 オリエンテーション 【勤務】【連絡】
 - 2回 中学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 3回 高等学校における教育実習に向けての諸注意(外部講師の講演)
 - 4回 教育実習に向けての課題の整理(学習指導、生徒指導、特別支援教育)
 - 5回 実習校実習② 【教育実習指導】
 - 6回 実習校実習③ 【教育実習指導】
 - 7回 実習校実習④ 【教育実習指導】
 - 8回 実習校実習⑤ 【教育実習指導】
 - 9回 実習校実習⑥ 【教育実習指導】
 - 10回 実習校実習⑦ 【教育実習指導】
 - 11回 実習校実習⑧ 【教育実習指導】
 - 12回 実習校実習⑨ 【教育実習指導】
 - 13回 実習校実習⑩ 【教育実習指導】
 - 14回 実習校実習⑪ 【教育実習指導】
 - 15回 教育実習反省会(実習校実習の反省点の整理と教職実践演習の課題)

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況、『教育実習ノート/教育実習日誌』、実習校からの成績評価、提出物等を総合的に判断して評価を行なう

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、教育実習1や前回までに内容の復習
事後は、扱った内容を教育実習ノートに記載する

履修上の注意 /Remarks

事前に配布された資料等の内容を確認して授業に臨むこと
教育実習2と同様です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

教育実習2と同時履修(教育実習の時間数の単位換算のため)。
教育実習3のみ受講の場合は教育実習2で指示が行われることがあるので、教職掲示板や教育実習2の内容を確認するようにしてください。

キーワード /Keywords

教職実践演習 (中・高) 【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科, 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 4年次 /4 Year 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semester 授業形態 /Class Format 講義・演習 /Lecture・Workshop クラス /Class 4年 /4 Year

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

授業のねらい

本授業では、在学中に学んだ教職に関する総合的な知見と教育実習で得られた教科指導等の基礎的指導力をもとに、教職課程履修のプロセスで見えてきた自己の資質能力の現段階の達成度と課題をそれぞれ把握させ、実践的指導力を発揮する教員としての最低限の資質能力についての確認と定着を図る。

授業内容としては、主に、①教員としての使命感、責任感、教育的愛情 ②教師に求められる社会性と対人関係能力、③生徒理解と学級経営、④教科指導、の4つの領域において、自分自身の自己教育の課題を踏まえた学習を進めるとともに、「教員としての最低限の資質」の獲得に向けての各個人で自己教育の課題を設定し、その成果について発表する取り組みを進める。

本科目の到達目標は以下の通りである。

- ① 教師に求められる使命感、責任感、コンプライアンスの能力を身につけている。
- ② 教職員や保護者と連携、協同していくために必要な対人関係能力を身につけている。
- ③ 生徒指導と学級経営に必要な知識と指導力に身につけている。
- ④ 専門教科及び道徳に関する授業をしていくための基礎的な知識と指導力に身につけている。

なお、本授業は「教職に関するカリキュラムマップ」で、Ⅲ類の4 に分類される科目である。

教科書 /Textbooks

適宜、ワークシート、レジュメ、資料などを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーションとプレゼンテーション方法の説明
- 2回 教師の使命感、責任、教育的愛情に関するグループワーク
- 3回 生徒とのコミュニケーション能力を高めるためのグループワーク
- 4回 教員に求められる対人関係能力に関するグループワーク
- 5回 地域・保護者との連携に関するグループワーク
- 6回 教科の模擬授業 その1 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(中学校)
- 7回 教科の模擬授業 その2 三つの教科に分かれての模擬授業とグループワーク(高等学校)
- 8回 教科の模擬授業 その3 三つの教科に分かれての模擬授業と講師からのコメント
- 9回 学級経営案の報告と検討(教育実習1との合併授業)
- 10回 生徒指導に関するケーススタディ(グループ討論)
- 11回 保護者理解に関するグループワーク その1
- 12回 保護者理解に関するグループワーク その2
- 13回 学校現場でのフィールドワークの報告 その1(教科教育を中心に) 教育実習1との合併授業
- 14回 学校現場でのフィールドワークの報告 その2(教科外教育、生徒指導を中心に)
- 15回 学校現場でのフィールドワークの報告 その3(特別ニーズ教育を中心に)
全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

学級経営案 20% フィールドワークレポート 20%
毎回のノートと期末レポート 60% で評価する。
なお、授業を欠席し、補講を受けていない回があれば、10%の減点になります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の授業内容についてはきっちりとノートにまとめて一冊に綴じ合わせておくこと。
模擬授業やフィールドワークの報告には十分な準備をして臨むこと

教職実践演習 (中・高) 【夜】

履修上の注意 /Remarks

本授業が始まるまでに、自己評価シートを記入し、教員としての最低限の資質を獲得していくうえでの自己教育の課題を明確化しておくこと。
。 毎回の授業内容については必ず教職実践演習ノートにまとめておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この科目はこれまでの教職課程のすべての学習の総決算と言える科目です。
卒業後に教員への道を歩む人だけでなく、他の進路を選択した人も、教員免許状を取得する社会的責任を自覚して、最後まで真摯な態度で授業に臨んでもらえることを願っています。

キーワード /Keywords

教員としての最低限の資質、自己教育力

特別支援教育論【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

本授業での概要は以下の通りである。
 ①特別な支援を必要とする子どもの障害特性や心身の発達を理解するとともに、特別な支援を必要とする子どもの教育課程と支援方法について、その背後にあるインクルーシブ教育の理念も踏まえて検討する。
 ②貧困や虐待的な養育環境に置かれている子どもや外国にルーツを持つ子ども、セクシュアルマイノリティの子どもなど、多様な「特別なニーズ」を持つ子どもの抱える問題への理解と支援の課題を考察する。
 ③ 学校での福祉教育や職場体験などで求められる社会福祉施設入所者に対する理解と援助の在り方について、とりわけ認知症の高齢者の問題やその支援の課題について学習する。

到達目標 特別なニーズを持つ子ども、特別支援教育に関する基礎的な知見を修得している。

教科書 /Textbooks

楠 凡之 2012 「自閉症スペクトラム障害の子どもへの援助と学級づくり」 高文研

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文科省特別支援学校学習指導要領

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画

1. オリエンテーション + 昨年度のテキスト感想レポートの紹介
2. 特別支援教育の教育制度と教育課程
3. 発達障害・軽度知的障害の子どもに対する理解と援助
4. 自閉スペクトラム症の当事者研究
5. 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その1 日本語学習支援の取り組み
6. 外国にルーツを持つ子どもへの理解と支援 その2 学力問題とアイデンティティ問題に視点をあてて
7. セクシュアルマイノリティの子ども・青年の抱える生きづらさについて
8. 性の多様性が尊重される学級づくりの課題
9. 肢体不自由・重度心身障害児・者についての理解と支援 (外部講師)
10. 知的障害の特別支援学校での教育実践と支援の留意点(外部講師)
11. 学校における福祉教育の課題 - 高齢者・認知症の問題に視点をあてて(外部講師)
12. 被虐待児に対する理解と指導 - 不安定な愛着の問題に視点をあてて
13. インクルーシブ教育と集団づくり その1 小学校
14. インクルーシブ教育と集団づくり その2 中学校
15. インクルーシブ教育と集団づくり その3 高等学校
全体のまとめ

注 この中の第9回目から第11回目までの授業は「介護等体験事前指導」の授業を兼ねます。
 なお、この4回の事前指導とは別に「介護等体験事前説明会」を7月の中旬に実施します。

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート20点(+ボーナス点)、平常点40点(+ボーナス点)、期末レポート 40点
 (6回以上欠席した場合や期末レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストは早めに読んでレポートにまとめて提出すること。
 介護等体験に行く学生は、9回目から11回目の内容を介護等体験ノートにまとめること。

履修上の注意 /Remarks

特別支援教育論は2019年度入学の学生から、教職課程の学生の必修科目になっています。
 ただし、9回目から11回目の授業については、2018年度以前入学生の「介護等体験事前指導」との合同の授業となる点、ご了解いただきたい。

特別支援教育論【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

本授業は全学の教職課程の学生の必修授業であると同時に、人間関係学科の専門教育科目、地域創生学群のスクールソーシャルワーカー課程の専門科目を兼ねています。
そのような多様な興味・関心や背景を持つ学生同士の中での学び合いを期待しています。

キーワード /Keywords

特別支援教育、特別なニーズ、自閉スペクトラム症、セクシュアルマイノリティ、外国にルーツを持つ子ども

発達心理学【夜】

担当者名 /Instructor 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

発達心理学は、年齢に関連した経験と行動にみられる変化の科学的理解に関する学問である (Butterworth, 1994)。本講義では乳児期から青年期を中心に特徴的なテーマを取り上げ、人間の発達に関する心理学的理解を深める。特に、自己・他者への理解、他者との関係性の形成について紹介したい。

また、児童生徒の理解と指導について、発達における障害の問題等を取り上げ、その基本的な理解や支援について学ぶ。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達心理学に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

藤村 宣之 編著 『発達心理学 周りの世界とかわりながら人はいかに育つか (いちばんはじめに読む心理学の本 3)』 ミネルヴァ書房 ¥2750

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

文部科学省 (2011) 「生徒指導提要」

その他、授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：発達心理学とはどのような学問か
- 第2回 胎児期・乳児期の赤ちゃんの発達【知覚】
- 第3回 乳児期の赤ちゃんの認知と言語の発達【認知、言語】
- 第4回 赤ちゃんのもつ能力と生後1年間の変化について
- 第5回 乳児期の人との関係のはじまりについて【発達早期のコミュニケーション】
- 第6回 愛着の形成【愛着、内的作業モデル】
- 第7回 愛着の形成【成人の愛着、愛着の世代間伝達】
- 第8回 まとめ と レポート課題1
- 第9回 乳幼児期のコミュニケーション発達【共同注意】
- 第10回 他者とのコミュニケーション、心を推測する力【表象、心の理論】
- 第11回 児童期における思考の深まり【論理的思考、メタ認知】
- 第12回 自分らしさの発達について【アイデンティティの形成】
- 第13回 成人期以降の発達段階【親密性、生殖性、人生の統合】
- 第14回 児童生徒の心理と理解【発達障害の基本的理解】
- 第15回 まとめ と レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポートを含む) ... 20% レポート課題 ... 80%

6回以上欠席した場合やレポート課題(2回)を提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、教科書等の該当部分を予習してくること。また、授業終了後には教科書や配布プリントを用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

障害児の心理と指導 【夜】

担当者名 税田 慶昭 / SAITA YASUAKI / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

「障害」とは何か。その社会的定義、障害者観を踏まえ、障害を有する人々が示す特徴について理解を深める。また、障害児・者の抱える発達課題、支援のあり方について具体的なアセスメント・臨床技法を交えて考える。

なお、この科目は、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「II類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】発達における障害とその支援に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

プリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：障害児の心理と指導について
- 第2回 障害の概念とノーマライゼーション
- 第3回 人々の障害者観：障害をどう捉えるか
- 第4回 障害の重積・深化の過程と発達援助
- 第5回 視覚障害について
- 第6回 聴覚障害について
- 第7回 知覚障害の理解と支援
- 第8回 まとめ・レポート課題1
- 第9回 姿勢・運動の障害について
- 第10回 知的障害について
- 第11回 障害のアセスメント【発達評価・心理検査】
- 第12回 発達障害について①【自閉スペクトラム症】
- 第13回 発達障害について②【注意欠如多動症・限局性学習症】
- 第14回 家族支援・地域支援について
- 第15回 まとめ・レポート課題2

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点(小レポート含む) ... 20% レポート課題 ... 80%
6回以上欠席した場合やレポート課題(2回)を提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

次回の授業範囲を予告するので、各自予習してくる。また、授業終了後には配布プリント等を用いて各自復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語科教育法I【夜】

担当者名 /Instructor 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

〈概要〉

この授業は中学校・高等学校の英語科教員になるための基礎的な知識と技能を身につける。特に、中学校の英語教育に中心をおき、学習指導案の書き方および基本的な指導技術を学ぶ。

< 授業の到達目標 >

- ・ 英語科教育実践の目標、学力、内容、評価に関する基本的な知識を有している。
- ・ 新学習指導要領の特徴や課題を理解している。
- ・ 英語科教育実践の諸問題とその解決の課題についての意見を述べることができる。
- ・ 英語科教育実践の諸問題を意欲的に考察し、改善を図ろうとする態度を養う。

教科書 /Textbooks

『中等英語教育』 深澤清治 編著 協同出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。

なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

新里真男ほか著、SUNSHINE ENGLISH COURSE 1～3 開隆堂 2012年 310円

松本茂ほか著、ONE WORLD English Course 1～3 教育出版 2012年 310円

高橋貞雄ほか著、"NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 1～3"三省堂 2012年 310円

笠島準一、関典明ほか著、NEW HORIZON English Course 1～3 東京書籍 2012年 310円

矢田裕士、吉田研作ほか著、TOTAL ENGLISH 1～3 教育出版 2012年 310円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 英語教育の目的
3. 英語の指導法(1) コミュニカティブ・アプローチ以前
4. 英語の指導法(2) コミュニカティブ・アプローチとその後
5. より良い指導のために(1) 音声指導
6. より良い指導のために(2) コミュニケーションにつながる文法指導の基本
7. より良い指導のために(3) コミュニケーションにつながる文法指導(コミュニケーション活動)
8. 評価の方法と学習指導案の書き方
9. 学習指導案の書き方(1)
10. 学習指導案の書き方(2)
 11. 模擬授業の準備
 12. 模擬授業(中学校1年生)
 13. 模擬授業(中学校2年生)
 14. 模擬授業(中学校3年生)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験 60%、提出物20%、模擬授業20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定ページを読んでくる。

事後学習 課題に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

英語科教育法I【夜】

キーワード /Keywords

英語科教育法Ⅱ【夜】

担当者名 森 千鶴 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義・演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業の概要 /Course Description

〈概要〉

この授業は中学校・高等学校の英語教員になるための、基礎的な知識と技能を身につけることを目的とする。特に高等学校の英語教育を中心に、学習指導案の書き方と基礎的な指導技術を学ぶ。

< 授業の到達目標 >

- ・ 英語科教育実践の目標、学力、内容、評価に関する基本的な知識を踏まえて、授業を行う際に留意すべき事柄に関する知識を有している。
- ・ 英語科教育実践の諸問題とその解決の課題について、多角的な観点から意見を述べることができる。
- ・ 学習材を基に学習指導案を作成し、意欲的に授業を設計することができる。
- ・ 第二言語習得理論とその活用について理解し、授業指に生かすことができる。

教科書 /Textbooks

『中等英語教育』 深澤清治 編著 協同出版

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜プリントを配布する。なお、以下の教科書は教職資料室に保管しています。

松本世志子ほか著、ENGLISH NOW Revised Edition I・II 開隆堂 2012年、630円

NEW WORLD ENGLISH COURSE I・II 三友社

南村俊夫著、Vivid Reading MEW EDITION第一学習社、2007年、765円

Onstage English Course I・II 池田書店

EXCEED English Series New Edition I・II 三省堂

田辺正美ほか著、PROMINENCE English I・II 東京書籍、2012年、630円

山本良一ほか著、"MAINSTREAM ENGLISH COURSE Second Edition I・II" 増進堂 2012年 570円

Minton, T.D. ほか著 Revised POLESTAR English Course I・II 数研出版 2012年 570円 "Revised Edition SUNSHINE English Course I・II" 開隆堂

田中茂範、武田修一ほか著、"PRO-VISION New Edition ENGLISH COURSE I・II" 桐原書店 2013年、650円 卯城祐司ほか著、ELEMENT English Course I・II 啓林館 2013年、650円

Voyager English Course NEW EDITION I・II 第一学習社

市川泰男、高橋和久ほか著、"NEW EDITION UNICORN 2012年、630円 ENGLISH COURSE I・II" 文英堂

Genius English Course Revised I・II 大修館書店 霜崎寛ほか著、CROWN English Series New Edition I・II 三省堂 2012年、630円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. コミュニケーション能力および評価について
2. 第二言語習得と英語教育
3. 4技能統合の理念とタスクの意義 (PCPPモデル)
4. リーディングの理論と実践
5. ライティングの理論と実践
6. 4技能統合の実践方法
7. 「英語コミュニケーションI,II」指導案の考え方
8. 「英語コミュニケーションI,II」指導案の書き方
9. 「英語コミュニケーションI,II」指導案の書き方
10. モデル授業準備
11. モデル授業準備
12. モデル授業 (1)
13. モデル授業 (2)
14. モデル授業 (3)
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

試験60%、提出物20%、模擬授業20% 「

英語科教育法II 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習 教科書の指定箇所を読んでくる。
事後学習 学習課題に取り組む。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

自然史へのいざない【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 河野 智謙 / Tomonori KAWANO / 環境生命工学科 (19~)
柳川 勝紀 / Katsunori YANAGAWA / 環境生命工学科 (19~)

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0001F	◎		○		○
科目名	自然史へのいざない				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

北九州市は化石の一大産地であり、多様で豊かな自然に囲まれた都市であるとともに、古くより交通の要衝として栄えてきた。本科目は北九州市立自然史・歴史博物館（愛称：いのちのたび博物館）を舞台とした、学芸員および北方・ひびきの両キャンパスの教員によるオムニバス講義である。多様な生命をはぐくんできた地球の歴史、そして人間の歴史に関する基礎的な知識を身に付けながら、学芸員や教員のそれぞれの分野の最先端のトピックについて学習し、北方・ひびきの両キャンパスの交流を通して、より多角的な視点から自然と歴史について学ぶ。

到達目標

- 【知識】自然史を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】自然史についての考え方をを用いて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】自然史に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。関連のテーマに関して積極的に情報を仕入れ、自ら学び続けることができる。

本講義はほぼ遠隔授業（ライブもしくはオンデマンド）です。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。なお、ライブ授業の回であっても、録画したものを後から視聴し、課題に取り組むことができます。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

講義のテーマは下記の通り。

[ラ] ライブ授業、[オ] オンデマンド配信授業、[対] 対面授業、()内は担当者、【 】はキーワード

- 1回 [ラ] ガイダンス (日高)
- 2回 [ラ] 生命の起源を探る (柳川) 【極限環境】 【微生物】
- 3回 [オ] 植物を鍵とした生物間相互作用 (真鍋) 【共生】 【食物連鎖】
- 4回 [オ] 北九州市周辺の地質と化石の多様性について (太田) 【化石】 【ジオパーク】
- 5回 [オ] 博物館を楽しむ：いのちのたびで知る脊椎動物進化 (大橋) 【恐竜】 【脊椎動物】
- 6回 [オ] 鳥類の生態と進化 (中原) 【適応放散】 【進化的軍拡競争】
- 7回 [オ] 海産無脊椎動物の行動生態学 (竹下) 【無脊椎動物】
- 8回 [オ] 多様性生物学と進化 (養島) 【進化】 【生物多様性】
- 9回 [オ] アンモナイトの古生物学 (御前) 【古生態学】 【異常巻アンモナイト】
- 10回 [オ] 水辺の隣人、両生類の多様性と保全 (江頭) 【絶滅危惧】 【ホットスポット】
- 11回 [対] 博物館見学 (日高)
- 12回 [ラ] 人新世におけるヒトと植物の関係 (河野) 【人新世】 【科学史】
- 13回 [ラ] 北九州の近代史 (藤田) 【軍都】 【SDGs未来都市】
- 14回 [ラ] 課題研究・ぼけっとミュージアム (日高)
- 15回 [ラ] まとめ (日高)

自然史へのいざない【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 60%
- ・ 授業への積極的取り組み (質問・ディスカッション等) 20%
- ・ 博物館見学レポート 10%
- ・ まとめレポート 10%

上記の提出が全くない場合は、評価不能 (ー) です。※北方生のみ、ひびきの生除く。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前にキーワードについて自分で調べておくこと。

事後学習：授業中に与えられた課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。

<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 第11回は12月3日 (土) 午後3限または4限に博物館にて見学の予定。
 - ・ 博物館までの交通費は自己負担。保険加入 (学研災など) の状況を確認しておくこと。
 - ・ 第14回はグループワークを行うのでできるだけライブで参加すること。
- 第1回に詳細について説明するので必ず参加 (視聴) すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：

13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

生命と環境【夜】

担当者名 /Instructor 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター, 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0100F	◎		○		○
科目名	生命と環境		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

約40億年前の地球に生命は誕生し、長い時間をかけて多様な生物種へと進化してきた。生命とはなにか。生物は何からできており、どのようなしくみで成り立ち、地球という環境においてその多様性はどのように生じてきたか。本講では、(1)宇宙と生命がどのような物質からできているか、(2)生物の多様性と影響を与えてきた環境とはどのようなものか、(3)進化の原動力となった突然変異とは何かなどについて広く学ぶとともに、(4)生命や宇宙がこれまでにどのように「科学」されてきたかを知ることによって、科学的なものの捉え方や考え方についても学びます。

到達目標

- 【知識】多様な生命とそれを生み出した環境を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】多様な生命とそれを生み出した環境について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命と環境に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔(オンデマンド)授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- 宇宙と生命の起源—ビッグバンから人類誕生まで 嶺重慎・小久保英一郎編著 2004年(岩波ジュニア新書)990円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | |
|-------------------------------|-----------------|
| 1回 ガイダンス(日高・中尾) | |
| 2回 自然科学の基礎(1)ミクロとマクロ(日高・中尾) | 【物質の単位】【自然科学】 |
| 3回 自然科学の基礎(2)宇宙で生まれた物質(中尾) | 【元素】【原子】【超新星爆発】 |
| 4回 自然科学の基礎(3)生命と分子(日高) | 【DNA】【タンパク質】 |
| 5回 生物の多様性(1)生物の分類と系統(日高) | 【種】【学名】【系統樹】 |
| 6回 生物の多様性(2)ウイルスは生物か(日高) | 【ウイルス】 |
| 7回 生物の多様性(3)単細胞生物と多細胞生物(日高) | 【細胞膜】【共生説】 |
| 8回 生物の多様性(4)生態系と進化(日高) | 【食物連鎖】【絶滅】【進化】 |
| 9回 生物の多様性(5)多様な生命(日高) | 【生物多様性】 |
| 10回 遺伝子の多様性(1)遺伝子の名前(日高) | 【突然変異】【遺伝学】 |
| 11回 遺伝子の多様性(2)多様性を生む生殖(日高) | 【有性生殖】【減数分裂】 |
| 12回 科学的な方法とは(1)科学と疑似科学(日高・中尾) | 【血液型】【星座】 |
| 13回 科学的な方法とは(2)太陽と地球の環境(中尾) | 【太陽活動】【地球温暖化問題】 |
| 14回 科学的な方法とは(3)人類の起源(日高) | 【ミトコンドリア】 |
| 15回 質疑応答とまとめ(日高) | |

生命と環境【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み（質問・ディスカッション等） 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(－)です。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中の課題に沿って学習し、Moodle (e-learningシステム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

- ・ 高校で生物を履修していない者は教科書または参考書を入手し、授業に備えること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

基盤教育センターの専任教員・日高（生物担当）および中尾（物理担当）による自然科学の入門講座です。この分野が苦手な者や初めて学ぶ者も歓迎します。参考書やインターネットを活用し、わからない用語は自分で調べるなど、積極的に取り組んで下さい。暗記中心の受験勉強とは違った楽しみが生まれるかもしれません。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
13. 気候変動に具体的な対策を 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう

生命科学入門 【夜】

担当者名 日高 京子 / Hidaka Kyoko / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
BI0200F	◎		○		○
科目名	生命科学入門				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

ヒトの体は約37兆個の細胞からなり、生命の設計図である遺伝子には2万数千もの種類がある。近年、「ヒトゲノム計画」が完了し、すべての遺伝情報が明らかとなった。個々の遺伝情報のわずかな違いが体質の違いや個性につながり、これを利用した個の医療が行われる時代も近い。そこで(1)体はどのような物質からできているか、(2)遺伝子は体の何をどのように決めているのか、(3)細胞の社会とはどういうものでそれが破綻するとどのような疾患につながるのか、(4)体を維持し守るしくみは何かなど、人体を構成する細胞と遺伝子の不思議を学ぶことによって、新しい時代を生き抜くための生命科学の基礎知識を身につけることを目標とする。

到達目標

- 【知識】生命科学を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断・表現力】生命科学の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】生命科学に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

※本講義は遠隔（オンデマンド）授業で行います。学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

- 現代生命科学 東京大学生命科学教科書編集委員会 2020年(羊土社)3080円
- もう一度読む数研の高校生物 第1巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円
- もう一度読む数研の高校生物 第2巻 嶋田正和他編 2012年(数研出版)1980円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|----------------------|---------------------|
| 1回 | ガイダンス | |
| 2回 | 体を作る物質(1)細胞の構成成分 | 【多糖・脂質・タンパク質・核酸】 |
| 3回 | 体を作る物質(2)食物分子と代謝 | 【酵素】【触媒】 |
| 4回 | 体を作る物質(3)遺伝物質DNA | 【二重らせん】 |
| 5回 | 体を作るしくみ(1)遺伝子が働くしくみ | 【RNA】【セントラルドグマ】 |
| 6回 | 体を作るしくみ(2)遺伝子でできること | 【ゲノム】【体質】【遺伝病】 |
| 7回 | 体を作るしくみ(3)発生と分化 | 【転写因子】【クローン】【iPS細胞】 |
| 8回 | 細胞の社会(1)そのとき染色体は | 【細胞周期】【染色体異常】 |
| 9回 | 細胞の社会(2)細胞のコミュニケーション | 【受容体】【シグナル分子】 |
| 10回 | 細胞の社会(3)社会の反逆者・がん | 【がん遺伝子】 |
| 11回 | 関連ビデオ鑑賞 | |
| 12回 | 体を守るしくみ(1)寿命と老化 | 【早老症】【テロメア】 |
| 13回 | 体を守るしくみ(2)免疫とウイルス | 【ウイルス】【抗体】 |
| 14回 | 体を守るしくみ(3)私たちと微生物 | 【腸内細菌】 |
| 15回 | 質疑応答・まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の確認テスト及びミニレポート 70%
 - ・ 授業への積極的取り組み(質問・ディスカッション等) 20%
 - ・ まとめレポート 10%
- 上記の提出が全くない場合は、評価不能(一)です。

生命科学入門 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：授業開始前までに各回の【 】内のキーワードについて簡単に調べておくこと。
事後学習：授業中に出された課題に沿って学習し、Moodle (e-learning システム) で提出すること。
<https://moodle.kitakyu-u.ac.jp>

履修上の注意 /Remarks

高校で生物を履修していなかった者は教科書または参考書を入手して備えること。
遠隔授業の予定です。詳細については第1回目にMoodle上で説明します。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

人体を構成する細胞やその働きを操る遺伝子について、ここ数十年程の間で驚く程いろいろなことがわかってきました。その緻密で精巧なしくみは知れば知るほど興味深いものですが、ヒトの体について良く知ること、生命科学の基礎を学ぶことは、これから皆さんが生きて行く上でも非常に大切です。苦手だからと怯まずに、一緒に頑張りましょう。

キーワード /Keywords

SDGsとの関連：
3. すべての人に健康と福祉を

安全保障論【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS111F	◎		○		○
科目名	安全保障論			※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連	

授業の概要 /Course Description

安全保障について多角的に検討する授業です。中盤からは防衛問題が中心となります。安全保障・防衛に関心がある受講者はもちろんですが、もともとあまり関心がない、全く知らない、という受講者でも理解できるように丁寧な解説を心がけます。ぜひ、受講してください。

動画は、各回、編集カットをほどこし、BGMやテロップを付け、youYube仕様で配信します。なるべく楽しく学習できるような動画を作りたいと思っています。

到達目標

- 【知識】安全保障を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】安全保障上の諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】安全保障に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業は15回で、1回45～60分程度、動画視聴してもらいます。以下は、昨年度配信した動画タイトルですが、今年度は、多少、整理します。(19タイトルありますが、19回授業があるわけではありません)

- ガイダンス / 安全保障の考え方その1 (抑止について)
- 安全保障の考え方その2 (国際環境について)
- 安全保障とは何か / 専守防衛と日本
- 安全保障と外交
- 自衛隊の海外派遣
- 安全保障の非軍事的な側面
- 日米同盟と自衛隊
- 自衛隊の任務
- 防衛出動 / 存立危機事態と集団的自衛権
- 海上警備行動
- 企画動画
- 安全保障流の地図の読み方
- スクランブル
- 弾道ミサイル防衛 (BMD)
- イージス・アショアと代替

成績評価の方法 /Assessment Method

1～3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行います。
小テスト(6回)100%、ただし、小テストの実施回数は若干前後する可能性があります。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

安全保障論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので、質問や感想がある場合、書き込んでください。また、動画のコメント欄も活用できます。

頻繁に小テストがあるので、何回でも動画を視聴して、理解することが事後学習ですが、関連動画の視聴もお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、面白い動画づくりを心がけます。

キーワード /Keywords

国際社会と日本【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科, 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
IRL004F	◎		○		○
科目名	国際社会と日本				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

戦後日本政治史を講じる。

[到達目標]

【知識】国際社会と日本の関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断・表現力】国際社会と日本の関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】国際社会と日本のあり方に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

この講義はメディア授業です。毎週、決められた時間にMoodleから受講してください。教科書の他、必要な資料をMoodleにアップすることがあります。

教科書 /Textbooks

五百旗頭真編『第3版補訂版 戦後日本外交史』(有斐閣 2014)、定価税込み2,160円を使用する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ガイダンスの時、あるいは授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 戦後日本外交の構図
- 3回 占領下日本の外交1【日本国憲法】【占領改革】
- 4回 占領下日本の外交2【サンフランシスコ講和】【日米安保条約】
- 5回 独立国の条件1【自主外交】【二大政党制】
- 6回 独立国の条件2【日米安保条約改定】
- 7回 経済大国外交の原型1【高度経済成長】
- 8回 経済大国外交の原型2【沖縄復帰】
- 9回 自立的協調の模索1【テタント】
- 10回 自立的協調の模索2【石油危機】
- 11回 「国際国家」の使命と苦悩1【日米同盟】
- 12回 「国際国家」の使命と苦悩2【経済摩擦】
- 13回 冷戦後の外交1【軍縮】【湾岸戦争】
- 14回 冷戦後の外交2【テロとの戦い】
- 15回 授業の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート 50% テスト 50%

- ・ 5回以上欠席した場合は、評価不能(-)とします。
- ・ レポートと試験のどちらか一方でも、受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までにあらかじめ資料や教科書で授業内容を調べておくこと。授業終了後には、授業ノートと資料や教科書を照合しながら、理解を深めること。

履修上の注意 /Remarks

複数の先生の担当授業です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業前には予め教科書で該当箇所を学習し、終了後は復習を行うこと。

キーワード /Keywords

近現代 国際関係史 東アジア

グローバル化する経済【夜】

担当者名 /Instructor 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
柳井 雅人 / Masato Yanai / 経済学科, 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科
田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科, 武田 寛 / Hiroshi Takeda / マネジメント研究科 専門職学位課程
松田 憲 / マネジメント研究科 専門職学位課程

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
ECN001F	◎		○		○

科目名

グローバル化する経済

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

今日の国際経済を説明するキーワードの一つが、グローバル化である。この講義では、グローバル化した経済の枠組み、グローバル化によって世界と各国が受けた影響、グローバル化の問題点などを包括的に説明する。日常の新聞・ニュースに登場するグローバル化に関する報道が理解できること、平易な新書を理解できること、さらに、国際人としての基礎的教養を身につけることを目標とする。複数担当者によるオムニバス形式で授業を行う。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題に取り組むことが求められます。

（到達目標）

【知識】グローバル化する経済を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【思考・判断】グローバル化する経済について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【行動力】グローバル化社会に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション－グローバル化とは何か
- 2回 自由貿易【比較優位】【貿易の利益】【保護貿易】
- 3回 地域貿易協定【自由貿易協定】【関税同盟】【経済連携協定】
- 4回 企業の海外進出と立地（1）【直接投資】
- 5回 企業の海外進出と立地（2）【人件費】【為替レート】
- 6回 海外との取引の描写【経常収支と資本移動の関係について】
- 7回 先進国と途上国間の資本移動【経済成長と資本移動について】
- 8回 グローバル化とファイナンス(1)【金融市場】【外国人投資家】
- 9回 グローバル化とファイナンス(2)【資産運用】【行動ファイナンス】
- 10回 比較文化心理学（1）【文化と認知】
- 11回 比較文化心理学（2）【文化と感情】
- 12回 国際労働移動（1）【日本における外国人労働者の受け入れ】【賃金決定理論の基礎】
- 13回 国際労働移動（2）【移民と所得分配】【移民の移動パターン】【移民の経済的同化】
- 14回 グローバル化の要因とメリット【消費者余剰】
- 15回 グローバル化のデメリット【所得格差】【金融危機の伝染】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験: 100%。

学期末試験を受験しなかった場合は、評価不能（－）とする。

グローバル化する経済【夜】

基盤教育科目
教養教育科目
世界(地球)科目

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業内容の復習を行うこと、また授業の理解に有益な読者や映像視聴などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済関連のニュースや報道を視聴する習慣をつけてほしい。授業で使用するプリントはMoodleにアップするので、きちんと復習すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SDG 8. 働きがい・経済成長

アカデミック・スキルズI【夜】

担当者名 廣渡 栄寿 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 1学期未修得者再
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class 履

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
GES101F		◎	○	△	
科目名	アカデミック・スキルズI				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本授業の目的は、大学生活に必要な「考える力」の基礎となるスキルを身に付けることである。様々な問題が発生する現代社会においては、こうすれば大丈夫という誰にも共通な正解が存在しない。しかし、その正解のない課題について考えていく姿勢が大切である。考えることは、学びを深めていく上で大切な能力のひとつであり、「考える力」の習得こそが、複雑で予想しがたい現代社会を生き抜いていくための基盤を作り上げる。本授業では、様々なテーマを題材にアクティブ・ラーニングの授業形態を取りながら、以下の2点に関する能力の習得を目指す。また、大学での学びや生活に必要な知識や情報リテラシーについての学習も行う。

- ・ 情報技術を活用して、自分の考えを表現することができる。
- ・ 正解のない課題の解決に向けて、諦めることなく考え抜くことができる。

(到達目標)

- 【技能】 大学生活に必要な「考える力」の基礎となる技能を身につけている。
- 【思考・判断・表現力】 設定されたテーマについて論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【コミュニケーション力】 異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、随時、授業中に紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、大学ポータルサイトの説明【ID、パスワード等】
- 2回 情報リテラシー1【大学ICT環境、e-Learningシステム等】
- 3回 情報リテラシー2【情報モラル、情報セキュリティ、著作権等】
- 4回 情報リテラシー3【文書作成】
- 5回 情報リテラシー4【表計算、グラフ】
- 6回 情報リテラシー5【情報リテラシーの振り返り】
- 7回 大学での学びや生活について【剽窃と引用、キャンパス・マナー】
- 8回 考える力1【受け取る力の説明】
- 9回 考える力2【受け取る力の演習】
- 10回 考える力3【処理する力の説明】
- 11回 考える力4【処理する力の演習】
- 12回 考える力5【発信する力の説明】
- 13回 考える力6【発信する力の演習】
- 14回 振り返り
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

積極的な授業への取り組み（課題・レポートを含む）… 100%
ただし、情報リテラシー（情報モラル、情報セキュリティ、文書作成、表計算、グラフ）の必須課題に合格しなければならない。なお、課題やレポート等の提出が全くない場合は、評価不能（-）です。

アカデミック・スキルズI【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当者の指示に従い、毎回、授業開始前までに必要な授業の準備を行い、授業終了後に学んだことを振り返り、まとめておくこと。また、大学生活で欠かせない情報リテラシー能力の習熟には日々の練習が欠かせないため、正規の授業時間外の時間に、パソコン自習室や自宅にて積極的に操作練習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講生の興味関心や理解度等に応じて、授業計画や授業内容等を変更することがある。また、授業の一部、もしくは、全てを遠隔で実施する可能性もある。詳細は、授業中に説明する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回に適したワークや質疑応答等を繰り返しながら、授業を展開していく。このため、積極的に授業に参加して欲しい。

キーワード /Keywords

考える力、情報リテラシー、アクティブ・ラーニング

情報社会への招待【夜】

担当者名 /Instructor 中尾 泰士 / NAKAO, Yasushi / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
INF100F		◎	○		
科目名	情報社会への招待		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

この授業は【遠隔】授業（オンデマンド配信など）です。授業動画を視聴するための環境を準備するか、大学内施設を利用するようにしてください。

本授業のねらいは、現在の情報社会を生きるために必要な技術や知識を習得し、インターネットをはじめとする情報システムを利用する際の正しい判断力を身につけることです。具体的には以下のような項目について説明できるようになります：

- 情報社会を構成する基本技術
- 情報社会にひそむ危険性
- 情報を受け取る側、発信する側としての注意点

本授業を通して、現在の情報社会を俯瞰的に理解し、現在および将来における課題を受講者一人一人が認識すること、また、学んだ内容を基礎とし、変化し続ける情報技術と正しくつき合えるような適応力を身につけることを目指します。

(到達目標)

【技能】情報社会を正しく理解するために必要な技能を身につけている。

【思考・判断・表現力】情報社会の課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

また、この授業で学ぶICT（情報通信技術）は、国連が定めたSDGs（持続可能な開発目標）のうち、「4．質の高い教育をみんなに」「8．働きがいも経済成長も」「9．産業と技術革新の基盤をつくろう」「10．人や国の不平等をなくそう」「17．パートナーシップで目標を達成しよう」に関連していると考えています。授業を通じて、これらの目標についても考えを深めてみてください。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。随時紹介する。

情報社会への招待【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 情報社会の特質【システムトラブル, 炎上, 個人情報】
- 2回 情報を伝えるもの【光, 音, 匂い, 味, 触覚, 電気】
- 3回 コンピュータはどのようにして情報を取り扱うか【2進数, ビット・バイト】
- 4回 コンピュータを構成するもの 1【入力装置, 出力装置, 解像度】
- 5回 コンピュータを構成するもの 2【CPU, メモリ, 記憶メディア】
- 6回 コンピュータ上で動くソフトウェア【OS, 拡張子とアプリケーション, 文字コード】
- 7回 電話網とインターネットの違い【回線交換, パケット交換, LAN, IPアドレス】
- 8回 ネットワーク上の名前と情報の信頼性【ドメイン名, DNS, サーバ/クライアント】
- 9回 携帯電話はなぜつながるのか【スマートフォン, 位置情報, GPS, GIS, プライバシ】
- 10回 ネットワーク上の悪意【ウイルス, スパイウェア, 不正アクセス, 詐欺, なりすまし】
- 11回 自分を守るための知識【暗号通信, ファイアウォール, クッキー, セキュリティ更新】
- 12回 つながる社会と記録される行動【ソーシャルメディア, 防犯カメラ, ライフログ】
- 13回 集合知の可能性とネットワークサービス【検索エンジン, Wikipedia, フリーミアム, クラウド】
- 14回 著作権をめぐる攻防【著作権, コンテンツのデジタル化, クリエイティブコモンズ】
- 15回 情報社会とビッグデータ【オープンデータ】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に提示する課題 ... 100%

以上の観点から評価した結果が「0点」の場合は「評価不能(一)」と表示されます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

e-Learningサイト「Moodle」に授業資料を提示しますので、事前学習・事後学習に利用してください。また、Moodleの課題等に期限までに解答したりしてもらいます(必要な学習時間の目安は予習60分, 復習60分)。

その他, ICTに関するニュースを視聴するなど, 日常的, 能動的に情報社会に関する事柄に興味をもつことをお勧めします。

履修上の注意 /Remarks

受講生の理解や授業進度に応じて、授業計画を変更する可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

専門用語が数多く出てきますが覚える必要はありません。必要なときに必要なものを取り出せる能力が重要です。アンテナを張り巡らせ、「情報」に関するセンスをみがきましょう。分からないことがあれば、随時、質問してください。

キーワード /Keywords

情報社会, ネットワーク, セキュリティ, SDGs 4. 質の高い教育を, SDGs 8. 働きがい・経済成長, SDGs 9. 産業・技術革命, SDGs 10. 不平等をなくす, SDGs 17. パートナリシップ

現代人のこころ【夜】

担当者名 /Instructor 福田 恭介 / Kyosuke Fuikuda / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 1学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY003F			◎	○	○
科目名	現代人のこころ		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

現代を生きているわれわれの「こころ」について考えていきます。「こころ」というと、通常は、笑ったり、悲しんだり、怒ったりといったことを引き起こしているものと思いがちです。

「こころ」を科学的に調べるにはどうすればいいのでしょうか？医療現場のように血液を採集してその人の「身体の状態」はわかっても、その人の「こころ」までがわかるわけではありません。

「こころ」は目に見えるものではないので、「こころ」を知るために心理学では行動を観察することから始めます。観察する対象は、行動だけでなく、質問にハイ・イエで答える単純なものから、実験室でモニター画面を見て答えてもらったり、そのときの身体の反応を測ったりするものまでさまざまです。心理学の研究者は、さまざまな側面からどうすれば「こころ」のしくみが明らかになるか実験や研究を続けています。

「こころ」はそれだけではありません。目の前のテーブルに置かれたリンゴを見て指さすこと、これも「こころ」が引き起こしているものです。なぜなら、目の網膜に映ったリンゴを、目の網膜の中にあるものではなく、あそこのテーブルの上にあるものと判断しているからです。さらに、リンゴは真っ赤で、噛むと口中に果汁が染みわたり、美味しそうだと思うこと、これも「こころ」の一部です。

こういった基礎的な面を明らかにした上で、「こころ」の問題で苦しさや困難さを抱えている人たちを支援していこうとするのです。この授業では、さまざまな側面から「こころ」がどのように見えるのかについて考えていきます。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代人のこころを取り巻く諸問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【コミュニケーション力】異なる価値観を理解し、組織や社会の活動を促進する力を身につけている。

【自立的行動力】現代人のこころを取り巻く課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

遠隔授業が必要になった場合は、インターネットで北九大Moodleに接続し、そこにある授業資料をよみ、授業動画を視聴した後、授業に対する所定のコメントを翌日まで提出することが求められます。授業動画については、資料内に記載されたウェブサイト (URL) をクリックすることで視聴できます。

教科書 /Textbooks

教科書はとくに指定しませんが、レポートを書くには下記の参考書を読むことで理解が深まります。

現代人のこころ【夜】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 行場次朗・箱田裕司(2014)新・知性と感性の心理 - 認知心理学最前線 - 福村出版
- 福田恭介(2018)ペアレントトレーニング実践ガイドブック - きっとうまくいく。子どもの発達支援 あいり出版
- 神奈川LD協会編(2006)ふしぎだね!?LD(学習障害)のおともだち ミネルヴァ書房
- 丸野俊一・子安増生(1998)子どもが「こころ」に気づくとき ミネルヴァ書房
- 三浦麻子・佐藤博(2018)なるほど!心理学観察法 北大路書房
- 奥村隆 息子と僕のアスペルガー物語 <https://gendai.ismedia.jp/list/serial/okumura>
- 諏訪利明・安倍陽子編(2006)ふしぎだね!?自閉症のおともだち ミネルヴァ書房
- 諏訪利明・安倍陽子編(2006)ふしぎだね!?アスペルガー症候群「高機能自閉症」のおともだち ミネルヴァ書房
- 高山恵子編(2006)ふしぎだね!?ADHD(注意欠陥多動性障害)のおともだち。 ミネルヴァ書房
- やまだようこ(1987)ことばの前のことば 新曜社

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: 序論:心理学とは:さまざまな「こころ」の側面
- 2: 知覚1:ものが見えるとは?
- 3: 知覚2:色はなぜ見える?
- 4: 知覚3:形はなぜ見える?
- 5: 知覚4:先天性盲人の開眼手術後の知覚世界
- 6: 目1:目の動きを観察して「こころ」を探る
- 7: 目2:まばたきを観察して「こころ」を探る
- 8: 注意1:どうして騒がしい中でも会話ができるのか?
- 9: 注意2:意外と見落としやすい注意の機能
- 10: 記憶1:数秒間の記憶によってストーリーは作られる
- 11: 記憶2:昔の記憶は忘れることはない
- 12: 発達1:「こころ」どのように芽生えてくる?
- 13: 発達2:「こころ」はどのようにして人とやりとりできる?
- 14: 発達3:発達に苦手さを抱えるのはなぜ?
- 15: まとめ:いろいろな「こころ」の側面

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中のコメント(15回):30点
レポート(1回):30点
期末試験:40点

6回以上欠席した場合は、評価不能(一)とします。
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(一)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前:Moodleにあげた資料を読み、資料内のURLをクリックして動画を視聴してください。
事後:授業で取り上げた内容についてコメントを書いてください。

レポート:指定した参考書の中からもっとも関心のある領域を読んで、所定の書式のレポートに5,000字程度で要約し、200字程度のコメントを書いてください。図書館には1冊しか配架していないので生協で購入してください。レポートを書くのは前期で1回限りです。書式やメ切については最初の授業で紹介いたします。

履修上の注意 /Remarks

1. 授業を聞いて毎回コメントを書いてもらいます(事後学習)。
2. 次の授業時間、書かれたコメントの一部には回答したいと思います。
3. 配付資料やコメントへの回答には、関連する本やウェブサイトを紹介いたしますので、それに目を通すと理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に積極的に参加できるようないろいろな仕掛けを用意したいと思います。

キーワード /Keywords

知覚, 目の動き(眼球運動, 瞳孔運動, 瞬目), 選択的注意, 注意の見落とし, 短期記憶, 長期記憶, ワーキングメモリ, 心の発達, 発達障害

社会哲学入門 【夜】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR110F			◎		
科目名	社会哲学入門		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

社会哲学とは、平たく言えば、「社会って何なの？」に答える学問です。哲学の一つのヴァリエーションです。西洋の哲学は、2500年以上も前に始まったと言われます。そのあいだに、社会の形もさまざまに変化してきました。今日の社会は、大戦以前の社会とは違いますよね。社会の変化に応じて、哲学が提示する答え（理論）も変化してきました。それでは、これまでにはどんな社会があり、哲学はそれをどのように説明してきたのでしょうか？この問いを考えていくのが本講義です。

今年度は、まずは、社会の構成要素である「人間」と「共同体」を、西洋哲学の歴史を辿りつつ考えます。これは基礎編ですね。次に、現代に目を移し、現代に特有の社会的な事象とそれに答える哲学的理論（ジェンダー論、フェミニズム論、優生思想、正義論など）を見ていき、私たちが直面する社会のあり方とそこに潜む問題を考察します。こっちは、応用編です。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》哲学的課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ ○プラトン『国家』(上下), 岩波文庫
- ・ 重田園江『社会契約論 ホッブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ』, ちくま新書
- ・ S. サリー『ジュディス・バトラー』, 青土社
- ・ 米本昌平『優生学と人間社会』, 講談社現代新書
- ・ ○植村邦彦『市民社会とは何か 基本概念の系譜』, 平凡社新書
- ・ 神島裕子『正義とは何か』, 中公新書

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

社会哲学入門【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨン：哲学って何？
- 第2回 【古代】人間って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第3回 【古代】共同体って何？①：（プラトン、アリストテレス）
- 第4回 【中世】人間って何？②：（アウグスティヌス）
- 第5回 【中世】共同体って何？②：（アウグスティヌス）
- 第6回 【近代】共同体って何？③：（ホッブス、ロック、ルソー）
- 第7回 【近代】人間って何？③：（カント）
- 第8回 【近代】資本主義って何？（マルクス）
- 第9回 【現代】公共性って何？（ハーバーマス）
- 第10回 【現代】正義って何？（ロールズ）
- 第11回 【現代】ケアって何？
- 第12回 【現代】優生思想って何？
- 第13回 【現代】フェミニズムって何？
- 第14回 【現代】ジェンダーって何？
- 第15回 確認テスト

*（ ）の中は、その回に扱う主な思想家ですが、それ以外の思想家も扱います。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 毎回の小テスト 65%
- ・ 確認テスト 35%

* 小テストを4回欠席した場合は、評価不能（ - ）となります。
* 確認テストを受験しない場合も、評価不能（ - ）となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、小テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるイントロダクシヨン（導入）ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクシヨンや質問で学ぶことがたくさんあります（今までそうでしたので）。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学、社会哲学

文化を読む【夜】

担当者名 /Instructor 河内 重雄 / KOUCHI SHIGEO / 比較文化学科, 小林 浩明 / KOBAYASHI Hiroaki / 国際教育交流センター
 生住 昌大 / IKIZUMI MASAHIRO / 比較文化学科, 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科
 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 授業形態 講義 クラス 1年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
LIT001F			◎		○
科目名	文化を読む				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

文化を研究するうえで、解釈する＝読む行為は、分野をこえる基本的な営みである。本講義では、さまざまな人間の表現をとりあげて、人文的な知見からどのようにそれが読み解けるのかを示していく。文学研究、宗教研究、異文化間教育といった専門的知見から、その基本的な知識と方法を提示してみたい。“いま”、“ここ”にいる“わたし”にとって、異文化は時空をこえてひろがっている。そのことに鋭敏になるための気づきを用意するので、受講者は文化を読み解く柔軟な視点・姿勢を獲得してほしい。

◎表象

人間は情報を共有するために様々なメディアを通じた表現活動をおこなう。本講義ではそれを、表象(representation)とよび、理解と誤解の源泉として位置付けてみよう。本講義では、イメージとして生み出される表象をとりあげて、歴史社会的な文脈のなかで読み解いてみたい。

◎宗教

宗教は文化の重要な構成要素であり、人間社会の価値観と密接な関係にある。我々にとってなじみ深い神道を取り上げ、他宗教との比較の観点を交えながらわかりやすく講義したい。

◎日本近現代文学および出版文化

日本の文学・出版物とはいえ、読めばわかるというものではない。明治・大正・昭和時代ともなれば、もはや異文化である。同時代の文化について学びながらテキストと対話する基本姿勢を身につけてもらいたい。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】文化について多様な考え方を理解し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

【自立的行動力】文化に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔(オンデマンド)授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で(または大学のPC自習室にイヤホンを持参して)授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特定のテキストは使用しない。授業担当者が必要に応じて資料等を配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業担当者が適宜指示する。

文化を読む【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 表象概念の説明
- 第3回 表象を読む①描かれた〈日本人〉-明治期風刺画をとりあげて-
- 第4回 表象を読む②描かれた〈日本〉-ジャポニズムの流行をとりあげて-
- 第5回 表象を読む③演じられた〈日本人〉-オペラ『蝶々夫人』をとりあげて-
- 第6回 表象を読む④演じられた〈日本人〉-近代から現代へ-
- 第7回 表象を読む⑤演じられた〈日本人〉-大衆文化のなかの自画像-
- 第8回 表象を読む⑥自己表象としての〈日本〉〈日本人〉-オリンピックを例として-
- 第9回 神社の成立① 神社建築成立以前の神社
- 第10回 神社の成立② 神社の成立年代
- 第11回 日本の神 -神教との比較を通して
- 第12回 罪・戒律・禁忌
- 第13回 乙-「陽だまりの詩」の解釈
- 第14回 幕末・明治の出版物(西南戦争風刺画を知る)
- 第15回 幕末・明治の出版物(西南戦争風刺画を読み解く)

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート=100%(表象、宗教、文学に関する3つのレポートすべてを提出しなければ、評定不可で成績は「-」とする)
各回において、課題コメントの提出によって出席(視聴)を確認する。提出状況は成績に加味される。なお、成績評価の方法、レポート・課題の提出方法については、担当教員ごとに注意事項など指示が出されることがあるので、それにしたがうこと。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習については、授業担当者が講義中に指示する。
事後学習は、各回の授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

私語など、講義を妨げる行為は厳禁。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

履修等に関する質問は、コーディネーターの河内に質問すること。
講義内容に関する質問は、各回の授業担当教員に質問すること。

キーワード /Keywords

日本近現代文学、宗教、メディア

現代正義論【夜】

担当者名 /Instructor 重松 博之 / SHIGEMATSU Hiroyuki / 法律学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR003F			◎		
科目名	現代正義論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

本講義では、現代社会における「正義」をめぐる諸問題や論争について、その理論的基礎を倫理的・法的な観点から学ぶと同時に、その応用問題として現代社会への「正義」論の適用を試みる。

まずは、現代正義論の流れを概観する。次に、現代社会における「正義」の問題の具体的な実践的応用問題として、応用倫理学上の諸問題をとりあげる。具体的には、安楽死・尊厳死や脳死・臓器移植といった具体的で身近な生命倫理にかかわる諸問題をとりあげ考察する。そのうえで、現代正義論の理論面について、ロールズ以後現在までの現代正義論の理論展開を、論争状況に即して検討する。それにより、現代社会における「正義」のあり方を、理論的かつ実践的に考察することを、本講義の目的とする。

(到達目標)

【思考・判断・表現力】現代社会における正義の問題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

(遠隔授業)

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。講義の際に、適宜レジュメや資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- マイケル・サンデル『これからの「正義」の話しよう』（早川書房、2010年）
- マイケル・サンデル『ハーバード白熱教室講義録+東大特別授業(上)(下)』（早川書房、2010年）
- 深田三徳、濱真一郎『よくわかる法哲学・法思想 第2版』（ミネルヴァ書房、2015年）
- 盛山和夫『リベラリズムとは何か』（勁草書房、2006年）
- 川本隆史『現代倫理学の冒険』（創文社、1995年）
- 川本隆史『ロールズ - 正義の原理』（講談社、1997年）
- 瀧川裕英、宇佐美誠、大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

現代正義論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 現代正義論とは ～ 問題の所在
- 第2回 現代正義論とは ～ 本講義の概観
- [第3回～第7回まで 「正義」の応用問題(生命倫理と法)]
- 第3回 脳死・臓器移植① ～ 臓器移植法の制定と改正
- 第4回 脳死・臓器移植② ～ 法改正時の諸論点
- 第5回 脳死・臓器移植③ ～ 改正臓器移植法の施行と課題
- 第6回 安楽死・尊厳死① ～ 基本概念の整理と国内の状況
- 第7回 安楽死・尊厳死② ～ 諸外国の状況
- 第8回 現代正義論① ～ ロールズの正義論
- 第9回 現代正義論② ～ ロールズとノージック
- 第10回 現代正義論③ ～ ノージックのリパタリアニズム
- 第11回 現代正義論④ ～ サンデルの共同体主義
- 第12回 現代正義論⑤ ～ 共同体主義【論争】
- 第13回 現代正義論⑥ ～ アマルティア・センの正義論
- 第14回 現代正義論⑦ ～ センとロールズ・ノージック
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験...80% 講義中に課す感想文...20%
試験を受験しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前に、当該回扱うテーマについて、自ら予習しておくこと。授業の後は、各回の講義で配布したレジュメや資料をきちんと読み込み、復習し理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

NHK教育テレビで放送されたマイケル・サンデルの「ハーバード白熱教室」の番組を見ておけば、本講義の後半部の理解の役にたつと思います。

キーワード /Keywords

SDGs10. 不平等をなくす SDGs16. 平和と公正 ロールズ ノージック サンデル 正義 脳死 尊厳死

倫理思想史【夜】

担当者名 /Instructor 高木 駿 / Shun TAKAGI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PHR005F			◎		
科目名	倫理思想史		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

倫理学って何でしょうか？倫理学とは、私たちが行為する際の規範や義務、行為の指標となる善悪の指針、あるいは、振る舞いのために身に着けるべき性格などを探究する学問です。みなさんは大切な約束をやぶり罪悪感を覚えたことがあるでしょうか。なぜ約束をやぶることは悪いのか（あるいは、なぜ約束を守るべきなのか）、倫理学はそんな問いに答えようとしています。

倫理学の始まりは、古代ギリシアにあると言われ、その後も西洋を中心に発展してきた学問で、約2500年もの歴史があります。本講義では、その歴史を踏まえた上で、基礎的な倫理学を、いくつかの種類（義務論、功利主義、徳倫理学、メタ倫理学）に分類して紹介します。つづいて、現代社会において私たちが直面している倫理的（道徳的）問題を考察する応用倫理学を紹介します。応用の倫理学は、そのまま「応用倫理学」と呼ばれ、安楽死/尊厳死、中絶、環境破壊、ケアの問題などのより身近な問題を扱います。さまざまな行為の原理を知ってもらい、より善い人生を歩む糧にさせていただくことが、本講義の目的となります。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業となります。みなさんは、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、授業に参加してください。

【到達目標】

《思考・判断・表現力》倫理思想史における課題について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。

教科書 /Textbooks

特定の教科書はありません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- ・ 柘植尚則編『入門・倫理学の歴史 24人の思想家』, 梓出版社
- ・ 柘植尚則『プレップ倫理学』, 弘文堂
- ・ ○中島義道『悪について』, 岩波新書
- ・ 品川哲彦『倫理学入門-アリストテレスから生殖技術、AIまで』, 中公新書
- ・ 見玉聡『実践・倫理学: 現代の問題を考えるために』, 勁草書房

などなど。

* 授業中にもご紹介します。

倫理思想史【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インタロダクション
- 第2回 【基礎】倫理学って何？
- 第3回 【基礎】義務論って何？(カント)
- 第4回 【基礎】功利主義って何？(ベンタム、ミル)
- 第5回 【基礎】徳倫理学って何？(プラトン、アリストテレス、マッキンタイア)
- 第6回 【基礎】メタ倫理学って何？
- 第7回 【確認テスト①】
- 第8回 【応用】討議倫理学って何？(ハーバーマス)
- 第9回 【応用】生命医療倫理学って何？①
- 第10回 【応用】生命医療倫理学って何？②
- 第11回 【応用】環境倫理学って何？(ネス)
- 第12回 【応用】動物倫理学って何？(シンガー、レーガン)
- 第13回 【応用】ケアの倫理って何？(ギリガン、キテイ)
- 第14回 【応用】情報倫理学って何？
- 第15回 【確認テスト②】

* () の中は、その回に扱う主な思想家です。書いてないところは、その理論全体をおさえることを目標にしています。

成績評価の方法 /Assessment Method

- ・ 確認テスト① 50%
- ・ 確認テスト② 50%

* いずれかの確認テストを受験しなかった場合は、評価不能(-)となります。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回の最後に、その次の回に関連するキーワードをお伝えしますので、それについて辞典・事典やネットで調べてきましょう。このキーワードに関連する問題が、テストでは出題されます。

履修上の注意 /Remarks

初回は、いわゆるインタロダクション(導入)ですが、講義全体の進め方や成績の付け方についても説明するので、必ず試聴してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

僕は、教員ですが、みなさんのリアクションや質問で学ぶことがたくさんあります(今までそうでしたので)。「教え-教えられる」関係ではなくて、「互いに教え合う」関係になりましょう。みなさんの積極的な参加を楽しみにしています！

キーワード /Keywords

哲学、倫理学、社会学

戦争論 【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PLS210F	○		◎		○
科目名	戦争論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

人類の歴史にとり、戦争とは何なのかを深く考えるのがテーマです。戦争形態の変化を歴史の進行に沿って考察していきます。

コロナ対応で、完全に動画配信となります。退屈にならないよう、動画作成に当たって、しっかりと編集カットを行い、BGM、テロップ付きのYouTube仕様で配信するつもりです。(シミュールです。)

到達目標

- 【知識】人間と戦争との関係性を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。
- 【思考・判断】人間と戦争との関係性について論理的に思考し、自分の考えや判断を適切な方法で表現する力を身につけている。
- 【自立的行動力】戦争に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

なし。レジュメを用意します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回45~60分程度(予定)の動画を視聴してもらいます。以下、昨年度に配信した動画タイトルのリストです。今年度は、多少整理したり、よりパワーアップした新作も作りたいです(できれば)。

- 1 ガイダンス / 戦争から何を学ぶのか
- 2 ホモサピエンスと戦争の起源その1(サルからヒトへ)
- 3 ホモサピエンスと戦争の起源その2(ネアンデルタール人、文明化、戦いの始まり)
- 4 「戦争」の始まり(国家の誕生と絶対主義)
- 5 フランス革命と近代戦
- 6 ナショナリズムの時代と戦争
- 7 厭戦感情と世界大戦
- 8 総力化した戦争
- 9 総力化した戦争その2(塹壕戦の恐怖)
- 10 イデオロギー、プロパガンダ、戦争
- 11 アメリカ的戦争観の影響
- 12 全面化した戦争
- 13 企画動画
- 14 原爆開発と投下
- 15 核兵器と抑止

成績評価の方法 /Assessment Method

1~3回に一度、小テストを実施し、その合計点から成績評価を行う。
小テスト(6回)100%、ただし、小テスト実施回数は若干前後する可能性がある。

※小テストを一度も受験していない場合、もしくはその総合得点が0点の場合、「評価不能(-)」となります。

戦争論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

掲示板を用意するので質問はそちらに書き込んでください。また動画のコメント欄に書き込むこともできます。

頻繁に小テストがあるので、動画を何度も見てもらえると事後学習になりますし、勝手に授業とは関係なく「関連動画」が表示されますので、それも参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

なるべく退屈しないように、動画内容を工夫したいと思います。

キーワード /Keywords

市民活動論 【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
RDE001F	○			◎	○
科目名	市民活動論		※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		

授業の概要 /Course Description

市民活動とはどのようなものか、日本の現実を歴史的に振り返り、基本的な論点が理解できるようになることを目的とする。主要な事例をとりあげ、それを柱にしなが授業を進めて行く予定である。到達目標としては受講生が自分なりの「政治参加」のあり方を柔軟に考えられるようになることである。

「SDGs」の目標の中の「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

（到達目標）

【知識】市民活動を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション】他者と協働して、市民活動に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【行動力】市民活動に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 検討の枠組みについて
- 3回 枠組みを使った民衆行動の分析① - 政治と経済
- 4回 枠組みを使った民衆行動の分析② - 市民
- 5回 市民活動の<萌芽>① - 政治と経済
- 6回 市民活動の<萌芽>② - 市民
- 7回 市民活動の<再生>① - 政治と経済
- 8回 市民活動の<再生>② - 市民
- 9回 市民活動の<広がり>① - 政治と経済
- 10回 市民活動の<広がり>② - 市民
- 11回 中間まとめ
- 12回 北九州市における市民活動のうねり
- 13回 今日の市民活動の<展開>① - 政治と経済
- 14回 今日の市民活動の<展開>② - 市民
- 15回 全体まとめ

※スケジュールの順序または内容には、若干の変動がありうる。

市民活動論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への積極的な参加姿勢... 50%
期末試験... 50%

※最終レポートを提出しなかった場合は、評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者には、市民活動について自分で調べてもらうような課題を課す場合があります。その際の積極的な参加が求められます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

この講義は「SDGs」世界を変えるための17の目標に幅広くあてはまるものですが、とくに「3.すべての人に健康と福祉を」「11.住み続けられるまちづくりを」「16.平和と公正をすべての人に」などに対応しています。

地域福祉論 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
SOW011F	○			◎	○
科目名	地域福祉論				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

- ・ 地域福祉の基本的考え方（人権尊重、権利擁護、自立支援、地域生活支援、地域移行、社会的包摂 等を含む）について理解する。
- ・ 地域福祉の主体と対象について理解する。
- ・ 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。

（到達目標）

【知識】 地域福祉を理解するための基盤となる知識を総合的に身につけている。

【コミュニケーション力】 他者と協働して、地域福祉に関する諸問題の解決に向けて取り組む姿勢を身につけている。

【自立的行動力】 地域福祉に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

本講義は遠隔（オンデマンド）授業なので、学生は、自宅・大学からインターネットに接続して、自分のパソコンやスマートフォン等で（または大学のPC自習室にイヤホンを持参して）授業を視聴し、課題を提出することが求められます。

教科書 /Textbooks

坂本毅啓（2022）『地方の地域福祉論』大学教育出版、2,800円＋税（予定価格）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 志賀信夫・ 畠中亨（2016）『地方都市から子どもの貧困をなくす 市民・行政の今とこれから』旬報社 1,400円＋税
 - 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座6 地域福祉と包括的支援体制』中央法規 2,900円＋税
 - 難波利光・ 坂本毅啓編（2017）『雇用創出と地域-地域経済・福祉・国際視点からのアプローチ-』大学教育出版 2,400円＋税
- その他、適宜授業中に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 地域福祉の基本的考え方と理念【構造的アプローチ、機能的アプローチ】
- 2回 地域福祉の発展過程1【セツルメント運動、シーボーム報告、グリフィス報告】
- 3回 地域福祉の発展過程2【高齢化、社会福祉八法改正、非貨幣的ニード】
- 4回 地域福祉の理念【人権尊重、社会連帯】
- 5回 地域福祉の理念【ノーマライゼーション、福祉コミュニティ】
- 6回 地域包括ケアと地域共生社会【地域包括ケア、多機関協働、生活困窮者自立支援】
- 7回 地域のとらえ方と福祉圏域【コミュニティ、圏域、アソシエーション】
- 8回 コミュニティソーシャルワークの考え方【チームアプローチ、ニーズ】
- 9回 コミュニティソーシャルワークの方法【地域福祉計画、ケアマネジメント】
- 10回 貧困と地域福祉活動【社会福祉協議会、貧困の連鎖】
- 11回 障害者と地域福祉活動【総合支援法、成年後見制度、QOL】
- 12回 高齢者と地域福祉活動【地域包括支援センター、民生委員、社会福祉法人】
- 13回 女性と地域福祉活動【子育て支援、一人親家庭】
- 14回 子どもと地域福祉活動【児童館、保護司】
- 15回 災害と地域福祉活動【非常時や災害時における法制度、福祉避難所、災害ボランティア】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中に指示する課題の提出・・・40% 期末試験・・・60%
期末試験を受験しなかった場合は、評価不能(－)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書や参考文献の講義内容に関する箇所を読み込んだり、関連する情報の収集などを行って下さい。
事後学習としては、講義で学んだことを通して、自分の住んでいる地域について調べたり、新聞等の記事に書かれている地域福祉に関するニュースについて調べて考察をしてください。授業中に課題が出た場合は、必ず取り組むようにして下さい。

履修上の注意 /Remarks

この科目は、基盤教育科目として開講される科目ですが、地域創生学群において社会福祉士養成課程における科目「地域福祉の理論と方法」に含まれる科目のひとつ(もうひとつは地域創生学群専門科目の「コミュニティワーク論」)でもあります。2019年度以降の地域創生学群入学生で、社会福祉士国家試験受験資格取得を希望される場合は、この科目の履修が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これからも地域で生活をしていくための教養として、「福祉のまちづくり」について一緒に考えてみましょう。

キーワード /Keywords

SDGs1.貧困をなくそう、SDGs3.健康と福祉を、SDGs4.不平等をなくす、SDGs11.まちづくり、福祉のまちづくり、少子高齢化、子どもの貧困、コミュニティソーシャルワーク、社会福祉士

メンタル・ヘルス【夜】

担当者名 /Instructor 中島 俊介 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 1年次
単位 /Credits 2単位
学期 /Semester 2学期
授業形態 /Class Format 講義
クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
PSY001F					◎
科目名	メンタル・ヘルス				※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

授業のねらい、テーマ

メンタルヘルス（心の健康）の学習とは、病気や不適応事例の発生予防だけでなく、もっと幅広く、多くの「健康な生活人」の健康増進にも役立つような要件を学ぶことである。ストレス社会と言われる現代にあつては、メンタルなタフさがなければ生活人としての活動は難しい世相である。身近なことでは学生生活そのものがさまざまなストレス源への対処を余儀なくされ、ストレスに関連した多くの疾病に見舞われる危険も多くなっている。過剰なストレスは友人間や家族内の人間関係の悪化や学習意欲の低下、生活上の事故やミス、無気力や抑うつ症状などを生じさせる。

本講義では一般的な心理学やアドラー心理学や森田療法を基盤に「メンタルヘルス（心の健康）」を多角的かつ発達の視点からとらえ日々の生活と人生を充実させるためのストレスマネジメントの力を身につけることを目標とする。またメンタルに関連するソーシャルヘルス（社会的健康）やSDGs（持続可能な開発目標）にも触れる。具体的には青年期と成人期の心の健康（SDGs 3）や平和と暴力（SDGs 16）をテーマに持続可能な豊かな社会を求めよう行動するかを皆で考える授業である。

（到達目標）【自立的行動力】自分自身の心の健康に関する課題を自ら発見し、解決のための学びを継続する意欲を有している。

教科書 /Textbooks

テキスト 「こころと人生」中島俊介 編著 ナカニシヤ出版 2017 定価2000円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

「森田療法」 岩井 寛 著 講談社現代新書

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業内容とタイムスケジュール

- 第1回 メンタルヘルスとは……メンタルヘルスの歴史・最近の推移・受講上の注意
- 第2回 心の健康と人生……人間の発達・社会と心理学・生涯発達の理論
- 第3回 胎児・乳幼児のこころの健康……胎児の能力・誕生の危機・乳児の課題
- 第4回 幼児期・学童期の心の健康……自律と積極性・しつけ・勤勉性と劣等感
- 第5回 思春期の心理学……思春期の特徴とその対応。適応の困難さと向き合う
- 第6回 青年期……同一性（アイデンティティ）の心理・LGBTの理解
- 第7回 若い成人期……親密性の発達。働く上でのメンタルヘルス
- 第8回 ライフスタイル診断とこころの健康……うつ病・神経症など
- 第9回 発達障害についての理解 1…ADHD・LD・アスペルガーなどの基本的知識
- 第10回 発達障害についての理解 2…実際の対応の仕方、留意点
- 第11回 成人期の心の健康……生きがい・職場の心理学
- 第12回 老年期の心の健康……高齢者と認知症の心理
- 第13回 平和と暴力 1……社会的健康を阻害する暴力
- 第14回 平和と暴力 2……人権と対話の文化を・SDGs（持続可能な開発目標）の理解
- 第15回 講義のまとめ……講義のまとめ ふりかえり

成績評価の方法 /Assessment Method

①毎回の授業への参加熱意と態度(40%)②定期試験もしくは期末課題レポート(60%)
(注意:「評価不能」について。認められた事由のない欠席回数が総授業回数の過半数を超える場合と期末定期試験を認められた事由なしに受験しなかった場合は「評価不能」とします。)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

心理学一般に関する様々な知識があれば理解は深まりやすい。日頃の生活の中で心理学や社会学、また科学的手法に関わるテーマについて自分の興味を深めていくような態度を習慣にすることが大切だと考える。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業に対する質問や感想を小片紙に書いてもらうので積極的な姿勢で毎回の授業に取り組んでほしい。

キーワード /Keywords

SDGs 3「健康と福祉」、SDGs 16「平和と公正」に強い関連がある。

生涯学習学【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
									○	○	○	○

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が卒業時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Graduation), Specific Targets in Focus

DP 科目記号	豊かな「知識」	知識を活用できる 「技能」	次代を切り開く 「思考・判断・表現力」	組織や社会の活動を 促進する 「コミュニケーション力」	社会で生きる 「自立的行動力」
EDU220M	◎				
科目名	生涯学習学				

※修得できる能力との関連性 ◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

授業の概要 /Course Description

本講義では、学校教育以外の社会教育（家庭教育を含む）、それを踏まえた学校教育を含む生涯学習の基礎的内容について説明します。その意義や歴史的背景、法制度、国内外の動向について理解を深め、社会教育施設（公民館、図書館、博物館等）の役割・状況についても考えます。

「学習権宣言」で述べられた、成り行き任せの客体から、自らの歴史つくる主体へ、という意味と、それを支援する専門性という視点から、生活課題や地域課題の解決に向けた教育・学習について理解を深めます。

そのことを通して、社会教育、学習活動の支援についての基礎的能力を養います。

授業に含まれる事項は以下の通りです。生涯学習の意義、学習者の特性と学習の継続発展、生涯学習と家庭教育、生涯学習と学校教育、生涯学習と社会教育、生涯学習社会における各教育機能相互の連携と体系化、生涯学習社会の学習システム、生涯学習関連施策の動向、社会教育の意義、社会教育と社会教育行政、社会教育の内容、社会教育の方法・形態、社会教育指導者、社会教育施設の概要、学習情報提供と学習相談の意義等

なお、この科目は、社会教育主事や学芸員資格の必修、教職課程の選択であり、履修ガイドの「教職に関する科目」カリキュラムマップの「I類 - 2」に分類される科目である。

(到達目標)

【知識】

生涯学習に関する基礎的な知識を身につけている。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所
- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1回 生涯学習・社会教育の意義
- 第 2回 生涯学習ボランティア -学習への支援と学習成果の活用-
- 第 3回 社会教育の内容・方法・形態-学級・講座の企画
- 第 4回 成人教育の国際的動向 -日本の特質と学習権-
- 第 5回 社会教育と生涯学習関連の法制度
- 第 6回 社会教育の歴史と発展-生涯学習関連施策の動向
- 第 7回 社会教育行政と事業 -学習相談、サービス、学習情報の提供
- 第 8回 社会教育施設 -地域公民館
- 第 9回 公民館の実践 -社会教育と地域づくり
- 第10回 社会教育指導者と事業の連携・発展
- 第11回 社会教育施設-博物館
- 第12回 社会教育施設と生涯学習施設
- 第13回 社会教育施設-図書館
- 第14回 図書館、博物館における学習・グループ活動
- 第15回 住民の力量形成と地域づくり -家庭教育・学校教育・社会教育の連携-

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の小レポート...70% 課題レポート...30%
6回以上欠席した場合や最終レポートを提出しなかった場合は、原則評価不能(-)とします。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に、これまでや次回、今後の講義テーマ・内容について案内するので、その指示に従い準備してのぞむこと

履修上の注意 /Remarks

学芸員資格や社会教育主事資格として受講する場合、必修科目の基本科目としてこの授業を先に受講するか、他の関連科目とあわせて受講すると、資格科目の理解が深まります。教職に関する科目として受講する場合、学校との連携、学校教育以外の教育活動を意識して受講すると視野が広がります。専門科目として受講する場合、権利としての社会教育・生涯学習という視点で考えると、理解が深まります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords